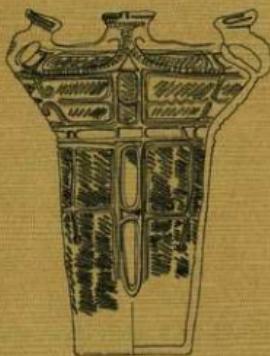


東北横断自動車道遺跡調査報告11

法 正 尻 遺 跡

中 卷



1991年3月

福島県教育委員会  
福島県文化センター  
日本道路公団

# 東北横断自動車道遺跡調査報告11

法 正 尻 遺 跡

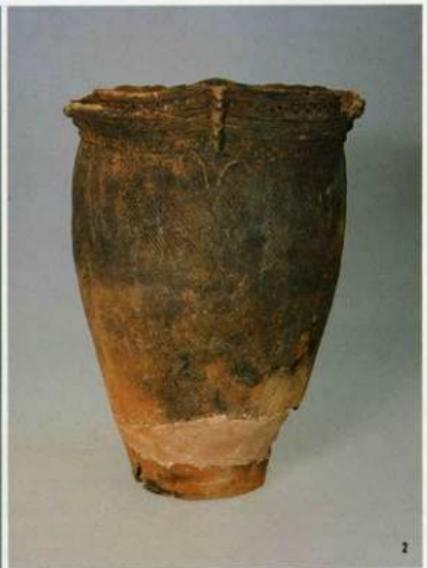
中 卷



法正房遗迹 415号土坑土器出土状态



法正房遗迹出土土器



1 · 2 …415号土坑



1

2



3



4

法正房遺跡出土土器・大珠

1…25号土坑 2…326号土坑 3…404号土坑 4…501号土坑

# 総 目 次

## 上 卷

### 第1章 調査経過と環境

- 第1節 調査に至るまでの経過
- 第2節 自然 環 境
- 第3節 歴 史 的 環 境
- 第4節 調 査 経 過
- 第5節 調 査 の 方 法

### 第2章 遺構と遺物

- 第1節 基 本 土 層
- 第2節 墓 穴 住 居 跡

## 中 卷

### 第2章 遺構と遺物

- 第3節 土 坑
- 第4節 埋 聖
- 第5節 焼 土 遺 構
- 第6節 その他の遺構

## 下 卷

### 第2章 遺構と遺物

- 第7節 遺 物 包 含 層

### 第3章 考 察

- 第1節 繩文時代の遺物について
- 第2節 繩文時代の遺構について
- 第3節 繩文時代の集落について
- 第4節 平安時代の遺構と遺物について

## 付 編

## 例　　言

- 1 本報告書は、東北横断自動車道いわき・新潟線のうち、猪苗代～会津坂下間（第9次区間）建設にかかる遺跡の発掘調査の報告であり、昭和63年度・平成元年度に発掘調査を実施し、平成2年度に整理作業を行った、法正尻遺跡の調査成果を収録した。
- 2 法正尻遺跡の所在地は、耶麻郡磐梯町大字更科字法正尻と同郡猪苗代町大字磐根字遠出である。
- 3 本報告書は、上・中・下の3巻で構成した。上巻には、堅穴住居跡とその出土遺物を収録した。中巻には土坑・埋甕・焼土遺構とその出土遺物、下巻には遺物包含層とその出土遺物を収録した。
- 4 当遺跡調査事業は、福島県教育委員会が日本道路公団の委託をうけて行ったものである。
- 5 福島県教育委員会では、発掘調査を財団法人福島県文化センターに委託した。
- 6 財団法人福島県文化センターでは、事業第2部遺跡調査課の次の職員を配し、調査ならびに整理作業を行った。

昭和63年度	文化財副主査 松本 茂	文化財主事 磯上 義明
	文化財主事 山岸 英夫	文化財主事 丹治 秀樹
	嘱託 福山 和人	
平成元年度	文化財主査 光家 孝一	文化財主査 松崎 真
	文化財副主査 松本 茂	文化財主事 香内 修
	文化財主事 山岸 英夫	文化財主事 丹治 秀樹
	嘱託 福山 和人	
平成2年度	文化財副主査 松本 茂	

なお、臨時に専門文化財主査 高木 政光、文化財主事 本間 宏、嘱託 安中 浩・大槻 嶽の協力を得た。

- 7 本報告書の執筆は、各調査員が分担執筆し、松本が編集作業を行った。執筆者名は文末に示した。
- 8 法正尻遺跡出土土器の胎土分析は、奈良教育大学教育学部三辻利一氏に、漆状の付着物の分析については、国立歴史民俗博物館永島正春氏に依頼した。
- 9 本書に使用した二万五千分の一の地形図は、建設省国土地理院長の承認を得て、複製使用したものである。（承認番号：平2東復 第99号）
- 10 本文中の氏名については、敬称を略させていただいた。
- 11 本報告書に収録した遺跡の発掘記録および出土品は、担当調査員と臨時職員とで整理し、福島県文化センターにおいて保管の予定である。
- 12 発掘調査及び報告書作成にあたり、次の関係機関の助言と協力を得た。

磐梯町教育委員会 猪苗代町教育委員会 磐梯山慧日寺資料館 福島県立博物館

## 凡 例

1 本書の遺構・遺物図の用例は、次の通りである。

- (1) 方 位 図中の方位は真北を示す。
- (2) 縮 尺 率 図の縮尺率については、掲載する遺構・遺物の大きさと性格により適宜決定した。選択した縮尺率についてはスケールの右に示してある。
- (3) ケ バ 遺構内の傾斜部はTTTのケバで表現した。下の記号で表現した部分は緩傾斜部を表している。
- (4) 焼 土 焼土の範囲は、アミ点で表現した。
- (5) 住居跡内小穴の番号(P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>...) 下段の数値は、床面から的小穴の深さ(cm)を表す。床面が搅乱。その他に欠失している場合でも、近くの床面から推定できるものには、その深さを記載した。
- (6) 住居跡や土坑内の小穴で、その住居跡・土坑等と時期を異にするものについては上端線だけ示した。搅乱穴も同様である。また、遺構が重複し、複雑な場合も、他の遺構については上端線だけで示した。
- (7) 遺構図中の水系レベルは、海拔高度を表す。
- (8) 遺物には、個別番号と出土位置(カッコ書)を示し、さらに土器については、分類の群・類名を付した。群・類名は、Ⅲ群2類土器を「Ⅲ-2」のように略記した。

2 本文中で使用した略号は次の通りである。

磐梯町	BD	法正尻遺跡	HS	グリッド	… G
遺構外の自然堆積土層	… L + ローマ数字	遺構内の堆積土層	… E + アラビア数字		
住居跡	SI	土坑	SK	小穴	… P
焼土遺構	SG	性格不明遺構	… SX	埋甕	… SM

3 遺物の法量は、原則として図中に記載した。口径については、波状口縁の土器は波頂部から波頂部、突起の付けられた土器は、突起部を除いた口端部から口端部を計測した。

4 写真図版中の個々の遺物に付した番号は、掲図番号と一致する。

## 中卷目次

<b>第2章 遺構と遺物</b>	1	
<b>第3節 土 坑</b>	1	
1. 土坑の形態及び規模について	1	
2. 土坑の分布について	4	
3. 土坑内堆積土について	5	
4. 土坑の検出層位について	7	
5. 小穴等の施設を持つ土坑について	7	
6. 土坑出土遺物	184	
1~10号土坑(184)	14~15~17~20号土坑(185)	21~27~29~30号土坑(185)
31~40号土坑(186)	41~50号土坑(186)	52~56~58~59号土坑(187)
61~70号土坑(187)	71~78~80号土坑(187)	81~90号土坑(188)
91~100号土坑(188)	101~110号土坑(188)	111~120号土坑(189)
121~130号土坑(189)	131~140号土坑(190)	141~150号土坑(190)
151~154~156~160号土坑(191)	161~170号土坑(191)	
171~180号土坑(191)	181~189号土坑(192)	191~200号土坑(192)
201~203~205~210号土坑(192)	212~217~219~220号土坑(193)	
221~225~227~230号土坑(193)	231~240号土坑(193)	
241~249号土坑(194)	251~260号土坑(194)	261~270号土坑(194)
271~280号土坑(194)	281~290号土坑(195)	291~300号土坑(195)
301~310号土坑(195)	311~315~317~320号土坑(196)	
321~330号土坑(197)	332~340号土坑(198)	341~350号土坑(200)
351~360号土坑(200)	361~370号土坑(201)	371~380号土坑(201)
381~390号土坑(202)	391~393~400号土坑(202)	401~410号土坑(203)
411~420号土坑(204)	421~430号土坑(205)	431~440号土坑(206)
441~450号土坑(206)	451~460号土坑(398)	461~470号土坑(399)
471~479号土坑(399)	481~490号土坑(400)	491~500号土坑(400)
501~502~504~510号土坑(401)	511~520号土坑(401)	
521~530号土坑(402)	531~538~540号土坑(402)	541~550号土坑(402)
551~560号土坑(403)	561~570号土坑(404)	571~580号土坑(405)
581~590号土坑(405)	591~600号土坑(406)	601~610号土坑(406)
611~613~620号土坑(406)	621~629号土坑(407)	633~640号土坑(407)
641~645~647~650号土坑(407)	651~660号土坑(407)	
661~670号土坑(408)	671~680号土坑(409)	681~690号土坑(409)
691~700号土坑(410)	701~710号土坑(410)	711~720号土坑(411)
721~730号土坑(411)	731~740号土坑(412)	741~750号土坑(412)
751~757~759~760号土坑(413)	761~770号土坑(413)	
771~780号土坑(414)	781~786号土坑(414)	

第4節 埋甕	414
第5節 焼土遺構	430
第6節 その他の遺構	444

## 挿図・表・写真目次

### 【挿 図】

図 280 1～5号土坑	8	図 310 193～197・784号土坑	38
図 281 6～10号土坑	9	図 311 198～203・205～207号土坑	39
図 282 14・15・17～20号土坑	10	図 312 208～210・212～215・217・219号土坑	40
図 283 21～25号土坑	11	図 313 220～225号土坑	41
図 284 26・27・29～31・35号土坑	12	図 314 227～234号土坑	42
図 285 32～34・36・37号土坑	13	図 315 235～239・253号土坑	43
図 286 38～44号土坑	14	図 316 240～246号土坑	44
図 287 45～50号土坑	15	図 317 247～249・251・252・254号土坑	45
図 288 52～55・58号土坑	16	図 318 255～260号土坑	46
図 289 56・59・61～64・66号土坑	17	図 319 261～268号土坑	47
図 290 65・67～72・75号土坑	18	図 320 269～273号土坑	48
図 291 73・74・76～78・80・81号土坑	19	図 321 274～276・278号土坑	49
図 292 82～88号土坑	20	図 322 277～279～282号土坑	50
図 293 89～92号土坑	21	図 323 283・285・286号土坑	51
図 294 93～100号土坑	22	図 324 284・287～291号土坑	52
図 295 101～106号土坑	23	図 325 292～300号土坑	53
図 296 107～111号土坑	24	図 326 301・302号土坑	54
図 297 112～117号土坑	25	図 327 303～306号土坑	55
図 298 118～123号土坑	26	図 328 307～310号土坑	56
図 299 124～129号土坑	27	図 329 311・312号土坑	57
図 300 130～135号土坑	28	図 330 313・314号土坑	58
図 301 136～140号土坑	29	図 331 315・317～323号土坑	59
図 302 141～146号土坑	30	図 332 324～326号土坑	60
図 303 147～149・151号土坑	31	図 333 327～330号土坑	61
図 304 150・152～154・156・159・174号土坑	32	図 334 332・333・335号土坑	62
図 305 157・160～163号土坑	33	図 335 334・336～338・340号土坑	63
図 306 164～170・216号土坑	34	図 336 339・341～343・346号土坑	64
図 307 158・171～173・175・177・178号土坑	35	図 337 344・345号土坑	65
図 308 176・179～184号土坑	36	図 338 347・348号土坑	66
図 309 185～189・191・192号土坑	37	図 339 349～353号土坑	67

图 340	354 ~ 358 号土坑	68	图 380	534 ~ 537 • 540 • 541 号土坑	108
图 341	359 ~ 362 号土坑	69	图 381	538 • 542 ~ 545 号土坑	109
图 342	363 ~ 365 号土坑	70	图 382	546 • 547 • 549 号土坑	110
图 343	366 ~ 371 号土坑	71	图 383	548 • 550 • 551 号土坑	111
图 344	372 ~ 376 号土坑	72	图 384	552 ~ 555 号土坑	112
图 345	377 ~ 381 号土坑	73	图 385	556 ~ 558 • 561 号土坑	113
图 346	382 ~ 386 号土坑	74	图 386	559 • 560 • 562 ~ 564 号土坑	114
图 347	387 ~ 391 号土坑	75	图 387	565 ~ 570 号土坑	115
图 348	393 ~ 396 号土坑	76	图 388	571 ~ 575 号土坑	116
图 349	397 ~ 399 号土坑	77	图 389	576 • 577 号土坑	117
图 350	400 • 401 • 403 号土坑	78	图 390	578 ~ 580 号土坑	118
图 351	402 • 404 • 406 • 407 号土坑	79	图 391	581 ~ 583 号土坑	119
图 352	405 • 408 ~ 412 号土坑	80	图 392	584 ~ 587 • 590 ~ 592 号土坑	120
图 353	413 • 414 • 416 号土坑	81	图 393	593 • 594 • 608 号土坑	121
图 354	415 • 417 ~ 419 • 422 号土坑	82	图 394	595 ~ 599 号土坑	122
图 355	420 • 421 号土坑	83	图 395	600 ~ 602 • 647 号土坑	123
图 356	423 ~ 426 号土坑	84	图 396	603 ~ 606 号土坑	124
图 357	427 ~ 429 号土坑	85	图 397	606 • 607 • 609 • 610 • 622 号土坑	125
图 358	430 ~ 435 号土坑	86	图 398	611 • 613 ~ 619 号土坑	126
图 359	436 • 437 号土坑	87	图 399	620 • 621 • 623 • 624 • 626 • 627 • 629 • 632 • 633 号土坑	127
图 360	438 ~ 442 号土坑	88	图 400	628 • 634 号土坑	128
图 361	443 ~ 447 • 451 号土坑	89	图 401	635 ~ 638 号土坑	129
图 362	448 ~ 450 号土坑	90	图 402	639 ~ 645 • 648 号土坑	130
图 363	452 ~ 456 号土坑	91	图 403	649 ~ 652 号土坑	131
图 364	457 ~ 460 号土坑	92	图 404	653 ~ 659 号土坑	132
图 365	461 ~ 465 号土坑	93	图 405	660 ~ 665 号土坑	133
图 366	466 ~ 470 号土坑	94	图 406	666 ~ 669 号土坑	134
图 367	471 ~ 473 • 475 号土坑	95	图 407	670 ~ 673 号土坑	135
图 368	474 • 476 ~ 479 号土坑	96	图 408	674 ~ 678 • 680 号土坑	136
图 369	481 ~ 485 号土坑	97	图 409	679 • 681 ~ 684 号土坑	137
图 370	486 ~ 488 • 588 • 589 号土坑	98	图 410	685 ~ 688 号土坑	138
图 371	489 ~ 492 号土坑	99	图 411	689 ~ 693 号土坑	139
图 372	493 ~ 496 号土坑	100	图 412	694 ~ 698 号土坑	140
图 373	497 ~ 500 号土坑	101	图 413	699 ~ 704 号土坑	141
图 374	501 • 502 • 504 • 533 号土坑	102	图 414	705 ~ 708 号土坑	142
图 375	505 • 506 • 625 号土坑	103	图 415	709 ~ 713 号土坑	143
图 376	507 ~ 512 号土坑	104	图 416	714 ~ 716 • 718 • 719 • 742 号土坑	144
图 377	513 ~ 519 号土坑	105	图 417	717 • 720 ~ 723 号土坑	145
图 378	520 ~ 526 号土坑	106	图 418	724 ~ 730 号土坑	146
图 379	527 ~ 532 号土坑	107			

図 419	731～735 号土坑	147	図 447・448	土坑出土遺物 (20)・(21) SK326	226・227
図 420	736～740 土坑	148	図 449	土坑出土遺物 (22) SK325・327	228
図 421	741・743～747 号土坑	149	図 450	土坑出土遺物 (23) SK327	229
図 422	748～753 号土坑	150	図 451	土坑出土遺物 (24) SK327・329・330・ 332	230
図 423	754～757・759 号土坑	151	図 452～456	土坑出土遺物 (25)～(29) SK332	231～235
図 424	760～765 土坑	152	図 457	土坑出土遺物 (30) SK332・333	236
図 425	766～771 号土坑	153	図 458～460	土坑出土遺物 (31)～(33) SK333	237～239
図 426	772～777 号土坑	154	図 461	土坑出土遺物 (34) SK333・334・336・ 339	240
図 427	778～783・785・786 号土坑	155	図 462	土坑出土遺物 (35) SK339・347	241
図 428	土坑出土遺物 (1) SK3・4・7・14・ 15・18・22・25, SI1	207	図 463	土坑出土遺物 (36) SK347	242
図 429	土坑出土遺物 (2) SK25・26・32	208	図 464	土坑出土遺物 (37) SK345・346・348	243
図 430	土坑出土遺物 (3) SK30・33・37・48	209	図 465	土坑出土遺物 (38) SK355・356・361・ 365	244
図 431	土坑出土遺物 (4) SK47・50・52・73・ 74・83・95	210	図 466	土坑出土遺物 (39) SK365	245
図 432	土坑出土遺物 (5) SK93・97・102・115	211	図 467	土坑出土遺物 (40) SK365・367・375・ 386	246
図 433	土坑出土遺物 (6) SK93・115・116	212	図 468	土坑出土遺物 (41) SK378・386	247
図 434	土坑出土遺物 (7) SK114～116	213	図 469	土坑出土遺物 (42) SK378・380・390・ 395	248
図 435	土坑出土遺物 (8) SK93・116・118・ 119・121	214	図 470	土坑出土遺物 (43) SK395・401	249
図 436	土坑出土遺物 (9) SK126・133・138・ 141	215	図 471	土坑出土遺物 (44) SK388・399・402	250
図 437	土坑出土遺物 (10) SK134・144～146・ 148・156・157	216	図 472	土坑出土遺物 (45) SK402・404	251
図 438	土坑出土遺物 (11) SK161・167・174・ 178・189・237・240	217	図 473	土坑出土遺物 (46) SK404・406・409・ 413	252
図 439	土坑出土遺物 (12) SK240・242・273・ 276	218	図 474	土坑出土遺物 (47) SK413・414・415	253
図 440	土坑出土遺物 (13) SK278・280・281・ 284・285	219	図 475～477	土坑出土遺物 (48)～(50) SK415	254～256
図 441	土坑出土遺物 (14) SK300・303・306	220	図 478	土坑出土遺物 (51) SK415・416・420・ 421	257
図 442	土坑出土遺物 (15) SK307・311	221	図 479	土坑出土遺物 (52) SK420・422・423・ 429・430	258
図 443	土坑出土遺物 (16) SK311・312	222			
図 444	土坑出土遺物 (17) SK309・312・313	223			
図 445	土坑出土遺物 (18) SK313	224			
図 446	土坑出土遺物 (19) SK313・314・321・ 324・326	225			

図 480・481 土坑出土遺物 (53)・(54) SK429	259・260	図 506 土坑出土遺物 (79) SK693・706・713・ 717・723・728～731・739	285
図 482 土坑出土遺物 (55) SK425・429・432・ 438・447	261	図 507 土坑出土遺物 (80) SK720・747・748・ 754・756・761	286
図 483 土坑出土遺物 (56) SK483・450	262	図 508 土坑出土遺物 (81) SK1～3	287
図 484 土坑出土遺物 (57) SK453・459・463・ 471・472	263	図 509 土坑出土遺物 (82) SK4・5	288
図 485 土坑出土遺物 (58) SK472	264	図 510 土坑出土遺物 (83) SK5～7	289
図 486 土坑出土遺物 (59) SK472・474	265	図 511 土坑出土遺物 (84) SK2・6～8	290
図 487 土坑出土遺物 (60) SK474・475・488・ 489	266	図 512 土坑出土遺物 (85) SK8～10・14	291
図 488 土坑出土遺物 (61) SK489・492・495・ 499	267	図 513 土坑出土遺物 (86) SK14・15・17～22 ・24	292
図 489 土坑出土遺物 (62) SK497・502・504	268	図 514 土坑出土遺物 (87) SK22・25	293
図 490 土坑出土遺物 (63) SK506・512・515・ 517・525・527・529	269	図 515 土坑出土遺物 (88) SK25・26	294
図 491 土坑出土遺物 (64) SK517・531・538・ 541	270	図 516 土坑出土遺物 (89) SK26・27・29・30・ 32	295
図 492 土坑出土遺物 (65) SK533・542・544・ 547・552	271	図 517 土坑出土遺物 (90) SK32・35～40	296
図 493 土坑出土遺物 (66) SK552	272	図 518 土坑出土遺物 (91) SK41～45	297
図 494 土坑出土遺物 (67) SK552・556・559	273	図 519 土坑出土遺物 (92) SK46～49	298
図 495 土坑出土遺物 (68) SK559・564	274	図 520 土坑出土遺物 (93) SK50・52・53	299
図 496 土坑出土遺物 (69) SK564・565・566	275	図 521 土坑出土遺物 (94) SK54～56・58・59 ・62・65・67	300
図 497 土坑出土遺物 (70) SK566・569	276	図 522 土坑出土遺物 (95) SK68～74	301
図 498 土坑出土遺物 (71) SK577・578・579	277	図 523 土坑出土遺物 (96) SK76～78・81～ 86	302
図 499 土坑出土遺物 (72) SK579・580	278	図 524 土坑出土遺物 (97) SK87～95・98～ 100	303
図 500 土坑出土遺物 (73) SK581・582	279	図 525 土坑出土遺物 (98) SK101・102・104・ 105・107～111・114	304
図 501 土坑出土遺物 (74) SK593・605・606	280	図 526 土坑出土遺物 (99) SK114～116	305
図 502 土坑出土遺物 (75) SK606・614・617・ 618・625・628・635・653	281	図 527 土坑出土遺物 (100) SK115	306
図 503 土坑出土遺物 (76) SK669	282	図 528 土坑出土遺物 (101) SK115・116・118 ～120	307
図 504 土坑出土遺物 (77) SK669・678・682・ 683・687	283	図 529 土坑出土遺物 (102) SK121・122・125 ～127	308
図 505 土坑出土遺物 (78) SK687	284	図 530 土坑出土遺物 (103) SK129・132～135	309

図 534	土坑出土遺物 (107) SK147 ~ 150	313
図 535	土坑出土遺物 (106) SK150 ~ 153・156	314
図 536	土坑出土遺物 (108) SK156・158~162	315
図 537	土坑出土遺物 (110) SK163・167~172 ・174	316
図 538	土坑出土遺物 (111) SK175・177~183 ・185	317
図 539	土坑出土遺物 (112) SK186・189・191 ~193	318
図 540	土坑出土遺物 (113) SK194~199・202	319
図 541	土坑出土遺物 (114) SK203・205・207 ・208・210・212・213	320
図 542	土坑出土遺物 (115) SK214・220~224	321
図 543	土坑出土遺物 (116) SK224・227・231 ~235・237	322
図 544	土坑出土遺物 (117) SK234・238・240 ~242・244	323
図 545	土坑出土遺物 (118) SK247~249・251 ・253・255~257	324
図 546	土坑出土遺物 (119) SK258・261・263・ 270・273・275 ~ 277・280・281	325
図 547	土坑出土遺物 (120) SK282・288 ~ 290 ・295・299・300・303・306・307・310・ 311	326
図 548	土坑出土遺物 (121) SK311・312	327
図 549	土坑出土遺物 (122) SK312・313	328
図 550	土坑出土遺物 (123) SK313・317・321・ 323 ~ 327・329	329
図 551	土坑出土遺物 (124) SK330・332	330
図 552	土坑出土遺物 (125) SK332・337	331
図 553	土坑出土遺物 (126) SK333・334・339	332
図 554	土坑出土遺物 (127) SK347	333
図 555	土坑出土遺物 (128) SK341・342・344・ 346・348 ~ 350・352・354・355	334
図 556	土坑出土遺物 (129) SK346・356・359・ 361・363 ~ 365	335
図 557	土坑出土遺物 (130) SK365 ~ 367・369 ・375	336
図 558	土坑出土遺物 (131) SK375・37・386	337
図 559	土坑出土遺物 (117) SK387・388・393・ 395・396・401	338
図 560	土坑出土遺物 (133) SK402	339
図 561	土坑出土遺物 (134) SK402・404	340
図 562	土坑出土遺物 (135) SK408・413 ~ 415	341
図 563	土坑出土遺物 (136) SK415・416・423・ 425	342
図 564	土坑出土遺物 (137) SK425・426・428	343
図 565	土坑出土遺物 (138) SK428・429・431・ 432・438	344
図 566	土坑出土遺物 (139) SK440・443・445・ 454・455・459・477	345
図 567	土坑出土遺物 (140) SK459・462・463・ 466・470・472・475	346
図 568	土坑出土遺物 (141) SK477 ~ 479・481 ・488・489	347
図 569	土坑出土遺物 (142) SK490・495・497	348
図 570	土坑出土遺物 (143) SK498・502・504・ 506・509・511 ~ 513	349
図 571	土坑出土遺物 (144) SK515 ~ 518・520 ・522・525・527 ~ 529	350
図 572	土坑出土遺物 (145) SK529 ~ 531・534 ・538・540・542・544	351
図 573	土坑出土遺物 (146) SK545・546・551・ 552・554・556	352
図 574	土坑出土遺物 (147) SK557・559・564・ 565・571	353
図 575	土坑出土遺物 (148) SK571・576・577・ 578	354
図 576	土坑出土遺物 (149) SK579・581・582・ 590・592・593・598	355
図 577	土坑出土遺物 (150) SK594・600・603・ 605・606・609・610	356

図 578 土坑出土遺物 (151) SK614・618 ~ 620・623・625・626・628・634・638・ 640・652 ..... 357	図 598 土坑出土遺物 (171) SK431・472・497・ 501・512・541 ..... 377
図 579 土坑出土遺物 (152) SK644・653・655・ 660・666・669・672・674 ..... 358	図 599 土坑出土遺物 (172) SK541・577・611 ..... 378
図 580 土坑出土遺物 (153) SK6・678・679・ 682・683・686・687 ..... 359	図 600 土坑出土遺物 (173) SK687・691・692・ 698・699・707 ..... 379
図 581 土坑出土遺物 (154) SK687・691・692 ~ ..... 360	図 601 土坑出土遺物 (174) SK711・713・716・ 717・719 ..... 380
図 582 土坑出土遺物 (155) SK692・693・695・ 697~699 ..... 361	図 602 土坑出土遺物 (175) SK720・721・736・ 740・74・752・771・775・781 ..... 381
図 583 土坑出土遺物 (156) SK698~700・702~ 704・706・708 ..... 362	図 603 土坑出土遺物 (176) SK14・35・144・ 238・375・404・495・509・512・541・ 559・755 ..... 382
図 584 土坑出土遺物 (157) SK709~711・713 ~ ..... 363	図 604 土坑出土遺物 (177) SK67・115・147・ 159・454・504・512 ..... 383
図 585 土坑出土遺物 (158) SK714・715・717・ 719・720 ..... 364	図 605 土坑出土遺物 (178) SK3・14・18・22・ 32・35・44・46・49 ..... 384
図 586 土坑出土遺物 (159) SK721~724・727・ 728 ..... 365	図 606 土坑出土遺物 (179) SK52・55・62・90 ~93・109 ..... 385
図 587 土坑出土遺物 (160) SK728~731 ..... 366	図 607 土坑出土遺物 (180) SK109・110・114・ 115・118・126・156 ..... 386
図 588 土坑出土遺物 (161) SK731~733・736・ 737 ..... 367	図 608 土坑出土遺物 (181) SK158・168・189・ 194・214・220・241・244 ..... 387
図 589 土坑出土遺物 (162) SK737・738・743・ 744 ..... 368	図 609 土坑出土遺物 (182) SK307・312・313・ 327 ..... 388
図 590 土坑出土遺物 (163) SK747~748・751 ..... 369	図 610 土坑出土遺物 (183) SK330・332・334・ 347・352 ..... 389
図 591 土坑出土遺物 (164) SK751~756・770 ~ ..... 370	図 611 土坑出土遺物 (184) SK355・365・375・ 378・386・395・402・413 ..... 390
図 592 土坑出土遺物 (165) SK756・761・762・ 764・766 ..... 371	図 612 土坑出土遺物 (185) SK386・424・425 ~ ..... 391
図 593 土坑出土遺物 (166) SK767・770・772・ 775・776・781 ..... 372	図 613 土坑出土遺物 (186) SK425・439・450・ 455・459・488 ..... 392
図 594 土坑出土遺物 (167) SK2・3・7・8・10 ~14・15・18・21・22・25・27・30 ..... 373	図 614 土坑出土遺物 (187) SK488・489・497・ 513・514・527 ..... 393
図 595 土坑出土遺物 (168) SK41・52・54・77 ~82・102・133 ..... 374	図 615 土坑出土遺物 (188) SK529・531・538・ 557・559・571・577・581・606 ..... 394
図 596 土坑出土遺物 (169) SK133・141・151・ 179・189・195・213・233・291・294・ 295・322 ..... 375	図 616 土坑出土遺物 (189) SK625・640・644・ 658・687・698~700 ..... 395
図 597 土坑出土遺物 (170) SK273・324・339・ 354・365・375・404・414・424 ..... 376	

図 617 土坑出土遺物 (190) SK703・711・713・ 716・719・728～730・732・740・745	396	図 628 埋甕 (9) SM15・24～27 遺物	428
図 618 土坑出土遺物 (191) SK747・749・752・ 766	397	図 629 1・3～13号焼土遺構	431
図 619 土坑出土遺物 (192) SK153・200・242・ 348・404・502・687・692	398	図 630 14～18・20・21・24～28号焼土遺構	432
図 620 埋甕 (1) SM1～7	417	図 631 29～39号焼土遺構	433
図 621 埋甕 (2) SM8～11・13～16	418	図 632 40～49号焼土遺構	434
図 622 埋甕 (3) SM17～23	419	図 633 50・52～54・56・57・59～63号焼土 遺構	435
図 623 埋甕 (4) SM24～27	420	図 634 64～74号焼土遺構	436
図 624 埋甕 (5) SM1～4・7 遺物	424	図 635 75～83号焼土遺構	437
図 625 埋甕 (6) SM6・8～11・13～15 遺物	425	図 636 84～94号焼土遺構	438
図 626 埋甕 (7) SM16～19 遺物	426	図 637 96～106号焼土遺構	439
図 627 埋甕 (8) SM20～23 遺物	427	図 638 107～109・111～115号焼土遺構	440
		図 639 116～120号焼土遺構	441
		図 640 1号集石土坑と1号性格不明遺構	445

### [ 表 ]

表 3 土坑一覧 (1)～(29) ..... 156～184 表 4 焼土一覧 (1)・(2) ..... 442・443

### [ 写 真 ]

126～140 土坑	156・157 415号土坑
141 285号土坑	158～176 土坑
142 333号土坑	177 669号土坑
143～149 土坑	178 754～758号土坑
150・151 365号土坑	179・180 土坑
152～155 土坑	181・182 埋甕

## 第2章 遺構と遺物

### 第3節 土坑

本遺跡から検出された土坑は、総数759基を数える。遺構番号は検出順に付けたが、その後の調査によって住居跡の柱穴や搅乱と判断されたものも多い。これらの土坑番号については、出土遺物・各種写真の関係から欠番とし、本節では取り扱わないこととした。欠番とした土坑は、SK11~13・16・28・51・57・60・79・155・190・204・211・218・226・250・316・331・392・480・503・539・612・630・631・646・758の27基である。

土坑の記述では、数が膨大であるため1基ごとの解説は避け、土坑の形態・分布状況・堆積土・遺物等について概観するにとどめる。なお、個々の土坑の位置・検出層位・規模・形態分類・重複状況・堆積土・時期については、表3に記載した。また、SK221・235・648は、調査の過程で大きな掘形を持つ屋外柱穴と判明した。これらについては、一覧表の備考欄に屋外柱穴であることを明記し、本節に加える。

#### 1 土坑の形態及び規模について

検出された土坑について、断面形と平面形から次のように形態分類した。なお、土坑の平面形及び規模については、開口部は、壁の崩落や後世の搅乱により、構築時の状態と異なる可能性が高いと判断した。このため、より構築時の姿をとどめていると考えられる底面について、分類・計測を行った。分類の基準は次の通りである。

##### 断面形

- I群：壁の立ち上がりが、緩やかなもの
- II群：壁の立ち上がりが、垂直に近いもの
- III群：壁が、オーバーハングするもの

##### 平面形

- A類：円形に近いもの
- B類：橢円形に近いもの
- C類：方形・長方形に近いもの
- D類：不整形
- E類：不明

壁の立ち上がりについては、傾斜角度が $70^{\circ}$ を目安としてI及びII群に分類した。円形・橢円形の区別は、短径と長径の比が1:1.15を目安とし、これを下回るものについてはA類に、上回るものについてはB類に分類した。

##### I群土坑

本群土坑は、断面形が皿形もしくは掃鉢形のもので、他の土坑群と比較して検出面からの深さ

は浅い。総数 232 基を数え、土坑全体の 30.6 % を占める。

I群A類 総数 79 基、土坑全体の 10.4 %、I群土坑の中では 34.1 % 占める。規模が明らかな土坑は 68 基である。最も大きな土坑は SK137 で  $237 \times 212$  cm、最も小さな土坑は SK657 で  $58 \times 55$  cm である。特定の大きさに集中する傾向は見られないが、直径 96~125 cm の土坑は 29 基と、この程度の大きさの土坑が I群A類土坑では最も多い。検出面からの深さが判明している土坑は 79 基で、そのうち 90 % 弱が深さ 10~35 cm で、最も深い SK244 は 58 cm である。規模と深さの間に、顕著な相関関係は見られない。

I群B類 総数 124 基、土坑全体の 16.3 %、I群土坑の中では 53.4 % 占める。規模が明らかな土坑は 83 基で、最も大きな土坑は SK192 で  $275 \times 193$  cm、最も小さな土坑は SK295 で  $58 \times 38$  cm である。長径が 2 m を超える土坑はわずか 5 基で、長径 74~201 cm の間に 76 基の土坑が均等に分布し、特定の大きさに集中する傾向は見られない。検出面からの深さが判明している土坑は 124 基で、最も深いものは SK283 で 58 cm、最も浅いものは SK181 で 8 cm である。深さ 16~30 cm の土坑が 73 基と多い。長径と深さの間に相関関係は認められない。

I群C類 総数 13 基、土坑全体の 1.7 %、I群土坑の中では 5.6 % 占める。規模が明らかな土坑は 9 基である。最も大きなものは SK150 で  $261 \times 198$  cm、最も小さなものは SK541 で  $115 \times 64$  cm を測る。検出面からの深さが明らかな土坑は 13 基で、最も深いものは SK257 の 56 cm、最も浅いものは SK555 の 11 cm である。16~24 cm 程の深さのものが比較的多く、6 基を数える。長径と深さの間に相関関係は認められない。

I群D類 壁が安定せず、平面形が円形状・橢円形状および長方形形状のいずれにも類別できない土坑は、SK35・89・202・223・225・247・493・613・626・647 の 10 基である。

I群E類 SK510 は北半分が調査区外に延びるため、平面形が不明である。また、他の造構との重複によってその土坑のかなりの部分が壊され、平面形を判別できない土坑は、SK259・530・560・779・784 の 5 基である。

## II群土坑

本群土坑は、断面形がビーカー状を呈する土坑である。大きさは I群土坑とほぼ同等であるが、検出面からの深さは I群土坑より若干深い。総数 268 基、土坑全体の 35.3 % を占め、わずかの差であるが法正尻遺跡から検出された土坑の中で最も数が多い。

II群A類 総数 126 基、土坑全体の 16.6 %、II群土坑の中では 47.0 % 占める。規模が明らかなものは 113 基で、最も大きなものは SK692 で  $195 \times 181$  cm、最も小さなものは SK586 で  $36 \times 32$  cm である。長径 65~150 cm の土坑は 98 基であるが、特定の大きさに集中する傾向は見られない。検出面からの深さが明らかな土坑は 126 基で、最も深いものは SK759 で 121 cm、最も浅いものは SK654 で 13 cm である。深さが 100 cm を超えるものはわずか 2 基で、31~60 cm の

深さに 72 基が集中している。土坑の直径と深さの間に相関関係は見られない。

**II群B類** 総数 109 基、土坑全体の 14.4 %、II群土坑の中では 40.7 % を占める。規模が明らかな土坑は 77 基で、最も大きな土坑は SK550 で  $215 \times 189$  cm、最も小さな土坑は SK252 で  $46 \times 29$  cm である。長径が 2 m を超える土坑は 4 基である。長径 60 ~ 190 cm の土坑は 70 基を数えるが、特定の大きさに集中する傾向は見られない。検出面からの深さが明らかな土坑は 108 基で、最も深い土坑は SK488 の 119 cm、最も浅い土坑は SK113 で 15 cm である。深さ 22 ~ 60 cm の土坑は 82 基で、その中でも、深さ 27 ~ 40 cm の土坑は 46 基である。土坑の長径と深さの間に相関関係は見られない。

**II群C類** 総数 22 基、土坑全体の 2.9 %、II群土坑の中では 8.2 % を占める。本類は、検出面からの深さから、さらに以下のように 2 分した。

#### ① 検出面からの深さが 1 m 以上の上坑

いわゆる落し穴状の土坑である。SK245 と SK319 の 2 基が検出された。SK245 は調査区西側の西向き斜面、ノ98G から単独で検出されている。規模は  $103 \times 45$  cm、深さ 109 cm である。SK319 は、調査区中央部やや西寄りの遺構密集地で検出された。規模は  $157 \times 56$  cm、深さ 150 cm である。SK319 の底面からは、小穴が検出された。

#### ② 検出面からの深さが 1 m 未満の土坑

20 基が本グループに属する。規模が明らかな土坑は 16 基で、最も大きな土坑は SK671 で  $266 \times 158$  cm、最も小さな土坑は SK418 で  $77 \times 64$  cm である。長径 115 ~ 157 cm の大きさの上坑は 9 基、長径 1 m 以下の上坑は 2 基、2 m 以上の土坑は 3 基である。検出面からの深さが明らかなものは 20 基で、最も深い土坑は SK731 で 91 cm、最も浅い土坑は SK616 で 18 cm である。土坑の深さについては、特定の深さに集中する傾向はないが、深さ 24 ~ 33 cm の土坑は 7 基と比較的多い。本グループは、若干例外はあるが、直径と深さに比例関係が見られる。

#### **II群D類** SK138 が本類に属する。規模 $262 \times 173$ cm、深さ 38 cm を有している。

**II群E類** 他遺構との重複や調査区外へ延びることによって、土坑の平面形が判別できないものは、SK19・528・558・587・619・729・766・772・782・786 の 10 基である。

#### **III群土坑**

本群土坑の多くは、いわゆるフラスコ状を呈する土坑である。壁の一部が、オーバーハングするものも含めてある。本群土坑は他の土坑群と比較して底面の規模が大きく、しかも検出面からの深さが深い。総数 259 基で、土坑全体の 34.1 % を占めている。底面は平坦である。

**III群A類** 総数 217 基で、土坑全体の 28.6 %、III群土坑の中では 83.8 % を占め、本遺跡の中で最も数の多い土坑である。規模が明らかな 200 基の中で、最も大きな土坑は SK628 で  $365 \times 361$  cm、最も小さな土坑は SK196 で  $72 \times 70$  cm を測る。長径が 300 cm を超える土坑が 8 基あり、

100 cm 未満の土坑は僅か 5 基である。特定の大きさに集中する傾向は認められないが、直径 190 ~ 230 cm の土坑は 54 基ある。検出面からの深さが明らかな土坑は 217 基で、最も深いものは SK395 で 254 cm、最も浅いのは SK100 の 29 cm である。深さが 200 cm 以上の土坑は 12 基である。深さ 40 ~ 190 cm の間に 194 基の土坑が、特定の深さに集中することなく分布している。本類土坑は、直径と深さに比例関係が認められる。これらの土坑の多くは、LV の下に堆積する岩屑流堆積物を掘り込んで作られている。

**Ⅲ群B類** 総数 37 基、土坑全体の 4.9%。Ⅲ群土坑の中では 14.3% を占める。規模が明らかな土坑は 30 基で、最も大きな土坑は SK238 で 315 × 264 cm、最も小さな土坑は SK434 で 93 × 80 cm である。平均 197 × 160 cm を測る。特定の大きさに集中する傾向は見られない。検出面からの深さが明らかなものは 37 基で、最も深い SK582 で 185 cm、最も浅い SK435 は 31 cm である。長径と深さの間に比例関係が認められる。平面形は梢円形状を呈するが、断面形・規模とともにⅢ群A類に近い特徴を有している。

**Ⅲ群C類** 調査区西部の小丘頂部の南側に位置する、SK273 と SK285 が本類に属する。SK273 の規模は 370 × 269 cm で、深さ 136 cm、SK285 の規模は 360 × 190 cm で、深さ 107 cm と非常に大きい。これら 2 基の土坑の底面からは柱穴が検出された。

**Ⅲ群D類** SK688 が本類に属する。土坑西側の底面は、一段落ち込んでいる。遺構内堆積土からは、この落ち込みが本土坑に伴うものと考えている。

**Ⅲ群E類** SK520 は北半分が調査区外に延びるため、SK588 は他土坑に壊されているため平面形は不明である。

## 2 土坑の分布について

土坑は、竪穴住居跡とほぼ同じ地域に分布し、密集する地域は次の 3 か所に大別される。東区：調査区中央北部に張り出す小丘南部の緩い尾根部から、東端の小丘南部にかけての南向き緩斜面（コヘヌ・31 ~ 54G）、中央区：調査区西側の小丘頂部の北西から、調査区中央部にかけての南東向き緩斜面（コヘト・4 ~ 23G）、西区：調査区西端の西向き斜面（タヘノ・87 ~ 99G）である。住居跡と同様、LV 中に岩屑流に起因する人疊を多く含む地区、小丘の頂部付近や遺物包含層の発達している緩い底地部には、土坑の分布は稀薄である。

東区からは、約 230 基の土坑が検出されている。土坑の分布域は住居跡の分布域に比べて若干広い。住居跡と土坑、土坑が相互に重複するものも多い。

中央区からは、約 320 基の土坑が検出されている。基本的には東区と同様の分布状態が認められる。ほとんどの住居跡は土坑と重複し、土坑と土坑の重複も激しい。

西区からは約 90 基の土坑が検出されている。東区や中央区と異なり、住居跡は 2 軒しか検出さ

れなかった。土坑は小丘の頂部付近から断続的に分布するが、斜面裾部に相当する調査区西端では土坑の分布密度が高くなり、土坑相互の重複が激しい。

以上三つの分布域の他には、調査区西端のS I 136と重複する18基の上坑、調査区西部小丘の南部のヒ～ム・0～3Gに群在する15基の土坑がある。

形態的な土坑の分布を見ると、基本的にはさまざまな形態の土坑が混在しているが、Ⅲ群上坑（ラスコ状土坑）に比較的集中する傾向が窺える。上記のヒ～ム・0～3Gの15基中9基がラスコ状土坑で、標高の高い平場に集中的に構築されている。また、深さ150cm以上の大形上坑73基中、72基がラスコ状上坑に属するが、これらの土坑の分布を見ると、東区5基、中央区地域65基、西区1基、その他3基で、ほとんどが岩屑流の露呈しない中央区の東半部に作られている。

土坑の所属時期による分布状況については、比較的まとまりある結果が得られた。西区が縄文時代前期末葉から中期初頭、東区が縄文時代中期前葉から中葉、中央区が縄文時代中期中葉を主体とした時期の土坑によって構成されている。中央区では、住居跡群との時間差が認められる。

### 3 土坑内堆積について

土坑の性格を明らかにするには、土坑内堆積の観察が重要な手掛かりとなる。法正尻遺跡では、土坑内の土の堆積状況について下記のように分類した。

- a. 自然堆積
- b. 人為堆積
- c. 自然堆積と人為堆積からなるもの
- d. 堆積状況を判断できないもの

自然堆積を示す土坑が541基で最も多く、人為堆積を示すものが42基、自然堆積と人為堆積の両堆積によるものが26基、堆積状況を判断できないものは150基を数える。

#### a 自然堆積を示す土坑

自然堆積を示す土坑内に主体的に堆積する土は、L III bに土質が近似する暗褐色土である。Ⅲ群土坑の中には、黄色土ブロックを多量に含む堆積土が見られるものが多い。これらの中で黄色土ブロックと暗・黒褐色土が上下に薄層をなして堆積しているものについては、「壁の崩落→周壁からの流れ込み→壁の崩落」の堆積経緯を示すものとして、自然堆積と判断した。

I・II群土坑の多くは、壁際からの流れ込みによって下層より順層をなして、いわゆるレンズ状堆積の様相をなしている。これらの土坑内には、壁の崩落によるL IV・L Vに近似した黄褐色土や黄色土を含む場合もある。

特徴的な堆積状況が認められるのは、開口部下端に開口部より直徑の小さい括れ部を有するフ

ラスコ状のⅢ群十坑である。この形態の土坑は、開口部から括れ部の間に他の土坑と同じくレンズ状の堆積が見られる。しかし、括れ部より下では中央が高い、山形の堆積状況が認められる。この山形の堆積状況は、周壁際からの流れ込みというより、開口部からの上砂の落下によって生じたものと考えられる。この堆積状況は、SK14・238・313・334・450・566などの土坑で顕著に認められる。

SK278・291・447・679・716内には、一次堆積の沼沢バミスが純層をなして堆積していた。SK139・245・319のように、LⅡに近似する黒褐色土が堆積する土坑も見られる。

#### b 人為堆積を示す土坑

土坑底面から検出面まで、黄色土粒子やブロックを均一に含む土が堆積しているものを人為堆積と判断した。総数42基である。これらのうち、先に行った土坑の分類と強い相関関係が見られるものは、Ⅱ群C類土坑である。この群の土坑22基中、人為堆積を示す土坑はSK369・478・501・519・543・562・572・616の8基である。このⅡ群C類十坑には、後述するように上坑周壁際で小穴などの施設を持つものが見られ、他の土坑には見られない形態的な特徴も備えている。SK494、SK541、SK464・491・636は、それぞれ1群B類・I群C類・II群B類と分類したが、これらの土坑の平面形・規模はⅡ群C類とした土坑に近似している。

その他の土坑については、堆積土と土坑の形態の間に相関関係は認められない。SK236・239・247・253・432・533・632等については、周辺に存在する他の遺構の床面や底面を作るため、開口していたこれらの土坑を埋め戻したものと考えられる。SK594のL3には、拳大～人頭大的礫が多量に含まれていた。これらの礫は、LⅤ下に堆積する岩屑流堆積物に含まれるもので、周辺の遺構を構築した時の排土に含まれていたものと考えられる。SK221・235・648は柱痕跡が明瞭であることから、屋外柱穴と判断した。

#### c 自然堆積と人為堆積からなる土坑

自然堆積土と人為堆積土が混在している土坑で、総数26基である。土坑の形態と堆積状態に相関関係は認められない。一方、これらの土坑は、遺構が密集した地点に作られているものが多く、人為堆積の性格を考える上で参考となろう。SK301・328・346・356・410・420・424・488・574・592・625・628・652・679に見られる人為堆積については、周辺に存在する他の遺構を構築する時に出た排土を、これらの土坑の中に捨てたものと考えている。なお、自然堆積とした大型のⅢ群土坑の堆積土には、壁の崩落土か外部から捨てられた土か判断できない黄色土が、堆積しているものもある。

SK10・17・19・240・304・320・323・614は、自然堆積土の上部に人為堆積土が見られる土坑である。これらの土坑については、重複する堅穴住居跡との関係から、住居跡の床面を作るために、埋まりきらずに開口していた土坑を埋め戻したものと考えている。

#### d 堆積状況を判断できないもの

堆積上が一層のみで、明らかに人为堆積と判断できる場合以外は不明とした。

### 4 土坑の検出層位について

土坑は大半がLIVまたはLV上面で検出されているが、縄文時代の生活面と推測されるLIIBを検出層位とする土坑を以下に挙げる。東区では、SK7がLIIB上部、SK114・115がLIIB中部、SK5・8・9・22・126・127・132・134・141・679がLIIB下部から検出された。中央区では、SK311～313・325～327・329がLIIB上部、SK317・330・336・359・365・385・386・398・400・401・421がLIIB中部、SK362・377～379・395・402・404・408・426～429・443・445・447・449・451・454・456・460・461・599・609・640・641・648・687がLIIB下部から検出されている。西区では、SK642～644・649～651・662がLIIB上部で検出されたが、これらは斜面上位に限られる。また、調査区外との境界壁や基本層序観察用ベルトに掛かるSK117・123・124・303・313・575は、LIIB上部あるいは中部から掘り込まれている。

土坑の所属時期と検出層位の対応関係は、上記の結果が必ずしも一貫性を持っていないので大まかに捉えておきたい。東区と中央区東半部では、LIIB下部が縄文時代中期前葉から中葉、LIIB上部が縄文時代中期中葉以降に比定される。中央区の西半部では、LIIBが縄文時代中期以降、西区では、LIIBが縄文時代中期初頭を下らないであろう。

中央区東半部で検出されたII群土坑の中には、開口部周辺のLIIB上に、1～2mの幅の黄褐色土や褐色土の堆積を確認したものが多いた。SK385は、これがドーナツ状を呈していた。この黄褐色土については土坑構築時の耕土と考えていて、黄褐色土の層厚は10cm程度と薄い。

### 5 小穴等の施設を持つ土坑について

土坑の中には、小穴・壁溝を有するものがある。II群C類に属するSK273・285の底面からは、小穴が検出された。SK273は、2個の小穴が短辺中央の壁際に向かい合って位置している。小穴の規模は、P1が直径38cmで深さ47cm、P2が直径35cmで深さ40cmである。小穴内には褐色土が堆積していた。SK285は、短辺中央の壁際に1個ずつと、底面中央に1個の合計3個あり、この3個の小穴は直線的に並んでいる。小穴の規模は、P1が直径29cmで深さ32cm、P2が直径30cmで深さ52cm、P3が直径22cmで深さ21cmを測る。小穴内の堆積土は褐色土である。土坑の規模が大きくなると、小穴が壁を抉り込むように掘り込まれていることから、これらの小穴は土坑に伴う柱穴と考えている。

II群C類のSK319からは、小穴が3個検出された。P1は北西コーナー、P2は南西コーナー、P3は東側短辺のほぼ中央に位置している。小穴の規模は、いずれも直径15cm前後、深さはP3

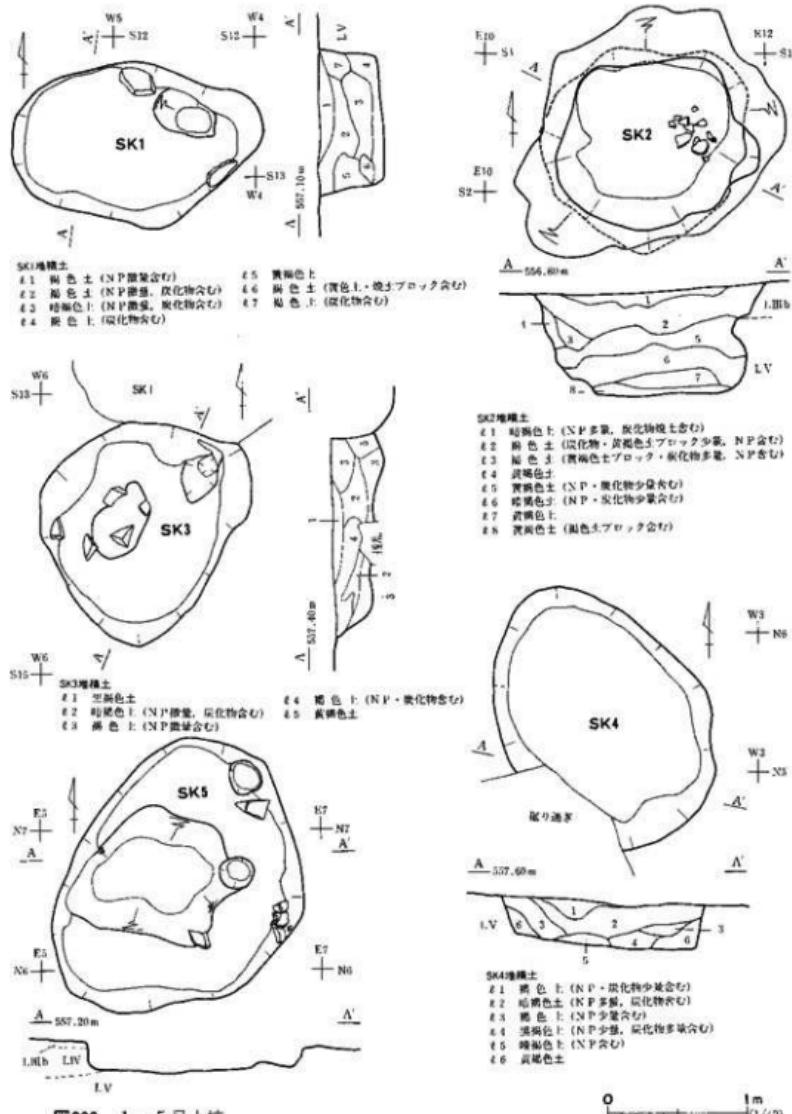


図280 1~5号土坑

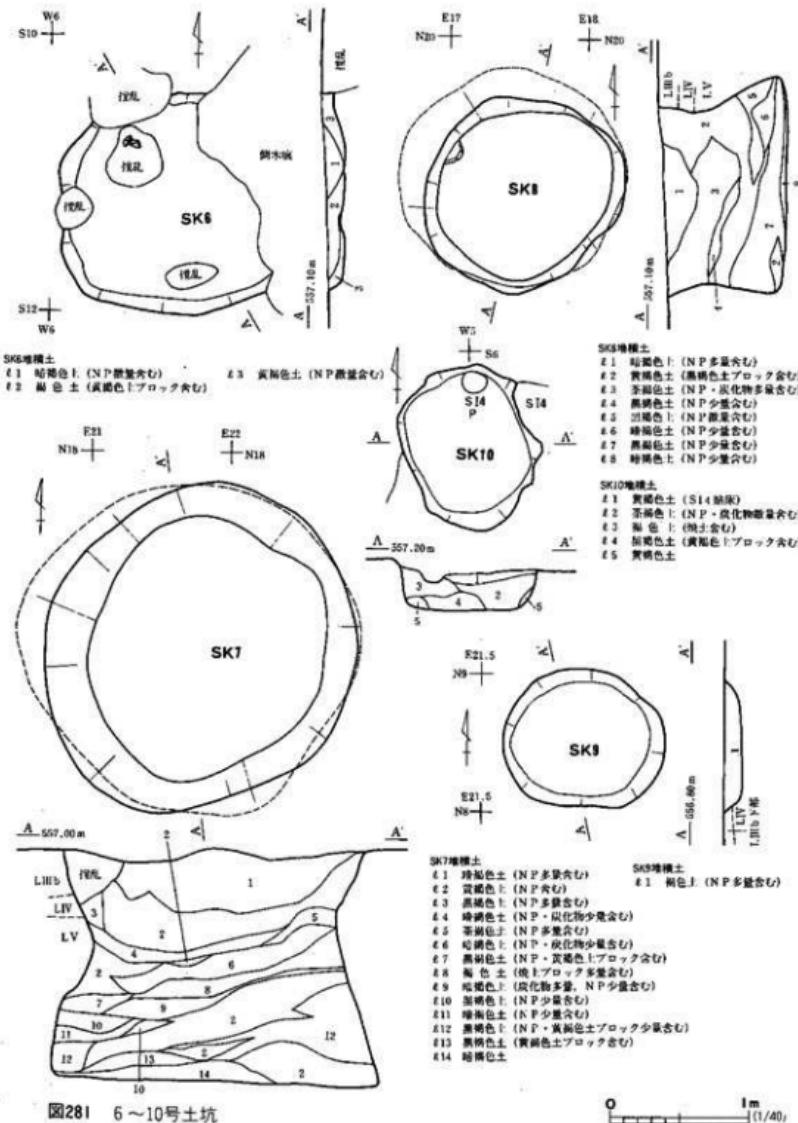


図281 6～10号土坑

第2章 遺構と遺物

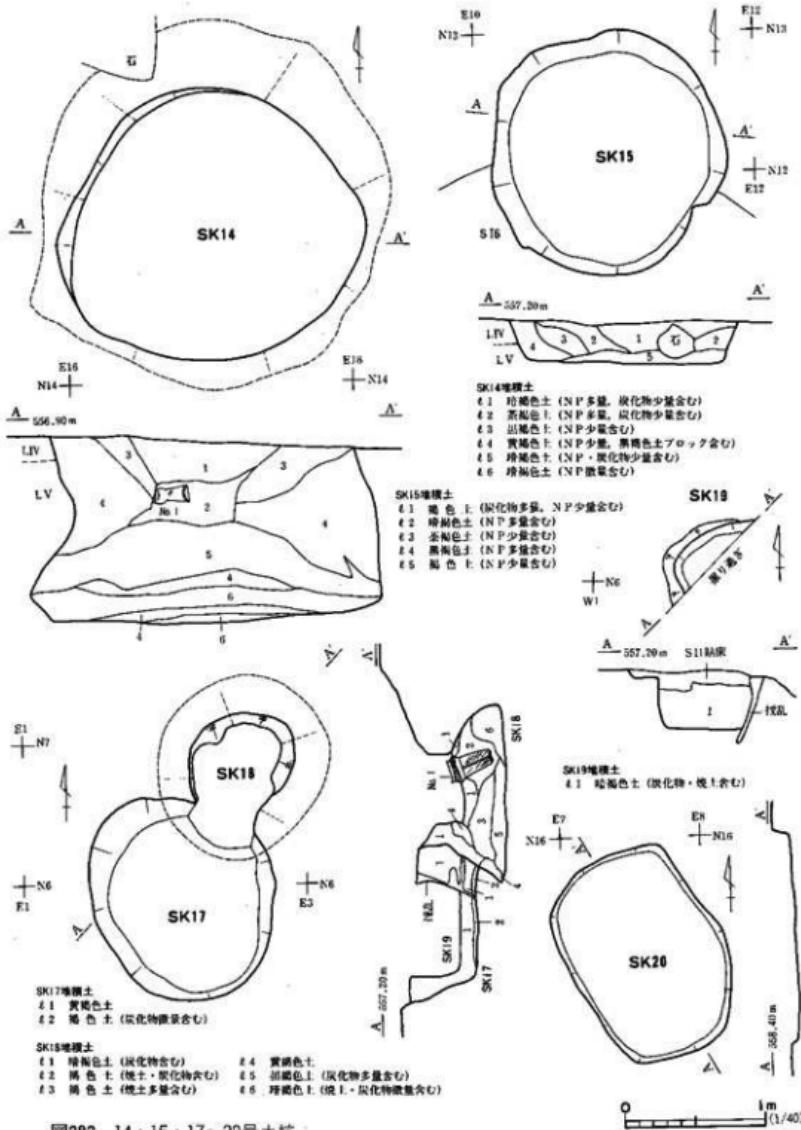


図282 14・15・17～20号土坑

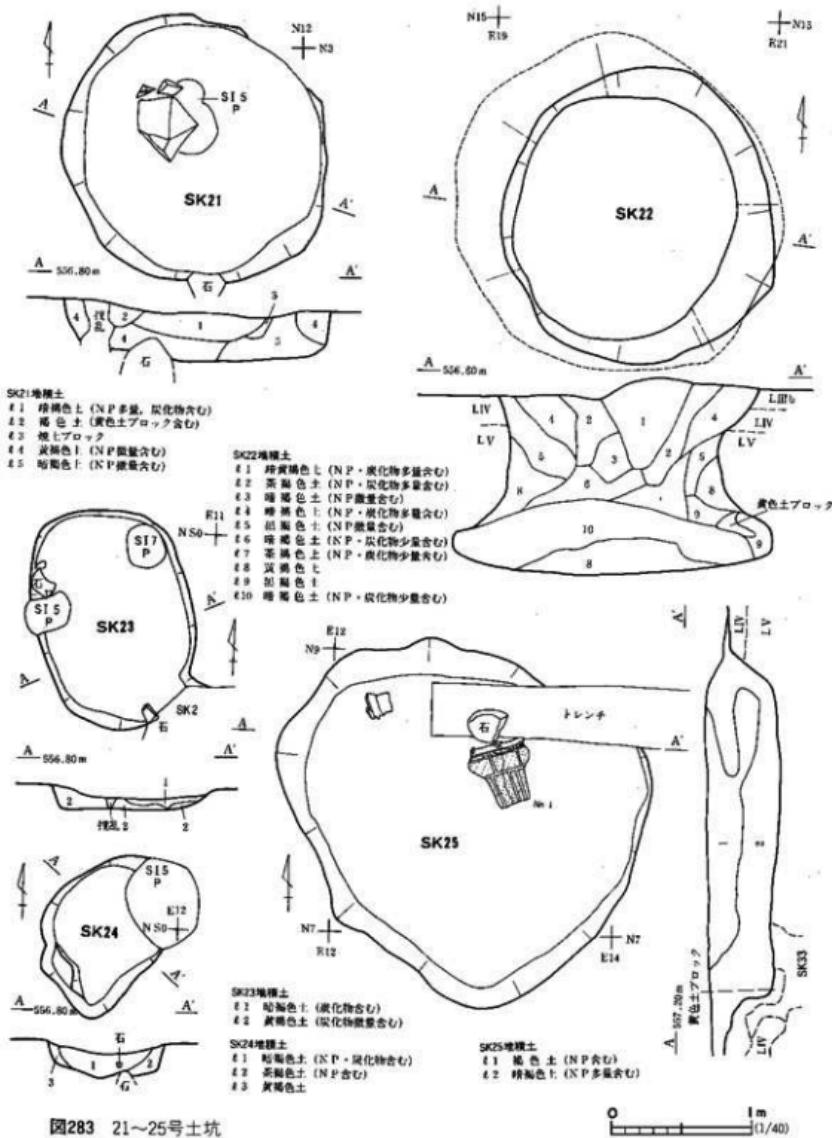
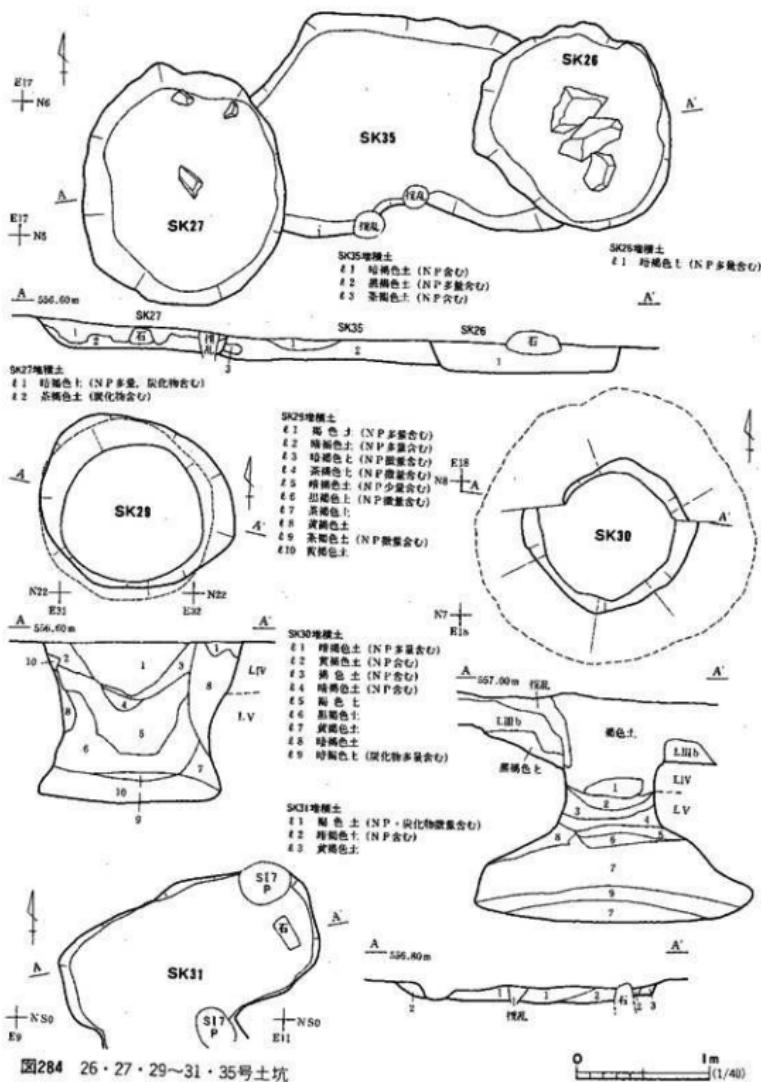


図283 21~25号土坑



第3節 土 坑

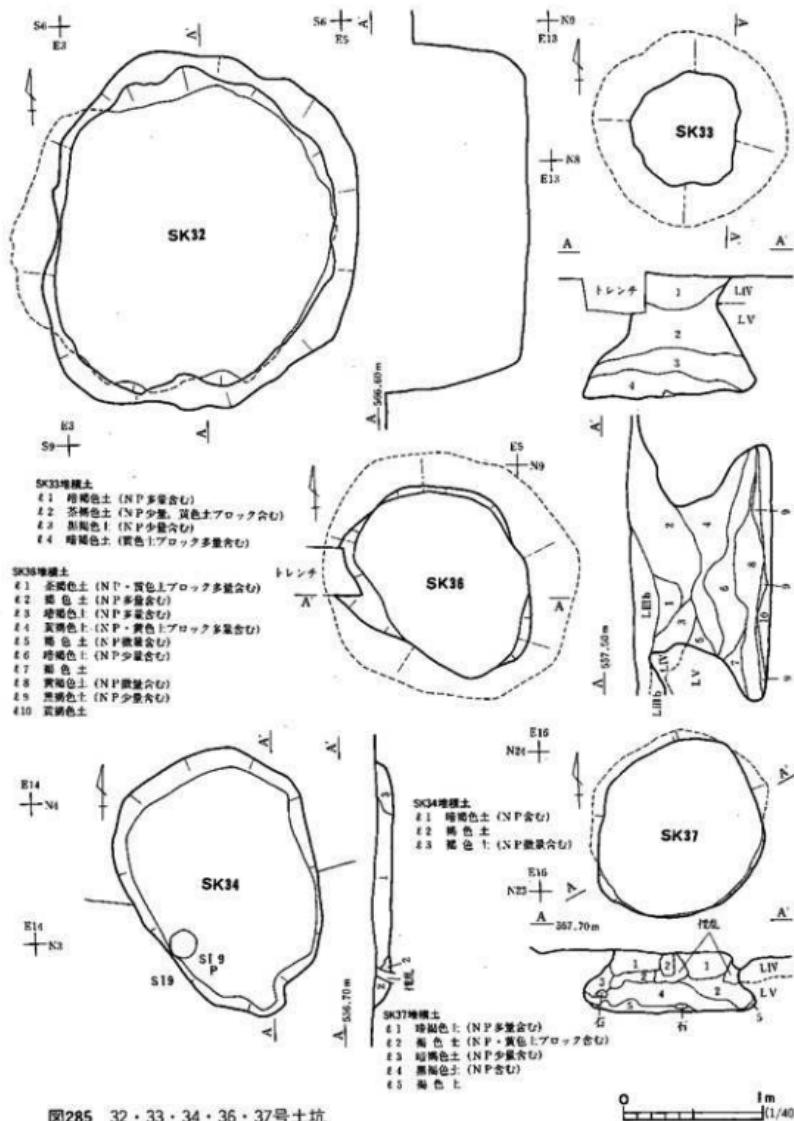


図285 32・33・34・36・37号土坑

第2章 遺構と遺物

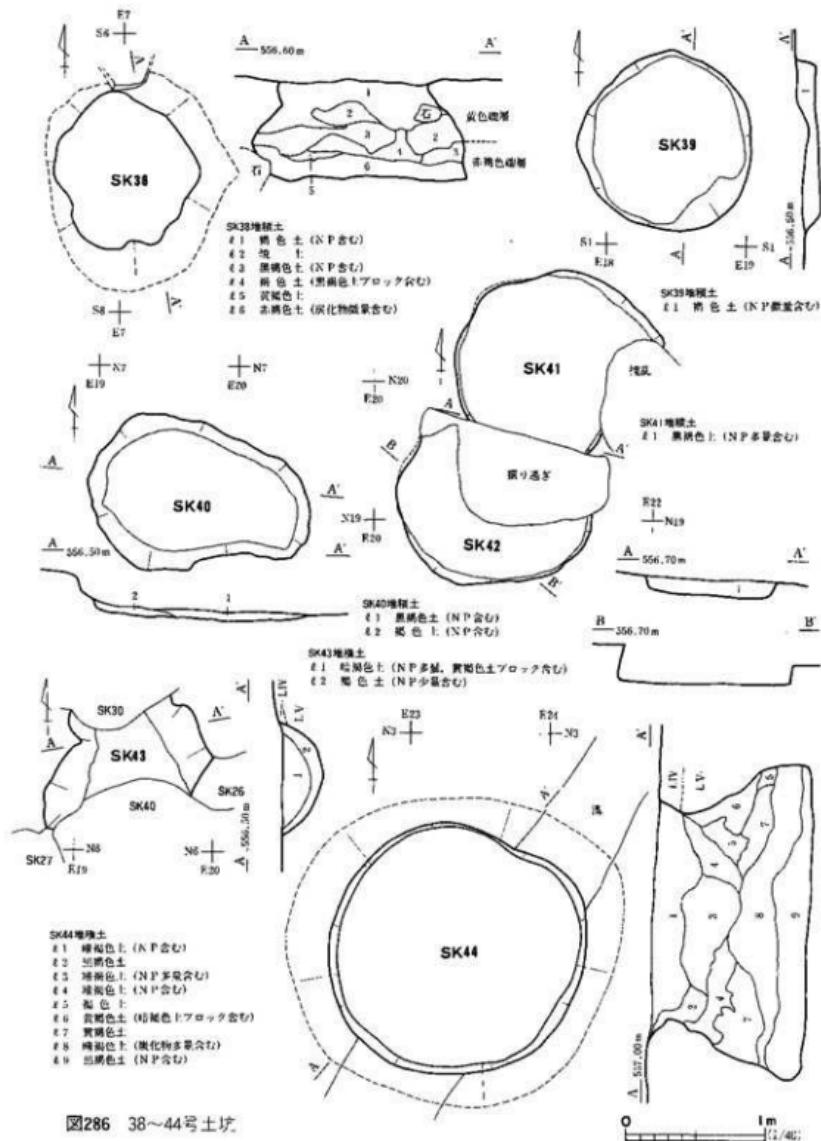
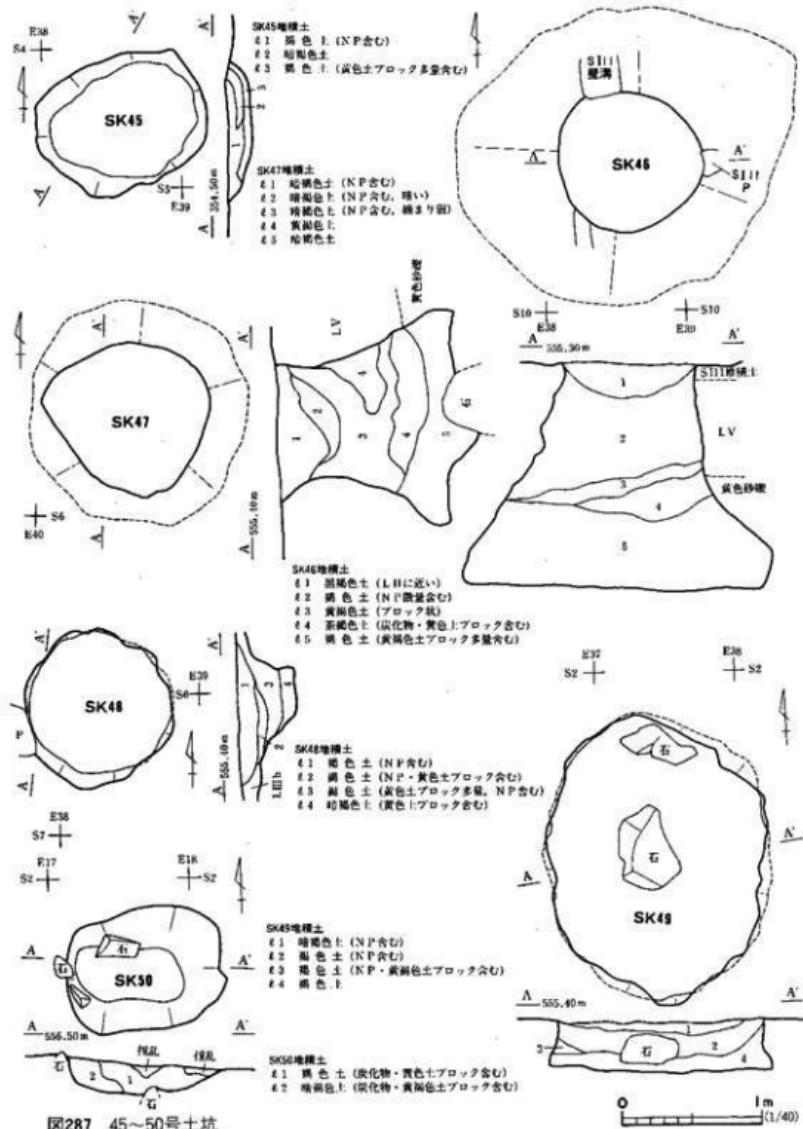


図286 38~44号土坑。

第3節 土坑



第2章 地構と遺物

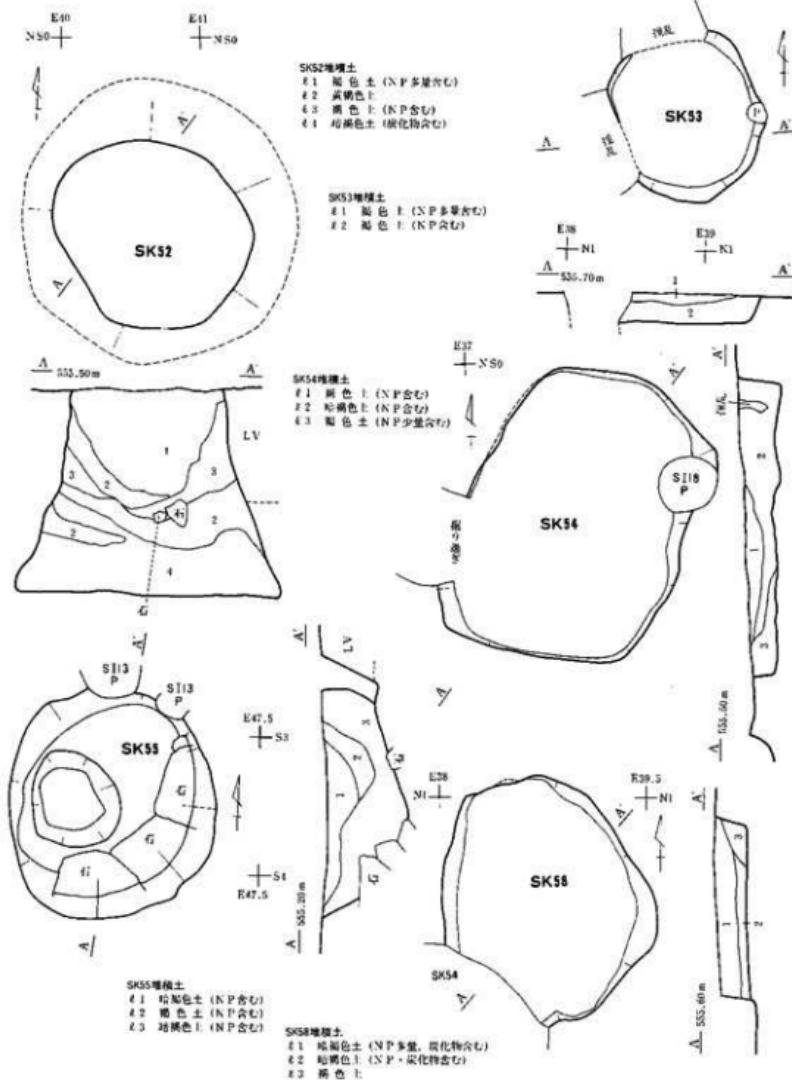


図288 52~55・58号土坑

0 1m (1/40)

### 第3節 土 坑

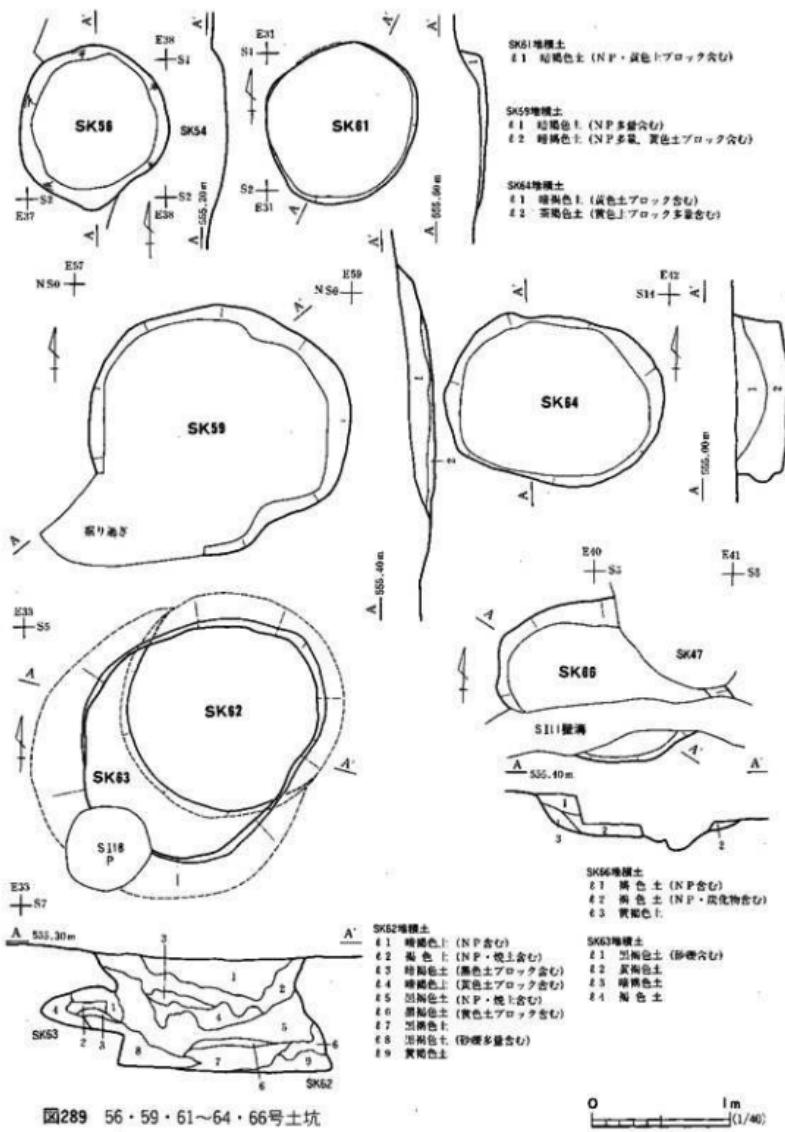


図289 56・59・61~64・66号土坑

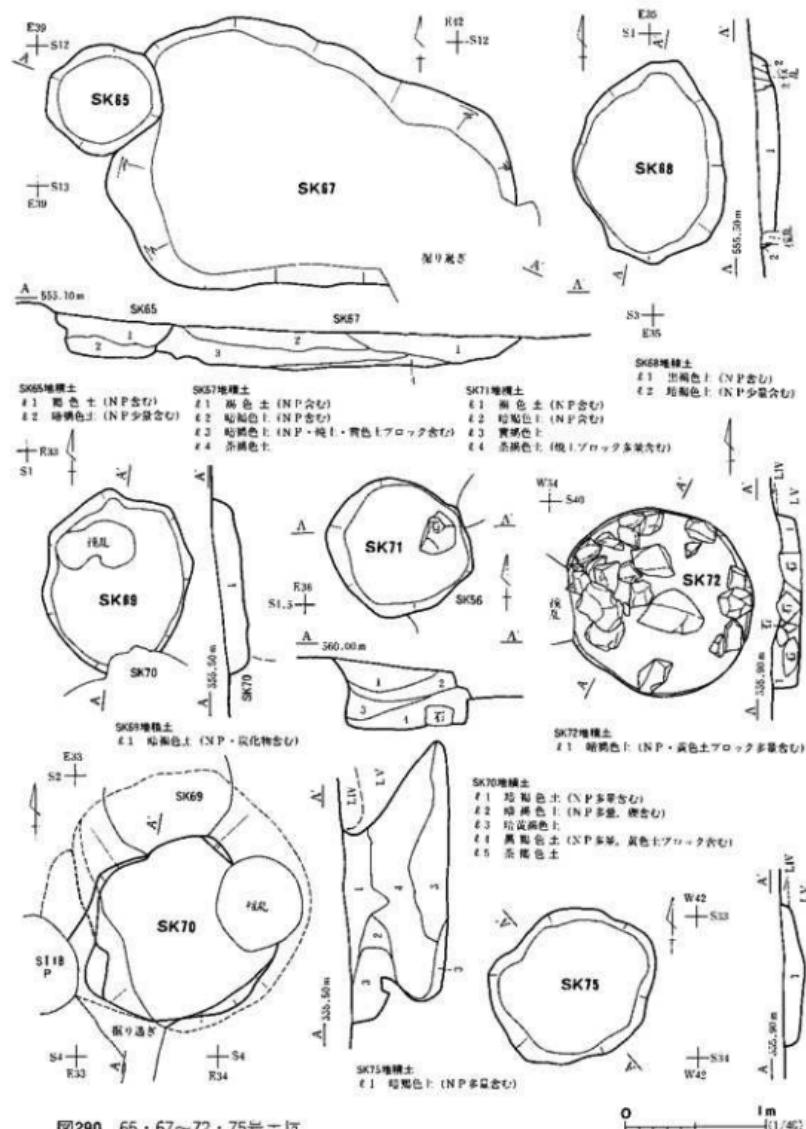


図290 65・67~72・75号工坑

第3節 土 坑

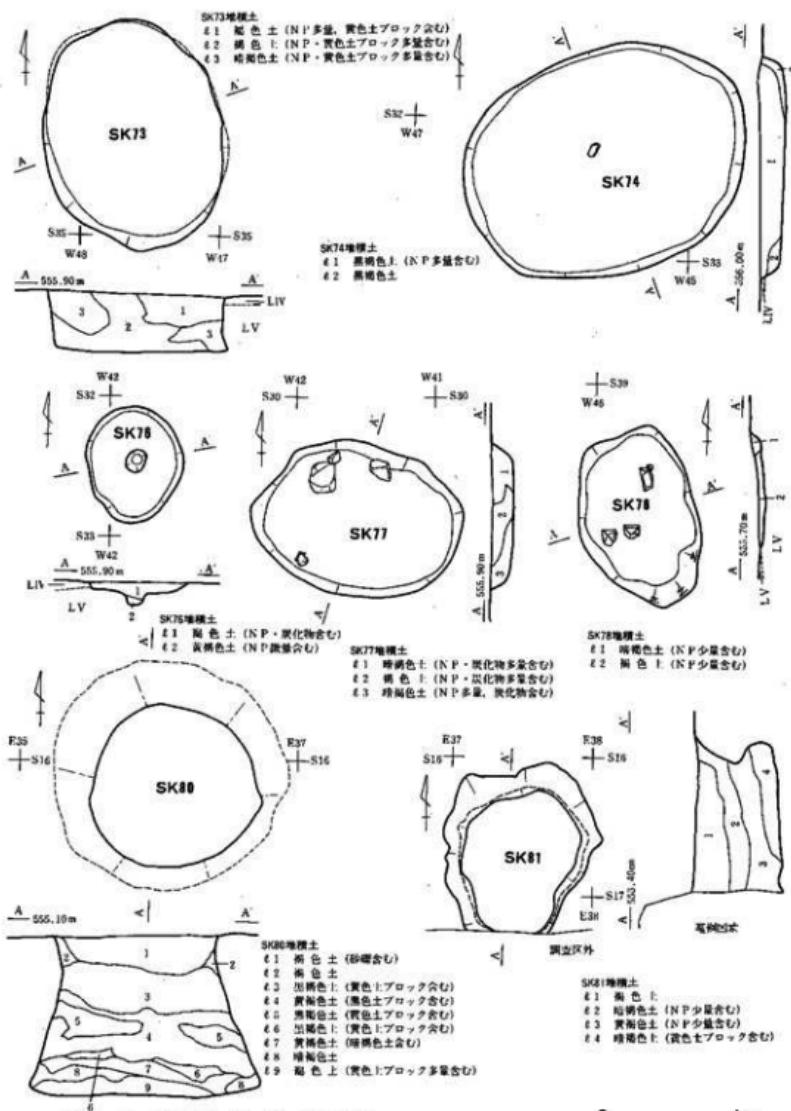


図291 73・74・76~78・80・81号土坑

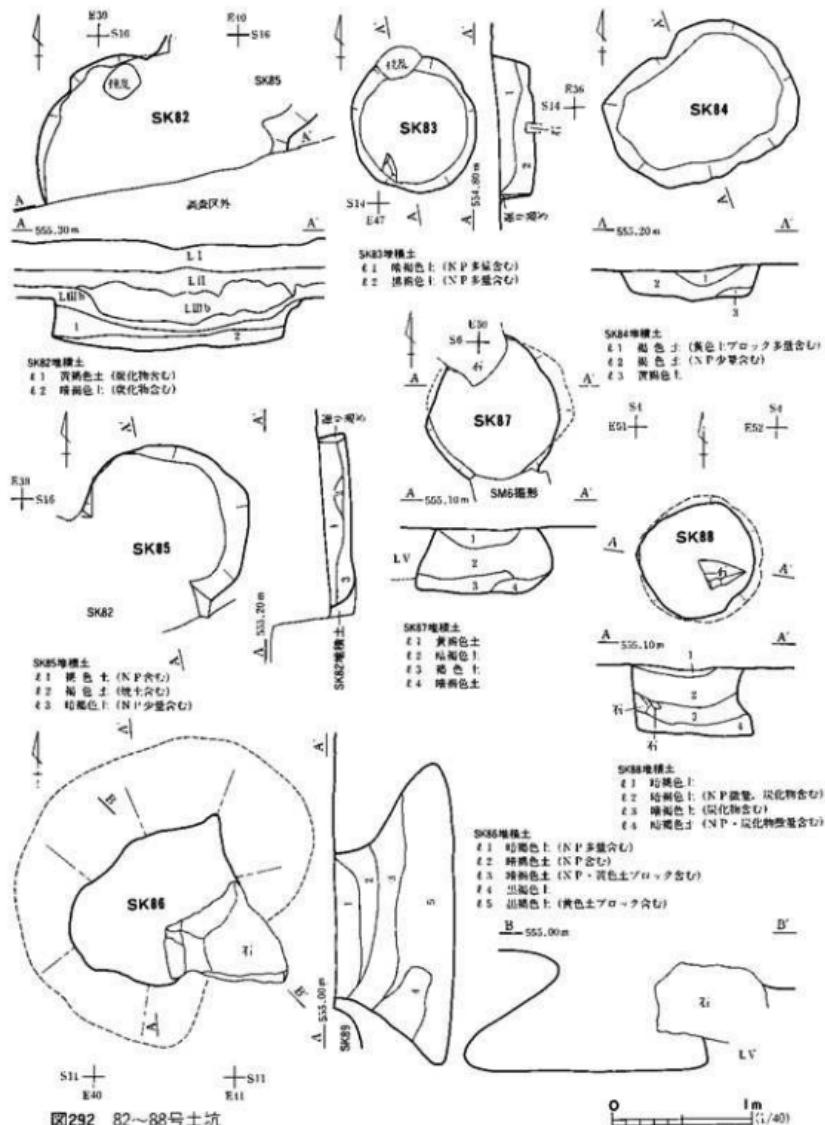


図292 82~88号土坑

第3節 土 坑

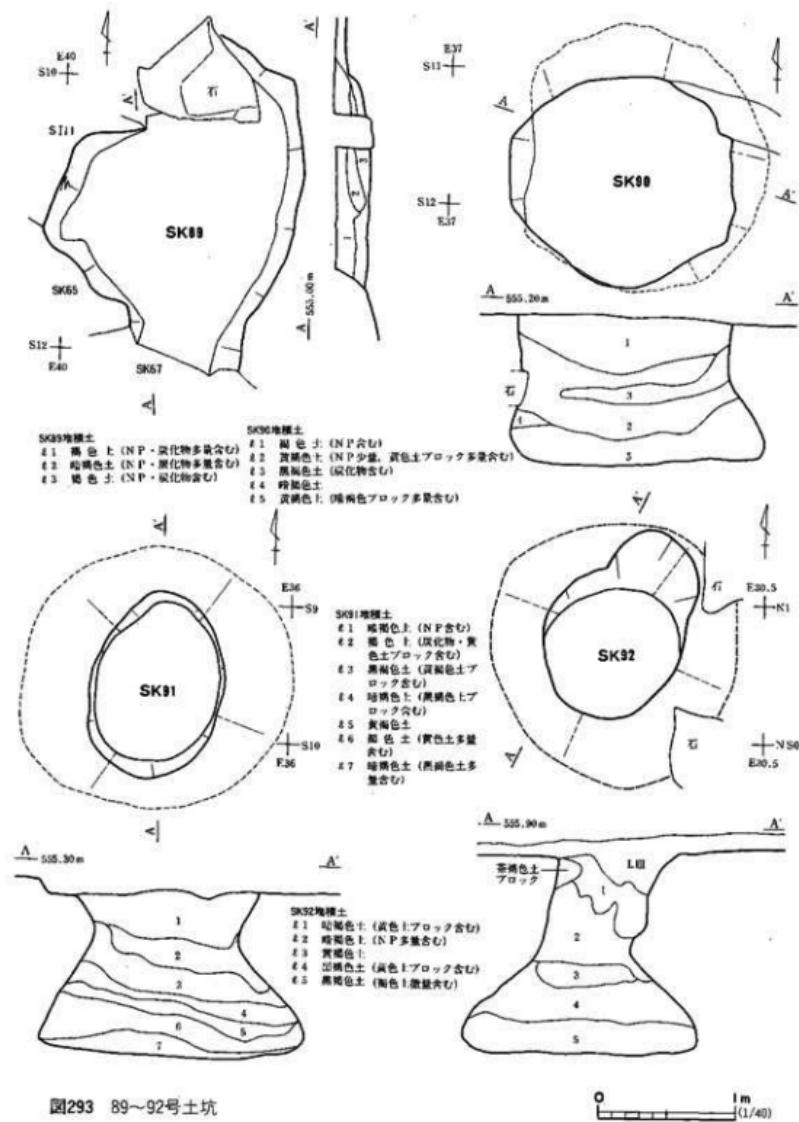


図293 89~92号土坑

第2章 造構と遺物

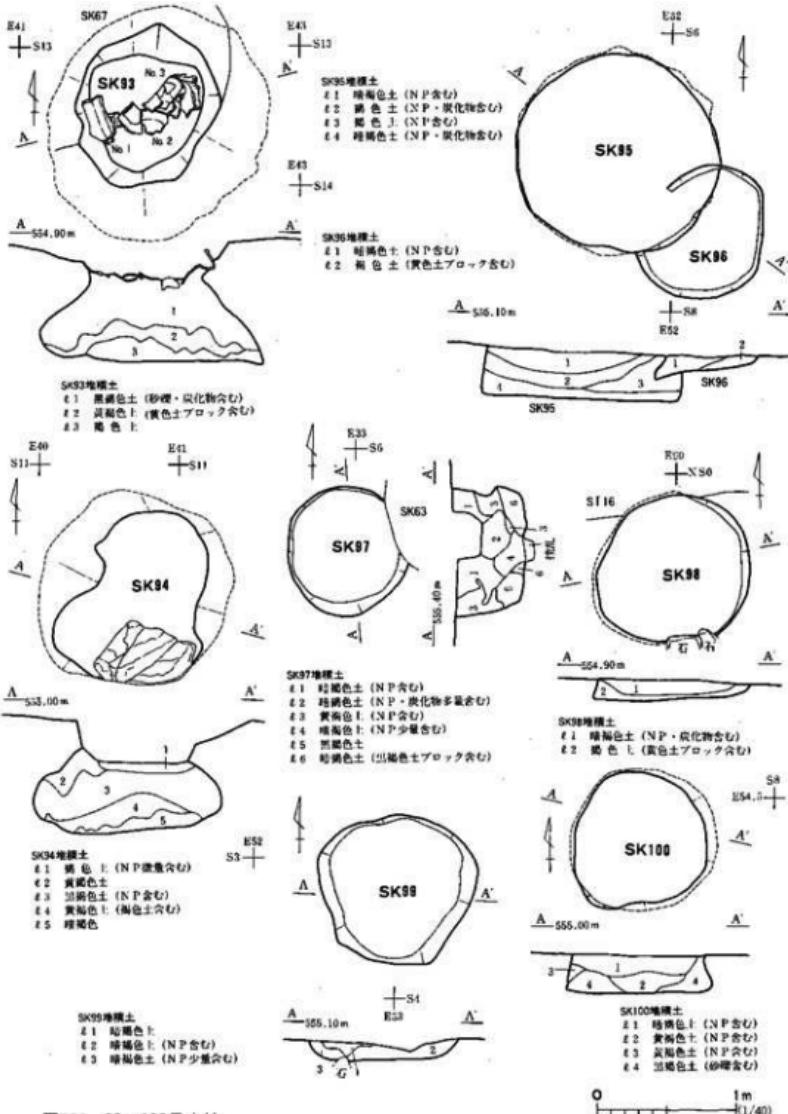


図294 93~100号土坑

第3節 土 坑

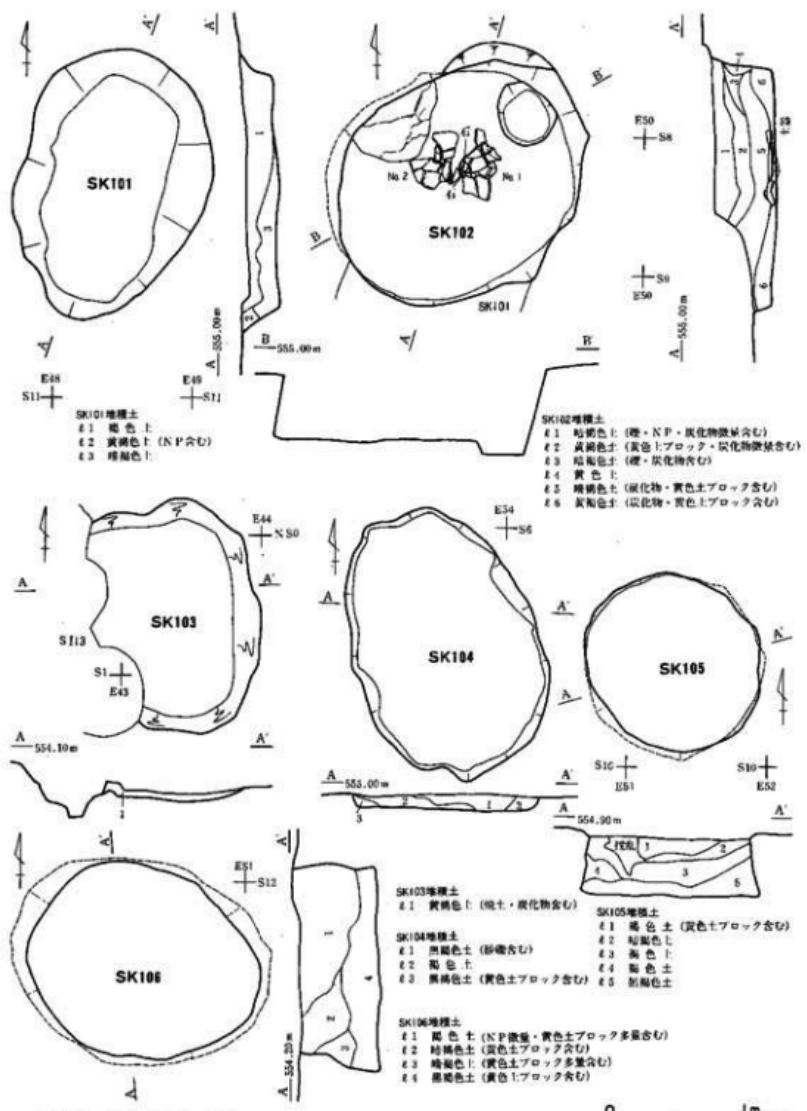


図295 101~106号土坑

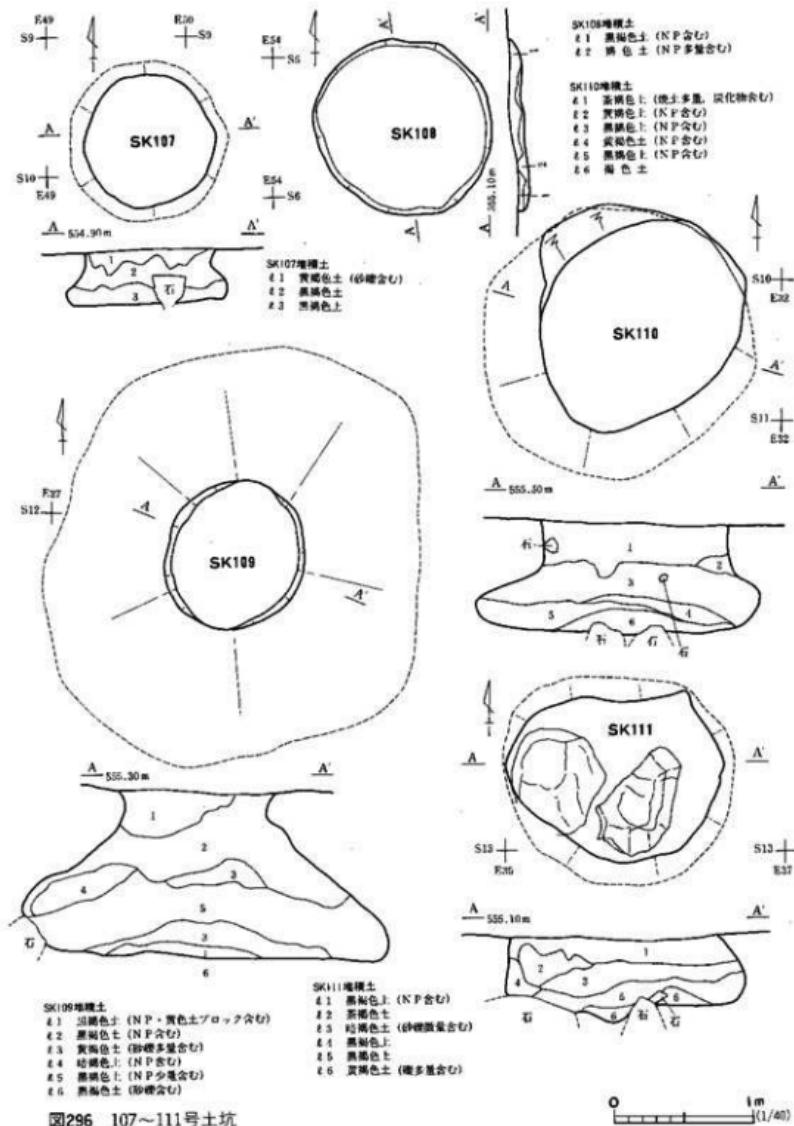


図296 107~111号土坑

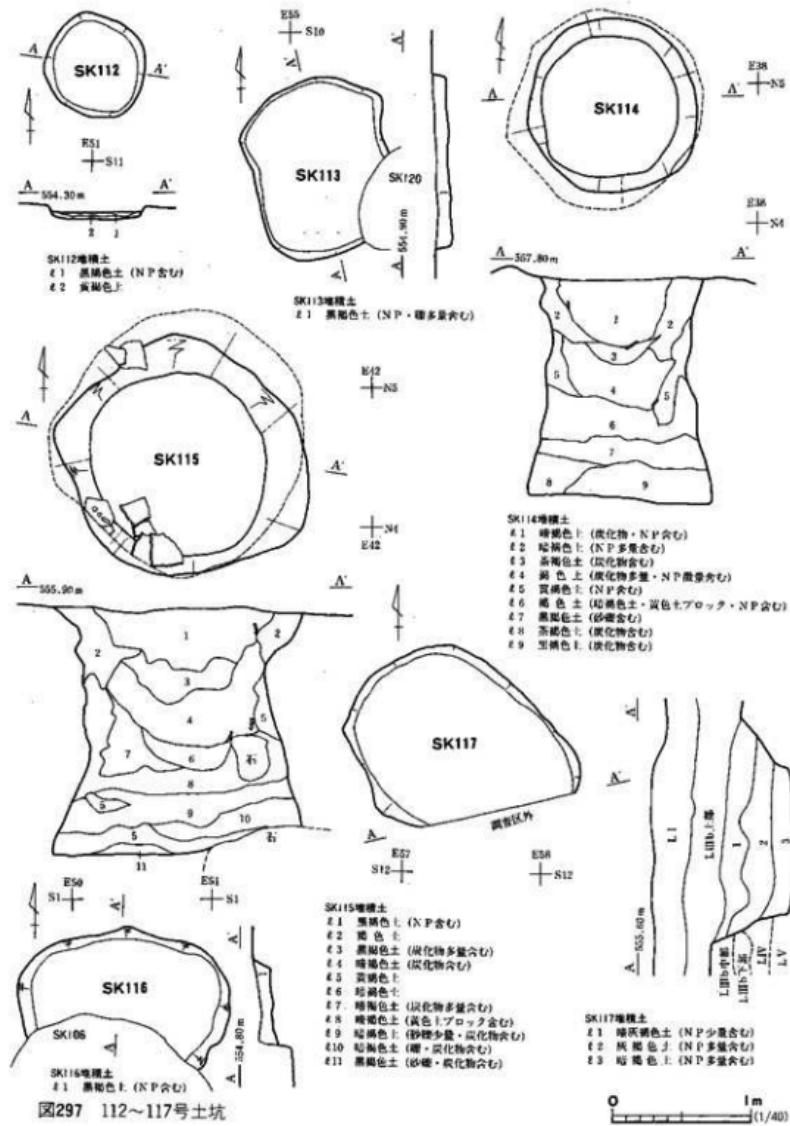


図297 112~117号土坑

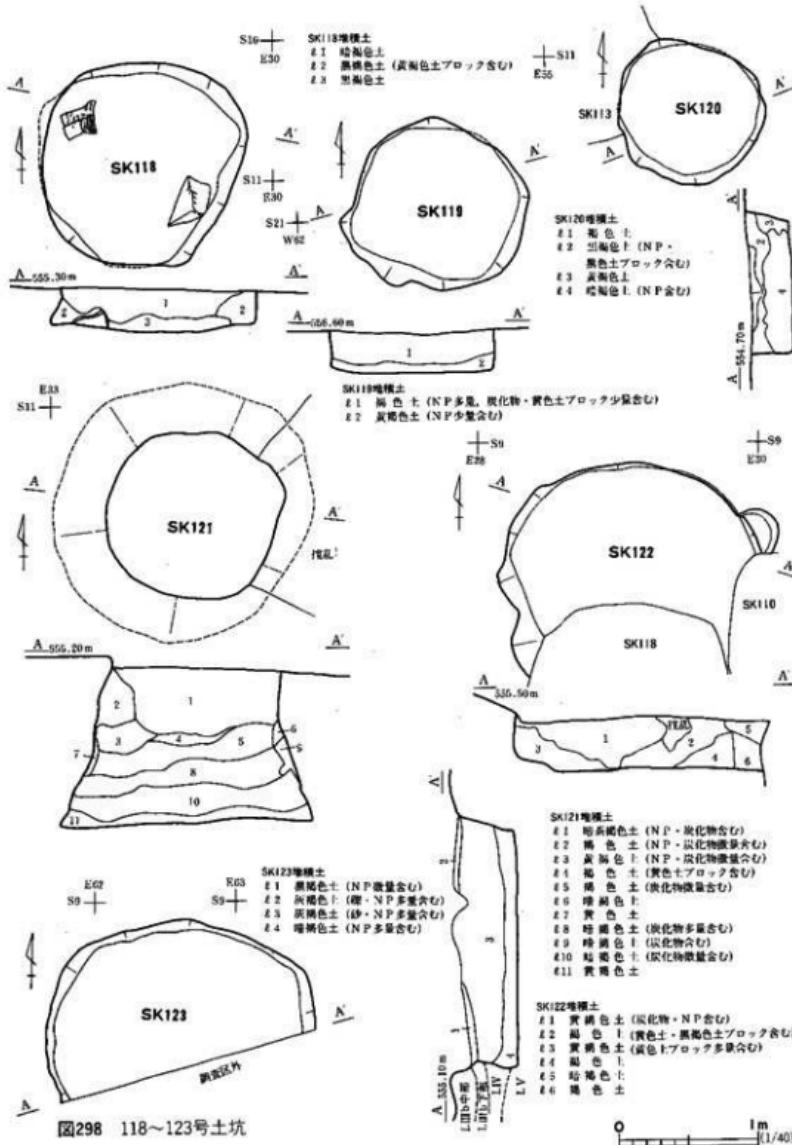


図298 118~123号土坑

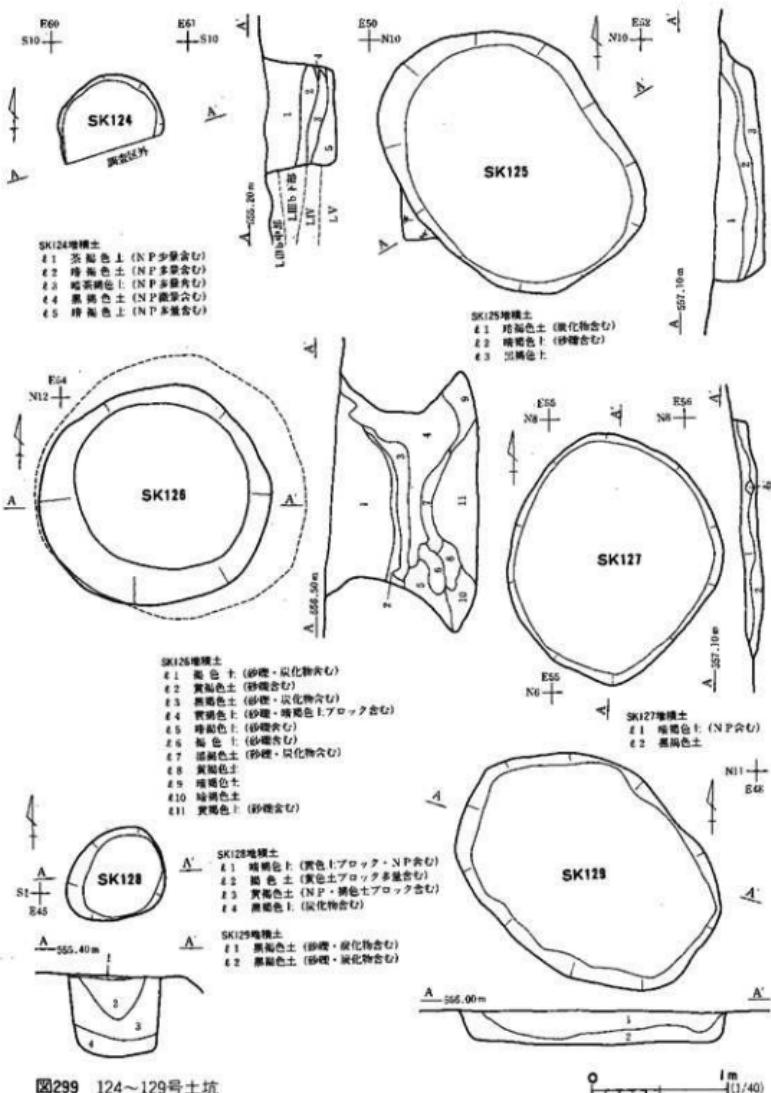


図299 124~129号土坑

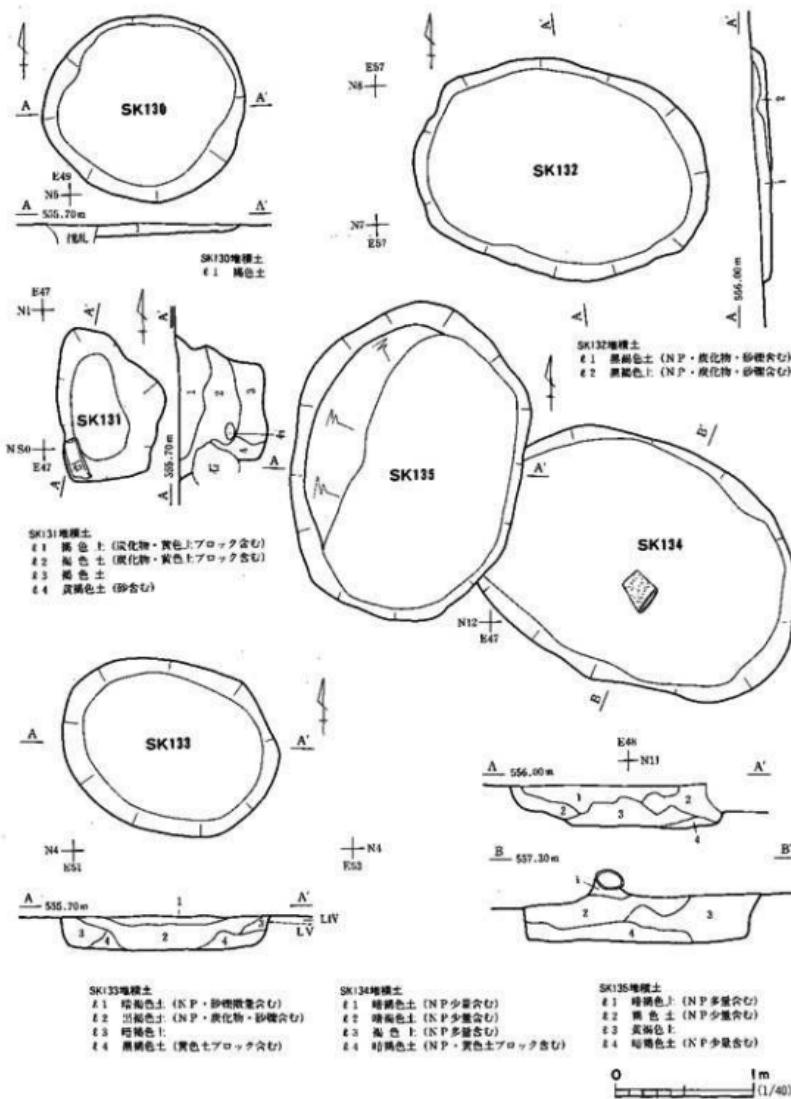
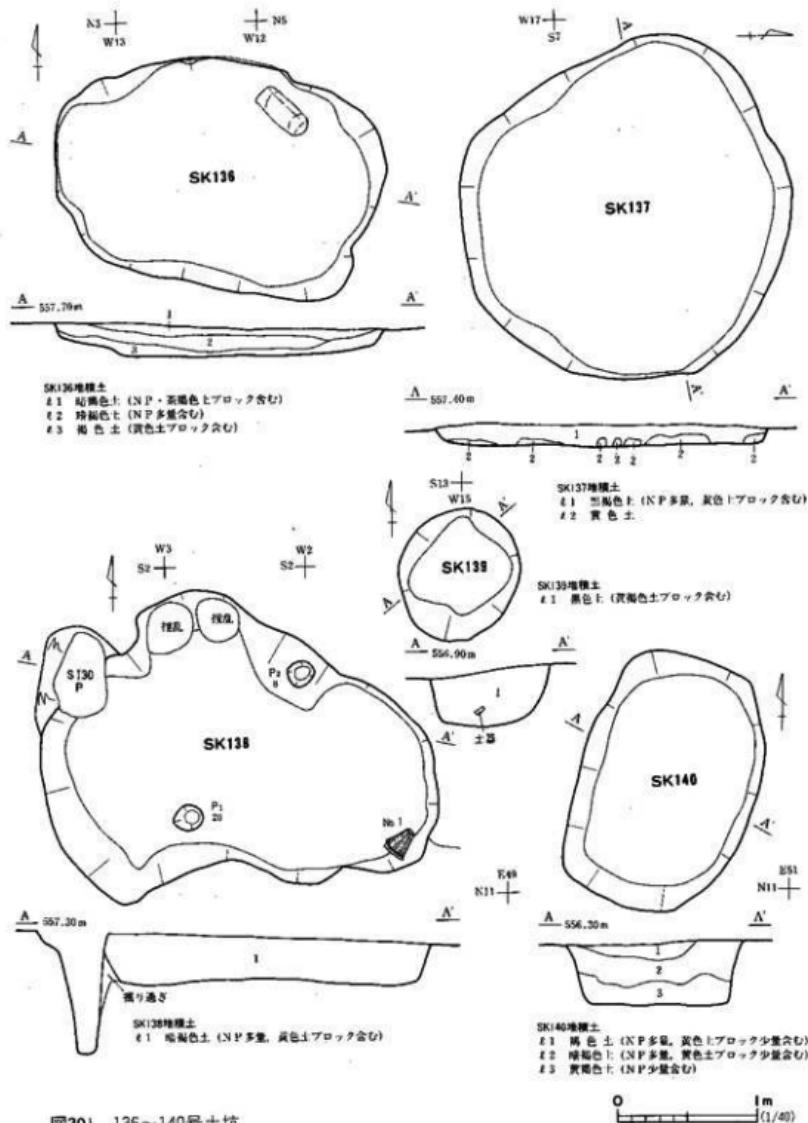


図300 130～135号土坑

第3節 土 坑



第2章 遺構と遺物

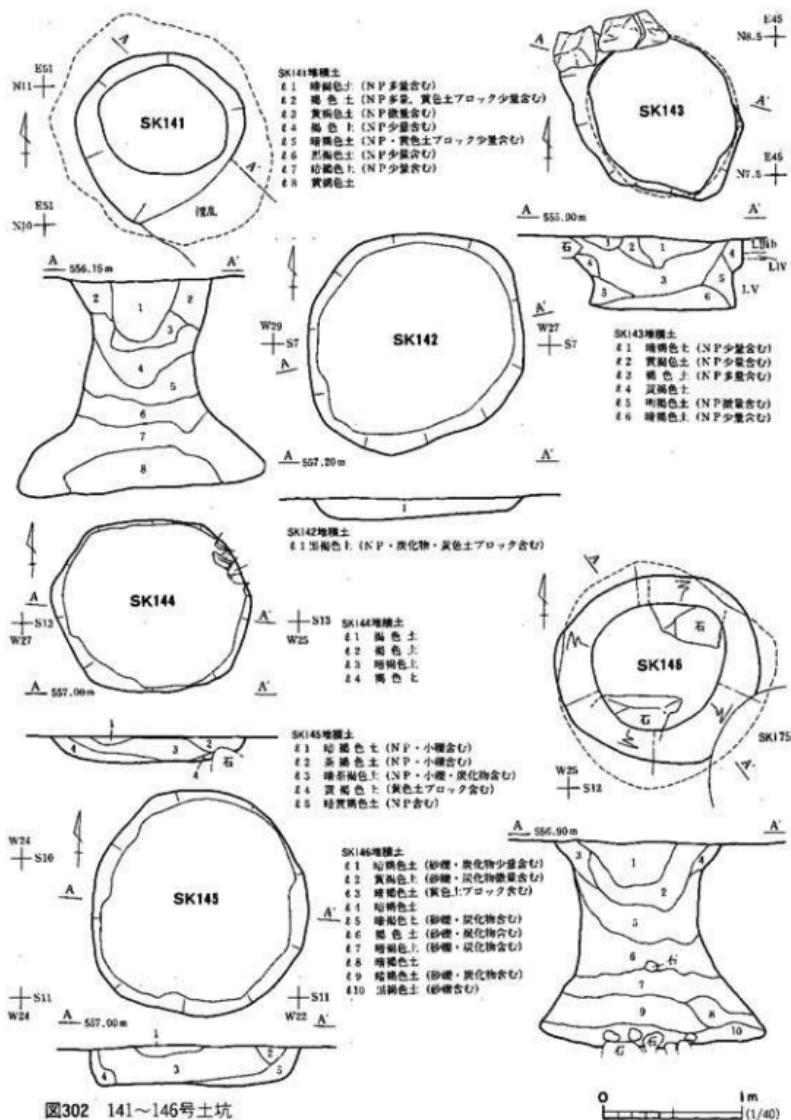


図302 141~146号土坑

第3節 土 坑

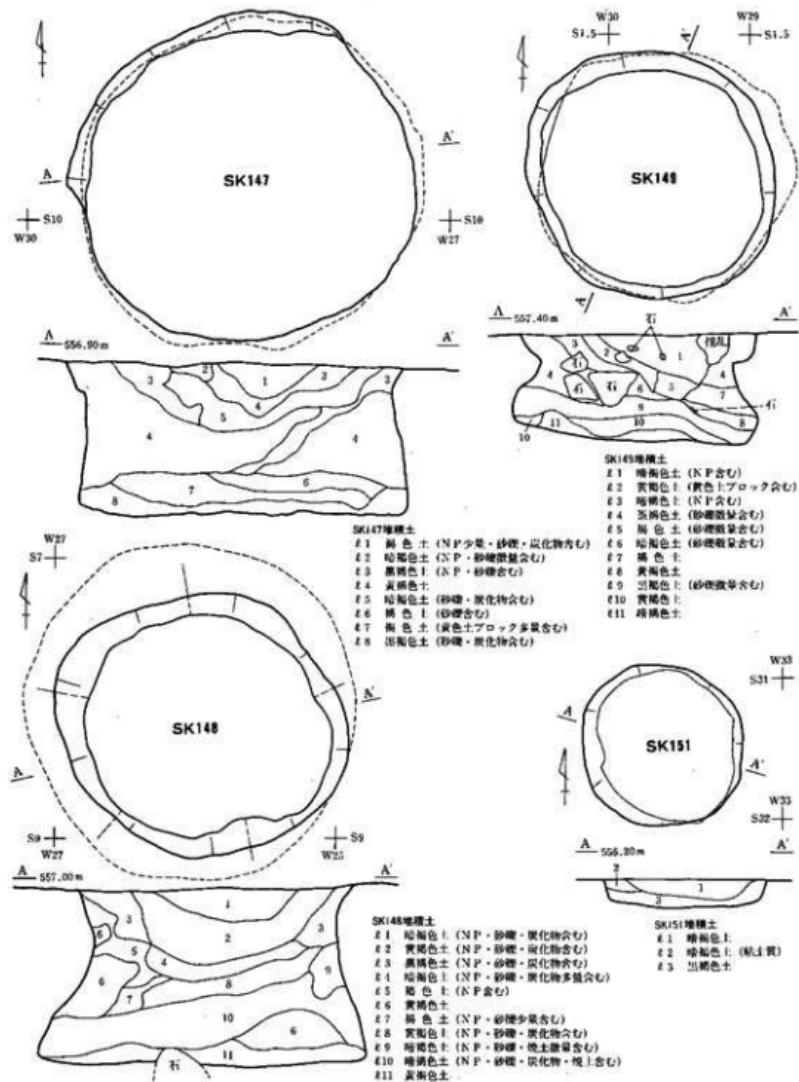


図303 147~149・151号土坑

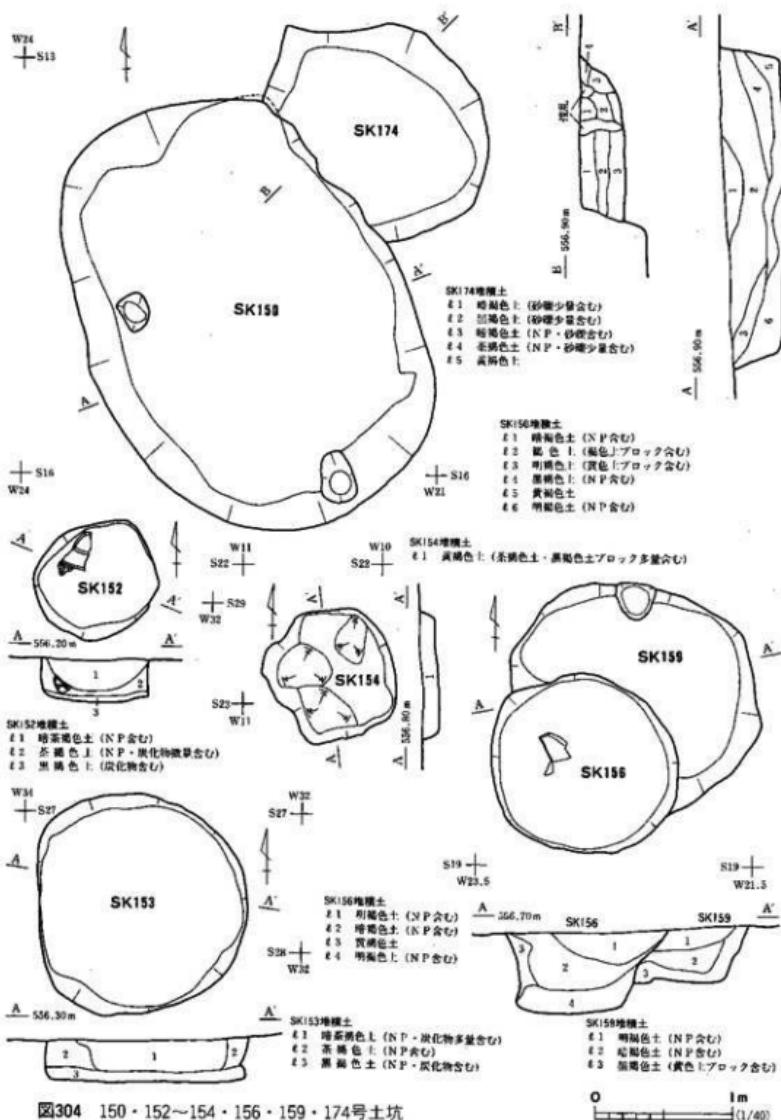


図304 150・152~154・156・159・174号土坑

第3節 土 坑

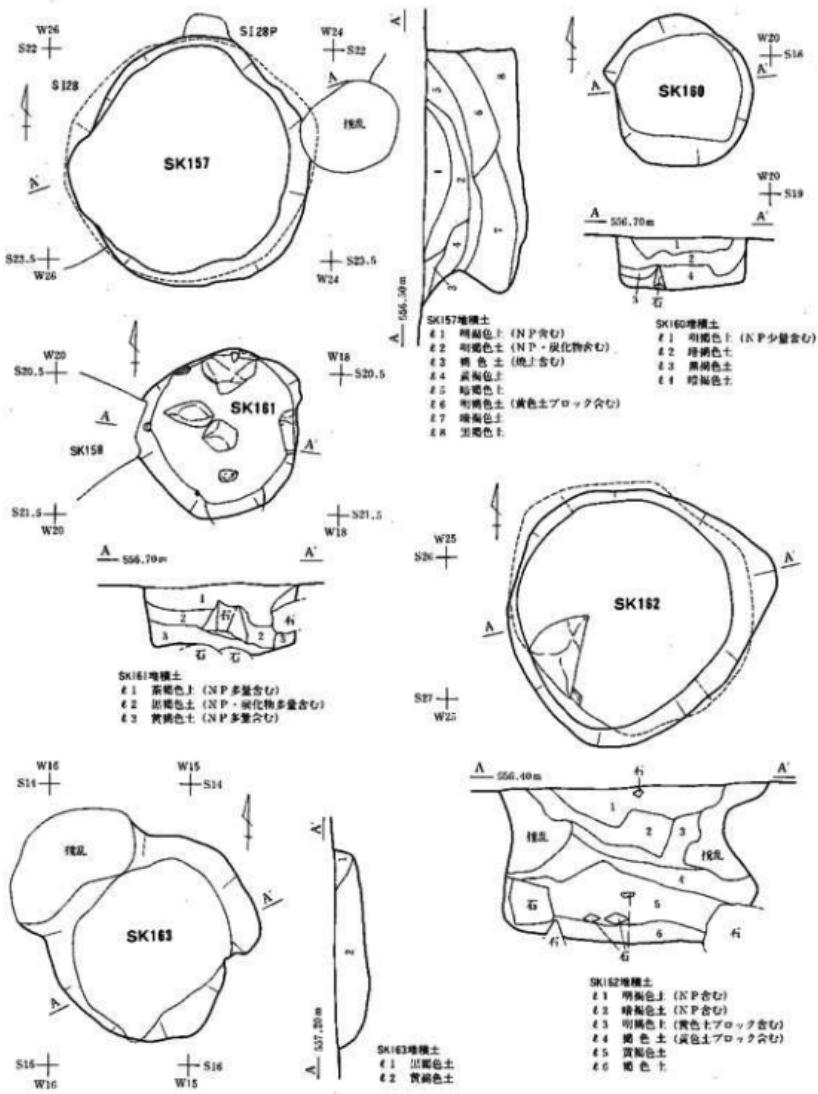


図305 157・160~163号土坑



第2章 造構と遺物

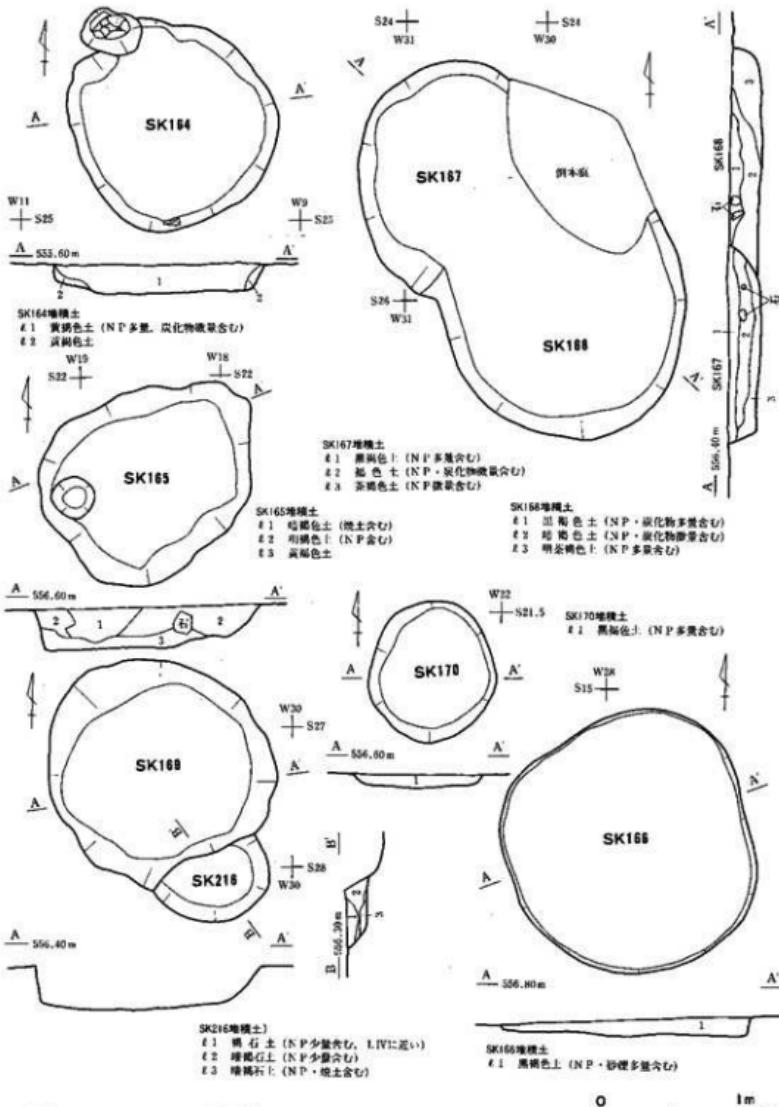


図306 164~170・216号土坑

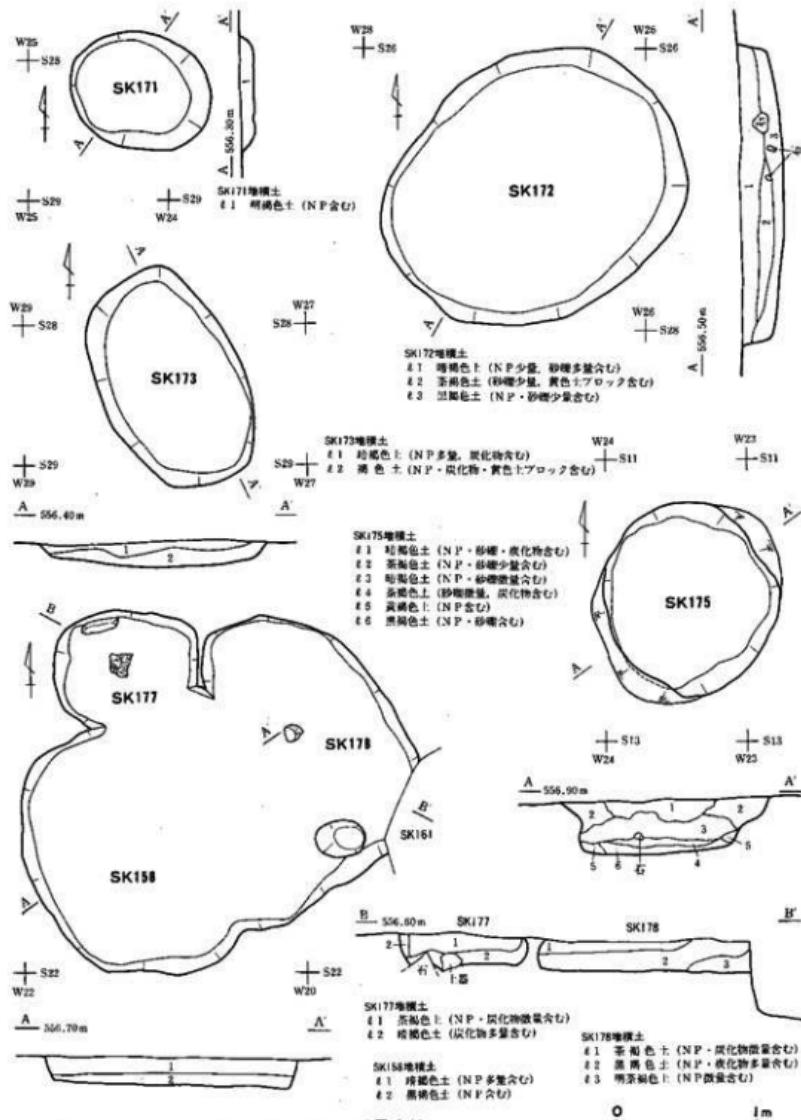


図307 158・171~173・175・177・178号土坑



## 第2章 遺構と遺物

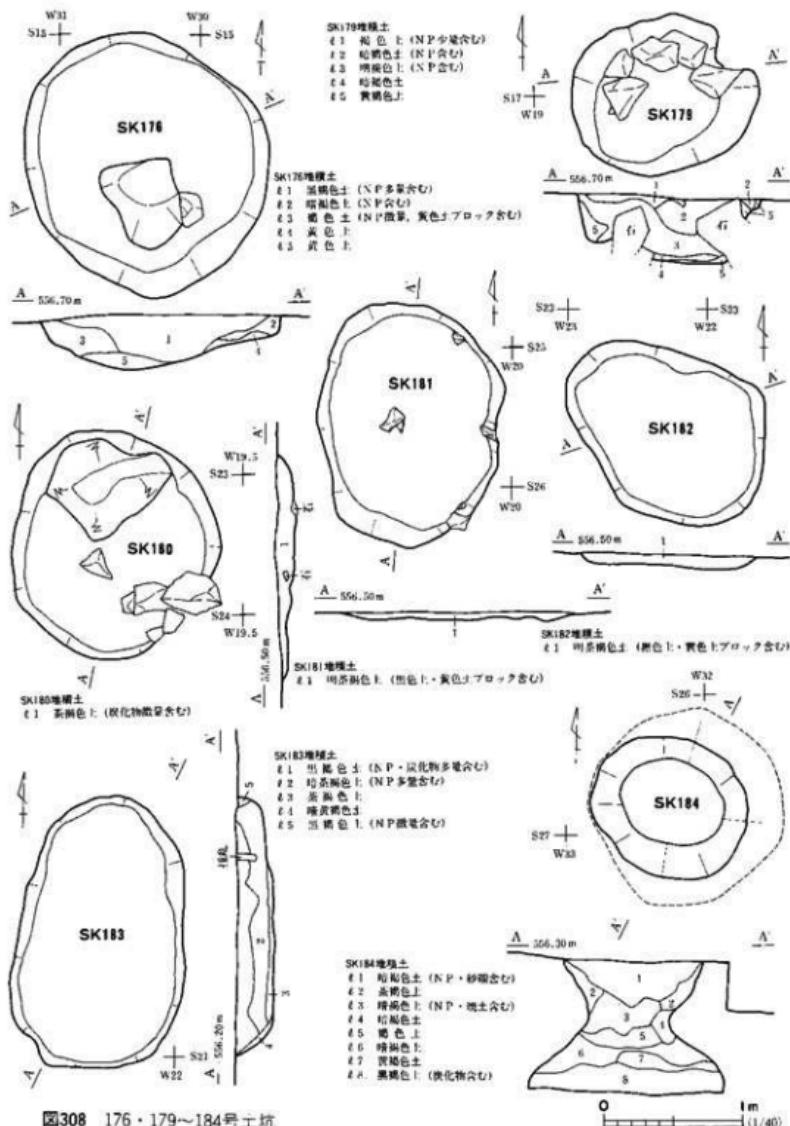


図308 176・179~184号土坑

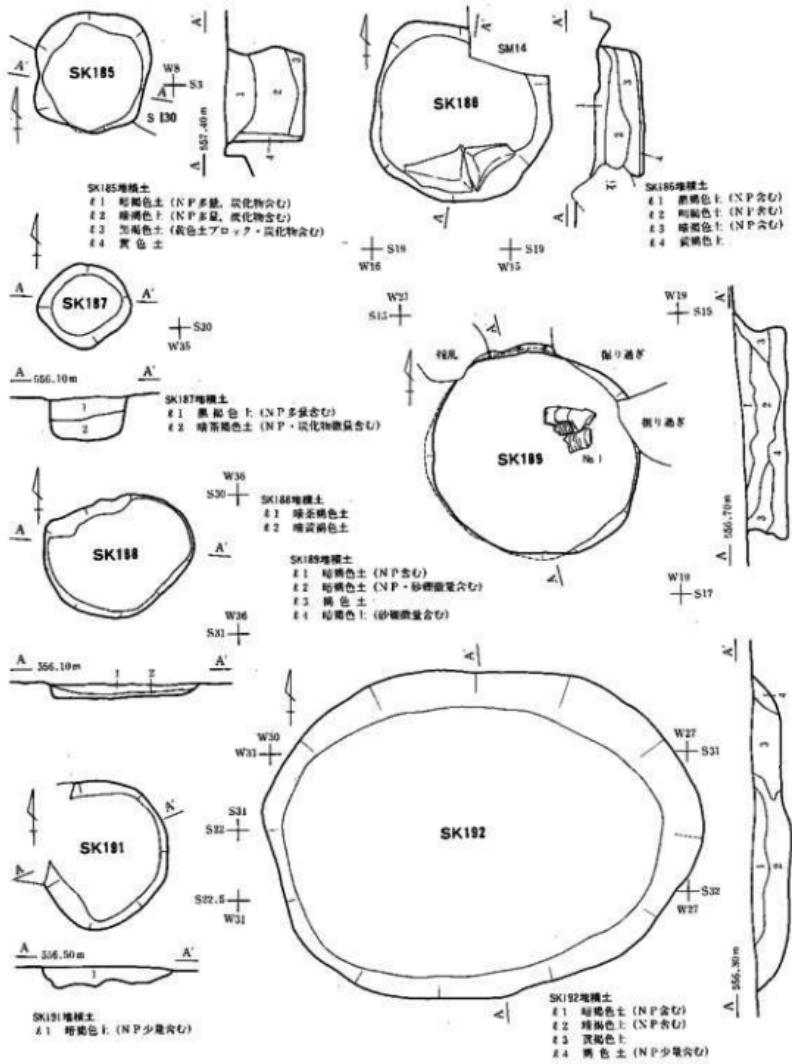


図309 185~189・191・192号土坑

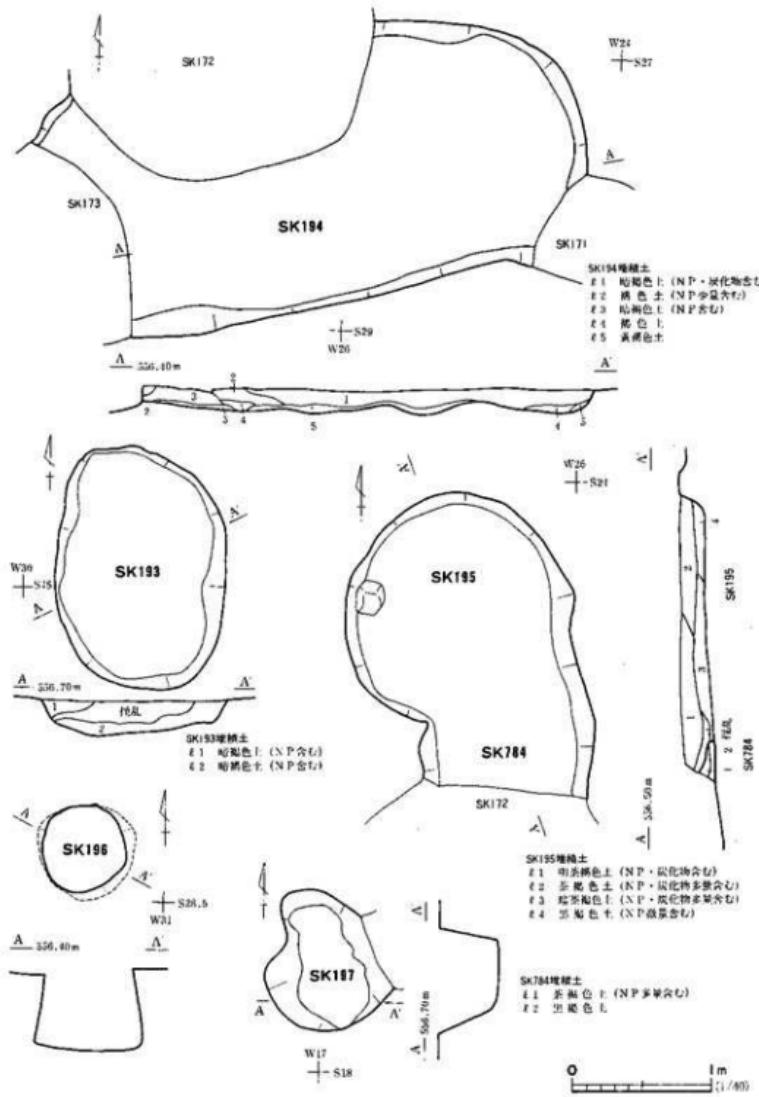


図310 193~197・784号土坑

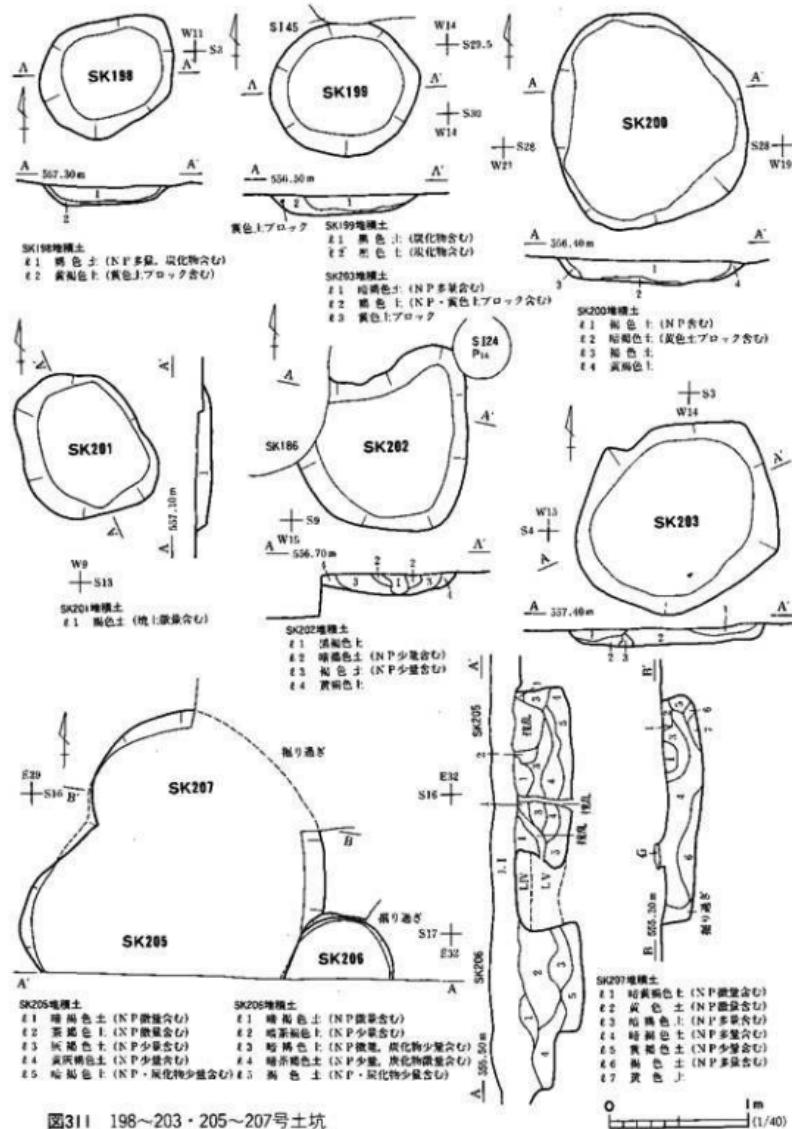


図311 198~203・205~207号土坑

## 第2章 造様と遺物

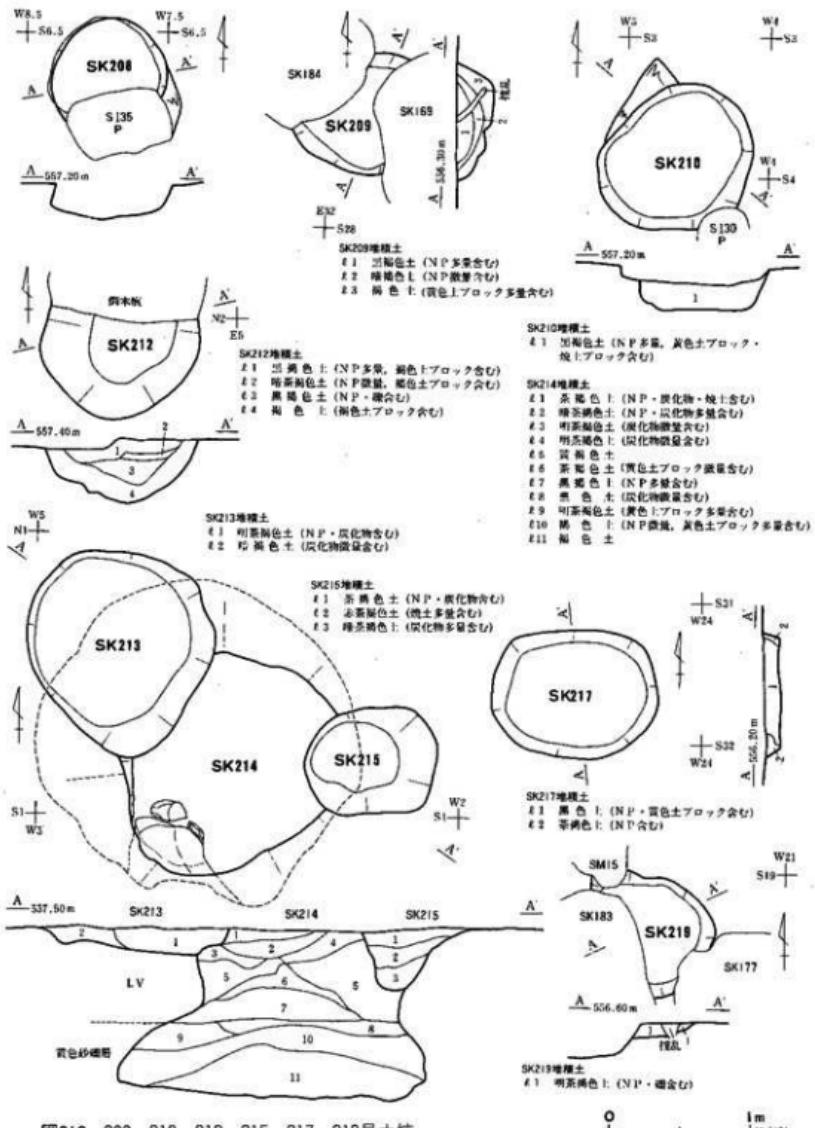


図312 208~210・212~215・217・219号土坑

第3節 土 坑

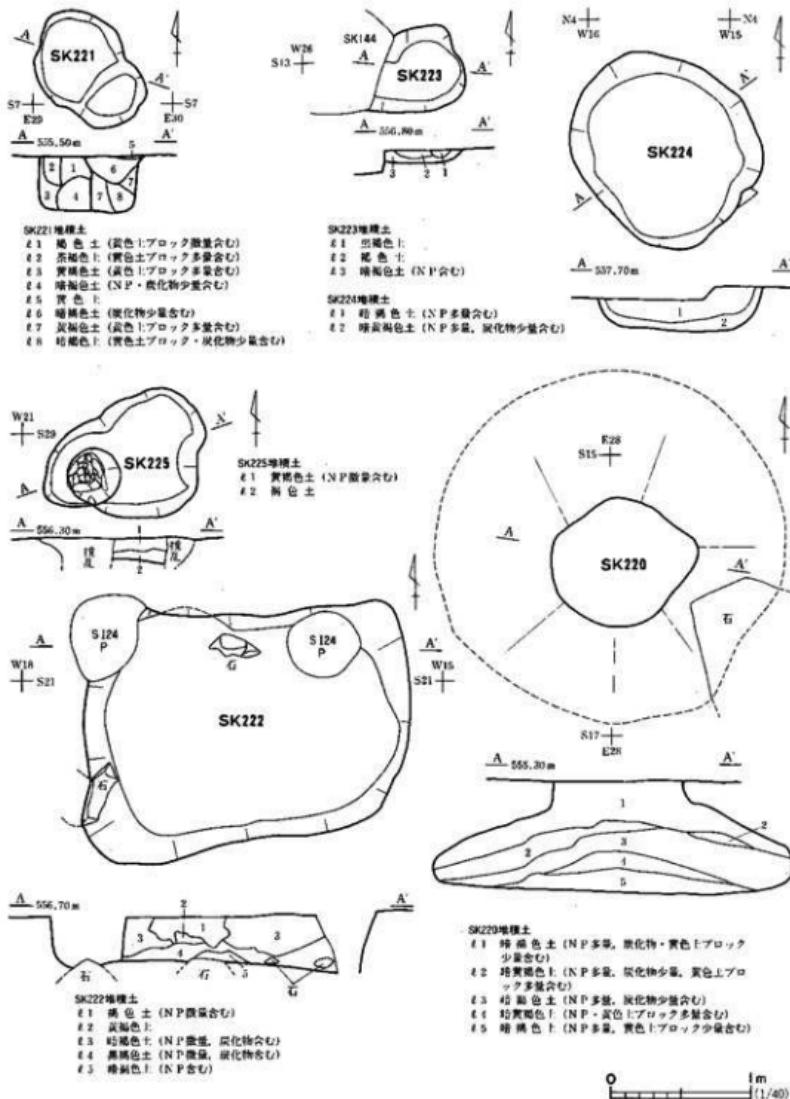


図313 220~225号土坑

## 第2章 遺構と遺物

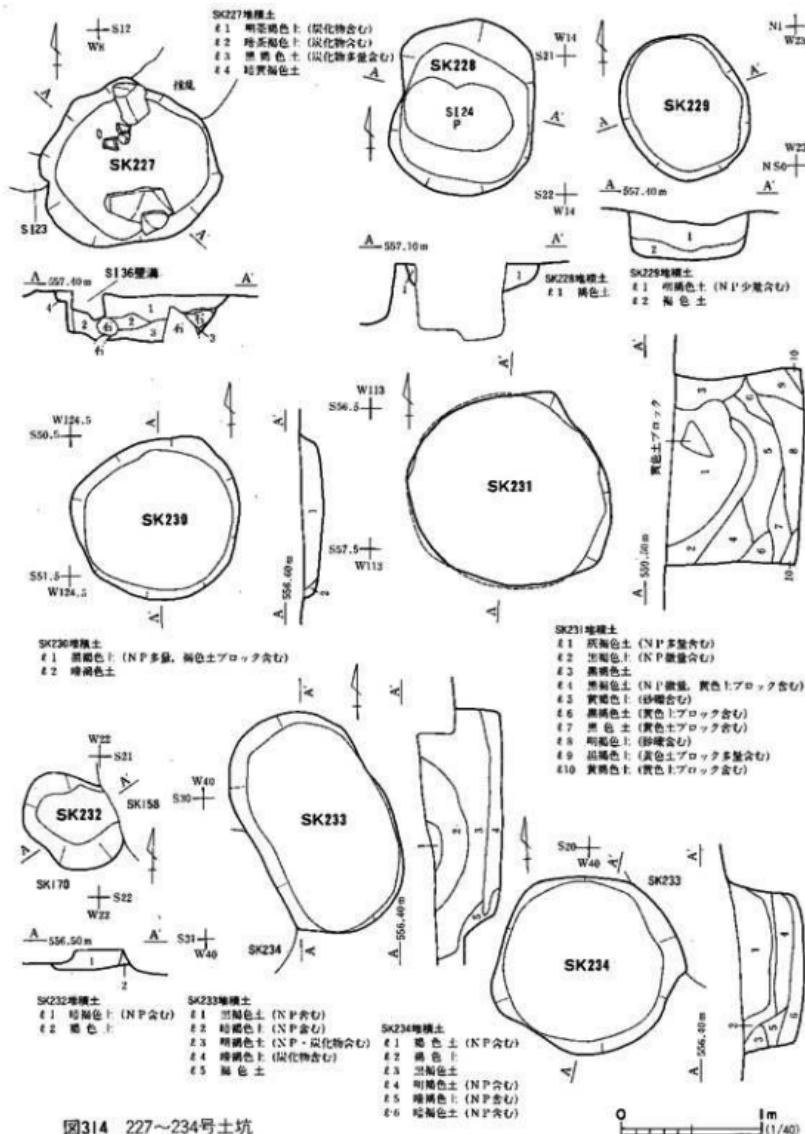
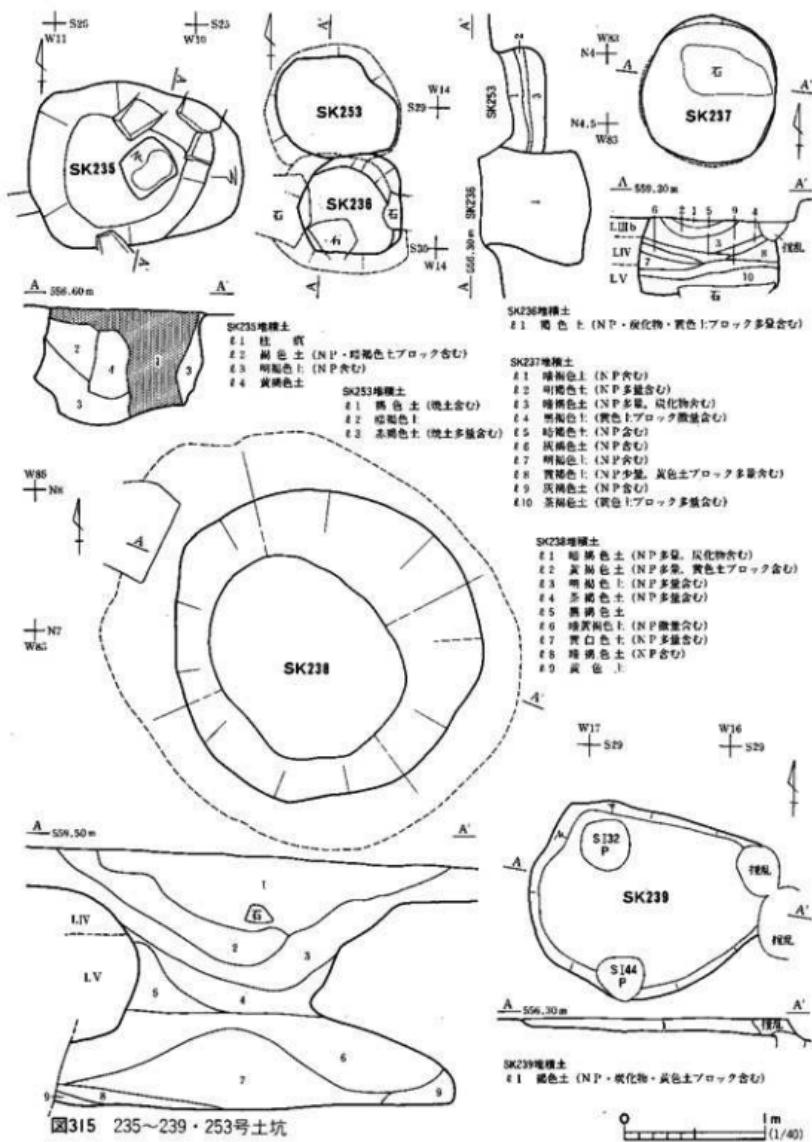


図314 227~234号土坑

### 第3節 土 坑



第2章 遺構と遺物

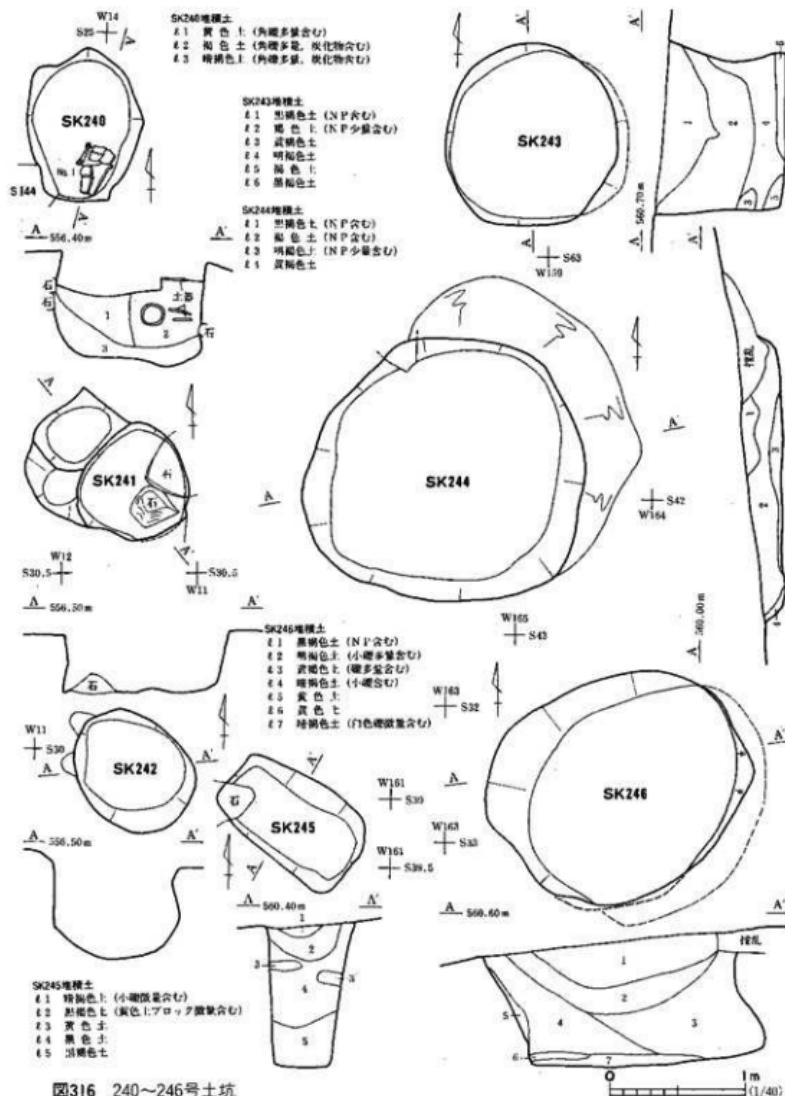


図316 240~246号土坑

第3節 土 坑

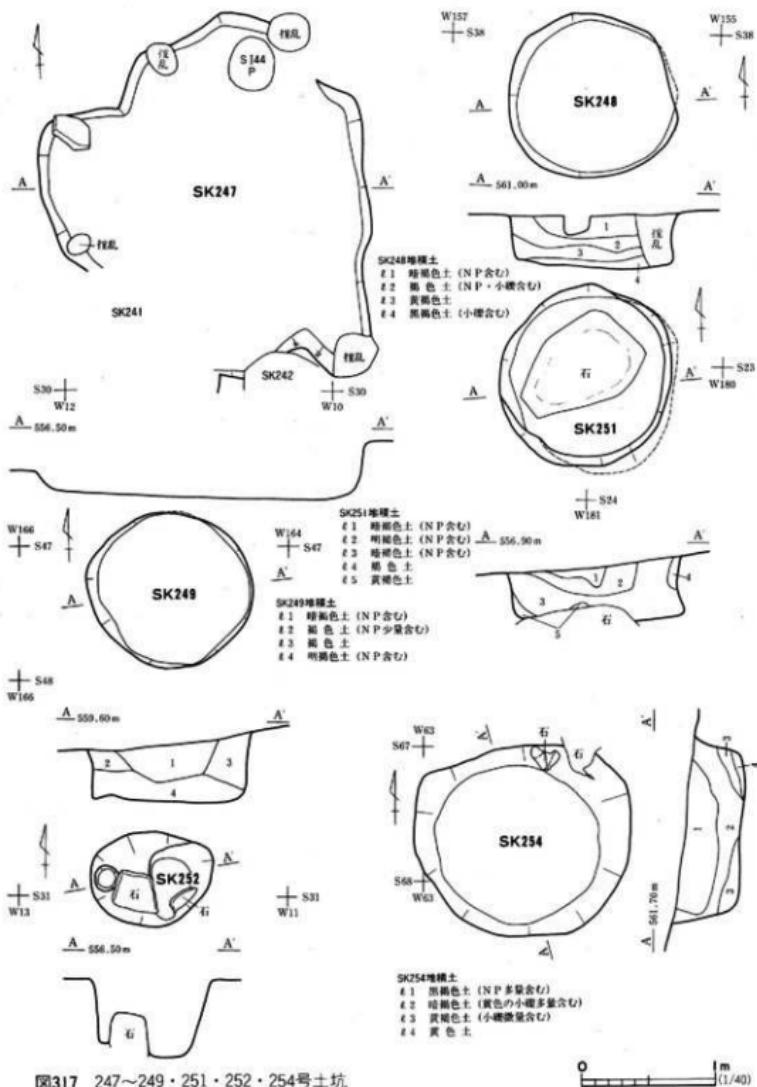


図317 247~249・251・252・254号土坑

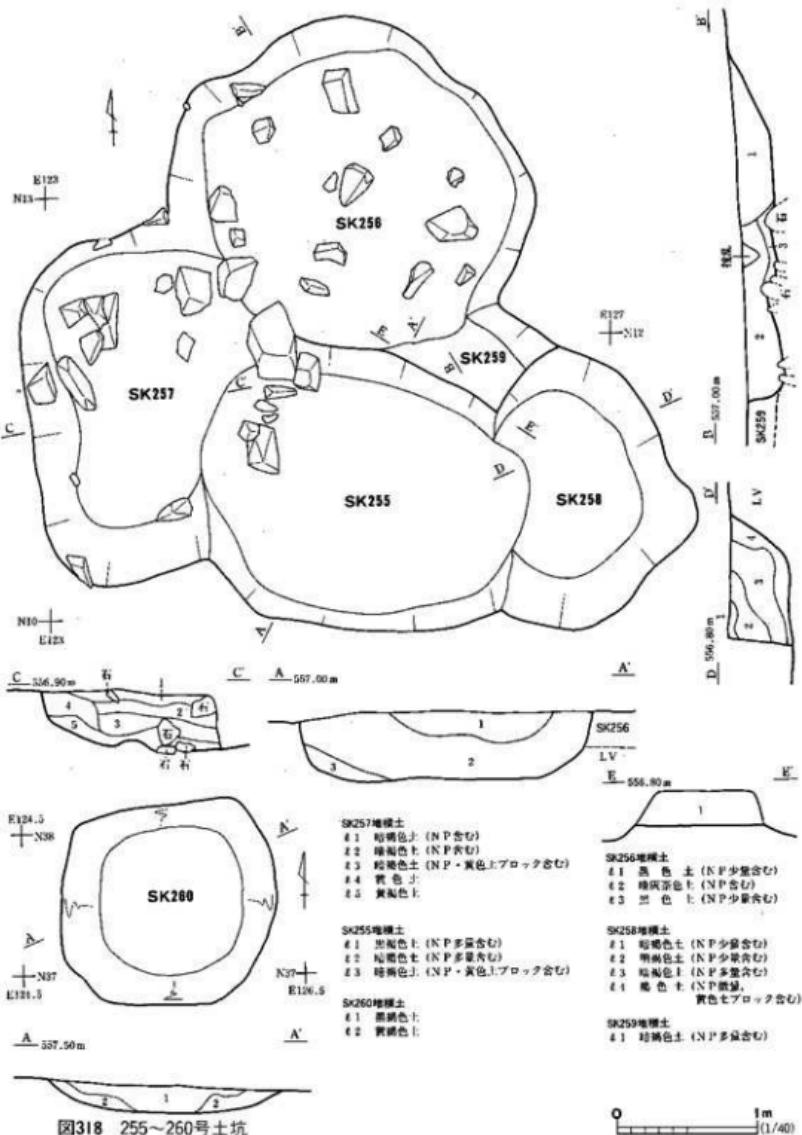


図318 255~260号土坑

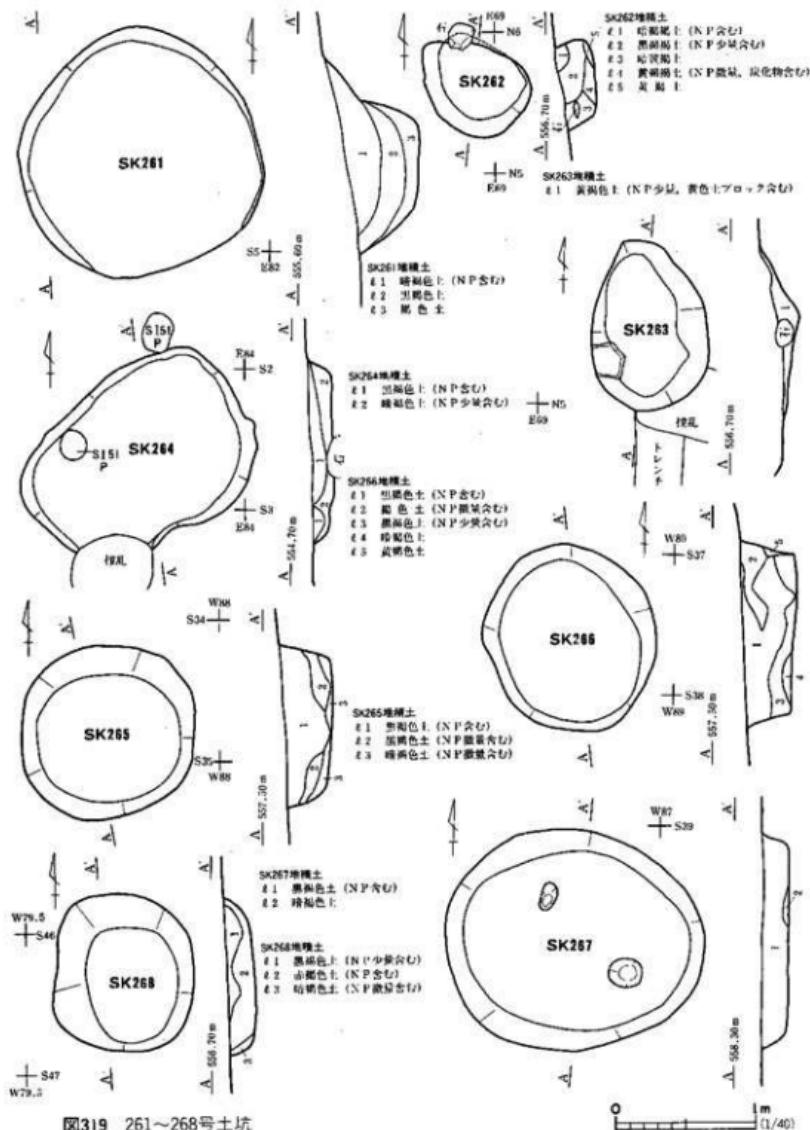


図319 261～268号土坑

第2章 造構と遺物

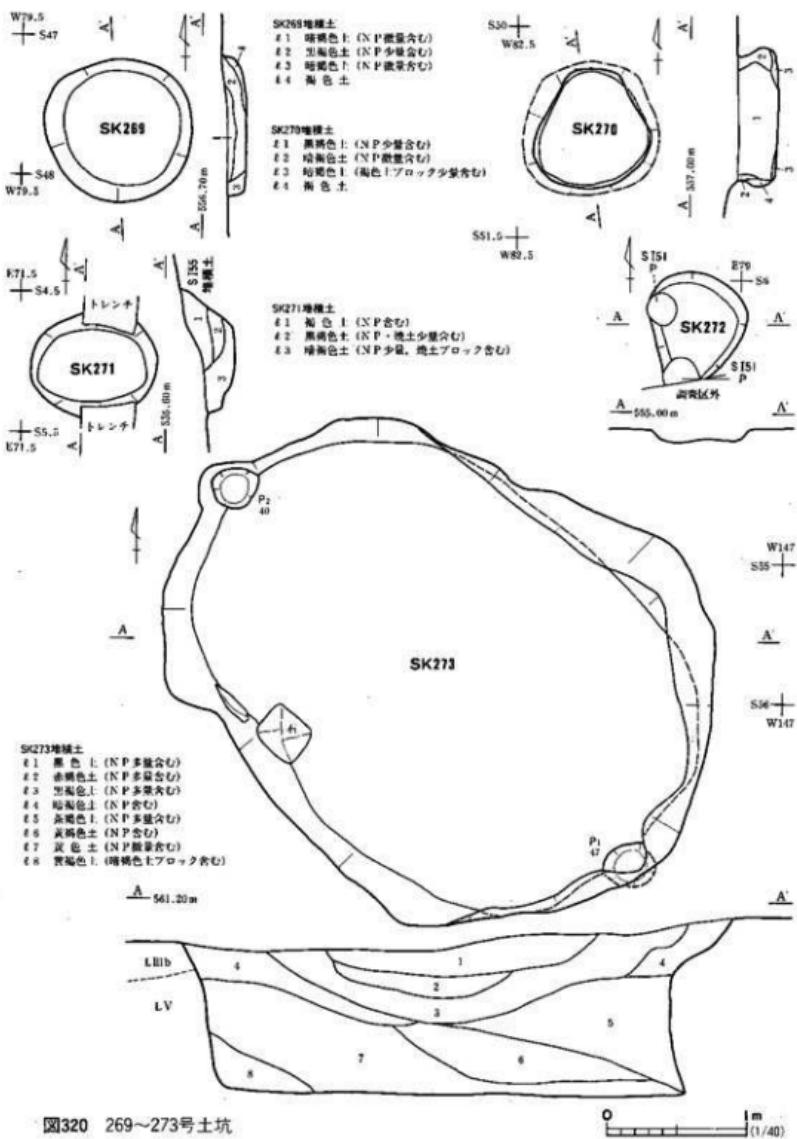
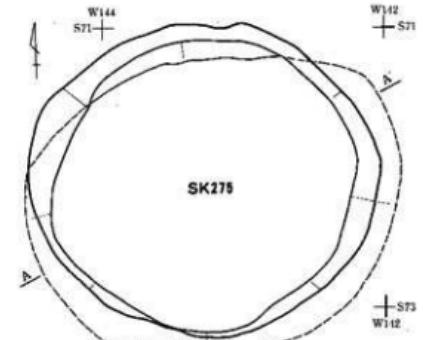
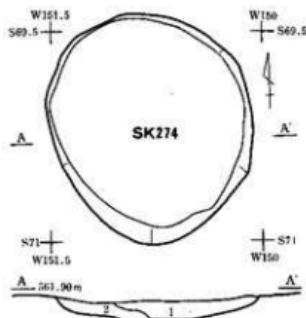
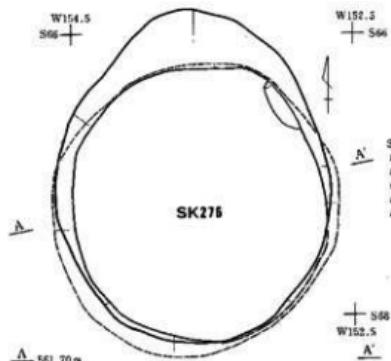
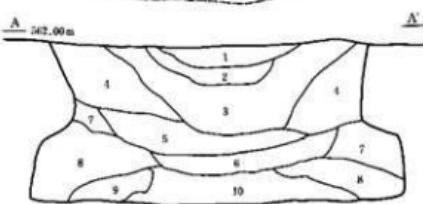


図320 269~273号土坑

第3節 上 坑



SK274地盤土	SK275地盤土
E1 黒褐色土 (NP含む)	E1 黒褐色土
E2 淡褐色土	E2 淡褐色土上
	E3 半褐色土
	E4 黄褐色土
	E5 暗褐色土 (NP含む)
	E6 明褐色土 (NP含む)
	E7 淡褐色土
	E8 明褐色土
	E9 淡褐色土
	E10 明褐色土 (NP多量含む)



SK276地盤土  
E1 黒褐色土 (NP含む)  
E2 淡褐色土 (NP含む)  
E3 黑褐色土 (NP少量含む)  
E4 黑褐色土 (NP含む)  
E5 淡褐色土

W152.5  
S66  
W152.5  
S66

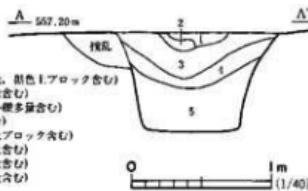
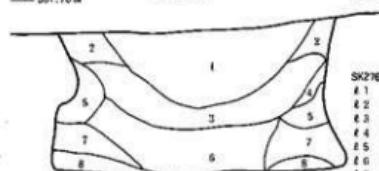
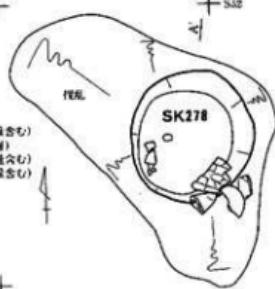


図321 274～276・278号土坑



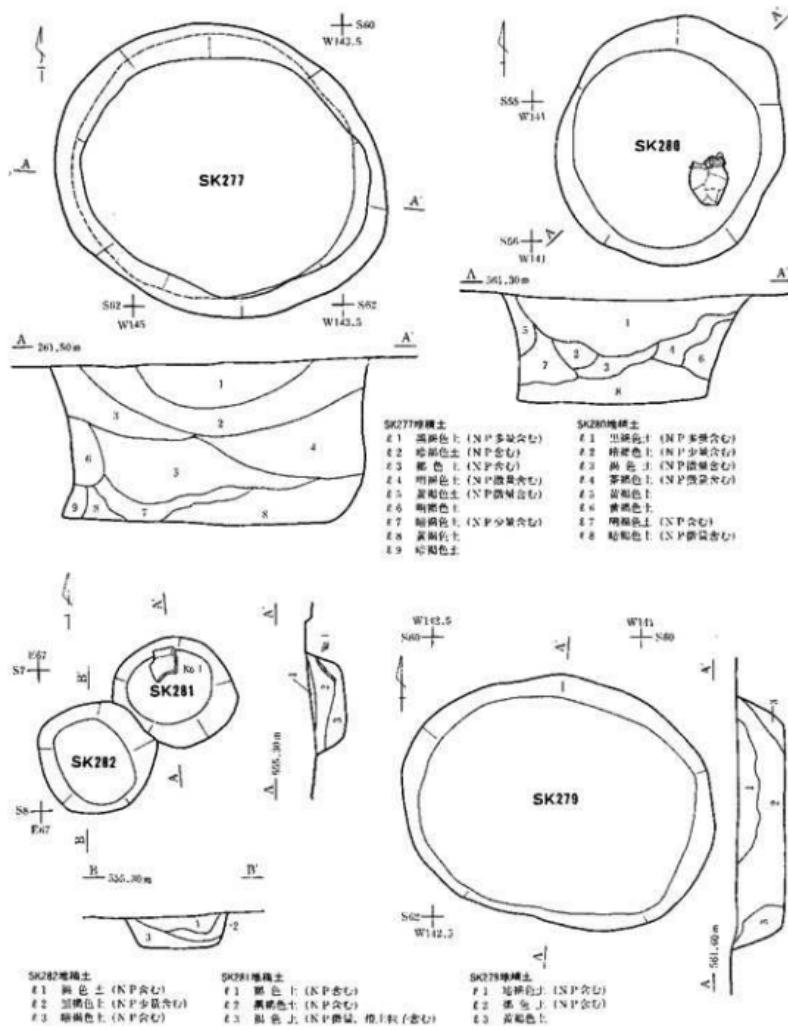


図322 277・279~282号土坑



第3節 土 坑

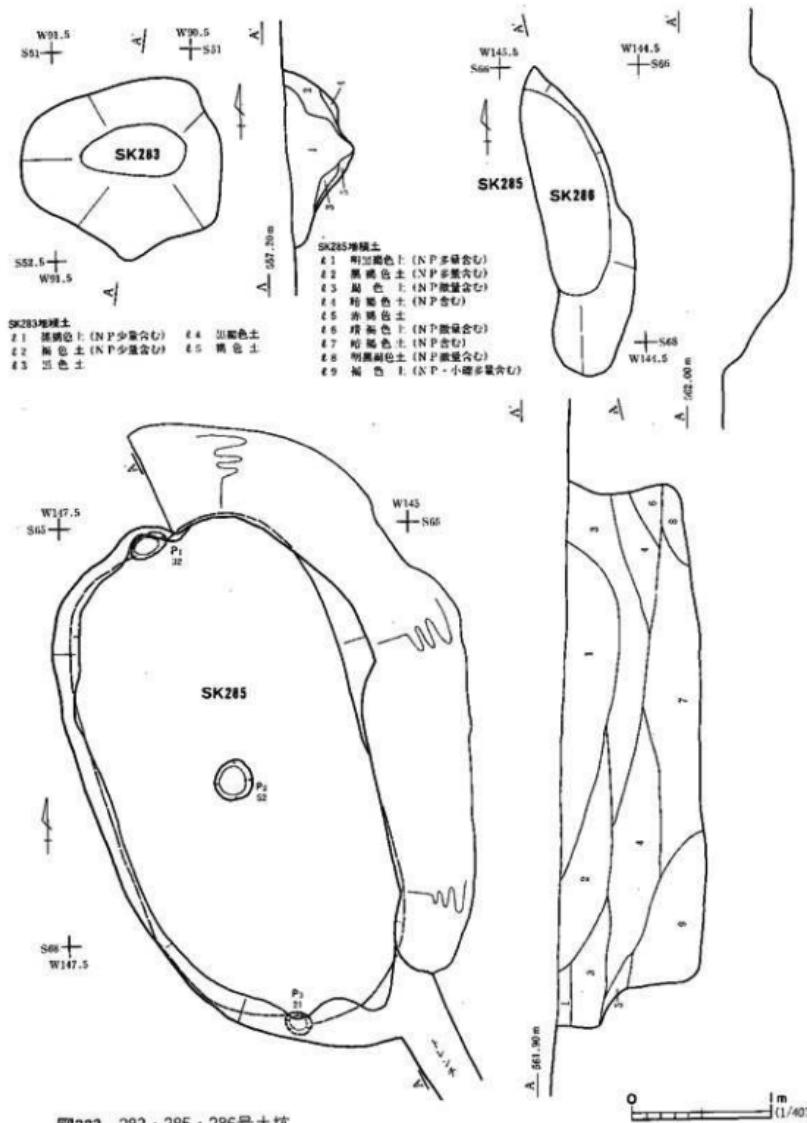


図323 283・285・286号土坑

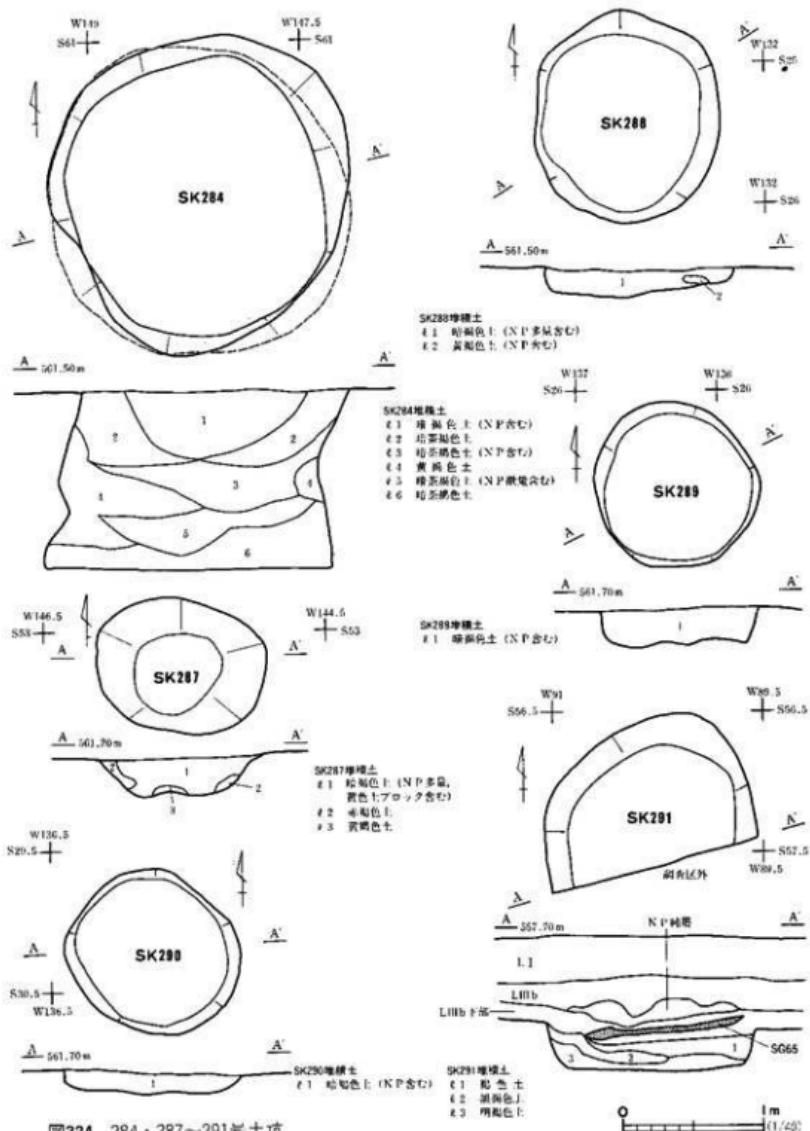


図324 284・287~291号土坑

第3節 土 坑

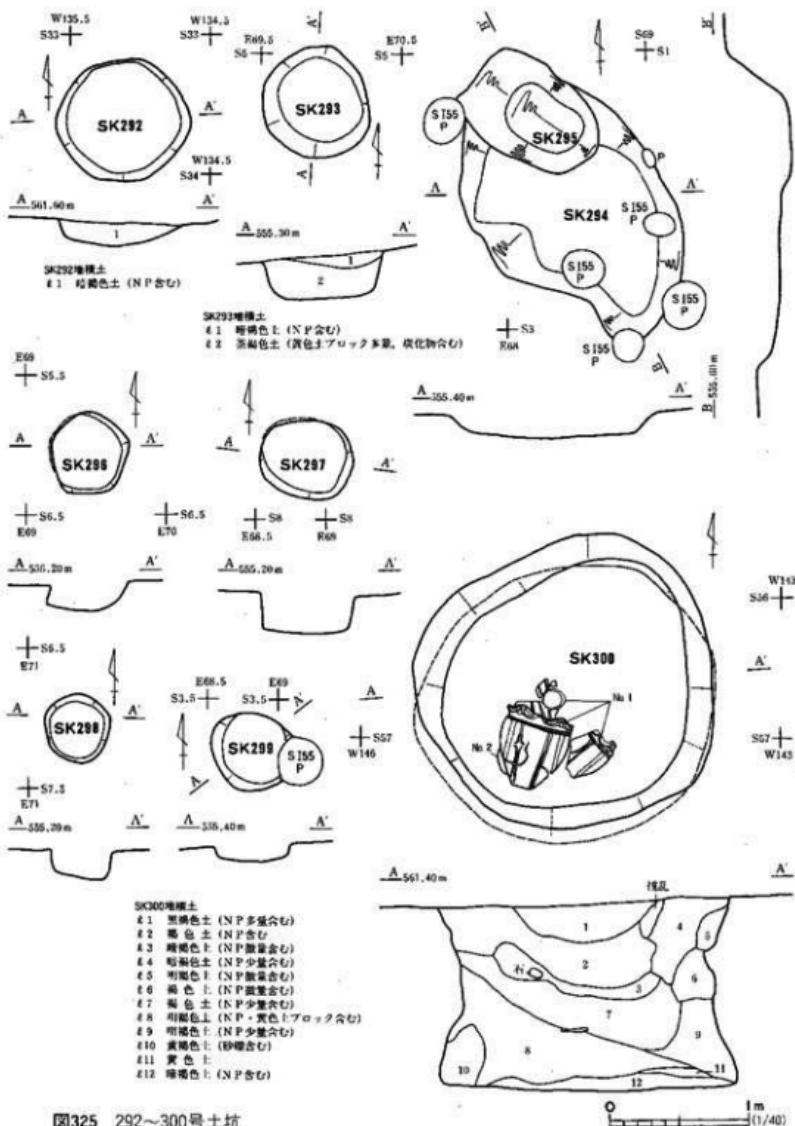


図325 292~300号土坑

第2章 造構と遺物

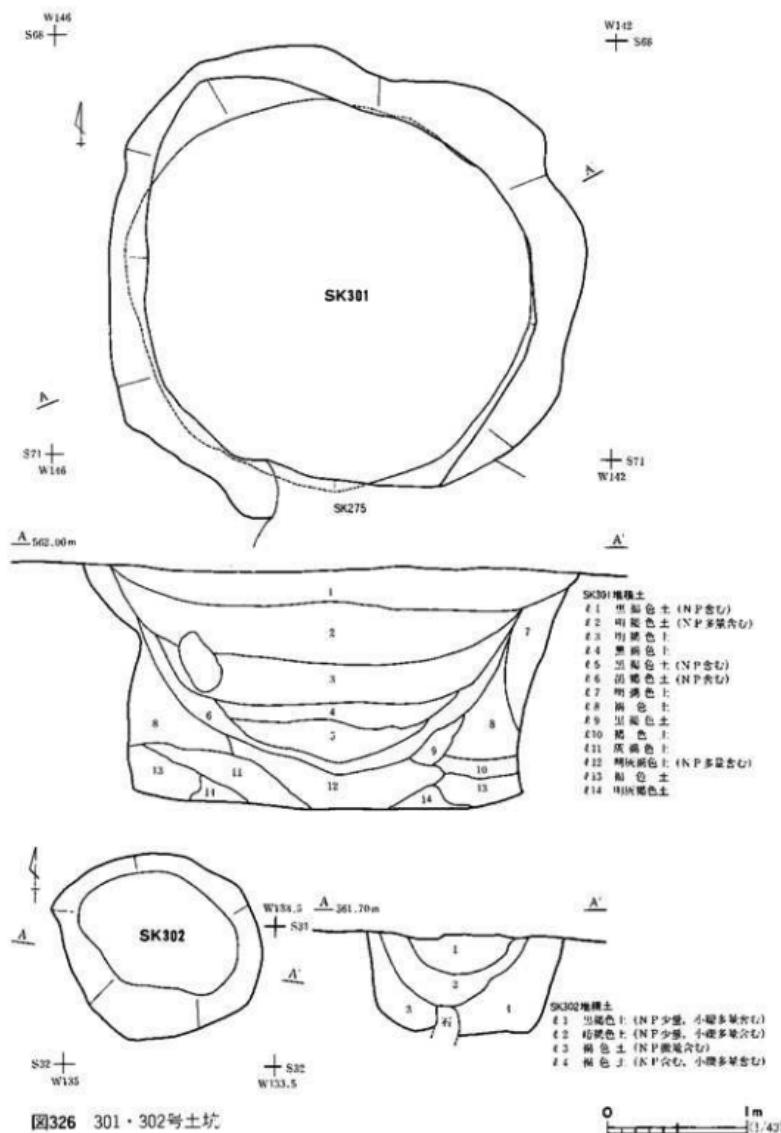


図326 301・302号土坑

第3節 士 坑

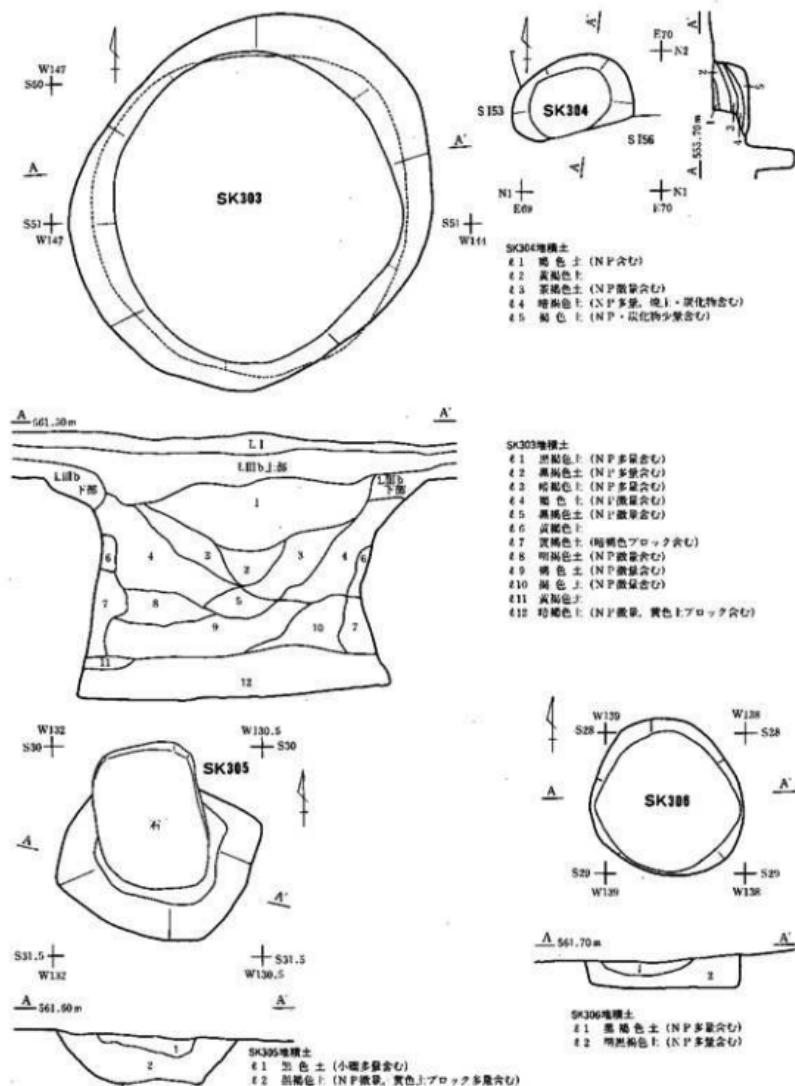


図327 303~306号土坑

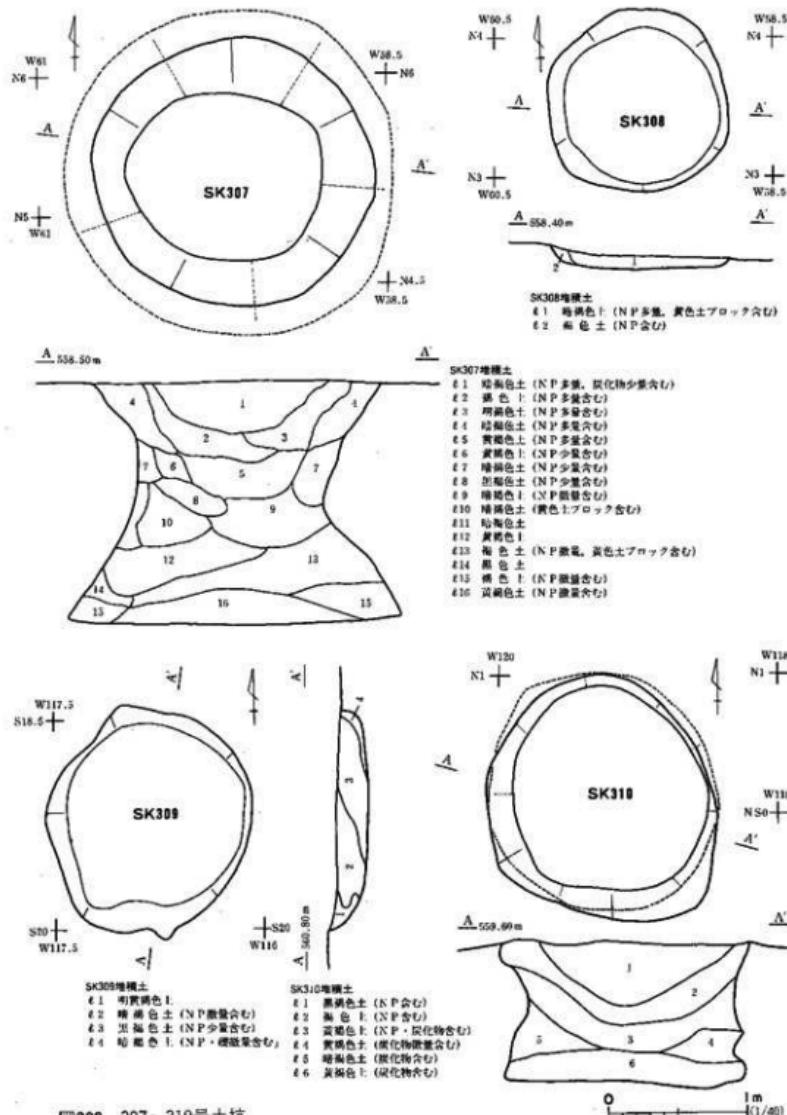


図328 307~310号土坑

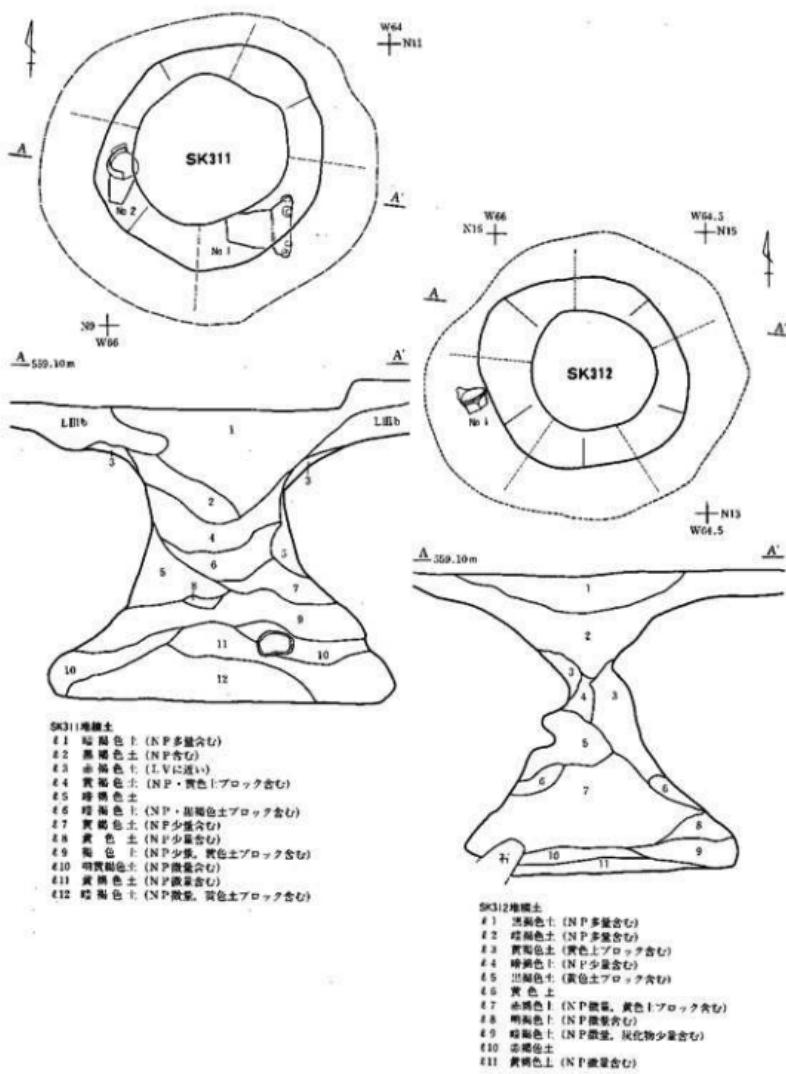


図329 311・312号土坑



第2章 造構と遺物

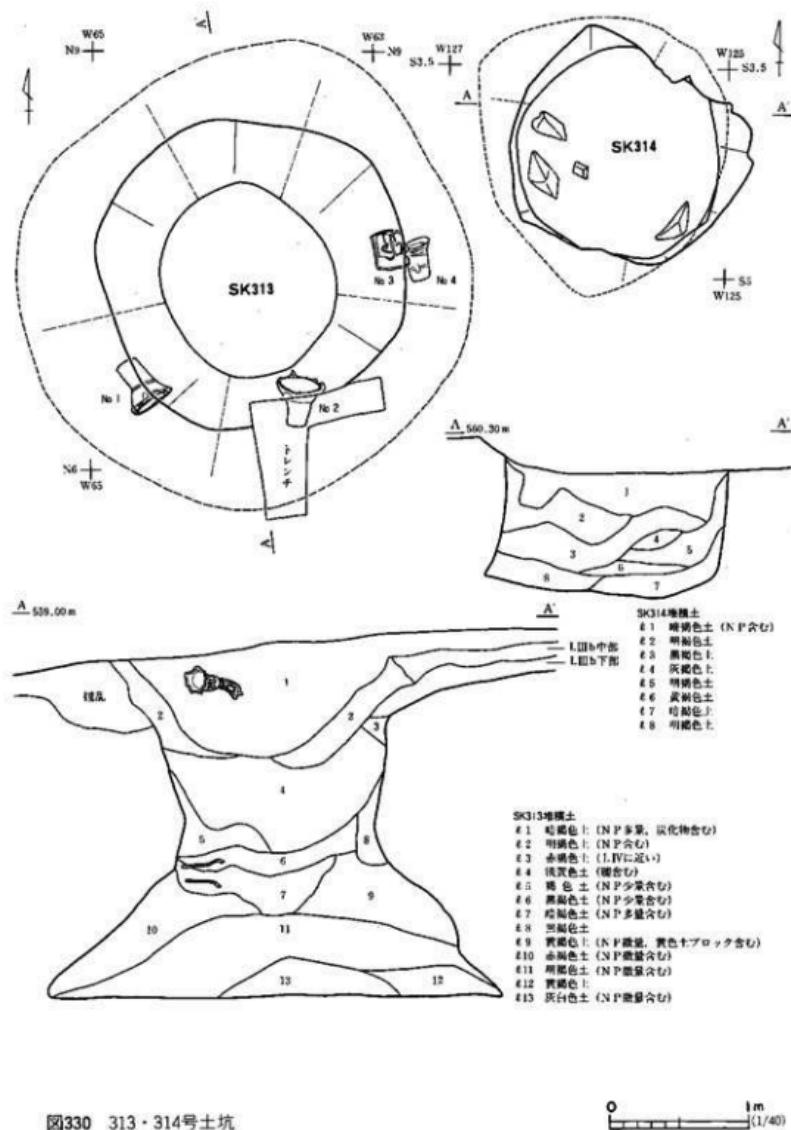


図330 313・314号土坑

第3節 土坑

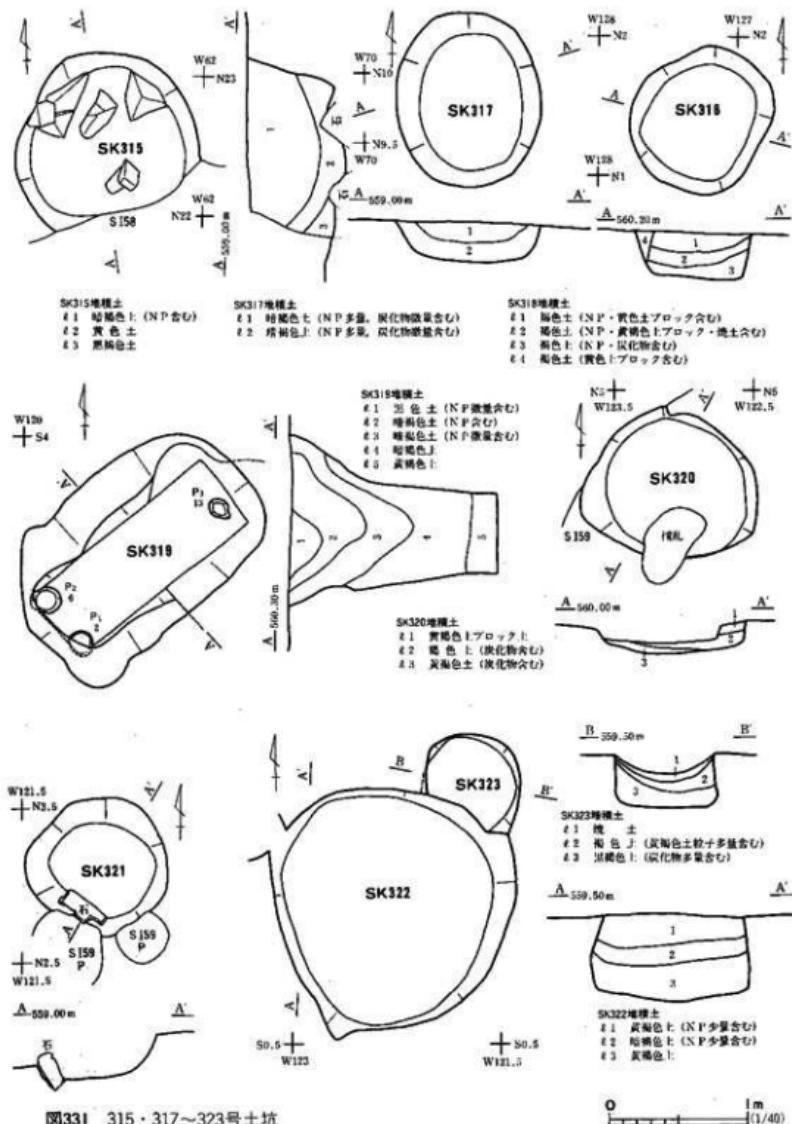
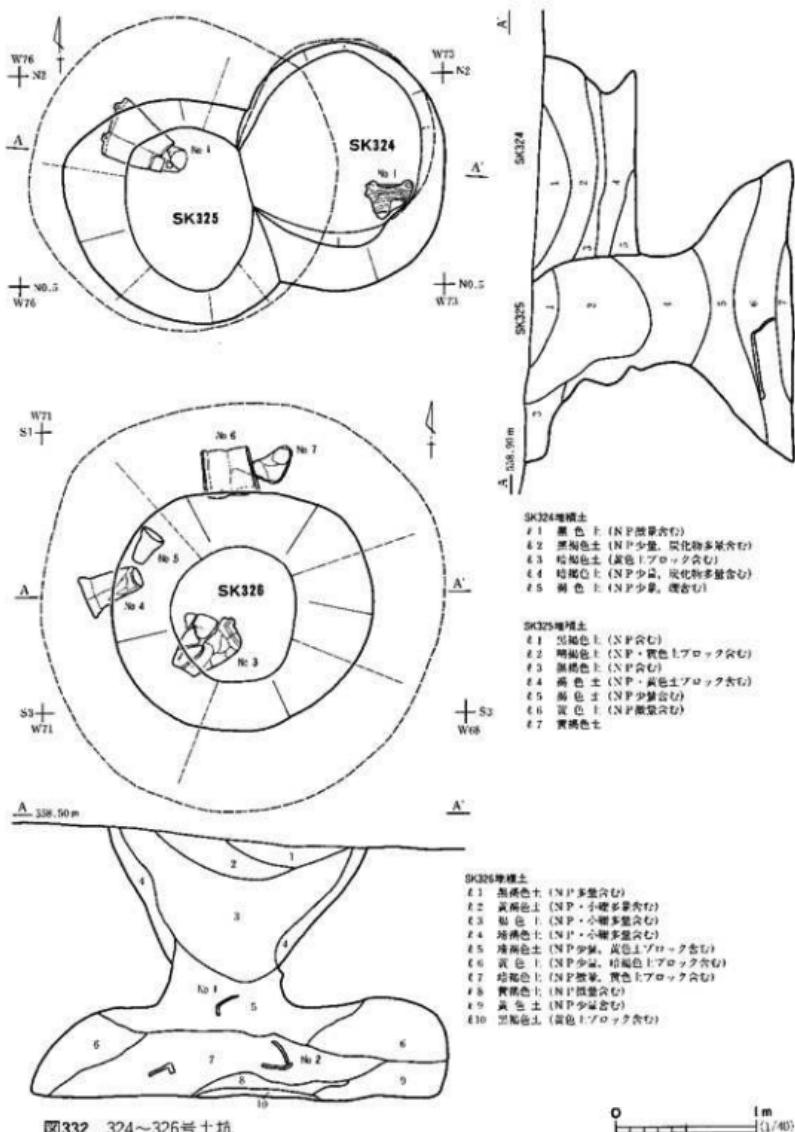


図331 315・317~323号土坑



第3節 土 坑

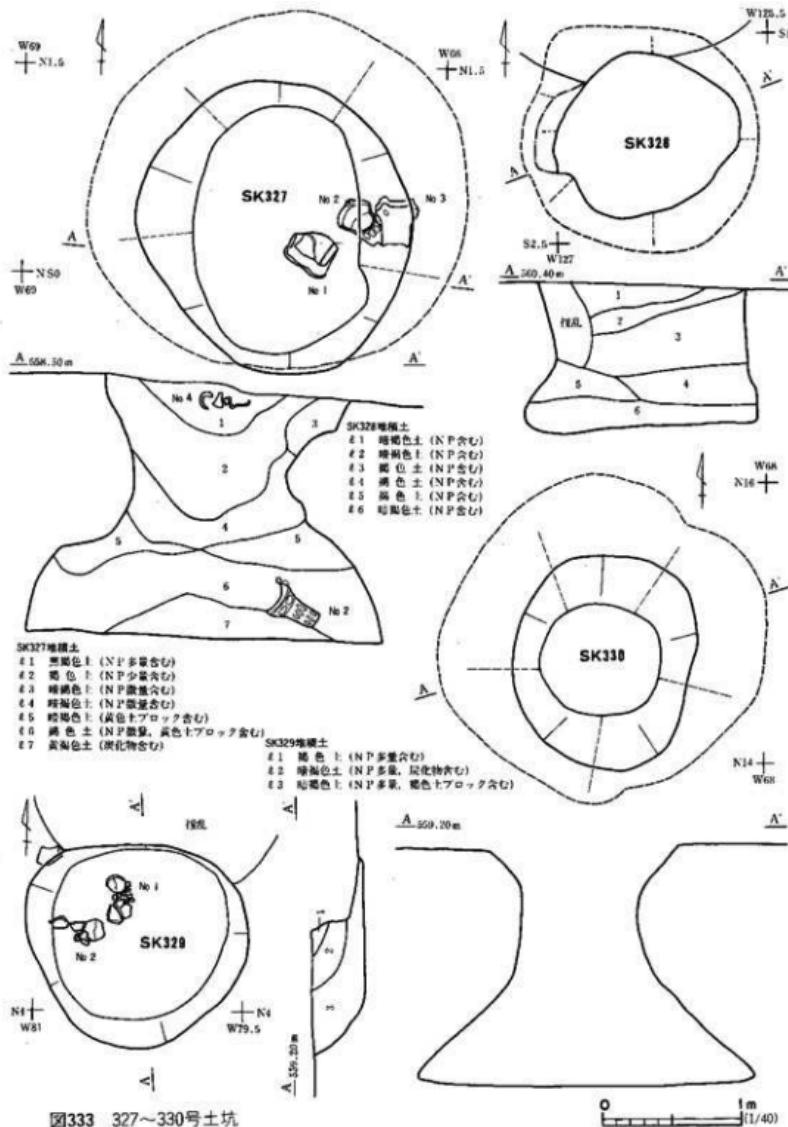


図333 327～330号土坑。

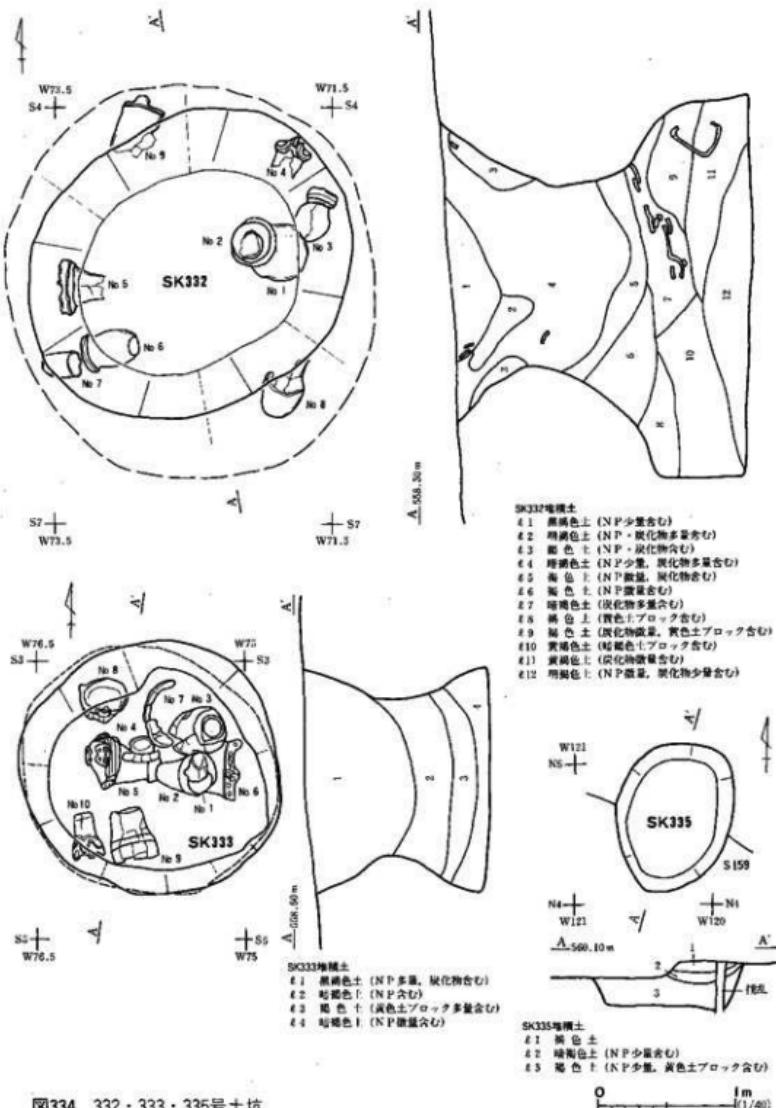


図334 332・333・335号土坑

第3節 土 坑

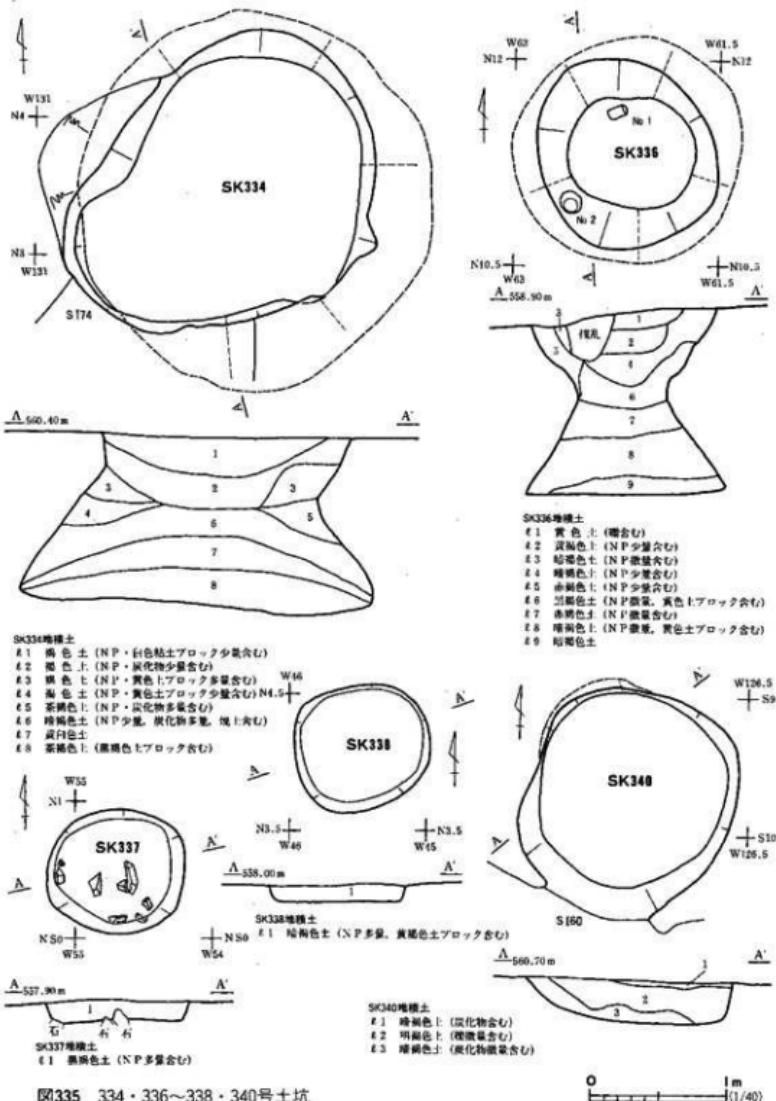


図335 334・336～338・340号土坑

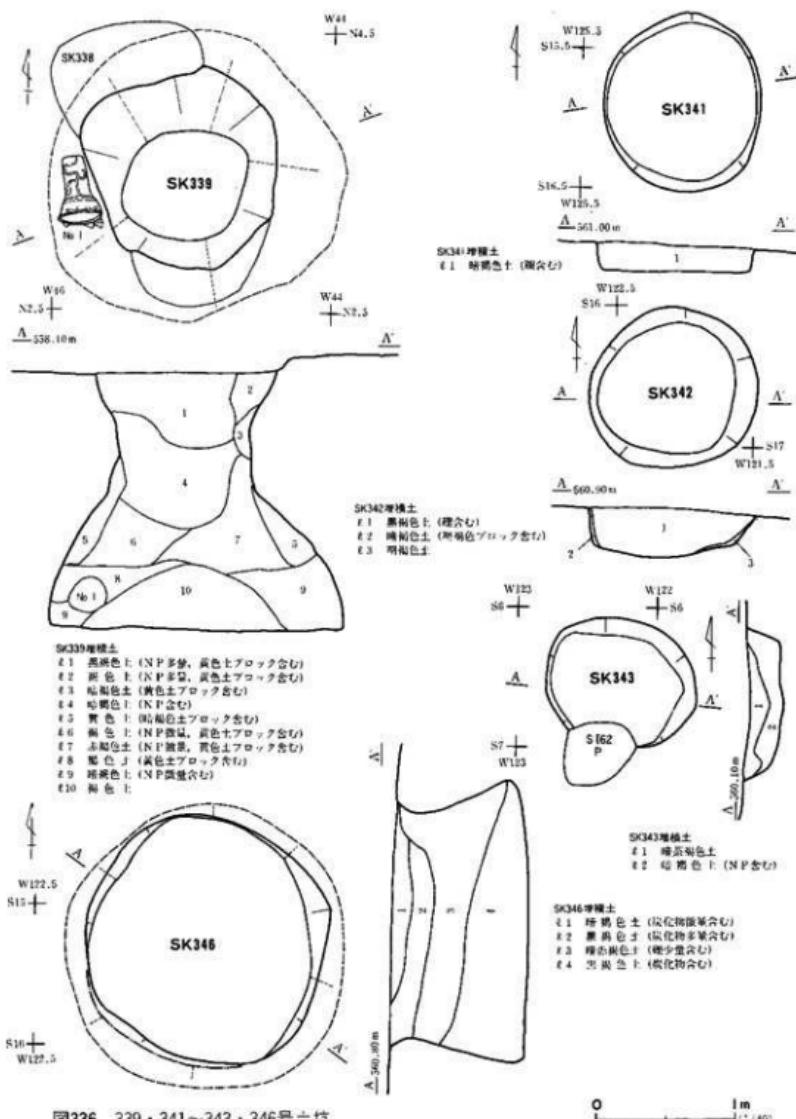


図336 339・341~343・346号土坑

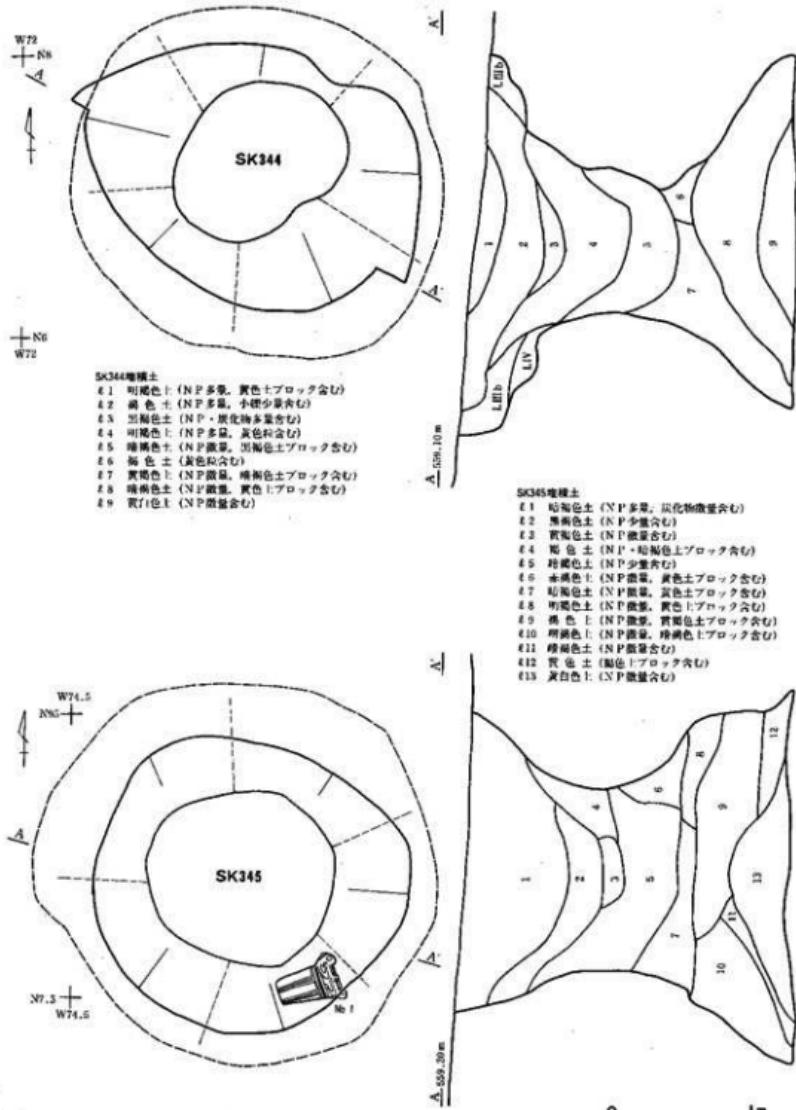


図337 344・345号土坑

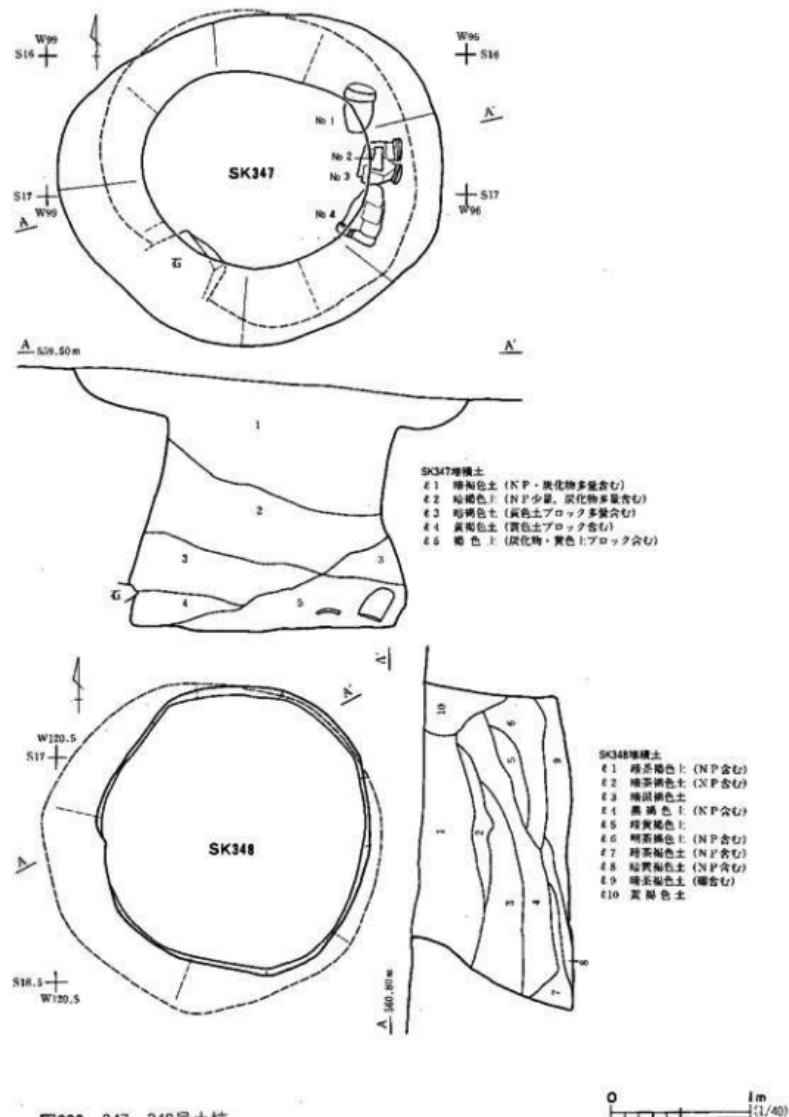


図338 347・348号土坑

第3節 土 坑

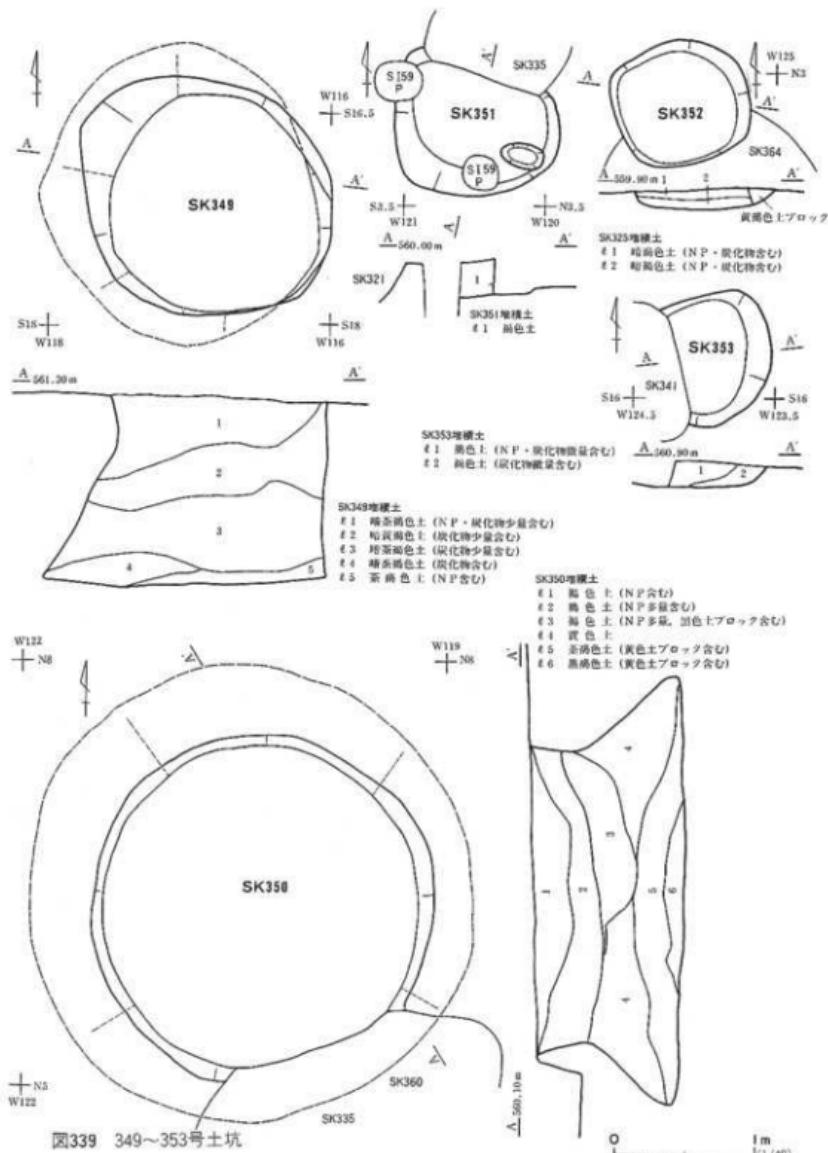


図339 349～353号土坑

## 第2章 遺構と遺物

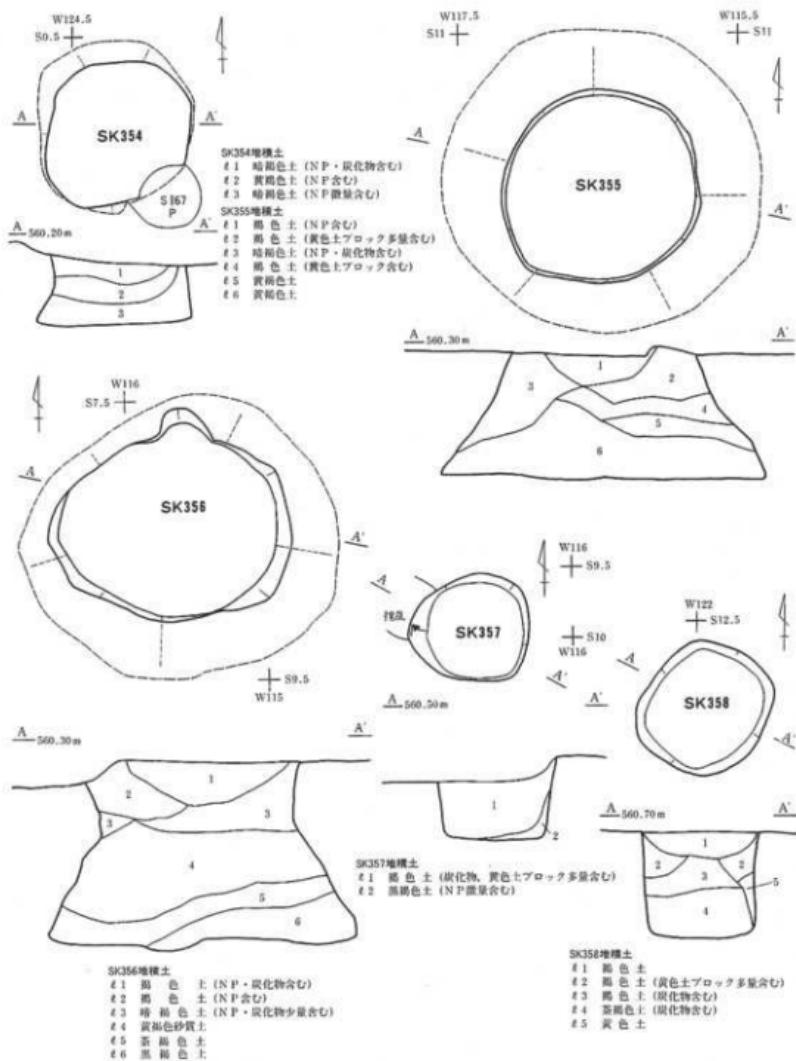


図340 354～358号土坑



第3節 土 坑

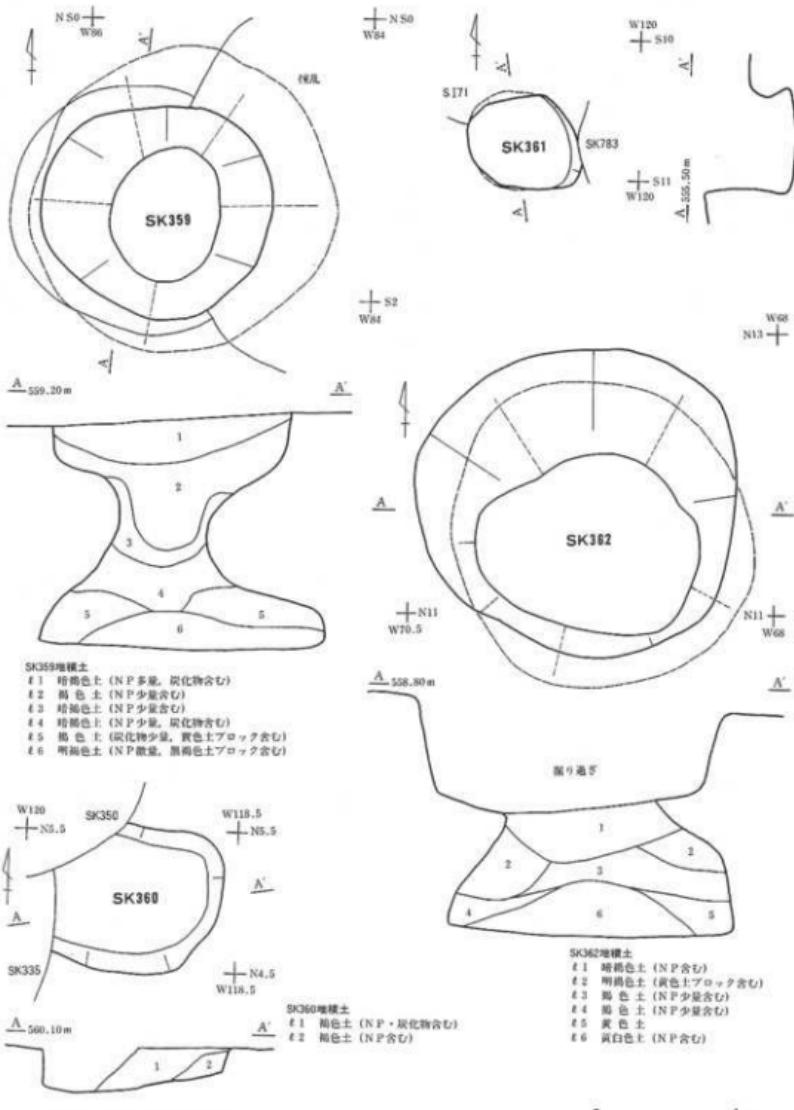


図341 359~362号土坑

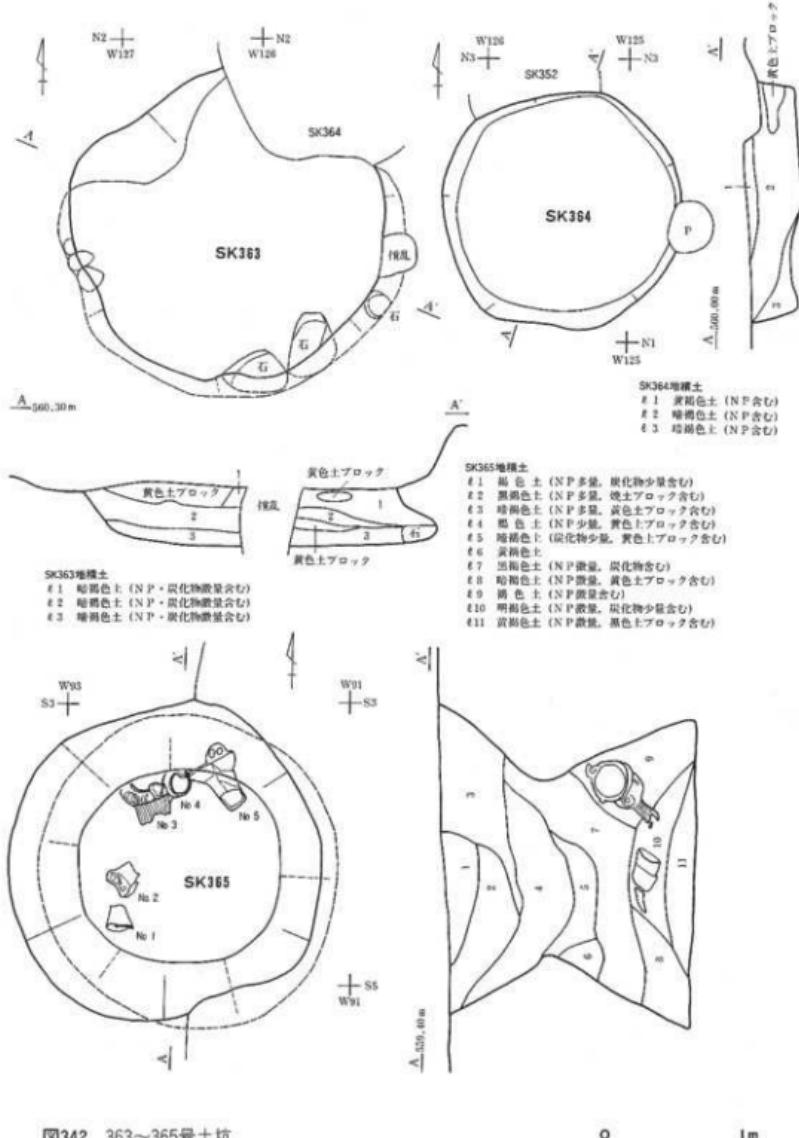


図342 363~365号土坑

第三節 土 坑

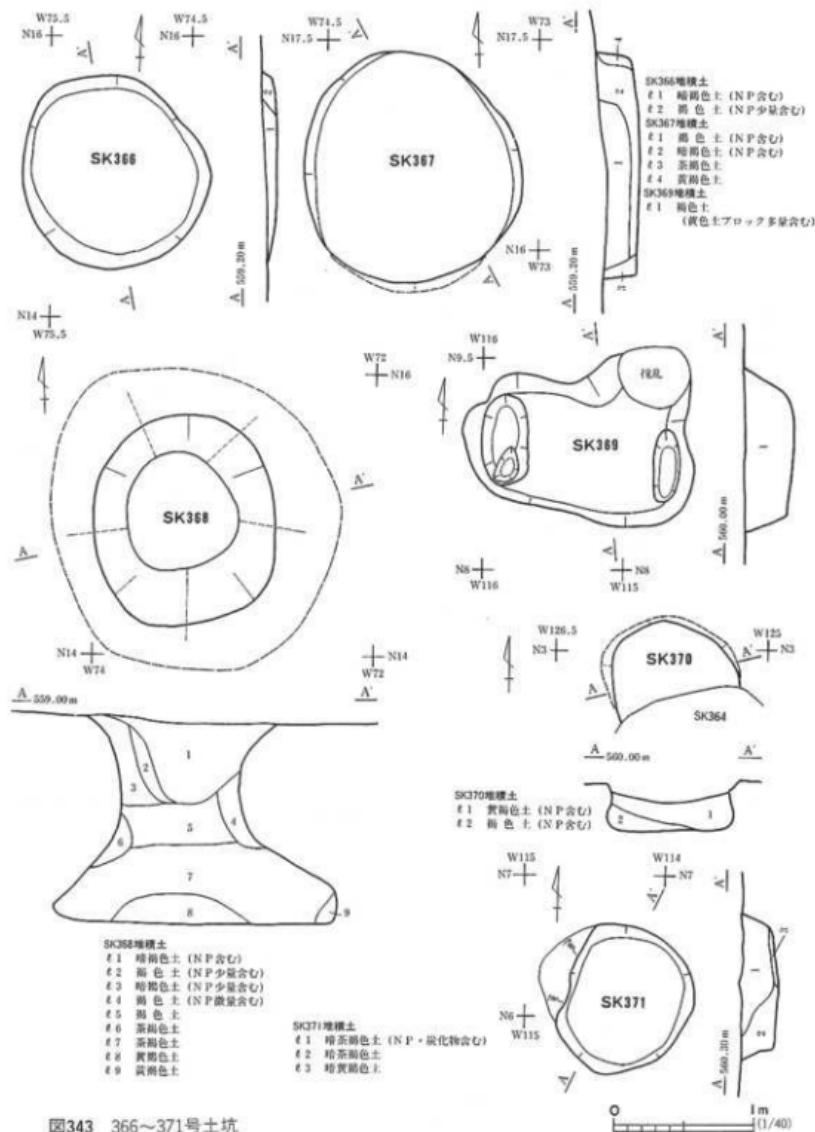


図343 366~371号土坑

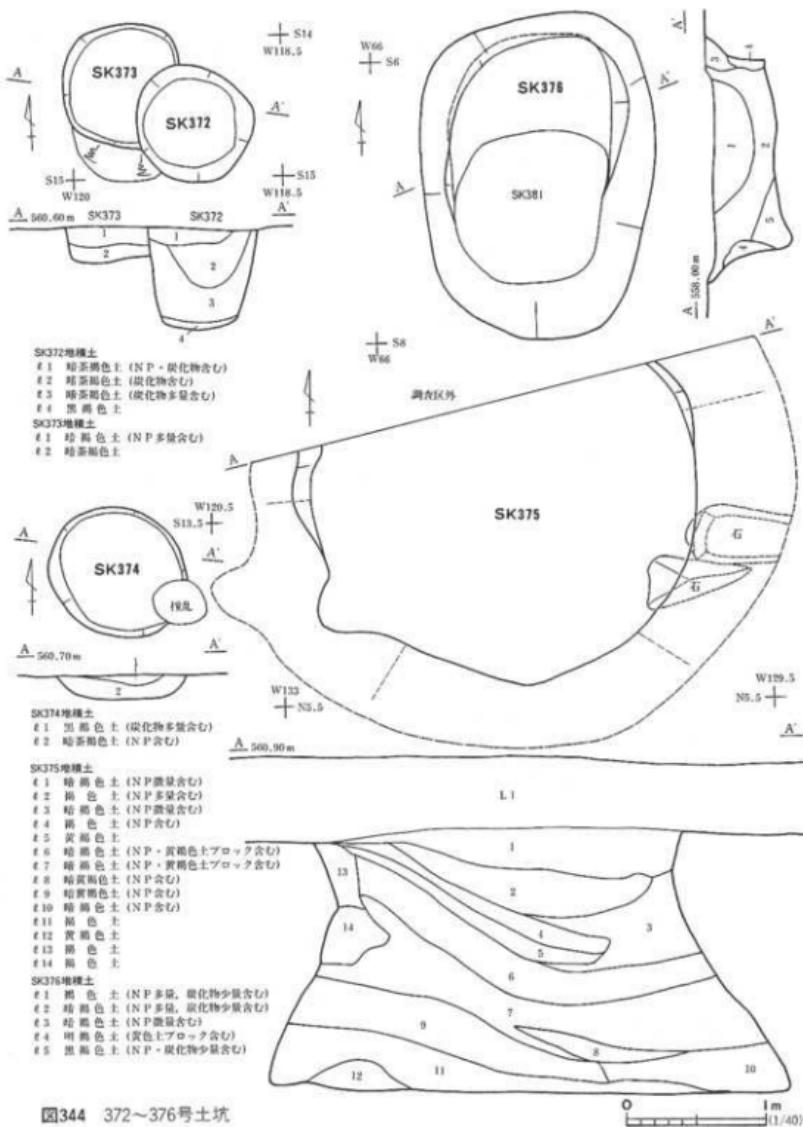


図344 372~376号土坑

### 第3節 土坑

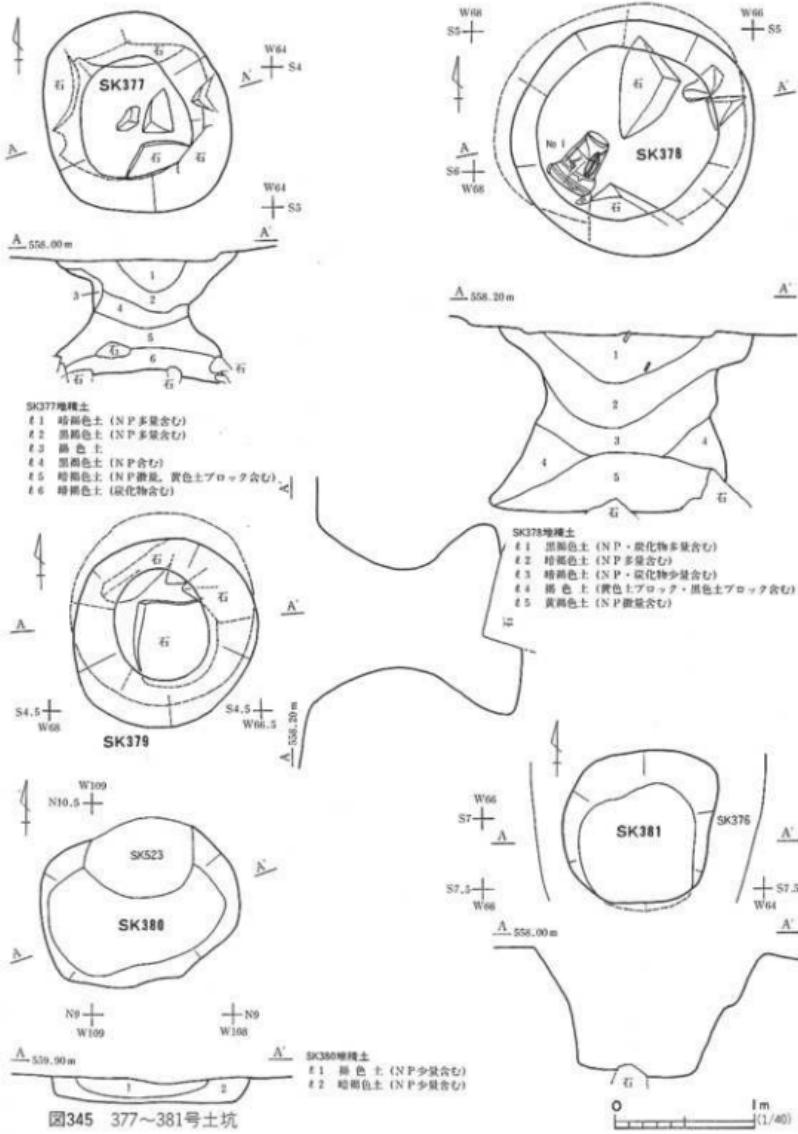


図345 377~381号土坑

第2章 遺構と遺物

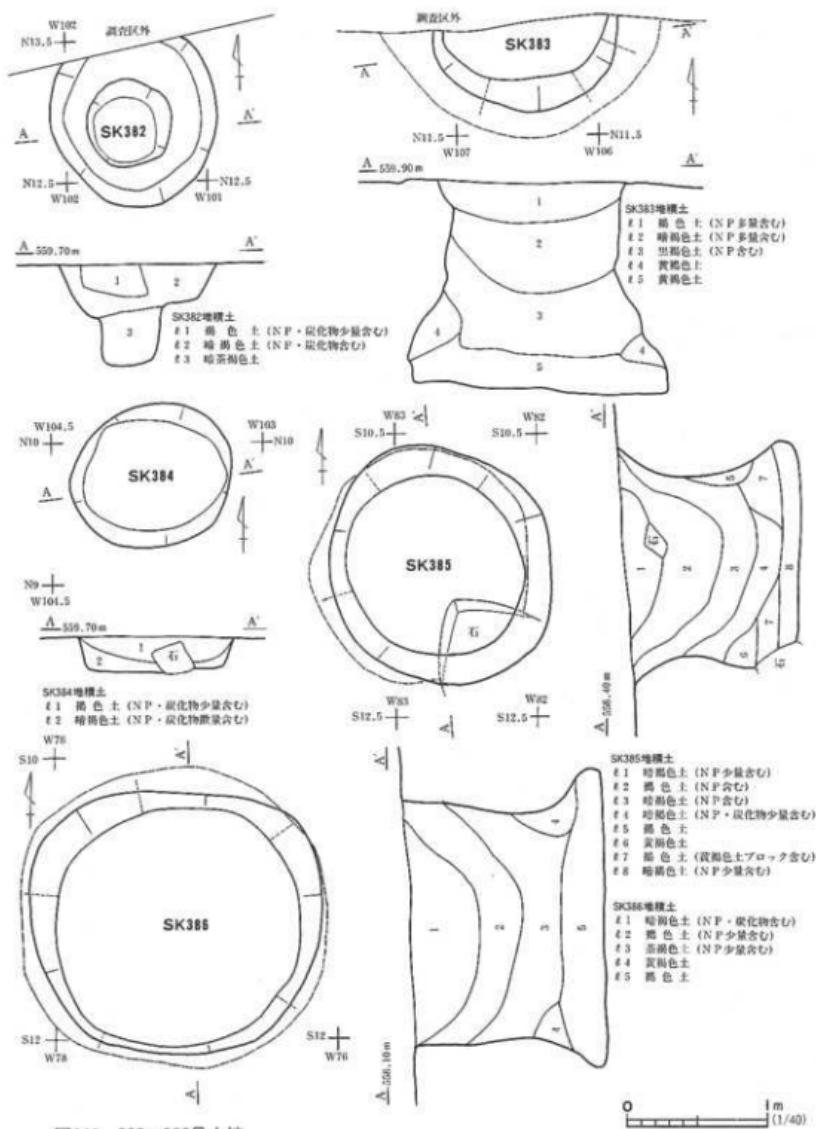


図346 382~386号土坑

第3節 土 坑

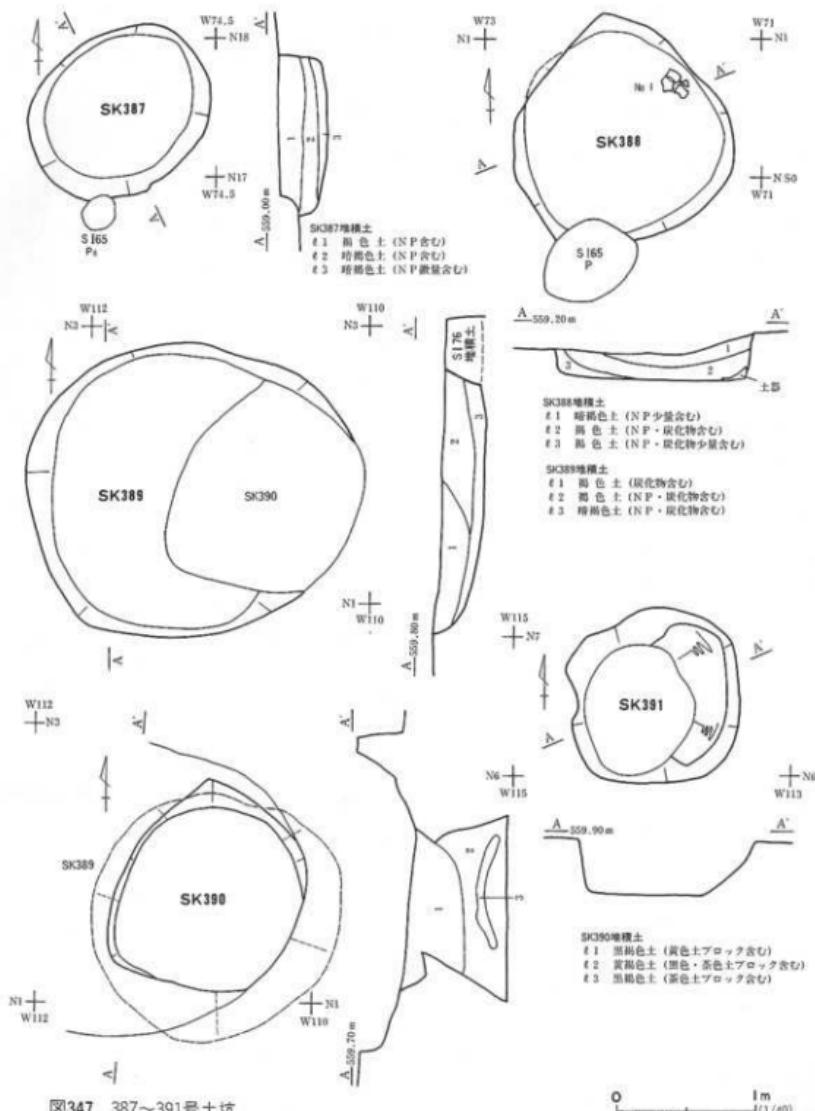


図347 387~391号土坑

第2章 遺構と遺物

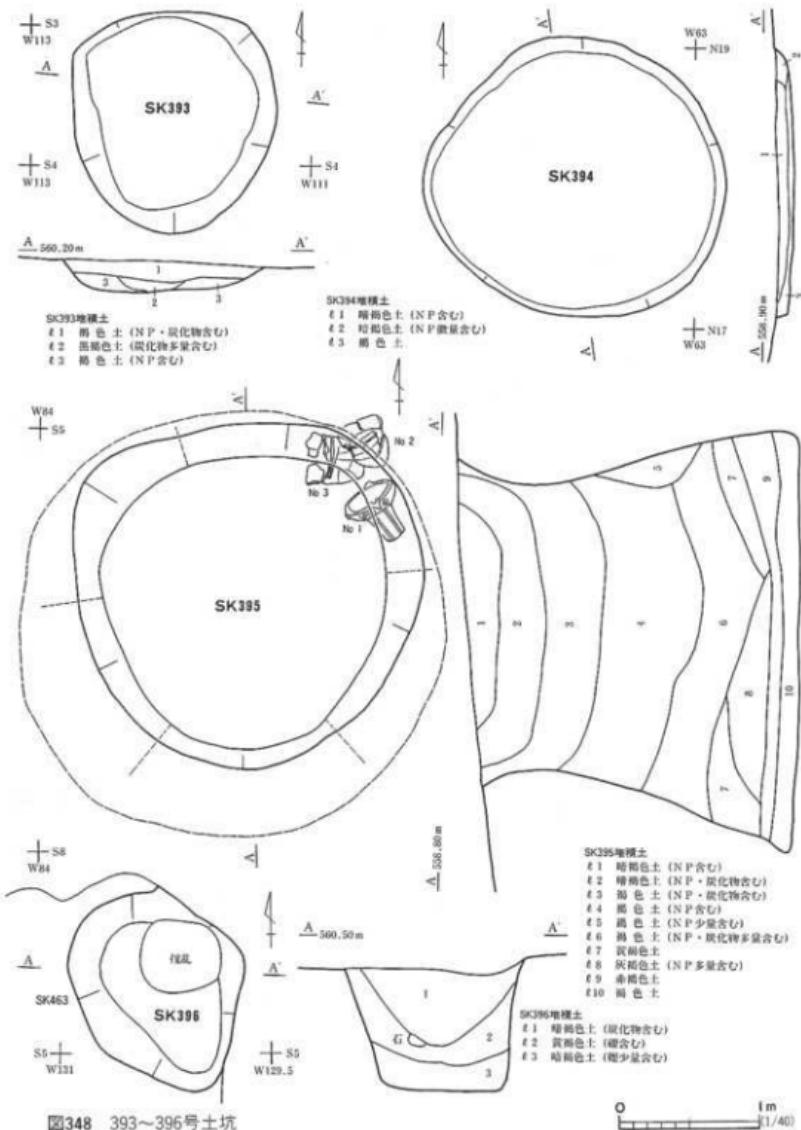
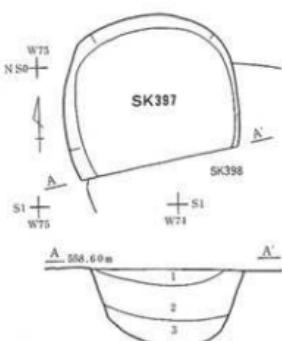


図348 393~396号坑



SK397地盤土  
E1 稀褐色土  
E2 稀褐色土 (NP・炭化物少量含む)  
E3 黑褐色土 (NP・炭化物微量含む)

## SK398地盤土

- E1 稀褐色土 (NP少量含む)
- E2 黑褐色土
- E3 黑褐色土
- E4 稀褐色土 (NP・炭化物含む)
- E5 黑褐色土
- E6 稀褐色土
- E7 黑褐色土

## SK399地盤土

- E1 黑褐色土 (NP微量含む)
- E2 黑褐色土
- E3 黑褐色土
- E4 黑褐色土
- E5 黑褐色土
- E6 稀褐色土 (NP少量含む)
- E7 稀褐色土
- E8 黑褐色土
- E9 黑褐色土
- E10 稀褐色土
- E11 稀褐色土

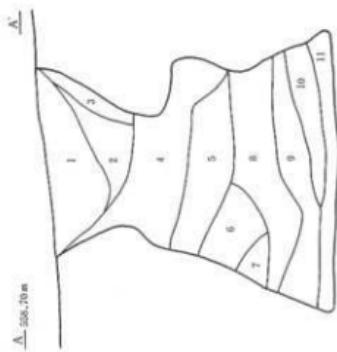
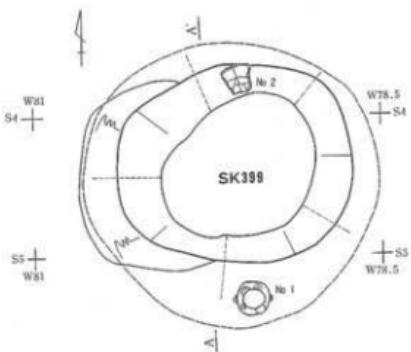
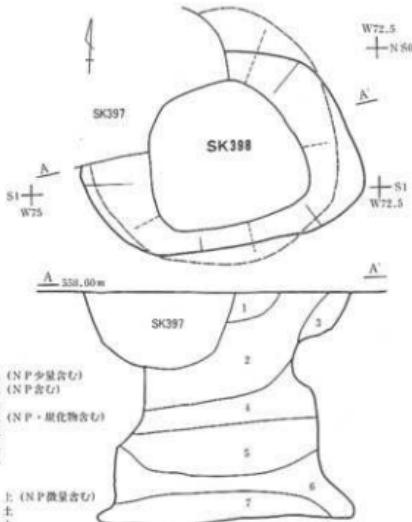
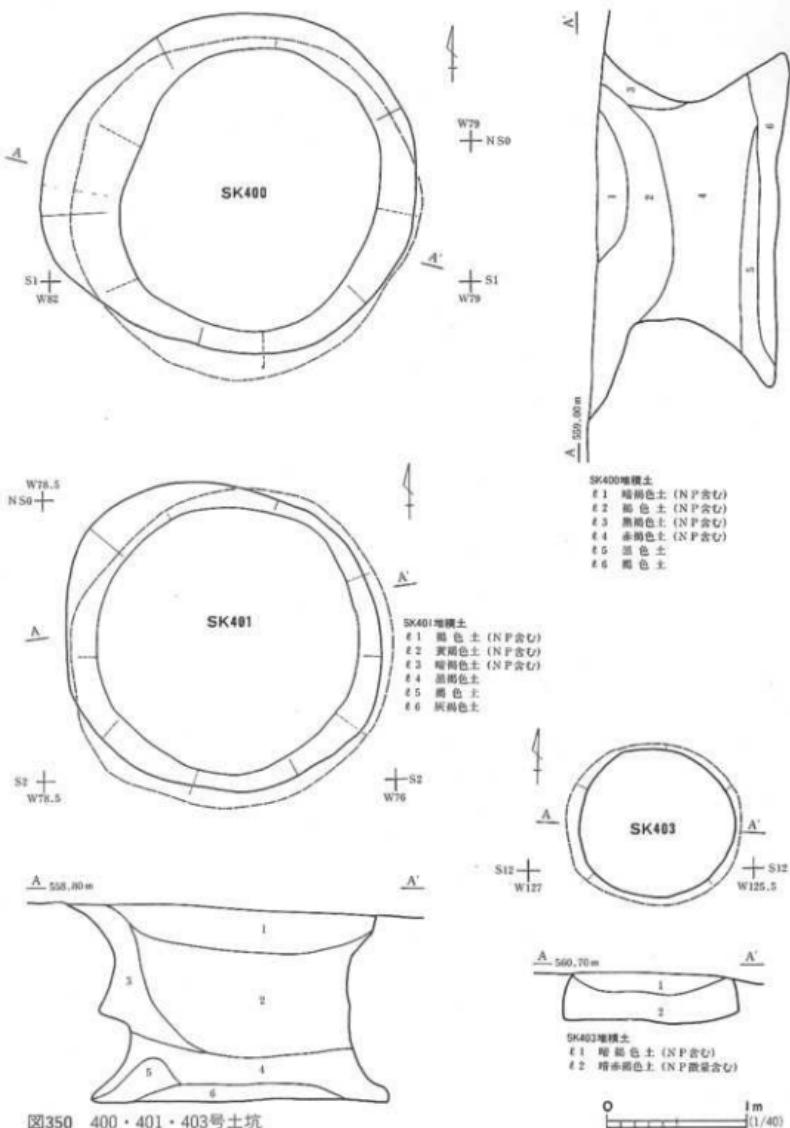


図349 397~399号土坑





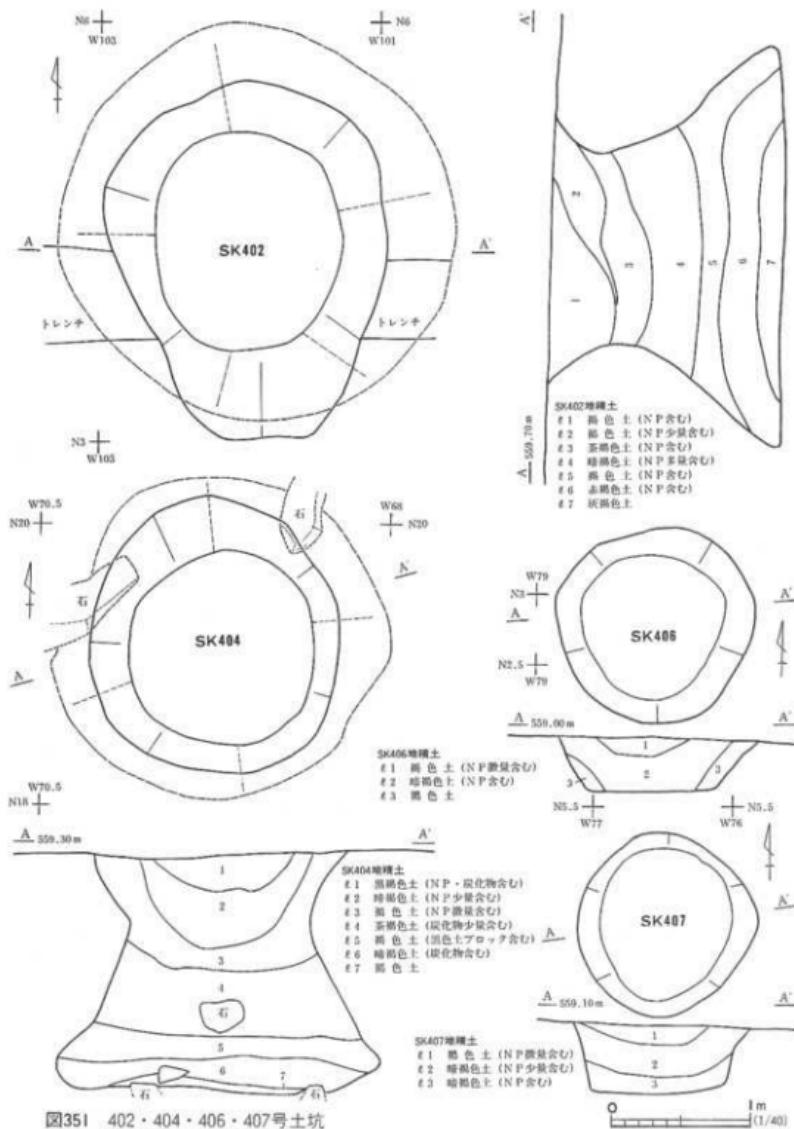


図351 402・404・406・407号土坑

第2章 遺構と遺物

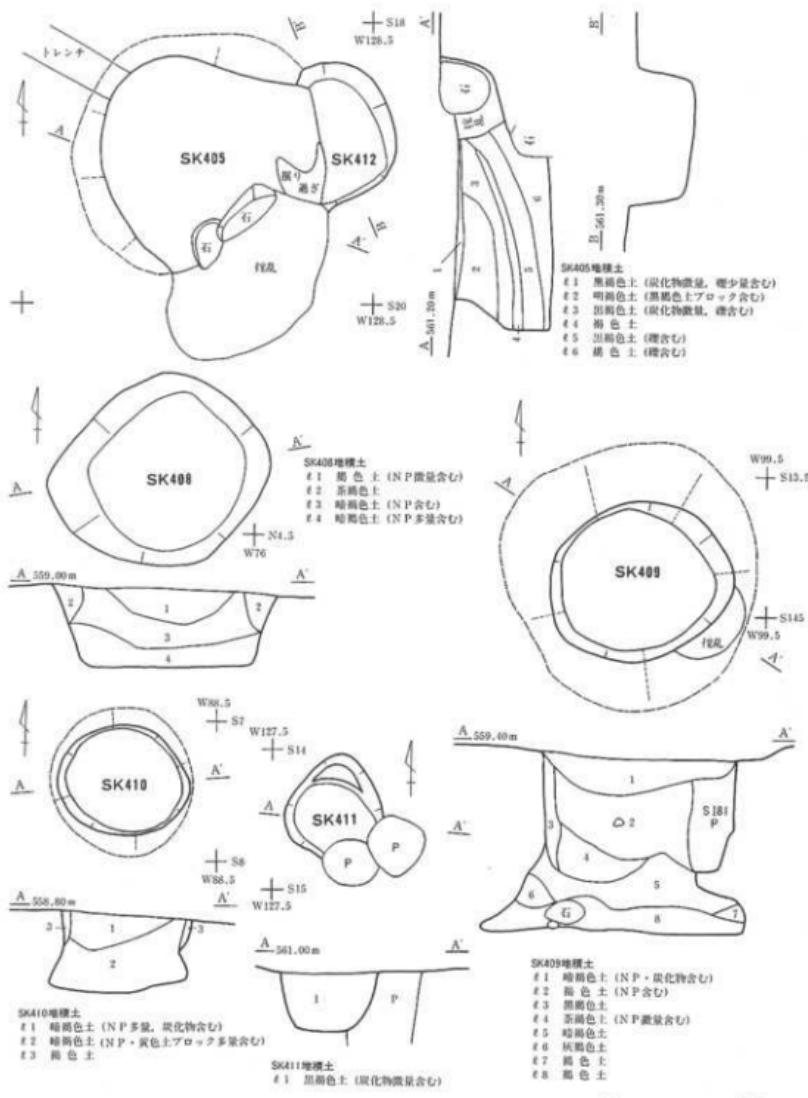


図352 405・408~412号土坑

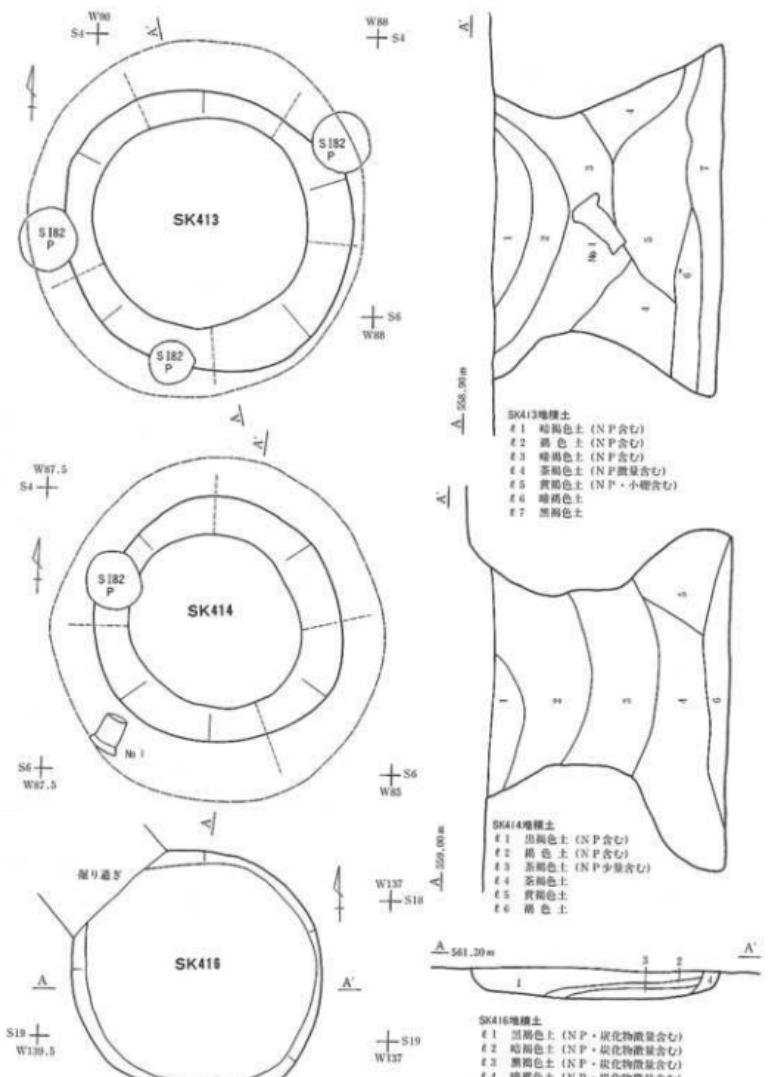


図353 413・414・416号土坑

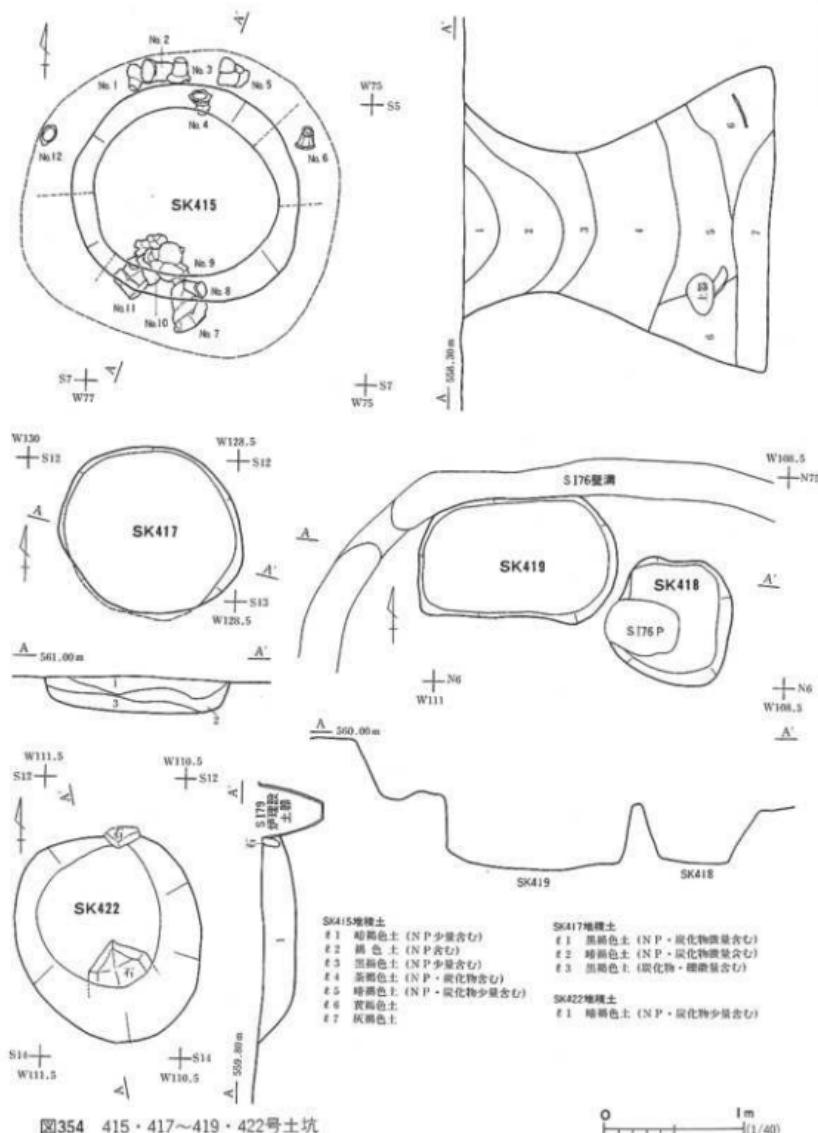


図354 415・417~419・422号土坑

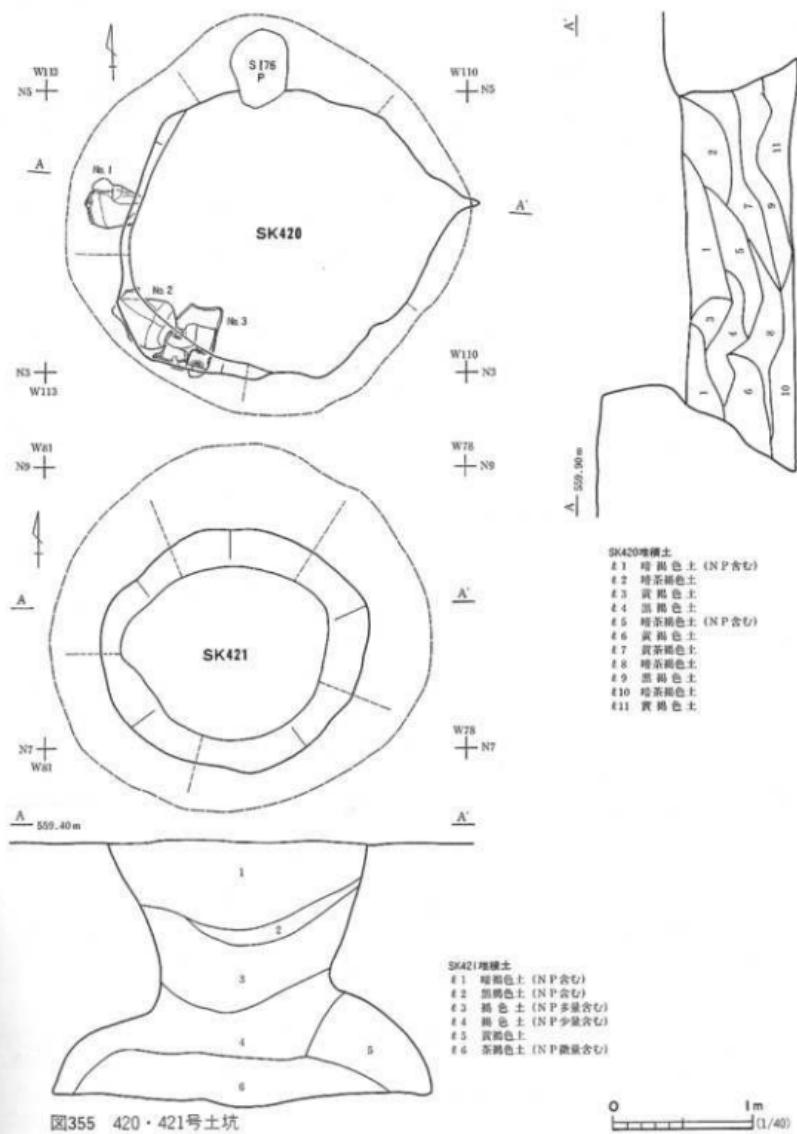


図355 420・421号土坑

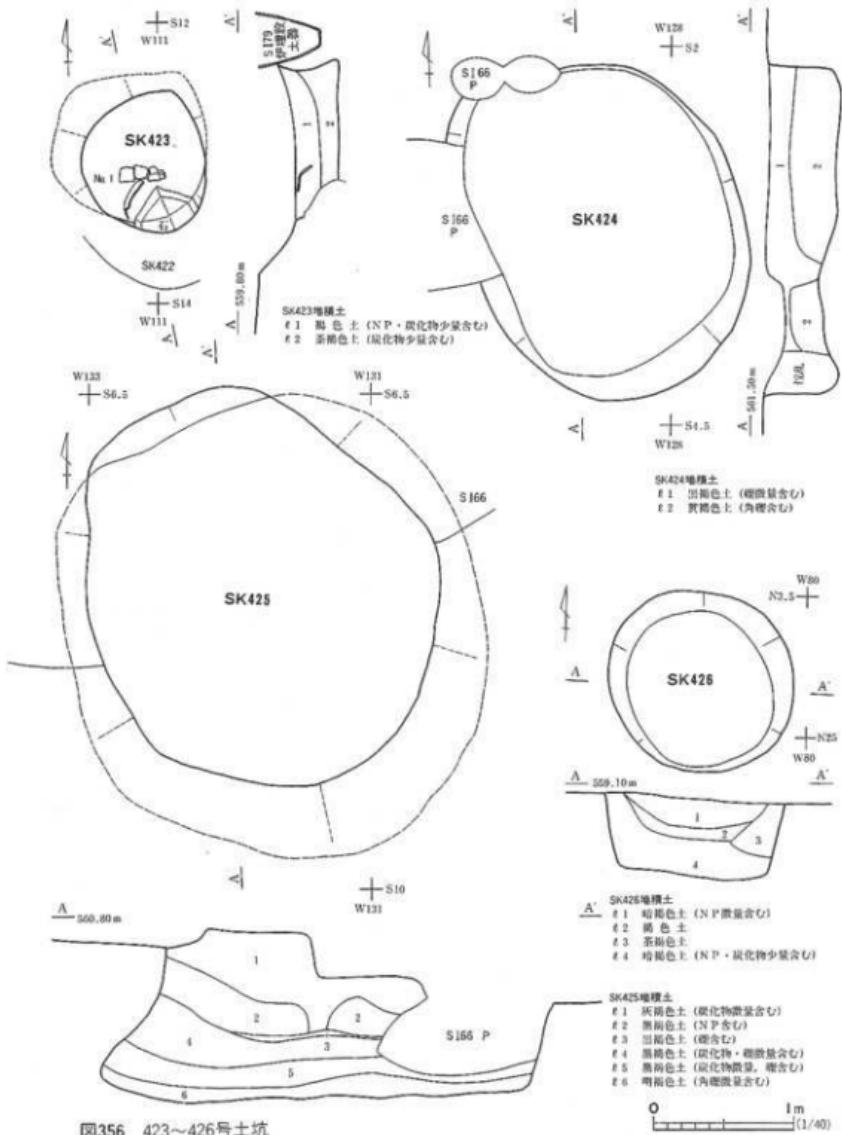


図356 423~426号土坑

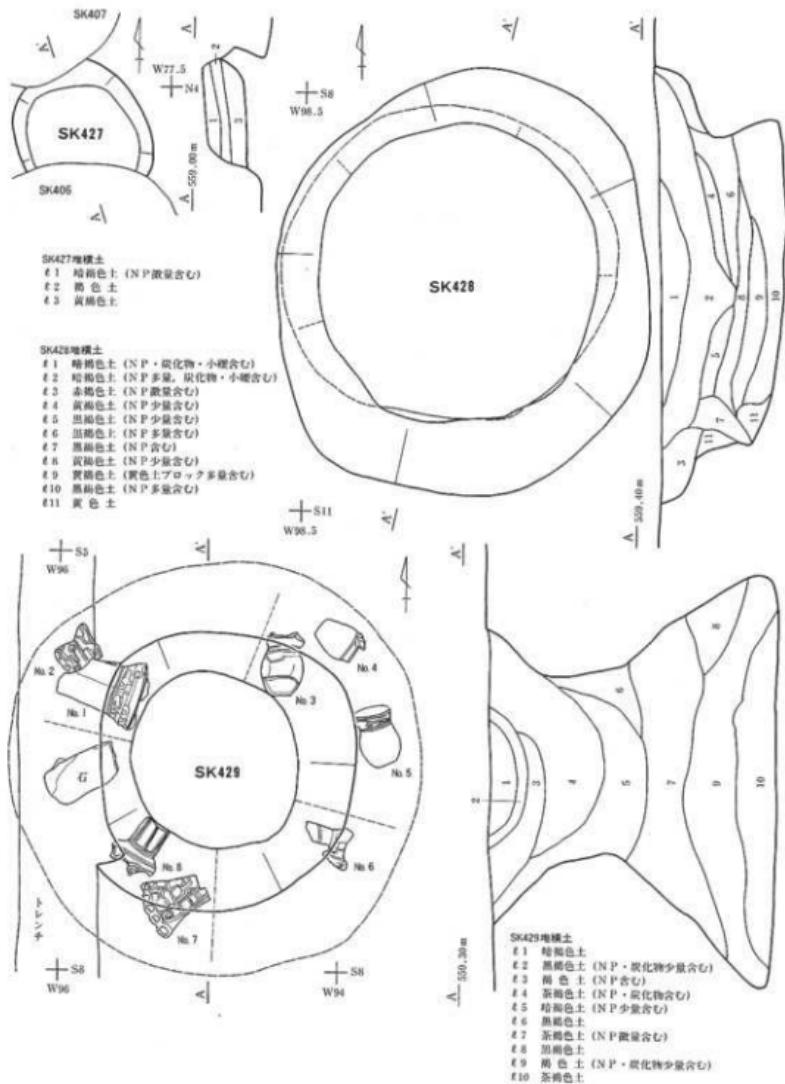


図357 427~429号土坑

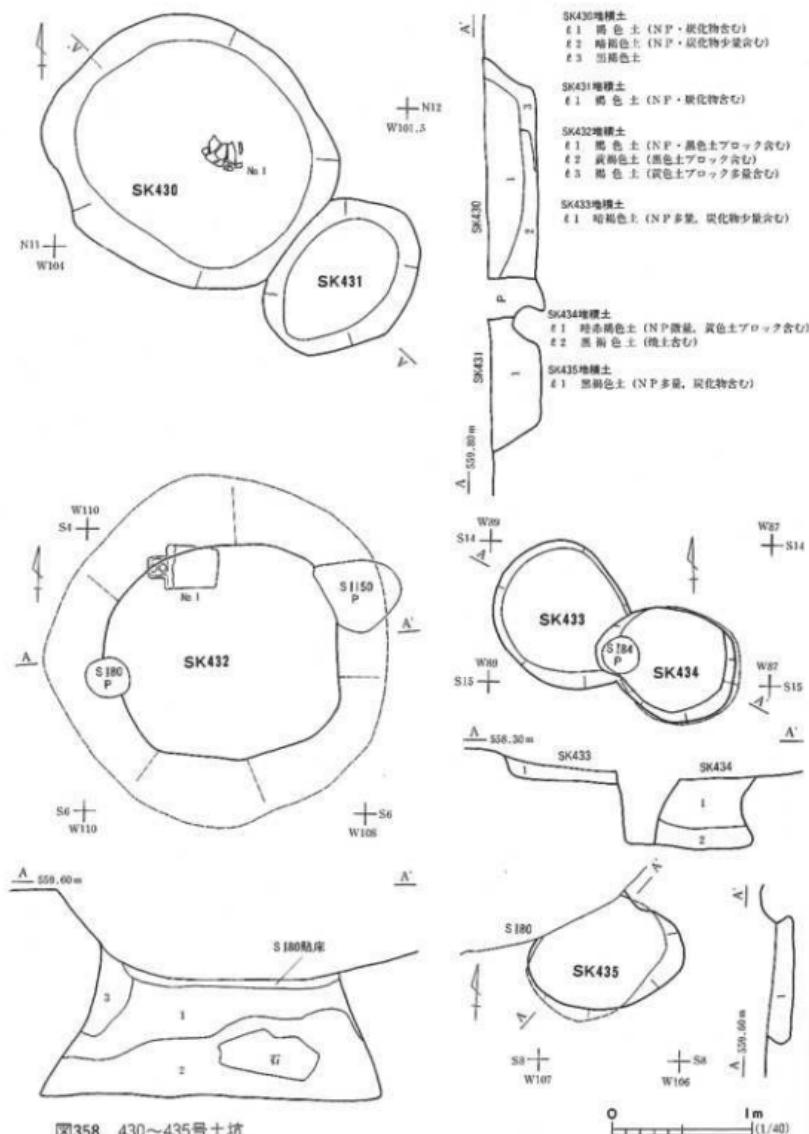


図358 430~435号土坑

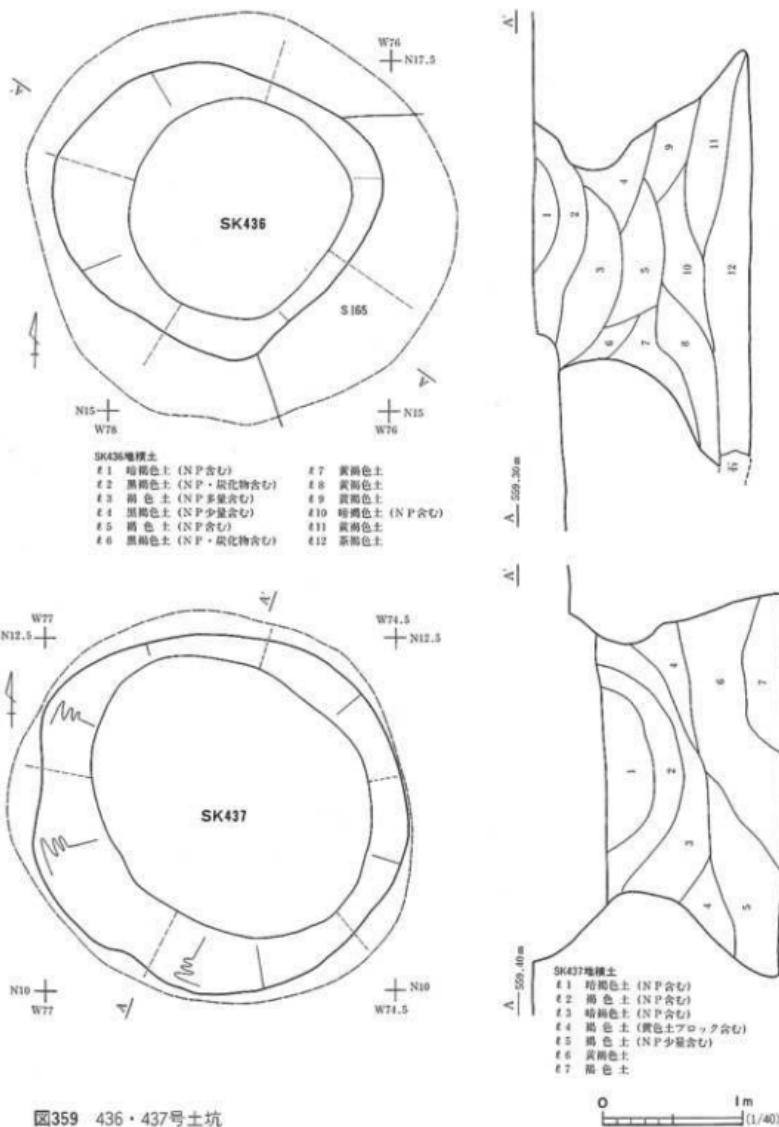


図359 436・437号土坑

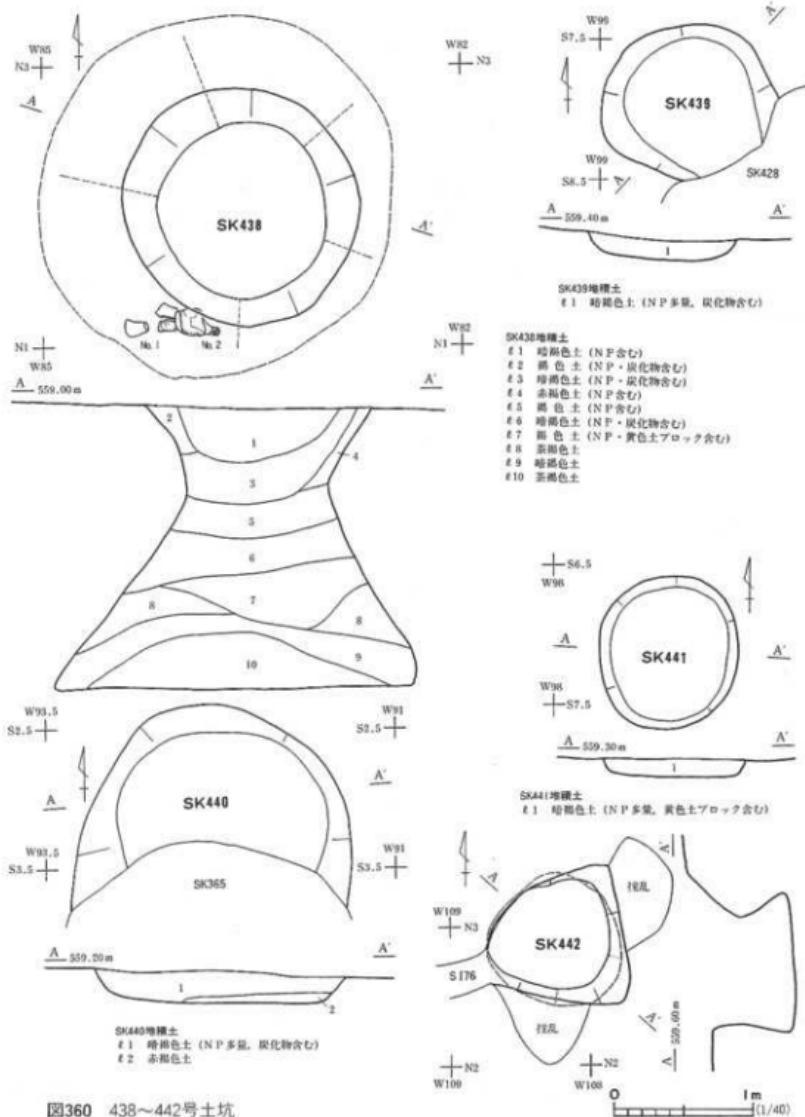


図360 438~442号土坑

第3節 土坑

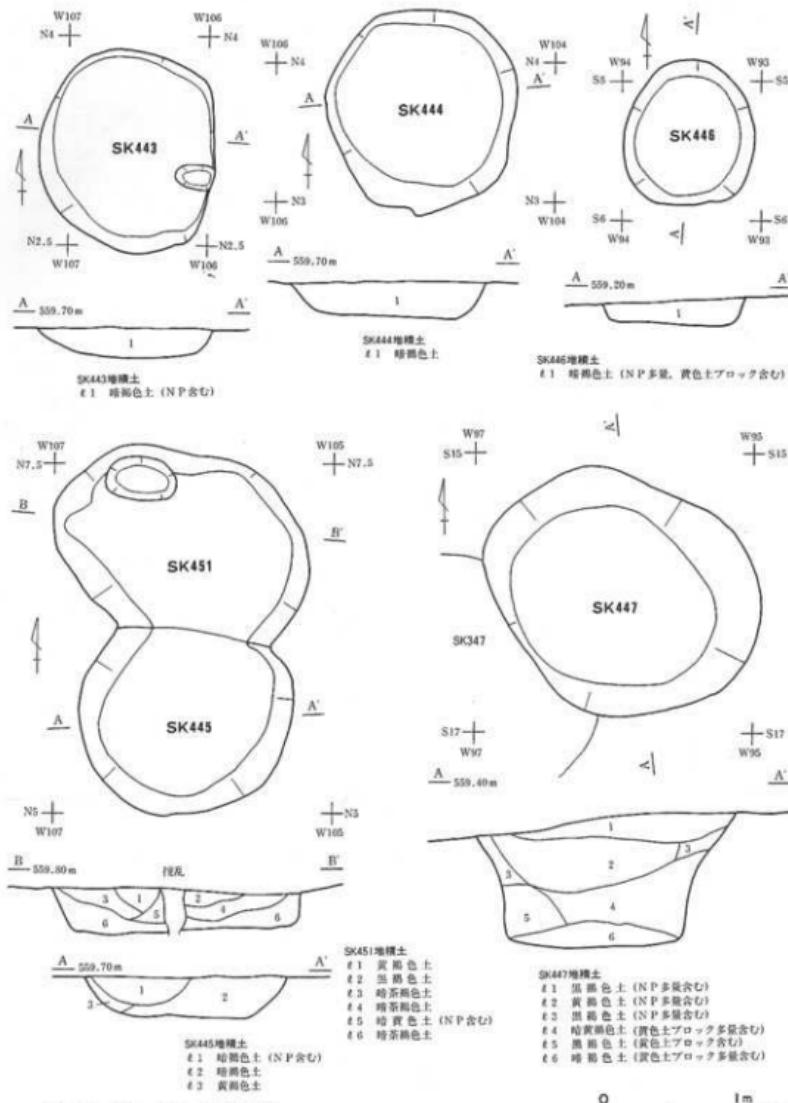


図361 443~447・451号土坑

第2章 造構と遺物

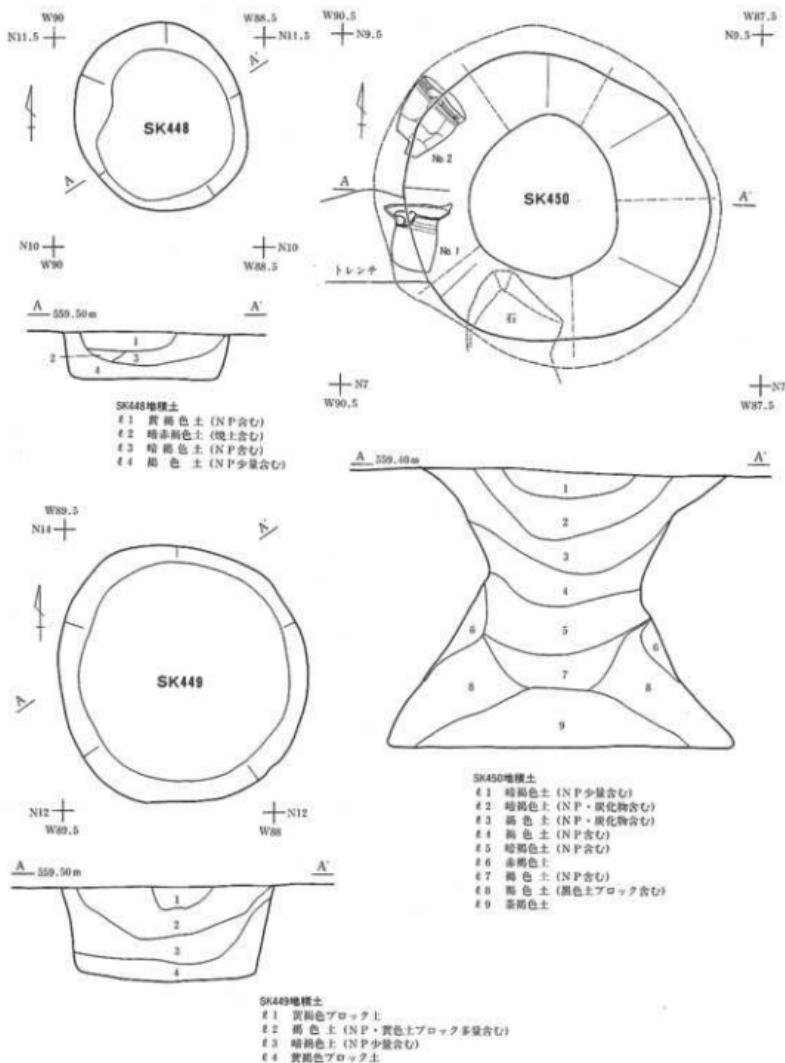


図362 448~450号土坑



第3節 土 坑

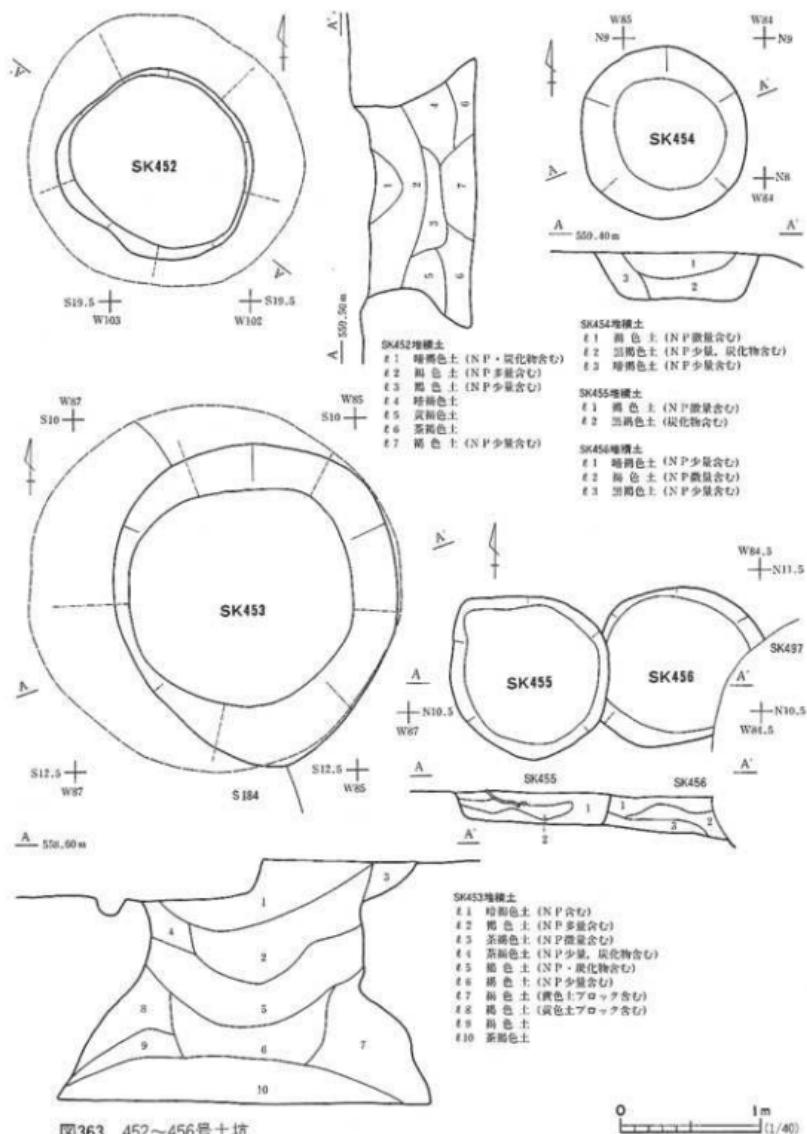


図363 452~456号土坑

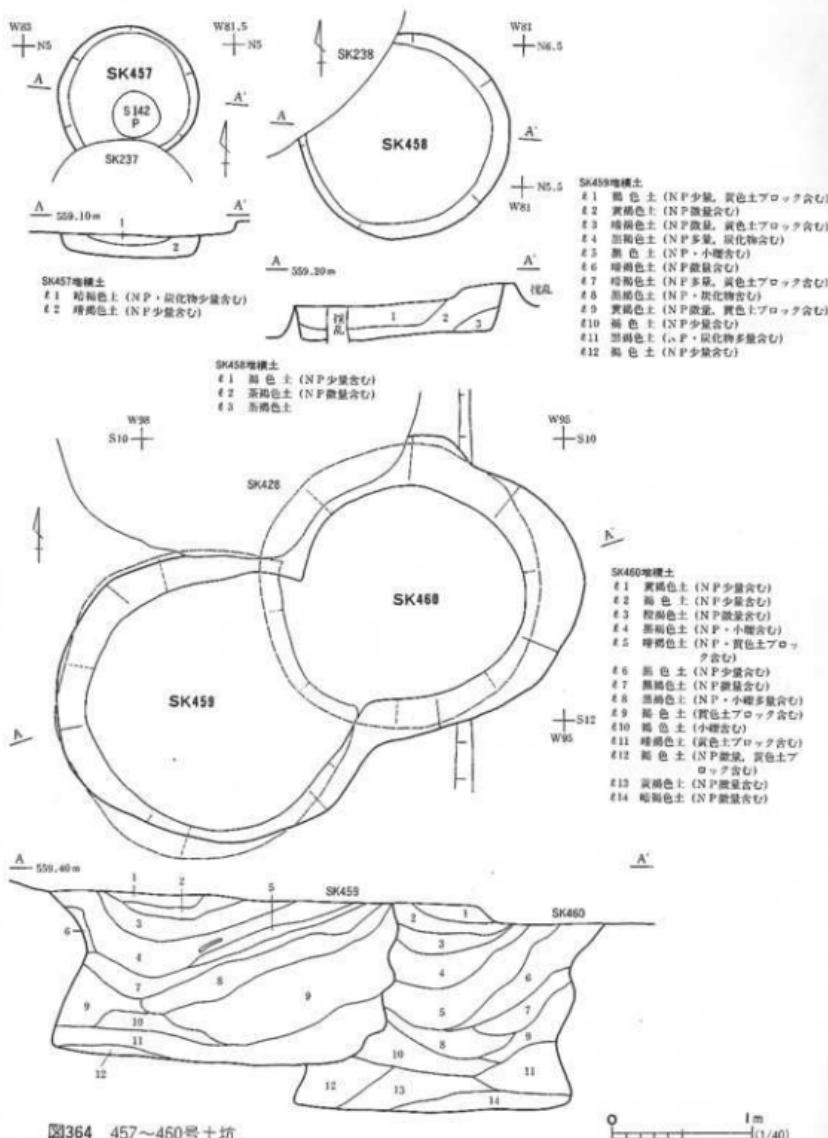


図364 457~460号土坑

第3節 土 坑

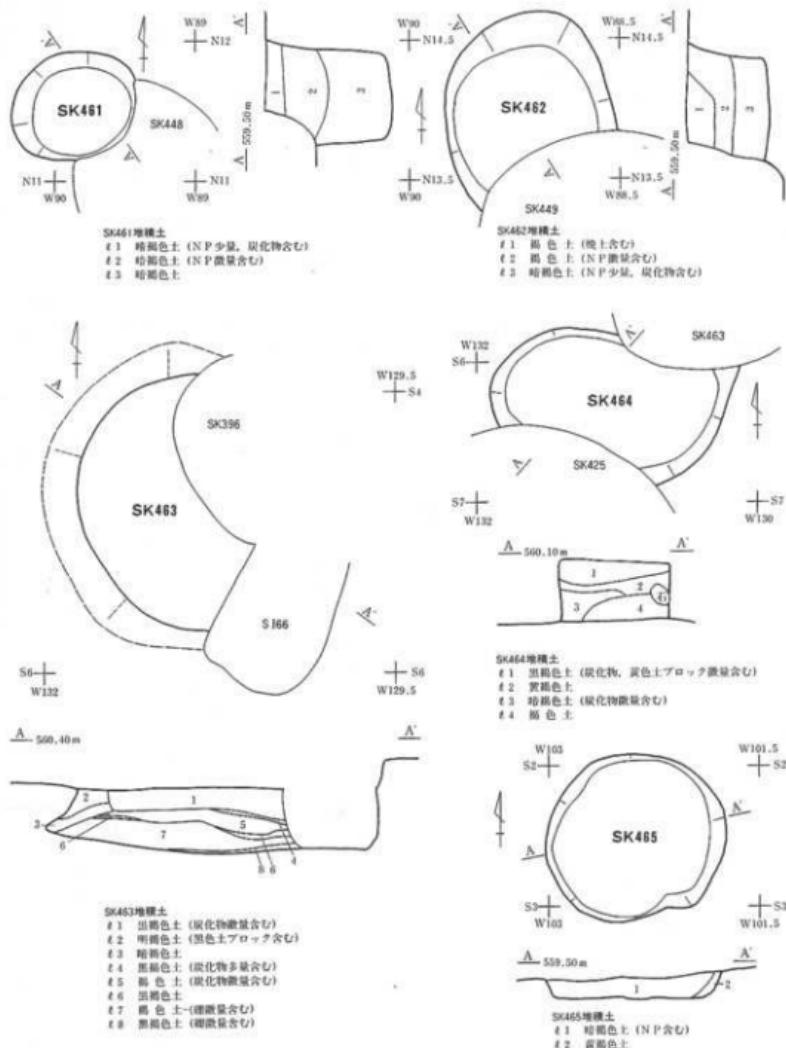


図365 461~465号土坑



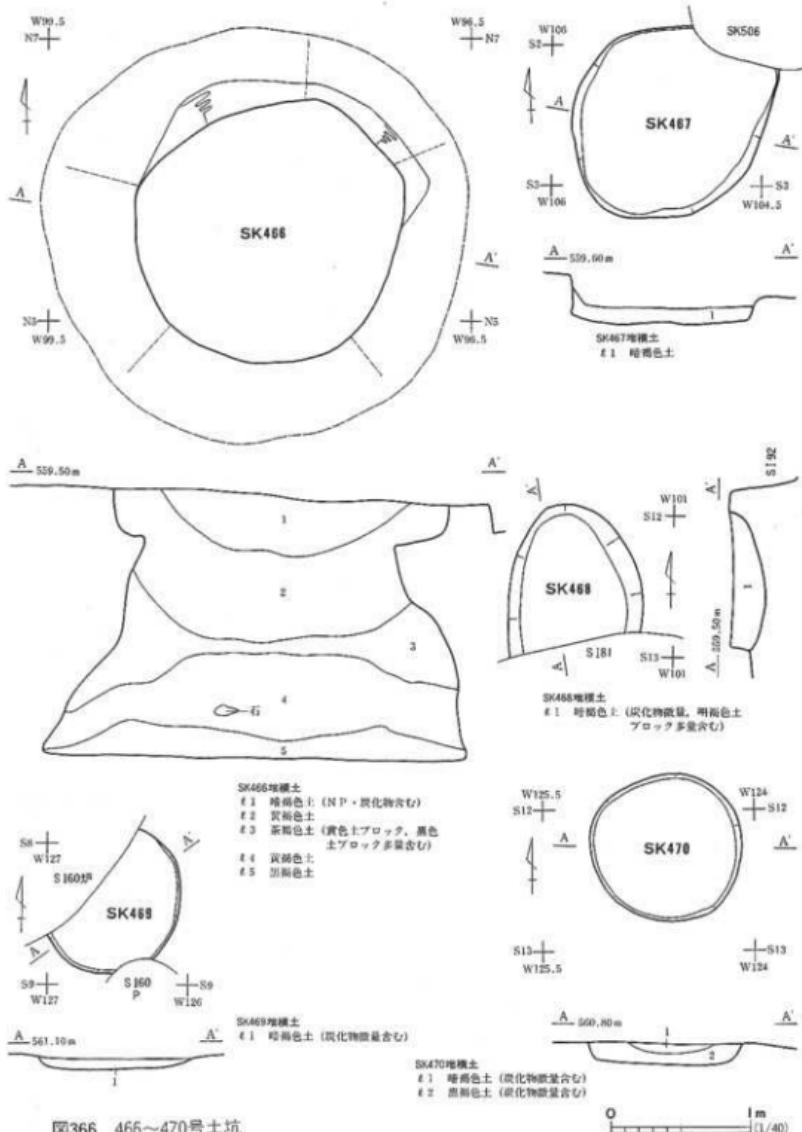


図366 466~470号土坑

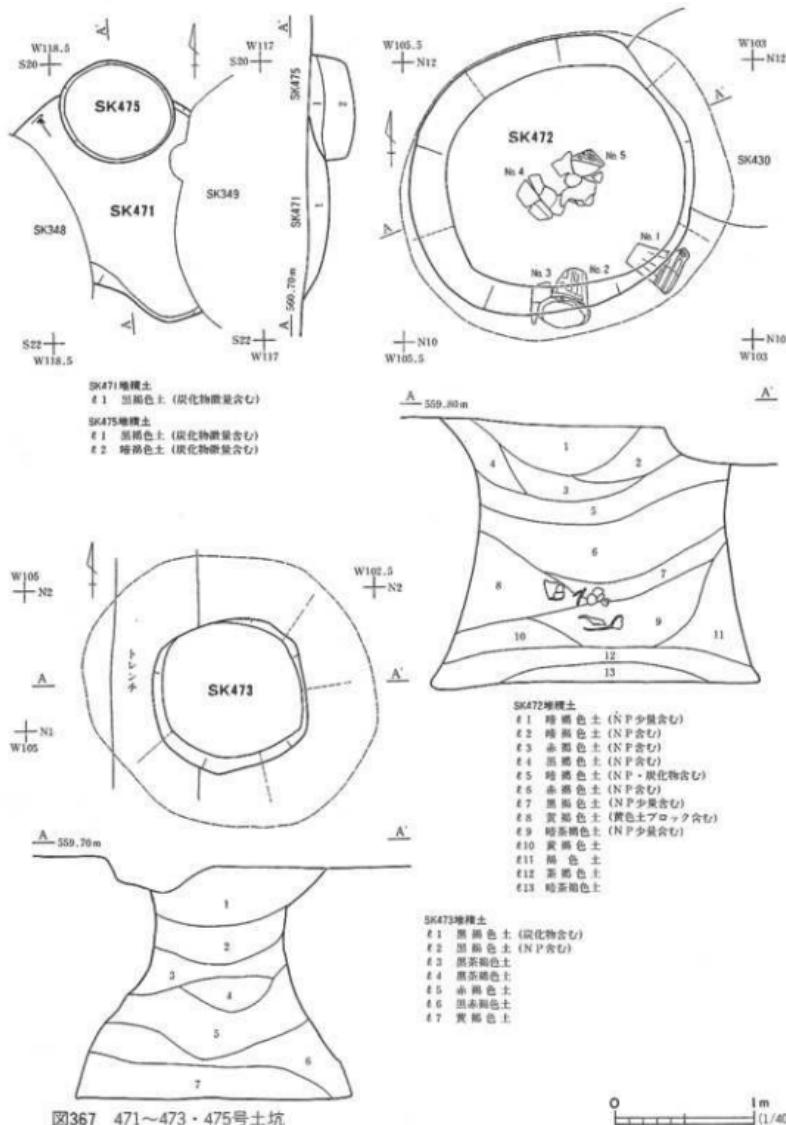


図367 471~473・475号土坑

第2章 造構と遺物

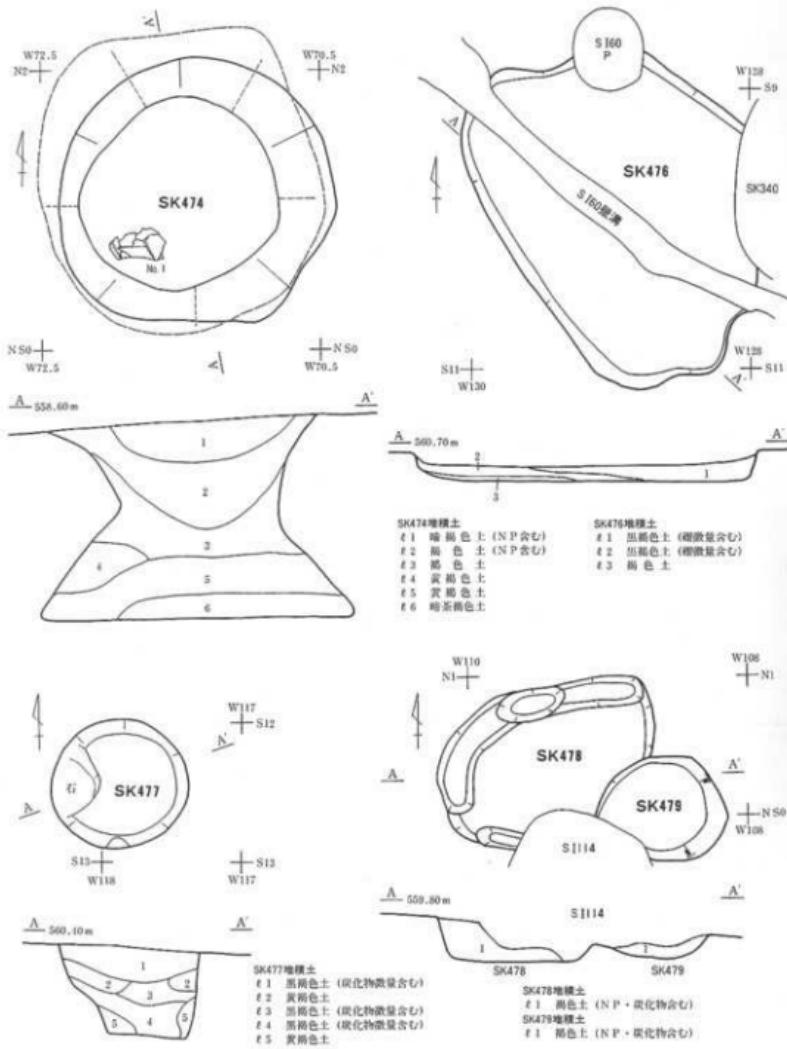


図368 474・476～479号土坑



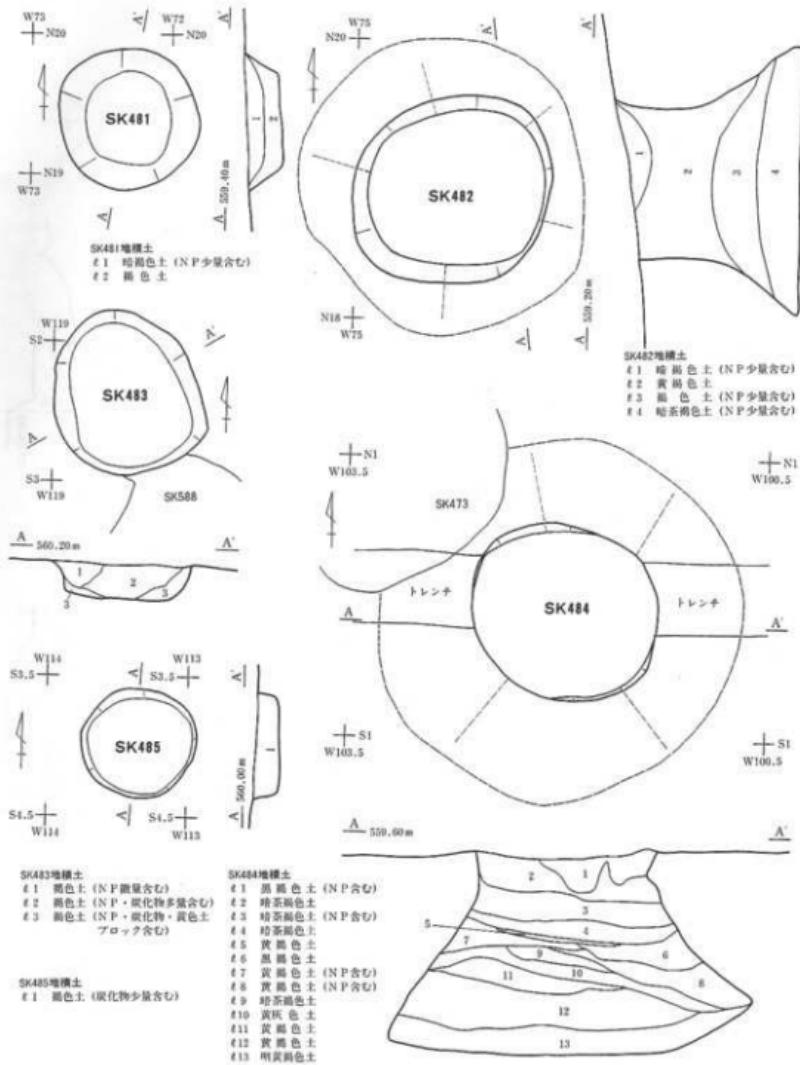


図369 481~485号土坑



第2章 造構と遺物

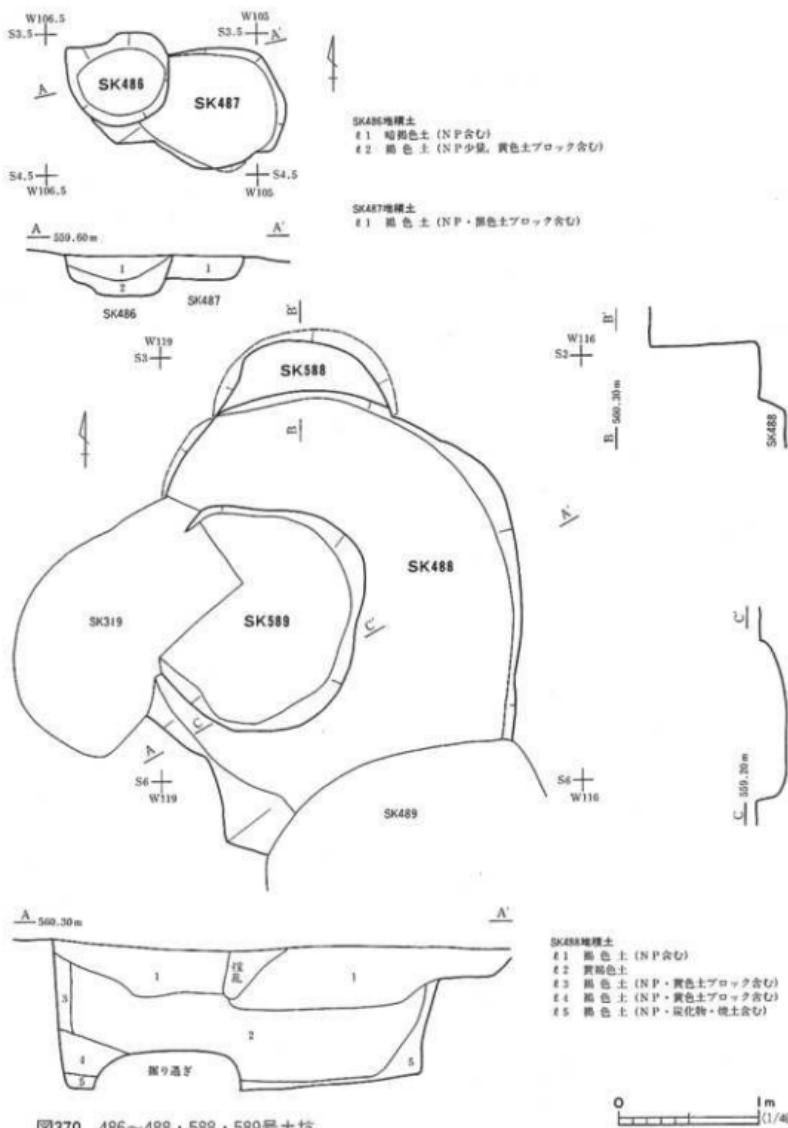


図370 486～488・588・589号土坑

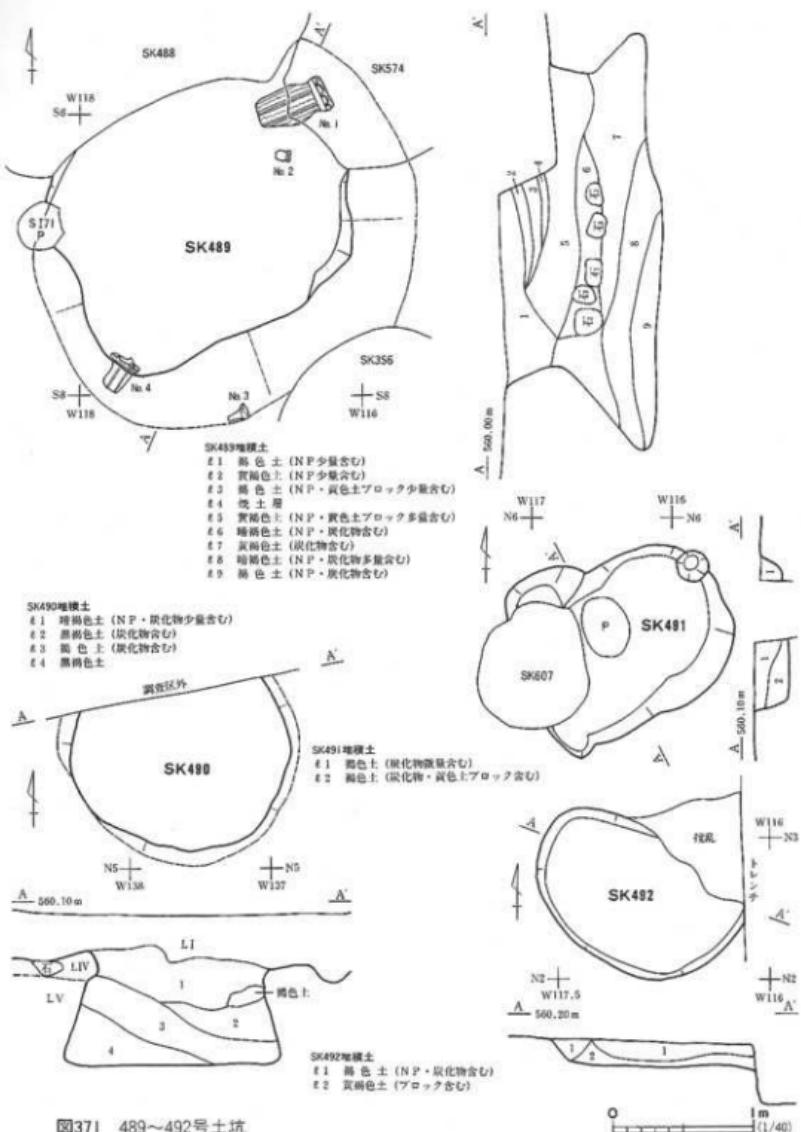
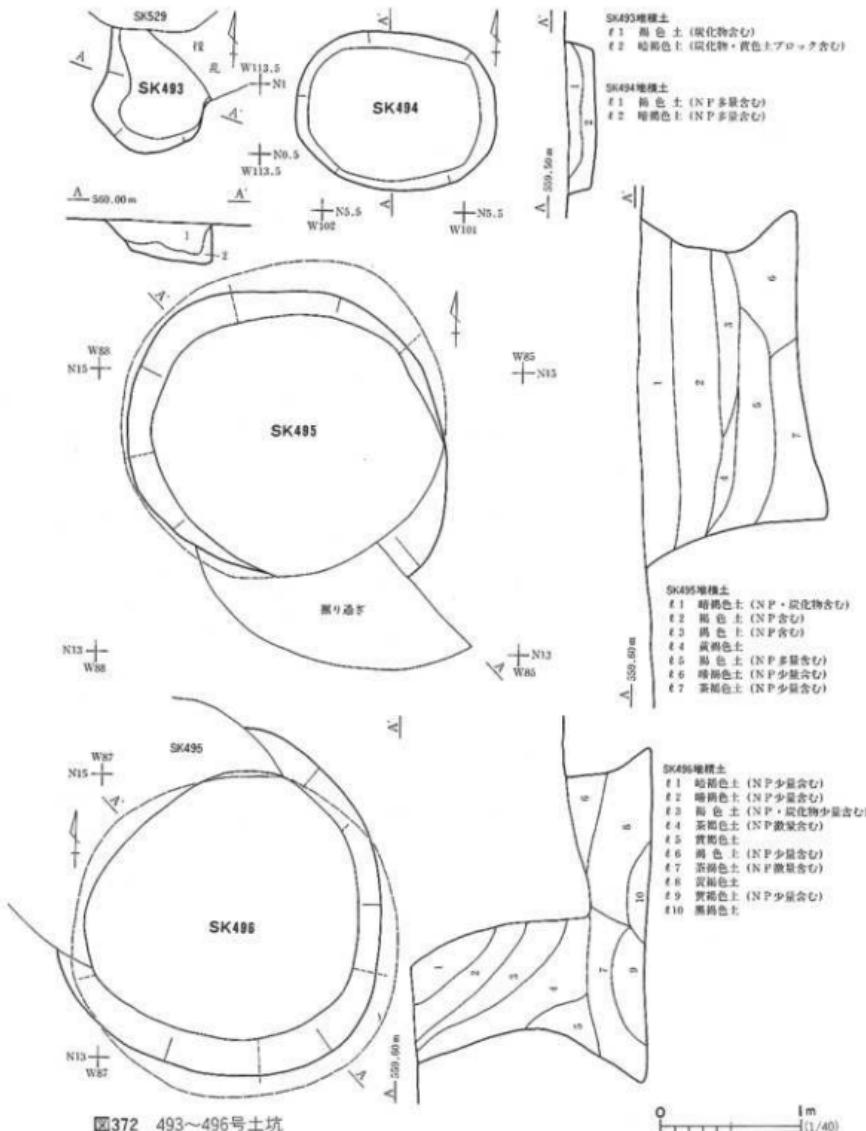


図371 489~492号土坑

第2章 遺構と遺物



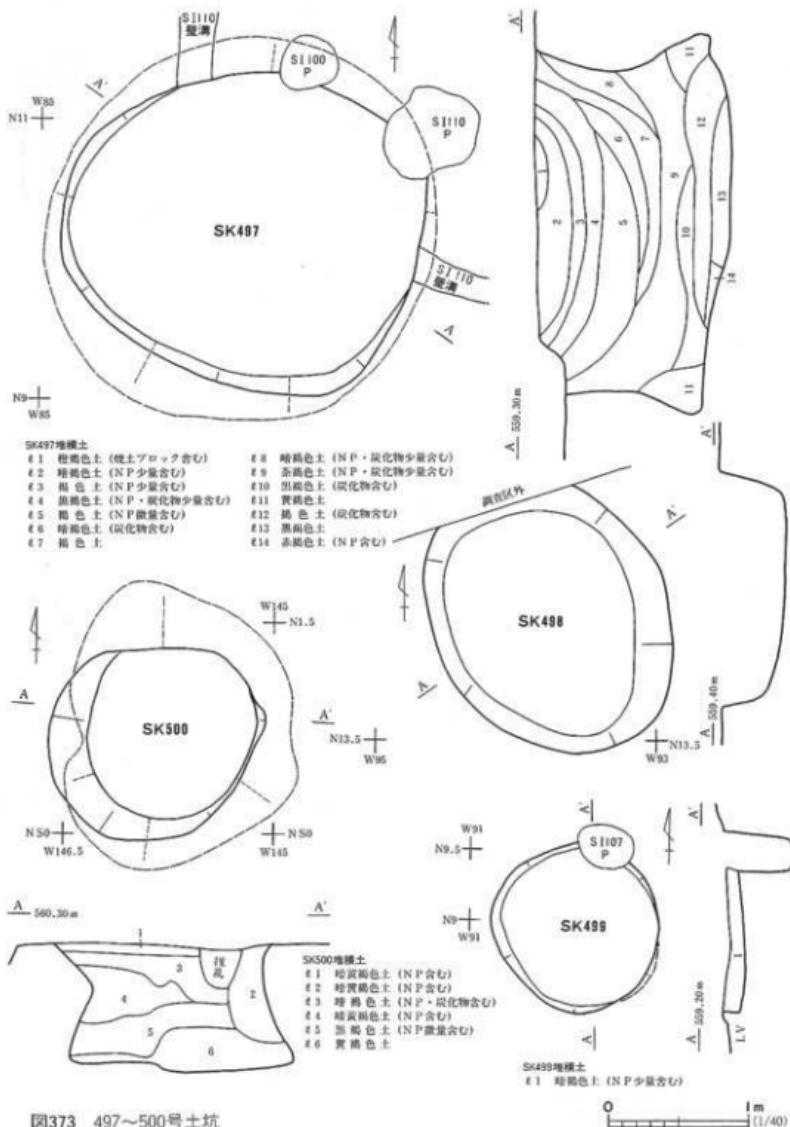


図373 497~500号土坑

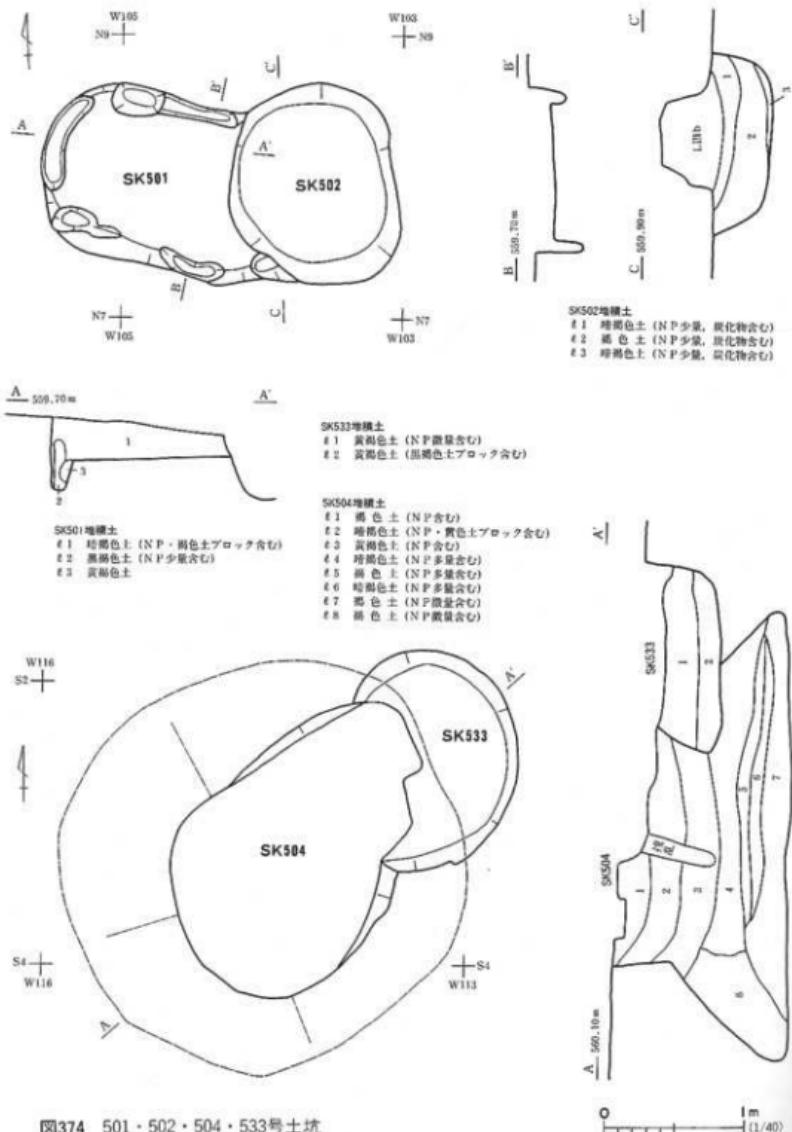


図374 501・502・504・533号土坑

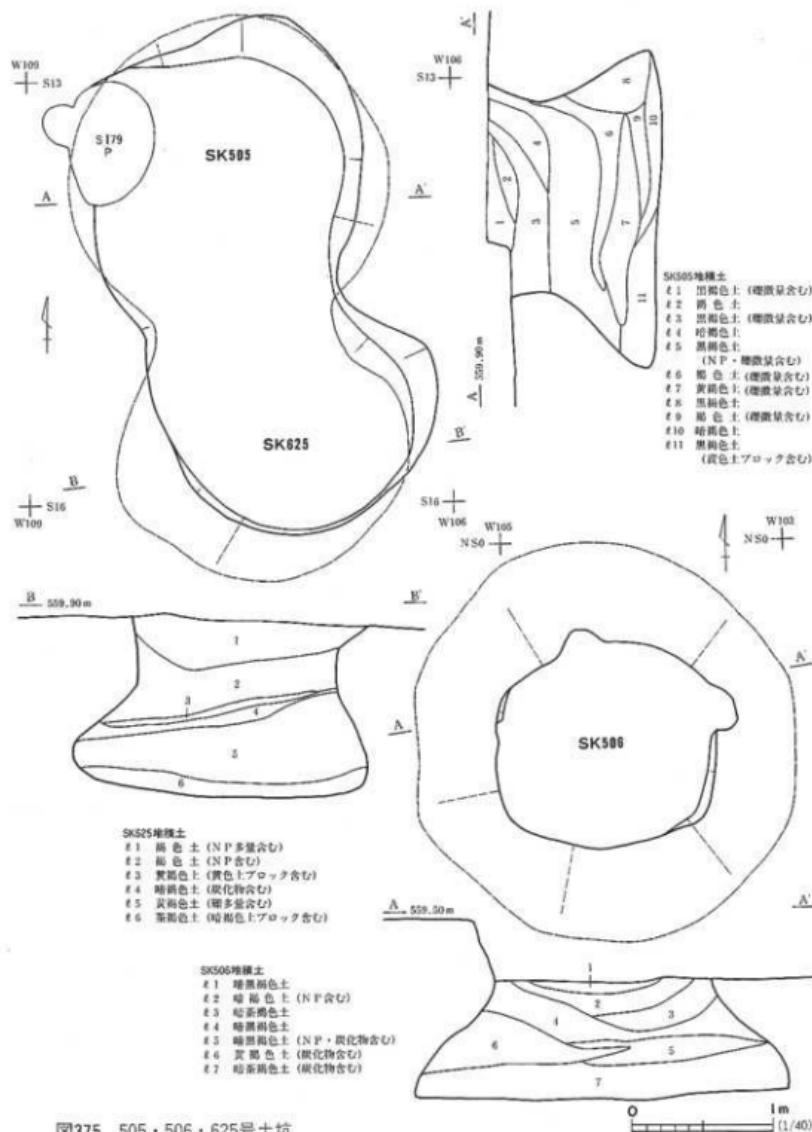
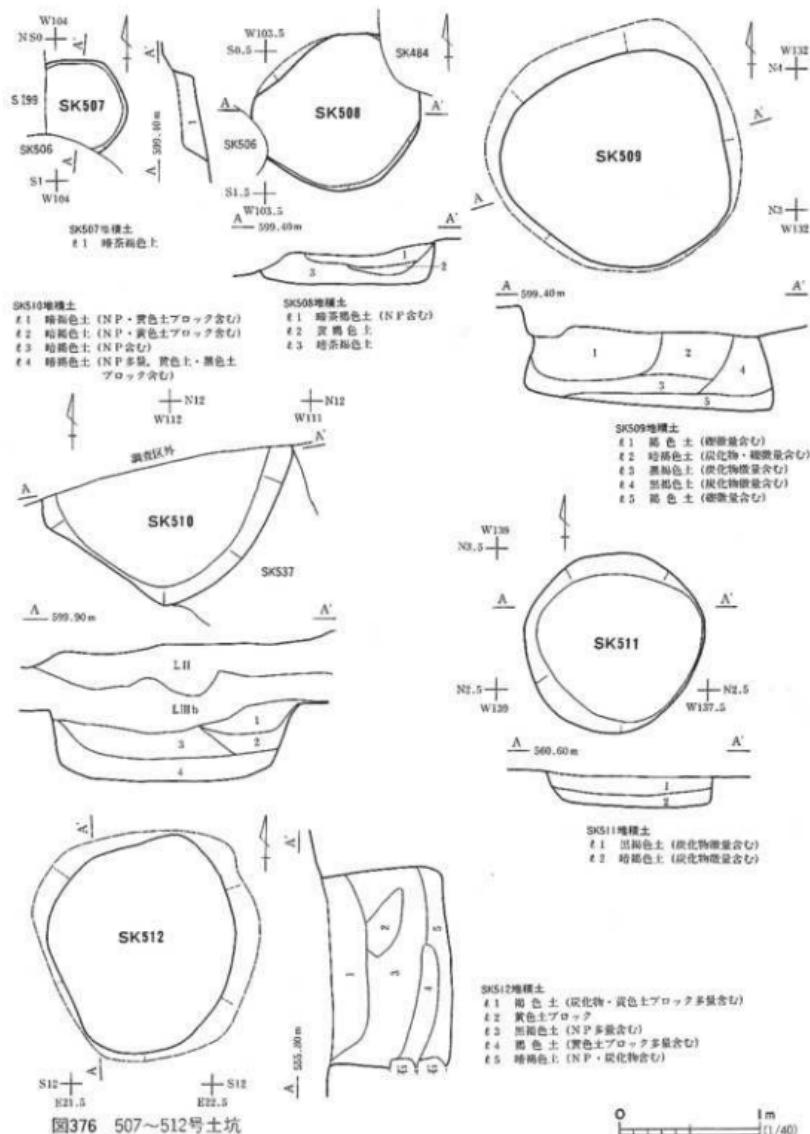


図375 505・506・625号土坑



### 第3節 土 坑

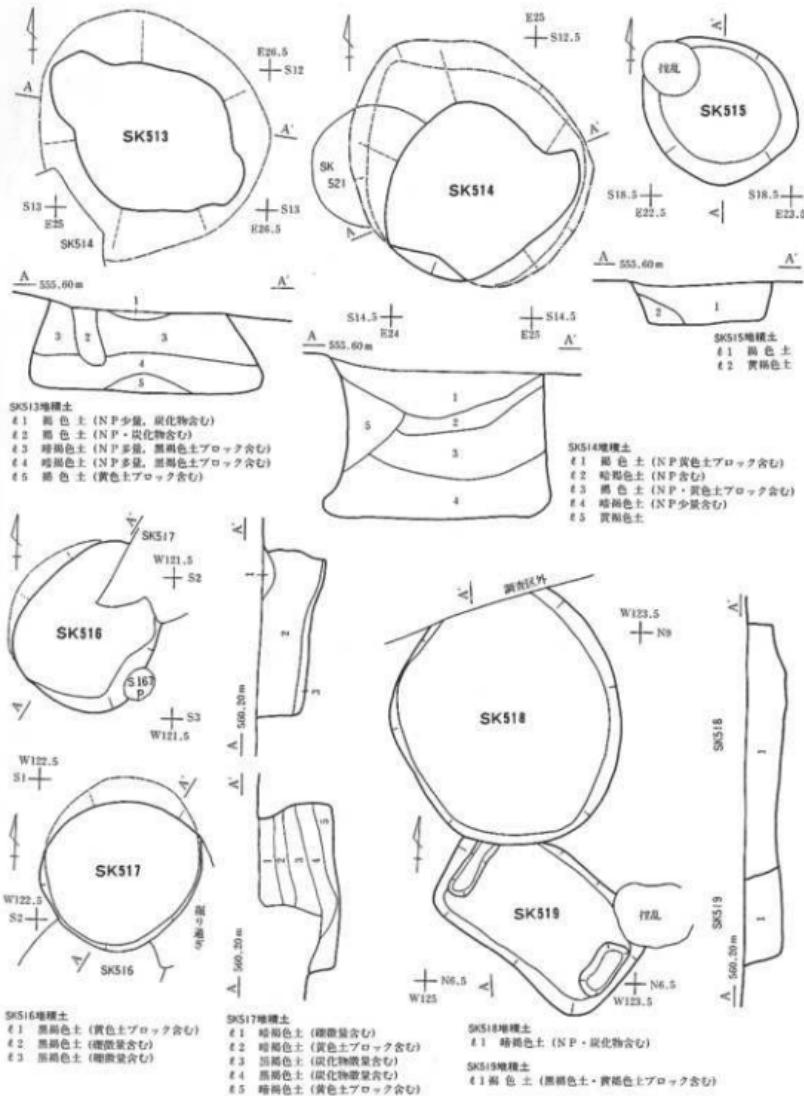


図377 513～519号土坑



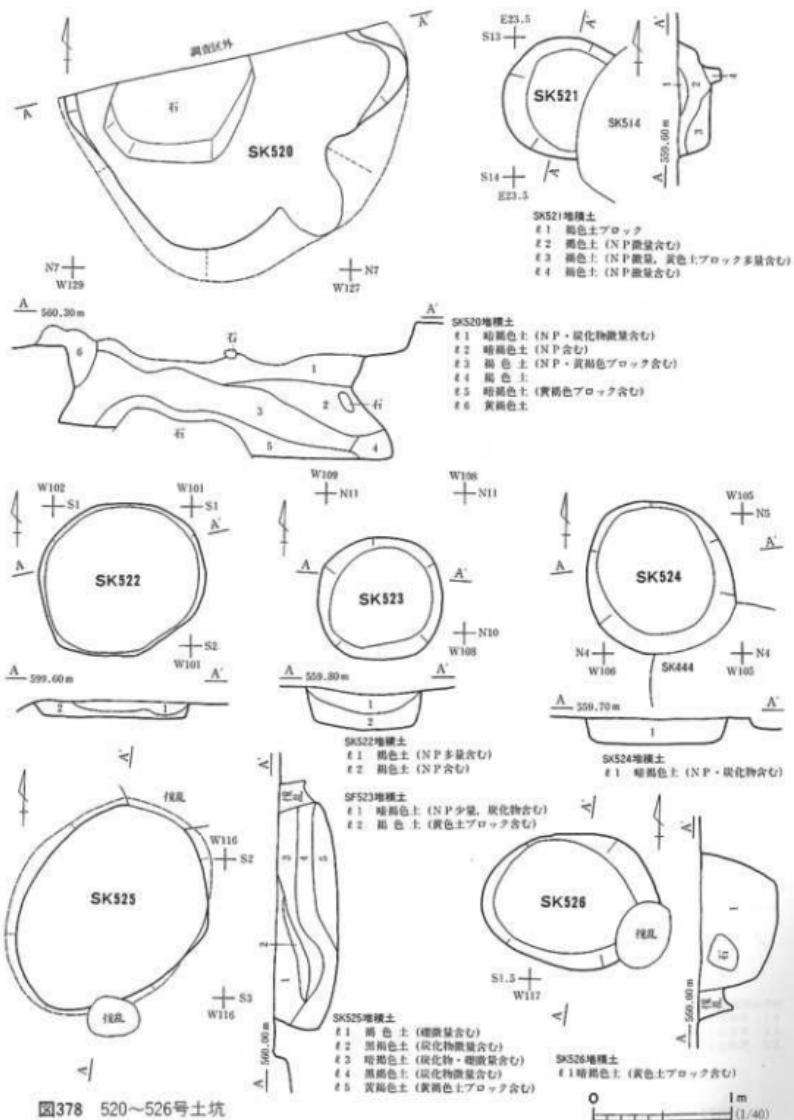


図378 520～526号土坑

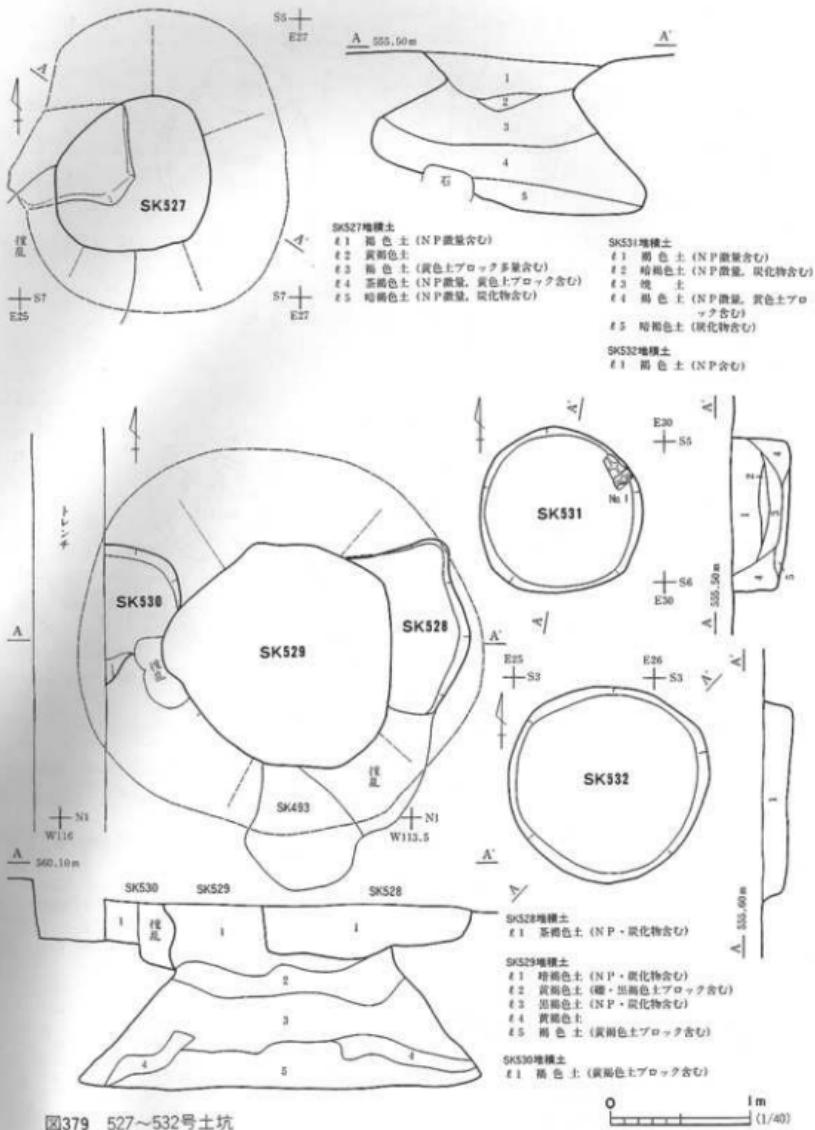


图379 527~532号土坑

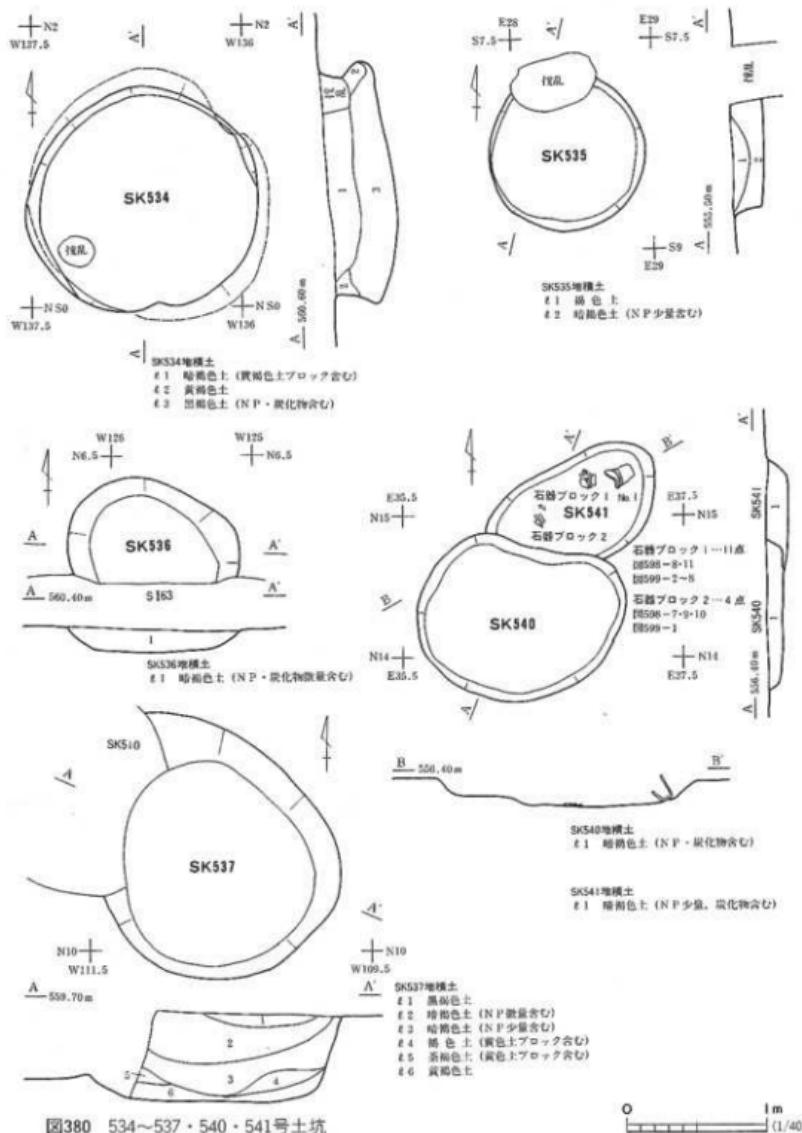


図380 534~537・540・541号土坑

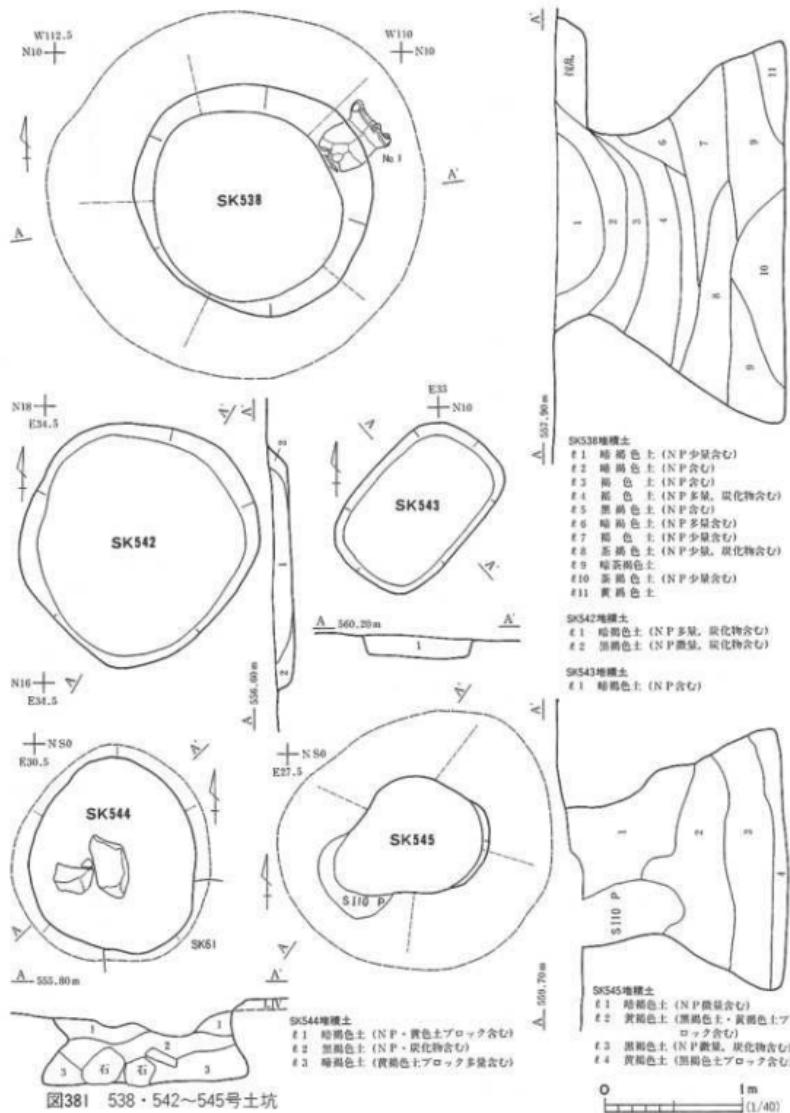
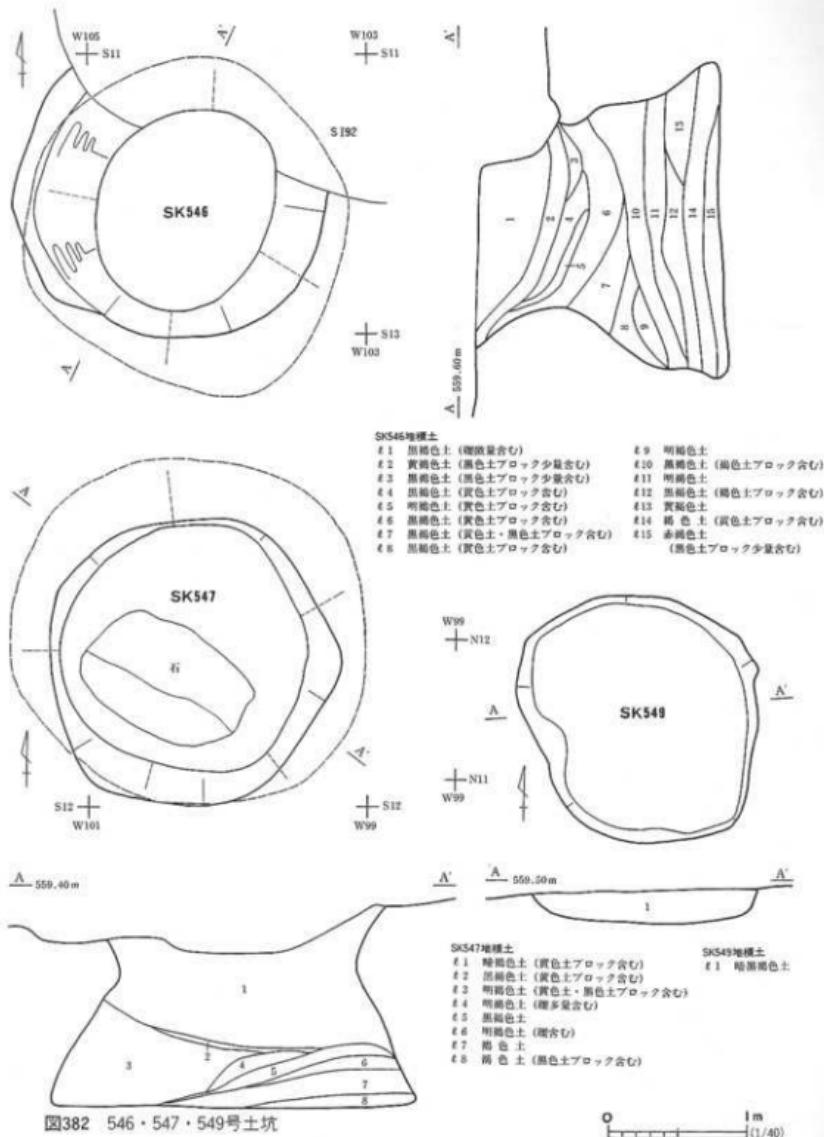


図381 538・542~545号土坑



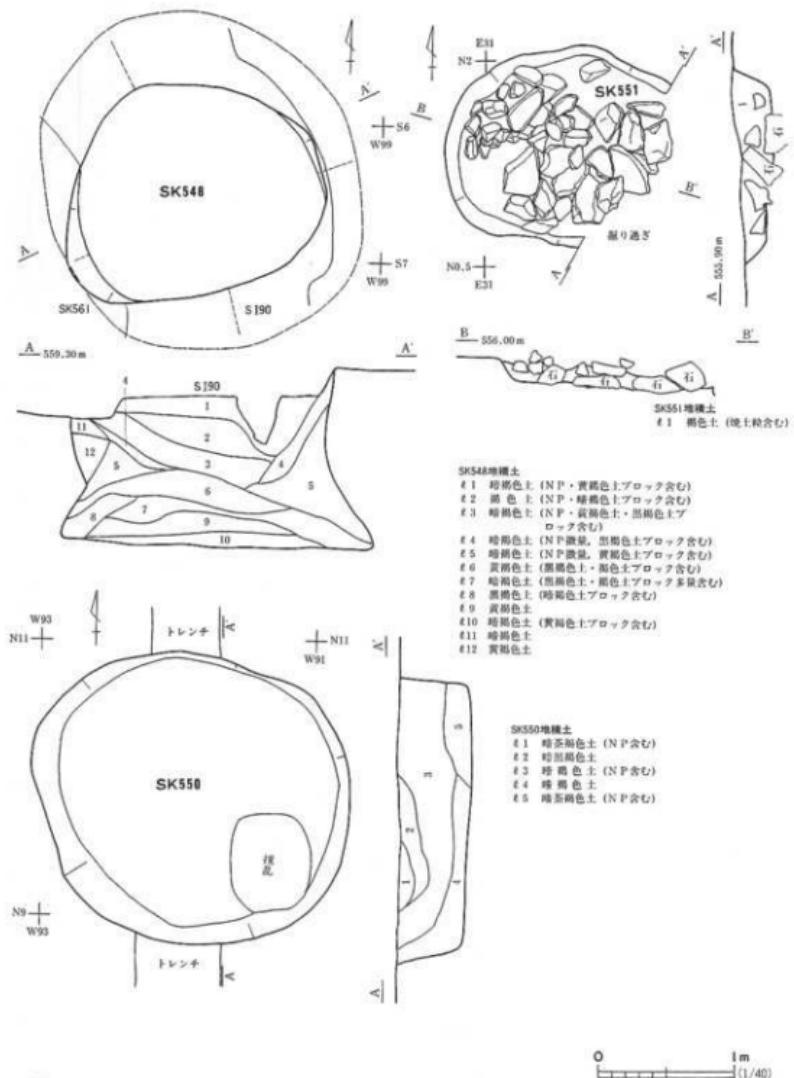


図383 548・550・551号土坑

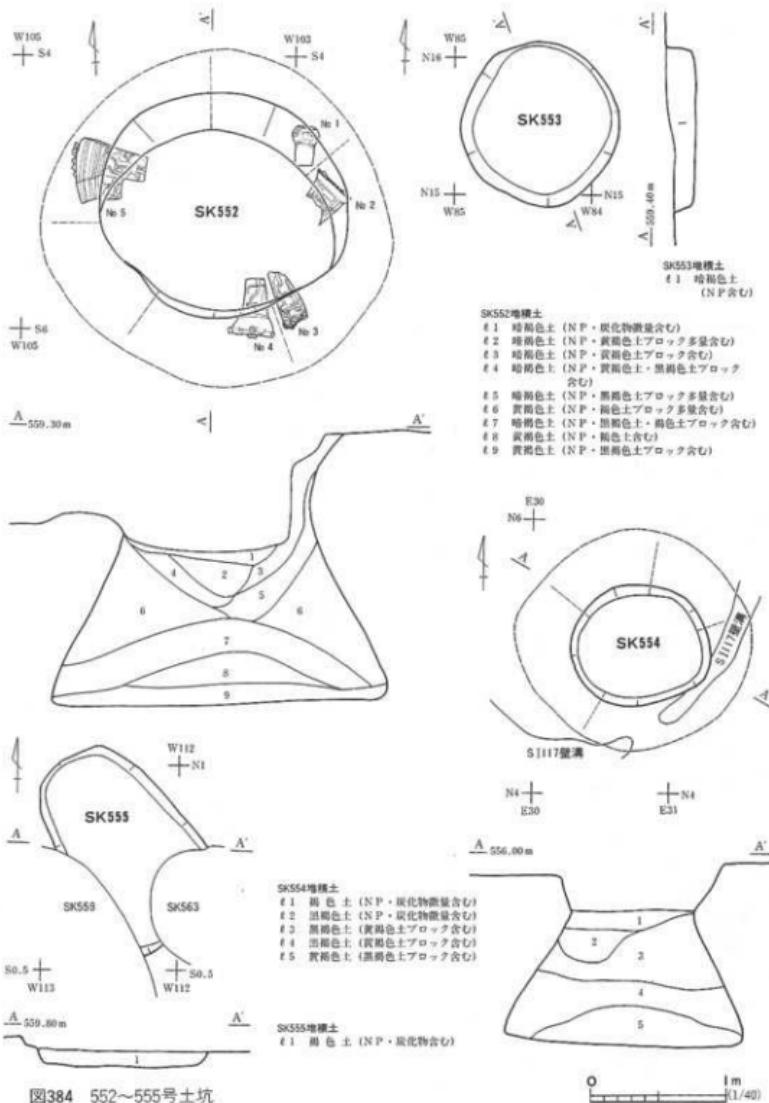


図384 552~555号土坑

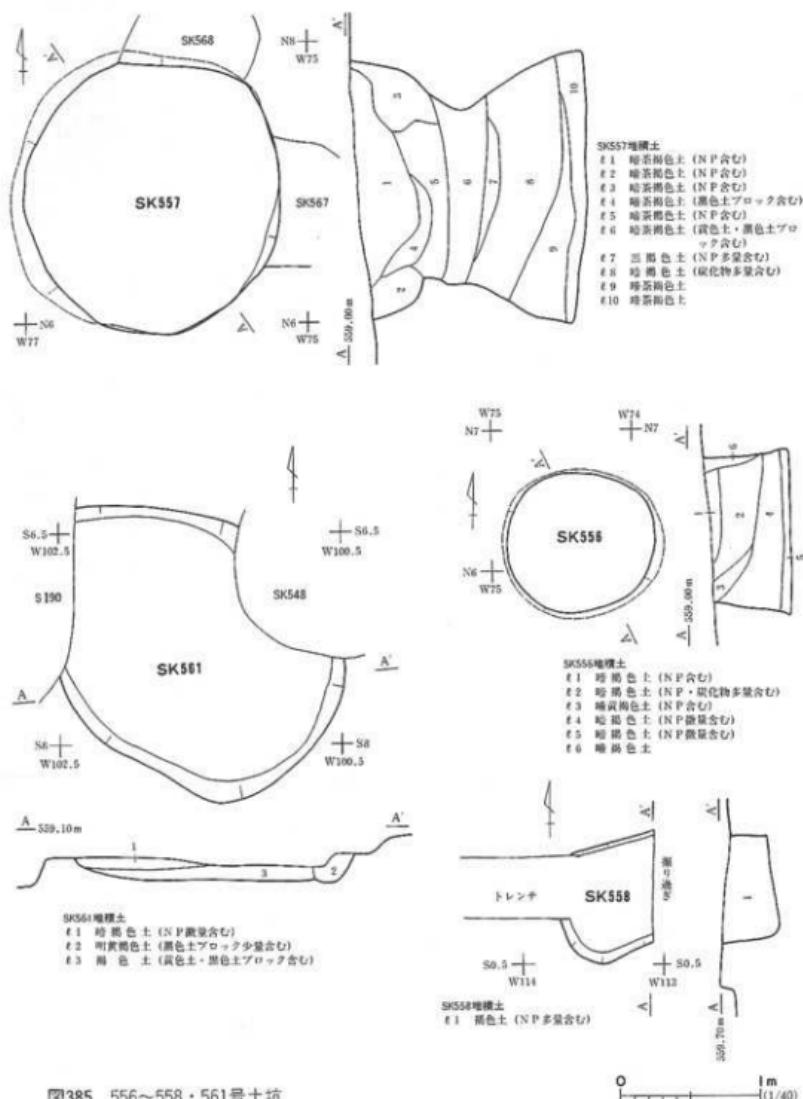
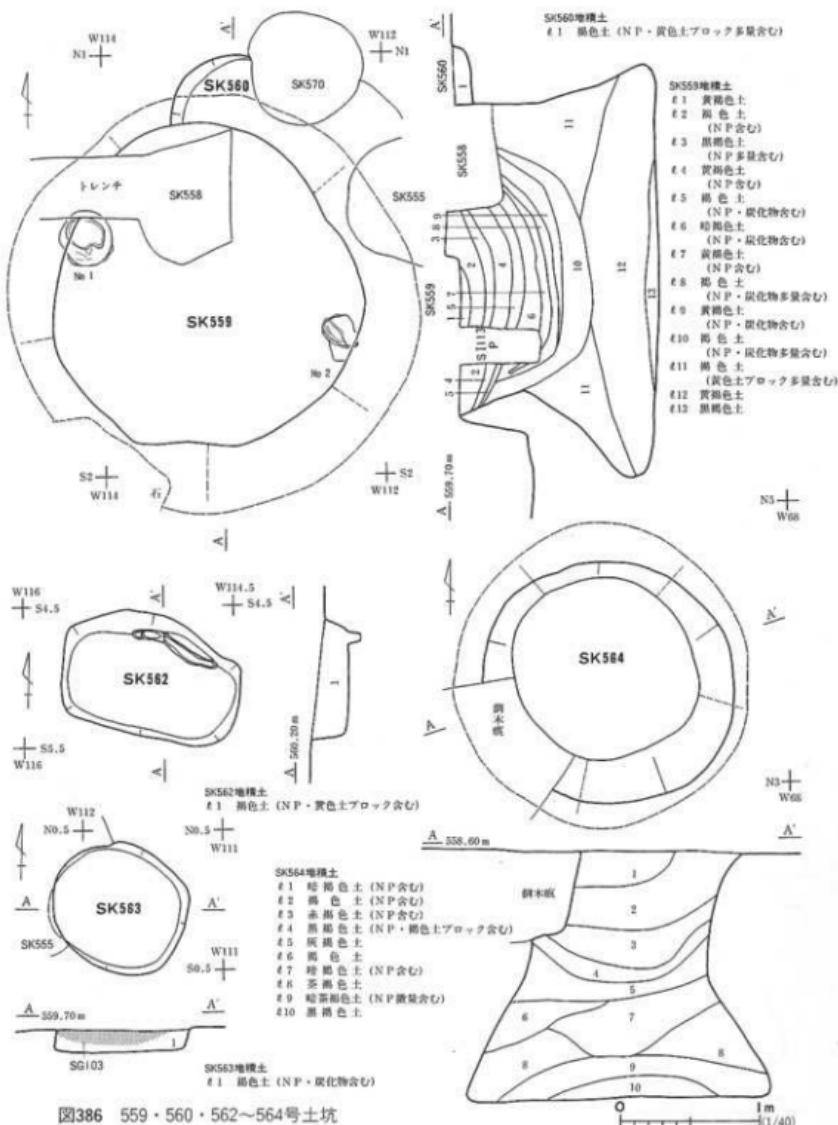


図385 556~558・561号土坑



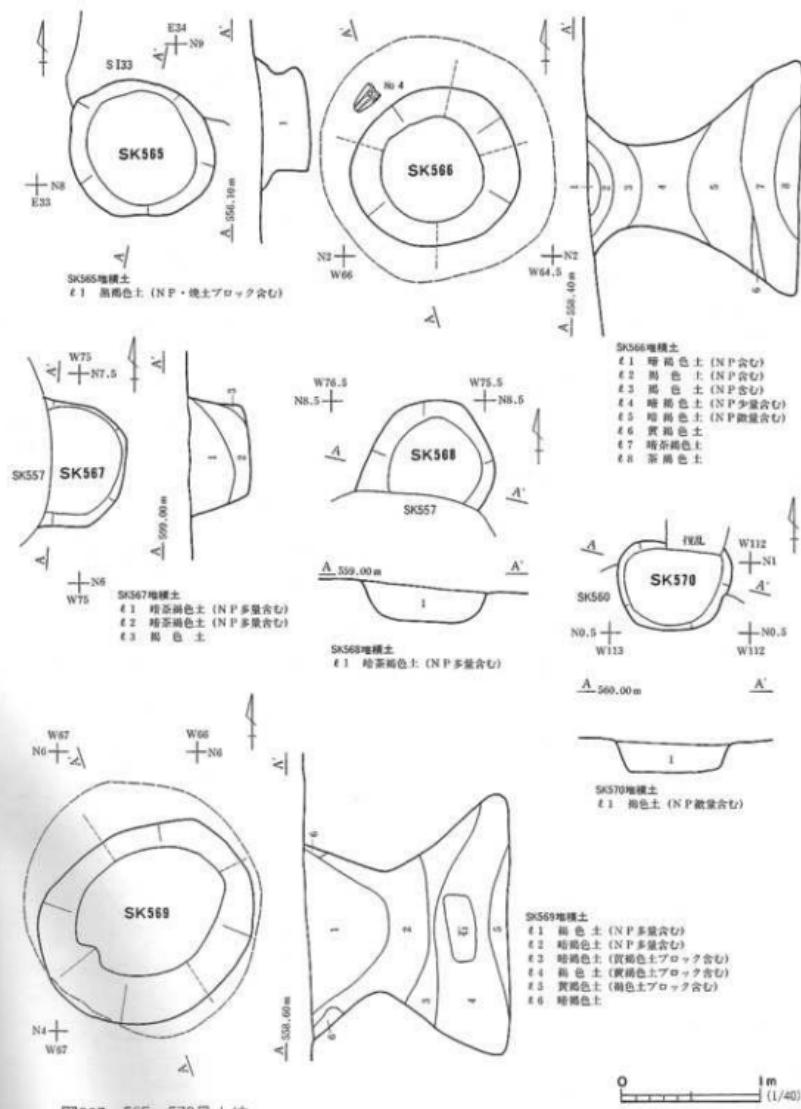


図387 565~570号土坑

第2章 遺構と遺物

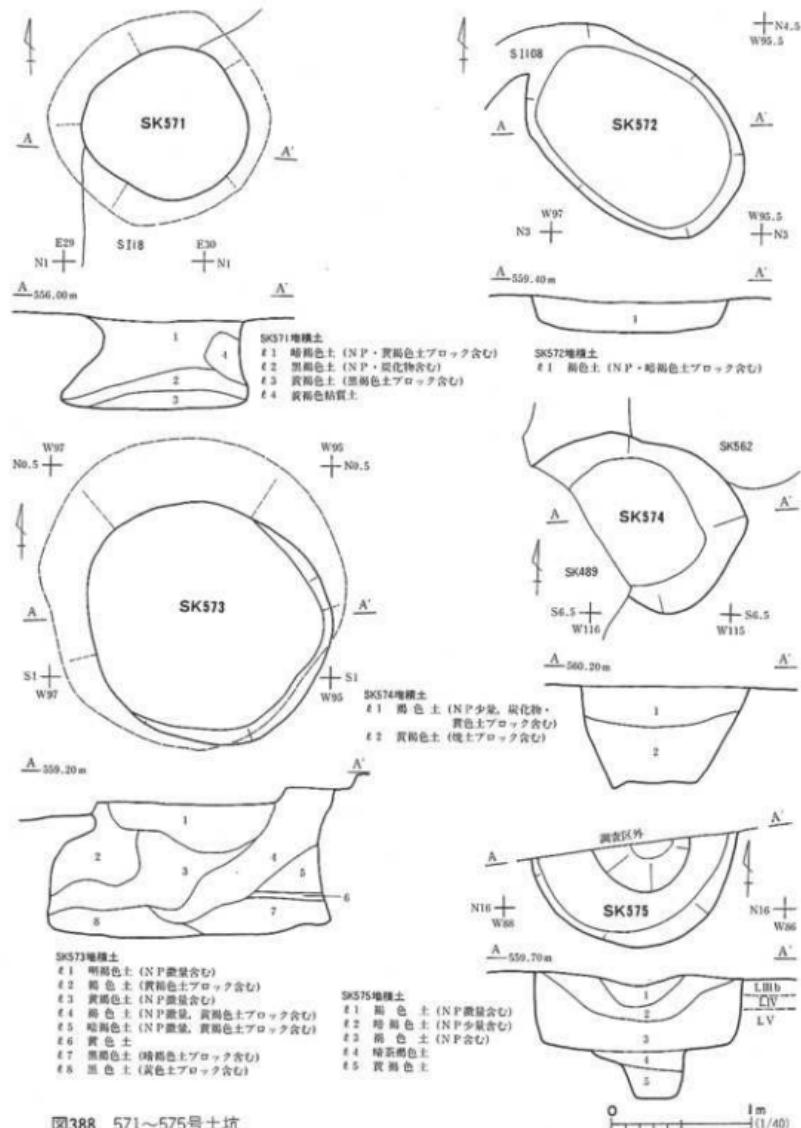


図388 571～575号土坑

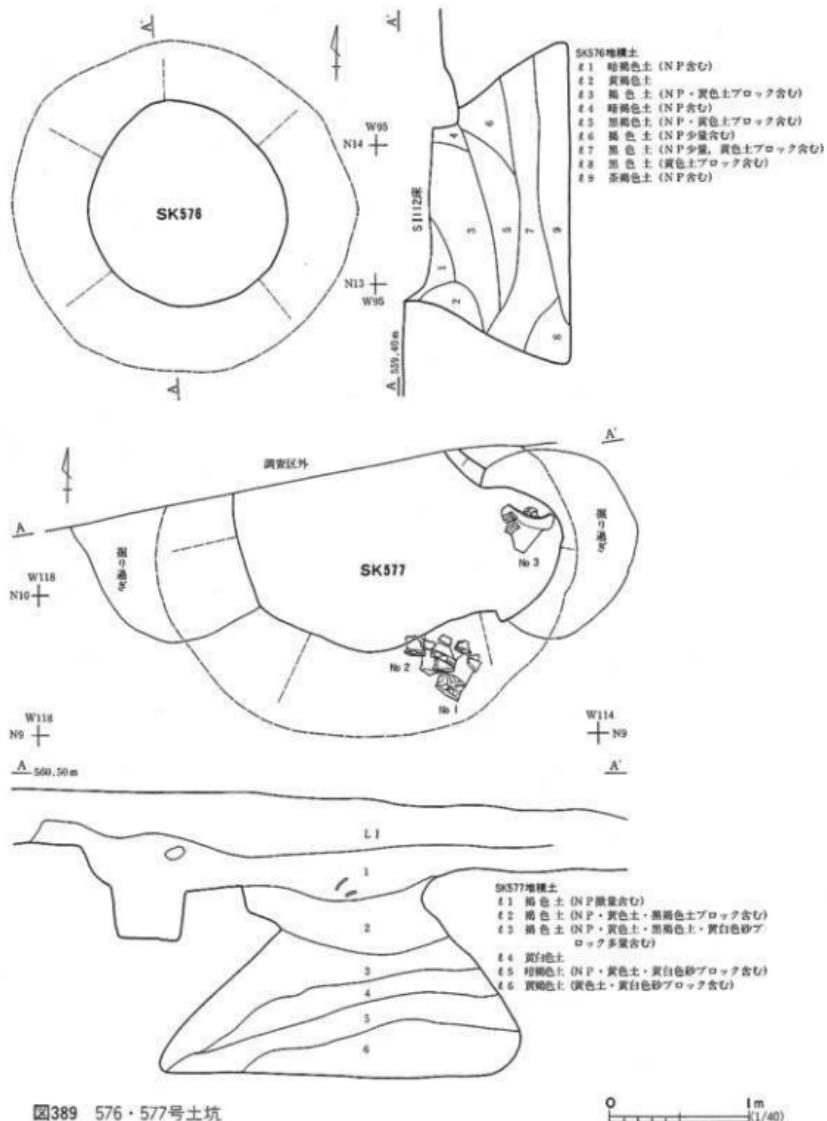


図389 576・577号土坑

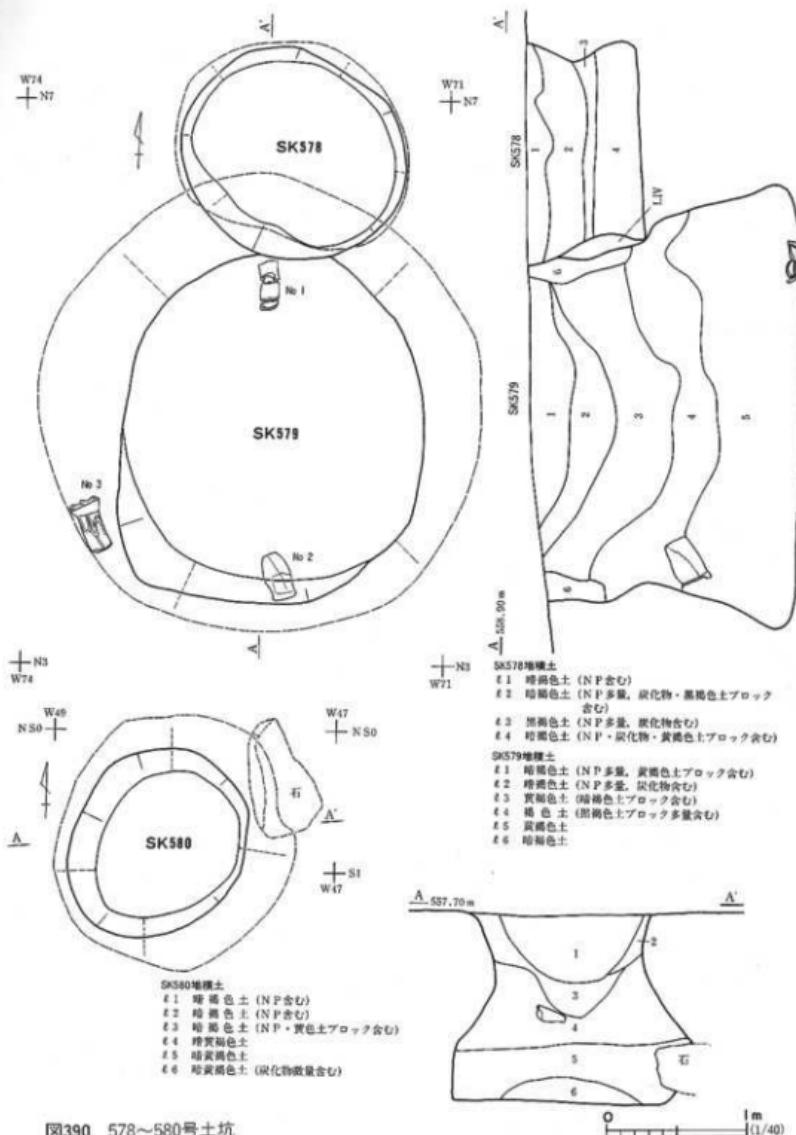


図390 578～580号土坑

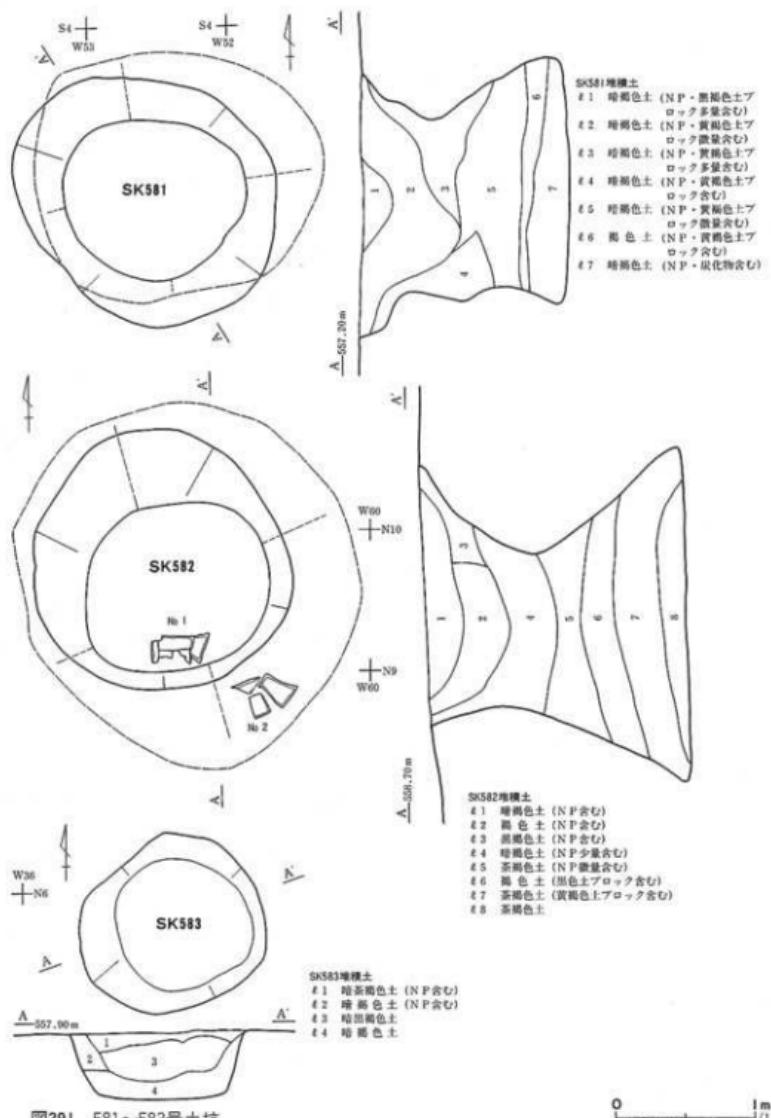


図391 581~583号土坑

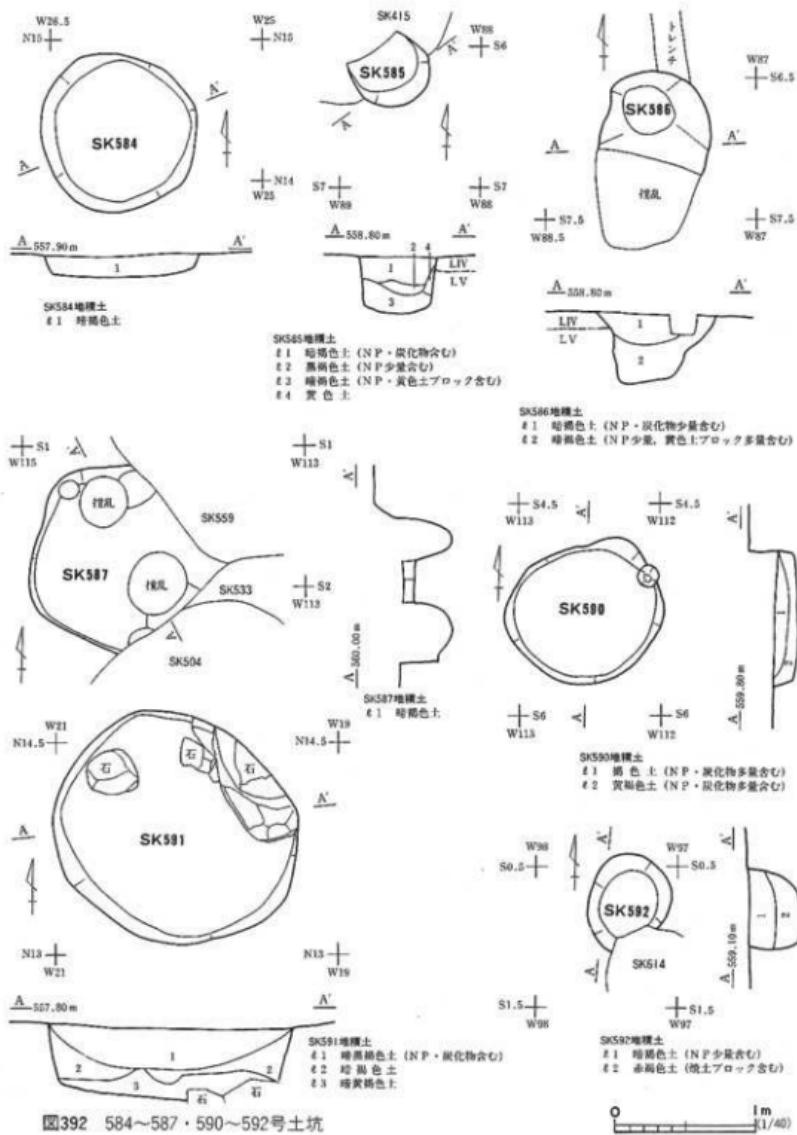


図392 584~587・590~592号土坑

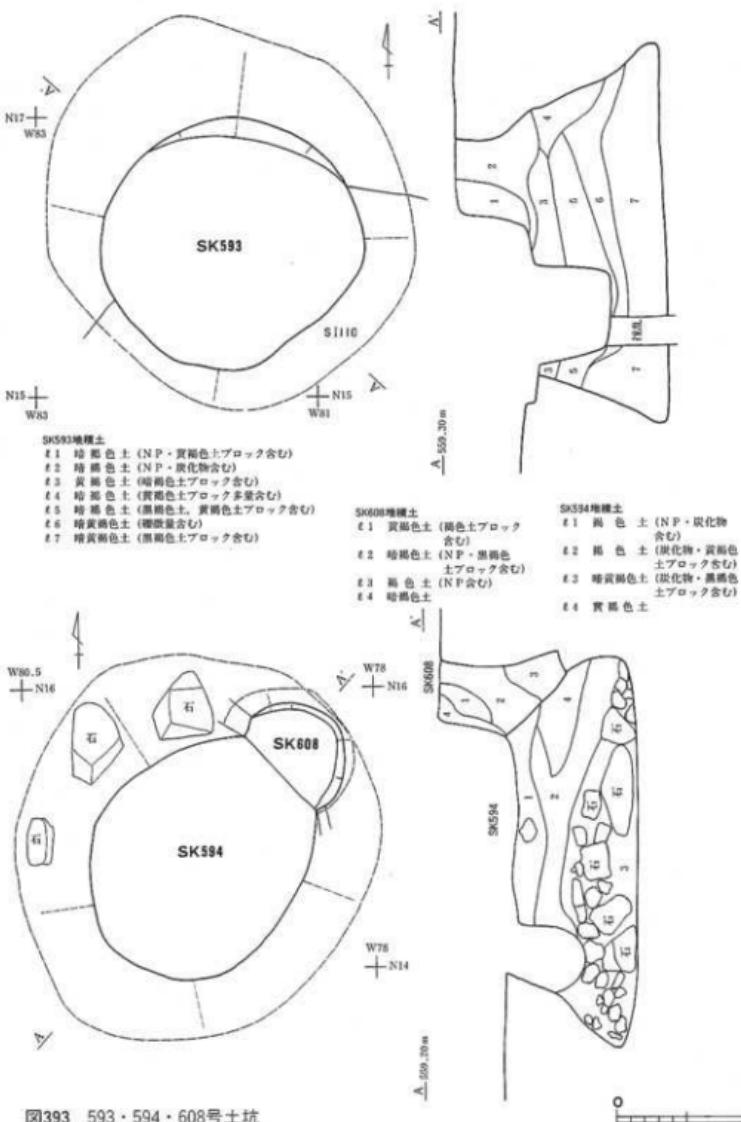


図393 593・594・608号土坑

第2章 遺構と遺物

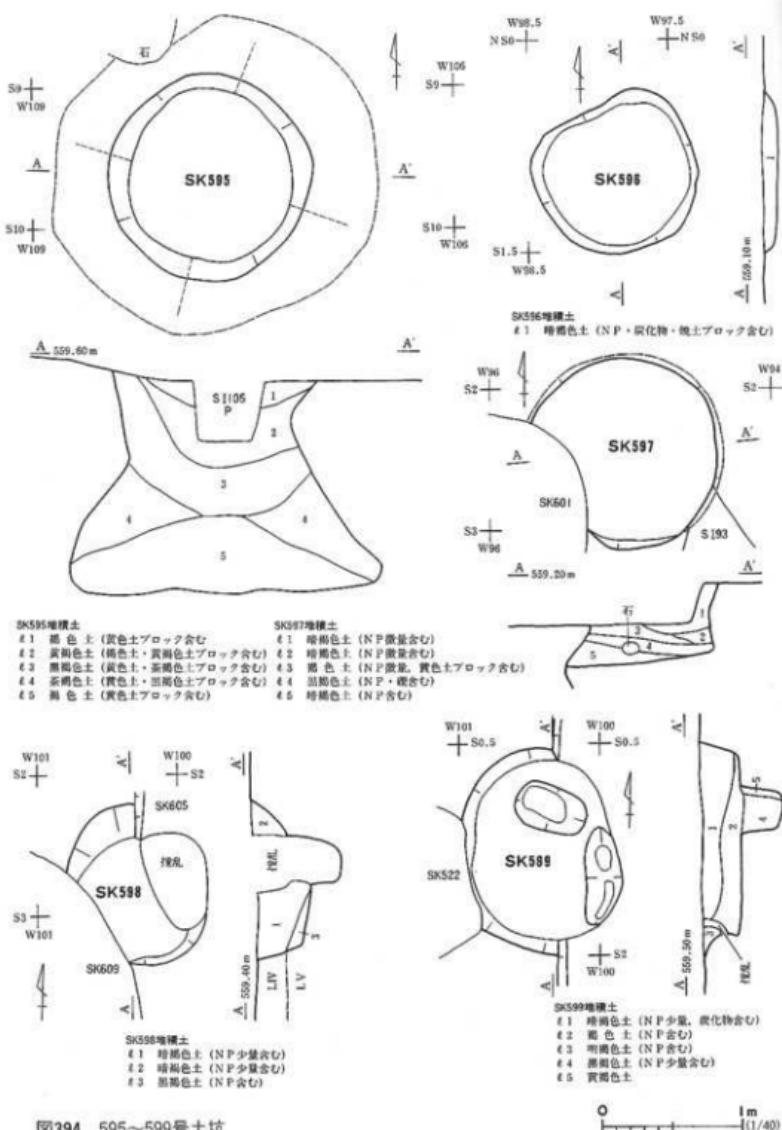


図394 595~599号土坑

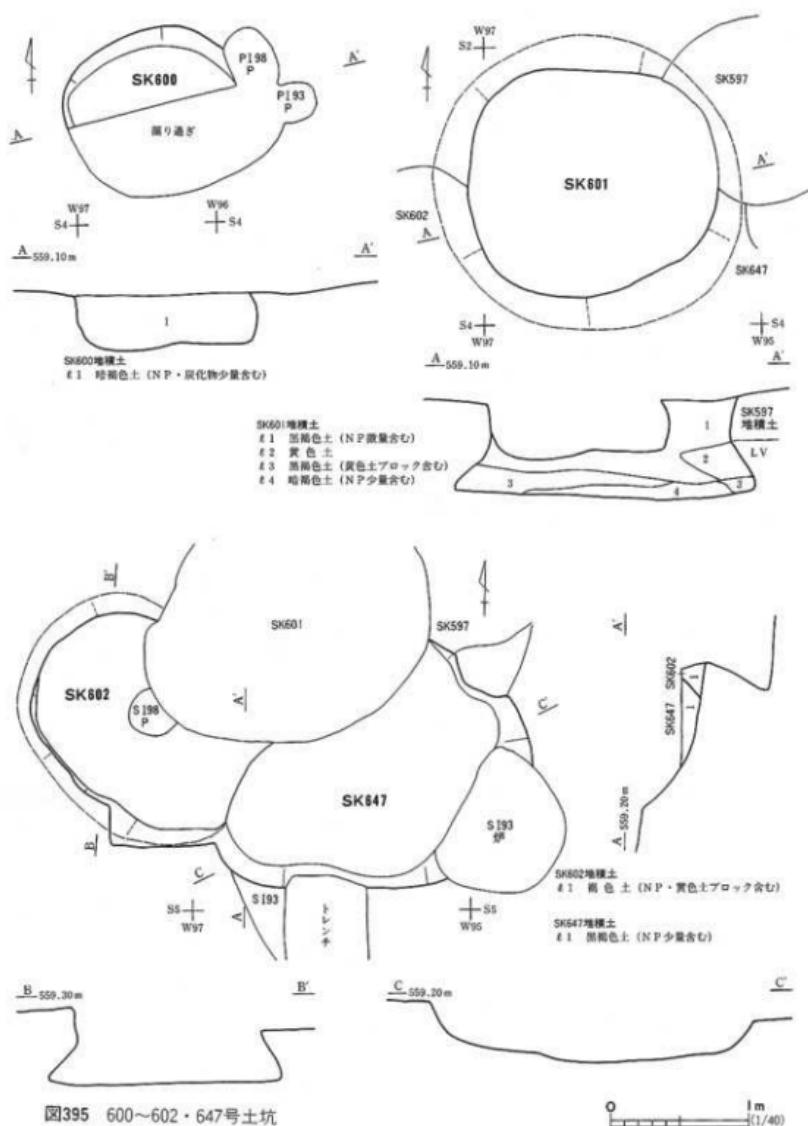


図395 600~602・647号土坑

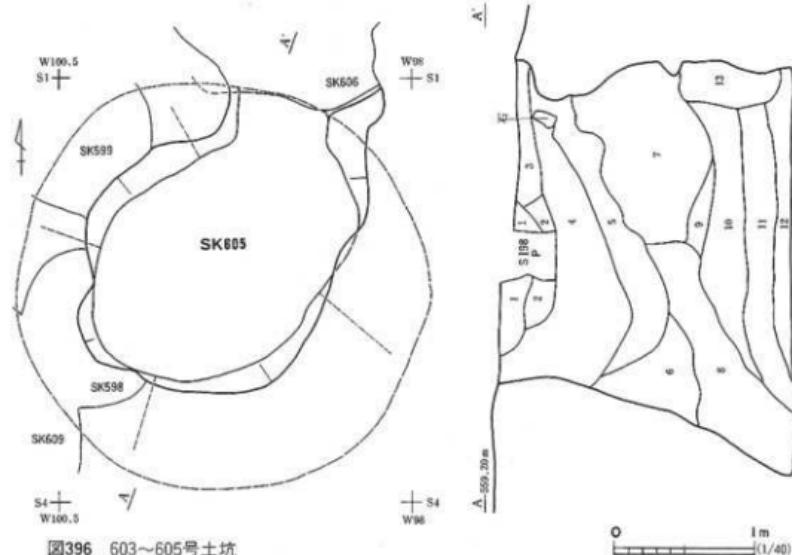
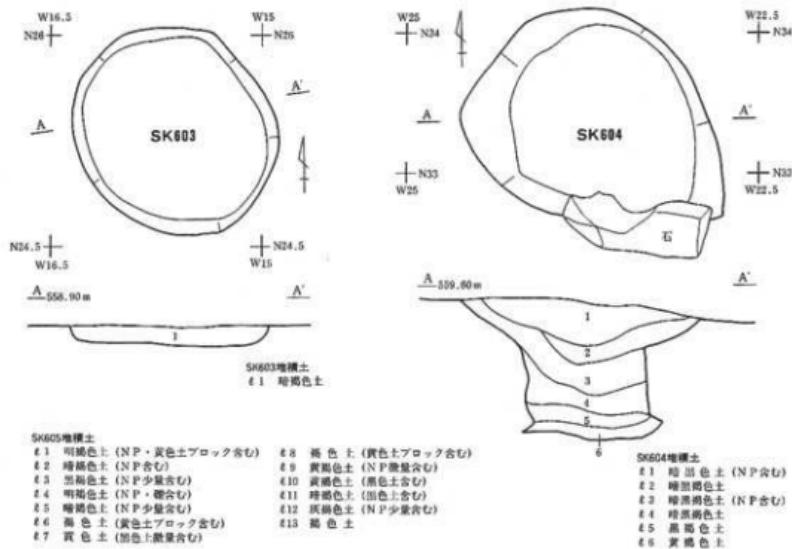


図396 603~605号土坑

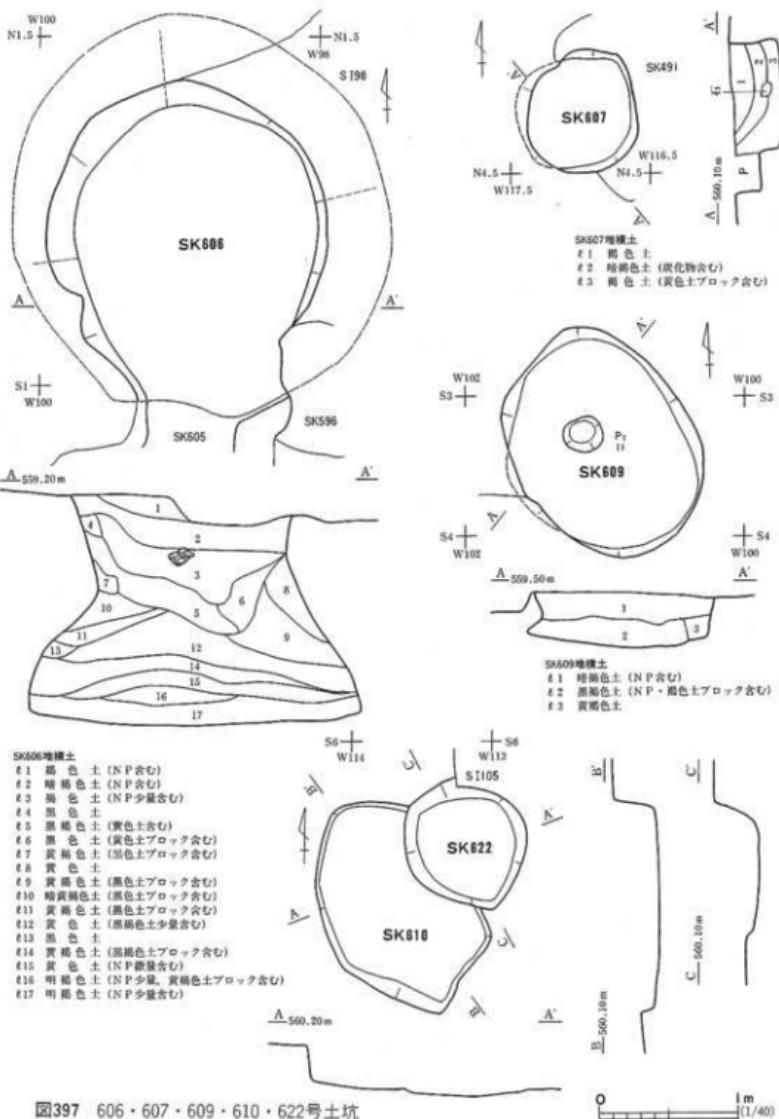


図397 606・607・609・610・622号土坑

第2章 造構と遺物

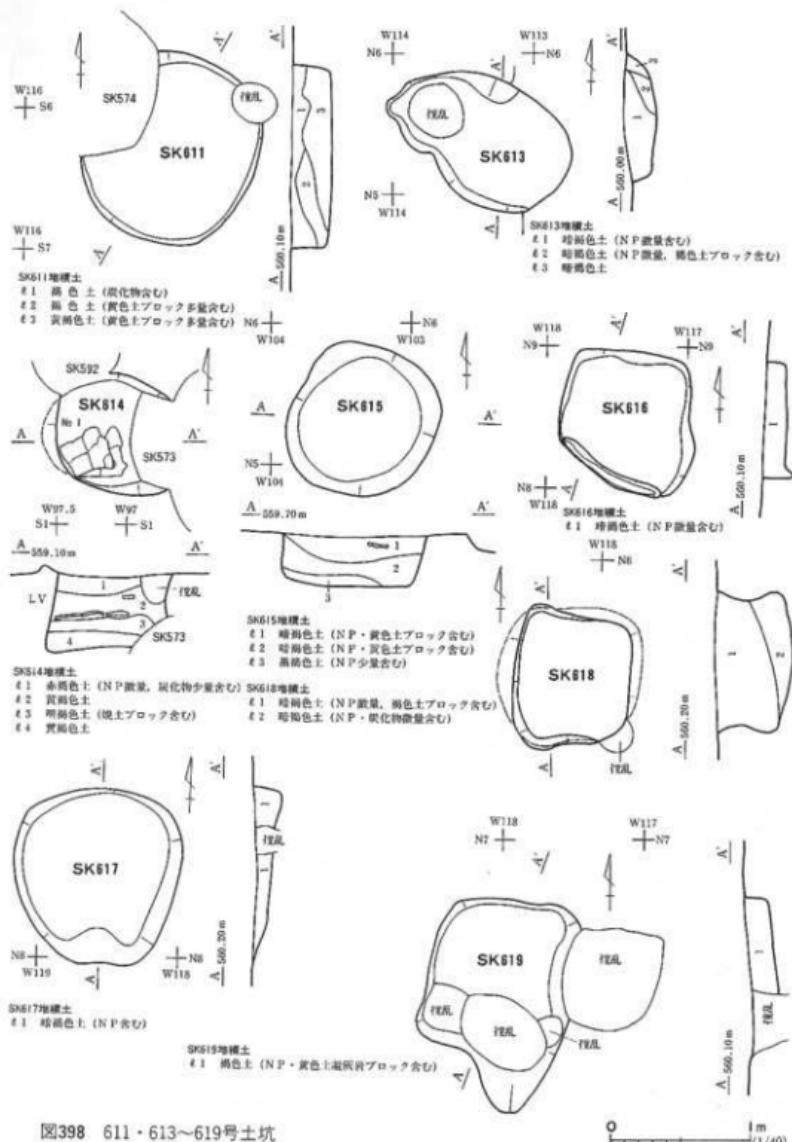


図398 611・613~619号土坑

第3節 土 坑

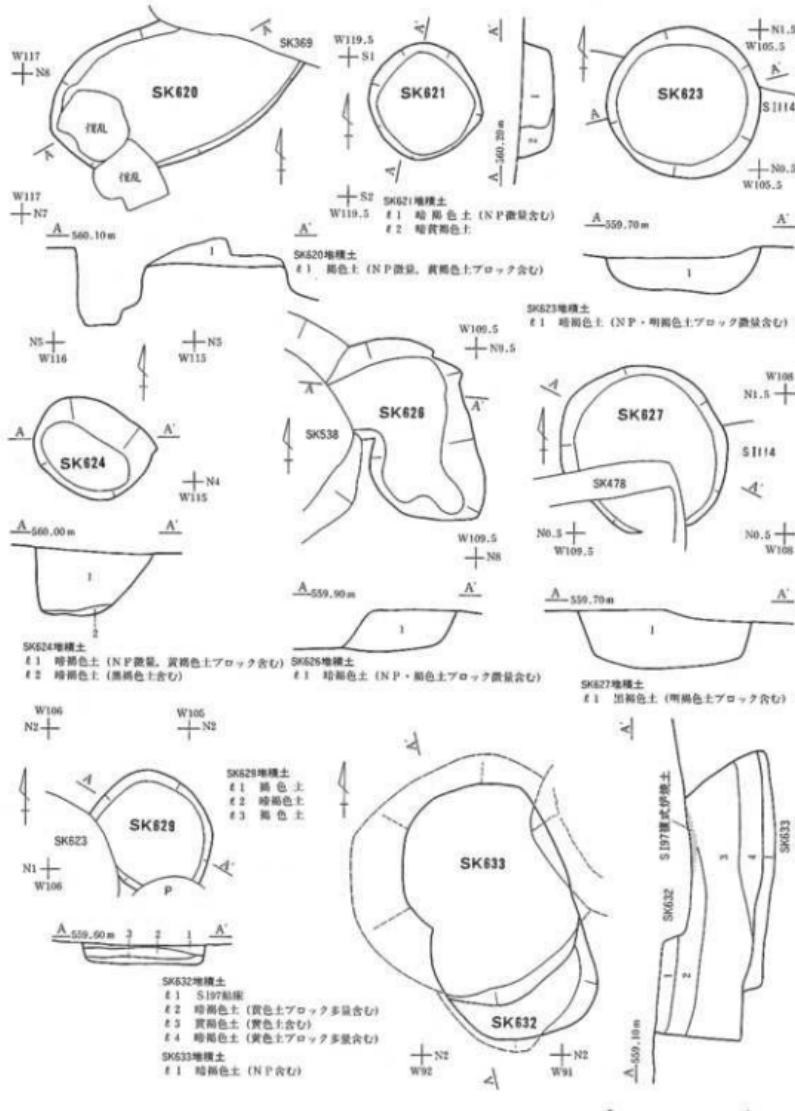


図399 620・621・623・624・626・627・629・632・633号土坑

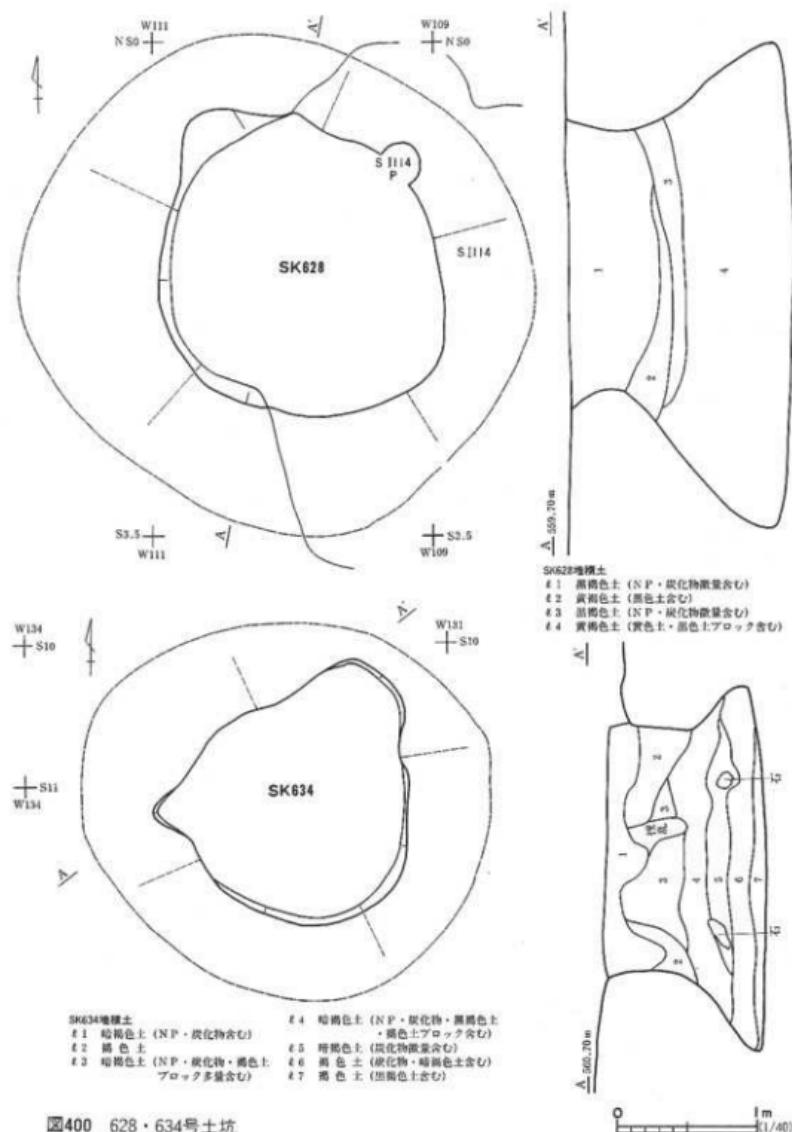


図400 628・634号土坑

第3節 土 坑

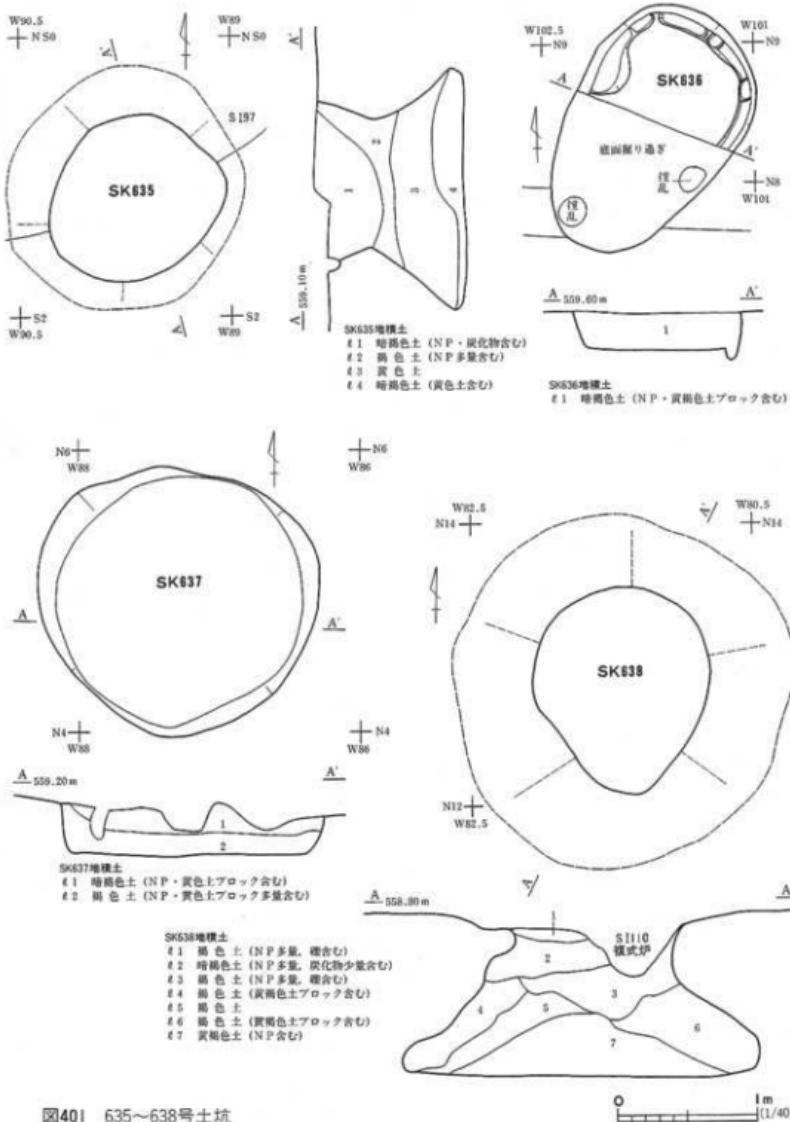


図401 635~638号土坑

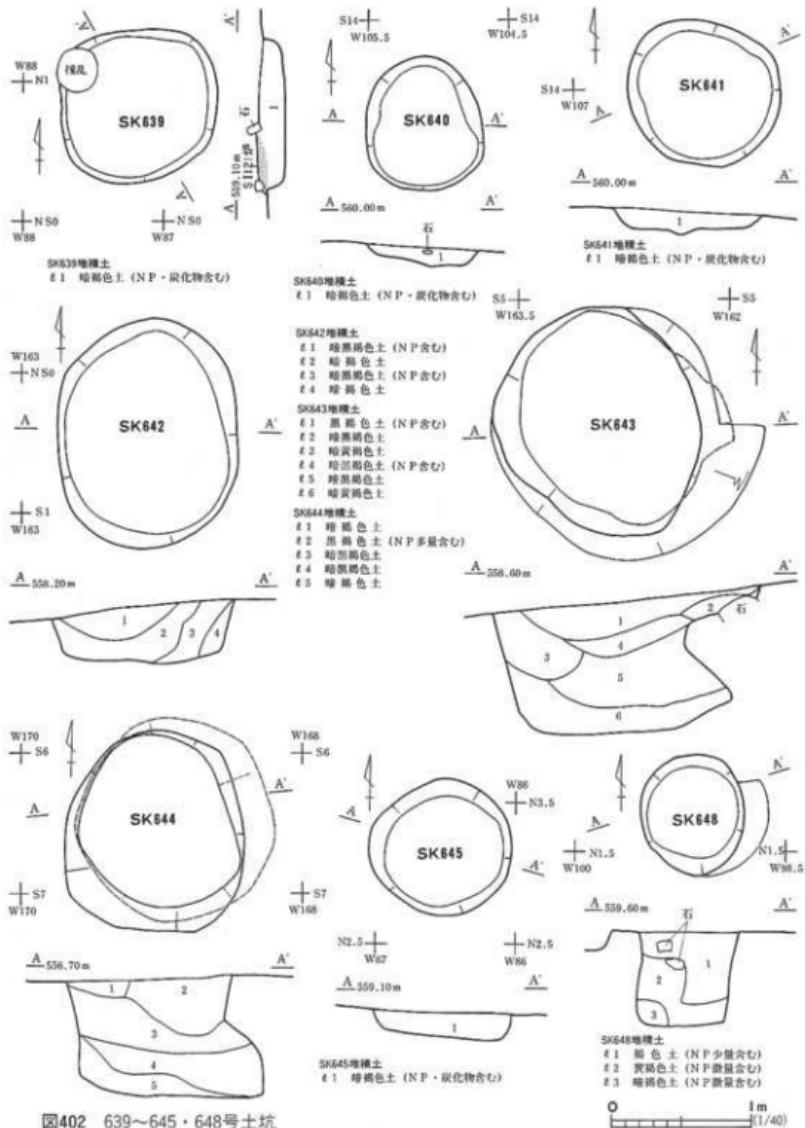


図402 639～645・648号土坑

第3節 土 坑

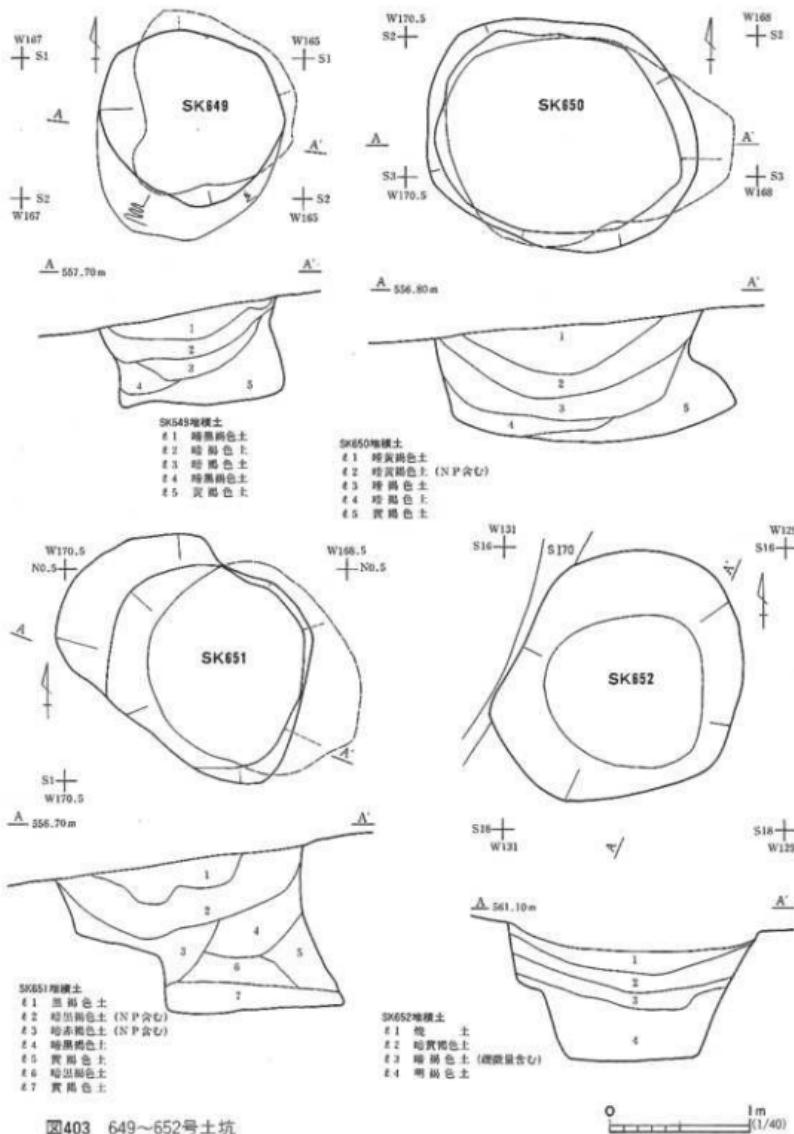


図403 649~652号土坑

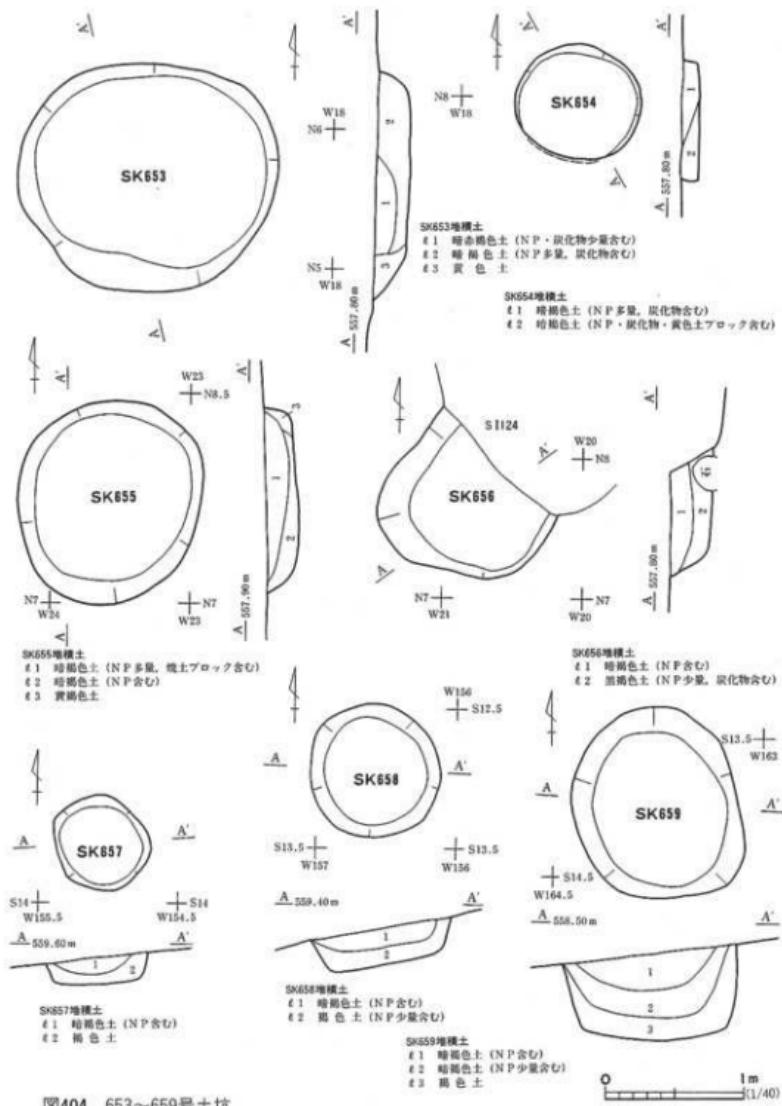


図404 653~659号土坑

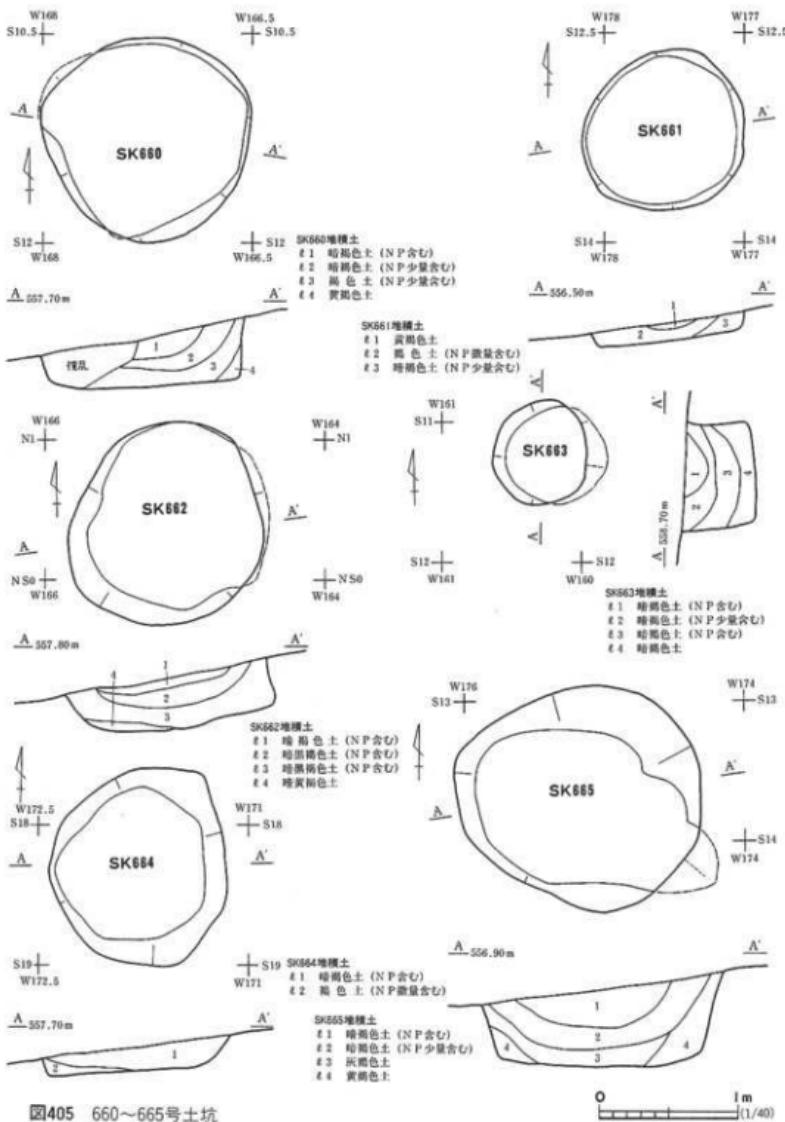


図405 660～665号土坑

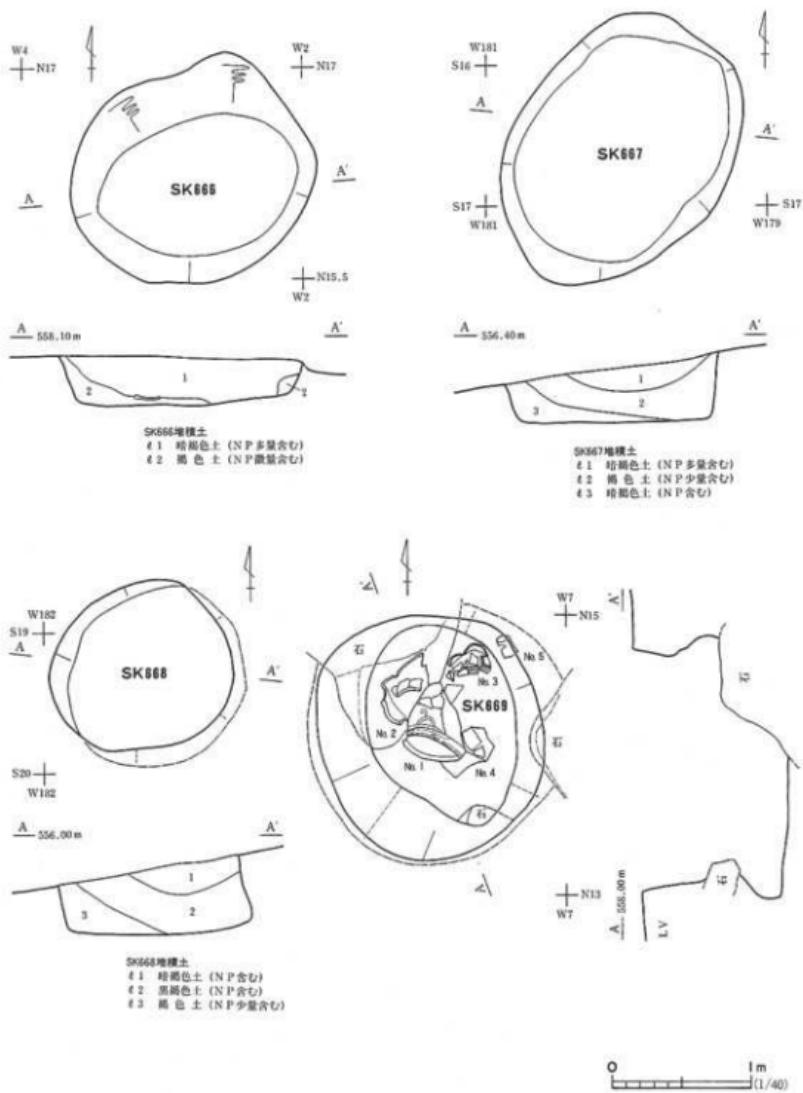


図406 666~669号土坑

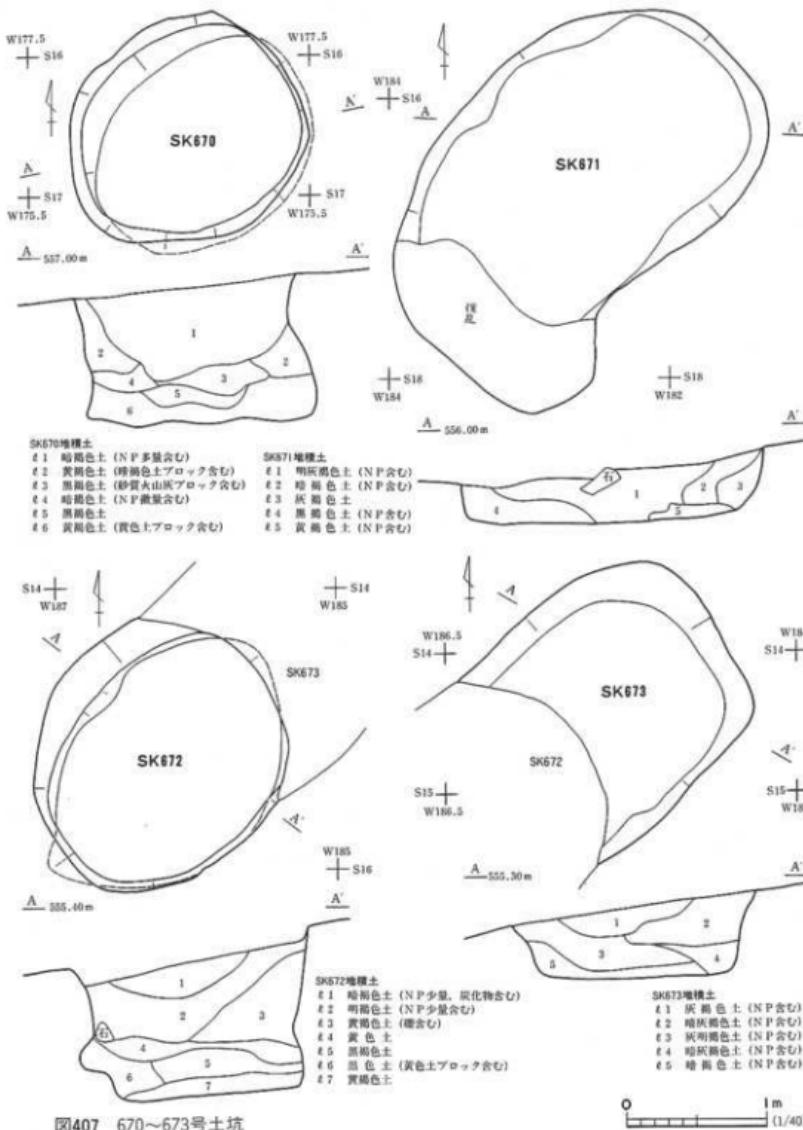


図407 670~673号土坑

第2章 造構と遺物

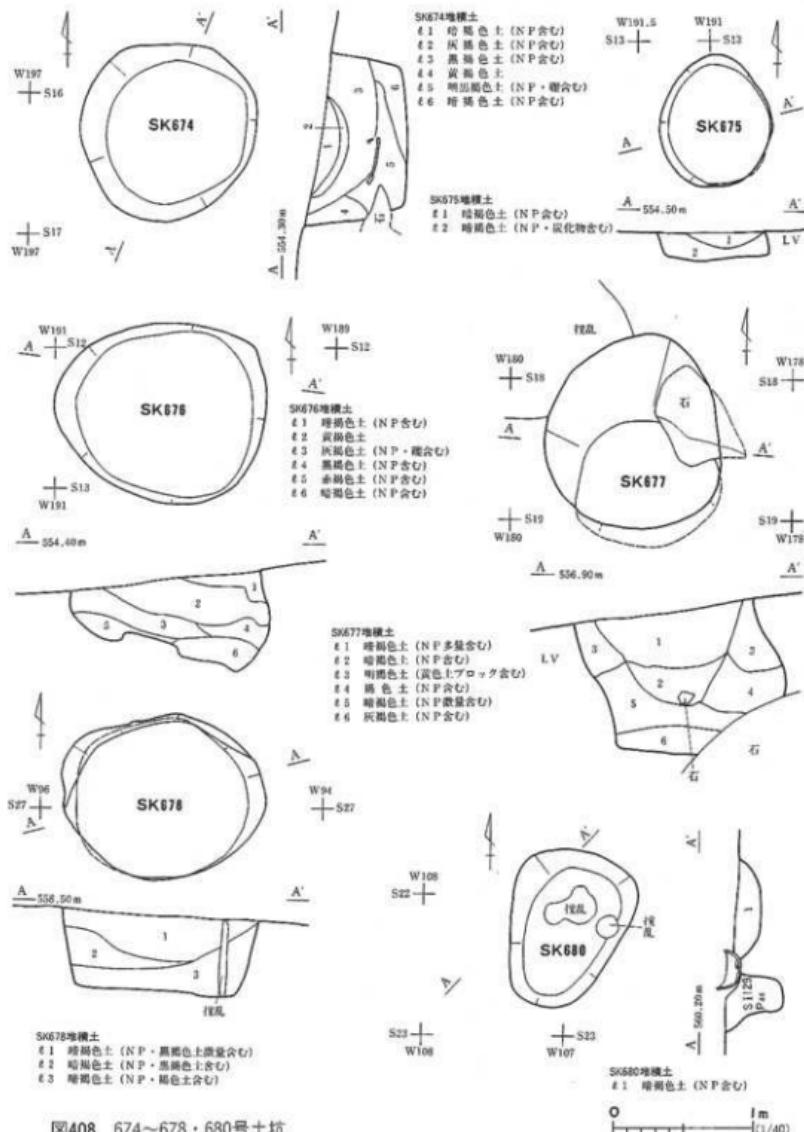


図408 674~678・680号土坑

第3節 土 坑

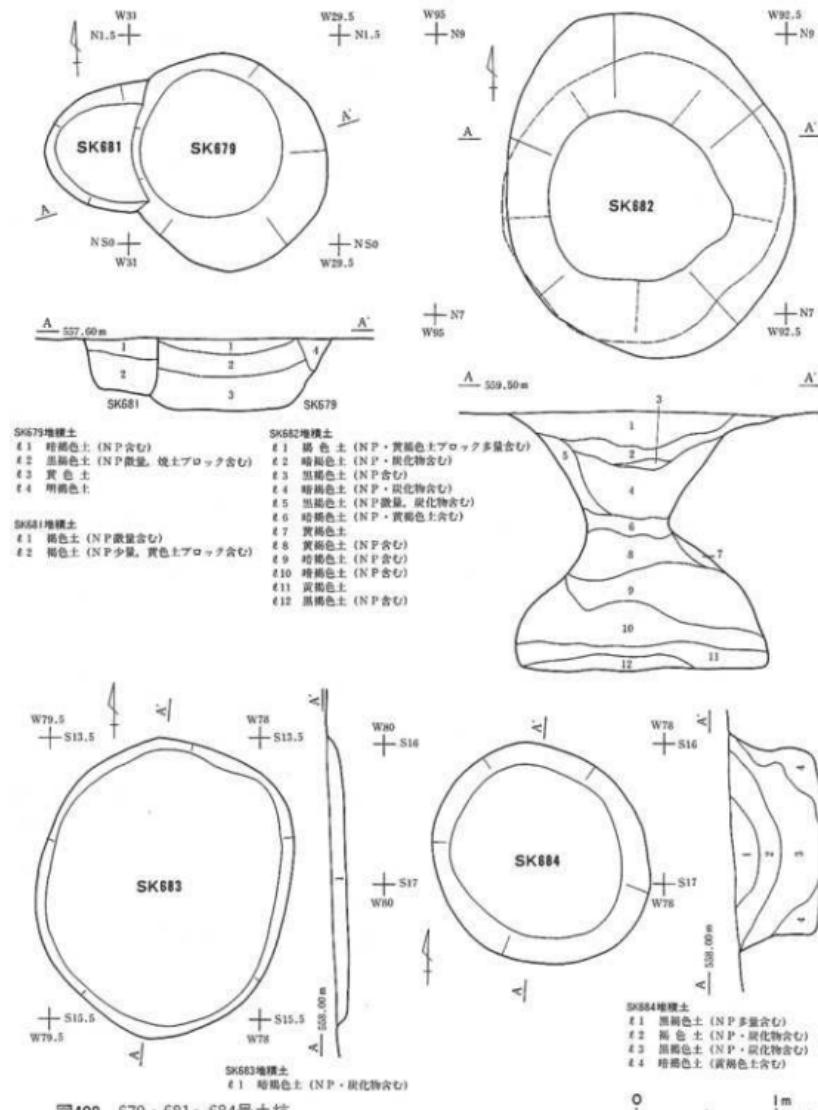


図409 679・681~684号土坑

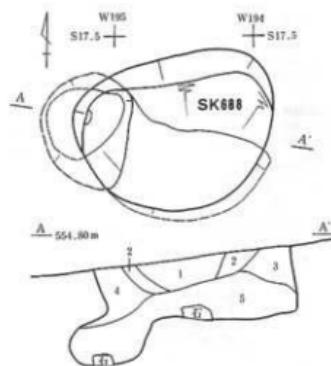
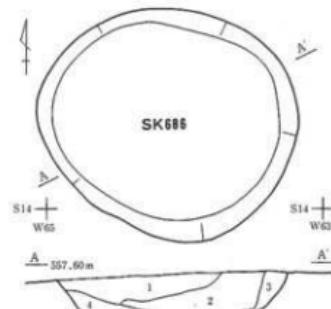
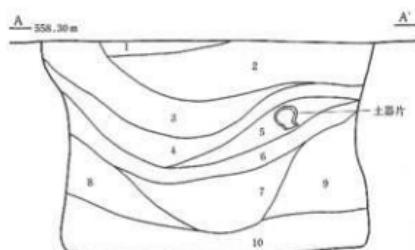
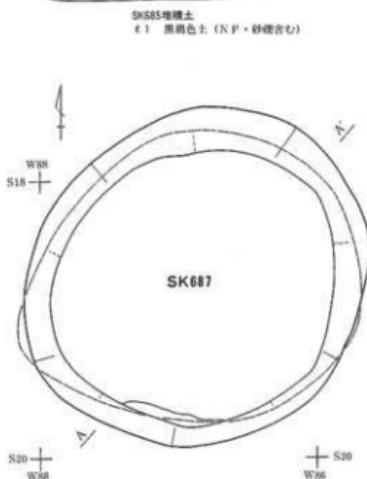
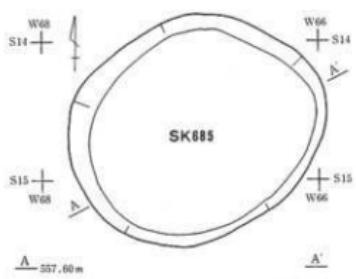


図410 685～688号土坑



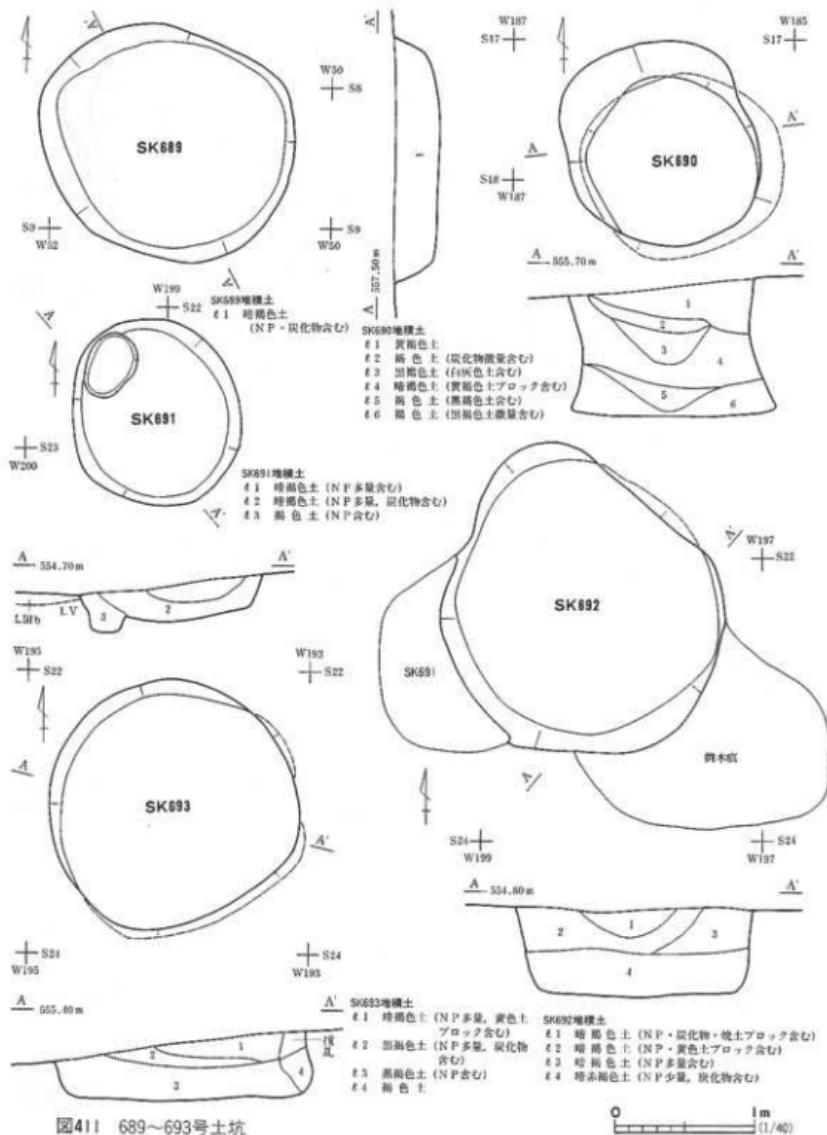


図411 689～693号土坑



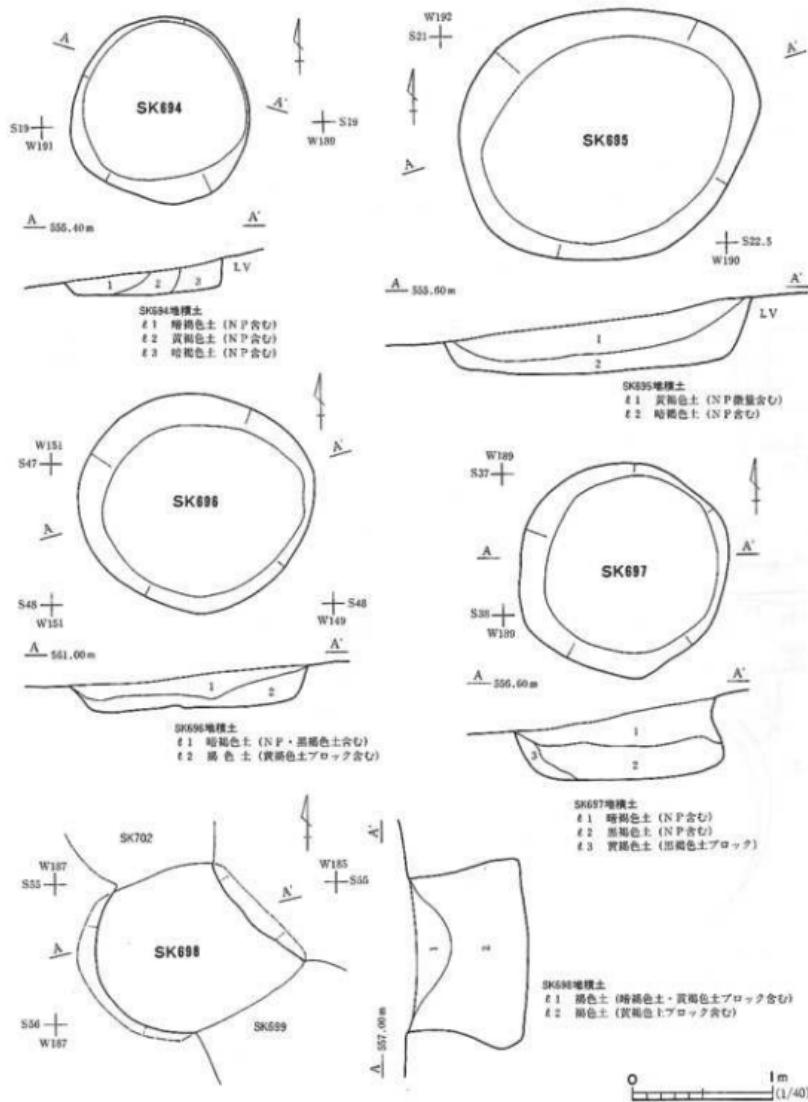


図412 694~698号土坑

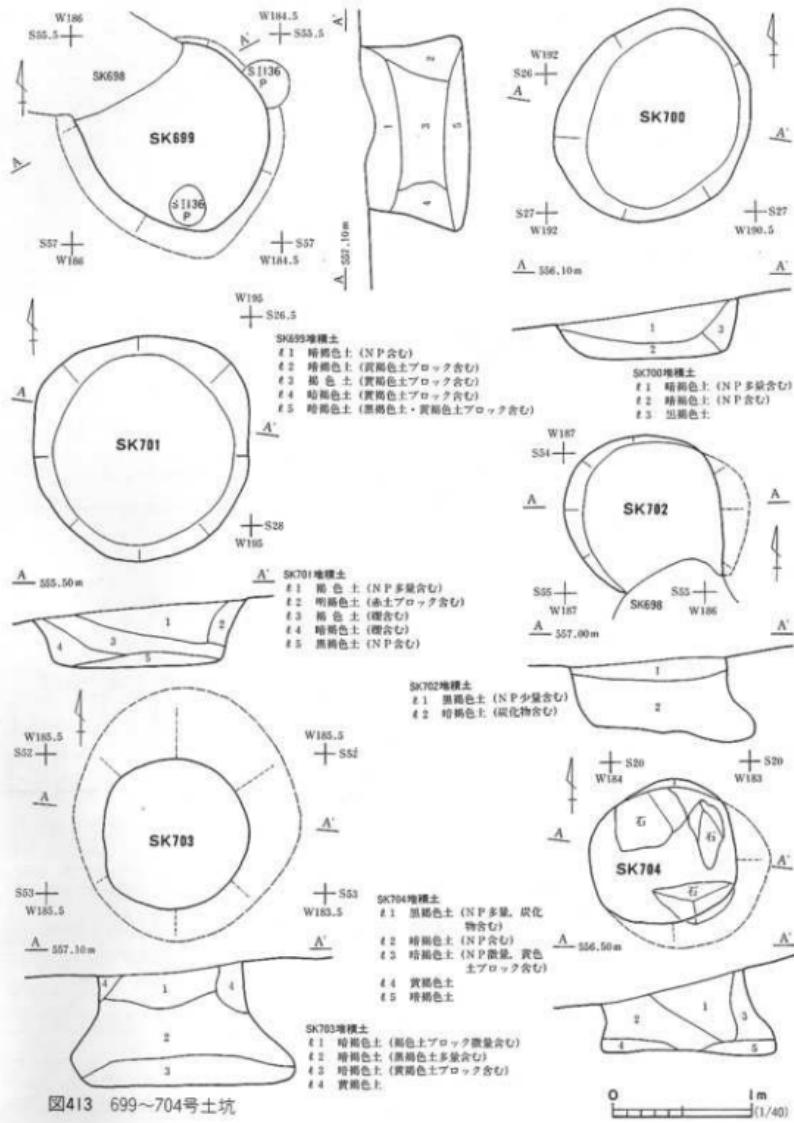


図413 699～704号土坑

第2章 遺構と遺物

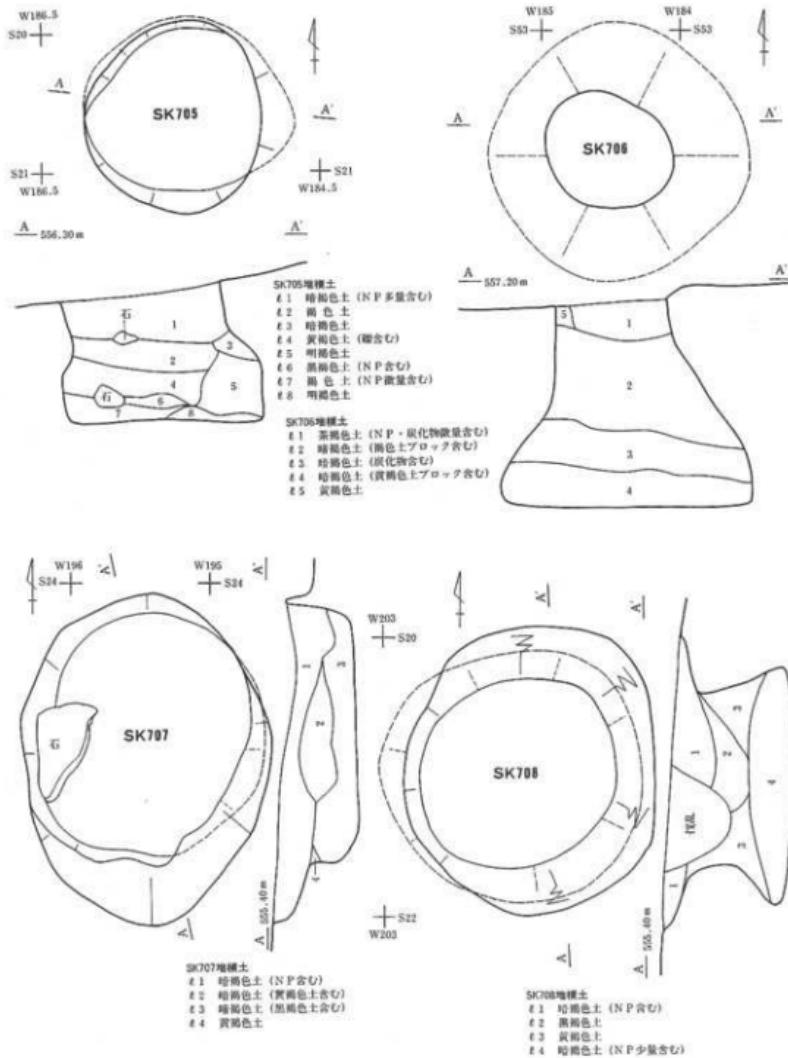


図414 705~708号土坑



第3節 土 坑

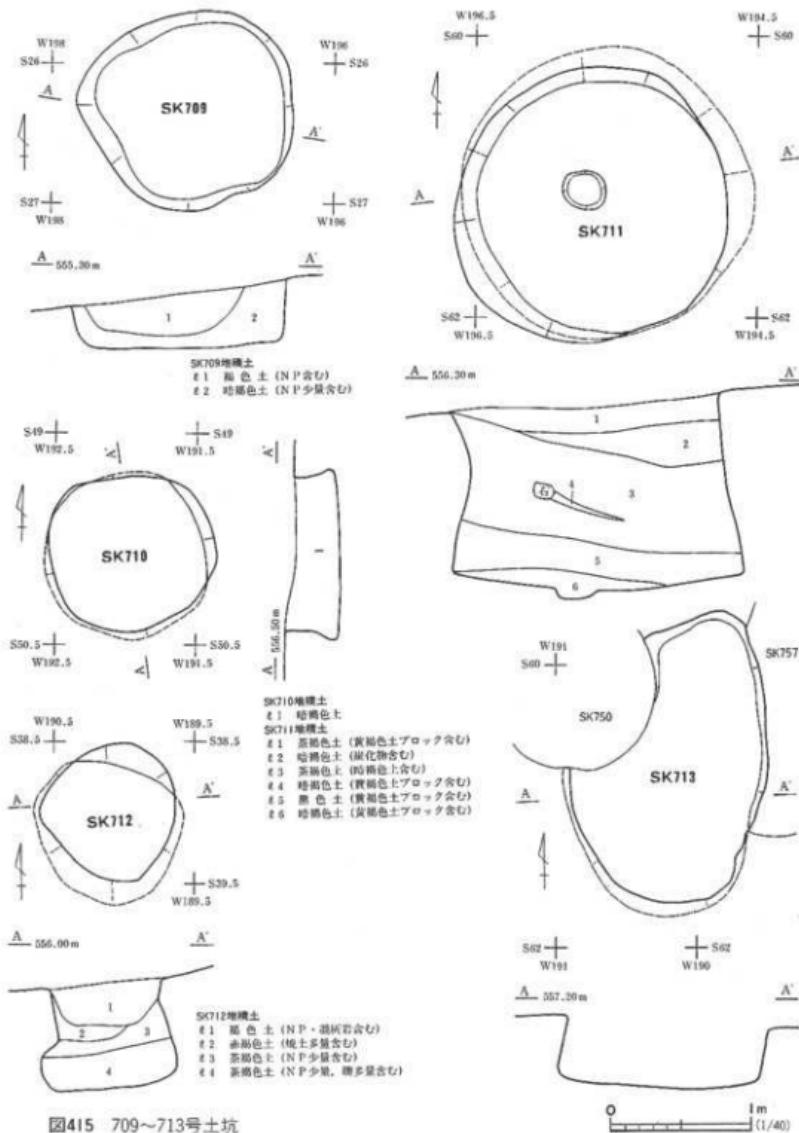


図415 709~713号土坑

第2章 遺構と遺物

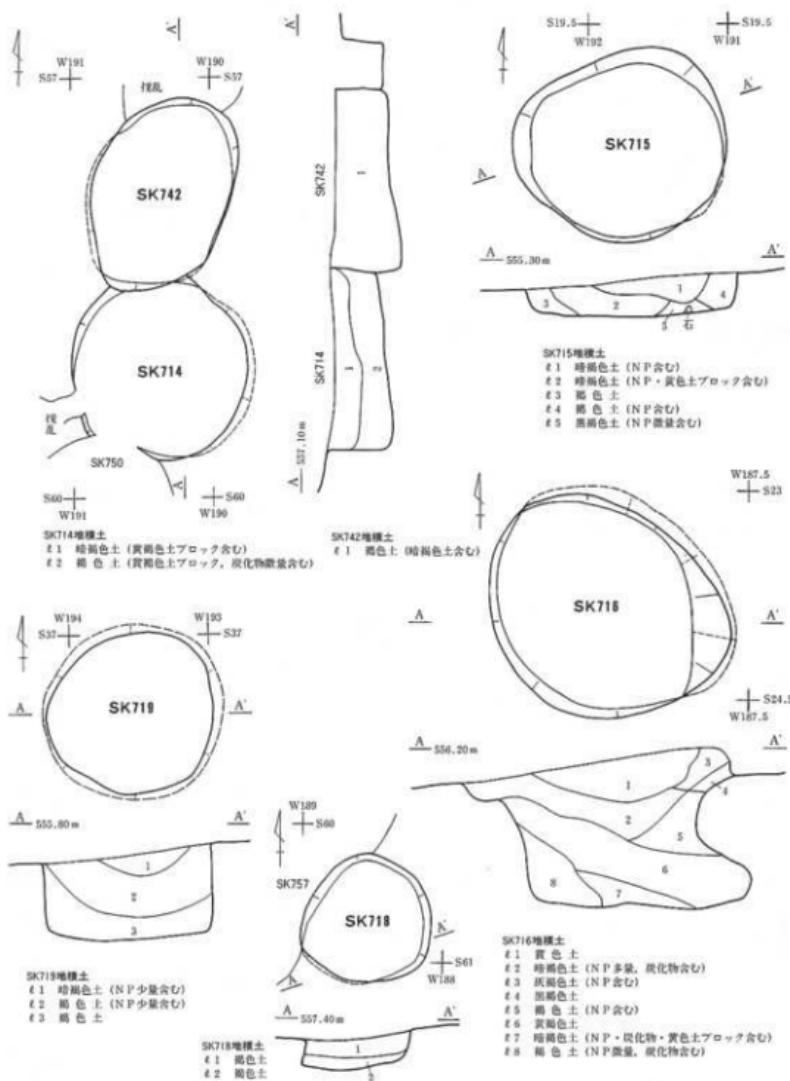


図416 714~716・718・719・742号土坑

第3節 土 坑

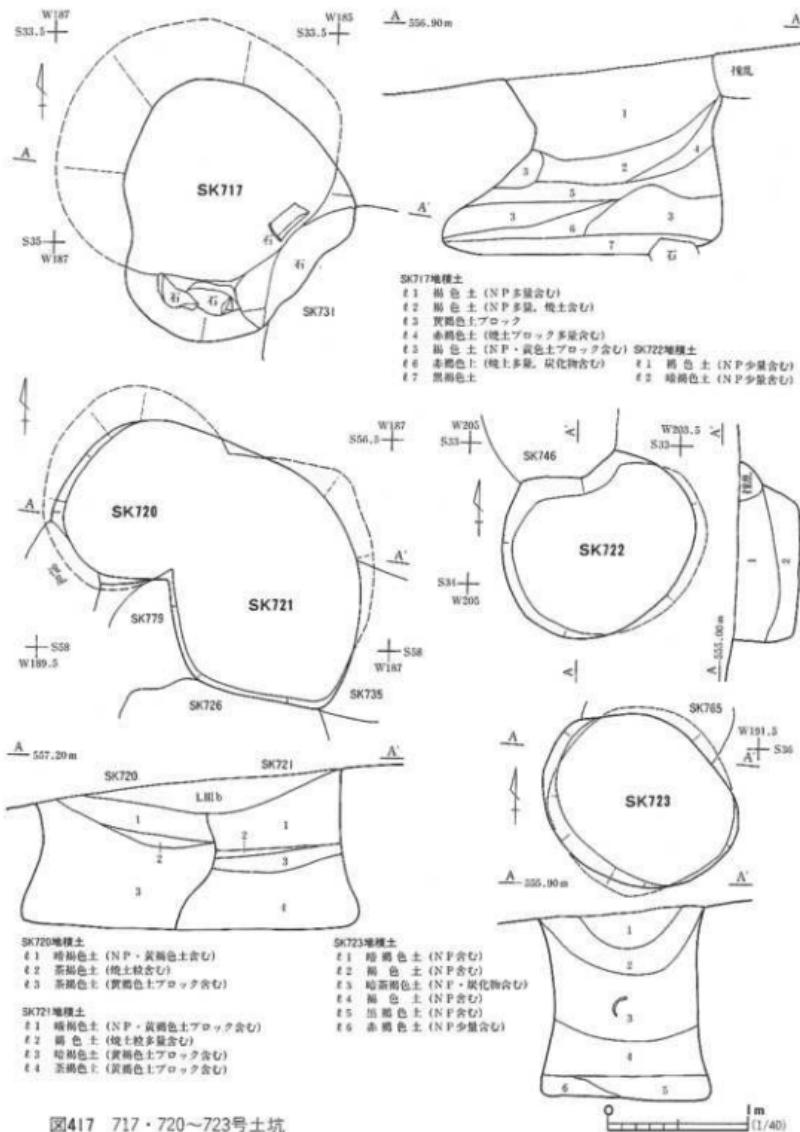


図417 717・720~723号土坑

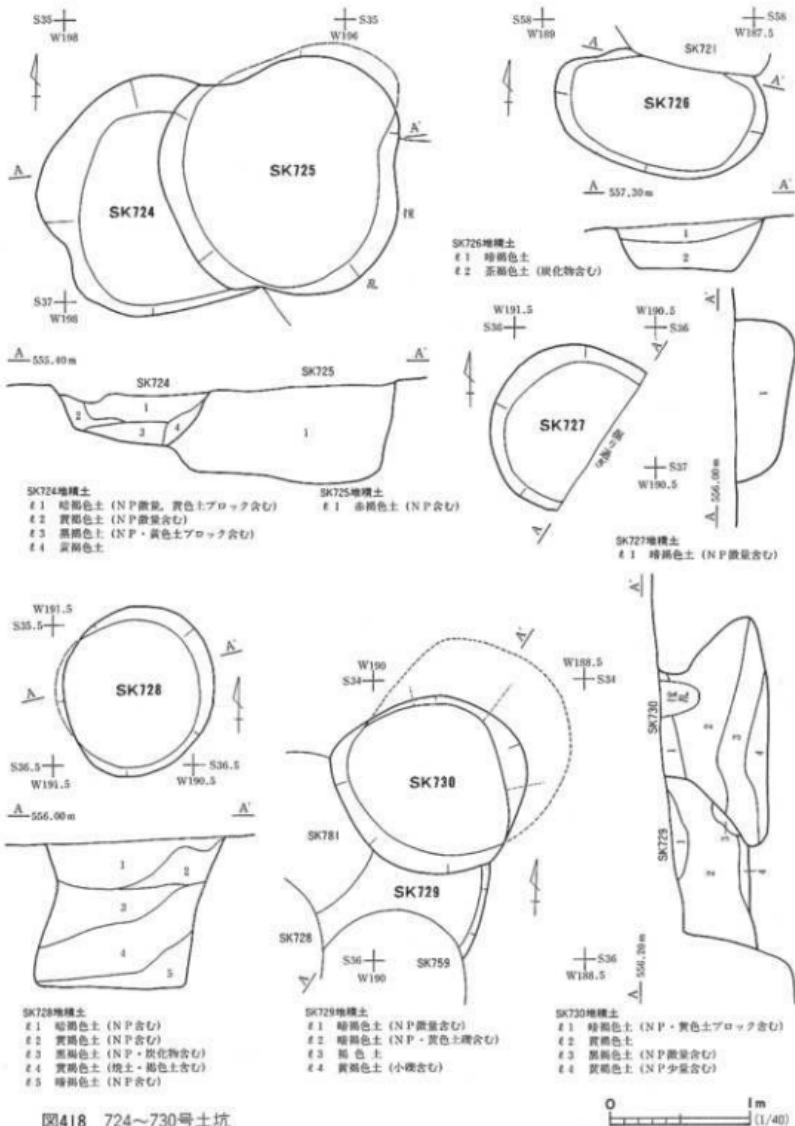


図418 724~730号土坑

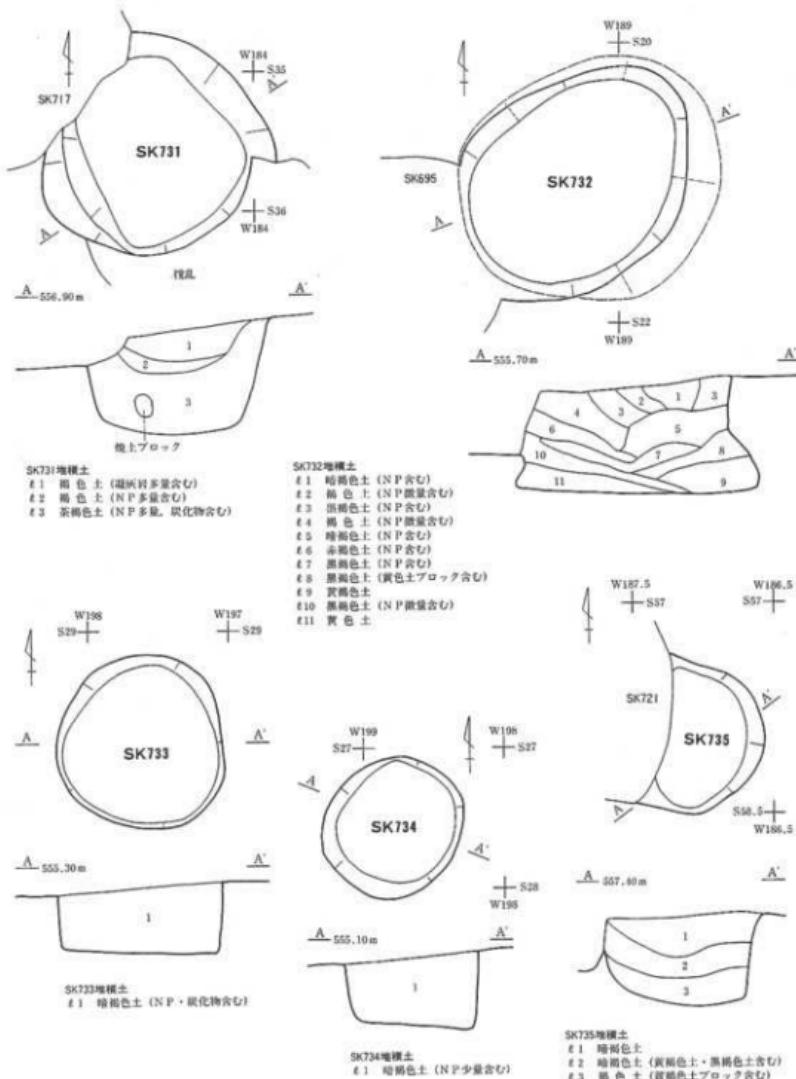
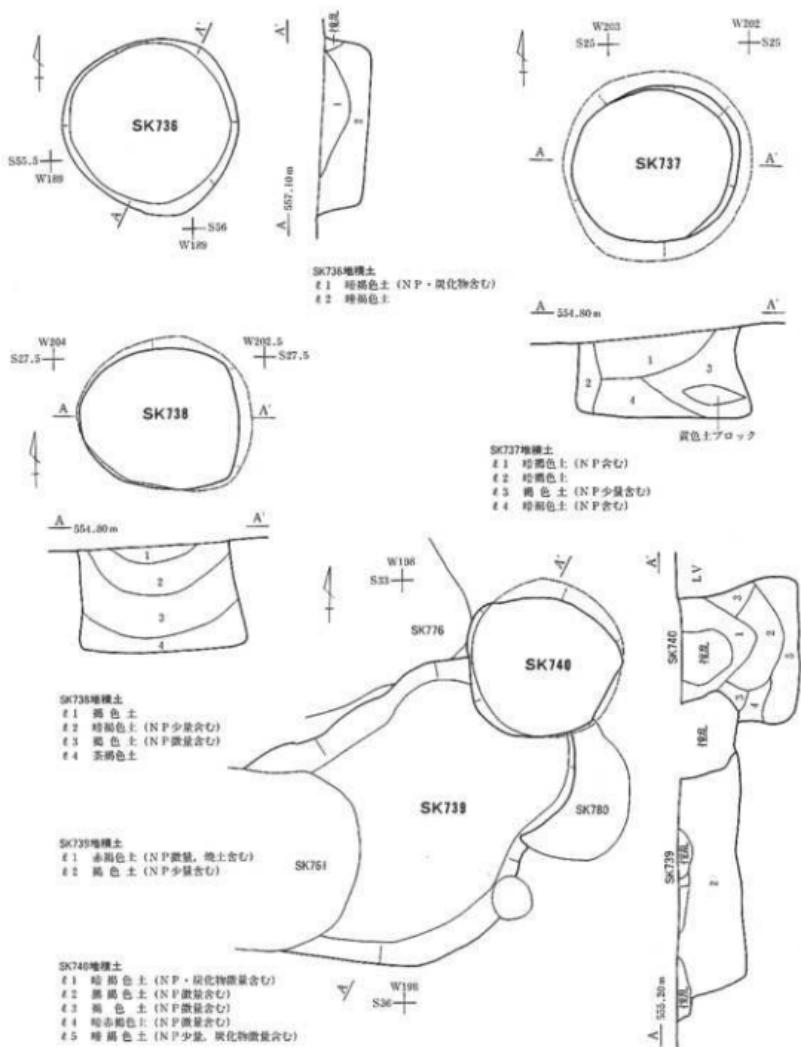


図419 731~735号土坑





■420 736~740号土坑



### 第3節 土 坑

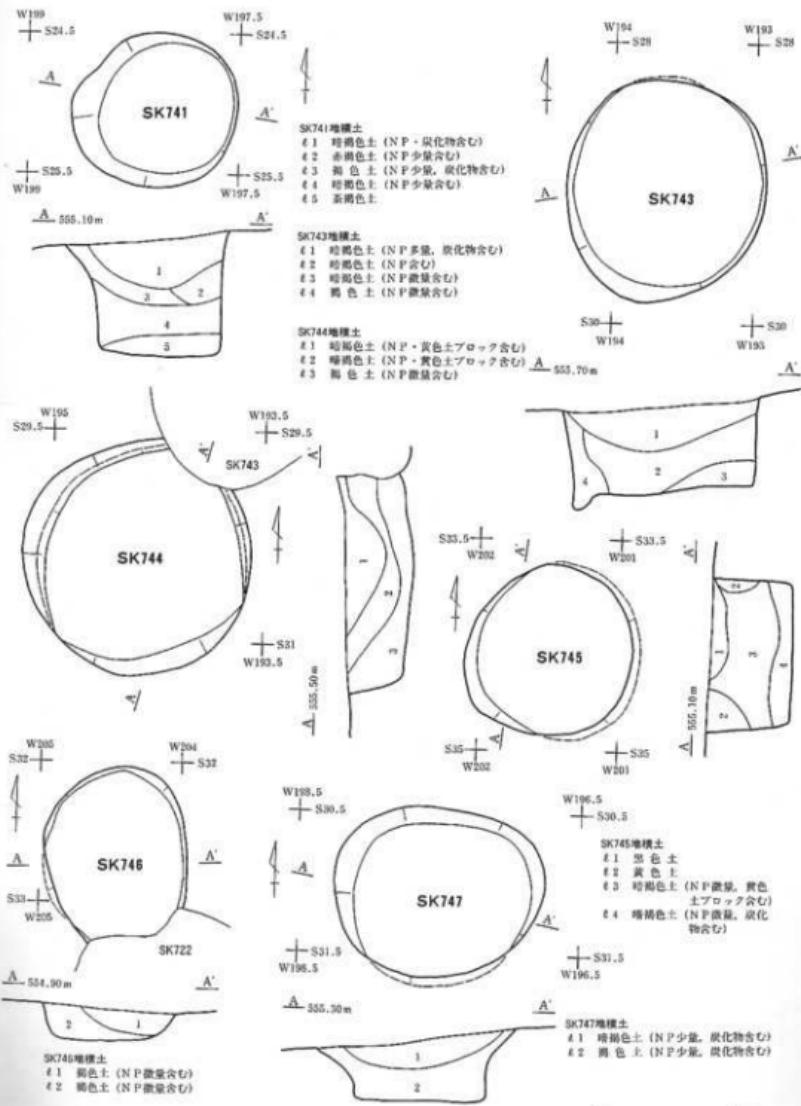


図421 741・742~747号土坑

0 1m  
(1/40)

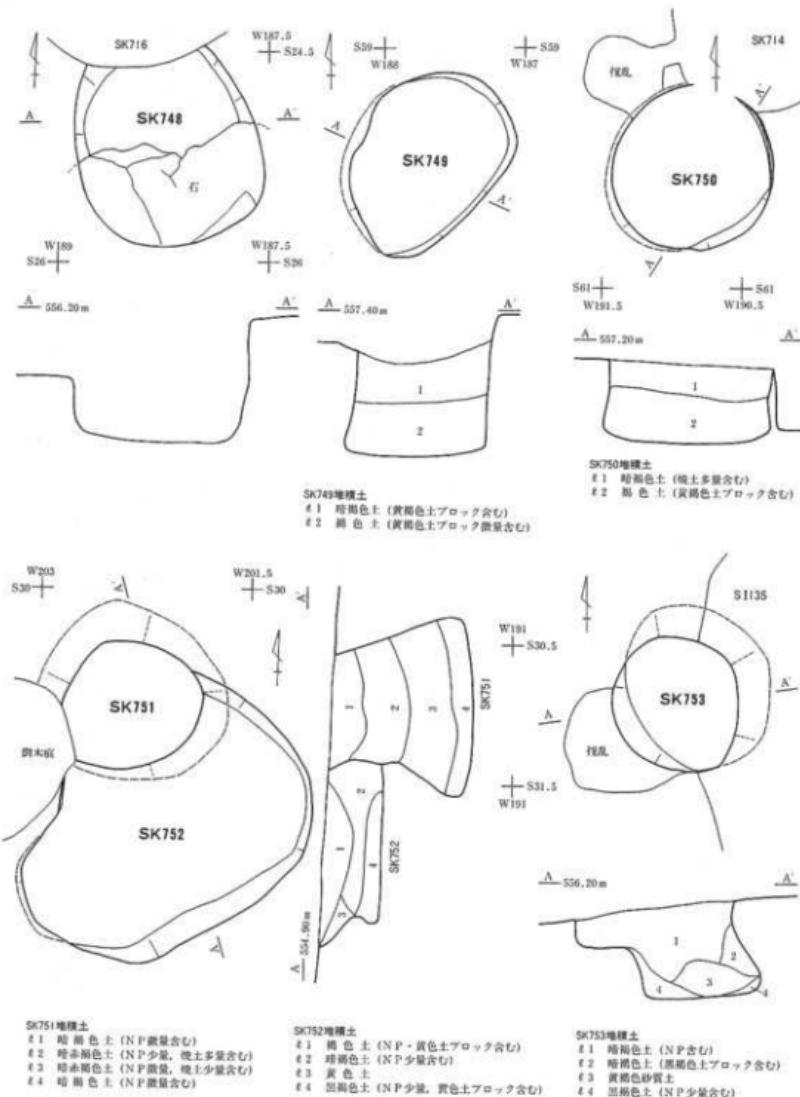


図422 748～753号土坑

0 1m  
(1/40)

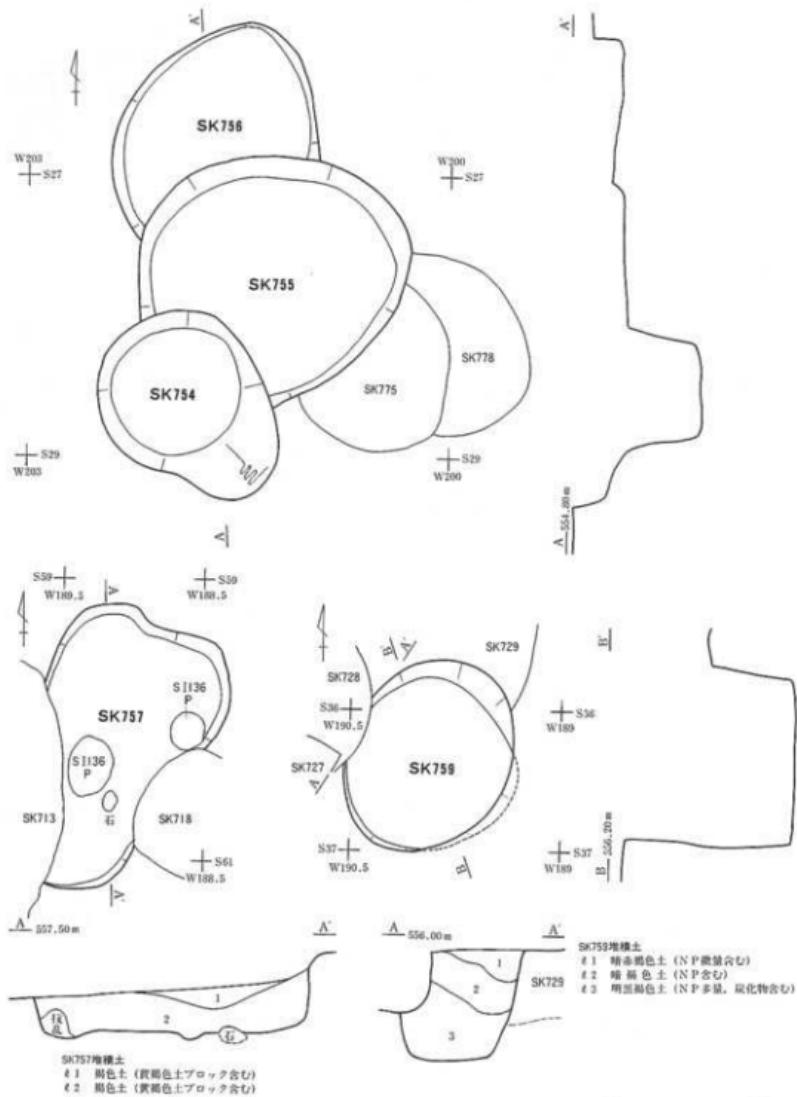


図423 754~757・759号土坑

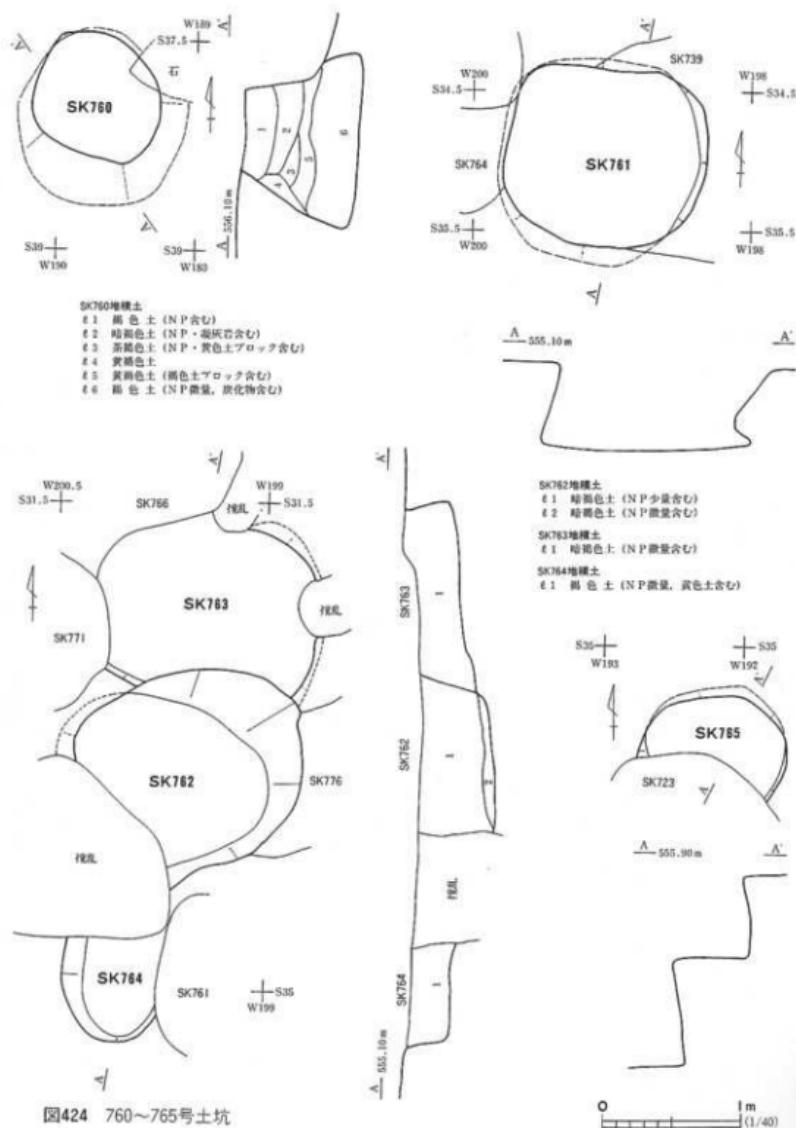


図424 760～765号土坑

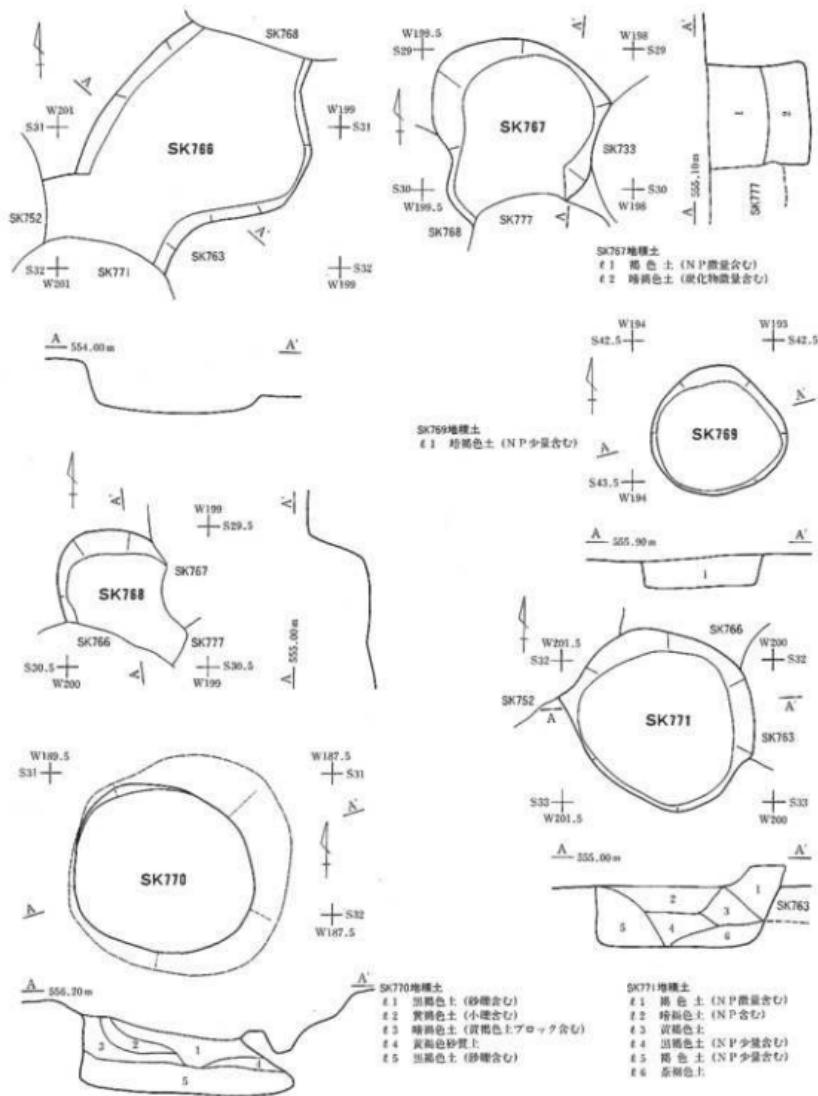


図425 766~771号土坑

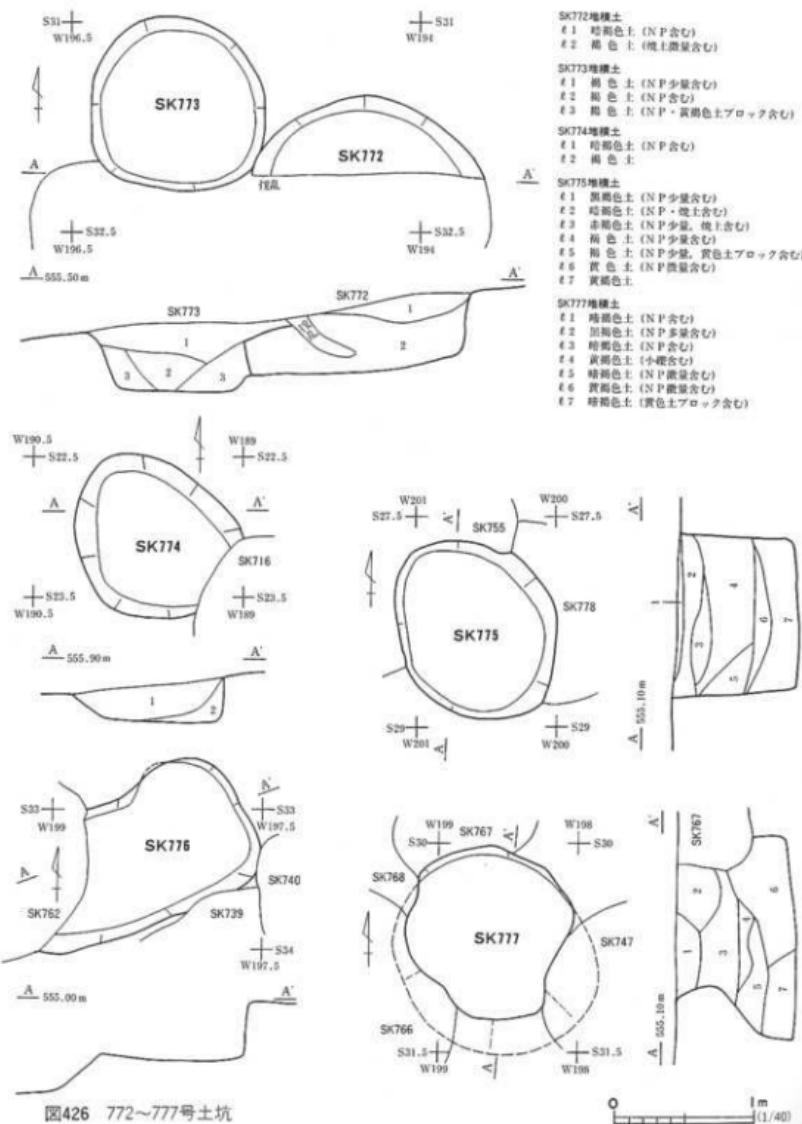


図426 772~777号土坑

### 第3節 土 坑

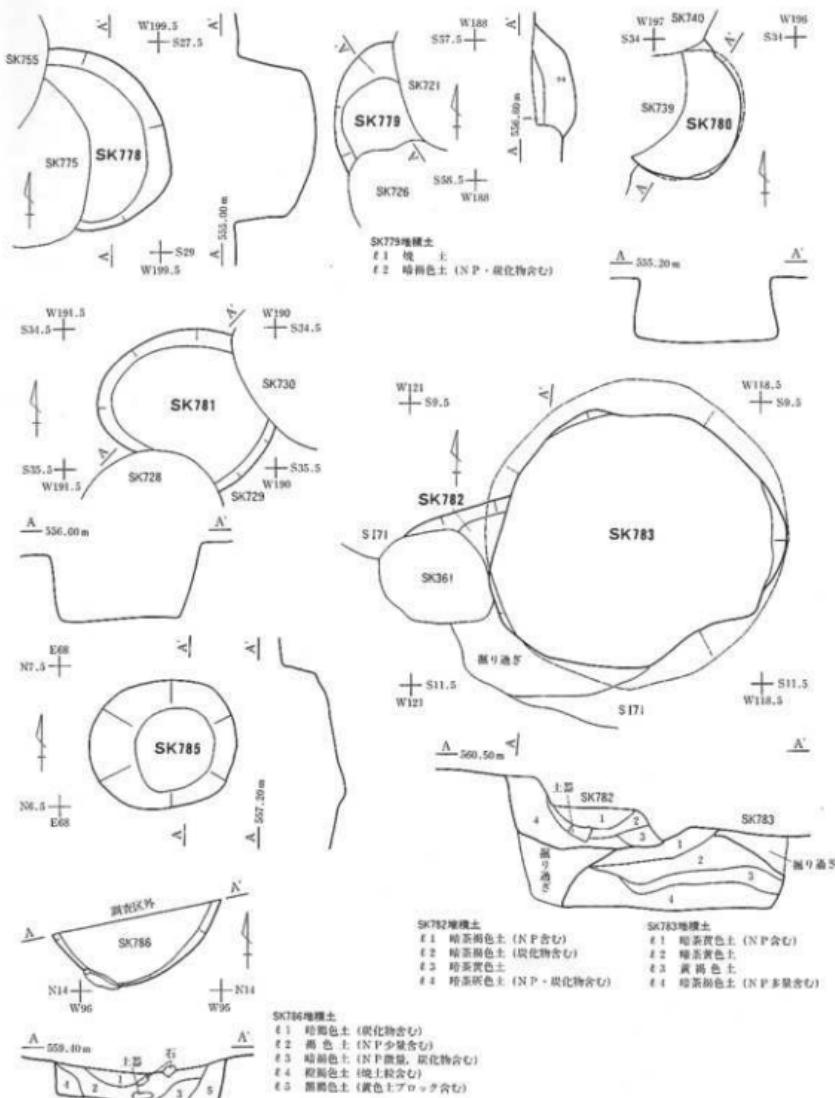


图427 778~783·785·786号土坑



表3 土坑一覧(I)

時期欄には、形式名を表す「大木」を省略して記載した。

土坑番号	位置	検出層位	縦 横(cm)			分類	重複状況 新>旧 …不明	堆積土	時期	備考
			上端	下端	深さ					
1 テ37	SK3堆積土	178×118	151×99	47	II B	SK1>SK3	a	8a式?		
2 タ41	SI5堆積土	143×118	106×99	82	III A	SK2>SI5, SK23	a	8a式?		
3 テ37	LIV	(159)×149	129×112	37	I B	SK1>SK3	a	8a式?		
4 セ37・38	SI39堆積土	196×143	161×110	36	I B	SK4>SI39	a	8a式		
5 セ40	L III b 下部	210×162	189×142	22	II B		a	8a式?		
6 ツ37	LV	158×(140)	142×(134)	18	I B		a			
7 サ・シ44	L III b	241×218	246×232	170	III A		a	7b式?		
8 サ43	L III b 下部	141×127	159×155	94	III A		a	7b式?		
9 ス44	L III b 下部	116×98	102×82	13	I B	SK9>SG9	d	7b式?		
10 ハ37	SI 4 床面	118×(90)	97×80	33	II B	SI4>SK10	c	7b式?		
11	欠		番							
12	欠		番							
13	欠		番							
14 シ43	LIV	219×195	270×255	132	III A		a	7b式?		
15 シ・ス41	SI 6 堆積土	174×167	151×141	35	I A	SK15>SI6	a	8a式		
16	欠		番							
17 セ39	LIV	150×130	125×105	58	II B	SK18・19>SK17	c	7b式?		
18 セ39	SK17堆積土	83×68	130×116	68	III A	SK18>SK17	c	7b式?		
19 セ39	SK17堆積土	(73)×(21)	(66)×(17)	43	II E	SK19>SK17	c	7b式以前		
20 シ40	LIV	153×108	143×99	16	I C		d			
21 ハ41	SI 5 床面	201×184	177×164	43	II A	SI5>SK21	a	8a式以前		
22 シ43・44	L III b 下部	210×202	247×225	140	III A		a	8a式?		
23 タ41	SI 5 床面	160×112	153×101	18	I B	SI5, SK2>SK23>SK31	a	8a式		
24 ソ・タ41	SI 5 床面	120×87	101×78	25	I B	SI5>SK24>SI7	a	8a式		
25 ス・セ41	SK33堆積土	266×(225)	236×(212)	55	I A	SK25>SK33	a	7b式		
26 セ44	SK35堆積土	154×148	141×128	22	I A	SK26>SK35	d	8a式		
27 セ43	SK35堆積土	184×151	152×125	26	I B	SK27>SK35	a	7b式?		
28	欠		番							

表3 土坑一覧(2)

時期欄には、形式名を表す「大木」を省略して記載した。

土坑 番号	位 置	検出層位	規 模(cm)			分類	重複状況 新>旧 ...不明	堆積 土	時 期	備 考
			上 端	下 端	深さ					
29	コ46	LIV	149×129	137×128	119	III A		a	Tb式?	
30	セ43	SK43堆積土	95×95	211×203	136	III A	SK30>SK43	a	Tb式?	
31	ソ41	SI 5 床面	195×99	187×97	16	I C	SI5, SK23> SK31>SI7	a	8a式?	
32	ツ39・40	LIV	254×214	233×203	105	III A		d	Tb式	
33	ス・セ42	SK 25 底面	82×77	142×137	90	III A	SK25>SK33	a	Tb式以前	
34	セ・ソ42	SI 9 堆積土	191×140	169×126	18	I B	SK34>SI9	a	8a式以前	
35	セ43・44	LIV	(212)×168	(189)×141	22	I D	SK26-27>SK35 >SK40・43	a	Tb式?	
36	ス・セ40	LIV	151×124	194×173	103	III A		a	7a式?	
37	ケ・コ43	LV	136×118	134×124	45	III A		a	Tb式	
38	チ40	LV	113×96	147×128	72	III A		a	Tb式?	
39	タ43	SI 9 堆積土	129×126	120×109	19	I A	SK39>SI9	d	8a式	
40	セ43	SK 35 底面	164×111	141×86	16	I B	SK35>SK40・SK43	a	Tb式?	
41	コ・セ44	LV	152×(131)	141×(131)	16	I A	SK41...SK42	a	Tb式?	
42	チ44	LV	136×(115)	138×(105)	29	II B	SK41...SK42	d	8a式?	
43	セ43	SK 35 底面	(131)×(80)	(78)×(60)	32	I B	SK30-35> SK43...SK40	a	Tb式?	
44	タ44	LIV	184×180	240×221	104	III A	SI12>SK44	a	Tb式?	
45	チ48	LIV	124×95	105×81	19	I B		a		
46	タ48	SI11堆積土	102×100	258×208	166	III B	SK46>SI11	a	8a式	
47	チ49	SI11堆積土	121×109	164×159	144	III A	SK47>SI11・SK66	a	8a式	
48	チ48	LV	109×108	102×101	43	II A		a	8a式?	
49	タ48	LV	210×157	206×162	38	III B		a	Tb式?	
50	タ43	SI 9 床面	114×88	75×39	27	I B	SI9>SK50	a	8a式	
51		欠		番						
52	タ49	LV	146×134	203×199	149	III A		a	8a式	
53	ソ48	LV	124×117	111×98	21	I A		a	8a式?	
54	タ48	SK58堆積土	216×161	209×152	31	I C	SK54>SI33, SK56-58+71	a	8b式?	
55	タ50	LV	169×150	140×95	64	II B	SK55...SI13	a	8a式?	
56	タ48	SK 54 底面	111×107	102×90	12	I B	SK54>SK56>SK71	d		

表3 土坑一覧(3)

時期欄には、形式名を表す「大木」を省略して記載した。

土坑番号	位置	検出層位	横幅(cm)			分類	重視状況 新>旧 …不明	堆積土	時期	備考
			上端	下端	深さ					
57		欠		番						
58	ゾ・タ48	LV, SK54正面	175×151	175×132	28	II B	SK54>SK58	a	8a式?	
59	タ53	SI 17床面	187×181	162×161	28	I A	SI17>SK59	a	8a式?	
60		欠		番						
61	タ46	LV	120×107	115×1104	20	II A	SK61…SI18, SK544	d		
62	タ47	LV	124×(100)	160×158	82	III A	SK62…SK63	a	8a式?	
63	タ47	LV	156×(130)	209×(197)	60	III A	SK63…SI18, SK62+97	a		
64	タ49	LV	159×120	141×108	39	II B		a		
65	タ48	SK67堆積土	82×79	68×62	33	I A	SK65>SK67	a	8b式?	
66	タ48	SI 11床面	173×118	(150)×92	30	I B	SI11, SK47>SK66	a	7b式?	
67	タ49	SK89堆積土	291×190	250×174	35	I B	SK65>SK67> SK89+93-94	a	8b式?	
68	タ47	LV	145×109	128×95	19	I B		a	8a式?	
69	タ47	SK70堆積土	(132)×102	(120)×95	27	I B	SK69>SK70	d	8a式?	
70	タ47	SI 18床面	143×135	190×185	71	III A	SI18, SK69>SK70	a	7b式?	
71	タ48	SK 56底面	109×96	91×88	51	II A	SK54-56>SK71	a	7b式?	
72	ハ25	LV	137×130	136×122	22	II A		b	8a式?	墓坑?
73	ネ27	LV	167×128	159×122	44	II B		b	8a式	
74	ネ27	LV	211×159	196×150	21	I B		d	8a式?	
75	ネ28	LV	122×107	108×90	17	I B		d	7b式?	
76	ネ28	LV	83×69	76×61	17	I B		d	8a式?	小穴あり
77	ヌ28	LV	153×110	137×95	17	I B		d	8a式?	
78	ゾ・ハ27	LV	127×85	102×76	12	I B		d	8a式?	
79		欠		番						
80	ト47・48	LV	122×115	172×163	117	III A		a		
81	ト48	LV	(125)×110	(105)×89	66	III B		a	8a式?	
82	ト48	LV	180×(97)	166×(93)	37	II B	SK85>SK82	a	8a式?	
83	テ50	LV	108×88	89×77	32	II A		a	7b式?	
84	テ48	LV	135×107	120×82	26	I B		a	8a式?	

表3 土坑一覧(4)

時期欄には、形式名を表す「大木」を省略して記載した。

土坑番号	位置	検出層位	規 模 (cm)			分類	重複状況 新>旧 …不明	堆積土	時 期	備 考
			上 端	下 端	深さ					
85 ヲ48		SK82堆積土	122×(85)	110×(75)	27	I B	SK85>SK82	a	8a式?	
86 ヲ99		SI 11床面	120×106	225×174	87	III B	SI11>SK86	a	8a式	
87 ヲ51		LV	106×90	104×100	46	III A	SM6>SK87	a	8a式	
88 ヲ51		LV	85×81	91×89	50	III A		a	8a式?	
89 ヲ49		SI 11床面	(230)×173	(210)×143	28	II D	SI11>SK67> SK89>SK94	a	8a式	
90 ヲ48		LV	171×151	193×170	108	III A		a	8a式?	
91 ヲ47		SI 14床面	136×97	197×190	120	III A	SI14>SK91	a	8a式	
92 ヲ47		LV	100×94	192×180	142	III A	SK551>SK92>SI118	a	7b式?	
93 ヲ49		SK 67底面	107×96	154×107	88	III B	SK67>SK93	a	8a式	
94 ヲ49		SK 67底面	128×72	135×135	80	III A	SK67>SK89>SK94	a	7b式?	
95 ヲ51		SK 96底面	142×142	148×147	38	II A	SK96>SK95	a	8a式	
96 ヲ52		SK95堆積土	100×88	93×79	18	I B	SK96>SK95	a	8a式以後	
97 ヲ47		LV	92×(84)	81×76	55	II A	SK97…SK63	a	8a式	
98 タ51		LV	112×107	113×108	16	II A		a	8a式?	
99 タ52		LV	115×106	98×95	17	I A		a	8a式?	
100 ヲ52		LV	95×93	107×103	29	III A		a		
101 ヲ51		SK102堆積土	195×133	158×86	29	I B	SK101>SK102	a	8b式?	
102 ヲ51		SK 101底面	203×166	182×153	44	II B	SK101>SK102	a	8a式?	
103 タ49		SI 13床面	170×(118)	148×(108)	14	I B	SI13>SK103	b	8a式以前	
104 ヲ52		LV	189×135	186×123	13	I B		a	7b式?	
105 ヲ51		LV	129×116	128×126	43	III A		a	8b式?	
106 ヲ51		LV	154×138	187×147	62	III B	SK116>SK106	a	7b式?	
107 ヲ51		LV	96×95	113×113	41	III A		a	8b式?	
108 ヲ52		LV	131×123	122×115	13	I A		a	8b式?	
109 ヲ46		LV	108×97	310×257	123	III B		a	7b式?	
110 ヲ46		LV	165×158	200×187	83	III A		a	8b式?	
111 ヲ47		LV	146×132	170×145	60	III B		a	8b式?	
112 ヲ51		LV	78×73	70×62	12	I A		a		

## 第2章 造構と遺物

表3 十坑一覧(5)

時期欄には、形式名を表す「大木」を省略して記載した。

土坑 番号	位置	検出層位	規 模(cm)			分類	重複状況 新>旧 …不明	堆 積 上	時 期	備 考
			上 端	下 端	深さ					
113	フ52	SK120堆積土	125×108	117×97	15	II B	SK113>SK120	d		
114	セ48	SI133堆積土	125×120	143×133	162	III A	SK114>SI133	a	8a式	
115	セ49	SI134堆積土	190×160	192×170	176	III A	SK115>SI134	a	8a式	
116	フ51	SK106堆積土	153×(110)	136×(77)	18	II B	SK116>SK106	d	8a式	
117	フ53	L.V	(160)×117	(140)×112	56	II B		a	8a式?	
118	フ46	SK122堆積土	154×139	140×138	35	III A	SK118>SK122	a	8a式	
119	ナ23	SI119堆積土	122×116	122×118	31	III A	SK119>SI119	a	8a式以後	
120	フ52・53	L.V	105×97	98×93	33	III A	SK118>SK120	a	8b式?	
121	フ・テ47	L.V	128×118	187×183	123	III A		a	8a式	
122	フ46	L.V	195×(100)	175×(100)	38	II B	SK116>SK122	a	8a式以前	
123	フ54	L.III b 下部	195×(104)	183×(100)	47	II B		a		
124	フ54	L.III b 中部	82×(58)	77×(52)	52	II B		a		
125	ス51	L.IV	207×163	186×134	38	II B	SK125>SG48	a	7b式?	
126	ス52	L.III b 下部	168×167	198×192	113	III A		a	7b式	
127	セ52	L.III b 下部	185×158	168×147	25	II B		a	7b式?	
128	タ50	SI133床面	79×66	68×53	61	II B	SI133>SK128	a	8a式以前	
129	ス50	L.IV	208×180	189×130	27	II B	SK129>SG49	a	7b式?	
130	セ51	L.IV	145×135	131×118	10	II A	SK130>SG48	d		
131	タ50	SI133床面	110×78	75×41	67	II B	SI133>SK131	a	8a式以前	
132	セ52	L.III b 下部	215×150	192×132	13	II B		a	7b式?	
133	セ51・52	L.IV	168×122	133×98	26	II B		a	8a式	
134	シ50・51	SK135堆積土	236×176	220×156	34	II B	SK135>SK134	a	7b式	
135	シ50	L.III b	237×163	200×115	32	II B	SK135>SK134	a	8a式?	
136	セ・タ35	L.V	235×162	222×149	25	II D		a	7b式?	
137	チ34・35	L.V	244×236	237×212	18	II A		a	7b式?	
138	タ37・38	SI130堆積土	289×230	262×173	38	II D	SK138>SI130	b	8b式?	墓坑
139	チ35	SI123堆積土	95×86	71×70	44	II A	SK139>SI123+25	d	8a式以後	
140	シ・ス51	L.IV	186×127	157×104	47	II C	SK140>SG50	a	7b式?	

表3 土坑一覧(6)

時期欄には、形式名を表す「大木」を省略して記載した。

土坑 番号	位 置	検出層位	規 格(cm)			分類	重複状況 新>旧 …不明	堆 積 上	時 期	備 考
			上 端	下 端	深さ					
141	ス51・52	L III b 下部	125×116	175×148	155	III B		a	7b式	
142	チ31・32	LV	159×157	156×132	16	I B		d	7b式?	
143	ス・セ 49・50	SI34堆積土	144×110	120×105	53	III A	SK143>SI34	s	8a式	
144	チ32	SK223堆積土	145×123	132×116	19	I A	SK144>SK223	s	8a式?	
145	ツ33	LIV	165×158	145×136	30	II A		a	7b式?	
146	ツ32	LIV	149×135	163×153	148	III A	SK175>SK146	a	8a式	
147	ツ31・32	LIV	245×240	251×232	111	III A		a	7b式?	
148	チ・ツ32	LIV	215×188	240×236	127	III A		a	7b式?	
149	タ31	LIV	188×172	182×180	78	III A		a	7b式?	
150	チ33	SK174堆積土	325×235	261×198	49	I C	SK150>SK174	a	8a式?	
151	タ30	LIV	120×113	112×99	21	I A		a	8a式?	
152	タ30	LIV	94×86	87×70	32	II B		a	8a式?	
153	ニ30	LIV	166×161	149×142	31	II A		a	8a式?	
154	ナ36	LIV	101×100	88×86	15	I A		b		
155		欠		番						
156	ト33	SK159堆積土	131×130	129×124	60	II A	SK156>SK159	a	8a式	
157	ナ32	SI28堆積土	180×170	181×170	76	III A	SK157>SI28	a	8a式	
158	ナ33	SK232堆積土	(284)×187	(272)×166	22	I B	SK161>SK158> SK177+178+232	a	8a式	
159	ト33	LIV	189×(130)	162×108	40	I B	SK156>SK159	a	7b式?	
160	ト33	LIV	109×98	92×76	37	II B		a	8a式?	
161	ナ34	SK158堆積土	125×113	100×99	56	II A	SK161>SK158+178	a	8a式?	
162	ニ32・33	LIV	192×180	180×173	113	III A		a	7b式?	
163	チ35	SI23床面	152×145	133×116	28	I B	SI23>SK163	d	7b式?	
164	ナ・ニ36	LIV	153×150	135×130	26	I A		a		
165	ナ34	LIV	164×134	131×98	34	I B		a		
166	チ・ト 31・32	LIV	199×191	183×181	14	I A		d		
167	ニ31	SK168堆積土	171×(122)	139×(110)	23	I B	SK167>SK168	a	7b式	
168	ニ31	LIV	(150)×176	(151)×(135)	23	I B	SK167>SK168	a	7b式	

表3 上坑一覧(7)

時期欄には、形式名を表す「大木」を省略して記載した。

上坑番号	位置	検出層位	規模(cm)			分類	重複状況 新>旧 …不明		堆積土	時期	備考
			上端	下端	深さ		…	…			
189	-31	SK216堆積土	167×160	136×122	33	I A	SI169>SK209+216	a	8a式?		
170	ナ33	SK232堆積土	101×92	87×79	10	I A	SK170>SK232	d			
171	ヌ32	SK194堆積土	103×83	84×70	18	I B	SK171>SK194	d	8a式?		
172	-32	SK194堆積土	216×180	201×154	32	I B	SK172>SK194+784	a	8a式?		
173	ヌ31+32	SK194堆積土	158×102	142×84	20	I B	SK173>SK194	a			
174	テ33	LIV	186×(120)	148×(100)	32	I B	SK150>SK174	a	7b式?		
175	ツ+ナ33	SK146堆積土	151×125	121×112	43	II A	SK175>SK146	a	8a式		
176	チ+ト31	LIV	192×173	166×152	39	I A		a			
177	ト+ナ33	SK219堆積土	102×(84)	87×(66)	28	I C	SK158>SK177 >SK219	a	7b式?		
178	ト+ナ 33+34	LIV	175×(73)	169×(70)	25	I B	SK158+161>SK178	a	7b式?		
179	ト34	LIV	185×112	97×78	50	II B		a	8a式?		
180	ナ33	LIV	162×150	153×139	15	I A		d	7b式?		
181	-33	LIV	176×137	153×117	8	I B		d			
182	ナ+ナ33	LIV	160×128	137×110	10	I B		d	7b式?		
183	ト+ナ33	SK219堆積土	196×123	185×112	26	I B	SK183>SK219	a	7b式?		
184	-30+31	SK209堆積土	113×98	138×140	97	III A	SK184>SK209	a			
185	タ+チ36	SI30堆積土	86×82	77×72	57	II A	SK185>SI30	a	7b式以前		
186	ト35	SK202堆積土	130×128	115×115	40	II A	SI24,SM14> SK186>SK202	a	8a式		
187	ヌ30	LIV	69×62	50×42	31	II B		a			
188	ヌ29	LIV	107×85	102×80	10	I B		a			
189	テ+ト 33+34	LIV	149×148	152×152	38	III A		a	8a式?		
190		欠		备							
191	ナ31	LIV	106×(85)	89×(80)	12	I B		d	7b式?		
192	ヌ+ヌ31	LV	318×233	275×198	29	I B		a	8a式?		
193	テ31	LIV	178×125	164×105	27	I C		a	8a式?		
194	ニ+ヌ32	LIV	(360)×(190)	(330)×(170)	21	I B	SK171~173 >SK194	a	8a式?		
195	-32	SK784堆積土	(150)×168	(140)×144	18	I B	SK195>SK784	a	7b式?		
196	ヌ31	LIV	65×62	72×70	59	II A		d	7b式?		

表3 土 坑 一 覧 (8)

時期欄には、形式名を表す「大木」を省略して記載した。

土坑番号	位置	検出層位	規 模 (cm)			分類	重複状況 新>旧 ...不明	堆積土	時 期	備 考
			上 端	下 端	深さ					
197	ト34	SI 2 4 床面	105×(83)	9 2 × 5 2	47	II B	SI24>SK197	a	8a式?	
198	タ36	SI38堆積土	100×83	7 4 × 6 0	16	I B	SK198>SI38	a	7b式?	
199	ヌ35	SI32堆積土	108×96	8 3 × 7 2	16	I A	SK199>SI32+44, SK236	a	8b式?	
200	ニ・ヌ 33・34	SI32堆積土	155×137	145×129	19	I A	SK200>SI32+44	a	8b式以後	
201	ツ・チ36	SI36堆積土	113×92	9 0 × 7 1	13	I B	SK201>SI36	d	8b式以後	
202	ト35	SI 2 4 床面	144×(128)	111×(94)	16	I D	SI24, SK186>SK202	a	7b式?	
203	タ・チ35	LIV	156×137	125×96	18	I B		a	7b式?	
204		欠		番						
205	ト46	SK207堆積土	(140)×(115)	(145)×(125)	45	III A	SK206>SK207	a	8a式?	
206	ト46	SK207堆積土	78×(48)	77×(40)	46	III A	SK206>SK207	a		
207	チ46	LV	158×(111)	166×(70)	30	III A	SK206+207>SK207	a	7b式?	
208	チ36・37	SI 3 8 床面	83×(54)	85×(55)	26	II A	SK208>SI38	d	8b式?	
209	ニ-31	LV	88×(72)	73×(55)	28	I B	SK169+184>SK209	a		
210	タ・チ37	SI 3 0 床面	116×(99)	9 7 × 8 0	29	I B	SI30>SK210	d	7b式以前	
211		欠		番						
212	ヌ37	SI 2 1 床面	(70)×110	58×(50)	46	I B	SI21>SK212	a	7a式?	
213	ヌ37	SK214堆積土	145×138	135×116	20	I B	SK213>SK214	a	7b式	
214	タ38	SK 2 1 3 底面	167×143	220×213	120	III A	SK213+215>SK214	a	7b式?	
215	タ38	SK214堆積土	9 7 × 8 0	6 7 × 5 3	44	I B	SK215>SK214	a	7b式?	
216	ニ・ヌ31	LV	81×(54)	6 6 × 3 9	17	I B	SK169>SK216	a	8a式?	
217	ヌ32	LV	119×91	102×74	14	I B		a		
218		欠		番						
219	ト33	LIV	93×(66)	82×(61)	10	I B	SK177+183+SM15 >SK219	d	7b式以前	
220	チ45・46	LV	105×92	252×250	80	III A		a	7b式?	
221	チ46	LV	9 4 × 6 6	8 2 × 5 3	42	II B		b	8a式?	屋外柱穴
222	ナ34	SI 2 4 床面	232×180	208×161	45	II C	SI24>SK222	a	8a式	
223	チ32	LIV	(62)×64	(42)×43	10	I D	SK144>SK223	a		
224	ヌ35	LIV	139×121	118×100	33	I B		a		

## 第2章 造構と遺物

表3 土坑一覧(9)

時期欄には、形式名を表す「大木」を省略して記載した。

土坑番号	位置	検出層位	規 模(cm)			分類	重複状況 新>旧 ...不明	堆積土	時 期	備 考
			上 端	下 端	深さ					
225	ヌ33	LV	124 × 89	110 × 70	19	I D	SI44>SK225	d	8b式以前	
226		欠		番						
227	チ36・37	SI 3 6 床面	139 × 119	109 × 100	36	II A	SI36>SK227	a	8a式	
228	チ35	SI 2 4 床面	125 × 100	(94) × (92)	(20)	II B	SI24>SK228	d	8b式以前	
229	ヌ33	SI 3 5 床面	105 × 88	97 × 71	35	II B	SI35>SK229	a	7b式以前	
230	フ7・8	LV	120 × 116	109 × 102	18	I A		a		
231	ホ10・11	L III b 下部	152 × 142	144 × 139	100	III A		a		
232	チ33	LV	79 × 59	(58) × 42	15	I B	SK156-170>SK232	a		
233	ヌ29	SK234堆積上	163 × 97	149 × 88	61	II B	SK233>SK234	a	8a式?	
234	ヌ28・29	LV	(130) × 125	113 × 113	54	II A	SK233>SK234	a	8a式?	
235	ヒ36	LV	126 × 120	87 × 82	84	II A		b	8a式? 屋外柱穴	
236	ヌ35	SI 4 4 床面	74 × 72	105 × 88	80	II B	SI44>SK199> SK236>SK253	b	8b式以前	
237	ヌ18	SI 4 2 床面	105 × 95	101 × 94	53	III A	SI42>SK237>SK457	a	8b式	
238	ヒ18	SI 4 2 床面	218 × 210	315 × 264	155	III B	SI42>SK238>SK458	a	8b式?	
239	ヌ34	SI32+44床面	(166) × 134	(158) × 117	13	I B	SI32+44>SK239	b	8b式以前	
240	ヒ35	SI32+45床面	113 × 85	101 × 71	85	II B	SI32+45>SK240	c	8a式	
241	ヌ36	SI 4 4 床面	86 × 81	77 × 76	46	II A	SI44>SK241>SK247	d	8a式?	
242	ヌ36	SK247地横土	98 × 77	81 × 66	72	II B	SK242>SK247	d	8a式?	
243	ヌ99	LV	134 × 127	132 × 125	97	III A		a	7a式?	
244	ハ97	LV	212 × 200	172 × 168	58	I A		a	7a式?	
245	ハ98	LV	109 × 67	103 × 45	106	II C		a		
246	ホ98	LV	187 × 161	185 × 159	99	III B		a		
247	ヌ36	SI 4 4 床面	272 × 245	256 × 233	46	I D	SI44>SK241+242 >SK247	d	8a式?	
248	ハ99・0	LV	132 × 126	121 × 113	44	II A		a	10式?	
249	ヒ97	LV	123 × 115	115 × 110	54	II A		a	10式?	
250		欠		番						
251	チ93	LV	135 × 127	136 × 130	48	III A		a	8式?	
252	ヌ35・36	SI 3 2 床面	90 × 71	46 × 29	57	II B	SI32>SK252	d	8b式以前	

表3 土坑一覧

時期欄には、形式名を表す「大木」を省略して記載した。

土坑番号	位置	検出層位	規模(cm)			分類	重複状況 新>旧 …不明	地盤上	時期	備考
			上端	下端	深さ					
253	×35	SI 44 床面	93 × 72	98 × 97	48	III A	SI44>SK236> SK253…SI45	b	8a式?	
254	×98	LV	162 × 140	126 × 113	54	II A		a		
255	×70	SK256堆積土	260 × 202	232 × 164	49	II B	SK256>SK256+ 257-258-259	a	7b式?	
256	×70	SK259堆積土	263 × (236)	226 × (213)	45	I A	SK259>SK256> SK259…SK257	a	7b式?	
257	×69	LV	244 × (170)	195 × (150)	56	I C	SK255>SK257 …SK256	a	7b式?	
258	×70	SK259堆積土	202 × (135)	135 × (91)	51	I B	SK255>SK258 >SK259	a	7b式?	
259	×70	LV	(75) × (69)	(75) × (48)	(20)	I E	SK255+256+258 >SK259	d		
260	カ70	LV	152 × 144	105 × 100	26	I A		a		
261	チ59	SI 51 堆積土	180 × 173	170 × 165	43	II A	SK261>SI51	a	7b式以後	
262	セ56	SI 52 堆積土	83 × 62	66 × 53	29	II B	SK262>SI52	a	7b式以後	
263	セ56	SI 52 床面	122 × 84	102 × 52	19	I B	SK263…SI52	d	8a式?	
264	タ59	SI 51 床面	165 × 126	156 × 110	18	I B	SK264>SI51	a		
265	キ16	LIV	123 × 120	102 × 90	36	II A		a		
266	ノ16	LIV	135 × 118	116 × 93	40	II B		a		
267	ノ17	LIV	184 × 154	161 × 125	19	II B		a		
268	ヒ19	LIV	110 × 100	81 × 64	22	I B		a		
269	ヒ19	LIV	104 × 102	82 × 81	20	I A		a		
270	フ18	LIV	85 × 83	81 × 78	36	III A		a		
271	チ56・57	SI 55 堆積土	90 × 74	80 × 52	40	I B	SK271>SI55	a	7a式以後	
272	チ58	SI 51 床面	(76) × 71	(68) × 57	12	I B	SI51>SK272	d	7b式以前	
273	ヘ・ホ1	L III b 下部	423 × 329	370 × 259	136	III C		a	8b式	小穴あり
274	△1	LV	161 × 146	150 × 138	11	I A		a		
275	×3	SK301堆積土	254 × 224	265 × 220	111	III B	SK275>SK301	a		
276	×0	LV	238 × 195	207 × 204	115	III A		a	8a式?	
277	×2	LV	245 × 204	200 × 191	122	III A		a	8a式?	
278	ヘ15	L III b	95 × 87	74 × 67	70	II A		a	6式	
279	×3	LV	220 × 178	194 × 153	35	I B		a		
280	ヘ3	LV	179 × 163	140 × 133	83	II A		a	8b式	

表3 土坑一覧表

時期欄には、形式名を表す「大木」を省略して記載した。

土坑番号	位置	検出部位	規模(cm)			分類	重複状況 新>旧 …不明	堆積上	時期	備考
			上端	下端	深さ					
281	チ56	LIV	89×78	63×50	27	II B	SK282>SK281	a	7a式	
282	チ55	LIV	82×81	63×48	29	II B	SK282>SK281	a	7b式	
283	フ16	L III b	144×130	75×38	58	I B		a		
284	ア2	LV	224×215	218×210	126	III A		a	8b式	
285	ア2	LV	390×225	360×190	107	III C	SK285>SK286-301	a	8b式	小穴あり
286	ア2	LV	(235)×(62)	(152)×(51)	54	I B	SK285>SK286	d	8b式以前	
287	ア2	LV	122×93	61×58	33	I A		a		
288	ア5	LV	150×130	125×112	23	I A		d	8a式?	
289	ア4	LV	116×115	105×100	27	I A	SM19>SK289	d	10式以前	
290	ア5	LV	122×105	106×95	15	I A		d	8b式?	
291	ホ16	L III b	160×(100)	118×(85)	37	II B	SG66>SK291	a		
292	ホ5	LV	94×87	80×78	16	I A		d		
293	チ56	SI 5 5 床面	78×76	50×56	27	II A	SI55>SK293	b	7b式	
294	タ56	SI55-56床面	(200)×134	(120)×100	27	II B	SI55-56>SK294 …SK295	d	7a式以前	
295	タ56	SI55-56床面	100×66	58×38	28	I B	SI55-56>SK295 …SK294	d	7a式以前	
296	チ56	LIV	58×56	52×52	20	II A		d	7b式?	
297	チ56	LIV	66×56	60×50	27	II B		d	7b式?	
298	チ56	LIV	48×46	40×40	20	II A		d	7b式?	
299	タ56	SI 5 5 床面	56×(50)	48×(42)	11	I A	SK299-SI55	d	8a式?	
300	ホ2	LV	218×216	210×203	140	III A		a	8b式	
301	ア2+3	LV	340×335	290×280	175	III A	SK275-285>SK301	c	8b式以前	
302	ア5	LV	156×135	118×83	75	II B		a		
303	ア2	LV	278×240	236×230	180	III A		a	8b式	
304	ア56	SI 5 4 床面	90×(60)	60×44	26	I B	SI54>SK304-SI56	c	7a式以前	
305	ア6	LV	135×125	90×88	34	I C		a		
306	ア4	LV	110×110	105×100	24	II A		a	10式	
307	セ24	L III b 下部	202×194	236×235	186	III A		a	8a式	
308	ア24	LIV	131×129	112×110	23	I A		a	10式?	

表3 土坑一覧

時刻には、形式名を表す「大木」を省略して記載した。

土坑番号	位置	検出層位	規 模 (cm)			分類	重複状況 新>旧 …不明	堆積土	時期	備考
			上 端	下 端	深さ					
309	ト9	LV	162×143	140×129	30	I A		a	8b式?	
310	ソ・タ9	SI59堆積土	175×165	174×166	108	III A	SK310>SI59	a	10式以後	
311	ス22	L III b 上部	160×158	236×221	187	III A		a	8a式	
312	シ22	L III b 上部	150×135	230×205	190	III A		a	7b式	
313	セ23	L III b 上部	220×220	335×325	228	III A		a	8a式?	
314	チ7	SI 62 床面	160×148	195×182	88	III A	SI62>SK314	a	8b式	
315	サ23	SI 58 床面	132×(120)	110×(100)	70	II A	SI58>SK315	a		
316		欠		番						
317	ス21	L III b 中部	126×104	99×73	30	I B		a	8b式?	
318	ソ7	SI63堆積土	106×94	84×74	34	II A	SK318>SI63>SK365	a	9式以後	
319	チ9	SK488堆積土	187×140	157×56	150	II C	SK319>SK488-589	a	8b式?	小穴あり
320	セ8	SI 59 床面	120×106	105×94	23	I A	SI59>SK320	c	10式以前	
321	ソ8	SI 59 床面	100×96	76×67	34	I A	SK321…SI59	d	10式以前	方形の石組あり
322	ソ8	SI 59 床面	164×170	162×148	62	II A	SI59>SK322>SK322	b	10式	
323	ソ8	SI 59 床面	74×70	66×62	40	II A	SI59>SK323>SK322	c	10式	
324	ソ20	SK325堆積土	178×147	148×138	75	III A	SK324>SK325	a	8b式	
325	ソ20	L III b 上部	176×160	222×218	190	III A	SK324>SK325	a	7b式?	
326	タ21	L III b 上部	185×172	290×284	191	III A		a	8a式	
327	ソ21	L III b 上部	208×196	270×255	190	III A		a	7b式	
328	タ7	LV	134×120	170×160	109	III A	SI63>SM23>SK328	c	9式以前	
329	セ18	L III b 上部	164×150	125×122	42	I A		a	8b式	
330	シ21	L III b 中部	151×130	235×235	176	III A		d	8b式	
331		欠		番						
332	チ20	SI101堆積土	246×205	278×276	227	III A	SK332>SI101	a	8b式	
333	タ20	SI101堆積土	186×182	185×178	137	III A	SK333>SI101	a	8a式	
334	ソ6	SI 174 床面	246×194	278×255	132	III A	SI174>SK334	a	10式以前	
335	セ8	SK350堆積土	121×84	90×64	37	II B	SI59>SK335>SK350+351+360	a	10式以前	
336	ス23	L III b 中部	168×164	169×165	137	III A		a		

表3 土坑一覧 03

時期欄には、形式名を表す「大木」を省略して記載した。

土坑番号	位置	検出層位	規模(cm)			分類	重複状況 新>旧 …不明	堆積上	時期	備考
			上端	下端	深さ					
337 ノ25	L.IV	100×90	86×76	17	IB			d		
338 セ27	SK339堆積土	98×87	90×77	19	IB	SK338>SK339		d		
339 ノ27	L.IV	140×135	214×210	184	III A	SK338>SK339		a	8a式?	
340 ノ7	SI 6.0 床面	(165)×150	140×136	34	II A	SI6.0>SK340>SK476		b	8b式?	
341 チ7	SK353堆積土	129×113	113×107	23	II A	SK341>SK353		d	8b式?	
342 ト8	LV	123×111	112×102	31	II A			d	10式?	
343 チ8	SI 6.2 床面	112×(93)	96×(76)	25	IB	SI6.2>SK343		a	9式以前	
344 ノ21	LV	230×180	270×249	240	II A			a	8b式?	
345 ノ20	LV	224×210	285×270	212	III A			a	8b式	
346 チ8	LV	185×170	205×200	97	III A			c	8b式	
347 ト14	SK447堆積土	276×237	226×225	188	III A	SK347>SK447		a	8b式	
348 ト9	LV	205×194	242×237	106	III A	SK471>SK348		a	8b式?	
349 ト9	I.V	175×170	215×190	130	III A	SK471>SK349		a	8b式?	
350 ノ8+9	LV	250×245	325×311	110	III A	SK335>SK350 >SK360		a		
351 ノ・ノ8	SI 5.9 床面	118×(105)	99×(67)	28	IB	SI5.9>SK335>SK351		d	10式以前	
352 ノ7	SI 6.3 堆積土	96×88	91×79	17	II B	SK352>SI6.3+ SK364-370		a	10式	
353 チ8	LV	91×(70)	78×(50)	25	IB	SK341>SK353		a	8b式?	
354 ノ7+8	SI 6.7 床面	102×99	123×110	67	II B	SI6.7>SK354		a	9式以前	
355 ノ・チ9	I.V	140×138	229×215	94	III A			a		
356 ノ10	SI 7.1 床面	153×150	230×202	134	III A	SI7.1>SK356		c	8b式	
357 ノ9	SI 7.1 床面	87×77	68×68	58	II A	SI7.1>SK357		a	9式以前	
358 チ8	LV	95×87	82×74	78	II A			d		
359 ノ17	I.III b 中部	187×177	220×218	167	III A	SK359>SI121		a	7b式?	
360 ノ9	I.V	(150)×110	(110)×81	35	IB	SK335-350>SK360		a		
361 ノ8	SI 7.1 堆積土	80×67	72×68	64	II A	SK361>SI7.1>SK722		d	10式	
362 ノ21	L III b 中部	225×220	216×215	168	III A			a	8b式?	
363 ノ7	SI 6.3 床面	223×217	240×220	51	III A	SI6.3, SK318-364 >SK363		a	8b式?	
364 ノ7	SI 6.3 床面	176×172	158×152	40	II A	SI6.3, SK352> SK364>SK363-370		a	9式?	

表3 土坑一覧(4)

時期欄には、形式名を表す「大木」を省略して記載した。

土坑番号	位置	検出層位	規模(cm)			分類	重複状況 新>旧 …不明	堆積土	時期	備考
			上端	下端	深さ					
365	タ・チ15	L III b 中部	221×220	222×213	183	III A	SKK440>SK365 …S193	a	8a式	
366	シ20	SI 6.5 床面	140×130	122×109	15	I A	S165>SK366	a	9式以前	
367	サ20	SI 6.5 床面	167×155	170×140	32	II B	S165>SK367	a	8b式	
368	シ20	SI 6.5 床面	150×129	213×208	150	III A	S165>SK368	a	9式	
369	ス10	SK620堆積土	168×91	154×73	46	II C	SK369>SK620	b	10式?	溝あり (深さ:13-2m)
370	ヨ7	LV	90×(60)	93×(58)	38	III A	S165, SK352+364 >SK370	a	9式以前	
371	セ10	SK391堆積土	107×90	90×77	30	II B	SK371>SK391	a		
372	チ9	SK373堆積土	84×83	66×62	71	II A	SK372>SK373	a		
373	チ9	LV	95×(85)	87×(75)	27	II B	SK372>SK373	a		
374	チ8	LV	100×90	(95)×81	20	IB		a		
375	セ5+6	LV	290×(202)	395×(253)	188	III A	SK375…S1102 +104+15	a	8b式	
376	チ22	SK381堆積土	232×167	175×117	60	II C	SK376>SK381	a		
377	チ22	L III b 下部	145×131	105×105	91	III A		a		
378	チ22	L III b 下部	175×170	176×160	135	III A		a	8a式	
379	タ22	L III b 下部	134×130	136×131	152	III A		d	7b式?	
380	ス11	LV	142×110	123×78	23	I C	SK380…SK523	a	10式	
381	チ22	LV	108×105	90×80	50	II A	SK376>SK381	d		
382	シ13	LV	(112)×118	(101)×97	37	II B		a	9+10式?	小穴あり
383	ス12	LV	(131)×(65)	(200)×(85)	155	III A		a		
384	ス13	LV	116×102	103×78	28	II B		a	9+10式?	
385	ヨ18	L III b 中部	176×160	168×160	136	III A		a	8b式?	
386	ヨ19	L III b 中部	205×185	217×212	146	III A		a	8b式	
387	サ20	SI 6.5 床面	137×112	120×94	37	II B	S165>SK387	a	8b式	
388	サ20+21	SI 6.5 床面	151×149	142×141	29	II A	S165>SK388	a	8b式	
389	ヨ11	LV	211×(200)	197×(150)	34	IB	SK376>SK388>SK390 +563…SK555+570	a		
390	ヨ11	LV	151×135	180×180	121	III A	SK389>SK390	c	8b式?	
391	セ10	LV	128×128	95×79	48	II B	SK371>SK391	d		
392		欠		番						

表3 土坑一覧 03

時期欄には、形式名を表す「大本」を省略して記載した。

土坑番号	位置	検出層位	規模(cm)			分類	重複状況 新>旧 ...不明	堆積土	時期	備考
			上端	下端	深さ					
393	タ10-11	SI113堆積土	158×142	137×114	23	I A	SK393>SI113	a	10式?	-
394	サ22-23	SI 7 2 床面	218×200	202×182	16	I A	SI72>SK394	a	8b式以前	-
395	チ18	L III b 下部	246×245	303×300	254	III A	-	a	8b式	-
396	チ6	SI166堆積土	150×122	118×(60)	100	II B	SK396>SI166...SK463	n	9式以後	-
397	タ20	SK398堆積土	127×(106)	112×(97)	55	II A	SK397>SK398	n	8b式?	-
398	タ20	L III b 中部	204×142	190×187	172	III A	SK397>SK398	a	-	-
399	チ19	SI101堆積土	168×143	212×205	218	III A	SK399>SI101	a	8a式	-
400	タ18	L III b 中部	245×245	250×243	152	III A	-	a	8a式?	-
401	サ19	L III b 中部	240×221	229×223	151	III A	-	a	8b式?	-
402	セ13	L III b 下部	255×198	286×284	182	III A	-	a	8b式	-
403	タ7	LV	110×103	125×120	38	III A	-	a	-	-
404	サ21	L III b 下部	200×180	243×228	181	III A	-	a	8b式	-
405	ト6	SK412堆積土	155×(135)	185×(155)	75	III A	SK405>SK412	a	-	-
406	サ19	SK427堆積土	144×142	103×101	44	I A	SK406>SK427	a	8b式	-
407	セ19	SK427堆積土	130×130	110×95	56	II B	SK407>SK427	a	8b式?	-
408	セ19	L III b 下部	145×28	108×100	60	III A	-	a	8b式?	-
409	チ13	SI 8 1 床面	131×115	192×185	133	III A	SK409>SI81	a	8b式?	-
410	チ16	SI 8 2 床面	95×78	105×101	60	III A	SI82>SK410	c	8b式?	-
411	チ7	LV	(65)×71	(60)×48	43	III A	-	d	9+10式?	-
412	ト6	LV	98×(66)	82×(53)	46	II B	SK405>SK412	d	-	-
413	チ16	SI 8 2 床面	207×198	255×240	165	III A	SI82>SK412>SK585	a	8a式?	-
414	チ17	SI 8 2 床面	178×175	245×238	173	III A	SI82>SK414	a	8a式?	-
415	チ19	SI101堆積土	165×155	222×215	225	III A	SK415>SI101	a	7b式	-
416	ト4	LV	180×178	162×162	27	I A	-	u	10式?	-
417	チ6	LV	135×122	125×119	25	III A	-	a	8b式?	-
418	セ11	SI 7 6 床面	90×82	77×64	45	II C	SI76>SK418	d	10式以前	-
419	セ11	SI 7 6 床面	140×93	133×80	68	II C	SI76>SK419	d	10式以前	-
420	セ・サ11	SI 7 6 床面	235×210	270×265	148	III A	SI76>SK420...SK624	c	8a式	-

表3 土坑一覧

時期欄には、形式名を表す「大木」を省略して記載した。

土坑番号	位置	検出層位	規模(cm)			分類	重複状況 新>旧 …不明	堆積上	時期	備考
			上 端	下 端	深さ					
421	セ19	L III b 中部	191×174	275×260	164	III A		a	8b式?	
422	テ11	SI79堆積土	151×132	9.8×8.7	27	I A	SK422>SI79+SK423	d	10式	
423	テ11	SK422底面	9.8×8.7	109×105	46	III A	SK422>SK423>SI79	a	10式	
424	タ6	SI 6 6 床面	258×197	220×171	56	II C	SI66>SK424	c	9式以前	
425	チ・ツ6	SI 6 6 床面	288×248	325×297	115	III A	SI66>SK425>SK464	a	8b式	
426	ソ18	L III b F 部	134×127	111×98	61	II B		a	8b式?	
427	ソ19	L III b 下部	(95)×94	(80)×76	31	II B	SK406+407>SK427	a	8b式以前	
428	ツ14	L III b 下部	307×268	242×225	96	III A	SK428>SK439 +459+460	a	8b式?	
429	チ15	L III b 下部	220×202	295×295	208	III A	SI93>SK429	a	8a式	
430	シ・ス13	SK472堆積上	194×182	168×142	41	II B	SK430>SK472	a	10式?	
431	ス13	LV	7.5×9.2	10.0×6.5	40	I B		d	9+10式?	
432	チ11	SI 8 0 床面	168×153	252×244	82	III A	SI80+105>SK432	b	8b式	
433	テ16	SI 8 4 床面	105×100	8.8×8.8	18	I A	SI84>SK433…SK434	d	8b式以前	
434	チ17	SI 8 4 床面	9.2×7.8	9.3×8.0	50	II B	SI84>SK434…SK433	a		
435	チ12	SI 10 5 床面	111×(70)	101×(70)	31	II B	SI80+105>SK435	d	9式以前	
436	サ19	SI65堆積土	196×190	312×295	169	III A	SK436>SI65	a	8b式?	
437	ス19+20	LIV	266×257	287×278	161	III A		a		
438	ソ18	SI 4 2 床面	170×170	255×253	202	III A	SI42>SK438	a	8b式	
439	チ14	LIV	(120)×116	(100)×90	20	I B	SK428>SK439	d	8b式?	
440	タ15	SK365堆積土	188×(150)	150×(100)	31	I A	SK440>SK365	d	10式?	
441	チ14	L.IV	108×100	9.5×8.4	11	I B		d		
442	ソ11	SI 7 6 床面	100×98	9.5×9.5	70	III A	SI76>SK442	d	10式以前	
443	ソ12	L III b 下部	146×125	130×112	22	I B		d	8b式?	
444	ソ12	SK524堆積土	149×136	126×116	26	I A	SK444>SK524	d	8b式?	
445	セ12	L III b 下部	154×(135)	125×110	32	I B	SK445…SK451	a	9+10式?	
446	チ15	SI93堆積土	105×95	8.6×7.7	14	I B	SK446>SI93	d	9式以後	
447	タ15	L III b 下部	205×165	152×127	97	II B	SK347>SK447	a	8b式以前	
448	ス16	SK461堆積上	136×120	106×99	33	II A	SK448>SK461	a	8b式?	

表3 土坑一覧

時期欄には、形式名を表す「人木」を省略して記載した。

土坑番号	位置	検出部位	規 模 (cm)			分類	重複状況 新>旧 …不明	堆積土	時期	備考
			上 端	下 端	深さ					
449	シ16	L III b 下部	182×179	156×150	68	II A	SK462>SK449	a	8b式?	
450	ス・セ15	SI107堆積土	215×206	252×230	197	III A	SI107>SK450	a	8a式	
451	セ12	L III b 下部	179×148	156×118	37	I B	SK451…SK445	a		
452	ト13	SI 8 1 床面	140×136	196×193	100	III A	SI75+81>SK452	a	8b式以前	
453	ツ17	SI 8 4 床面	229×200	264×260	170	III A	SI84>SK453	a	8a式	
454	ス17	L III b 下部	122×118	79×79	30	I A		a	8b式?	
455	ス17	SK456堆積土	115×113	98×97	25	II A	SK455>SK456	a	9式?	
456	ス17	L III b 下部	(124)×113	(104)×97	28	II B	SK456+497>SK456	a	8b式以前	
457	セ18	LV	100×(90)	85×(80)	17	I A	SI42+SK237>SK457	a	8b式以前	
458	セ18	LV	150×145	132×127	36	II A	SI42+SK238>SK458	a	9式以前	
459	ツ14	SK460堆積土	225×210	225×213	124	III A	SK428>SK159 >SK460	a	8b式	
460	ツ14・15	L III b 下部	205×195	203×200	150	III A	SK428+459>SK460	a	8b式以前	
461	ス16	L III b 下部	86×79	70×63	91	II A	SK448>SK461	a		
462	シ16	SK449堆積土	(130)×116	(97)×(90)	58	II B	SK462>SK449	a	8b式?	
463	チ6	SK464堆積土	180×(152)	218×(176)	58	III A	SI166-89+SK395> SK463>SK464	a	8b式	
464	チ6	LV	161×(90)	140×(85)	55	II B	SI166, SK125+ 463>SK464	b	8b式以前	
465	タ13	SI 9 9 床面	128×117	112×110	15	I A	SI99>SK465	d	9式以前	
466	セ14	SI 10 9 床面	202×190	302×298	190	III A	SI106-109>SK466	a	8b式?	
467	タ12	SI 9 9 床面	140×135	128×125	38	II A	SI99+114> SK467…SK506	d	9式以前	
468	チ13	SI 8 1 床面	(100)×96	(92)×77	22	II B	SI81>SK468	d	8b式以前	
469	ツ17	SI 6 0 床面	106×(68)	104×(62)	12	I A	SI60>SK469	d	10式以前	
470	チ7	LV	108×105	102×99	21	II A		a	10式?	
471	ト9	SK475堆積土	185×140	181×124	18	I B	SK471> SK348+349+475	d	10式	
472	ス12	LV	208×195	240×215	192	III A	SK430>SK472	a	8a式	
473	ツ13	L III b 下部	108×106	205×192	179	III A	SK473…SK484	a		
474	ツ21	LV	198×188	215×207	150	III A		a	8a式	
475	ト9	LV	83×74	75×67	33	II A	SK471>SK475	a	10式	
476	ツ6	SI 6 0 床面	250×180	236×174	24	I C	SI60, SK340>SK476	a	10式以前	

表3 土坑一覧表

時期欄には、形式名を表す「大本」を省略して記載した。

上坑番号	位 置	検出層位	規 模 (cm)			分類	重複状況 新>旧 …不明	堆積土	時 期	備 考
			上 端	下 端	深さ					
477 テ96	LV	100×93	81×75	63	IIA		a	9-10式?		
478 ヲ11	SI114床面	162×(110)	150×80	33	III C	SI114>SK478 >SK627	b	10式?	裏あり (#25-30-35cm)	
479 ヲ・タ11	SI114床面	95×75	76×63	24	I B	SI114>SK479	d	9式		
480	欠		番							
481 サ20	LIV	103×102	65×62	28	I A		a	8b式?		
482 サ20	LIV	140×134	212×202	137	III A		a			
483 タ9	LV	120×103	104×82	25	II B		a	9-10式?		
484 ノ・タ13	L III b下部	133×125	260×250	140	III A	SK484…SK473-508	a			
485 タ10	SI113堆積土	83×78	65×66	18	II A	SK486>SI113	d	8b式以後		
486 タ12	SK487堆積土	72×68	66×63	29	I A	SK486>SK487	a			
487 タ12・13	LV	(104)×85	(96)×83	21	I B	SK486>SK487	d			
488 チ9	LIV	(300)×296	(300)×265	119	II B	SK319+489> SK488>SK588+589	c	8b式?		
489 チ9	SI 71床面	240×178	290×230	106	III B	SI71>SK489> SK488…SK574	a	8b式		
490 セ4	LV	156×(110)	172×(123)	55	III A		a	8b式?		
491 セ9	LV	(145)×116	(135)×87	28	II B	SK607>SK491	b	10式?		
492 ヲ9	LV	152×95	139×87	24	I C		d	8a式		
493 ヲ10	LIV	(90)×76	(75)×56	34	I D	SK529>SK493	a			
494 セ13	LIV	142×111	121×95	21	I B		b			
495 シ17	SK496堆積土	250×210	236×225	87	III A	SK495>SK496	a	8b式		
496 シ17	LIV	239×(210)	236×227	143	III A	SK495>SK496	a	8b式以後		
497 ス18	SI110床面	265×235	273×273	136	III A	SI110>SK497 >SK456	a	8b式		
498 シ15	LV	(188)×168	168×131	47	II B		d			
499 ス16	SI107床面	120×120	114×111	16	II A	SI107>SK499	d	8b式		
500 ノ2	SI 95床面	152×140	205×157	89	III B	SI95>SK500	a	8b式以前		
501 ス・セ12	LV	200×125	(180)×95	39	II C	SK502>SK501	b	10式以前	人跡出土 清あり	
502 ス・セ13	SK501堆積土	143×120	113×102	45	I A	SK502>SK501	a	10式		
503	欠		番							
504 タ10	SI113床面	(160)×150	294×288	119	III A	SI113+SK530>SK504	a	8a式?		

表3 土坑一覧 09

時期欄には、形式名を表す「大木」を省略して記載した。

土坑番号	位 庫	検出部位	規 模 (cm)			分類	重複状況 新>旧 …不明	堆積土	時 期	備 考
			上 端	下 端	深さ					
505	チ12	SI 7 9 床面	240×218	225×225	126	III A	SI79>SK505>SK525	a	8b~9式	
506	タ12・13	SI 9 9 床面	170×154	278×267	141	III A	SI99>SK506> SK508~SK467	a	8b式	
507	タ13	SI 9 9 床面	72×(50)	68×(48)	35	II B	SI99>SK507	d	9式以前	
508	タ13	SI 9 9 床面	115×100	110×103	35	II A	SI99>SK506>SK508	a	8b式以前	
509	ソ5	SI 7 4 床面	167×155	182×180	75	III A	SI74>SK509	a	8b式?	
510	ス10・11	SK537堆積土	(180)×(102)	(152)×(86)	53	I E	SK510>SK537	a		
511	ソ4	LV	130×122	119×105	33	I A		a		
512	ソ44	LV	147×132	163×160	94	III A		a	8b式	
513	チ45	LV	160×106	170×160	69	III A	SK513~SK514	a	7b式?	
514	チ45	SK521堆積土	125×116	176×150	114	III B	SK514>SK521 ~SK513	a	7b式?	
515	ト44	LV	117×100	85×75	35	I A		d	8b式?	
516	セ8	SK517堆積土	117×92	118×92	39	II B	SK516>SK517	a	10式	
517	ス8	LV	110×105	121×109	58	III A	SK516>SK517	a	10式	
518	ス7	SK519堆積土	(173)×162	(167)×145	29	II B	SK518>SK519	d	9式?	
519	セ7・8	LV	150×135	133×72	31	II C	SK518>SK519	b		清あり (深さ:8-17m)
520	ス・セ7	SI 1 1 5 床面	246×(140)	256×(156)	94	III E	SI115>SK520	a	10式以前	
521	チ44	LV	88×(65)	70×(50)	25	I A	SK514>SK521	a		
522	タ13	SK599堆積土	123×106	115×100	17	I A	SK522>SK599	a	10式?	
523	ス11	LV	90×87	79×69	34	II A	SK523~SK380	a		
524	セ12	LV	(110)×104	94×80	22	II B	SK444>SK524	d		
525	タ9	LV	157×125	169×130	46	III B		a	10式	
526	タ9	LV	128×97	104×80	54	II B		b		
527	チ45	SI 1 1 6 床面	110×108	217×185	115	III B	SK116>SK527	a	8a式?	
528	ソ10	SK528堆積土	120×(92)	118×(84)	23	II E	SK528>SK529	d	10式?	
529	ソ10	SK493堆積土	162×156	288×273	128	III A	SK528>SK529> SK493~SK530	a	8b式?	
530	ソ10	LV	(100)×(55)	(74)×(50)	17	I E	SK529~SK530	d	10式?	
531	チ46	LV	118×114	110×106	49	II A		a	8b式	
532	タ・チ45	SI 1 0 床面	141×140	129×128	20	II A	SI10>SK532	d	8b式以前	

表3 土坑一覧 20

時期欄には、形式名を表す「大木」を省略して記載した。

土坑番号	位 置	検山高さ	規 模 (cm)			分類	重複状況 新>旧 ...不明	堆 積 上	時 期	備 考
			上 端	下 端	深さ					
533 タ10	SI 113床面	155×(118)	134×(102)	50	II B	SI113>SK533> SK504・587	b	8a~8b式		
534 ヲ4	LIV	164×158	179×170	60	III A		a	8b式?		
535 ヲ46	LV	113×111	105×105	22	II A	SI116>SK535	a	8b式以前		
536 ヲ7	LIV	123×(75)	90×(63)	21	I A	SI63>SK536	d	9式以前		
537 ス11	LIV	202×164	145×132	68	II B	SK510>SK537	a			
538 ス11	LIV	175×167	274×265	165	III A	SK626>SK538	a	8b式		
539	欠		番							
540 シ48	SK541堆積土	150×122	137×108	16	I B	SK540>SK541	d	7a式以後		
541 シ48	LIV	127×75	115×64	21	I C	SK540>SK541	b	7a式		
542 サ47	LIV	176×174	159×152	20	I A		a	8b式?		
543 ス47	LIV	128×85	115×70	24	II C		b			
544 タ46	SI 118床面	142×120	158×145	59	III A	SI118>SK544...SK61	a	7b式		
545 タ46	SI10+12床面	92×83	200×187	158	III A	SI10+12>SK545	a	7b式?		
546 ヲ・テ12	SI 90床面	219×(180)	245×238	181	III A	SI90>SK546	a	9式以前		
547 ヲ13・14	SI 90床面	210×207	254×248	159	III A	SI90>SK547	a	9式以前		
548 チ13・14	SI 90床面	180×159	253×228	137	III A	SI90>SK548>SK561	a	9式以前		
549 ス14	LIV	186×168	181×146	24	I B		d			
550 ス15・16	LIV	235×221	215×189	52	II B		a			
551 ソ46	SK118堆積土	(155)×155	(143)×135	22	I B	SK551>SI118, SK92	d	8a式?		
552 チ13	SI 90床面	183×163	258×246	203	III A	SI90>SK552	a	8b式		
553 シ17	LIV	120×116	109×101	21	II A		d			
554 ヲ46	SI 117床面	104×90	170×164	126	III A	SI117>SK554	a	7b式以後		
555 ヲ10	SK559堆積土	155×(90)	145×(75)	11	I C	SK559>SK559+560+ 569+570...SK389	d	8b式以後		
556 ヲ20	LIV	105×100	115×105	62	III A		a	8b式		
557 ヲ19・20	LIV	185×200	195×190	174	III A	SK567+568>SK557	a	8b式?		
558 タ10	SK559堆積土	(78)×(67)	(68)×(60)	35	II B	SK559>SK559+560	d	8b式?		
559 タ10	SI 113床面	230×223	298×295	157	III A	SI113, SK559+560> SK559+570...SK389	a	8b式		
560 タ10	LV	(72)×(62)	(65)×(55)	24	I E	SK555+556+559>SK560	b			

表3 土坑一覧

時期欄には、形式名を表す「大木」を省略して記載した。

土坑 番号	位置	検出層位	規 模(cm)			分類	重複状況 新>旧 …不明	堆 積 土	時 期	備 考
			上 端	下 端	深さ					
561	チ13	SI 9.0 床面	(239)×176	(225)×153	21	II B	SI9.0>SK548>SK561	b	9式以前	
562	チ10	SI113堆積土	130×8.6	118×6.5	27	II C	SK562>SI113… SK574	b	8b式?	薄あり (深さ: 10m)
563	ソ・タ11	SK555底面	9.8×8.8	9.2×7.7	30	II B	SK389+555+SG103 >SK563	d	9-10式?	
564	セ・ソ21	LIV	178×172	217×208	180	III A		a	8a式	
565	ヌ47	SI 3.3 床面	112×9.6	8.6×7.5	39	II A	SI3.3>SK565	d	7b式?	
566	ソ22	LIV	122×113	175×163	154	III A		a	7b式	
567	セ20	SK557堆積土	88×(65)	78×(58)	40	II A	SK567>SK557	a		
568	ヌ20	SK557堆積土	89×(80)	65×(58)	30	I A	SK568>SK557	d		
569	セ22	LIV	161×133	185×165	150	III A		a	8a式	
570	ソ10	SK555底面	8.2×6.4	7.0×5.5	20	II B	SK555>SK570… SK389	d		
571	ソ46	SI118床面	117×108	160×158	51	III A	SI118>SK571	a	7b式?	
572	ソ14	SI108床面	180×116	148×100	25	II C	SI108>SK572	b	10式以前	
573	タ15	SI 9.8 床面	174×171	222×217	108	III A	SI9.8>SK614>SK573	a	8b式?	
574	チ10	SK611堆積土	145×(104)	98×(68)	72	II A	SK489>SK574> SK611…SK562	c	8b式以前	
575	サ・シ17	L.V	(148)×(73)	(137)×(61)	55	II A		a		小穴あり
576	シ14・15	SI112床面	141×150	247×235	104	III A	SI112>SK576	a	10式以前	
577	ヌ9	L.V	178×(130)	298×(195)	155	III A		a	8a式	
578	セ20・21	SK579堆積土	165×140	174×138	86	III B	SK578>SK579	a	8b式	
579	セ20・21	LIV	230×214	325×314	191	III A	SK578>SK579	a	8a式	
580	タ26	LIV	131×124	180×170	131	III A		a	8a式?	
581	チ25	LIV	190×167	210×202	158	III A		a	8a式?	
582	ヌ23	LIV	186×186	260×235	185	III B		a	8a式	
583	セ30	LIV	134×127	9.5×9.4	47	II A		a		
584	シ32	LIV	112×108	100×95	15	I A		d		
585	チ16	SI 8.2 床面	54×(50)	48×(32)	47	II A	SI8.2>SK413>SK585	a	8b式以前	
586	チ17	SI 8.2 床面	76×(60)	36×32	79	II A	SI8.2>SK586	a	8b式以前	
587	タ10	SI113床面	(140)×(133)	(137)×(120)	27	II E	SI113, SK533+569> SK587…SK504	b	8b式以前	
588	タ9	LIV	(125)×(50)	(130)×(60)	77	III E	SK488>SK588	d		

表3 土坑一覧 22

時期欄には、形式名を表す「大木」を省略して記載した。

土坑番号	位置	検出層位	規 模 (cm)			分類	重複状況 新>旧 ...不明	堆積土	時 期	備 考
			上 端	下 端	深さ					
589	チ9	SK488床面	167×165	145×145	20	I A	SK319>488>SK589	d		
590	チ10	SI110床面	107×98	97×90	35	I A	SK590>SI110	a	10式?	
591	シ34	LV	175×163	167×153	61	II A		a		
592	ソ14	SI98床面	70×56	48×40	39	II B	SI98>SK592	c	8b式?	
593	サ・シ18	SI110床面	184×180	285×250	153	III A	SI110>SK593	a	8b式?	
594	シ19	SI110床面	(170)×145	280×255	94	III A	SI110>SK594> SK606	b	10式以前	
595	ソ12	SI105床面	148×148	228×225	160	III A	SI105>SK595	a	9式以前	
596	タ14	SI98床面	120×116	104×100	10	I A	SI98>SK596> SK606	d	8b式	
597	タ15	SI98床面	133×130	146×135	57	III A	SI98>SK597	a	8b式以前	
598	タ13	SK605堆積土	118×(85)	88×(80)	45	I B	SK609>SK598> SK605	a	8b式	
599	タ13	L III b下部	145×(103)	130×102	28	II B	SK522>SK599> SK605	a	8a式以後 小穴あり	
600	タ14	SK601堆積土	130×(55)	115×(43)	40	II B	SK600>SK601	d	9式?	
601	タ14・15	SK597堆積土	180×165	220×213	88	III A	SK600>SK601> SK597・602・647	a		
602	タ14	LV	176×(116)	190×(135)	65	III B	SK601・647>SK602	d	8b式?	
603	ケ35	LV	157×136	143×120	24	I B		d		
604	キ33	LV	195×150	148×130	99	II A		a		
605	タ14	SI98床面	182×180	290×285	210	III A	SI98>SK598>599> SK605>SK606	a	8a式	
606	ソ・タ14	SI98床面	205×205	283×265	166	III A	SI98・SK596・605 >SK606	a	8a式以前	
607	セ9	SK491堆積土	82×82	83×78	38	II A	SK607>SK491	a	9・10式?	
608	シ19	LV	84×(55)	100×(60)	84	III A	SI110>SK598>SK608	a	10式以前	
609	タ13	L III b下部	160×127	153×130	37	II B	SK609>SK598	a	9・10式? 小穴あり	
610	チ10	LV SI105床面	165×110	153×100	33	II B	SK105>SK610> SK622	b	9式	
611	チ10	LV	135×(110)	125×(105)	30	II B	SK574>SK611	c	8b式以前	
612		欠		番						
613	セ10	LV	135×85	130×78	26	I D		a		
614	タ14	LV	82×82	90×76	58	II B	SK614>SK573・599	c	9式?	
615	セ13	LV	107×105	90×86	42	II A	SK402>SK615	a	8b式以前	
616	ス9	LV	100×100	90×85	18	II C		b	満あり	

表3 土坑一覧四

時期欄には、形式名を省く「大木」を省略して記載した。

土坑番号	位置	検出層位	規 模 (cm)			分類	重複状況 新>旧 …不明	堆積土	時 期	備 考
			上 端	下 端	深さ					
617	ヌ9	LIV	124×120	105×103	19	I A		d	9式?	
618	ヌ9	LIV	102×83	100×100	53	III A		a	10式?	
619	ヌ9	LIV	(110)×102	(94)×85	25	II E	SK619>SK630	d	9式?	
620	ヌ9+10	LIV	(165)×100	(150)×(85)	15	I H	SK569, SK620>SK620	d	9式?	
621	タ9	LIV	84×82	75×68	32	II A		a		
622	チ10	SI 1105床面	96×87	78×70	33	II A	SI1105, SK610>SK622	d	9式以前	
623	タ12	SI 1114床面	111×108	94×87	31	II A	SI1114>SK623>SK629	b	10式以前	
624	チ10	LIV	82×65	66×35	52	II B		b		
625	チ12	SI 179床面	205×(170)	208×(170)	140	III A	SI179, SK506>SK625	c	8b式	
626	ヌ11	SK538堆積土	125×79	105×50	29	I D	SK626>SK538	d	8b以後	
627	タ11	LIV	120×115	110×95	40	II B	SI1114, SK479>SK627	b	10式以前	
628	タ11	LIV	210×203	365×361	165	III A	SI1114>SK628	c	8b式	
629	タ12	LIV	90×81	(80)×70	19	II B	SK623>SK629	a		
630		欠		番						
631		欠		番						
632	タ16	SI 97床面	185×110	211×(105)	73	III B	SI97>SK632>SK633	b	9式以前	
633	タ16	SI 97床面	112×(90)	175×168	79	III A	SI97, SK632>SK633	d	9式以前	
634	ヌ5+6	SI 85床面	185×167	290×268	130	III A	SI85>SK634	a	8b式	
635	タ16	SI 97床面	130×115	175×167	107	III A	SI97>SK635	a	8b式	
636	ヌ+セ13	LIV	189×122	162×110	31	II H		b	満あり	
637	ヌ17	SI 42床面	199×190	177×175	46	II A	SI42>SK637	c	8b式?	
638	シ18	SI110炉底面	147×126	252×244	114	III A	SI110>SK638	a	10式以前	
639	タ17	SI121か純面	112×110	102×100	18	I A	SI121>SK639	d	8b式?	
640	チ12	L III b下部	95×82	84×62	17	II B		d	8b式?	
641	チ12	L III b下部	110×107	96×94	12	I A		d		
642	タ98	L III b	164×127	145×113	52	II B		a		
643	チ98	L III b	167×140	157×145	105	II B		a		
644	チ98	L III b	142×127	146×142	83	III A		a	7ax?	

## 第3節 土 坑

表3 土 坑 一 覧 表

時期欄には、形式名を表す「大木」を省略して記載した。

土坑番号	位置	検出層位	規 模 (cm)			分類	重複状況 新>旧 ...不明	地盤土	時 期	備 考
			上 端	下 端	深さ					
645	ゾ17	SI106床面	102×96	85×78	22	I A	SI106>SK645	d	8b式?	
646		欠		番						
647	タ・チ15	SI93床面	236×145	210×130	45	I D	SI93, SK601> SK647>SK602	d	8b式?	
648	ゾ14	LIIIb下部	87×73	65×64	67	II A		b	7b式?	屋外柱穴
649	ゾ97	LIIIb	127×124	130×128	84	III A		a		
650	ゾ96	LIIIb	198×165	210×155	98	III B		a		
651	ゾ96	LIIIb	187×135	157×135	124	III B		a		
652	ト6	SI70床面	194×172	119×113	100	II A	SI70, SG100>SK652	c	8b式?	
653	セ34	LV	187×165	165×138	27	II B		a	7b式	
654	ス・セ34	LV	90×82	84×78	13	II A		a		
655	セ33	LV	145×130	120×110	27	I A		a	7b式?	
656	セ33	SI124床面	115×(100)	93×(75)	30	II C	SI124>SK656	a	7b式?	
657	チ0	LV	68×66	58×55	30	I A		a		
658	チ99	LV	95×92	78×72	34	I A		a	7b式?	
659	チ98	LV	138×116	112×95	74	II A		a		
660	ゾ97	LV	149×146	150×142	60	II A		a	9式?	
661	チ94	LV	115×115	107×106	30	II A		a		
662	ゾ97	LIIIb	145×140	133×130	53	II A		a		
663	ゾ98	LV	74×66	73×70	49	II A		a		
664	ト95	LV	140×126	110×106	24	I A		a		
665	チ95	LV	183×153	190×110	103	II B		a		
666	セ38	LV	178×150	146×98	35	I B		a		
667	ト93・94	LV	201×150	178×120	60	II B		a		
668	ト93	LV	130×121	135×120	61	II A		a		
669	ゾ36	LV	175×160	190×183	112	III A		d	8a式	
670	ト94	LV	175×155	166×130	112	III B		a		
671	ト93	LV	295×180	266×158	63	II C		a		
672	チ92	LV	153×175	215×137	126	III B	SK673>SK672	a	7a式?	

表3 土坑一覧

時刻欄には、形式名を表す「大木」を省略して記載した。

上坑 番号	位 置	検出病位	規 模(cm)			分類	重複状況 新>旧 …不明	堆 積 上	特 別 備 考
			上 端	下 端	深さ				
673	テ92	SK672堆積土	(190)×175	(180)×142	75	II A	SK673>SK672	a	
674	ト89・90	LV	124×123	107×95	78	II A		a	6式?
675	テ91	LV	95×80	85×72	29	II B		a	
676	テ91	LV	150×127	125×114	82	II A		a	7a式
677	ト94	LV	136×124	102×90	110	II B		a	7ax式?
678	ニ15	LV	140×115	122×112	63	II B		a	8b式
679	ソ31	L III b 下部	155×150	105×100	50	II A	SK681>SK679	c	7a式?
680	ナ12	LV	115×88	93×57	25	I B	SI127...>SK680	d	
681	ソ31	SK679堆積土	93×(70)	70×(53)	40	II B	SK681>SK679	a	
682	ス・セ15	LV	250×205	206×202	185	II A		a	
683	テ19	LV	215×176	195×161	14	I B		d	9式?
684	ト19	LV	164×149	130×115	73	II A		a	
685	テ22	LV	192×155	170×138	28	II B		d	7b式?
686	テ22・23	LV	188×162	164×135	30	I B		a	8b式?
687	ト17	L III b 下部	261×233	250×212	155	III B		a	8b式
688	ト90	LV	146×112	166×100	81	III D		a	
689	ソ26	LV	184×160	167×147	40	I A		b	8b式?
690	ト92	LV	148×132	142×130	112	II A		a	7a式?
691	ナ89	SK692堆積土	137×120	122×100	33	I B	SK691>SK692	a	7a式?
692	ナ89	LV	229×197	195×181	75	II A	SK691>SK692	a	7a式?
693	ナ90	LV	176×175	180×168	45	II A		a	6式?
694	ト91	LV	130×126	115×110	42	II A		a	
695	ナ91	LV	216×178	183×140	46	I B	SK695>SK732	a	6式?
696	ヒ1	LV	168×155	143×122	33	I B		a	
697	ト91・92	LV	152×148	125×122	58	II A		a	7a式?
698	ソ92	LV	150×127	160×125	98	II B	SK702>SK698> SI136, SK699	a	7a式
699	ソ・本92	LV	138×135	164×168	78	II A	SK698>SK699>SI136	a	7a式
700	ニ91	LV	160×132	135×104	44	II B		a	7a式?

表3 土坑一覧

時期欄には、形式名を表す「大木」を省略して記載した。

土坑番号	位置	検出層位	規模(cm)			分類	重複状況 新>旧 …不明	堆積土	時期	備考
			上端	下端	深さ					
701	±90	LV	162×154	136×130	54	I A		a		
702	~92	LIV	112×(110)	111×(105)	56	II A	SK702>SI136, SK698	a	7a式以後	
703	~92	LV	108×105	182×160	90	III A		a	6式?	
704	ナ93	LV	106×105	130×115	60	III A		a	7a式?	
705	ナ92	LV	140×127	153×125	106	III B		a		
706	~92	LV	96×80	190×185	159	III A		a	6式	
707	±90	LV	198×157	178×162	40	II B		a	6式?	
708	ナ88	LV	206×180	192×180	98	III A		a	6式?	
709	±89	LV	145×137	125×120	50	II A		a	6式?	
710	フ90・91	LIV	116×109	117×113	47	III A		d	6式?	
711	マ90	LIV	200×190	205×205	145	III A		a	7a式?	
712	ノ91	LV	100×96	107×103	79	III A		a		
713	マ91	LIV	202×140	205×142	51	II B	SK713>SI136, SK750+757	d	7a式	
714	ホ91	LIV	130×123	135×133	58	II A	SK750>SK714> SI136, SK742	a	7a式	
715	ナ90・91	LV	154×140	137×122	41	II A		a	6式?	
716	ナ・±91	LV	182×149	182×146	99	III B	SK716>SK748... SK774	a		
717	ホ92	LV	187×160	200×180	146	III A	SK717...SK731	a	6式?	
718	マ91	LIV	91×91	88×83	50	II A	SK718>SI136, SK757	a	7a式以後	
719	ノ90	LV	120×116	130×125	68	II A		a	6式?	
720	ホ91	L III b 下部	125×(100)	145×(120)	96	III A	SK721>SK720>SI136	a	7a式	
721	ホ91・92	SI136堆積土	160×135	162×140	116	III A	SK721>SI136, SK720+726+725+719	a	7a式	
722	ホ87・88	LV	142×120	140×115	51	II B	SK746>SK722	a	6式?	
723	ノ90	LV	145×116	130×130	138	III A	SK723...SK765	a	7a式	
724	ホ89	SK725堆積土	169×(150)	137×(100)	53	I B	SK724>SK725	a	7a式?	
725	ホ89	LV	182×178	182×157	70	II B	SK724>SK725	b	7a式?	
726	ホ91・92	SI136床面	152×(80)	133×(73)	42	I B	SK721>SK726> SI136, SK735+779	a	7a式	
727	ノ91	SK728堆積土	120×(80)	105×(66)	26	II A	SK727>SK728	d	7a式?	
728	ホ・ノ91	LV	124×110	105×104	114	III A	SK727>SK728> SK729...SK781+759	a	7a式?	

## 第2章 造構と遺物

表3 土坑一覧表

時期欄には、形式名を表す「大木」を省略して記載した。

土坑 番号	位 置	検出層位	規 格(cm)			分類	電 極 状 況 新>旧 …不明	堆 積 土	時 期	備 考
			上 端	下 端	深さ					
729	×91	SK730堆積土	(115) × (80)	(110) × (80)	70	II B	SK728 > SK729 > SK730 … SK759-781	a	7a式?	
730	×91	LV	140 × 126	155 × 140	200	III A	SK729 > SK730	a	7a式?	
731	×92	LV	140 × (133)	123 × 100	91	II C	SK731 … SK717	a	6式	
732	†91	LV	(184) × 145	195 × 170	91	III B	SK695 > SK732	a	6式?	
733	×89	LV	123 × 117	113 × 110	50	II A		d	6式?	
734	=89	LV	100 × 94	83 × 78	53	II A		d	7a式?	
735	†92	SI136堆積土	104 × (70)	95 × (55)	81	II B	SK721 + 726 > SK735 > SI136	a	7a式	
736	~91	SI136床面	125 × 124	113 × 112	40	II A	SK736 > SI136	a	7a式以後	
737	=88	LV	119 × 110	134 × 132	69	III A		a	6式?	
738	= × 88	LV	114 × 100	125 × 108	78	III B		a	6式?	
739	×89	SK761堆積土	(230) × 180	(205) × 145	52	II B	SK739 > SK761 … SK740 + 780	a	7a式	
740	×89	LV	108 × 97	110 × 105	97	III A	SK740 … SK739 + 780	a	7a式?	
741	=89	LV	119 × 109	92 × 92	94	II A		a		
742	†91	SI136床面	143 × 98	133 × 99	56	II B	SK714 > SK742 > SI136	d	7a式	
743	×90	SK744堆積土	160 × 140	150 × 134	82	II A	SK743 > SK744	a	6式	
744	×90	LV	166 × 162	155 × 150	56	III A	SK743 > SK744	a	6式	
745	×88	LV	122 × 115	126 × 116	56	II A		a	6式?	
746	×87	SK722堆積土	(120) × 100	(118) × 100	27	II B	SK746 > SK722	a		
747	×89	LV	150 × 120	125 × 115	68	II A	SK747 … SK777	a	7a式	
748	=91	LV	(145) × 130	110 × (70)	101	II B	SK716 > SK748	d	6式	
749	†92	SI136床面	194 × 100	132 × 100	99	II B	SK136 > SK749	a	7a式?	
750	† - × 91	SI136床面	120 × 113	(124) × 117	62	III A	SK713 > SK750 > SI136 + SK714	a	7a式	
751	×88	SK752堆積土	(100) × 92	(136) × 130	101	III A	SK751 > SK752	a	6式	
752	×88	LV	221 × (150)	218 × (125)	42	II B	SK751 > SK752 … SK771	a	6式?	
753	×90 + 91	SI135床面	102 × 92	120 × 100	72	III B	SI135 > SK753	a	7a式?	
754	×88	LV	147 × 116	90 × 90	96	II A	SK754 … SK755	a	6式	
755	=88	LV	178 × (175)	(158) × 155	48	I A	SK755 … SK754 + 756 + 775	d	6式?	
756	=88	LV	(166) × (145)	(162) × (130)	28	II B	SK755 … SK756	a	7a式	

表3 土坑一覧

時期欄には、形式名を表す「大木」を省略して記載した。

土坑番号	位臯	検出層位	規 模 (cm)			分類	重複状況 新>旧 …不明	堆積上	時 期	備 考
			上 端	下 端	深さ					
757	ホ・マ91	SI 136床面	202×130	195×115	46	II C	SK713・718> SK757>SI136	a	7a式	
758		欠		番						
759	ノ91	LV	144×(110)	120×120	121	II A	SK759…SK728・729	d		
760	ノ91	LV	104×88	127×121	94	III A		a		
761	ホ89	LV	145×130	150×145	63	III A	SK739>SK761… SK764	d	7a式	
762	ホ89	SK763堆積土	(170)×140	153×(120)	66	II B	SK763>SK762… SK776	a	7a式?	
763	ホ89	LV	(155)×(105)	(157)×(105)	45	III B	SK762>SK763… SK766・771	d		
764	ホ88・89	LV	(74)×(70)	(68)×(53)	31	II B	SK764…SK761	d	7a式?	
765	ホ90	LV	104×(65)	100×(70)	61	III A	SK765…SK723	d	7a式?	
766	ヌ88・89	LV	(170)×(142)	(170)×(132)	54	II E	SK766…SK763・ 768・777	d	7a式?	
767	ヌ89	LV	132×107	95×90	76	II A	SK767…SK768	a	6式?	
768	ヌ89	LV	113×(80)	95×(75)	44	II B	SK768…SK766・767	d	6式?	
769	ハ90	LV	97×93	87×77	23	II A		d		
770	ヌ91	SI 135床面	135×123	160×155	72	II A	SI135>SK770	a	7a式?	
771	ホ88	LV	132×122	113×106	44	II A	SK771…SK763	a		
772	ヌ90	SK773堆積土	(165)×(55)	(135)×(46)	54	II E	SK772>SK773	a	7a式?	
773	ヌ90	LV	125×124	111×110	58	II A	SK772>SK773	a		
774	ホ91	LV	(115)×106	(105)×82	40	II B	SK774…SK716	a		
775	ヌ88	LV	116×(105)	95×(74)	89	II A	SK755>SK775… SK778	a	6式?	
776	ホ89	LV	(161)×100	(160)×97	82	II C	SK776…SK762	d	7a式?	
777	ヌ89	LV	129×121	149×133	88	III A	SK777…SK747・766	a		
778	ヌ88	LV	134×(100)	114×(70)	58	II B	SK778…SK775	d	6式?	
779	ホ91	SI 136床面	(110)×(65)	(65)×(62)	30	I E	SI136・SK721・ 726>SK779	d	7a式以前	
780	ホ89	LV	(90)×(55)	(100)×(60)	45	III A	SK780…SK739	d		
781	ホ91	LV	117×(105)	106×(90)	44	II A	SK781…SK729・ 730・782	d	7a式?	
782	ヲ8	SI 71床面	(130)×(40)	(70)×(30)	57	II E	SI71>SK782>SK783	d	10式以前	
783	ヲ9	SI 71床面	212×185	218×212	60	III A	SI71・SK782>SK783	a	10式以前	
784	ヌ32	LIV	130×(115)	102×(98)	27	I E	SK172・195>SK784	a	7b式以前	

表3 土坑一覧

時期欄には、形式名を表す「大木」を省略して記載した。

土坑番号	位置	検出層位	横(cm)			分類	重複状況 新>旧 …不明	堆積土	時期	備考
			上端	下端	深さ					
785	セ56	SI 4 8 床面	105×91	60×56	14	I A	SI48>SK785	d	7b式以前	
786	シ14	SI 1 1 2 床面	(122)×(47)	(110)×(43)	22	II E	SI112>SK786	a	10式以前	

が13cmであるのに対して、P1は2cm、P2は6cmと浅い。P1・P2は規模が小さく、底面の窪みの可能性もあるため、土坑に伴うものはP3のみと捉えている。

S K369・478・501・519・562・616・636の壁際からは、溝や小穴が検出された。SK369・519は短辺際に、SK562・616は1長辺際に、SK478・501・636では、溝・小穴が断続しながら周壁際をほぼ全周するように作られている。溝の幅は20cm程であるが、SK562は6~10cmと狭い。溝の深さは、土坑底面からSK562・616が10cm以下、SK519は8~17cmと浅い。その他の土坑は深さ20cm程のものが多く、最も深いSK478では40cmを測る。これらは、中央区の比較的狭い範囲に位置し、形態的にはⅡ群C類あるいはそれに類似し、皆人為堆積の状況を呈するという共通点を有していることから、同じ機能・性格を持つ土坑と推測している。(月治)

## 6 土坑出土遺物

### 1~10号土坑出土遺物 (図428~508~512~594~605)

遺物出土状態 いずれの土坑とも遺物出土状態にまとまりは無く、繩文土器は土坑堆積土中から破片が散在した状態で出土している。図428-4はSK7-14の両土坑から出土した破片を接合・復元したものである。

遺 物 図428-2は口縁部が外傾して開く小型の深鉢で、口縁部には山形の沈線文を施している。同図4はキャリバー状の深鉢で、口唇部直下に長楕円形状の無文帶が見られる。口唇部と無文帶下端の隆線上にはスリットが加えられ、その下には波状沈線文が施されている。胴部はT字状の隆線で区画され、区画内にも波状沈線文が施されている。図508-3・5~8・22は粘土組で渦巻文を、図509-18は降沈線で、一部が渦巻状をなす波状文を描き出している。図508-12~15、図510-1・2は沈線が多用される土器である。図508-17、図509-1には繩圧痕文が、同図2~4・6~8には有節沈線文が施されている。図509-11の口縁部には縦位の短沈線が、同図21には中空の突起が見られる。図510-5・8は口縁部が肥厚するもので、5の口縁部には部分的に交互刺突文が施されている。交互刺突文は同図4、図511-2・7~11・25・26、図512-6にも認められる。図510-16~17、図511-1、図512-3は隆帶による楕円形区画

文に沿って、有節沈線文・沈線文を施す土器である。図 510-18~20 は、同種土器の胴部破片である。図 594-5 は石器の未製品、同図 1・4・7・8 は不定形石器である。同図 2・6 は刻片を利用した石核、同図 3 は三角形状の石製品である。図 605-1 は凹部のある磨石で、側縁部に敲打痕状の使用痕が認められる。

#### 14・15・17~20 号土坑出土遺物 (図 428・512・513・594・603・605)

遺物出土状態 SK14からは図 428-5 が横倒し、SK18からは同図 9 の土器が正立の状態で出土している。その他の土坑では、縄文土器片は堆積土中から散在した状態で出土した。

遺 物 図 428-5 は口縁部が 4 単位の波状をなす深鉢で、一波頂部には内面が獸面状をなす突起が付けられている。文様は口縁部と平行するように 3 条の有節沈線文を施し、最下部の有節沈線は鋸歯状文を描いている。同図 6 は、口縁部が短く外傾する小型の深鉢である。頸部には縦位の縦圧痕文を施し、口唇部には押捺を加えている。同図 8 は小さな深鉢の胴部で、沈線で端部が渦巻文を描く、ランク状の文様を施している。

同図 9 の口縁部には、二段の鋭い屈曲が認められ、口縁部文様帶はこの屈曲により上下に三区分される。最上部の文様帶には、渦巻状をなす小突起が付けられている。中位の文様帶には、隆線による梢円形状の区画文が描かれ、区画文内には沈線文が山形・横位に施されている。口縁部突起と対応する位置には、瘤状の貼付文が見られる。最下段には無文帶を配している。胴部は、Y 字状の隆線で区画されている。

図 512-9~11 には交亘刺突文が、図 513-7・10 には縦圧痕文が、図 512-29 の口縁部には、縦位の短沈線が施されている。同図 30 は、隆線による梢円形区画文に沿って有節沈線文が施されている。図 513-1 は、連続爪形文によって文様を描くものである。同図 3~5 は沈線が施されるもので、沈線間の一部には三角形の刻みが加えられている。図 594-9~11 は不定形石器、図 603-4 は磨製石斧、図 605-2・3 は凹部のある磨石である。

#### 21~27・29・30 号土坑出土遺物 (図 428~430・513~516・594・605)

遺物出土状態 SK25からは、図 429-1 に示した土器が横倒しの状態で出土している。その他の土坑では、縄文土器片は堆積土中から散在した状態で出土した。

遺 物 図 429-1 の口縁部には、上面が S 字状をなす突起と橋状の把手が付けられている。橋上把手の一部には、円形の貼付文も認められる。口縁部文様帶は横位に施された隆線によって上下に 3 区分され、中位の文様帶には梢円形区画文を基本とする文様が施されている。下位の文様帶には梢円形区画文の接点部から Y 字状の隆線を垂下させ、その間に對弧状の有節沈線文を施している。この文様は T 字状の隆線で区画された胴部にも見られ、弧状文の中央は渦巻文を描いている。図 429-2 は、胴部文様帶が横位の隆線で上下に 2 区分されるものである。上部には 2 隆線に縦取られた無文帶を連弧状に配し、その頂点部には渦巻文を加えている。さらに、

無文帶に沿って隆線と有節沈線文により連続するC字文を施している。このC字文は下部文様帶にも施され、その下には渦巻文が認められる。同図3は横S字状の突起の施されたもので、突起間には楕円形の無文帶が見られる。図430-3は、肥厚する口縁部下端に押捺が加えられている。

図513-19・23~25、図515-31、図516-10・27・30には交互刺突文が、図516-11・16・17の胸部には綴位の沈線文が密に施されている。図514-1~9は沈線で文様を描くもので、1の地文には撫糸文が施されている。同図18・23は口唇部直下に幅の狭い文様帶を持ち、この部分には刺突文が施されている。同図14、図515-23~28、図516-24は隆線による楕円形区画文に沿って角押文が、図516-12は橋状把手の上に、ボタン状の貼付文が見られる。図594-18は石鎚の木製品、同図13・15・17は不定形石器で、13の刃部の角度はほぼ直角をなしている。同図12・16は石核である。図605-4は敲石である。

#### 31~40号土坑出土遺物(図429・430・516・517・603・605)

遺物出土状態 SK32の底面から20cm上からは、図429-5に示した土器が横倒しの状態で出土している。その他の十坑では繩文土器は、破片状態で出土しているだけである。

遺物 図429-5は、口唇部とその直下に波状に粘土紐を貼り付けている。口唇部の波状文上には刺みが施され、一部は渦巻文を描く小突起を作っている。頭部には綴位の綱圧痕文が、胸部には結束された綱により、羽状綱文が施されている。図430-1は脚、同図4はII縁部に隆沈線による弧状文と交互刺突文、胸部にはY字状の隆線が施されている。

図517-2・4には交互刺突文、同図18・19には一角文が施され、2には隆線による楕円形の区画文が見られる。同図11は有節沈線の施された扁状の把手、同図12は有節沈線で連続するY字状の文様を描いている。同図16・17・20は地文を施さないもので、20には隆沈線による楕円形区画文が見られる。図603-2は磨製石斧、図605-5・8は四部のある磨石である。

#### 41~50号土坑出土遺物(図430・431・518~520・595・605)

遺物出土状態 SK46の床面直上や堆積上下部からは、3個体の土器が出土している。図430-6の土器は、底面の2cm上から横倒しの状態で出土した。その他の土坑では、繩文土器は破片状態で散在して出土している。

遺物 図430-6はキャリバー状の深鉢で、口縁部には中空の把手が1個付けられている。II縁部には粘土紐で波状文が描かれ、この波状文の波頂部と波底部には渦巻文が加えられる。頭部には無文帶が見られる。同図7は大型の深鉢で、II縁部には中空の把手を全周させる。文様は粘土紐で描かれ、口縁部には渦巻文、胸部には末端が渦巻文をなすクランク文を連続して施している。同図5は繩文の施された小型の深鉢で、口縁部の対面する位置に渦巻状の突起が付いている。図431-1は、沈線を多用して文様が描かれている。同図6は深鉢の脚部である。

図518-1~3は口縁部が複合口縁状をなすもので、同図4・5は同類土器の脚部破片である。

同図6～8は隆線に沿って角押文が施されるもので、7には三叉文も見られる。同図11～13・28は、同類土器の胸部破片である。同図19の口唇部にはスリットが、同図9・25、図519・22には交互刺突文が施されている。図519-1～3、図520-1は沈線を多用して文様を描いている。図518-16・24、図519-4～12・14～21は、隆沈線や沈線と粘土紐の貼付文によって文様を描いている。図595-1は、石窓で表裏面に粗い調整剥離を加えている。図605-7～10は凹部のある磨石で、7・8の側縁部には敲打痕状の使用痕が認められる。

#### 52～56・58・59号土坑出土遺物(図431・520・521・595・606)

**遺物出土状態** SK52からは、大型の破片が多量に出土している。図431-2～5に示した4個体の土器は、E5から出土した破片を復元したものである。その他の土坑からは、縄文土器は破片が散在して出土している。

**遺 物** 図431-3は沈線を多用して文様を描くもので、口縁部には隆帯による楕円形区画文を配している。同図4は口縁部に4個の中空の把手を持つもので、この上面は横S字状をなしている。把手間を隆帯と沈線で繋ぎ、その下には沈線で波状文を描いている。同図2は縄文を施した粗製土器、同図5は小型の無文土器である。図520-18の口唇部にはスリットが、図521-4には縦圧痕文が施されている。図520-16・17、図521-5・13は沈線を多用して文様を描いている。図520-3～14・23、図521-1～3・10・11は隆沈線や沈線、粘土紐の貼付文によって文様を描いている。図520-14の地文には羽状縄文が、図521-3の口唇部には爪形文、同図14の隆帶上には円形刺突文が施されている。図595-2・9は剥片、同図3～7は剥片の側縁部に調整剥離を加えた不定形石器である。7の刃部の角度は、搔器の刃部の角度に近い。図606-1～3は凹部のある磨石で、1・2には側縁部に敲打痕状の使用痕が認められる。

#### 61～70号土坑出土遺物(図521・522・604・606)

**遺物出土状態** いずれの土坑とも、縄文土器は破片が散在した状態で出土している。まとまって遺物が出土した土坑はない。

**遺 物** 図521-17～27、図522-1は、隆沈線・沈線・粘土紐貼付文によって文様を描いている。図522-2・5には、押し引きによる刺突文が施されている。図606-4・5は磨石、図604-6は擦器である。

#### 71～78・80号土坑出土遺物(図431・522・523・595)

**遺物出土状態** いずれの土坑とも、縄文土器は破片が散在した状態で出土している。まとまって遺物が出土した土坑はない。SK72の底面からは人工的な加工はないが、20～50cm程の躰が、多量に出土している。

**遺 物** 図431-8は小型の無文土器、同図7は有節沈線文が施された把手である。図523-8は、沈線を多用して文様を描いている。図522-13～21、図523-1～7は、隆帯や沈

## 第2章 遺構と遺物

線、粘土紐貼付文によって文様を描いている。図 522-15・19-21には粘土紐の間に短沈線が施され、20 の口縁部には中空の把手が付けられている。同図 16-21 の地文には、撫糸文が施されている。図 595-8 は剥片である。

### 81~90号土坑出土遺物 (図 431・523・524・595)

遺物出土状態 いずれの土坑とも、縄文土器は破片が散在した状態で出土しているだけである。まとまって遺物が出土した土坑はない。

遺 物 図 431-9 は、口縁部に隆帯による横S字状の突起が付くものである。図 524-5 は、沈線を多用して文様を描いている。図 523-9~14・17~24、図 524-1・3・6~9 は、沈線や粘土紐貼付文によって文様を描いている。図 523-17・18 の口縁部には幅の広い無文帯が見られ、図 524-2~4 は口唇部直下に連続刺突文が施されている。図 595-10 は表裏面に粗い調整を加えた不定形石器、図 606-6 は凹部のある磨石で周縁部に使用痕が認められる。

### 91~100号土坑出土遺物 (図 431~433・435・524・606)

遺物出土状態 SK93 の検出面からは図 432-1、図 433-6、図 435-1 に示した土器が、大型破片の状態で出土している。その他の土坑では、縄文土器は破片状態で散在して出土しているだけで、特にまとまった遺物の出土状態は確認できなかった。

遺 物 図 432-1 は緩い波状口縁の深鉢で、口縁部には隆帯による幅の狭い文様帶が付き、波頂部には渦巻文を施している。図 433-6 は口縁部に凸帯が巡り、以下には粘土紐を横位・縦位に施している。図 435-1 は口縁部に中空の突起が全周し、以下には沈線文が横位・縦位に施されている。図 524-10 は波頂部に渦巻文が、同図 15・18・19 は隆帯・沈線で文様を描いている。同図 12 は隆帯による梢円形区画文に沿って有節沈線文が、同図 16 は口唇部に押捺が加えられている。図 606-7 は側縁部にまで窪みの認められる磨石である。

### 101~110号土坑出土遺物 (図 432・525・595・606・607)

遺物出土状態 SK102 の底面からは図 432-2・4 に示した土器が、潰れた状態で出土している。その他の土坑では、縄文土器は破片が散在した状態で出土した。SK109 からは磨石が多数出土している。

遺 物 図 432-2 は口縁部に末端が渦巻状をなす梢円形の区画文が見られる。区画内には矢羽状の沈線文が、地文には撫糸文が施されている。同図 4 は無文の鉢型土器である。図 525-1~4・10・12~14・22 は、隆帯・降沈線・沈線・粘土紐で文様を描くもので、10 の口縁部には矢羽状の沈線文が施されている。同図 3・5 の隆帯上には押捺が、同図 18 の口唇部上には縄压痕文が施されている。同図 6-9・16-17・20 は隆線に沿って有節沈線文が施され、16 には複列の有節沈線文が見られる。図 595-11 は不定形石器、図 606-8・9、図 607-1

～4は凹部のある磨石である。図606-8、図607-1の周縁部には敲打痕状の使用痕が認められる。図607-11は六角柱状をなす自然石である。

#### 111～120号土坑出土遺物(図432・433～435・525～528・604・607)

遺物出土状態 SK115堆積土中からは大型の破片が多量に、SK118の底面からは図435-5に示した土器が、横に倒れて潰れた状態で出土している。その他の土坑では、縄文土器は破片が散在した状態で出土している。

遺 物 図432-5の口縁部には横に連続するS字文が、降線と繩圧痕文で描き出されている。同図6と図433-1は口縁部直下に降線で区画された幅の狭い文様帯が認められ、その下には6では粘土紐、1では沈線によって文様が描かれている。図433-5、図434-1～3は口縁部に中空の突起が付けられたもので、図434-1には、粘土紐により渦巻文や波状文が描かれている。同図3には、斜位の沈線文が施されている。同図4・9と図435-2は、沈線を多用して文様を描くもので、2の突起は鶴頭冠状をなしている。図435-5の口縁部には降線による梢円形の区画文、胴部には沈線で横に連続する文様が描かれている。沈線の一部は渦巻文や菱形文を描いている。

図525-23・24と図528-9には降線と繩圧痕文、図525-26と図526-1・2の口縁部には、連続刺突文が施されている。図526-3・13・14・16、図527-1は沈線で文様を描くもので、14には浅い平行沈線文が施されている。図527-3は浅鉢、図528-6・11は粘土紐で文様が描かれている。図604-1は撥状の打製石斧で、周縁部に粗い調整剝離を加えている。図607-5・7は磨石で、7の側縁部には使用痕が見られる。

#### 121～130号土坑出土遺物(図435・436・529・530・607)

遺物出土状態 SK126の堆積土上部から出土した破片の一部は、図436-1・2に示した土器に、SK121の底面から出土した破片の一部も、図435-4に示した土器に復元できた。その他の土坑からは、縄文土器は破片が散在した状態で出土している。

遺 物 図435-4は浅鉢で、降線により文様が描かれている。図436-1の口唇部直下と、口縁上部・頸部には、横位の交叉刺突文が施されている。口縁部には突起が4個付けられ、口唇部には縦位のスリットを加えている。胴部には有節沈線により単発的な文様が描かれている。同図2はY字状の降線を施した深鉢の胴部破片である。図529-1～5は、沈線文が施された深鉢の胴部破片である。4・5には地文に捺糸文が施されている。同図6は降沈線で、同図8・10・11は平行沈線文が施されている。10の口縁部は、複合口縁状に肥厚する。同図12・16には交叉刺突文が、同図18・21、図530-1には、繩圧痕文が施されている。図529-20～22は降線で文様が描かれるもので、降線の一部は上下からの押捺で波状文を描いている。同図17はS字状の突起が付き、口唇部直下には刺突文の施された幅の狭い文様帯が見られる。

131～140号土坑出土遺物(図436・437・530・531・595・596)

遺物出土状態 SK134検出面からは図437-1に示した土器が、SK138の底面からは図436-9の上器がそれぞれ横に倒れた状態で出土した。その他の土坑の遺物出土状態にまとめではなく、縄文土器は破片が散在した状態で出土している。

遺 物 図436-8は小型の深鉢で、口縁部にはS字状の突起が、口唇部直下には刺突文が施されている。同図9の口縁部には凹帯状の無文帯が見られ、突起下部はX字状をなしている。図437-1は、口縁部が球体状をなす粗製の深鉢である。図530-19は粘土紐、同図23～27、図531-1は沈線を多用して文様を描くものである。図530-6・7・17は隆線に沿って有節沈線文が施され、17の隆線間に無文帯が認められる。同図8は山形の波状口縁の深鉢である。同図16には列点文が施されている。図531-4の口縁部は、複合口縁状に肥厚する。同図19・20には交互刺突文が、図530-13には縄圧痕文が施されている。図531-8は口縁部が肥厚し、胴部が球体状をなす深鉢である。口縁部には隆線で波状文を、頸部下端には斜めの押捺を加えた隆線を施している。胴部上半には平行沈線により、鋸歯状文が描かれている。図595-12は周縁部に調整を加えた不定形石器、図596-1は打製の三脚石器である。

141～150号土坑出土遺物(図436・437・532～535・596・603・604)

遺物出土状態 SK141堆積上中から破片状態で出土した縄文土器は、接合の結果、図436-3～6に示した大型破片に復元する事ができた。その他の土坑では遺物出土状態にまとめはない。各土坑とも縄文土器は、破片が散在した状態で出土している。

遺 物 図436-3は、口縁部に4単位の円形の突起と、突起の下に橋状の把手が付けられている。文様は隆沈線で描かれ、口縁上部には沈線による波状文が施されている。同図6は口縁部にS字状の突起が付けられた、小型の深鉢である。口唇部は小波状をなし、この直下には縦位の短沈線が施された幅の狭い文様帯が認められる。頸部には無文帯を配し、その下には粘土紐や隆沈線によって、波状文や方形形状の区画文、おおぶりなアクセント文が施されている。図437-7は小型の深鉢で、文様は口唇部直下から垂下する隆線と、有節沈線で描かれている。図532-2・3には交互刺突文が、同図18～21、図534-22には縄圧痕文が施されている。図532-5、図534-1は口縁部が球形をなす深鉢で、有節沈線によって文様が描かれている。図532-7～12・16・17、図533-11、図534-13・25・26には、II縁部に隆線で区画された幅の狭い文様帯が見られ、隆線上には押捺を施すものが多い。図532-16・17の胴部は、隆線で区画された帯状の無文帯で文様を描いている。図534-7・10・12・23には、連続爪型文が施されている。図532-9と図533-14には、口縁部に隆線で区画された無文帯が認められる。図596-2・3は不定形石器で、2の裏面には粗い調整削離が加えられている。図603-3は磨製石斧、図604-5は偏平な疊の周縁部に調整削離を加えた疊器である。

## 151～154・156～160号土坑出土遺物(図437・535・536・596・604・607・608・619)

遺物出土状態 SK157の堆積土中から破片状態で出土した縄文土器片は、接合の結果図437-8に示した大型破片に復元できた。SK152からは図535-11に、SK156からは図437-2に示した大型破片が出土している。SK153からは、図619-6のミニチュア上器が出土している。その他の土坑では、遺物の出土状態にまとまりはない。各土坑とも縄文土器は、破片が散在した状態で出土している。

遺 物 図437-2は口縁部が内湾する深鉢で、口縁部には沈線により梢円形の区画文が描かれている。同図8は口縁部直下に幅の狭い文様帶を持つもので、ここに縦位の短沈線文が施されている。胴部には横に連続する沈線文が施され、その一部は渦巻文を描いている。図619-6は、沈線を縦位を基本に施している。口縁部直下には2個一対の小孔があげられている。

図535-6には交互刺突文が、図536-8には繩圧痕文が施されている。図535-16は口縁部に隆起で区画された幅の狭い文様帶を持つ土器で、区画内には縦位の短沈線を施している。図536-18は連続爪形文が、図535-11～15・17、図536-5は粘土紐貼付文で、文様を描いている。文様の端部は渦巻文を描くものが多く、図535-11の口縁部には眼鏡状、同図14・17の口縁部にはS字状の突起が付けられている。図536-14には、橋状の把手が見られる。同図17には、有節沈線文が施されている。図596-4・5は不定形石器、図604-7は偏平な礫の周縁に調整剝離を加えた礫器、図607-10と図608-1は凹部のある磨石である。

## 161～170号土坑出土遺物(図438・536・537・608)

遺物出土状態 SK161・167から出土した縄文土器片は、それぞれ接合の結果、図438-1・3に示した大型破片に復元することができた。その他の土坑の遺物出土状態にまとまりではなく、各土坑とも縄文土器は破片が散在した状態で出土している。

遺 物 図438-1は口縁部に中空の突起が付けられるもので、その下には、粘土紐貼付文で波状文を描いている。波頂部下には部分的に、劍先状の突起の付く小さな渦巻文が見られる。同図3は胴部を縦位の降線で区画するもので、区画内には有節沈線で方形状の文様を描いている。

図537-7には交互刺突文が、同図19には繩圧痕文が施されている。図536-24は有節沈線文で、同図15・16・23、図537-11は隆沈線や粘土紐貼付文で文様を描いている。図536-25には口縁部に梢円形状の区画文が、図537-2の口縁上部には2列の列点文が施されている。同図1は1列の有節沈線文が施されている。図608-2は、側縁の一部に平坦面の認められる磨石である。

## 171～180号土坑出土遺物(図438・537・538・596)

遺物出土状態 土坑の遺物出土状態にまとまりはない。各土坑とも縄文土器は、破片が散在し

た状態で出土している。

遺 物 図 438-5 は深鉢の底部で、胴部は縦位の隆線で区画されている。図 537-18 には、連続爪形文が施されている。同図 20・21 には有節沈線文で、図 538-2 は粘土紐貼付文で、文様を描いている。図 538-2 には菱形状の文様が付けられている。図 538-1・4・9・10 は沈線を多用して文様を描いている。図 596-6 は不定形石器である。

181~189号土坑出土遺物 (図438・538・539・596・608)

遺物出土状態 SK189堆積上中からは、図 438-2 に示した深鉢の胴下半部が潰れた状態で出土した。その他の上坑の遺物出土状態にまとまりはない、各上坑とも縄文土器は、破片が散在した状態で出土している。

遺 物 図 538-15 は胴部にY字状の隆線、同図 16 には有節沈線文が施されている。図 539-1・11 は、隆帯や口縁部に沿って 1 列の有節沈線文が施されている。1 の口縁部には、横円形の区画文が見られる。図 538-18、図 539-4・8・10・14 は粘土紐貼付文や隆沈線によって文様を描くもので、14 の地文には同図 13・15 と同じく撫糸文が施されている。同図 5 は沈線を多用して文様を描き、同図 3・10・12 には刺突文が施されている。図 596-7 は不定形石器、図 608-4 は凹部のある磨石である。

191~200号土坑出土遺物 (図539・540・596・608・619)

遺物出土状態 すべての十坑とも遺物の出土状態にまとまりはない。各十坑とも縄文土器は、破片が散在した状態で出土している。SK200 の堆積上中からは図 619-7 のミニチュア土器が出土している。

遺 物 図 619-7 は浅鉢状をなすミニチュア土器で、口縁部には沈線で横円文を施している。図 539-19~22・24・29~34、図 540-13・14 は、粘土紐貼付文や隆沈線・沈線によって文様を描くもので、図 539-28 や図 540-14 には渦巻文が認められる。図 540-10 は隆帯に沿って複列の有節沈線文が、同図 8 には連続爪形文が施されている。同図 1 は、口縁部に縦位の短沈線を加えた幅の狭い文様帶を有する深鉢で、口端部には横S字状の突起が付けられている。この突起と胴部には、隆線に沿って有節沈線文が施されている。同図 16・17 には交互刺突文が、同図 7・23 は押捺された隆線で胴部を縦に区画している。図 596-9 は石匙の木製品であろうか、刃部はほとんど作られていないが、柄部が作り込まれている。図 608-5 は、周縁すべてに平坦面の見られる磨石である。

201~203・205~210号土坑出土遺物 (図540・541)

遺物出土状態 すべての土坑ともに遺物の出土状態にまとまりはない。各土坑とも縄文土器は、破片が散在した状態で出土している。

遺 物 図 541-1 は、口縁部が内湾する深鉢である。口縁部文様帶の上下は交互刺突

文で区画され、この文様帶内には縦位の楕円文が施される。胴部には連続するC字状の文様が描かれ、この連結部には三叉文状のアクセント文を加えている。同図3には粘土紐の貼付文が、同図7~9には沈線文が施されている。

#### 212~217・219~220号土坑出土遺物 (図541~542・596~608)

**遺物出土状態** すべての土坑とも遺物の出土状態にまとまりはない。各土坑とも縄文土器は、破片が散在した状態で出土している。

**遺 物** 図541~10は肥厚する口縁部に、沈線文と彫刻的三角文が施されている。同図12~15は同一個体の破片である。口縁部には小さな突起が付けられている。文様は隆線による楕円形区画文内に、沈線文と交互刺突文を施している。胴部には、Y字状の隆線が施されている。交が刺突文は、図542-1~10にも見られる。同図11には撲圧痕文が、同図8には両端を隆線で区画された無文帶が認められる。同図9は波状口縁の波頂部で、口縁に沿って複列の刺突文が施されている。図596-10は剥片で、縁辺の一部に微細な剥離痕が認められる。図608-6・7は側縁に平坦面の認められる磨石で、7は四部がある。

#### 221~225・227~230号土坑出土遺物 (図542~543)

**遺物出土状態** すべての土坑の遺物出土状態にまとまりはない。各土坑とも縄文土器は破片が散在した状態で出土している。

**遺 物** 図542-16~24・26~27、図543-2~5・21は、粘土紐貼付文や沈線で文様を描いている。沈線文の施された深鉢の胴部破片には、渦巻文の描かれるものが多い。図542-24~27の地文には、撲糸文が施されている。

#### 231~240号土坑出土遺物 (図438~439・543~544・596~603)

**遺物出土状態** SK240のE2からは、図438-7と図439-1に示した上器が出上した。他の土坑については、遺物の出土状態にまとまりはなく、各土坑とも縄文土器は、破片が散在した状態で出上している。

**遺 物** 図438-7は口縁部直下に縦位の短沈線が施された、幅の狭い文様帶が見られる。口縁部には4つの把手・突起が付けられ、口縁下部には沈線による連弧文が施されている。頸部には波状文が、胴部には横に展開する沈線文が施されている。胴部の沈線は、一部で渦巻文を描く。図439-1も口縁部に4つの突起が付けられ、口縁直下には粘土紐の貼付文を施した幅の狭い文様帶が見られる。口縁下部と胴部には隆沈線で横に連続する文様が施され、その一部は渦巻文を描く。頸部には幅の狭い無文帶が認められる。

図543-8~10・16~19と図544-1~4~8~10~12は、粘土紐貼付文や隆沈線・沈線で文様を描くものである。図543-18は口縁部上面に沈線文が施されている。同図27は口縁部に隆帶が、図544-9には交互刺突文で描かれた楕円形の区画文が認められる。図543-15と図

544-13~21は、隆線に沿って有節沈線文が施されている。図544-13~20には、隆線で区画された無文帯が見られる。13の口縁部には、渦巻状の突起が付けられている。図596-11は不定形石器、図603-1は磨製石斧である。

241~249号土坑出土遺物(図439・544・545・608・619)

遺物出土状態 すべての土坑とも、遺物出土状態にまとまりはない。各土坑とも縄文土器は、破片が散在した状態で出土している。SK242堆積土からは、図619-3の土偶が出土した。

遺 物 図619-3は板状の土偶で、乳房と表裏面の側縁部に沿って沈線文が施されている。図544-23・26・27は、粘土紐貼付文や沈線で文様を描くものである。同図24と図545-7・9は、磨消縄文手法によって文様が描かれている。図545-1・3・8は、口縁部に渦巻状の突起が付けられている。同図5・6は、口唇部直下とそれ以下で原体の回転方向を違えて、縄文を施している。図608-8~10は、磨石である。

251~260号土坑出土遺物(図545・546)

遺物出土状態 すべての土坑とも、遺物出土状態にまとまりはない。各土坑とも縄文土器は、破片が散在した状態で出土している。

遺 物 図545-10は、連続爪形文が加えられたソーメン状の粘土紐、同図12は「く」の字状の沈線文が施されている。同図13・15は、口唇部直下に幅の狭い文様帶が認められ、13には縦にスリットを加えた波状隆線、15には縦位の短沈線が施されている。同図16は横楕円形状の区画文が降帶で描かれている。同図18・22、図546-1は隆線に沿って沈線文を施している。

261~270号土坑出土遺物(図546)

遺物出土状態 すべての土坑とも、遺物出土状態にまとまりはない。各土坑とも縄文土器は、破片がごく少量散在した状態で出土している。

遺 物 図546-3・4は複合口縁状に肥厚する口縁部に、横位の沈線文を施している。同図5は同じ器種の脚部破片で、隆線と沈線で文様を描いている。同図2の口縁直下には、隆線を連続C字状に施している。同図6~9は、隆帶や隆沈線で文様を描く。6の隆帶上には押捺が加えられている。同図10は、押捺された隆帶に沿って連続爪形文を施している。

271~280号土坑出土遺物(図439・440・546・597)

遺物出土状態 SK273の堆積土中位から出土した破片は接合の結果、図439-3に示した土器に復元できた。SK278ℓ3・4からは図440-1に示した土器が、SK280ℓ8からは同図7に示した土器が、横に倒れて潰れた状態で出土した。その他の土坑については、遺物の出土状態にまとまりはなく、各土坑とも縄文土器は、破片が散在した状態で出土している。

遺 物 図439-3はキャリバー状をなす深鉢で、口縁部には渦巻文と楕円形状の区画文を施している。図440-1は、口縁部が複合口縁状に肥厚する深鉢である。口縁部は緩い波状

をなし、波頂部には円形の突起を付けている。突起間に沈線で三角形状の図形を描いている。図440-7は、横状の把手が付き、この上に渦巻文も描かれている。

図546-11~15・17・18・24は粘土紐の貼付文や、降沈線・沈線で文様を描くものである。12は口唇部に沈線を施している。同図21は連続爪形文を加えたソーメン状の粘土紐、同図23は格子状に沈線を施している。

#### 281~290号土坑出土遺物(図440・546・547)

遺物出土状態 SK281のℓ2からは、図440-4に示した土器が大型破片の状態で、SK284の底面直上から出土した破片の一部は、接合の結果同図3の上器に復元できた。その他の土坑については、遺物出土状態にまとまりはなく、各土坑とも縄文上器は、破片が散在した状態で出土している。

遺 物 図440-2は口縁部に楕円形の区画文が施されている。区内には有節沈線により連続するY字文が施され、その間には彫刻的な三角文を加えている。同図3は3本一組の沈線を縦位・渦巻状に施している。同図5もこれに近い文様の上器である。同図4は縄文が施された粗製土器である。図546-25・26、図547-4は、隆線とそれに沿って沈線が施されている。図547-1・2は有節沈線で、同図5~11は隆沈線や沈線で文様を描くものである。6は口唇部に沈線を施している。

#### 291~300号土坑出土遺物(図441・547・596)

遺物出土状態 SK300のℓ7・8からは、図441-1・2が横に倒れて潰れた状態で出土している。その他の土坑では、縄文土器は破片が散在して出土した。

遺 物 図441-1は口縁部に4個の箱状の把手が付くもので、口縁部には横位の繩圧痕文を施している。胴部には縦位に沈線文を施しているが、その一部は波状文を描いている。同図2は、縄文が施された深鉢の胴部である。図547-15の口縁上部には、沈線による渦巻文が施されている。図596-12は石匙、同図13・14は不定形石器である。

#### 301~310号土坑出土遺物(図441・442・444・547・609)

遺物出土状態 SK303の堆積土中から出土した破片の一部は接合の結果、図441-3の土器に復元できた。SK307の堆積土中からは大型破片が山上し、これらは、図442-1~4に示した土器に復元できた。その他の土坑については、遺物出土状態にまとまりのあるものは認められず、縄文土器は破片が散在した状態で出土している。

遺 物 図441-3は胴部が球形を呈するもので、沈線による渦巻文を施している。この渦巻文には、劍先状のアクセント文が付けられている。図442-1は、口縁部に4つのS字状を基調とする突起や把手が付き、この間に沈線で横に連続する渦巻文を施している。同図3は深鉢の胴部で、沈線により横に連続する渦巻文を描き出している。同図2は胴部に横走する沈線を

3条施したもので、最下部の沈線は小波状文を描いている。同図4は、口縁部上面に沈線により渦巻文を描いた浅鉢である。図547-16・17・23-29・31は、沈線や隆沈線で文様を描いている。同図30は突起で、沈線を多用して文様を描いている。同図20-22・32は、磨消繩文手法で曲線的な文様を描いている。図609-1は、凹部のある磨石である。

#### 311-315・317-320号土坑出土遺物(図442-446・547-550・609)

遺物出土状態 SK311のℓ9・ℓ10からは、図442-5、図443-1・2・5の4点の土器が出土している。SK312のℓ9・ℓ10からは、図444-1が出土し、SK314から出土した破片の一部は接合の結果、図446-3に復元できた。SK313からは8個体の土器が出土している。図444-3はℓ1から横倒しの状態で、図445-2は堆積土上部から大型破片の状態で出土している。図444-4~6、図445-1・4は堆積土の下部から、横に倒れて潰れた状態で出土した。図445-1が若干高いレベルから出土しているが、他の土器の間に顕著なレベル差は見られない。図445-3は堆積土下部から出土した破片の一部が、接合したものである。その他の土坑については、遺物の川土状態にまとまりはなく、各土坑とも繩文上器は、破片が散在した状態で出土している。

遺物 図443-1・2と図445-3は、粘土紐貼付文や隆帶で文様を描いている。口縁部にはすべて、突起や把手が付けられる。図443-1は口縁部直下に刺突文を施した幅の狭い文様帶が見られ、その下にはクランク文を施している。胴部は綱に区画され、区画を繋ぐように渦巻文を施している。同図2の口縁部直下を巡る隆帶上には、斜めの押捺が加えられ、頸部には波状文が認められる。図445-3の地文には、撫糸文が施されている。図443-5と図446-3は小型の深鉢で、5の口唇部には連続刺突文、3の胴部には沈線で横に連続する渦巻文が施されている。図444-4~6と図445-1は、口縁部に4倍の突起や把手が付けられ、頸部には横位の沈線文を施している。口縁上部には、隆帶で区画された幅の狭い文様帶が見られ、4はここに矢羽状の沈線文を施している。その下には弧状文(4)、波状文(5)、S字・クランク文(6)が描かれている。図444-4と図445-1・4の地文には撫糸文が施されている。図445-4は、胴部に沈線で横に連続する渦巻文を描いている。図444-3と図445-2、図446-4・5は、隆沈線で文様を描いている。図444-3の口縁は緩い波状をなし、口縁上には沈線による渦巻文が、胴部区画の接点には小さな突起が付いている。図445-2の口縁部には、端部が渦巻状をなす弧状文が施されている。図446-4は口縁部文様帶が見られない土器で、一部が渦巻文を描く区画文を施している。図444-1は胴部をY字状の降線で区画している。

図548-1~11・14・16、図549-8は口縁部が肥厚し、胴部が丸みを帯びる深鉢である。図548-5の口縁部には、綱压痕文が施されている。胴部の上端には横位の連続刺突文やアヤクリ文が施されるものが多い。同図17は器面全面に沈線と交互刺突文が、同図19は大波状口縁の破

片で、波頂部の口唇上にはスリットを加えている。図 548-20 と図 549-1・3・15-17 は隆沈線で、同図 9-13 の口唇部には沈線で、渦巻文を描いている。

#### 321~330 号土坑出土遺物 (図 446~451・550・551・596・597・609・610)

遺物出土状態 SK324 の  $\ell$  4 からは、図 446-7 が大形破片の状態で出土した。堆積土から出土した破片の一部は、同図 2 の土器に復元できた。SK325 の底面直上からは、図 449-1 が、横に倒れて潰れた状態で出土している。SK326 からは、10 個体の上器が出土している。図 447-3 は  $\ell$  5 から、同図 1・4 と図 448-1~4 は、底面直上から横に倒れて潰れた状態で出土している。図 446-8、図 447-2、図 448-5 の詳細な出土状態は不明であるが、出土層位はすべて底面直上である。これらの土器については、図 447-3 を除いて、出土層位から一括りの強いものと判断している。

SK327 からは 10 個体の土器が出土した。図 449-2 と図 450-4・5 は、 $\ell$  1 と堆積土上部から出土した破片の一部を接合・復元したものである。図 450-3 と図 451-1 は、 $\ell$  5 と堆積土中部から出土した。図 450-3 は横に倒れて、潰れた状態で出土している。図 449-3~5 と図 450-1・2 は、 $\ell$  6 と堆積土下部から出土した。図 449-5 と図 450-2 は、横に倒れて潰れた状態で出土している。本土坑出土土器については、出土層位から図 449-2 と図 450-4・5、図 450-3 と図 451-1、図 449-3~5 と図 450-1・2 が、それぞれ一括りがあるものと判断している。図 450-3 と同図 2 のレベル差は 20 cm である。SK329 からは図 451-6・7 が、大形破片が潰れた状態で出土している。その他の上坑については、遺物出土状態にまとまりはなく、各上坑とも縄文土器は、破片が散在した状態で出土した。

遺 物 図 446-2・7、図 447-3、図 449-2、図 450-4・5、図 451-2~5・7 は、粘土縫貼付文や隆沈線・沈線で文様を描いている。口縁部にはすべて、渦巻状・中空・S 字状の突起や把手が付けられている。図 446-2・7 の口縁部には、縄圧痕文が施されている。図 446-8 と図 448-1、図 449-1 の口縁部には S 字状の突起が付き、口縁部直下には図 446-8 が刺突文、その他のものには縫位の縄圧痕文が施されている。図 450-3 には、楕円形状の突起が付けられている。図 451-1 は口縁部に楕円形の区画文が見られる浅鉢で、区画内には沈線文と刺突文が施されている。器面には朱が塗られている。

図 447-1・2・4 は口縁部が内湾する深鉢で、1・4 の口縁部には、突起や把手が付けられている。口縁部文様帶は上下に 2 あるいは 3 区分されている。1 の口縁部は上部を無文とし、その下に沈線で渦巻文・連弧文を描いている。胴部は縫位の隆線で区画され、この隆線間を対弧文で繋いでいる。2 の口縁部には上部に横位、下部に鑓状・三角形状の凹形を沈線で描いている。胴部には、横位・縫位・波状に沈線文を施している。図 447-4 の口縁部には上から刺突文、隆線による楕円形区画文、無文帶が配されている。口縁部最下端と胴部上端には、縫位の縄圧痕文

が施されている。胴部には沈線文が施される。図448-3は図447-1の胴部の文様と近いが、頸部には瘤状の貼付文や連続刺突文が見られる。

図448-2と図449-3・4は、口縁部が外傾して開く深鉢で、口縁部には突起が付けられ、図449-3・4の突起内面は、獸面状をなしている。文様は口縁部上端に集中し、図449-3には沈線文が、同図4には有節沈線文が横位に施されている。4の突起下には半円文が描かれている。図448-2には、口縁部と胴部上端に楕円形の区画文が認められ、区画文内には有節沈線文が施されている。図448-2と図449-4の胴部は縦位の隆線で区画されている。

図449-5は口縁部が「く」の字状に屈曲する深鉢で、口縁部には橋状の把手が4つ付けられている。11縁部文様帶の上部には、楕円形区画文が施されている。口縁下部と胴部は、平行する2本の隆線で4区画され、区画内をさらに沈線で4区分している。この2本の隆線間には、縦楕円文が施されている。頸部には8単位の楕円形区画文が認められるが、基本的に4区分されている。胴部の区画内に施された沈線の下端部には、C字状のアクセント文を加えている。図448-4も、これに近い胴部の区画が見られる。図450-2は、沈線を多用して文様を描いている。器全面には、渦巻文を基本とする图形が施されている。図550-24の口縁部下端は、三角形状に掘り込まれている。図596-15は不定形石器、図597-2は石錐、図609-10は凹部のある磨石である。

#### 332～340号土坑出土遺物（図451～462・551～553・597・610）

遺物出土状態 SK332からは、22個体の土器が出土している。この数は、法正尻遺跡から検出された遺構の中では最も出土数が多い。図452-4～6、図455-1・2は大型破片、その他のものは器体の一部を欠損するが、器としての形状を保っている。これらの土器は、 $\ell$ 7以下の層から出土している。遺物の取り上げに際しては、 $\ell$ 7に相当するものを堆積土中部、 $\ell$ 9～ $\ell$ 12に相当するものを、堆積上下部と底面直上で取り上げている。図454-4は正立に近い状態で出土し、この中からは図452-3の土器が出土している。図452-2、図453-1・4、図454-2・3、図456-1は横に倒れた状態で、図456-3は斜めに倒れた状態で出土している。その他の土器については、出土状態の詳細は確認できていない。層位的には $\ell$ 7が自然流入土、 $\ell$ 9～ $\ell$ 11は壁の崩落と自然流入の繰り返しによる堆積土であることから、時間差を想定しうる可能性も考えている。しかし、土器自体に時間差を設定できるだけの違いは見られない。

SK333からは、13個体の土器が出土した。図460-4は底部破片であるが、その他の土器はすべて器としての形状を保っている。これらの上器のほとんどは $\ell$ 2以下の層から出土している。出土土器の最下部のレベルと底面との関係は、底面から5cmほど上から図457-6・7、図458-3、図460-2・3が出土している。図458-1、図459-3、図460-1、図461-6は底面から15～20cm上から、図458-2、図459-1・2は底面から35cmほど上から出土している。

これらの上器の出土レベルには若干違いが見られるが、しかし、多くの土器が互いに器体を接して出土していることから、これらの土器の間に時間差はないものと考えている。出土状態は図457-6が正立、図458-2・7、図459-1、図460-1が斜め、他のものは横に倒れた状態で出土している。図459-1は図458-2の中から出土した。

S K336からは図461-4・5が、S K339からは図461-7、図462-1が出土している。その他の土坑については、遺物の出土状態にまとまりはない。各土坑とも縄文土器は、破片が散在した状態で出土した。

**遺 物** 図451-8、図452-1・4~6、図459-1はキャリバー状を呈する深鉢で、胴部は筒状をなしている。口縁部には、隆沈線で端部が渦巻文を描く、連弧状・クランク状の文様を施している。胴部は縦位の沈線で区画されるものが多い。図452-2、図458-2・3、図459-3、図461-7は口縁部に中空や箱状の突起が付けられ、口縁部文様帶は隆帶で上下に区分される。図452-2の上部文様帶には横位の縄圧痕文、図461-7には縦位の短沈線文が施されている。下部文様帶には、隆沈線や粘土紐貼付文で文様を描くものが多い。図461-7と図458-3は横に連続・展開する文様が施され、その一部は渦巻文を描いている。胴部は沈線や隆沈線で、横に連続する渦巻文が施されるもの(図458-3、図459-3、図461-7)と、楕円形の文様を描くもの(図458-2)、地文だけのもの(図452-2)がある。

図454-1~4、図455-1、図460-1は、胴部に丸みを有する深鉢である。図454-1・2には、隆線に沿って縄圧痕文が施されている。図455-1の胴部文様は、図459-3とほぼ同じである。図455-2・3、図456-1・3、図459-2の胴部文様もこれに近い。図456-2・3と図461-6は、口縁部が内湾する深鉢である。口縁部には、中空の突起が付けられている。図456-2・3の突起間は、隆沈線による対弧文で繋がれている。図460-2・3と図462-1は、頭部が括れる深鉢である。図460-3には立体的な把手が、図462-1には渦巻状の突起が付けられている。図460-3は口縁部に連弧文、胴部に渦巻文が施され、図462-1の口縁部には縦位の刺突が加えられた、幅の狭い文様帶が認められる。図456-1は、口縁上に沈線による渦巻文を施している。図461-4・5は小さな無文土器である。

図453-1~3と図457-6・7、図458-1は、沈線を多用して文様を描いている。図453-3と図458-1の胴部には、縄文は施されていない。図457-6、図458-1の口縁部には鶏頭冠状の突起が、他のものには中空・橋状の突起が付けられている。文様は基本的に、突起部から伸びる隆帶で渦巻文を描き、これに沿って沈線文を密に施している。図453-2の胴部には縦位の沈線文が、同図3と図458-1には、沈線文が縦位・渦巻状に施されている。

図551-11には、口縁部文様帶が見られず、口縁部と胴部の文様が一体化している。図552-5は浅鉢か鉢であろう。口縁部に粘土紐貼付文で渦巻文を描いている。図553-6~8は、稜凹

線で縁取られた無文帶で曲線的な文様を描いている。同図17の口唇部には、スリットが加えられている。図597-3は不定形石器、図610-2・4～9は凹部のある磨石、同図3は石皿である。8・9の側縁部には、敲打痕状の使用痕が認められる。

#### 341～350号土坑出土遺物(図462～464・554～556・610・619)

**遺物出土状態** SK345の底面直上からは図464-1が横に倒れた状態で、SK346のL4から出土した破片の一部は接合の結果、同図4・5に示した大型破片に復元できた。SK347のL5からは、7個体の上器が出上している。図462-5、図463-1～3は、すべて横に倒れた状態で出土している。その他の土器の出土状態について、詳細は確認していないが、層位的にみて一括性の高いものと判断している。これらの土器は、すべて器としての形態を保っている。SK348の堆積土中からは、図619-1の土偶が出土した。その他の土坑については、遺物出土状態にまとまりではなく、各土坑とも繩文土器は、破片が散在した状態で出土している。

**遺 物** 図462-2・4は、胴部が筒状をなすキャリバー状の深鉢である。口縁部には隆沈線を横位に施し、その一部は渦巻文を描いている。4の口縁部には1単位の突起が付く。図464-1は、双頭状の把手が口縁部に付けられた深鉢である。II縁部文様帶は隆帯で上下に区分され、下部の文様帶には平行沈線で、端部が渦巻状をなすクランク文を描いている。頭部には横位、胴部には縦位に平行沈線文を施している。

図463-1～3は、胴部に丸みを有するキャリバー状の深鉢である。口縁部には、隆沈線で端部が渦巻状をなすクランク状の文様を描いている。図464-5は胴部が球形をなす深鉢で、胴部全面に隆沈線による不定形の区画文を施している。この区画文の一部は、渦巻文を描く。

図555-1の地文には燃糸文が、同図5・8・9は沈線で区画された帶状の繩文帶が認められる。同図18は降沈線で文様を描いているが、降線の幅は他のものより広く、繩文も充填施文されている。図610-10は凹部のある磨石で、側縁部に敲打痕状の使用痕が見られる。

#### 351～360号土坑出土遺物(図465・555・556・597・610・611)

**遺物出土状態** SK356の堆積土からは、図465-6に示した小型の土器が出上している。その他の土坑については、遺物の出土状態にまとまりではなく、各土坑とも繩文土器は、破片が散在した状態で出土した。

**遺 物** 図465-6は胴部が球形をなす小型の土器で、口縁部には渦巻状の突起が付けられている。図555-20～23は、稜線で区画された無文帶で、曲線的な图形が描かれている。図556-1には、交互刺突文が施されている。同図2は、沈線が施された山形の波状口縁の波頂部である。図597-1は搔器であろうか。周縁部に急角度の刃部を作り出している。図611-1は、石皿である。

## 361～370号土坑出土遺物(図465～467・556・557・597・611)

遺物出土状態 SK361の堆積土からは、大型破片の状態で図465-4・5の土器が出土している。SK365からは、7個体の土器が出土した。図465-8は口縁部の大型破片であるが、その他の土器はすべて器としての形状を保っている。これらの土器のほとんどは、堆積土下部に相当するℓ8～ℓ10と底面直上から出土している。出土状態は、図465-9が斜め、他のものは横に倒れた状態で出土している。これらの土器については、出土層位から一括りの高いものと判断している。SK367のℓ1から出土した破片の一部は、図467-2に示した大型破片に復元できた。その他の土坑については、遺物の出土状態にまとまりではなく、各土坑とも縄文土器は、破片が散在した状態で出土している。

遺 物 図465-9と図466-1・2は、キャリバー状をなす深鉢で、口縁部には中空・渦巻状の突起や把手が付けられている。図466-2には、S字状の突起も見られる。いずれも、口縁部直下に隆帯を横位に施し、図466-2では口唇部との間に斜位の短沈線が施されている。口縁部には沈線や粘土紐の貼付文で、渦巻文やクランク文・連弧文が施されている。口縁部と胴部は横位の沈線で区画され、図465-9の頸部には無文帶が認められる。胴部には、沈線を縦位を基本に施しているが、一部は渦巻文を描いて横に展開している。図465-8と図466-3は、沈線を多用して文様を描くもので、図465-8では口縁上部に綿圧痕文、胴部に綿文が施されている。図467-1は胴部が球形をなす深鉢である。口縁部には隆線により弧状文が施され、胴部には沈線が短く垂下している。頸部には、数状の沈線が施されている。図467-2の胸部破片には、端部が渦巻文を描く弧状文が横に連続して施されている。

図556-3・4・9・10～13・16・17と図557-1～3は、粘土紐の貼付文や隆沈線・沈線で文様を描いている。図556-3・12・17には渦巻文が見られ、3の口縁部文様帶内には、刺突文が施されている。17は口縁部文様帶と胴部文様帶が区分されないものである。図556-6・7・14・15と図557-4～9は、稜線や沈線で区画された綿文帶で文様を描いている。図597-5は不定形石器、図611-2は凹部のある磨石である。

## 371～380号土坑出土遺物(図467～469・557・558・597・603・611)

遺物出土状態 SK375の堆積土から出土した破片の一部は、図467-3・4に示した大型破片に復元できた。SK378のℓ5からは、図468-5と図469-1が出土している。この2点の土器については、出土層位から一括りの高いものと判断している。SK380のℓ1からは、図469-2の土器が潰れた状態で出土した。その他の土坑については、遺物の出土状態にまとまりではなく、各土坑とも縄文土器は、破片が散在した状態で出土している。

遺 物 図467-3～5はキャリバー状の深鉢で、3・5の口縁部には中空の突起が付く。口縁部には、隆沈線で端部が渦巻文を描く区画文が描かれている。3・5の頸部には、横位

の沈線文が施されている。図468-5と図469-1は、口縁部に中空の把手が付く深鉢である。口縁上部には隆帯を巡らせ、図468-5では、口唇部との間に矢羽状の沈線を施している。口縁下部には図468-5が沈線、図469-1は粘土紐の貼付文で緩い波状文を描き、その一部に渦巻文を加えている。頸部には沈線・粘土紐が施されている。胴部は継位を基本に沈線文が施され、図468-5は渦巻文、図469-1はS字文や継位の弧状文を施している。図469-2は浅鉢状をなす注口上器で、稜線で区画された無文帶で、S字状の単位文を横に連続させて施している。この稜線の一部は口唇部にまで及んでいる。注口部直下には円形の文様が描かれている。

図557-13は、沈線で区画された無文帶を横位波状に配している。同図12・14、図558-1～5は隆沈線で、同図7は粘土紐の貼付文で、同図6は沈線を多用して文様を描いている。図557-14は波状口縁の深鉢で、口縁上には沈線文、胴部には結束した縄を用いて羽状縄文を施している。図597-6は、剥片の一部に調整剝離を加えた不定形石器、図603-11は磨製石斧、図611-3～5は凹部のある磨石である。4の側縁部には、敲打痕状の使用痕が見られる。

#### 381～390号土坑出土遺物（図467～469・471・558・559・611・612）

遺物出土状態 SK386の堆積土から出土した破片の一部は、図467-6・7、図468-1に示した土器に復元できた。図467-7は大型破片、同図6と図468-1は、器としての形態を保っている。これらの土器の詳細な出土状態は不明である。SK388の堆積土から出土した破片の一部は、図471-2の大型破片に復元できた。同図1は、底面直上から出土した大型破片である。その他の土坑については、遺物の出土状態にまとまりではなく、各土坑とも縄文土器は、破片が散在した状態で出土している。

遺 物 図467-6は口縁部が内湾し、胴部が丸みを持つ深鉢で、頸部は筒状をなしている。口縁部には平行する2本の隆線を横位に施し、その端部は渦巻文を描いている。隆線に沿って数条の縄压痕を施し、頸部は横走する数状の沈線で上と下を区画されている。同図7は口縁部が短く内折するもので、口縁部には円形文と1条の沈線文を横位に施している。図468-1は深鉢の胴部で、沈線を継位を基本として施し、その一部は横に展開する渦巻文を描いている。図471-2は、口縁上に波頂部で渦巻文を描く沈線文が施されている。

図558-10～21と図559-1～8は、口縁部に隆沈線、胴部に沈線が施されている。口縁部文様の起点には、渦巻文が描かれるものが多い。図558-13と図559-3～5の頸部には、無文帶が配されている。図611-7は凹部のある磨石、図612-1は石皿である。

#### 391～393～400号土坑出土遺物（図469～471・559・611）

遺物出土状態 SK395のE6からは、図470-2～4が横に倒れた状態で、相接して出土している。これらについては、出土層位と出土状態から、一括性が高いものと判断している。同図1は、SK395とSK401から出土した破片が、接合したものである。SK399の堆積土下部か

らは、図471-3・4が出土した。これについては、出土レベルに40cmほどの違いが認められることから、一括土器と断定し得ない。その他の土坑については、遺物の出土状態にまとめではなく、各土坑とも縄文土器は、破片が散在した状態で出土している。

遺物 図470-2・3は、口縁部に渦巻状の突起が付くキャリバー状の深鉢である。2の口縁部文様帶は、横位に施された隆帯で上下に2分され、上部には縄圧痕文が数状施されている。下部には隆帯から渦巻文を下ろし、その隙間に沈線を密に施している。胴部は、数条一組の沈線を垂下させて4単位に区画され、沈線の一部は波状文や渦巻文を描く。3は隆線で文様を描くもので、突起下には渦巻文が描かれている。図471-3は浅鉢で、口縁部には橋状の突起が1個、小突起が3個付けられている。文様は粘土紐貼付文で渦巻文を、横に連続させて施している。図471-4は、口縁部に大きな突起の付く深鉢である。文様は口縁部にクランク文、胴部には横位、胴部には縦位の沈線文が施されている。地文には撚糸文が施されている。

図559-9~12・19・20は、隆沈線や粘土紐貼付文や沈線で文様を描いている。20では口縁部と胴部の文様が一体化している。同図13には斜めの押捺を加えた隆線、同図14には連続爪形文が施されている。同図15には条線文が、同図16~18は、沈線で区画された無文帶で文様を描いている。図611-6は、凹部のある磨石である。

#### 401~410号土坑出土遺物(図470~473・559~562・597・603・611・619)

遺物出土状態 SK402の堆積土から出土した破片の一部は、図471-5~8と図472-1~2に示した大型破片に復元できた。SK404の堆積土中から出土した破片も、図472-4~6と図473-1~5に示した土器に復元できた。これらはすべて器としての形態を保っているが、詳細な出土状態は不明である。SK406の堆積土から出土した破片の一部も、図473-6の大型破片に復元することができた。その他の土坑については、遺物の出土状態にまとめではなく、各土坑とも縄文土器は、破片が散在した状態で出土している。

遺物 図471-5・7と図472-4は、キャリバー状をなす深鉢である。5の口縁上部には隆帯による楕円形区画文を配し、区画内には横位の縄圧痕文を施す。口縁下部には横に連続する渦巻文が施される。7は口縁部に横位の隆沈線を施すもので、一部は渦巻状の突起を作り出している。4の口縁上部には隆沈線による楕円形区画文、以下には縦位の沈線文を施している。図471-8は、口縁部が外反して開く深鉢である。文様は粘土紐を口縁部に横位、胴部に縦位に貼り付けている。この一部は、渦巻文を描き出す。図472-1は楕円形状の突起が口縁部を全周し、同図6の口縁部には、端部が渦巻状の突起をなす斜位の文様が、隆沈線で描き出されている。図472-5と図473-5・6は沈線を多用して文様を描くもので、5の口縁部には鶏頭冠状の突起が付けられている。胴部にはすべて縄文が施されている。

図560-1は口縁直下に隆帯を、以下には隆沈線を横位に施している。隆沈線の一部は、渦巻

## 第2章 遺構と遺物

文を描いている。図 561-10・11 も隆沈線で渦巻文を描くもので、11 は脣部全面に渦巻文を施すものと考えられる。図 560-3 は、粘土紐の貼付文で対弧状の文様を描いている。口縁部には、横 S 字状の突起が付く。同図 8、図 561-8 の口縁部は、沈線を多用して文様を描いている。図 560-2 は、浅鉢であろうか。口縁部には、繩圧痕文による梢円形の区画文が施されている。図 619-4 は、土器破片を用いた土製円盤である。図 597-9 は器状の石製品、図 603-12 は磨製石斧、図 611-8 は凹部のある磨石である。

### 411~420 号土坑出土遺物 (図 473~479・562・563・597・611)

遺物出土状態 SK413 の堆積土中から出土した破片の一部は、図 473-8 と図 474-2 に示した。大型破片に復元できた。同図 1 は  $\ell$  3 から斜めに傾いた状態で出土したもので、器としての形状を保っている。SK414 の底面からは図 474-5 が、横に倒れた状態で出土した。この土器は、器としての形状を保っている。SK416 堆積土から出土した破片には、図 478-5 に示した小型の浅鉢の破片が含まれていた。SK420 の底面直上からは、図 478-7・8 と図 479-1・2 が、横に倒れて潰れた状態で出土している。図 478-7・8 は 1 個体として取り上げたが、接合の結果 2 個体の土器に復元できた。これらの土器はすべて器としての形状を保っており、出土層位と出土状態から一括りの高いものと判断している。

SK415 からは、器としての形態を保っている総数 16 個の土器が出土した。出土層位は図 474-7 以外は全て、土坑堆積土下部の  $\ell$  5 ~  $\ell$  7 である。16 個の土器の中で出土状態の詳細が明らかなものは 12 点で、これらは全て横に倒れたり、斜めに傾いたりした状態で出土している。図 475-1・2 と図 477-2~4 は土坑底面の北端から、図 476-1~3 と図 477-1、図 478-2 は、土坑の底面南端から互いに接するような状態で出土している。これらの土器については、出土層位と出土状態から極めて一括りの高いものと判断している。この他の土坑においては、繩文土器は全て破片状態で出土している。

遺 物 図 473-8 と図 474-2 は沈線を多用して文様を描くもので、8 には人面を思わせる突起が付けられている。図 474-1 は、口縁上部に横位に蔭帶を施している。図 474-7 と図 475-1・3 はキャリバー状の深鉢である。いずれも、口縁部に橋状の把手が付けられている。図 474-7 と図 475-1 の口縁部直下には交互刺突文が、脣部には Y 字状の隆線が施されている。口縁部直下の交互刺突文は図 476-1~3 や図 477-3 に、Y 字状の隆線は図 476-3 や図 477-1、図 478-1 にも見られる。図 474-6 と図 476-2 は、口縁部から粘土紐を短く 1 または 2 本一対で垂下させて突起としている。2 本一対の突起間の口唇部には、6 が繩、2 が丸棒状工具により、押捺が加えられている。口唇部の部分的な押捺は、図 475-1・3 にも認められる。

図 475-2 は、口縁部の一部が、小波状をなすもので、口唇部直下には横位に 1 条繩圧痕文を

施している。その下には、隆線による楕円形区画文と、波状沈線文を施している。胴部には、沈線でY字状の文様を描く。図476-3は口縁部に偏平な突起が付くもので、口縁部と胴部には沈線で短冊状の文様を描いている。この文様内には、波状・C字状の沈線文や、刺突文が施されている。胴部を区画するY字状の隆線上には、押捺が加えられている。同図1の口縁部には隆線により弧状文が施され、弧状文の頂部には交互刺突文も見られる。図477-1・2は、棒状をなす深鉢である。1の口唇部直下には横位に3条、以下には山形に繩圧痕文を施している。2の胴部上端には長方形の区画文と、この内部に両端が渦巻状をなす文様を沈線で描いている。

同図3は頸部が「く」の字状をなす深鉢で、口縁は緩い波状口縁である。波頂部からは、押捺を加えた棒状の粘土紐を垂下させている。この下には、両端が渦巻文を描くV字状の沈線を施し、その下端からは、波状沈線文を垂下させている。同図4は胴部下位に括れが見られる深鉢で、口縁部には小突起が付けられている。文様帶はII縁部が上下に2区分、胴部は括れ部とこの上下で3区分される。口縁部上端と胴部の括れ部には、隆線による楕円形区画文を配している。口縁下部と胴上部は隆線で4単位に区画され、この中には沈線でC字文や楕円文を施している。図478-4は、小型の浅鉢である。隆線で楕円形区画文を描き、内部には有節沈線文を施している。有節沈線文は、口唇部上面にも施されている。

図478-5は、稜線で縁取られた無文帯で文様を描く小型の浅鉢である。図478-7・8のII縁部には中空の突起が付き、口縁部直下には刺突文や短沈線文を施した幅の狭い文様帶が認められる。7の口縁下部には連弧文、胴部には端部が渦巻状をなすクランク文が描かれている。8のII縁下部にもクランク文が描かれている。図479-1は波状口縁の深鉢で、波頂部直下には小さな渦巻文を施している。

図562-2～8は、隆沈線や沈線で渦巻文を主体とする文様を描いている。同図9は連続爪形文が、同図11は沈線を多用して文様を描いている。同図14と図563-1の口縁部には、横位の繩圧痕文が施されている。1のII縁部には、確かに器外表面突出する4単位の突起が付いている。図563-7は、稜線で区画された無文帯で文様を描いている。図611-9は凹部のある磨石で、一側縁部には敲打痕状の使用痕が認められる。

#### 421～430号土坑出土遺物(図478～482・563～565・597・612・613)

**遺物出土状態** SK423のℓ1からは、図479-3が、SK430の底面直上からは同図6が、大型破片の状態で出土している。SK422の堆積土から出土した破片の一部は、図479-4に示した大型破片に復元できた。SK429のℓ9・ℓ10からは、8個体の土器が出土している。これらはすべて、器としての形状を保っている。出土状態は、ほとんどのものが横に倒れて潰れた状態で出土している。これらの土器については、出土層位と出土状態から一括性の高いものと判断している。この他の土坑では、繩文土器はすべて破片状態で出土している。

**遺物** 図479-3・6は、縄文の施された粗製土器である。同図4は沈線で区画された縄文帯で、渦巻状の単位文が描かれている。図480-1~3と図481-1・2、図482-1は、隆帯や粘土紐・沈線で文様を描いている。口縁部には中空の突起や把手が付けられ、図480-3の把手は、口縁部を全周している。口縁部と胴部は横走する数本の沈線や粘土紐で区画され、図480-2と図481-1・2には波状文も見られる。図480-3と図481-1は、口縁下部と胴部に渦巻文を縦・横に連続させて施している。図481-3は小波状をなす口縁部に平行させて数条の沈線を、同図4には上端が渦巻文を描く橋状の把手が付けられている。

図563-10・12、図564-1~17、図565-1~3は、隆沈線や沈線で端部が渦巻文を描く文様を施している。図564-1の波頂部から降りる隆帯上には、爪形文が施されている。図565-4・6~8は、粘土紐で文様を描いている。図597-10は不定形石器で、表裏面に粗い調整剝離を加えている。図612-2~4は、凹部のある磨石で、3は円柱状の礫が使われている。2の側縁部には、敲打痕状の使用痕が見られる。図613-1は石皿であるが、素材の幅が狭い。

#### 431~440号土坑出土遺物(図482・483・565・566・598・613)

**遺物出土状態** SK432の堆積土下部からは、図482-2の大型破片が出土した。SK438のℓ9・ℓ10からは、図482-6と図483-1が、横に倒れた状態で近接して出土した。この2点は、器としての形状を保っている。他の土坑では、縄文土器は破片状態で出土している。

**遺物** 図482-2はキャリバー状の深鉢で、横位に施された隆帯で口縁部文様帯を上下に区分している。この隆帯は、一部で渦巻文を描いている。上部には縄圧痕文、下部には粘土紐によって弧状文を施している。図483-1は鉢であろうか、口縁部の対面する位置に中空の把手を付けている。把手間は隆沈線で繋がれ、その一部は渦巻文を描いている。図482-6は、縄文の施された粗製土器である。図565-11~13は、隆沈線や沈線で端部が渦巻文を描く文様を施している。同図9・10と図566-1は、沈線で区画された縄文帯で文様が描かれるものである。図566-1の口縁部には橢円形状の縄文帯が認められ、この間は瘤状に肥厚している。図598-1は不定形石器、図613-4は凹部のある磨石である。

#### 441~450号土坑出土遺物(図482・483・566・613)

**遺物出土状態** SK450のℓ8・ℓ9からは、器としての形状を保っている図483-2・3が、横に倒れた状態で出土している。他の土坑では、縄文土器は破片が散在した状態で出土している。

**遺物** 図483-2は、口縁部に横S字状の突起が付く深鉢で、突起間は楕円形の区画文で繋がれている。頸部には横位に4条の沈線を施し、胴部には横S字状や弧状・縦位の沈線文を施している。口唇部直下には、刺突文が施されている。同図3の口縁部には、横S字を基調とする突起が付けられている。口唇部直下には、波状に粘土紐を貼付し、頸部には横位に6条の沈



図428 土坑出土遺物 (1) SK3・4・7・14・15・18・22・25, SII

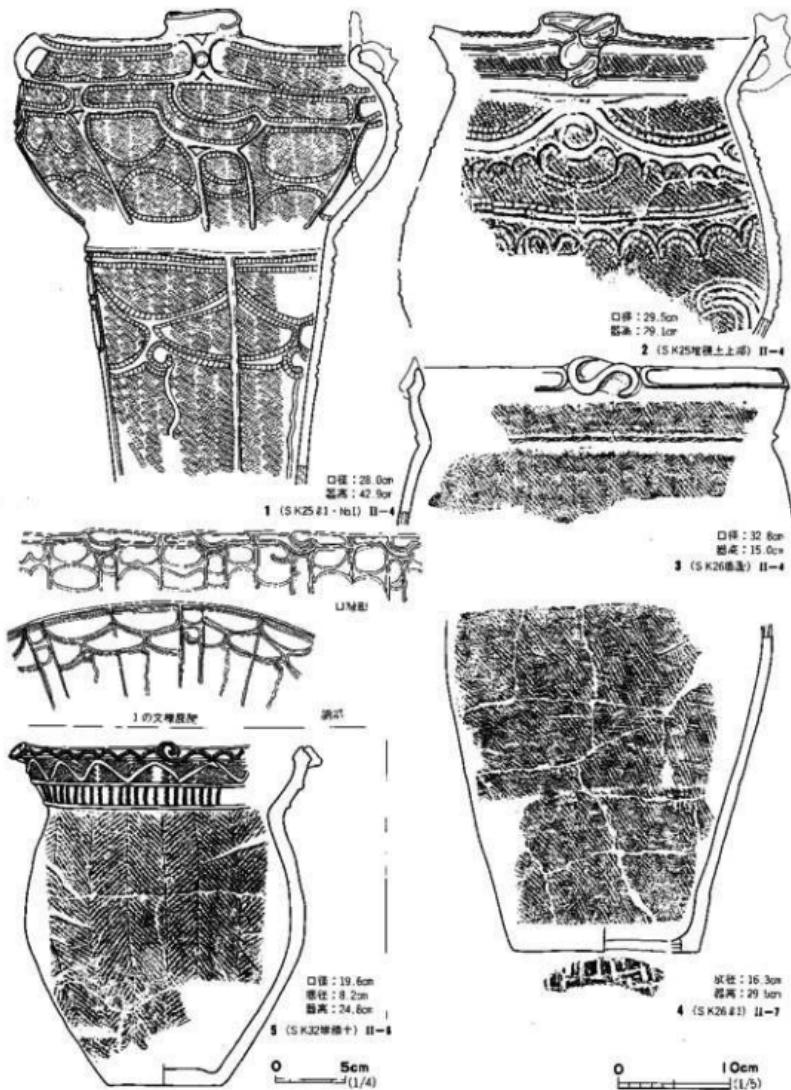


図429 土坑出土遺物（2） SK25・26・32

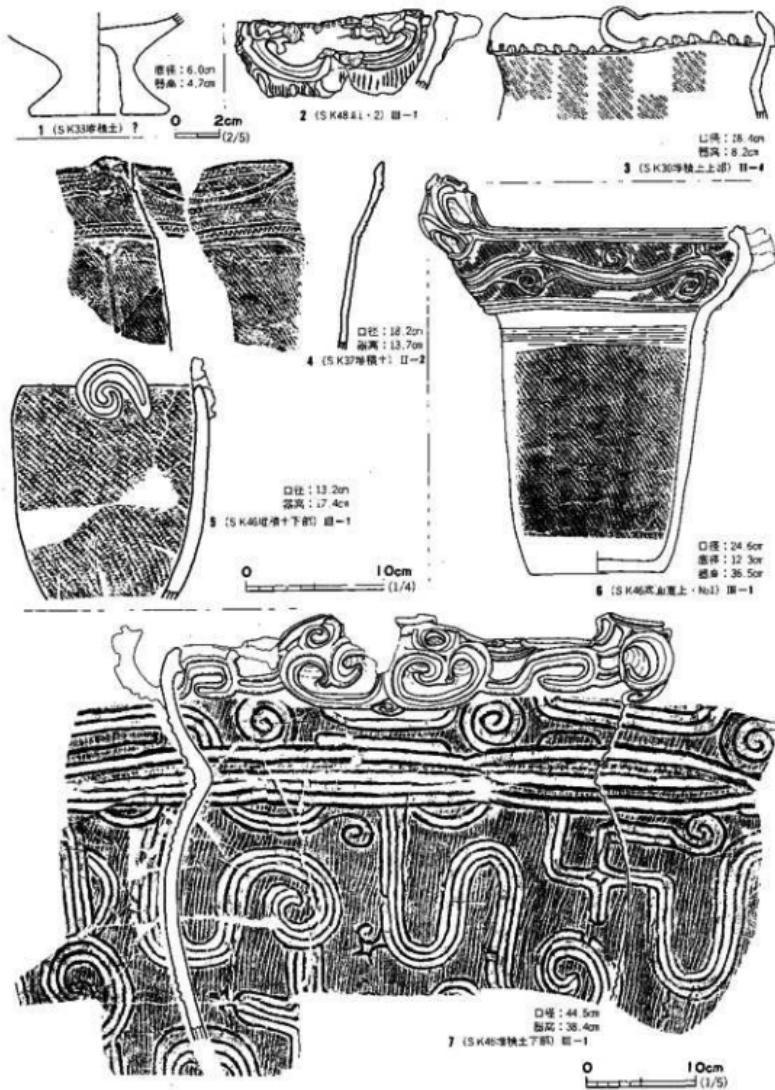


図430 土坑出土遺物 (3) SK30・33・37・46・48



図431 土坑出土遺物 (4) SK47・50・52・73・74・83・95

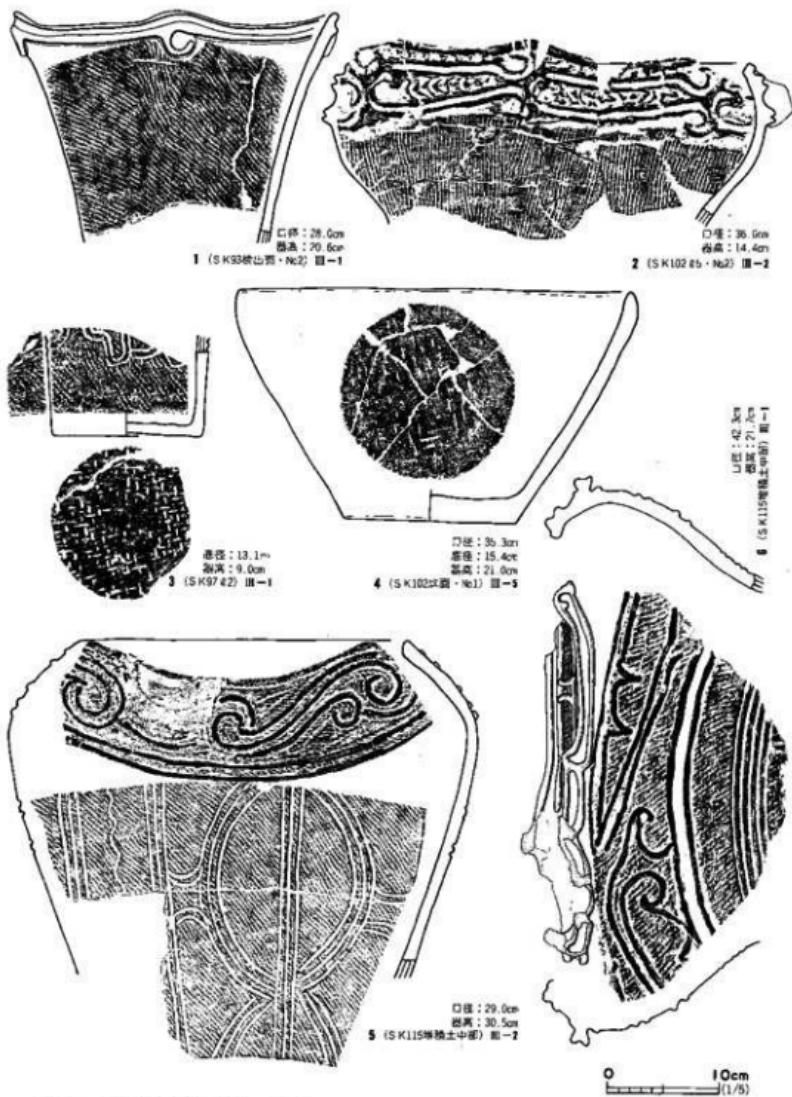


図432 土坑出土遺物 (5) SK93・97・102・115

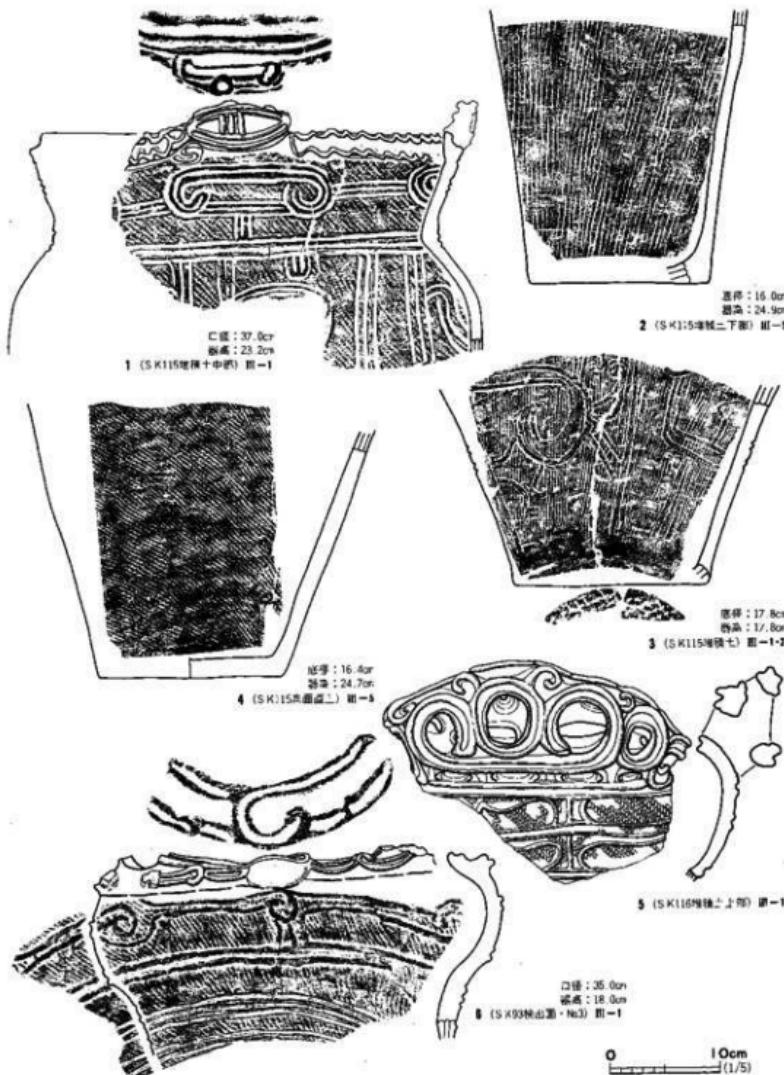


図433 土坑出土遺物（6） SK93・115・116

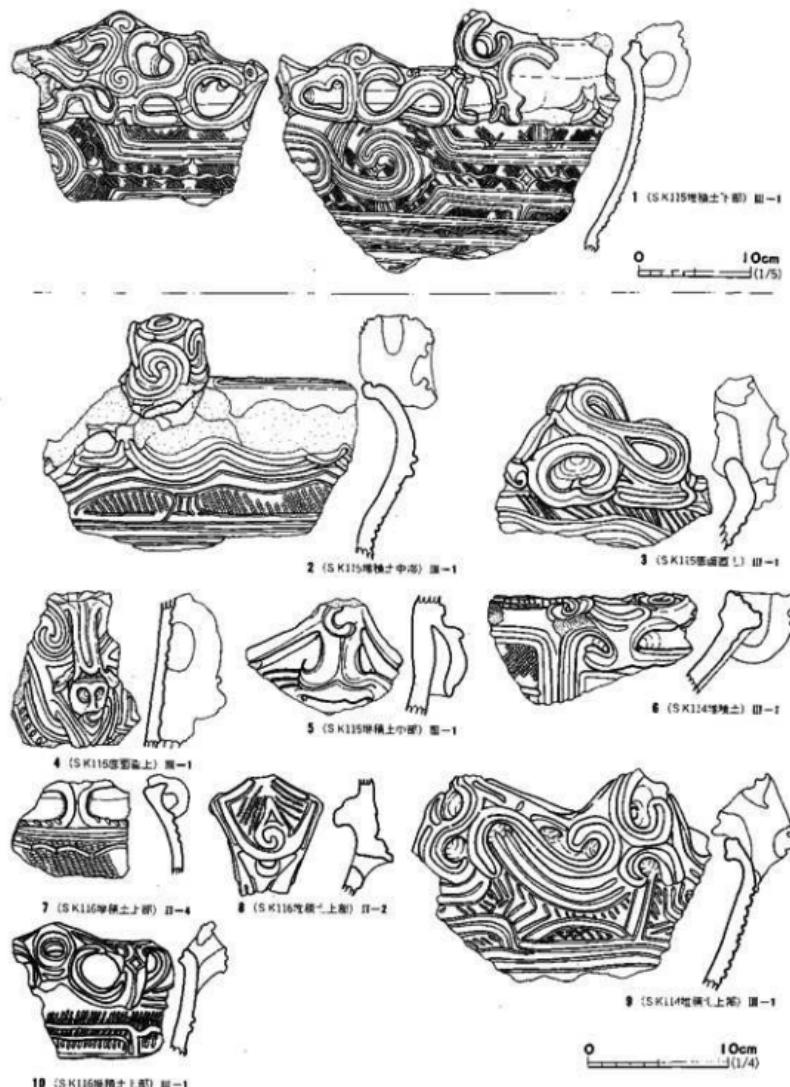


図434 土坑出土遺物 (7) SK114~116

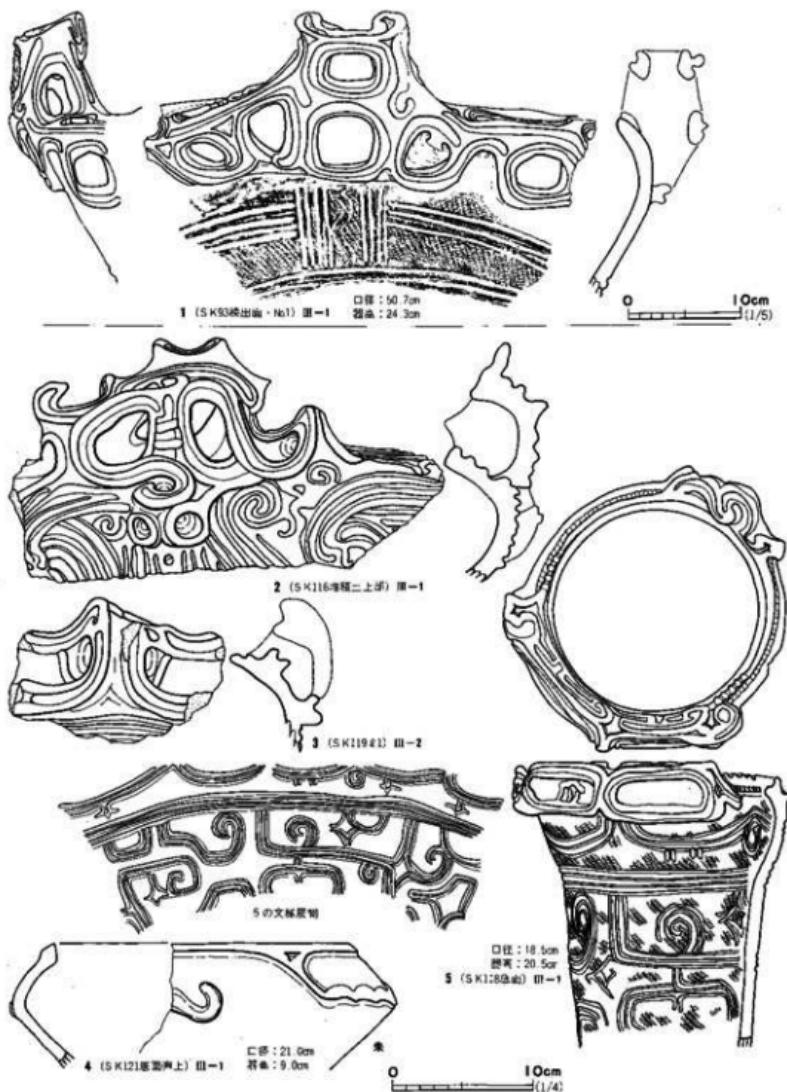


図435 土坑出土遺物 (8) SK93・116・118・119・121

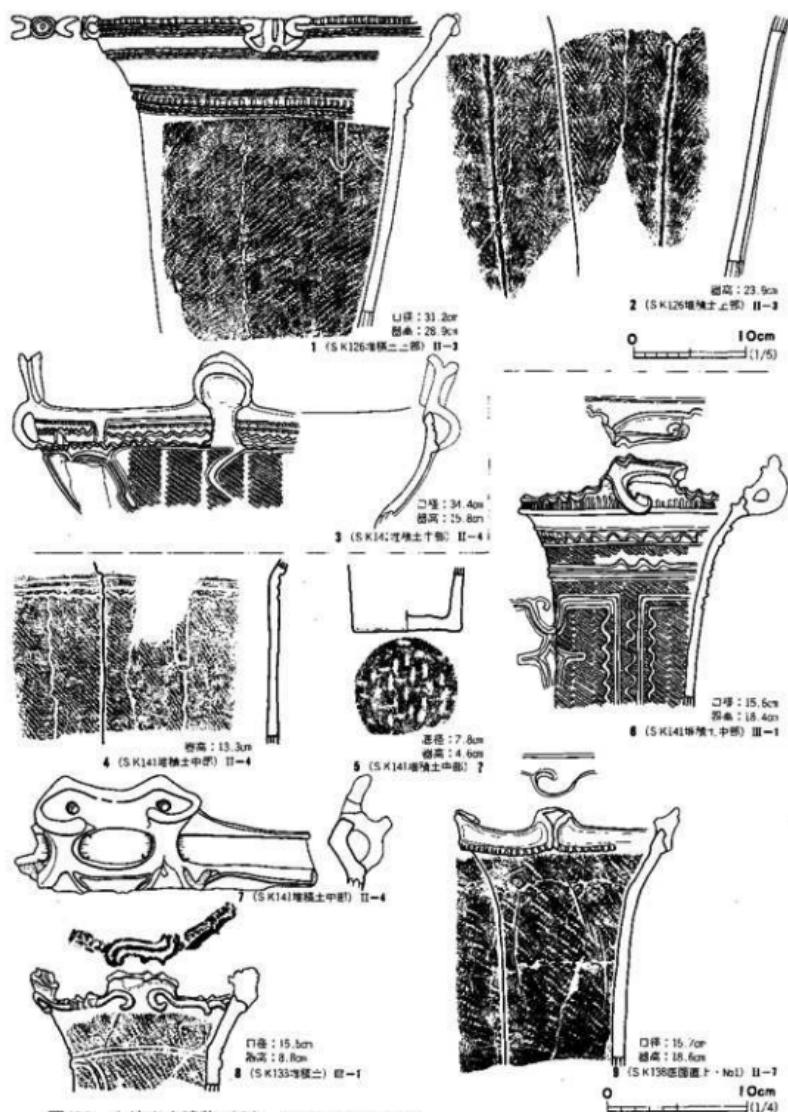


図436 土坑出土遺物 (9) SK126・133・138・141

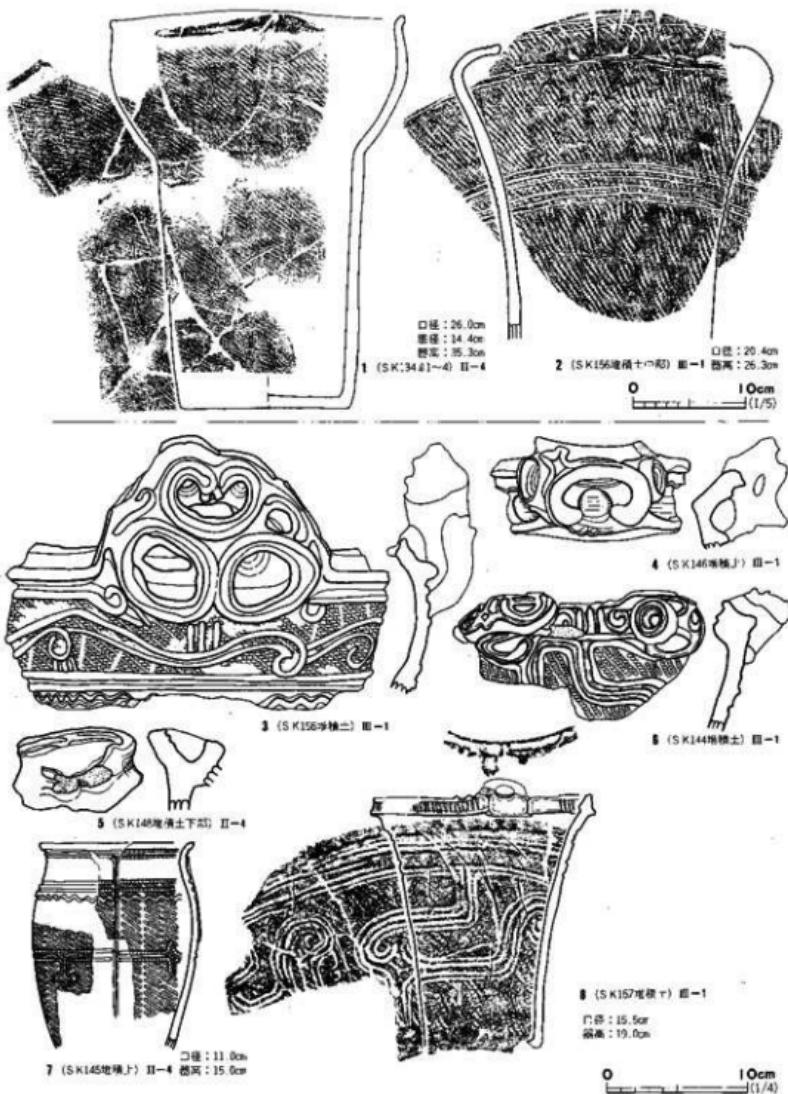


図437 土坑出土遺物 (10) SK134・144～146・148・156・157

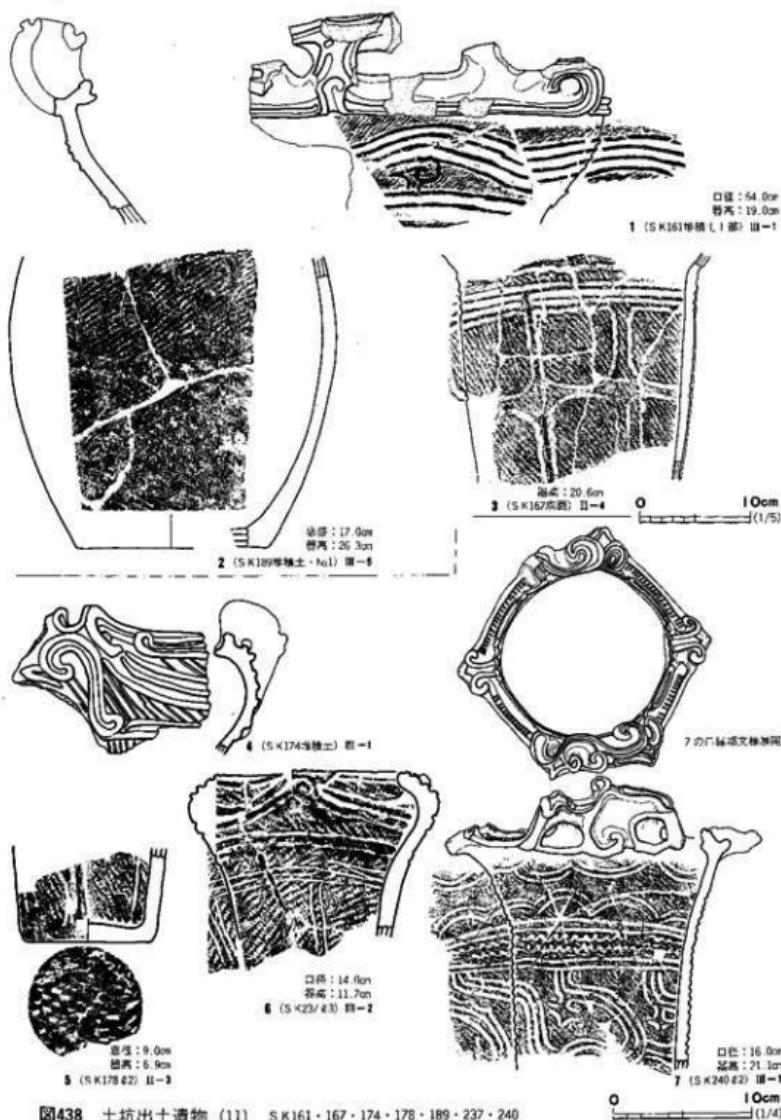


図438 土坑出土遺物 (11) SK161・167・174・178・189・237・240

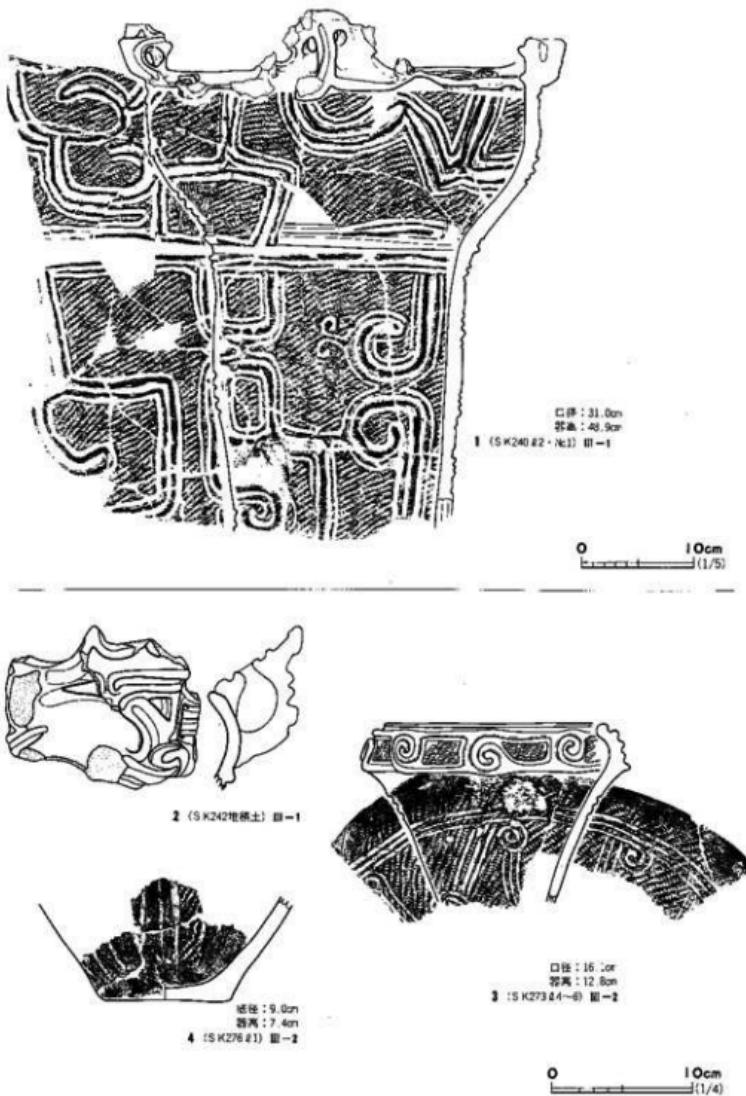


図439 土坑出土遺物 (12) S K240・242・273・276

第3節 土 坑

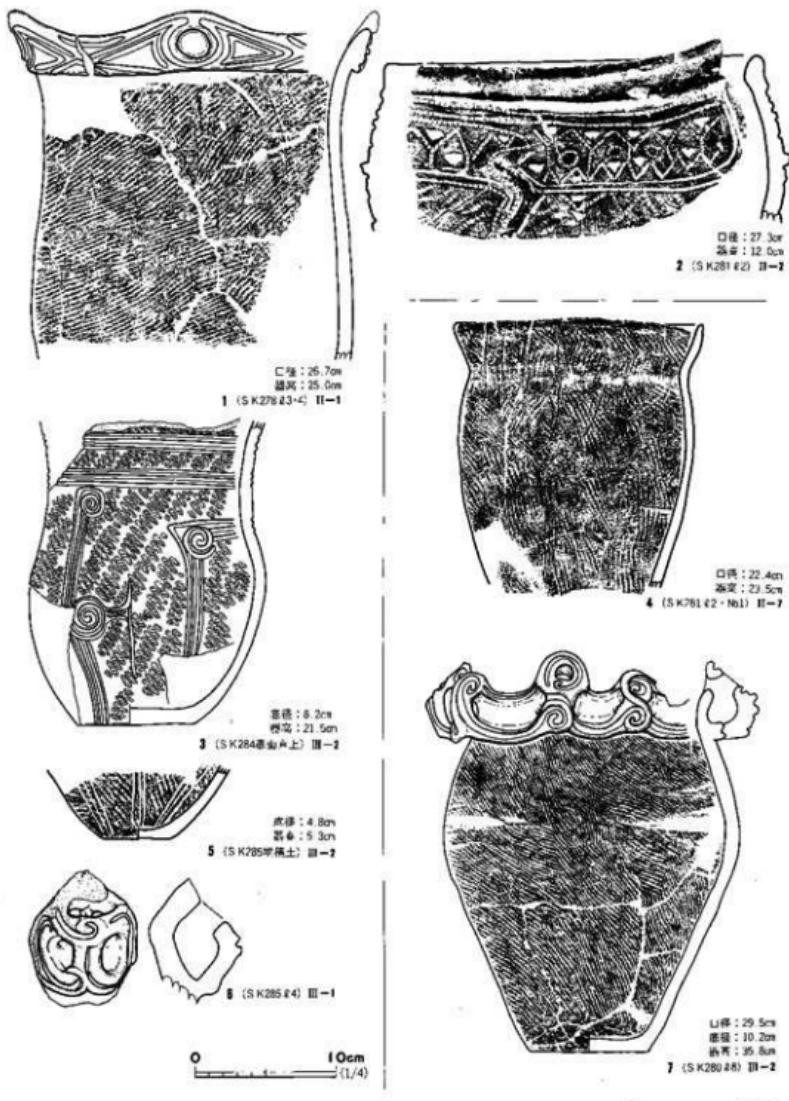


図440 土坑出土遺物 (13) SK278・280・281・284・285

0 10cm (1/5)

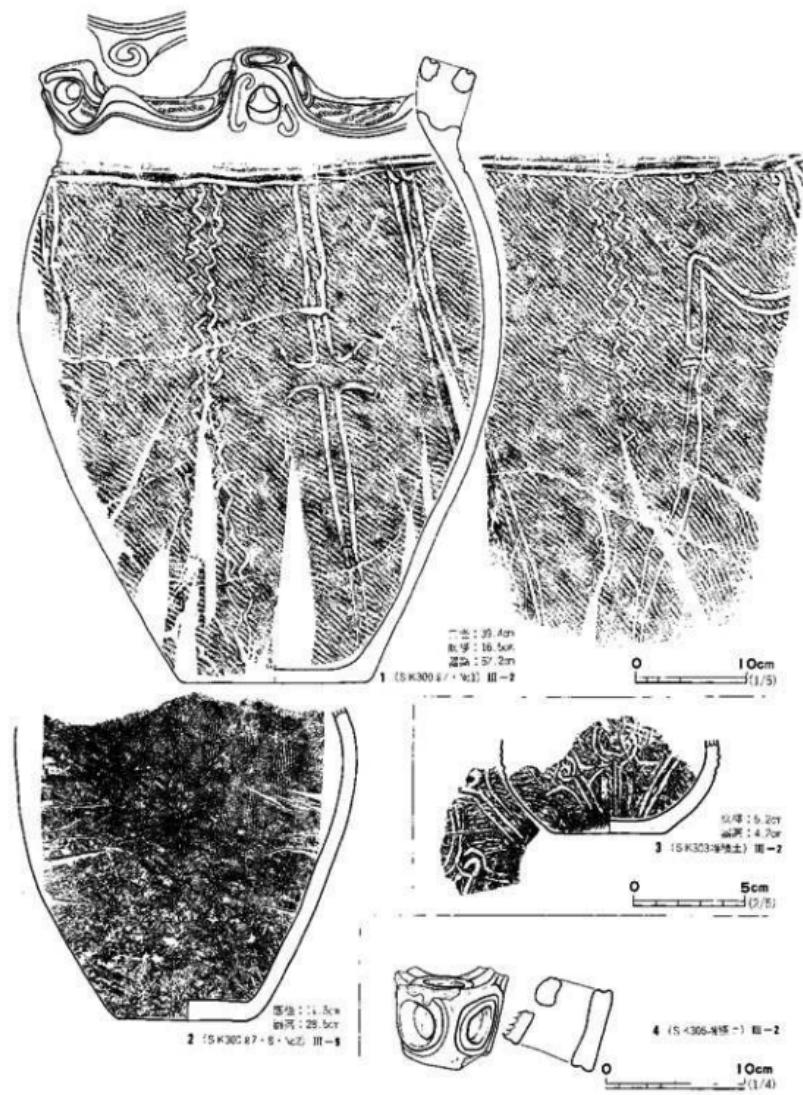


図441 土坑出土遺物 (14) SK300・303・306

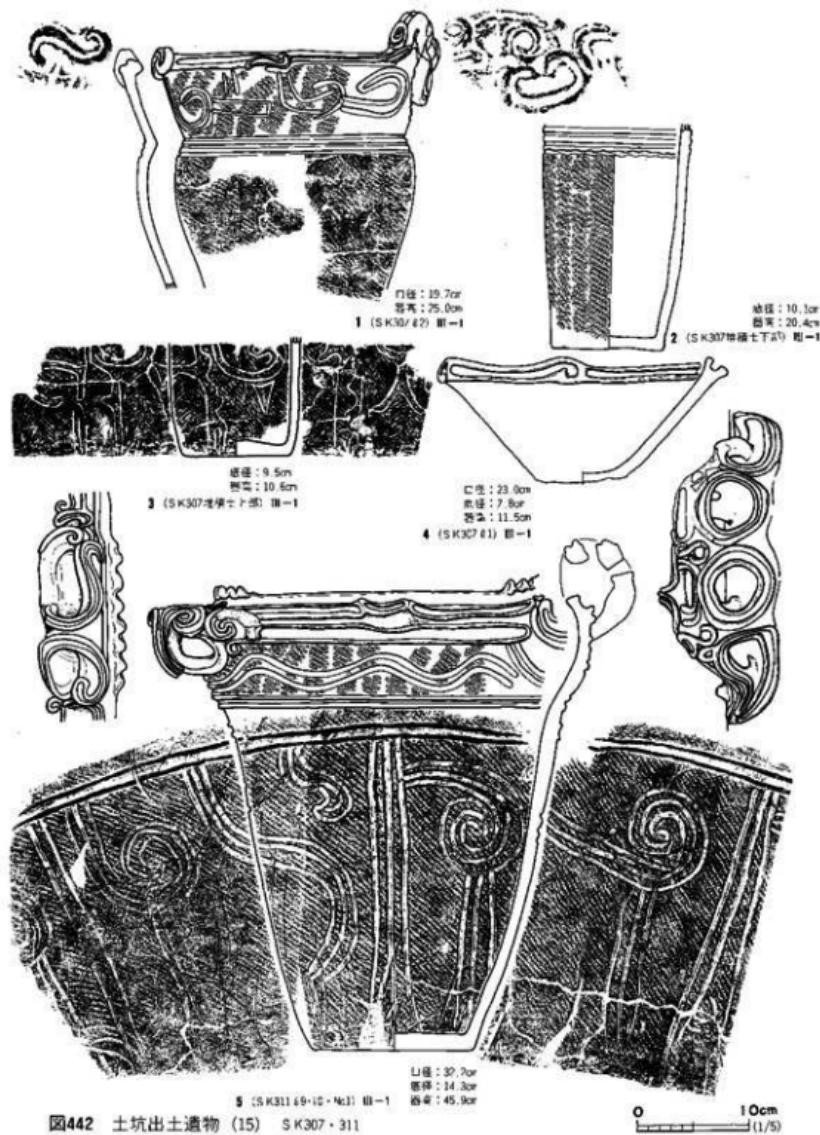


図442 土坑出土遺物 (15) SK307 + 311

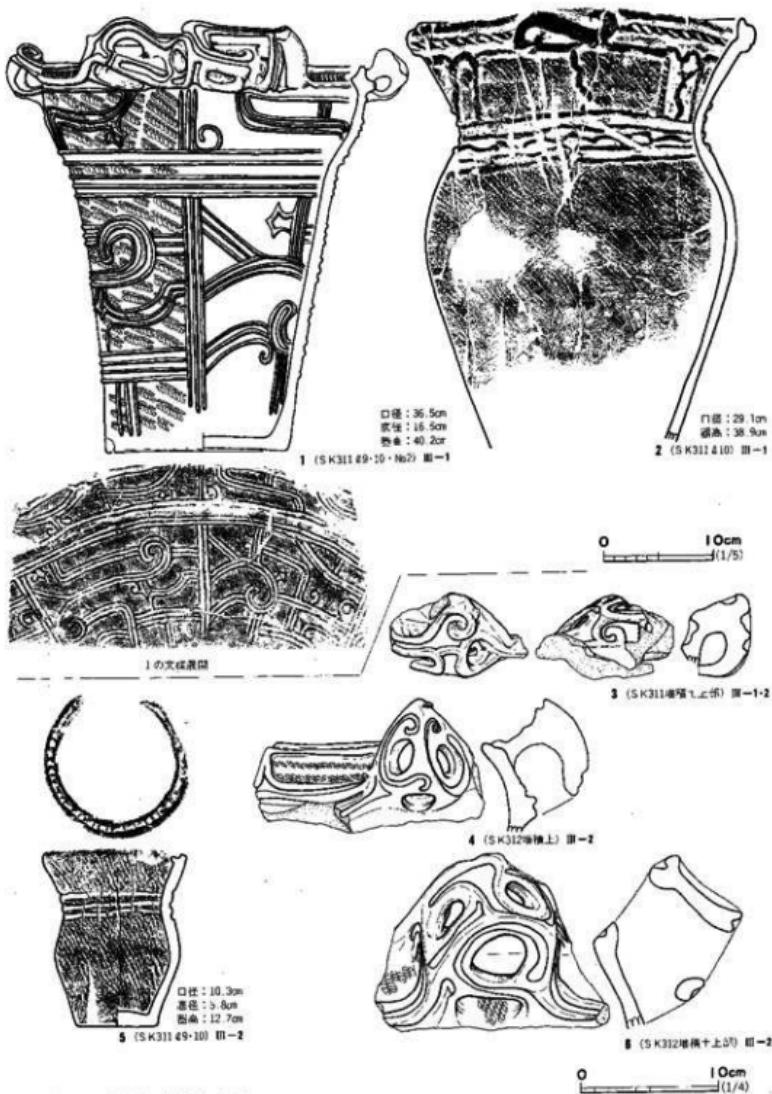


図443 土坑出土遺物 (16) SK311・312

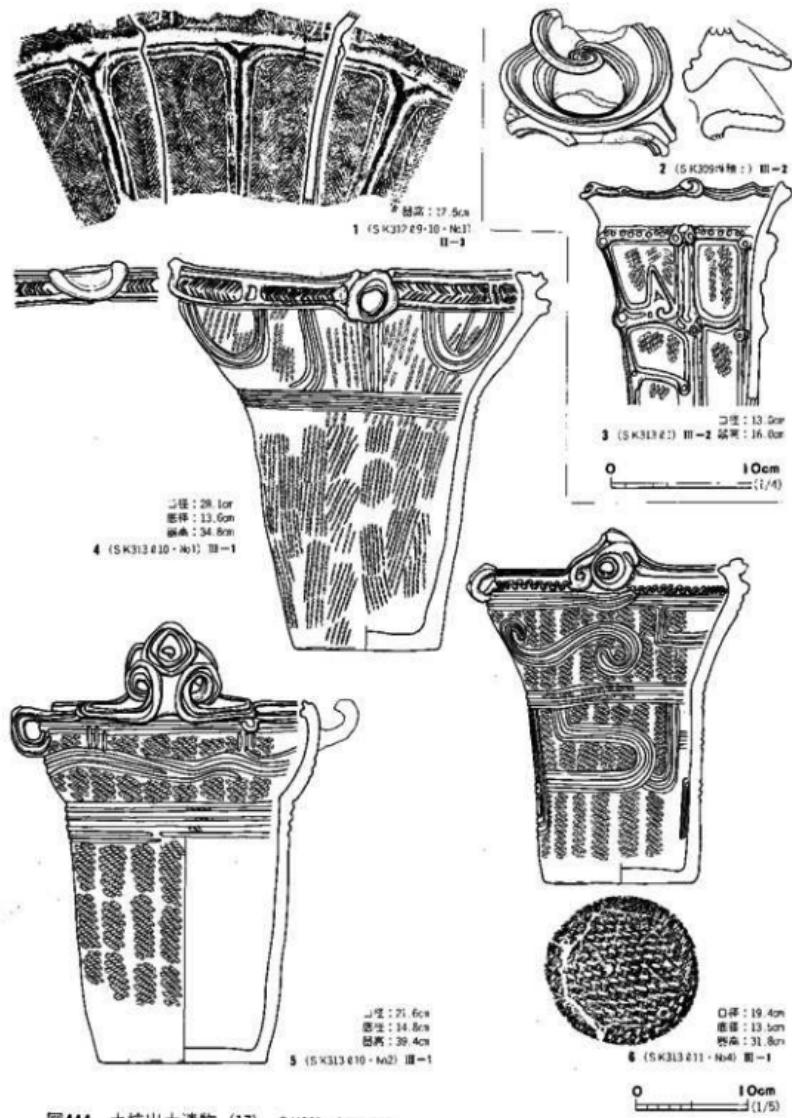


図444 土坑出土遺物 (17) SK309・312・313

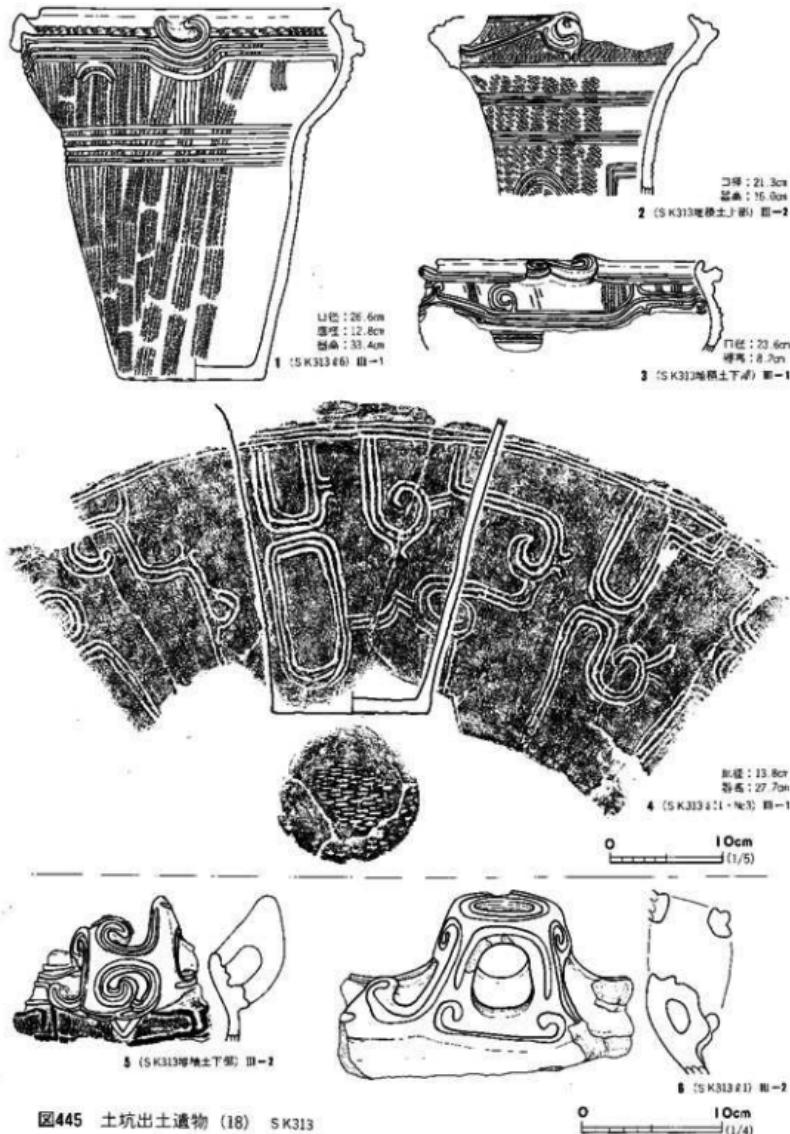


図445 土坑出土遺物 (18) SK313

第3節 土坑

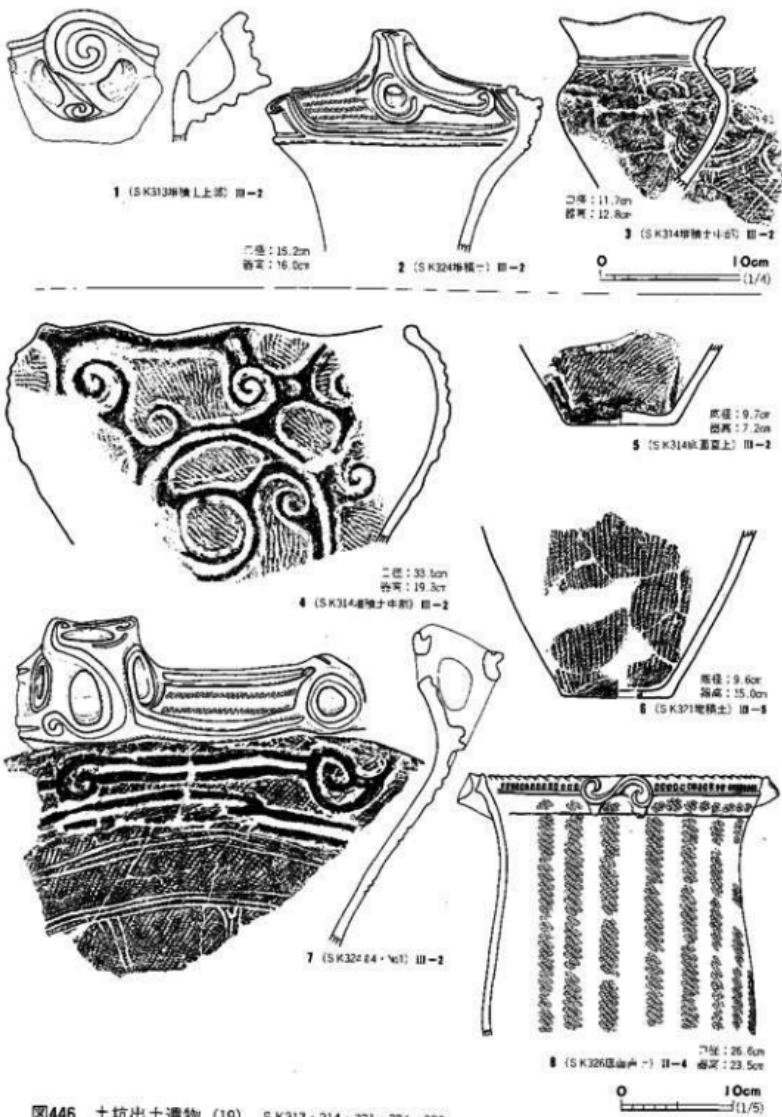


圖446 土坑出土遺物 (19) SK313・314・321・324・326

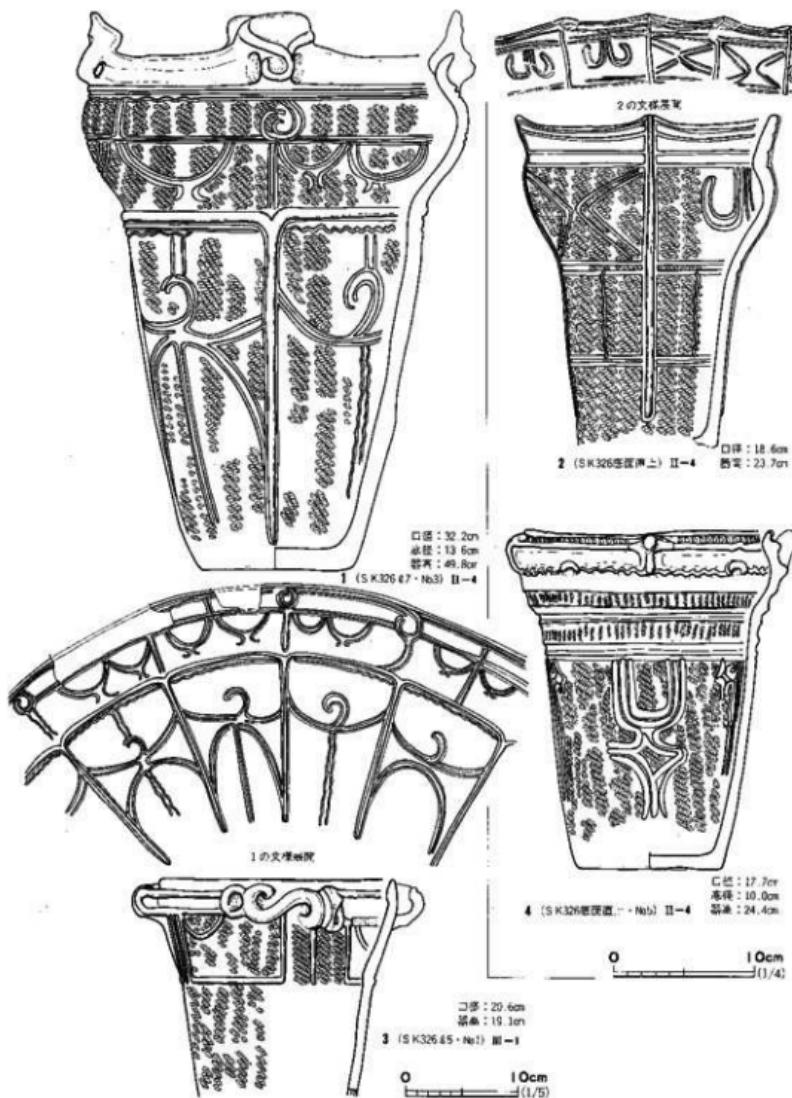


図447 土坑出土遺物 (20) SK 326

第3節 土坑

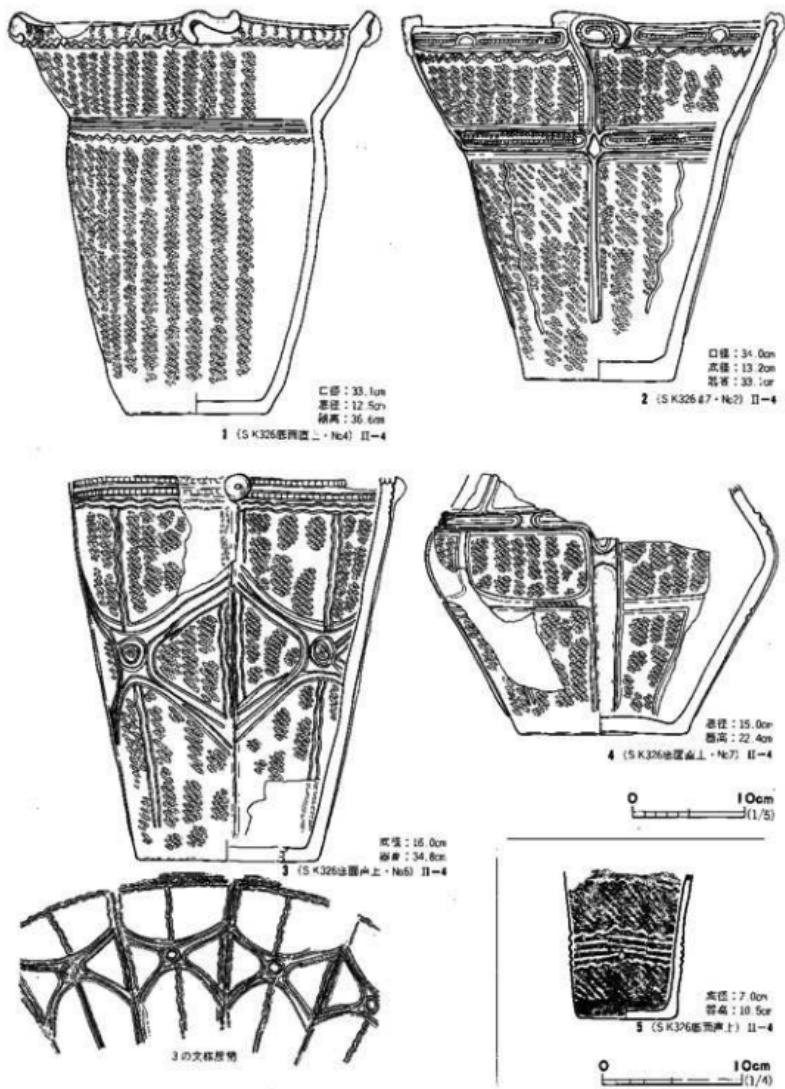


図448 土坑出土遺物 (21) SK326

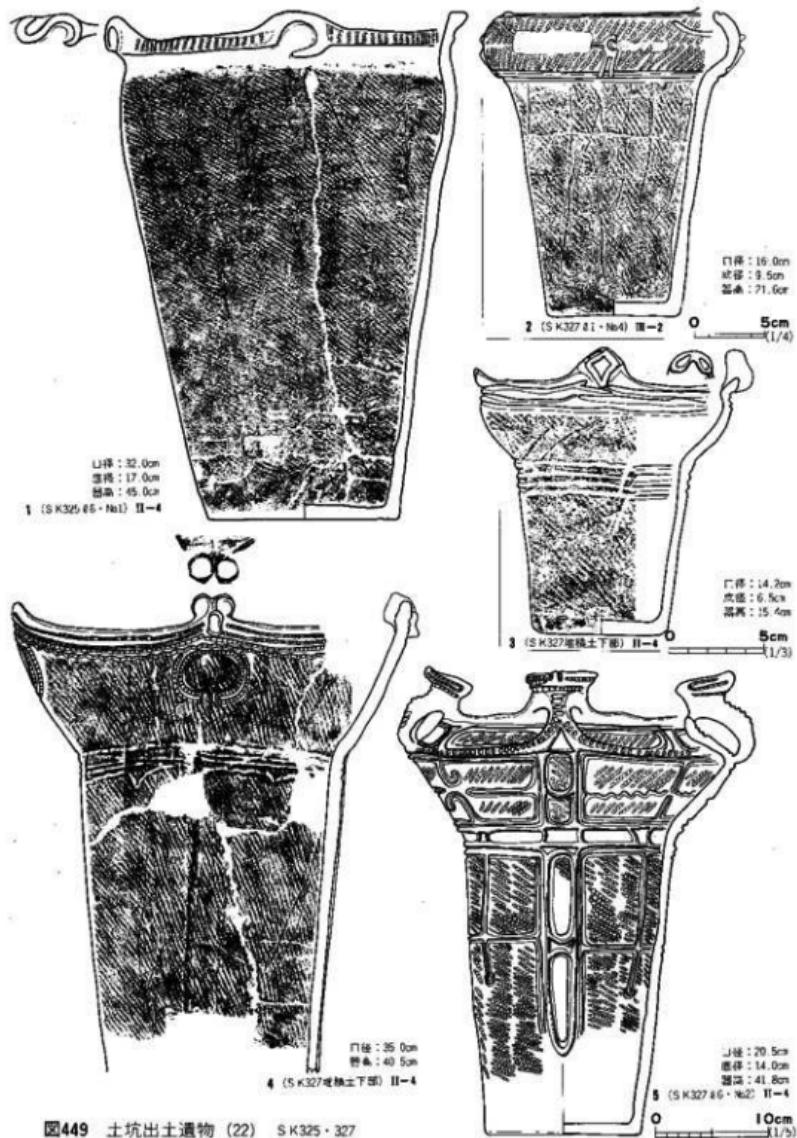


図449 土坑出土遺物 (22) SK325・327

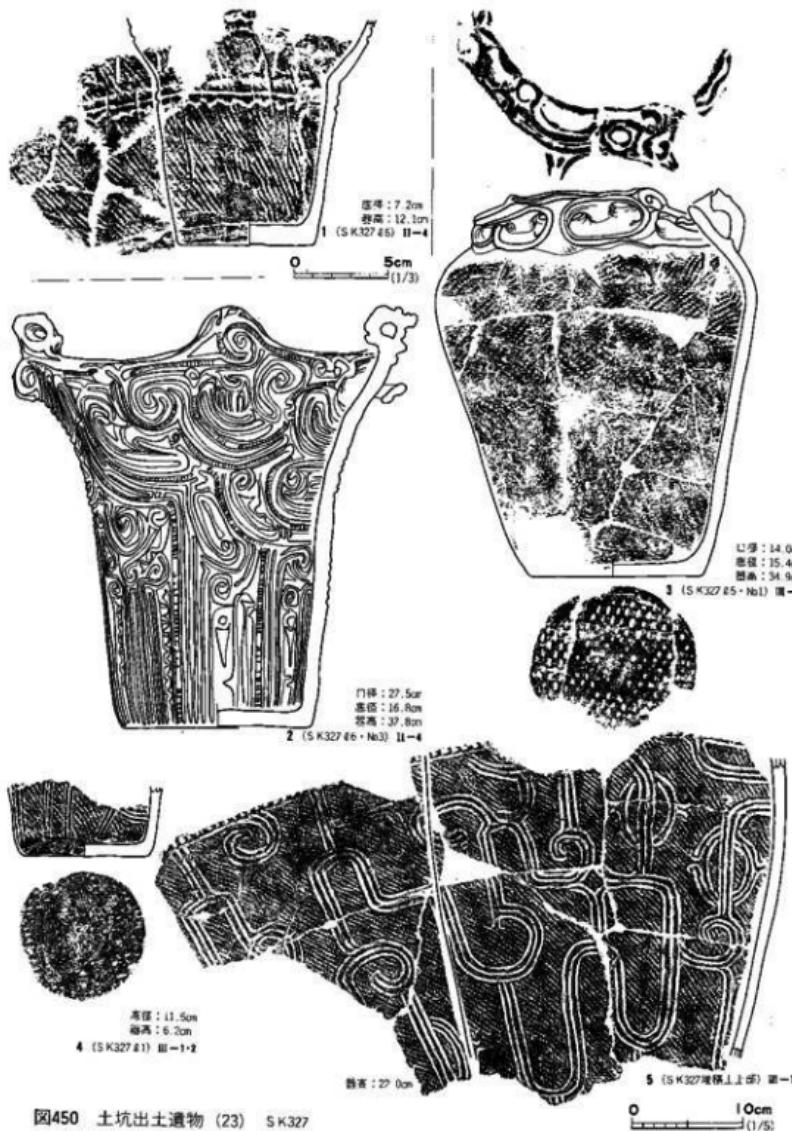


図450 土坑出土遺物 (23) SK327

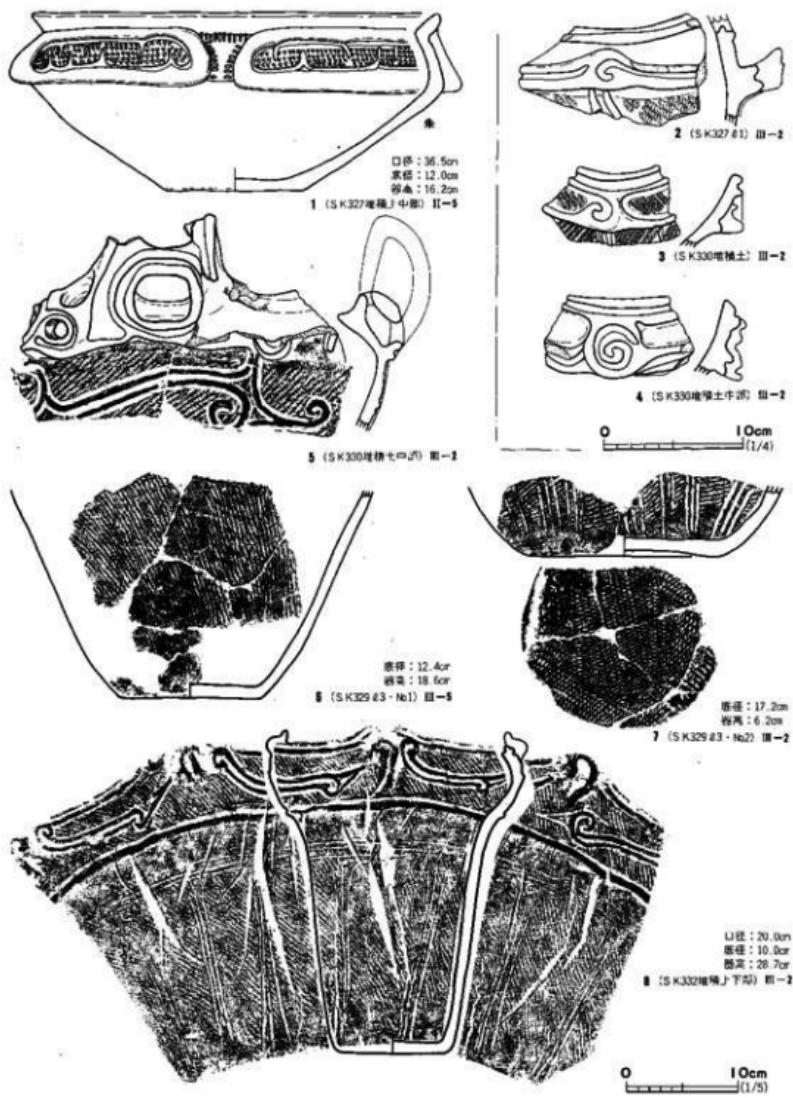


図451 土坑出土遺物 (24) SK327・329・330・332

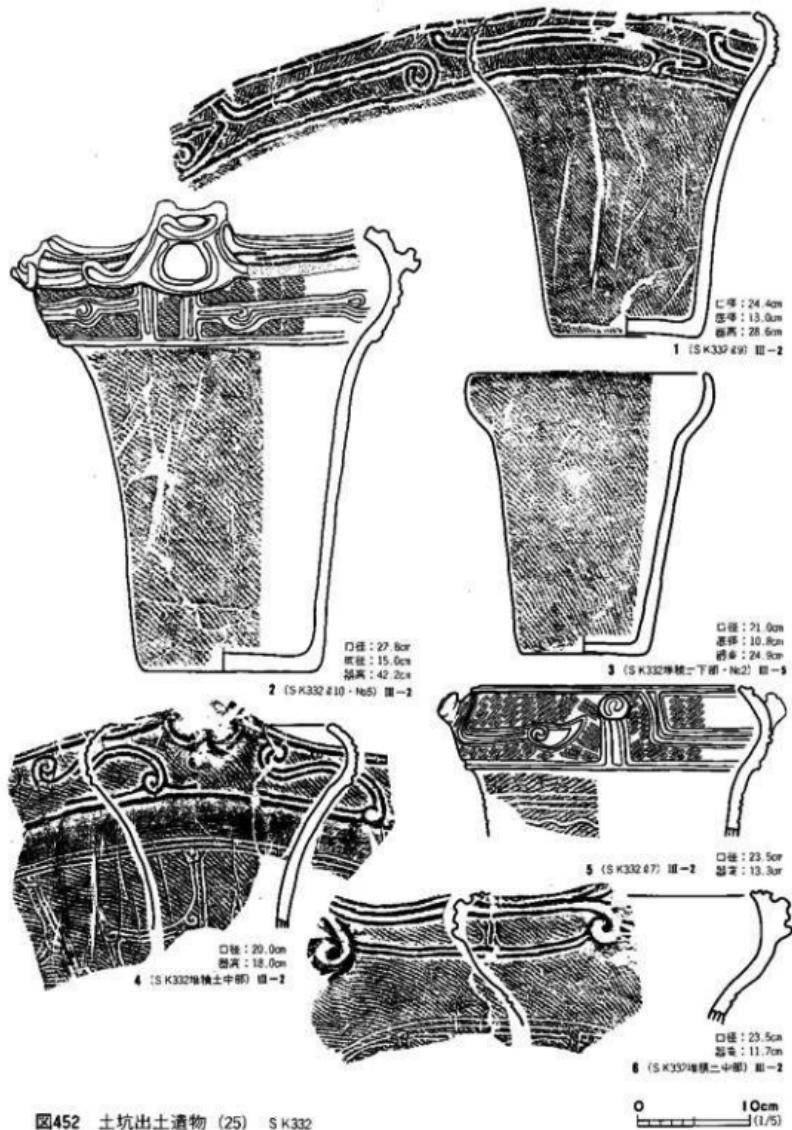


図452 土坑出土遺物 (25) S K332

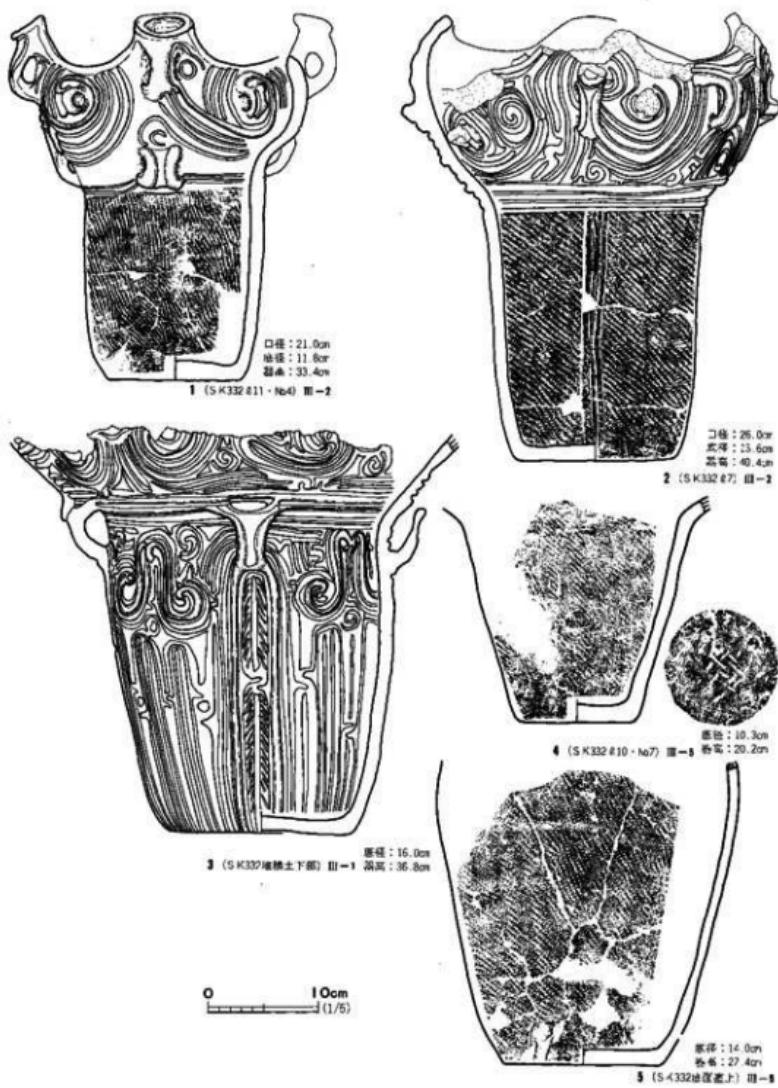
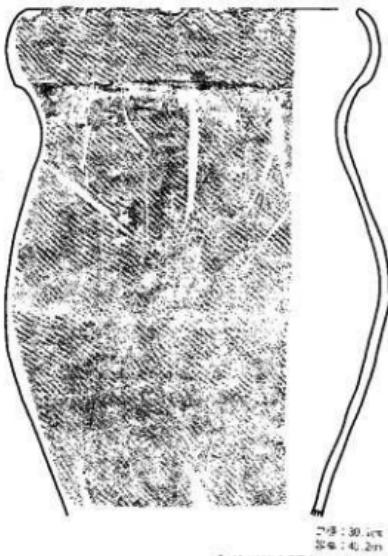
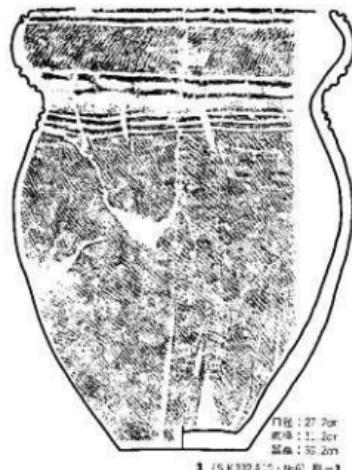
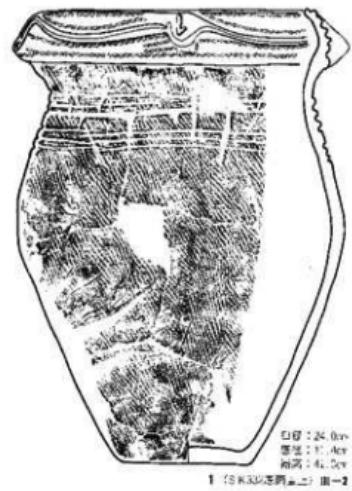


図453 土坑出土遺物 (26) S K332



0 10cm  
(1/5)

図454 土方出土遺物 (27) SK332

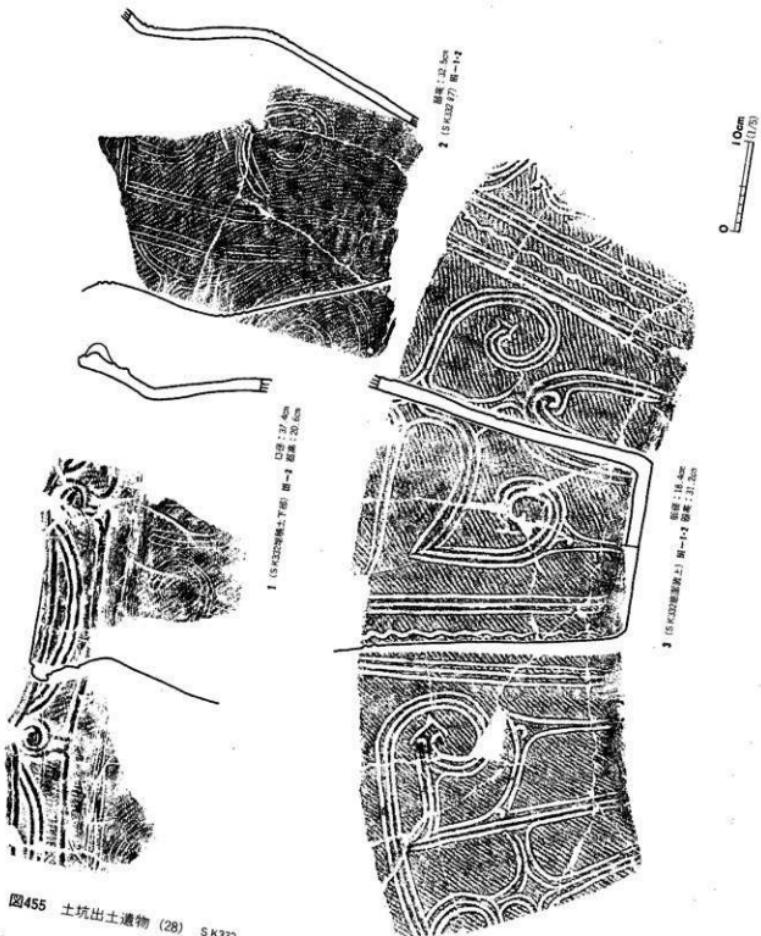


図455 土坑出土遺物 (28) SK332

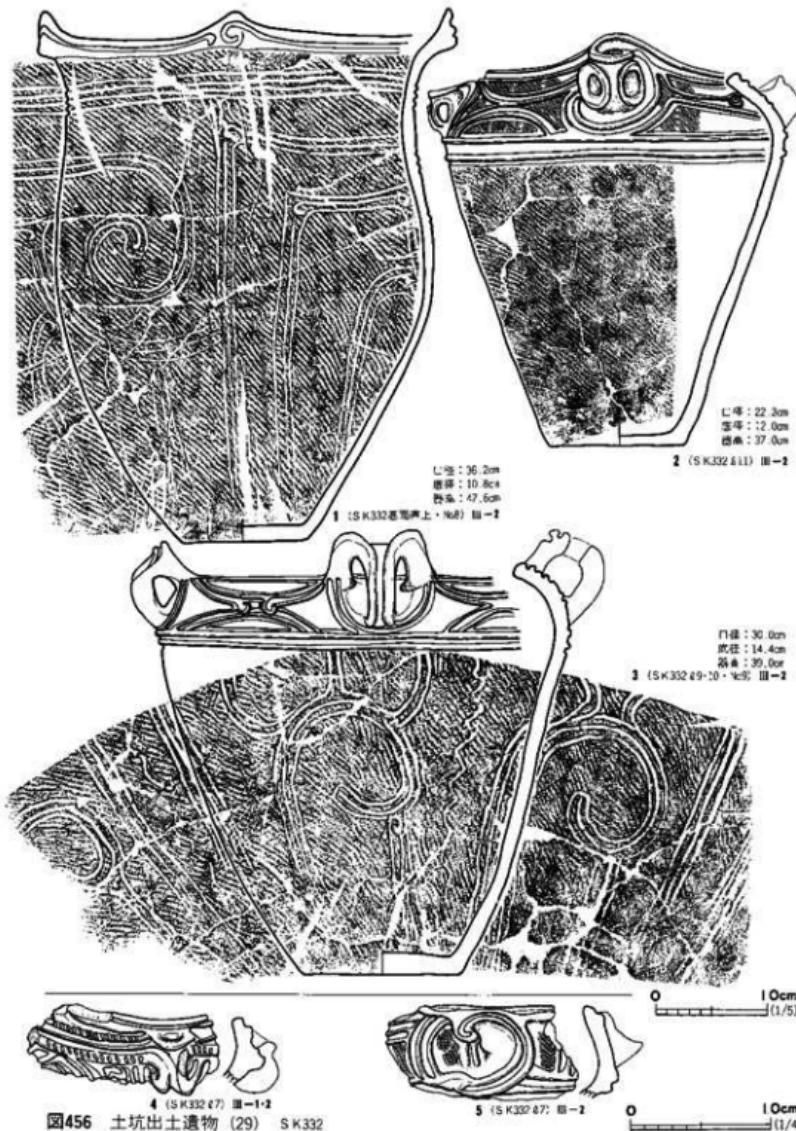


図456 土坑出土遺物 (29) SK332

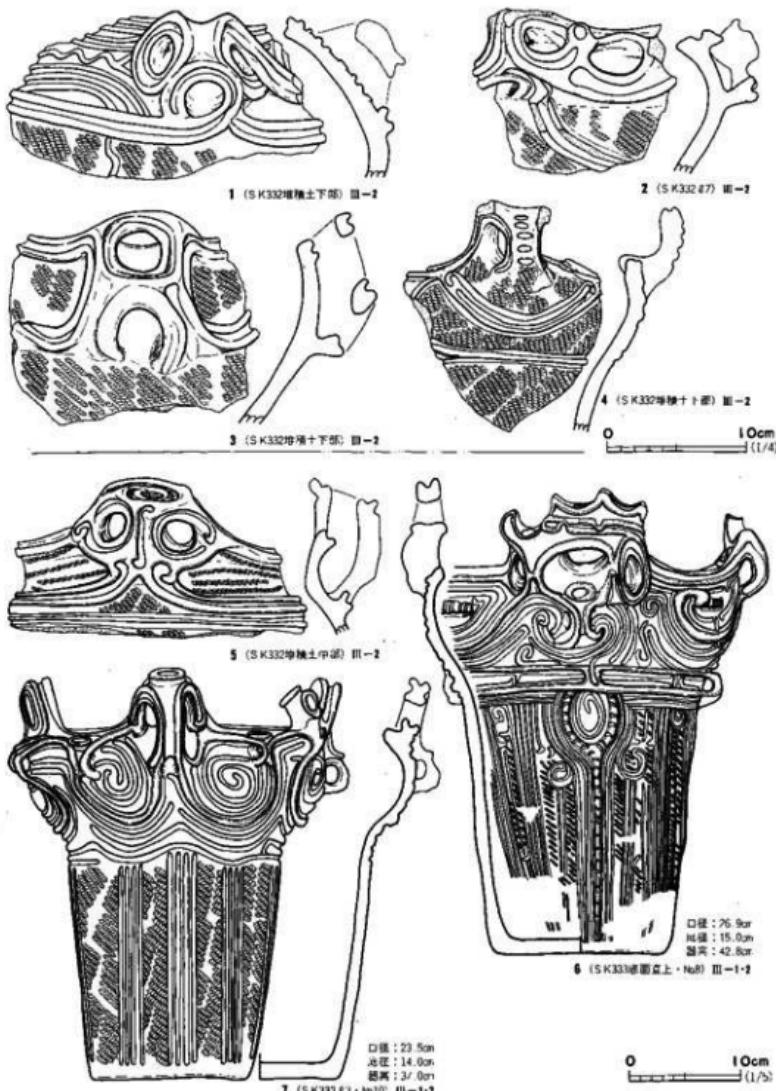


図457 土坑出土遺物 (30) SK332・333

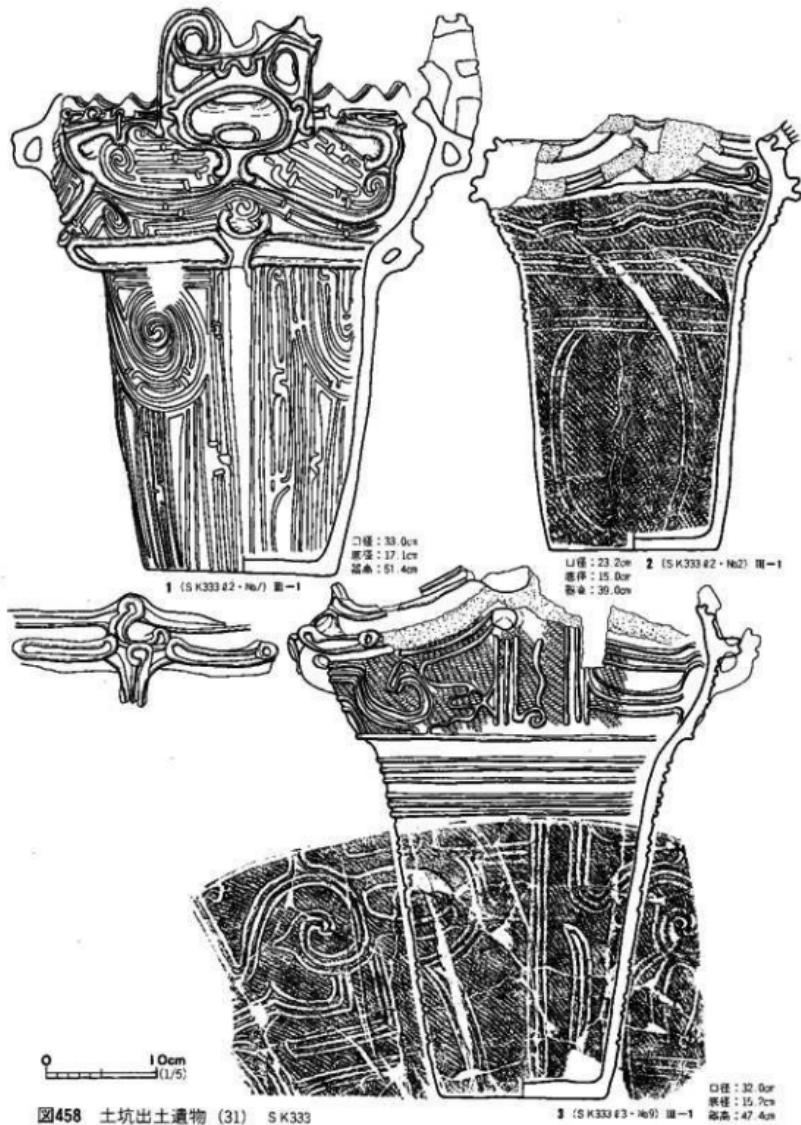


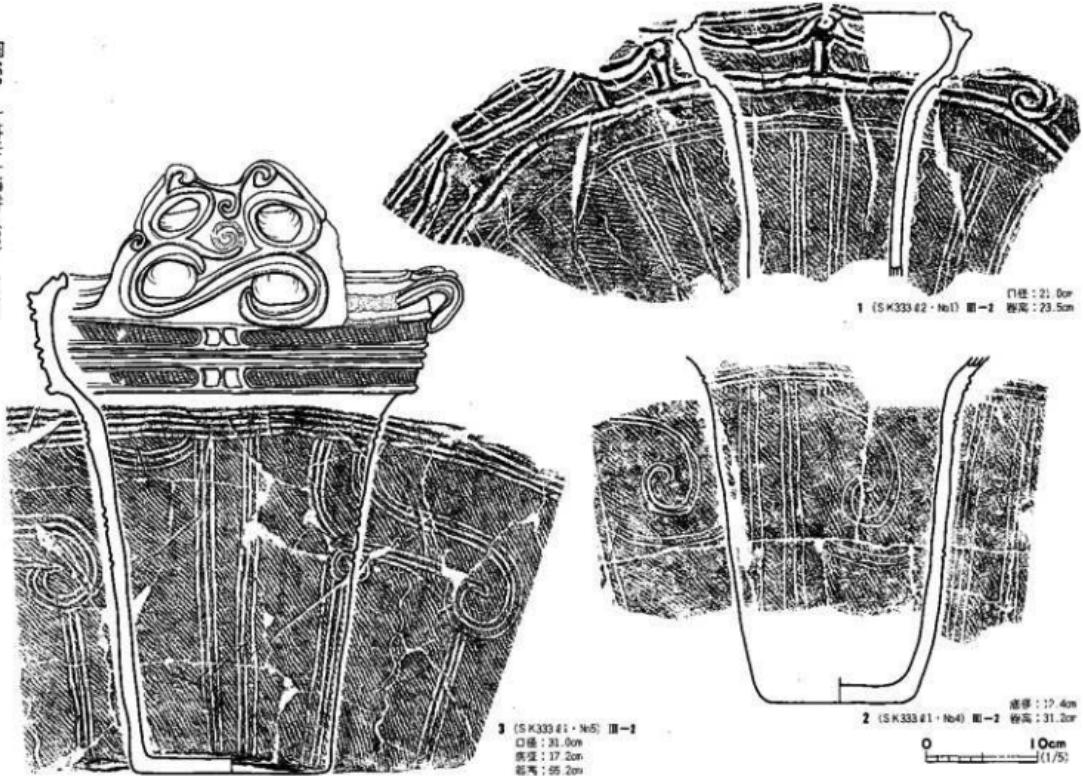
図458 土坑出土遺物 (31) S K333

1 (SK333.62 · No.1) 図-2 口径: 21.0cm  
底深: 23.5cm

2 (SK333.61 · No.4) 図-2 深度: 19.4cm  
口径: 31.2cm  
底深: 31.2cm

0 10cm  
(1/5)

3 (SK333.61 · No.5) 図-2  
口径: 33.0cm  
底深: 17.2cm  
底高: 55.2cm



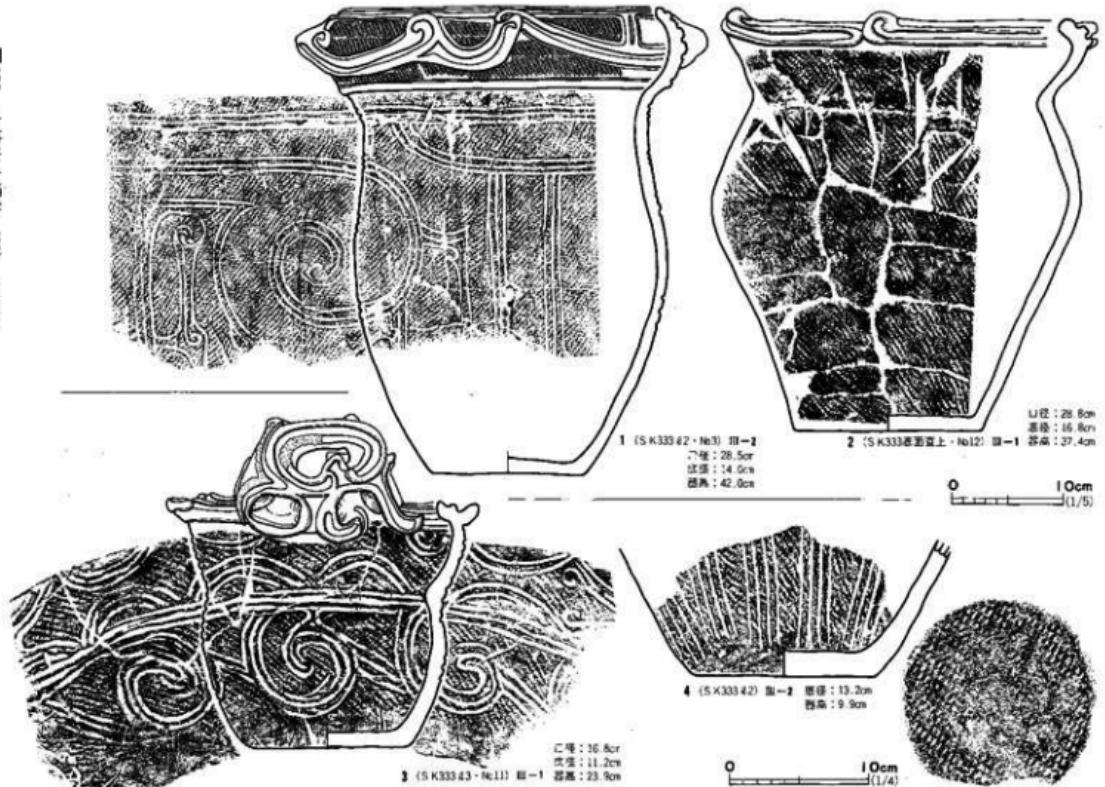


図460 土坑出土遺物 (33) SK333

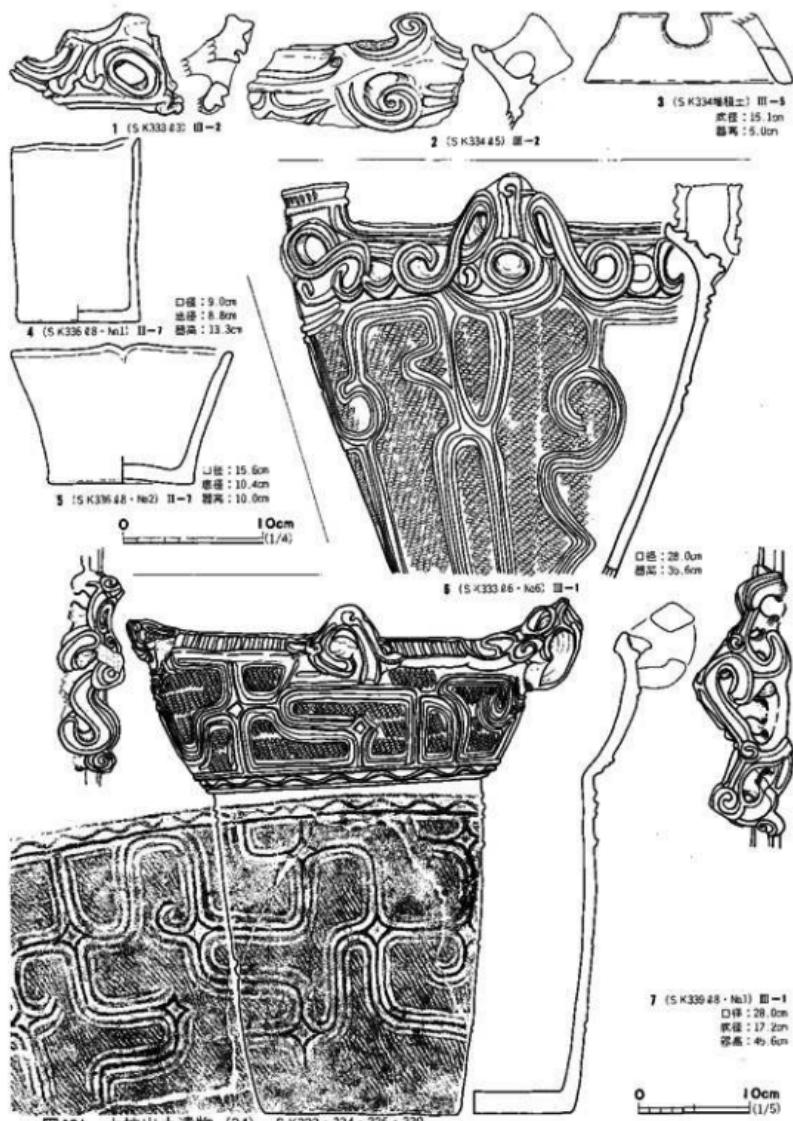


図461 土坑出土遺物 (34) S K333・334・336・339

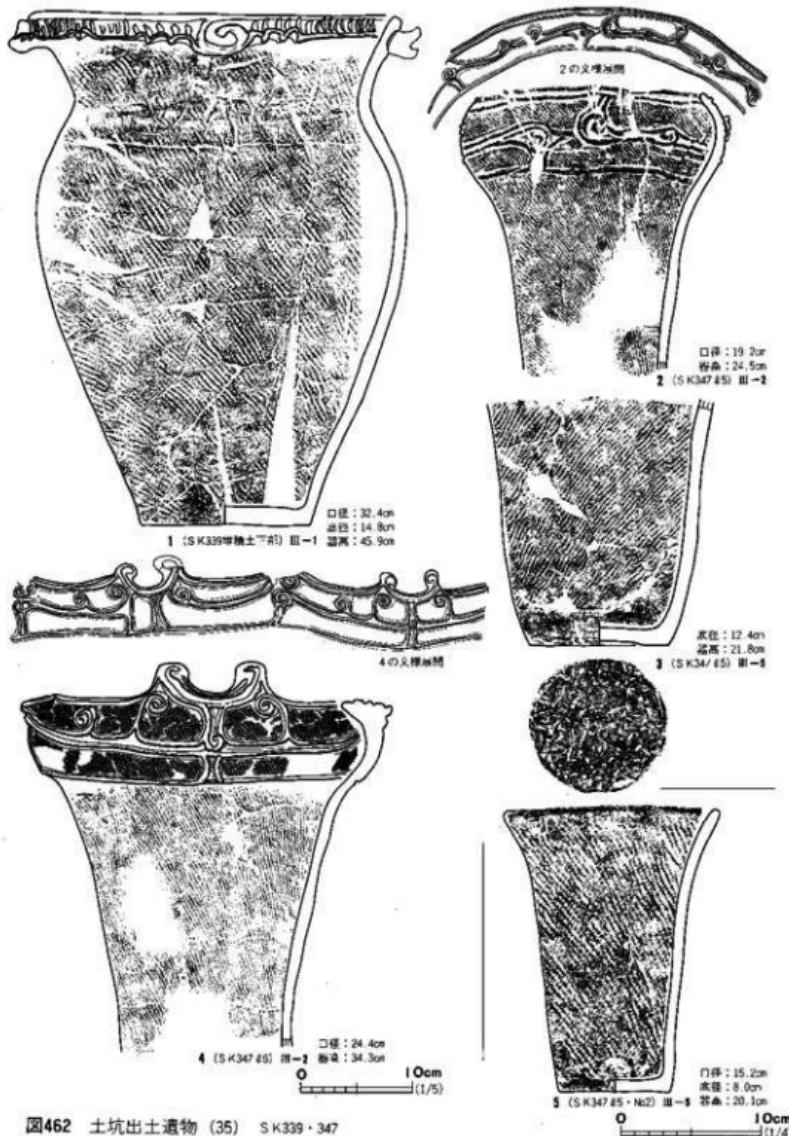


図462 土坑出土遺物 (35) SK339・347

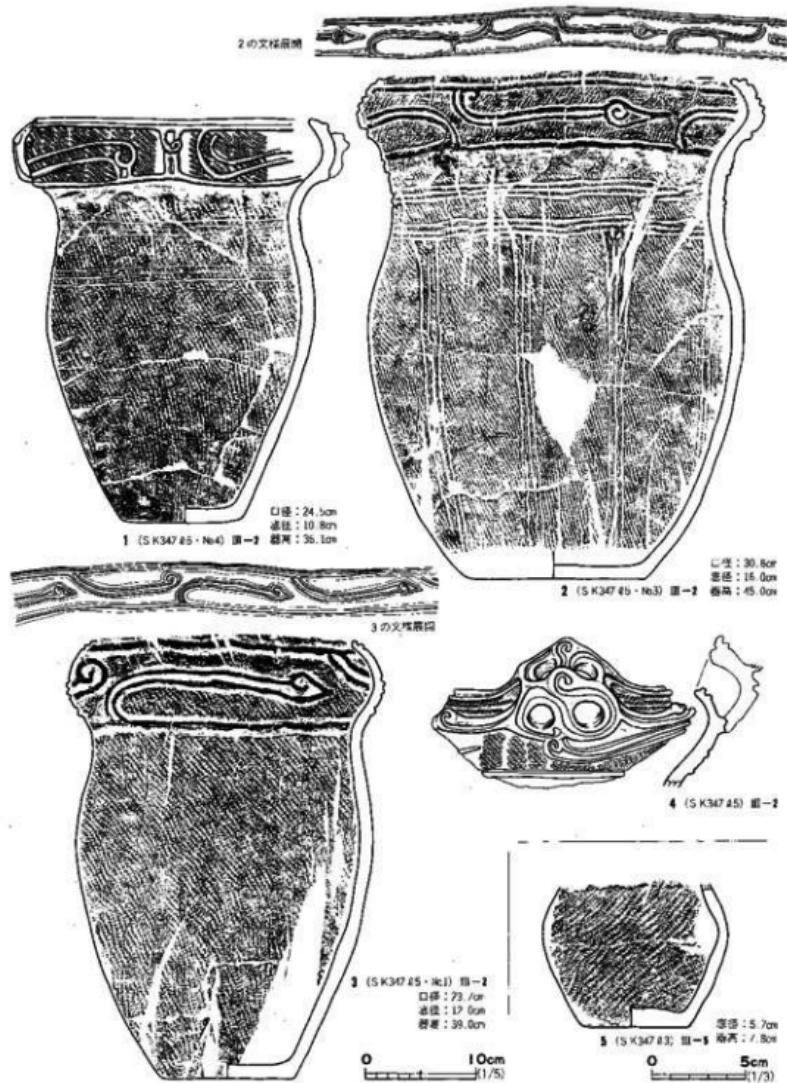


図463 土坑出土遺物 (36) SK347

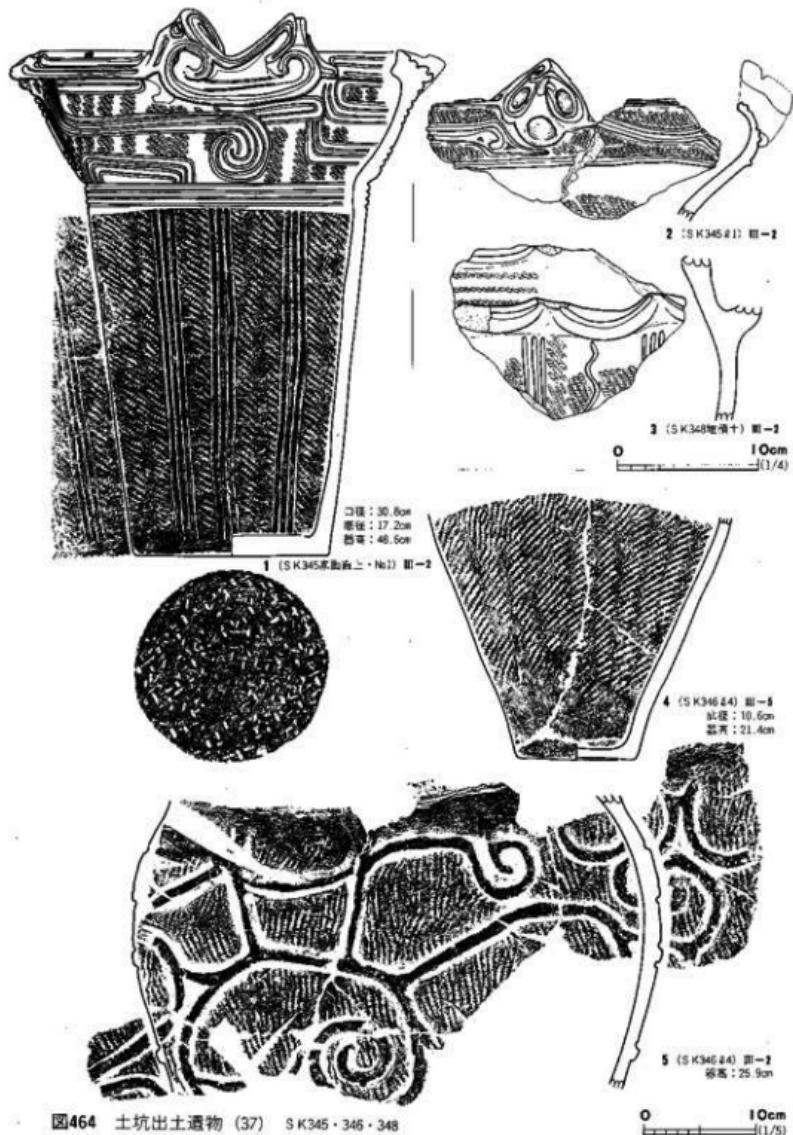


圖464 土坑出土遺物 (37) SK345・346・348

0 10cm  
(1/4)



図465 土坑出土遺物 (38) SK355・356・361・365

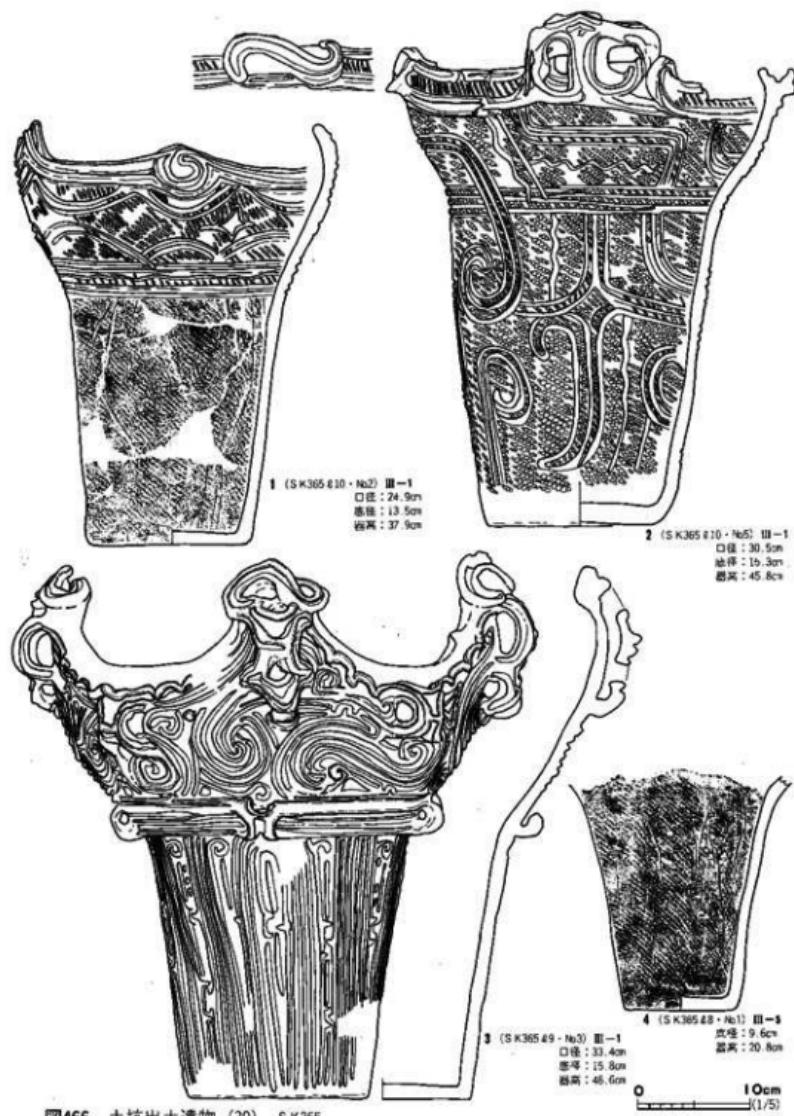
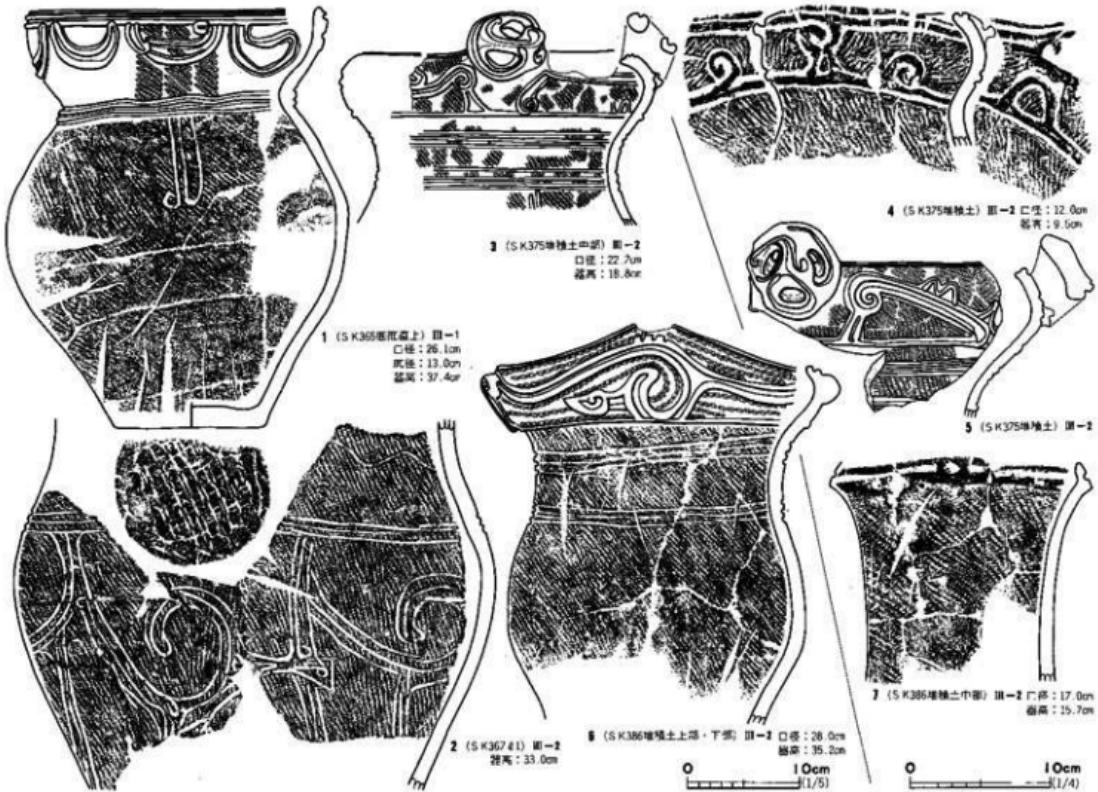


図466 土坑出土遺物 (39) SK365



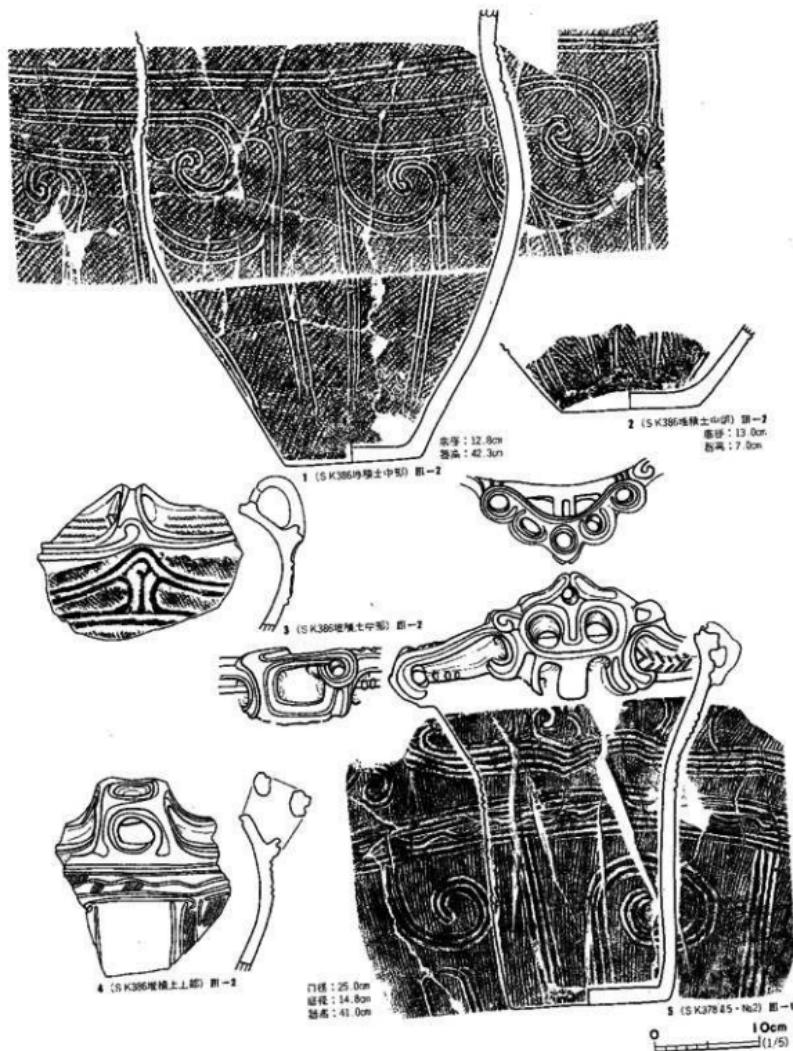
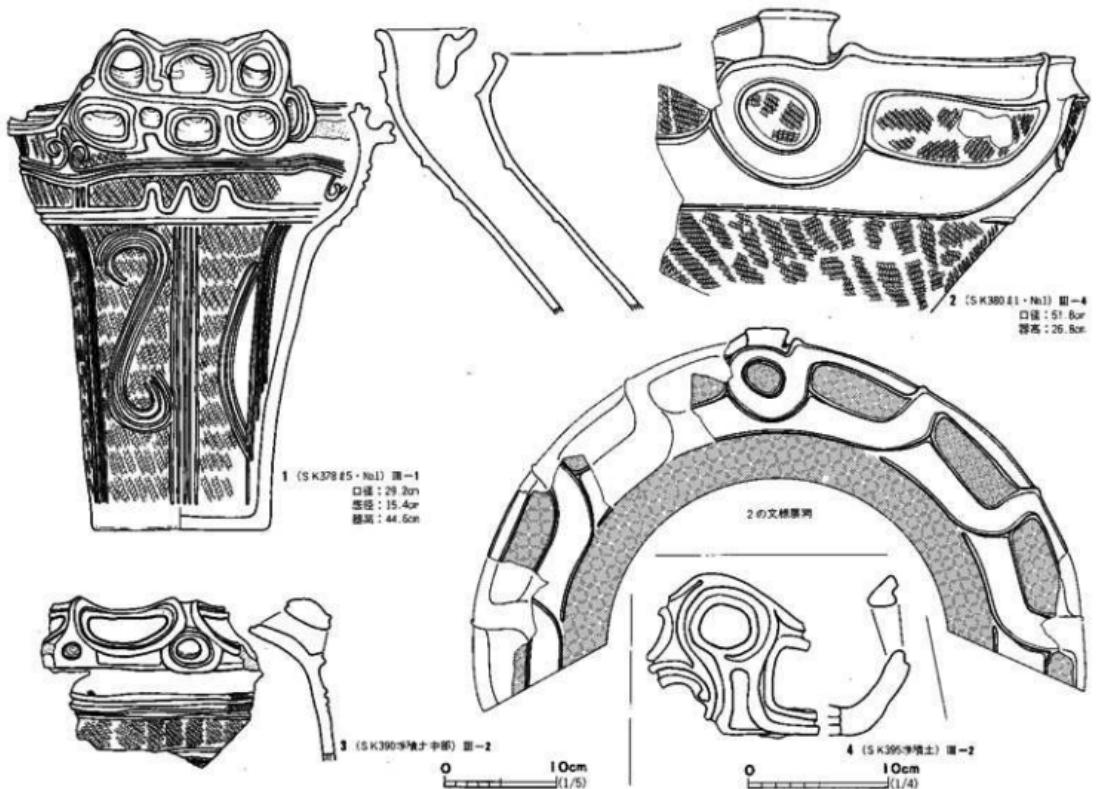


圖468 土坑出土遺物 (41) S K378+386

図469 土坑出土遺物 (42) SK378・380・390・395



第3節 土 坑

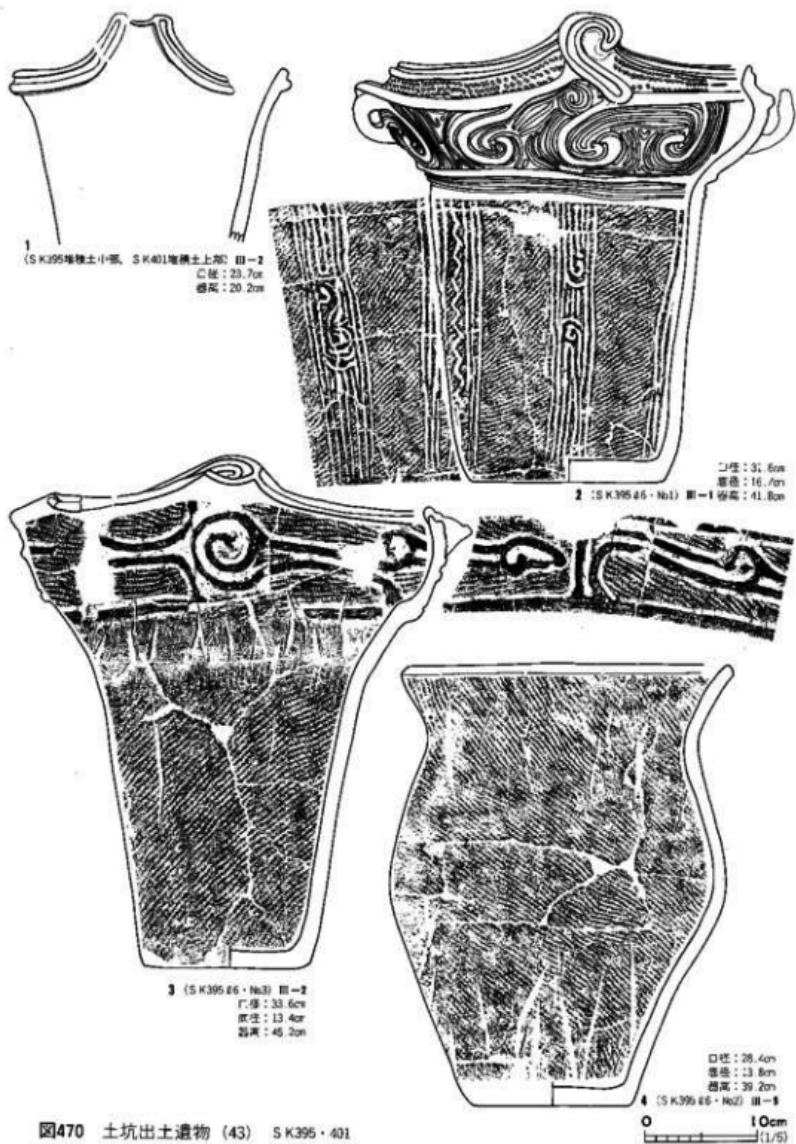


圖470 土坑出土遺物 (43) SK395・401

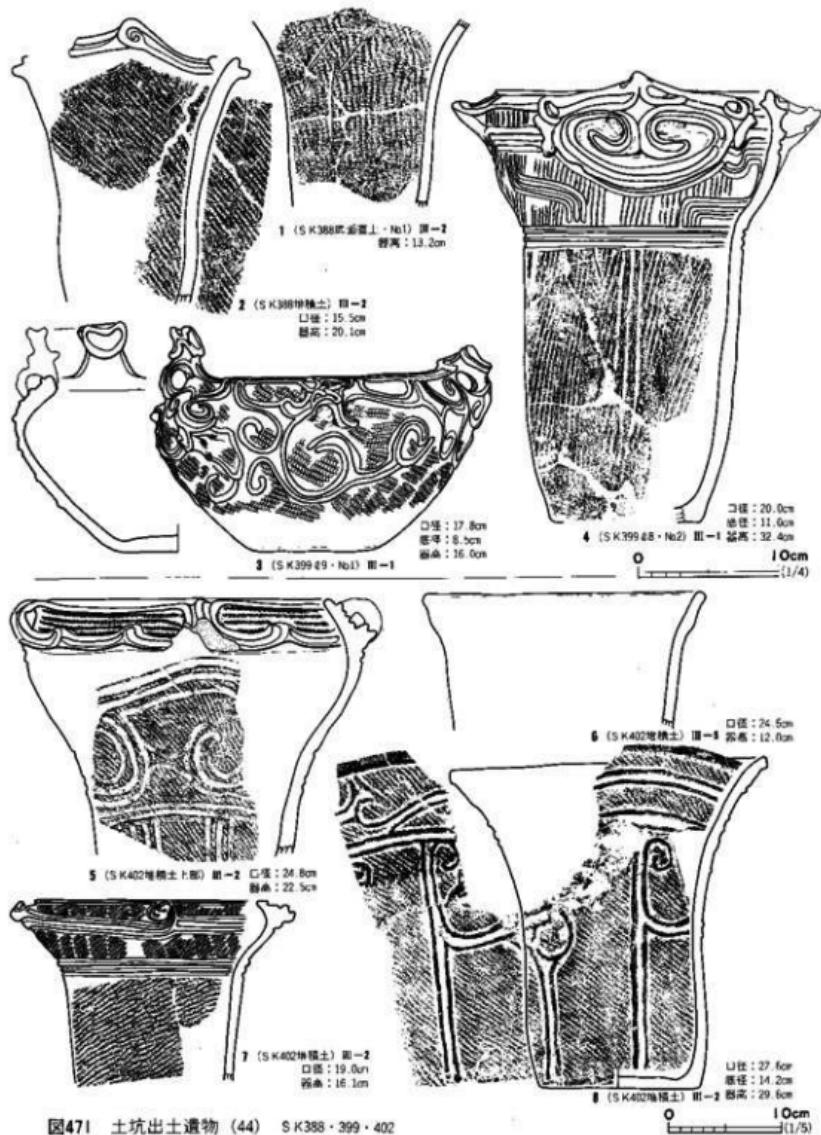


図471 土坑出土遺物 (44) S K388・399・402

第3節 土 坑

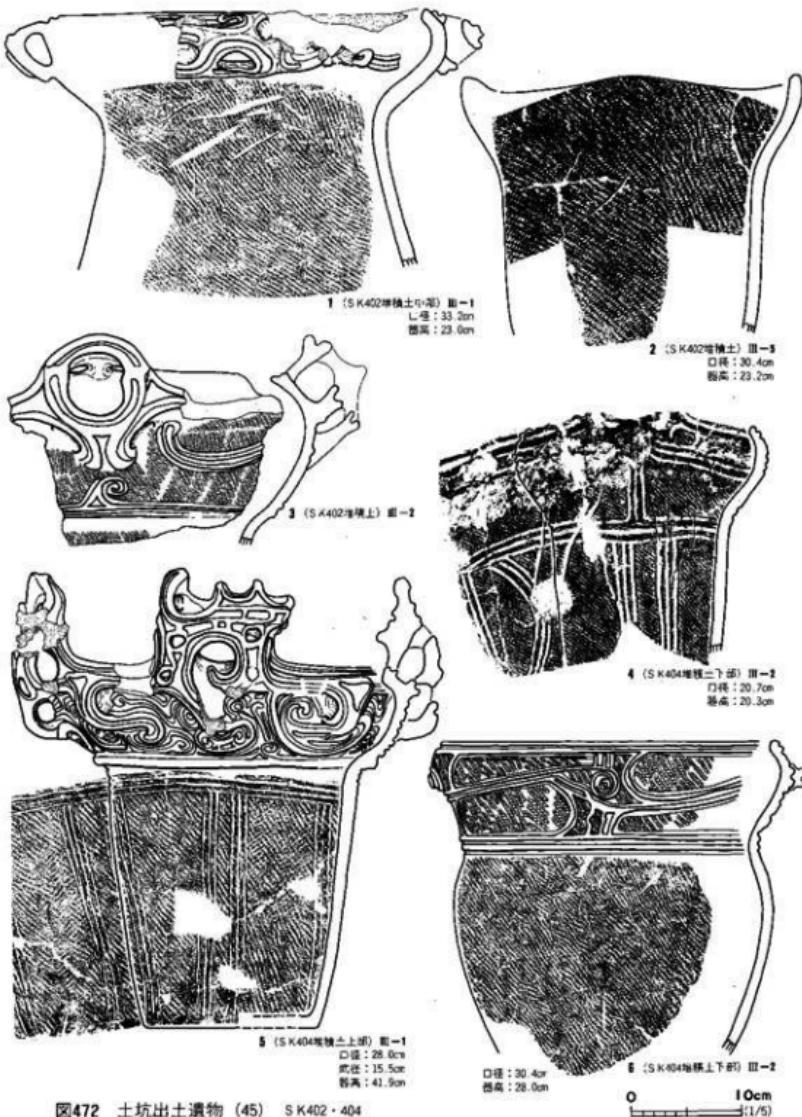


図472 土坑出土遺物 (45) S K402・404

第2章 遺構と遺物

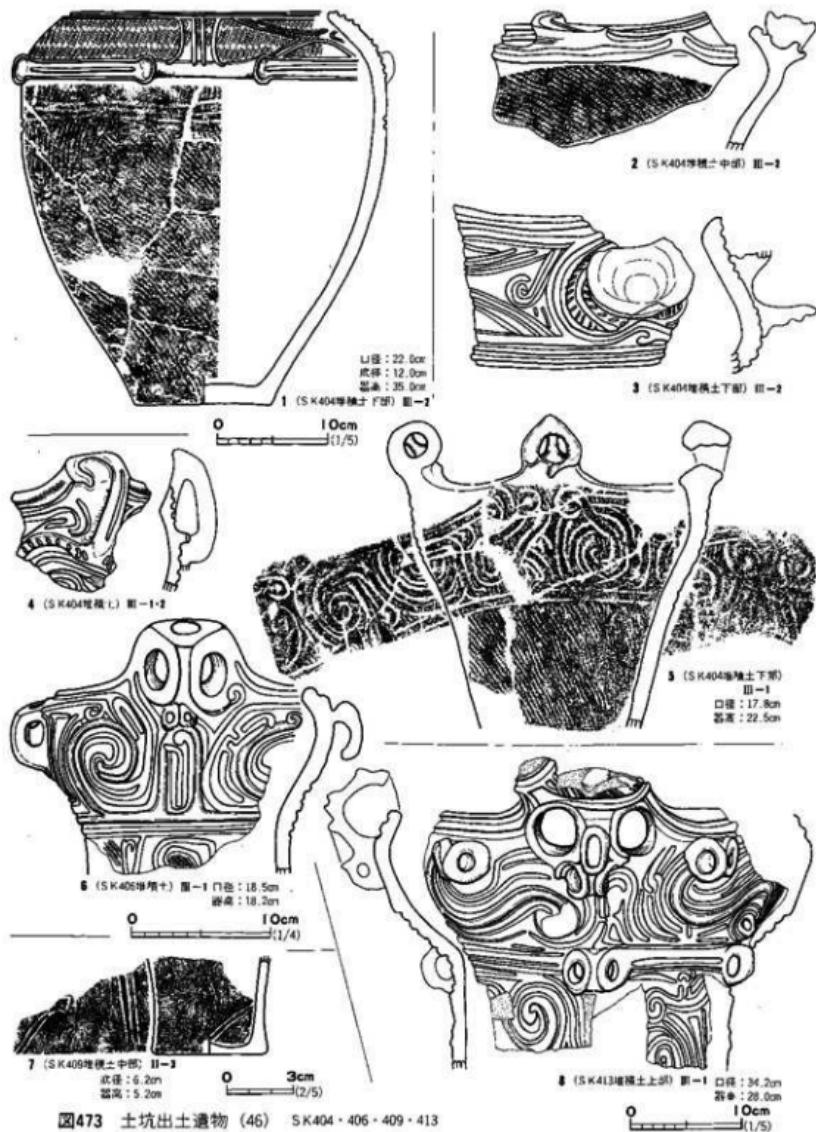


図473 土坑出土遺物 (46) SK404・405・409・413

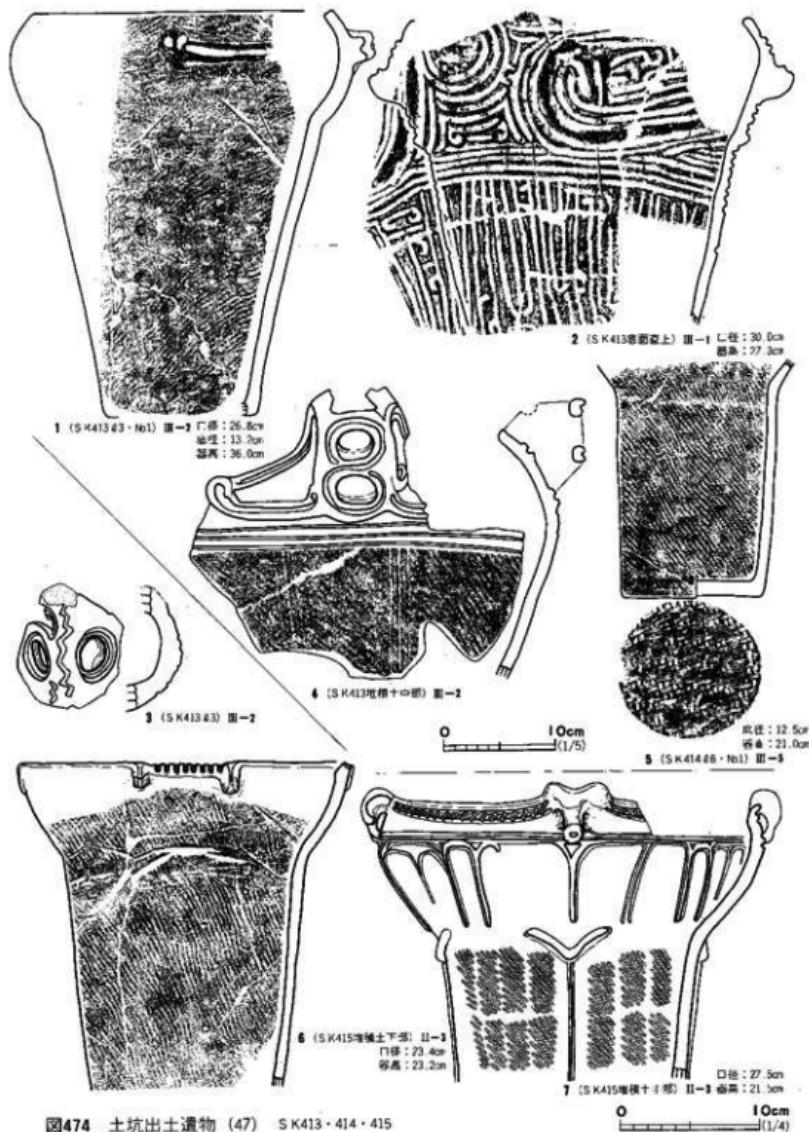


図474 土坑出土遺物 (47) SK413・414・415

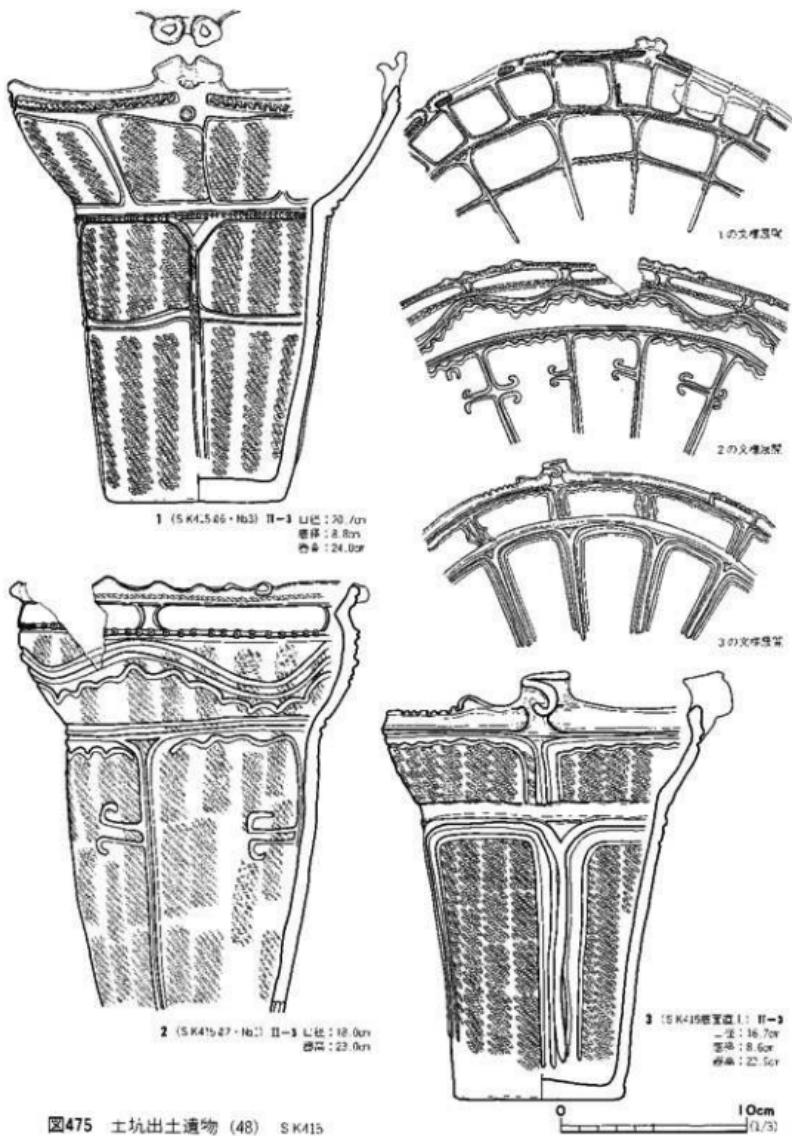
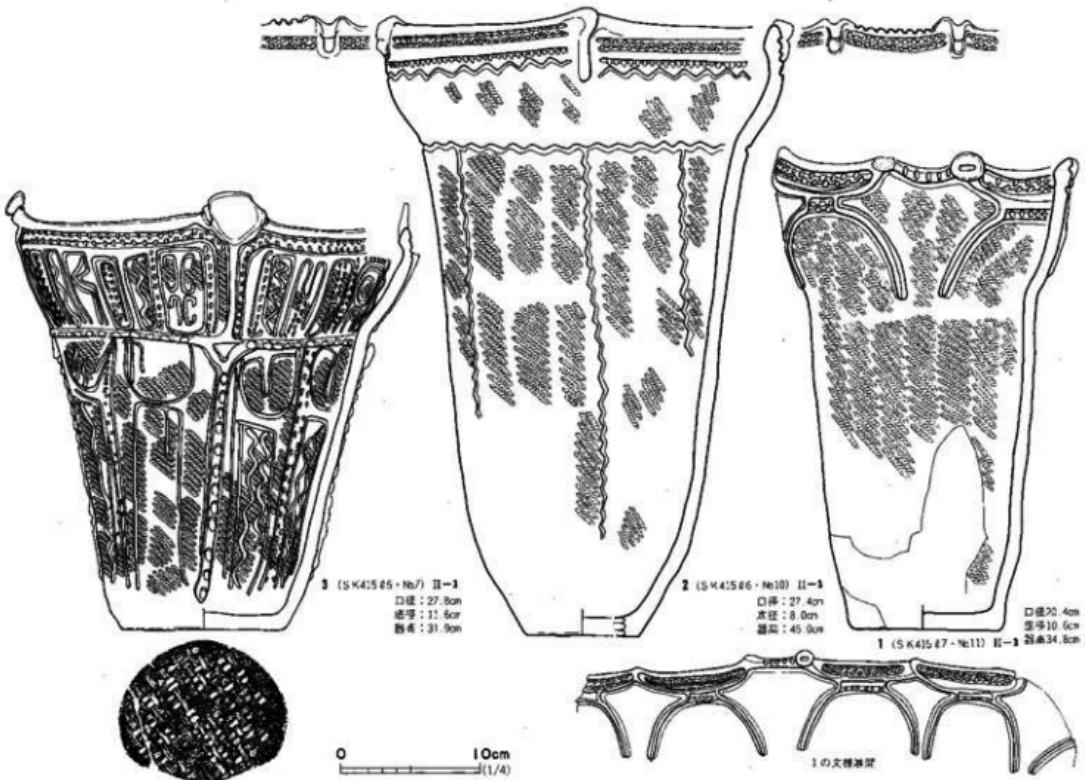


図475 土坑出土遺物 (48) SK415

第三節 土坑

図476 土坑出土遺物 (49) SK415



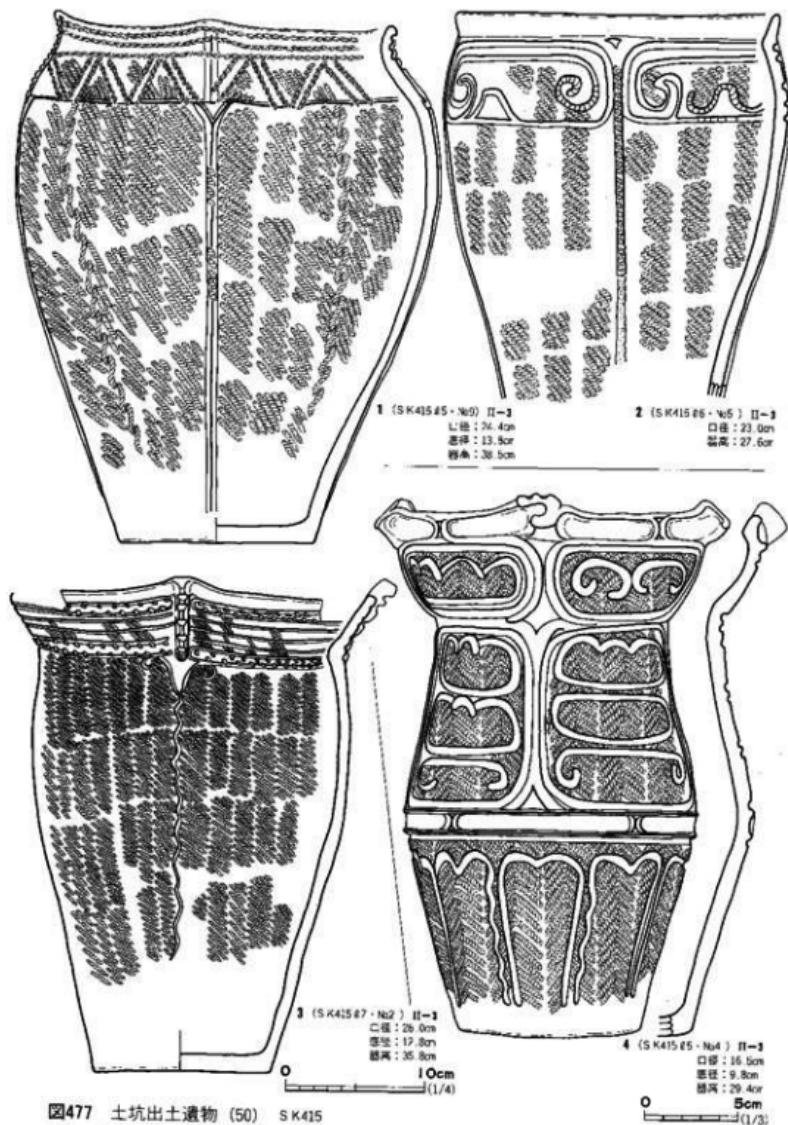


図477 土坑出土遺物 (50) SK415

第3節 土坑

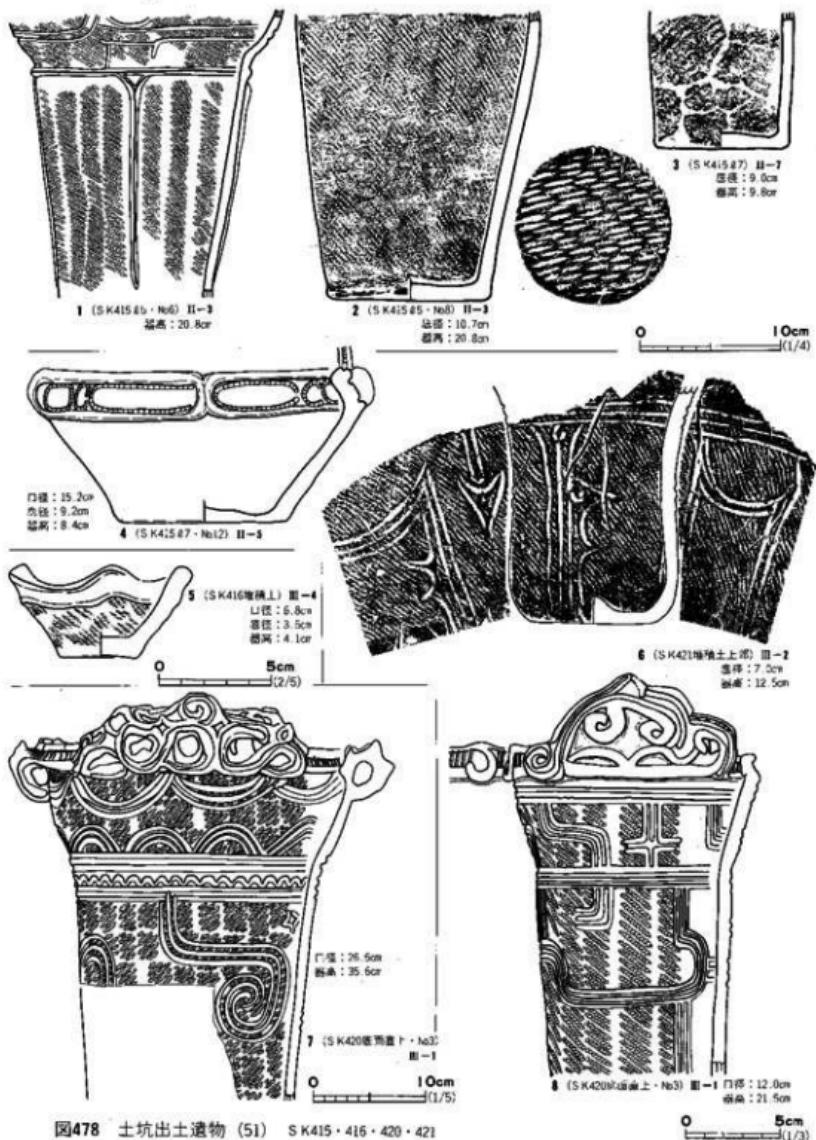


図478 土坑出土遺物 (51) SK415・416・420・421

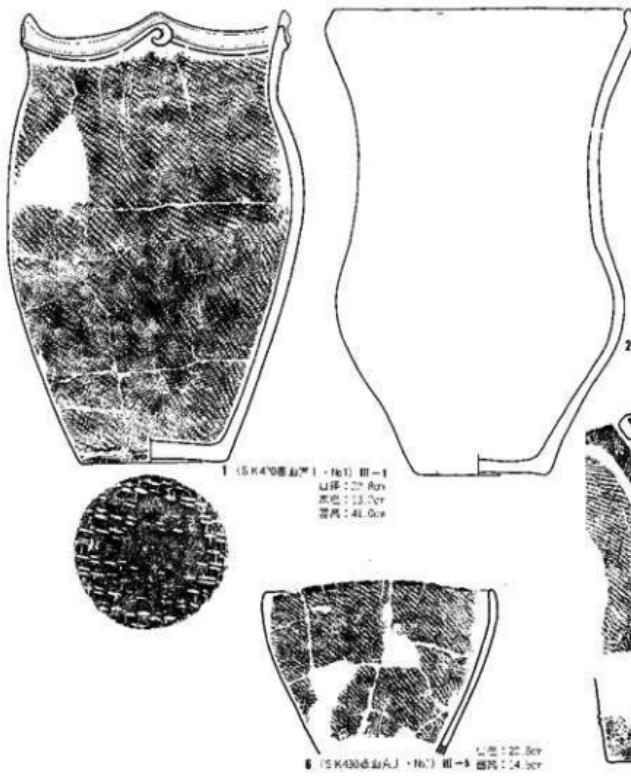


図479 土坑出土遺物 (52)  
SK420・422・423・429・430

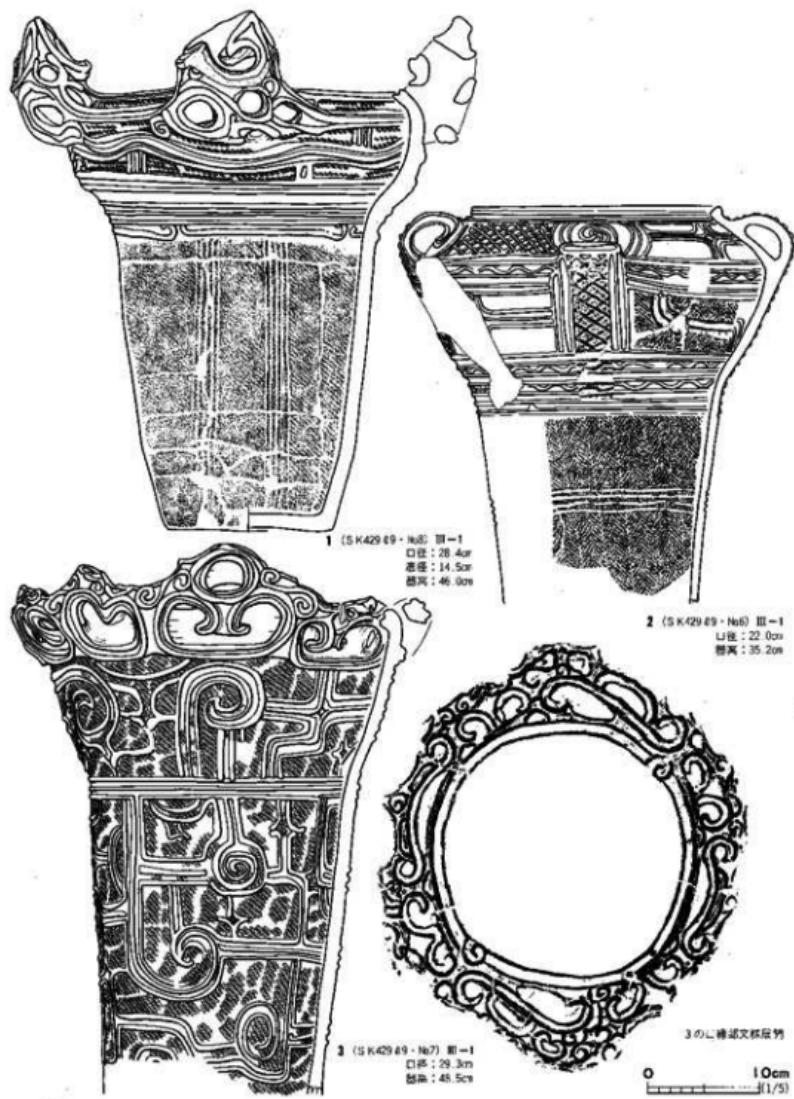


図480 土坑出土遺物 (53) S.K429

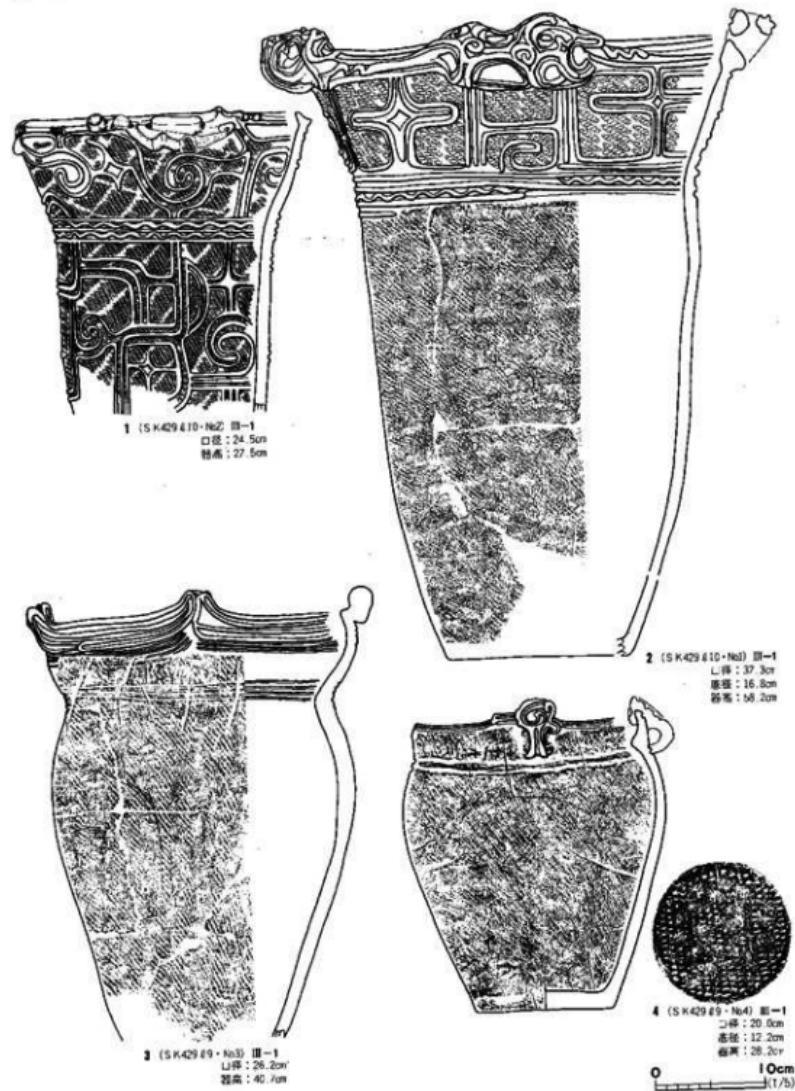


図481 土坑出土遺物 (54) SK429

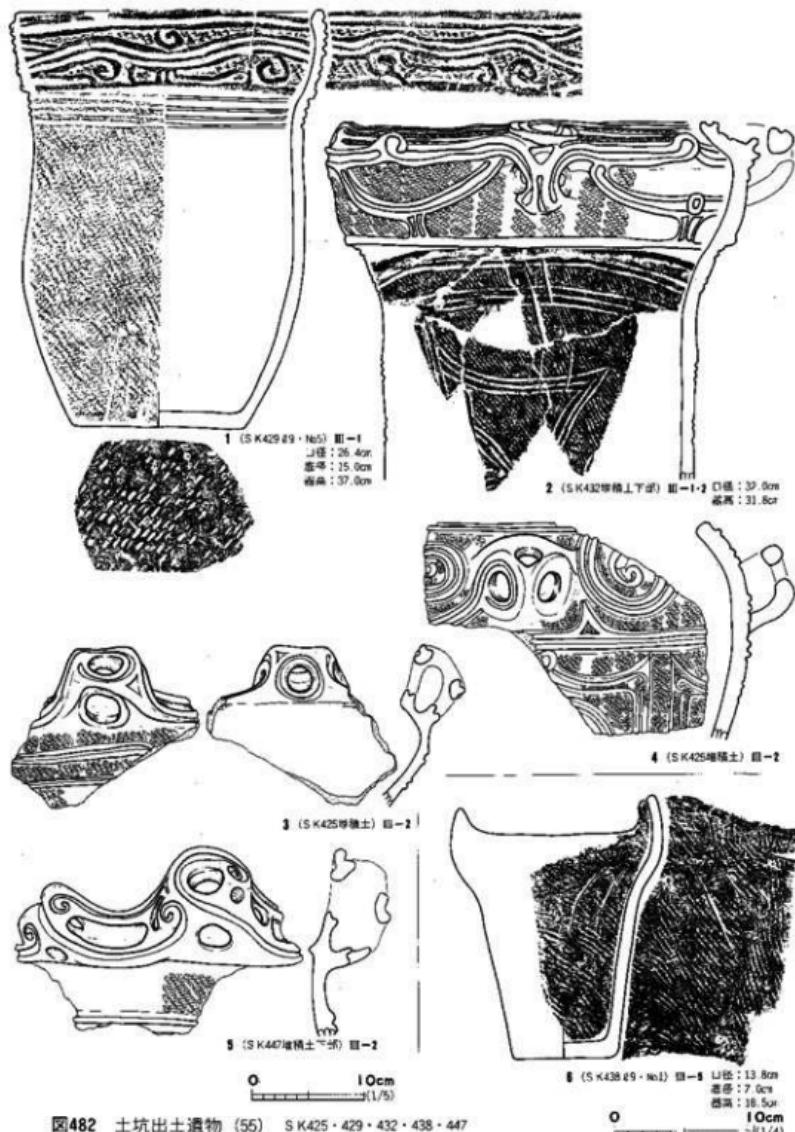


図482 土坑出土遺物 (55) S K425・429・432・438・447

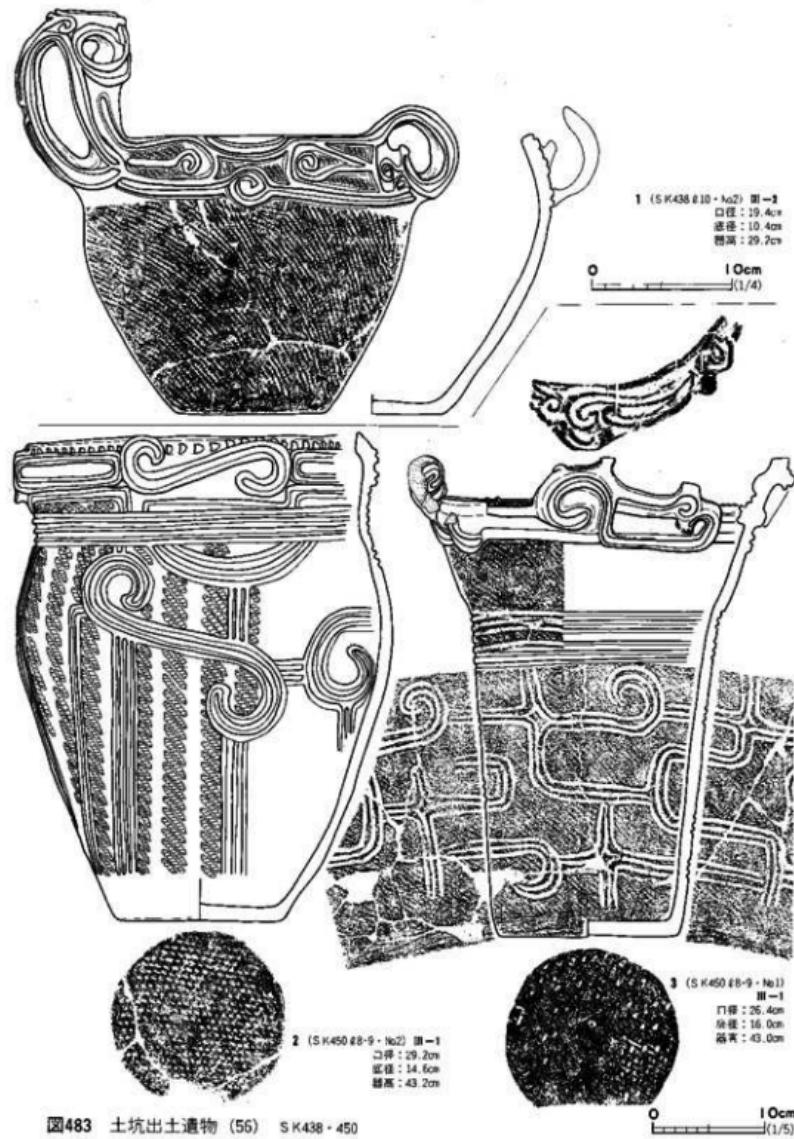


図483 土坑出土遺物 (56) SK438・450



図484 土坑出土遺物 (57) SK453・459・463・471・472

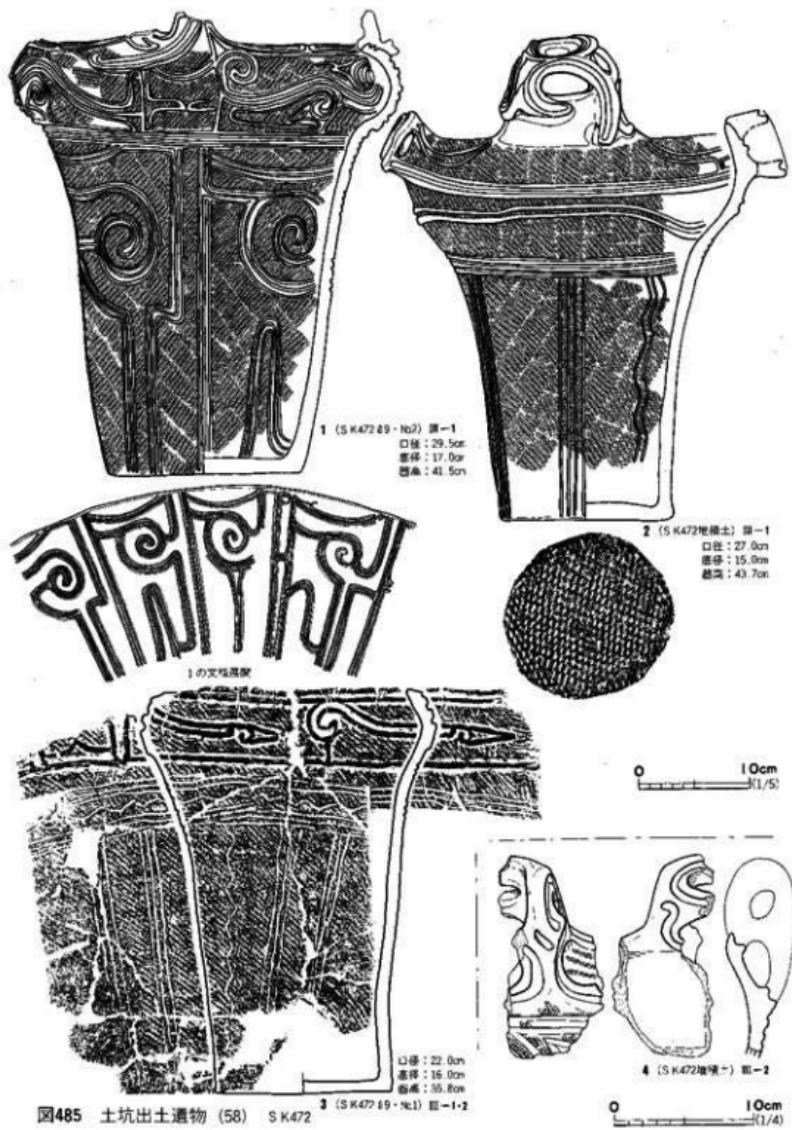


図485 土坑出土遺物 (58) SK472

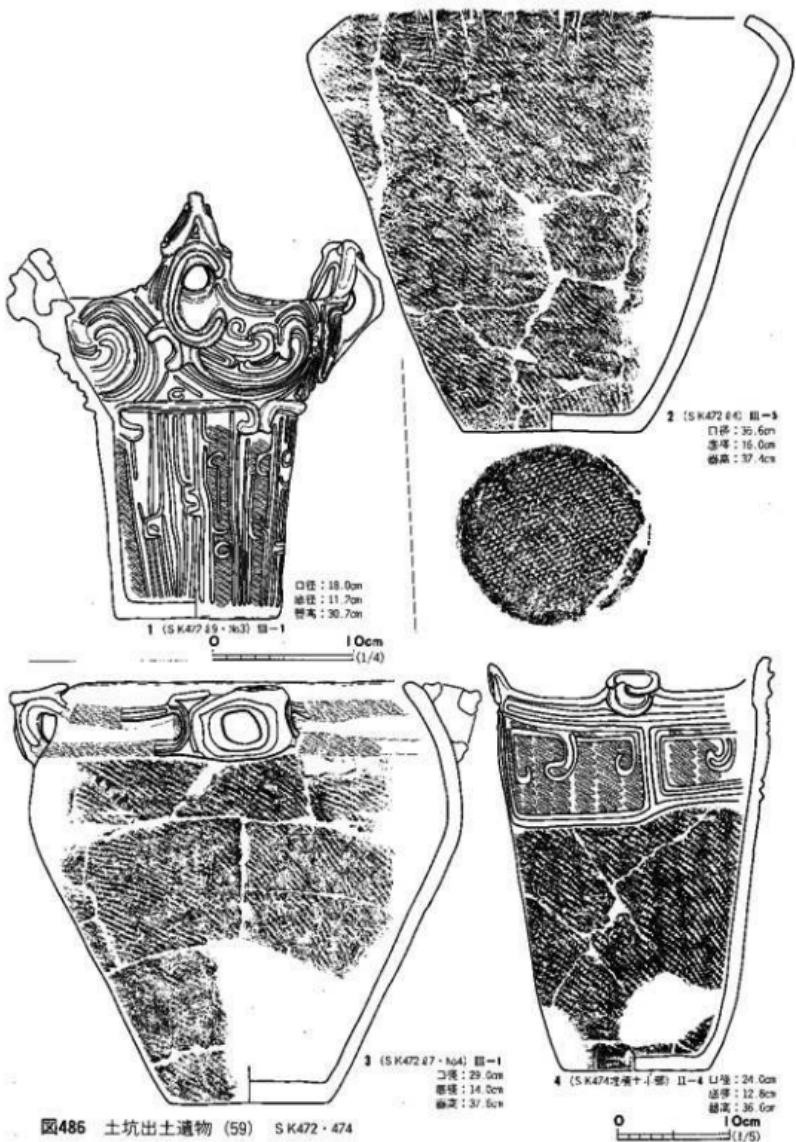


図486 土坑出土遺物 (59) SK472・474

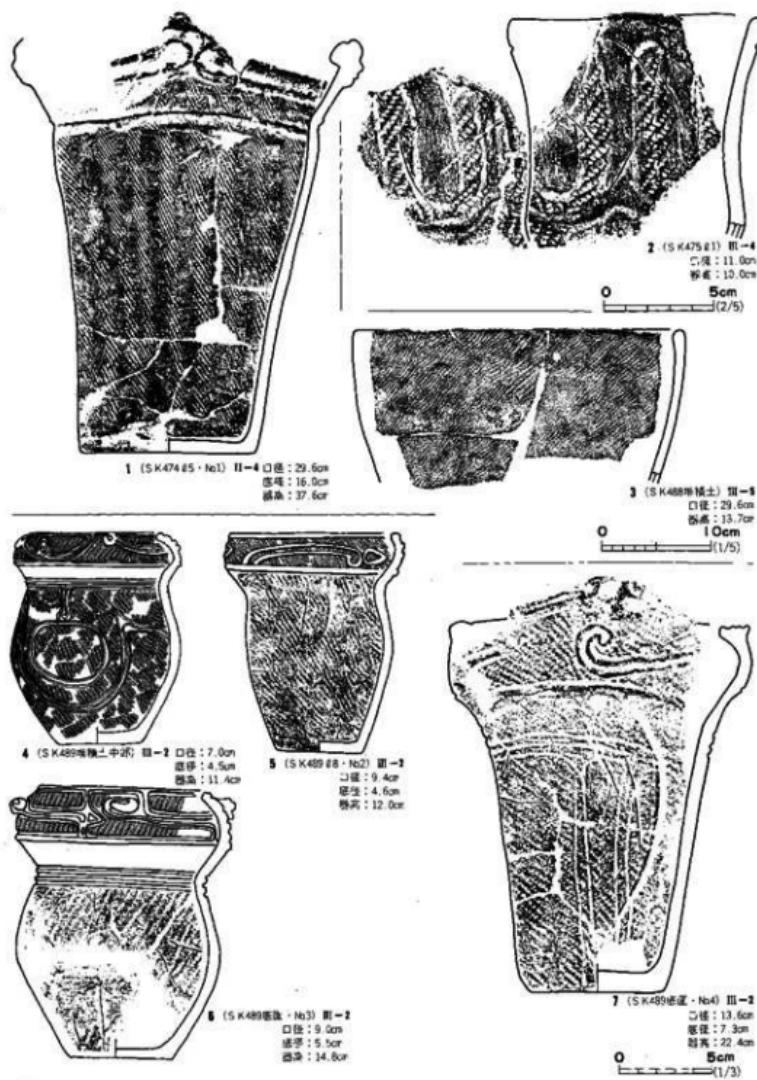


図487 土坑出土遺物 (60) SK474・475・488・489

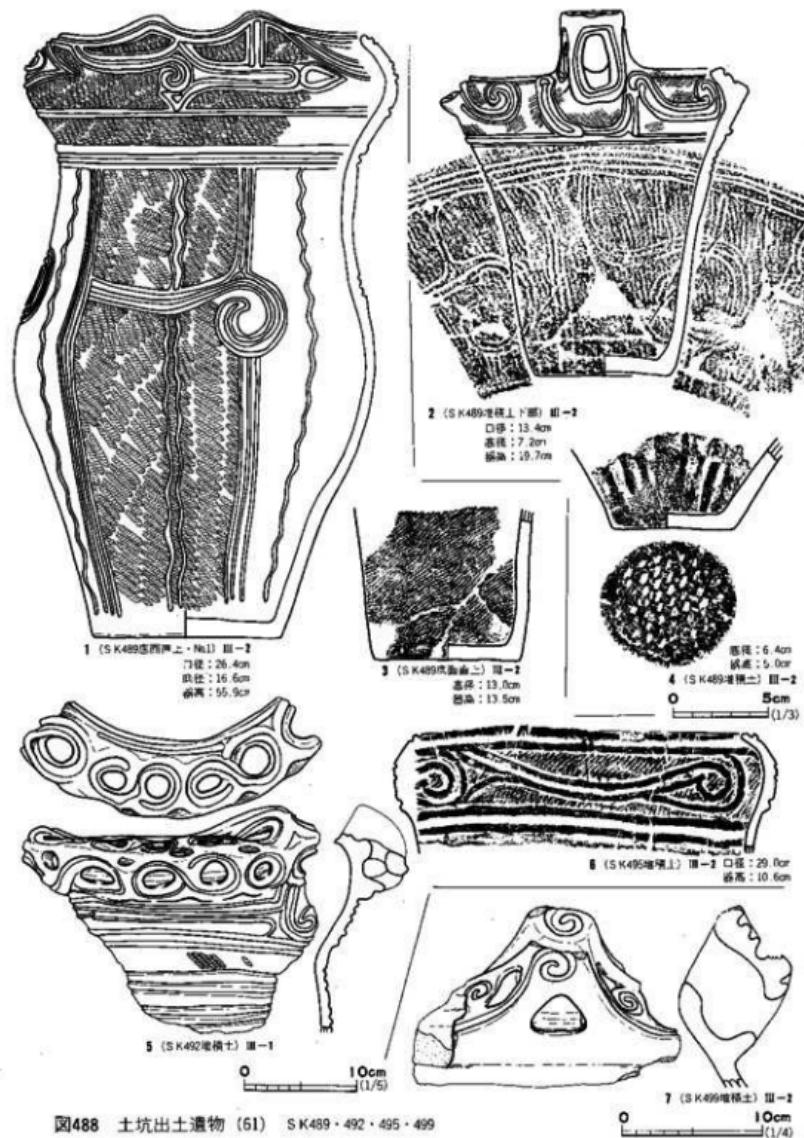


図488 土坑出土遺物 (51) SK489・492・495・499

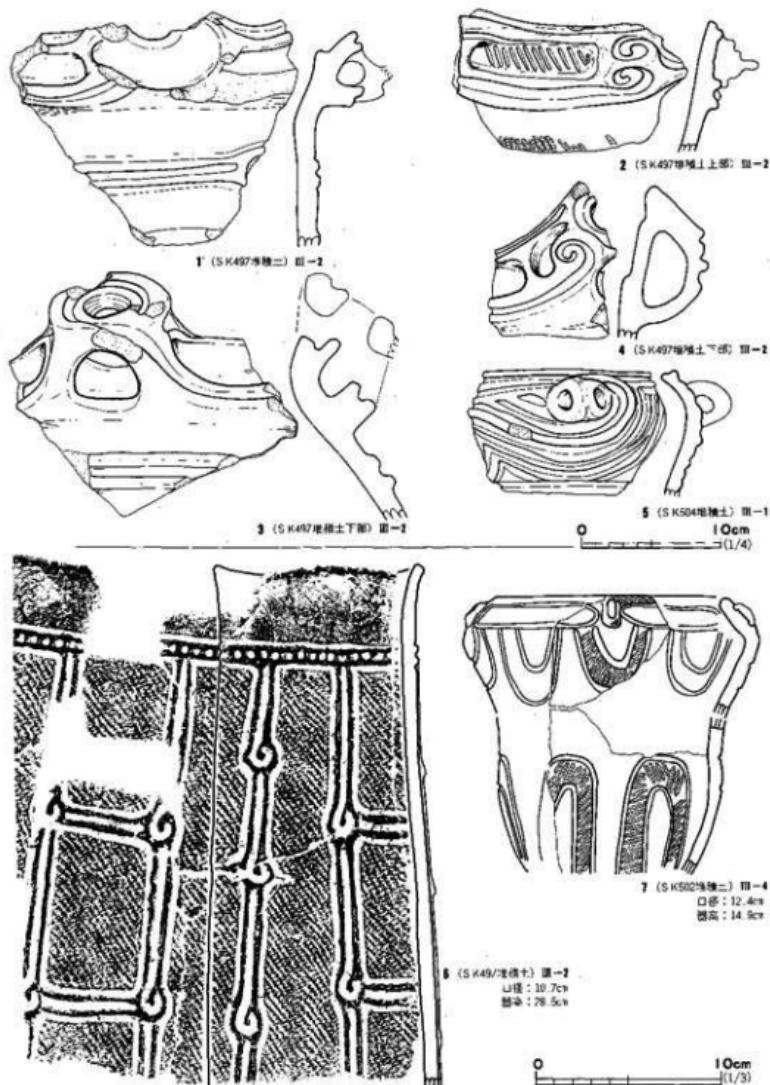


図489 土坑出土遺物 (62) SK497・502・504

第3節 土坑

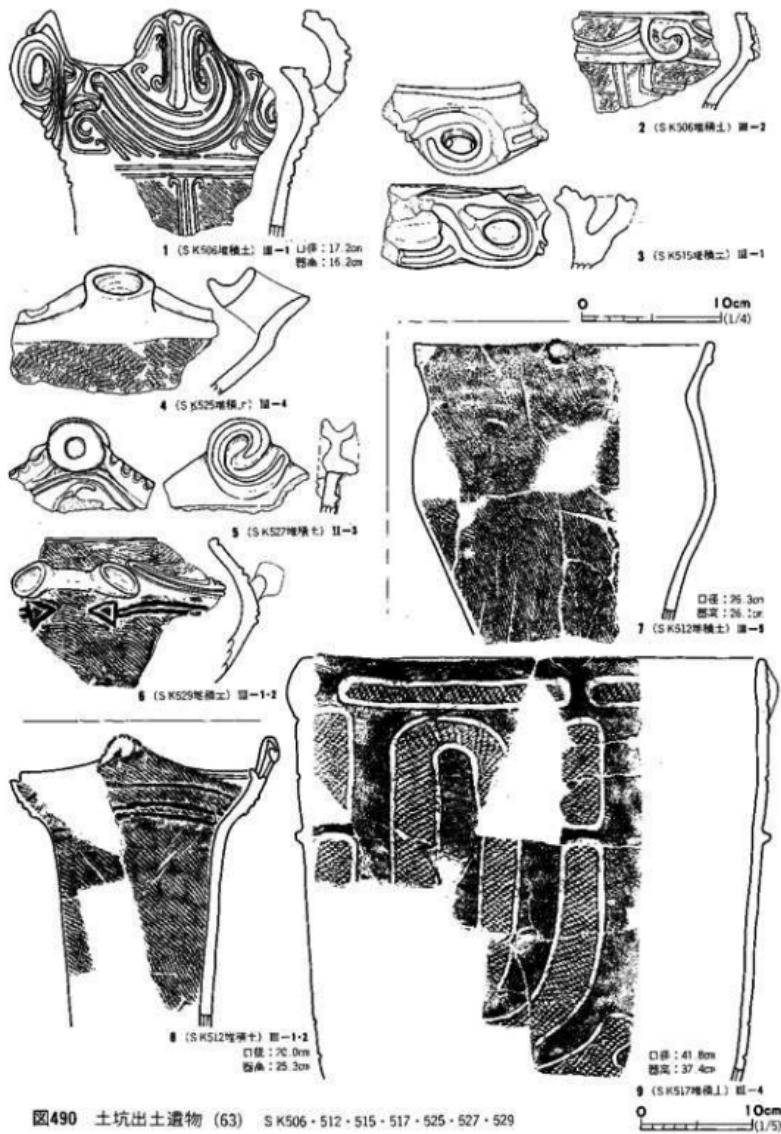


図490 土坑出土遺物 (63) S K506・512・515・517・525・527・529

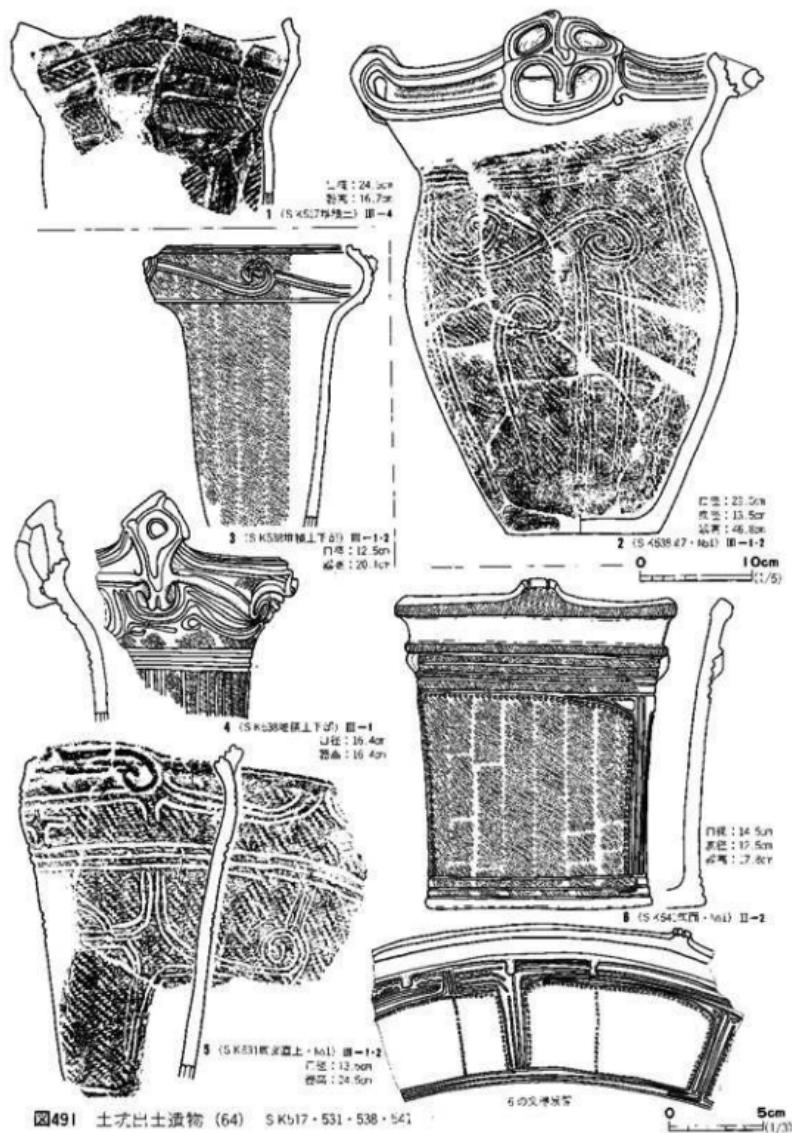


図491 土器出土遺物 (64) S K517・531・538・541

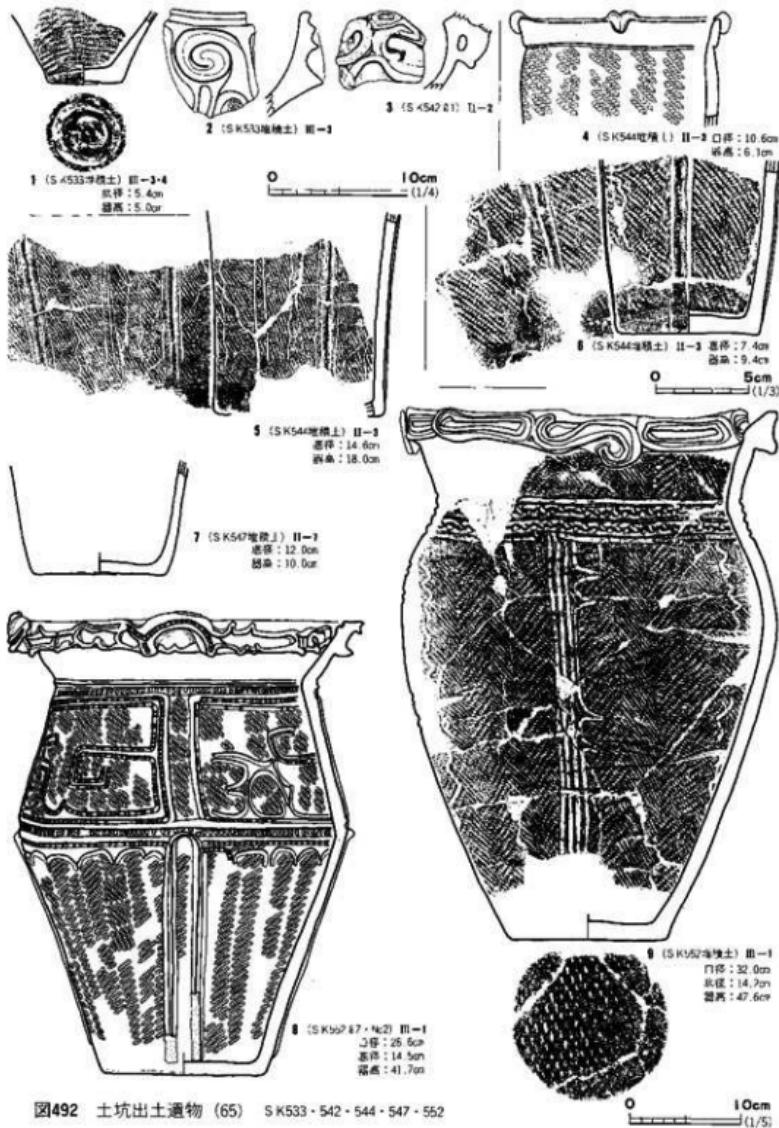


図492 土坑出土遺物 (65) SK533・542・544・547・552

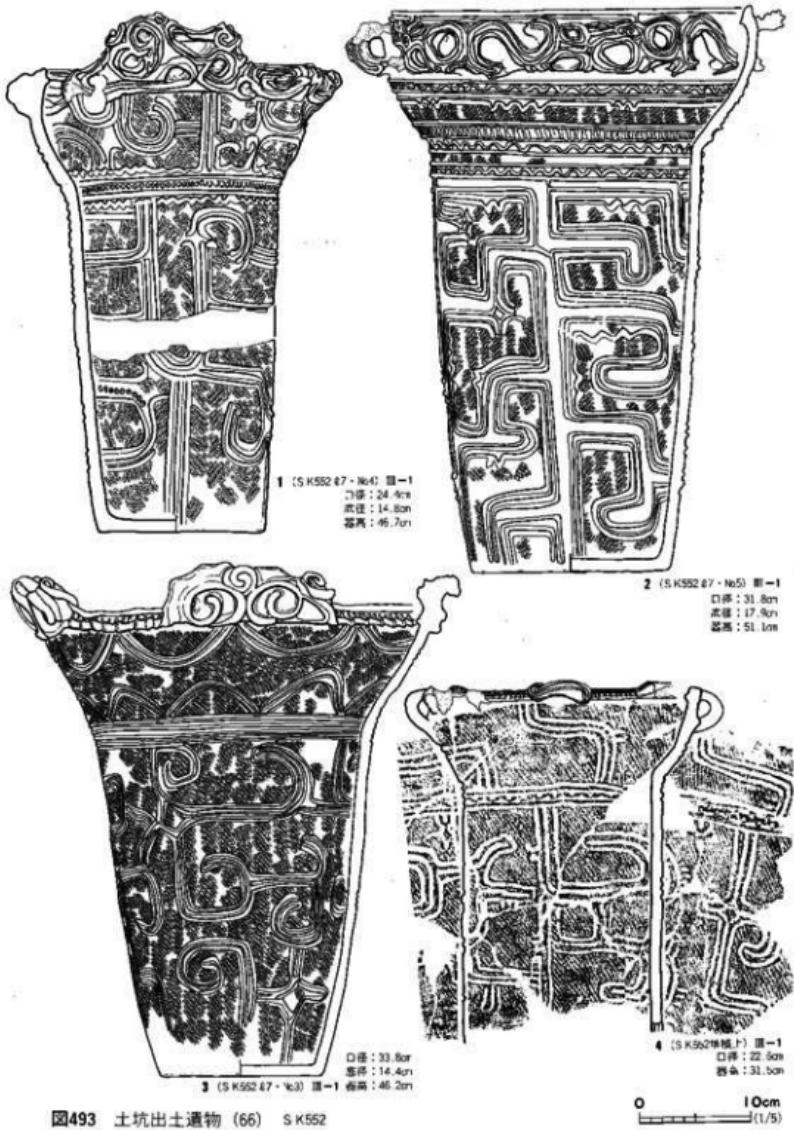


図493 土坑出土遺物 (66) S.K552

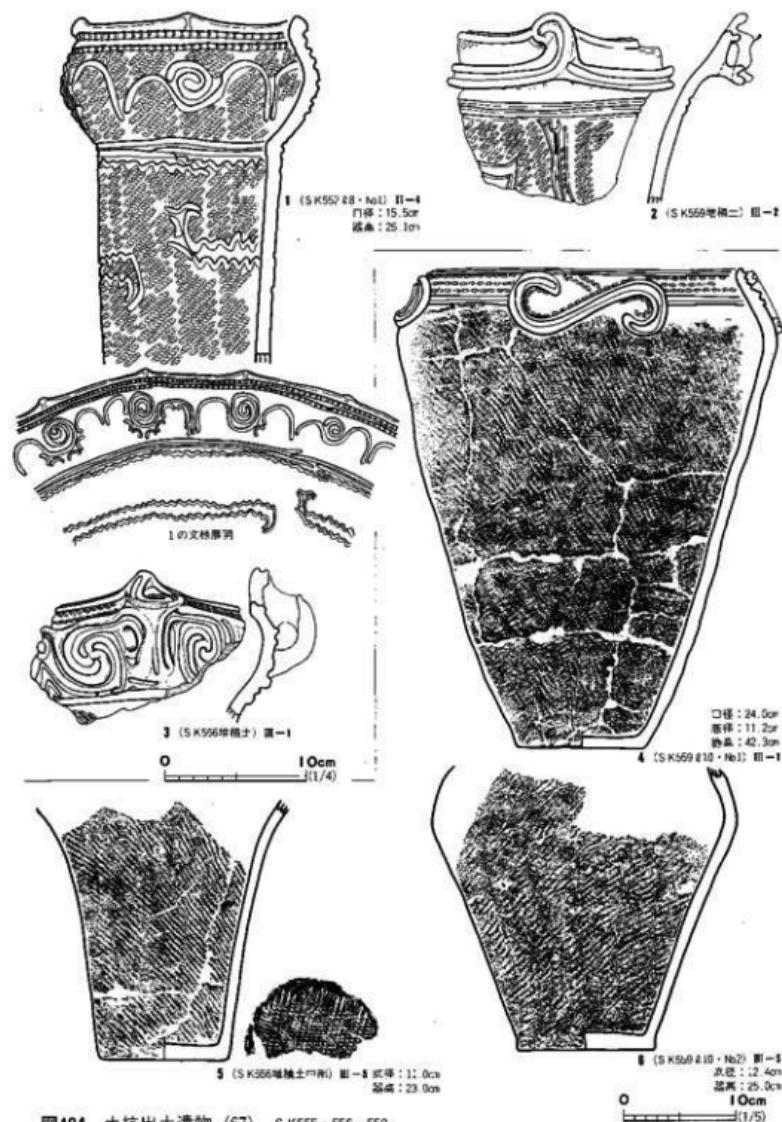


図494 土坑出土遺物 (67) S K555・556・559

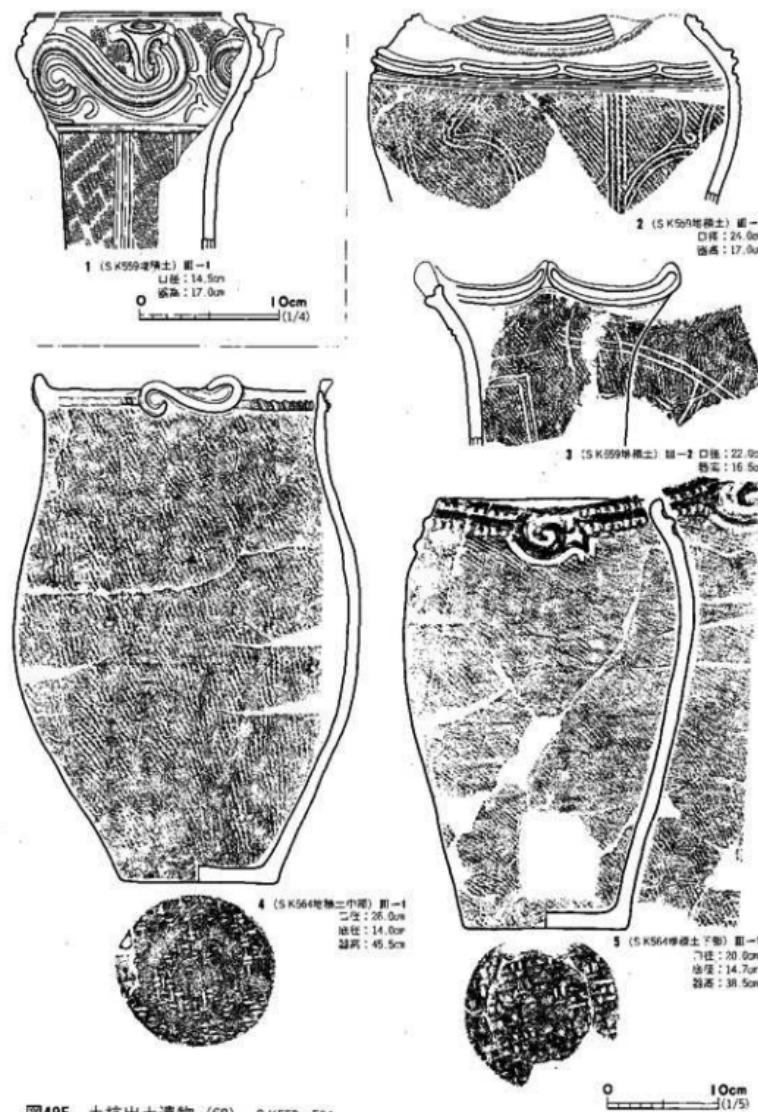


図495 土坑出土遺物 (68) SK559・564

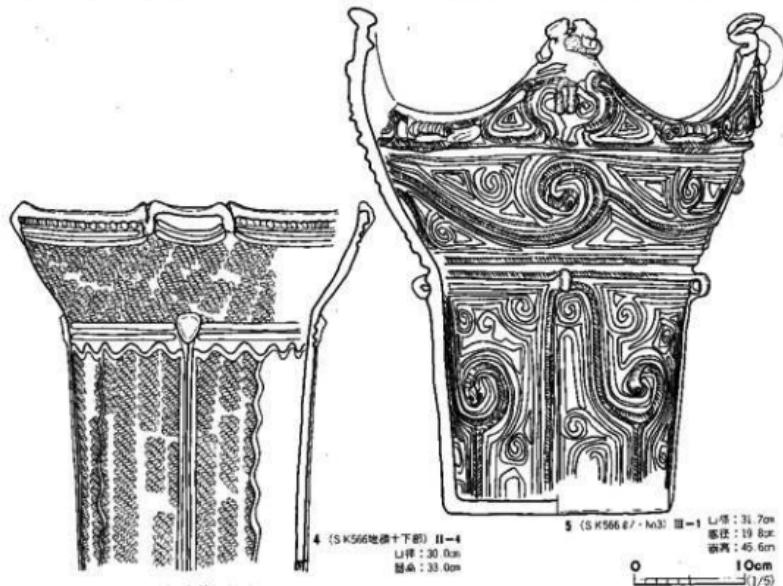
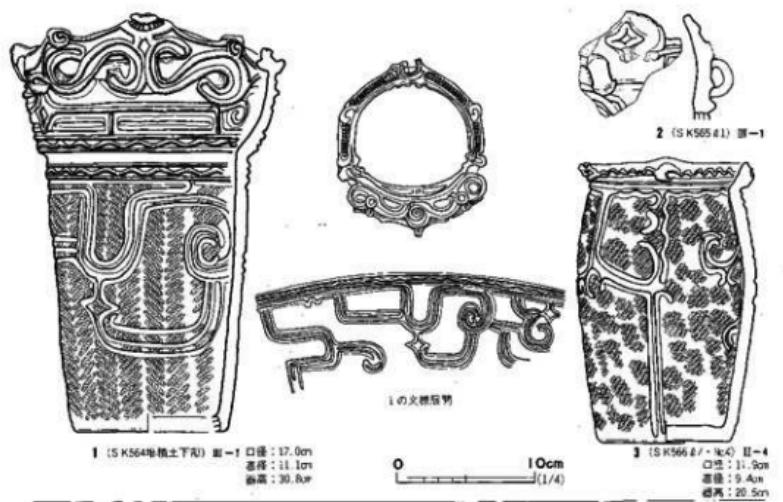
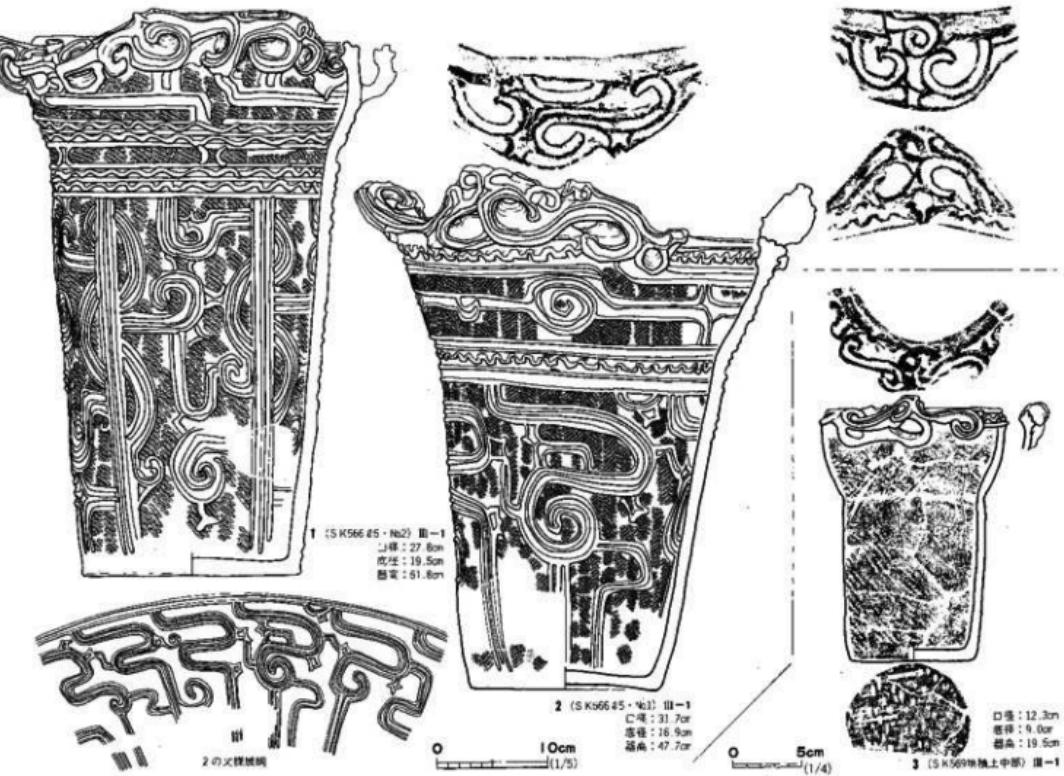


図496 土坑出土遺物 (69) SK564・565・566



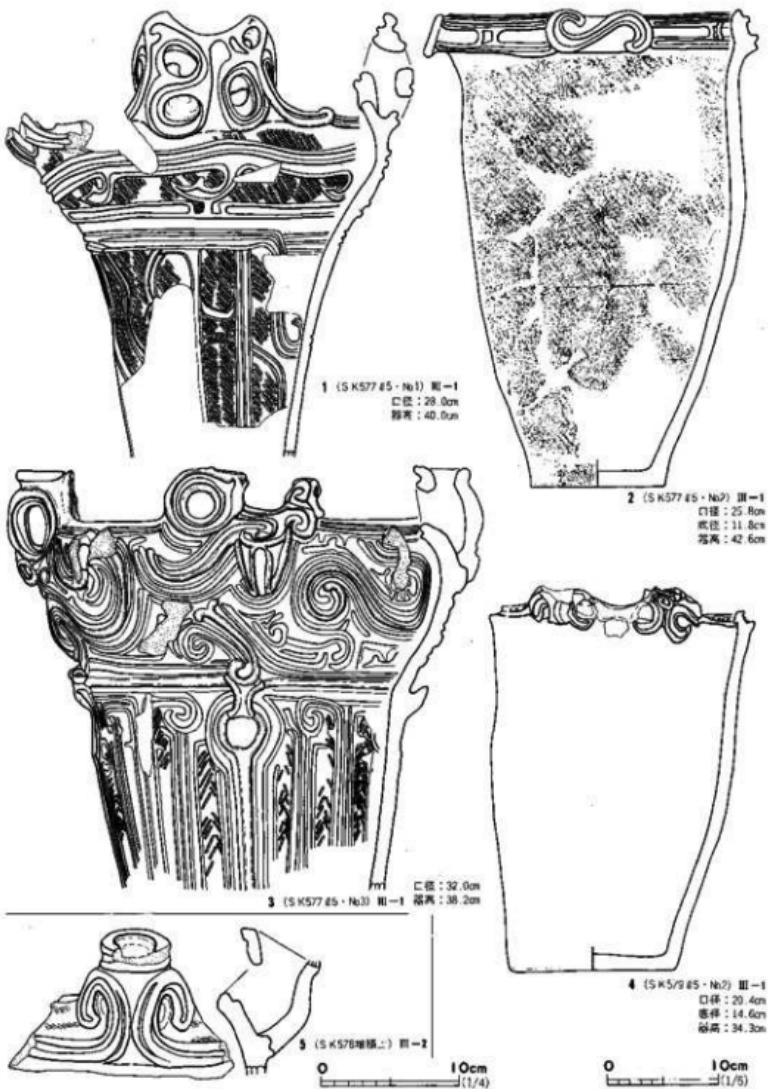


図498 土坑出土遺物 (71) S.K. 577・578・579



図499 土坑出土遺物 (72) SK579・580

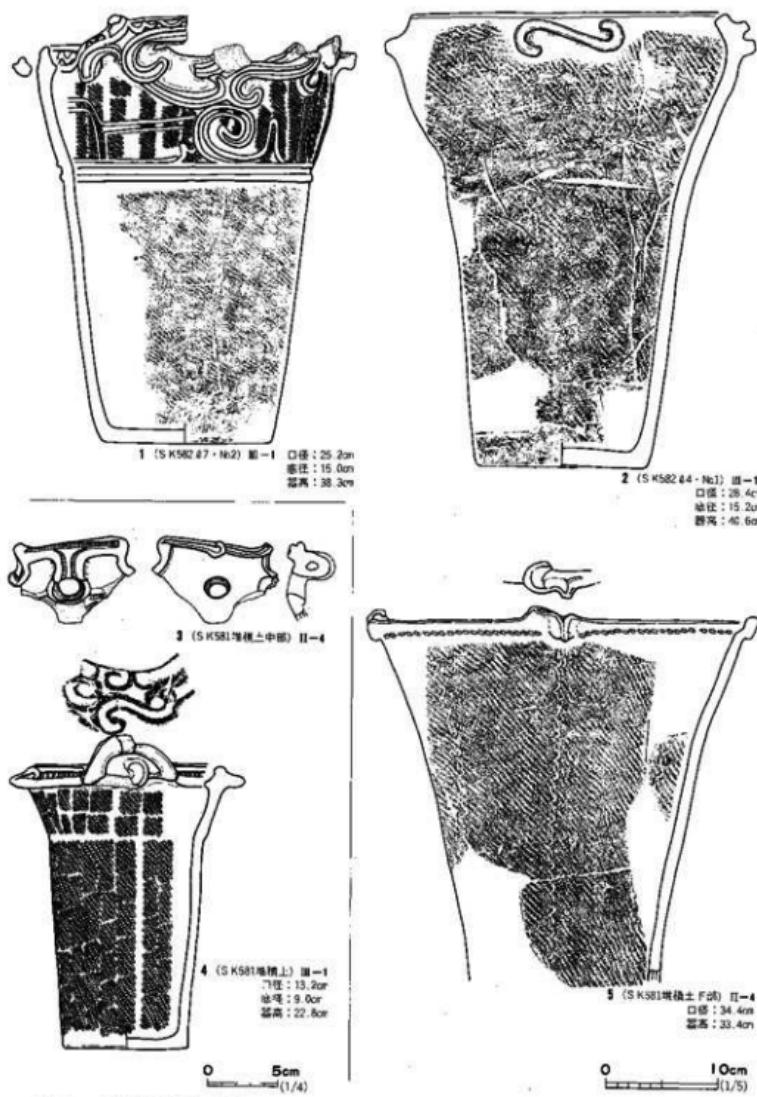


図500 土坑出土遺物 (73) S K581・582

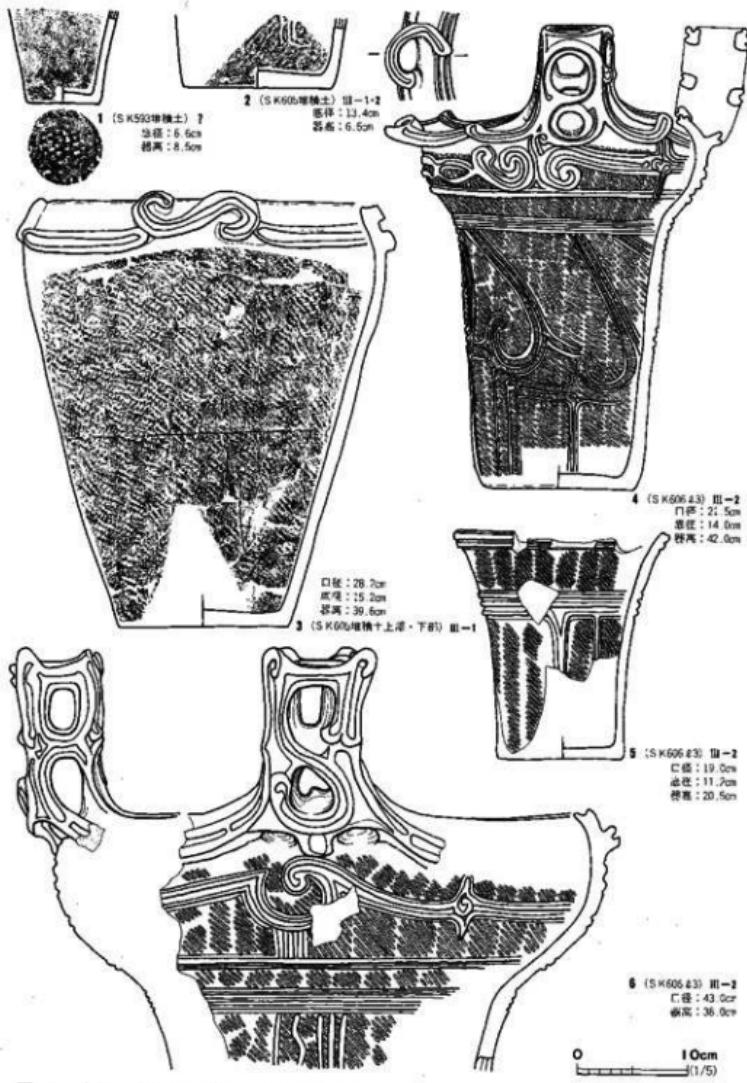


図501 土坑出土遺物 (74) S K593・605・606

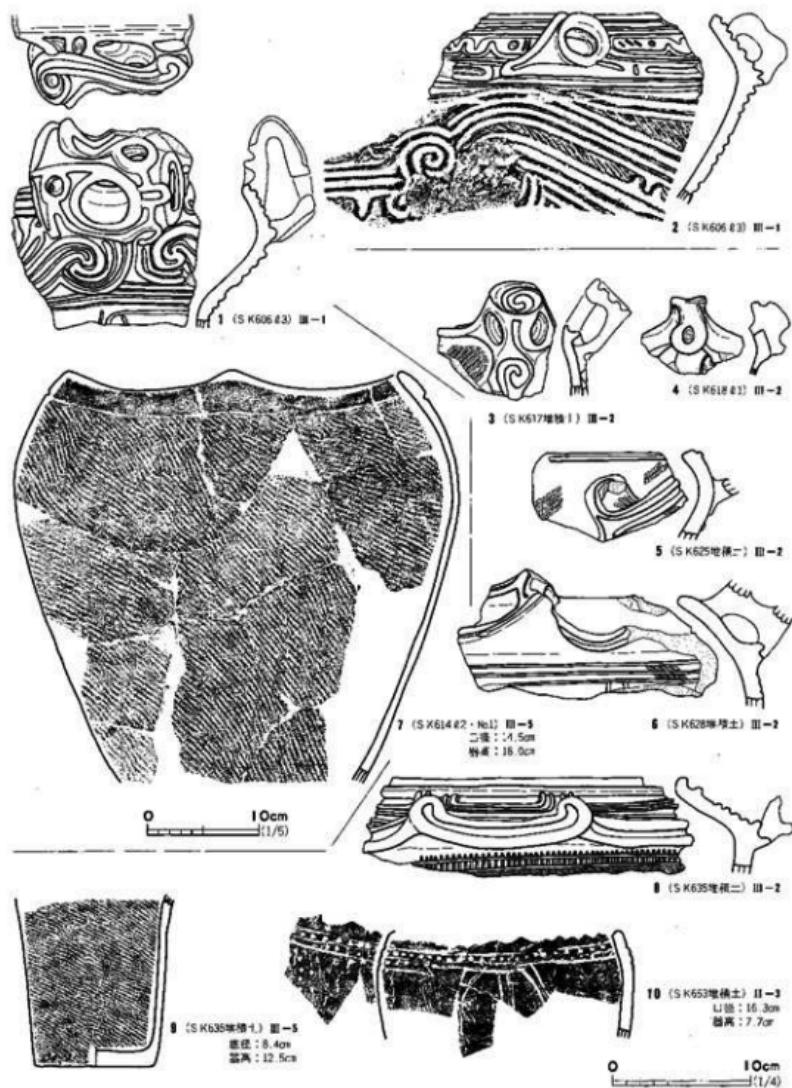


図502 土坑出土遺物 (75) S K606·614·617·618·625·628·635·653

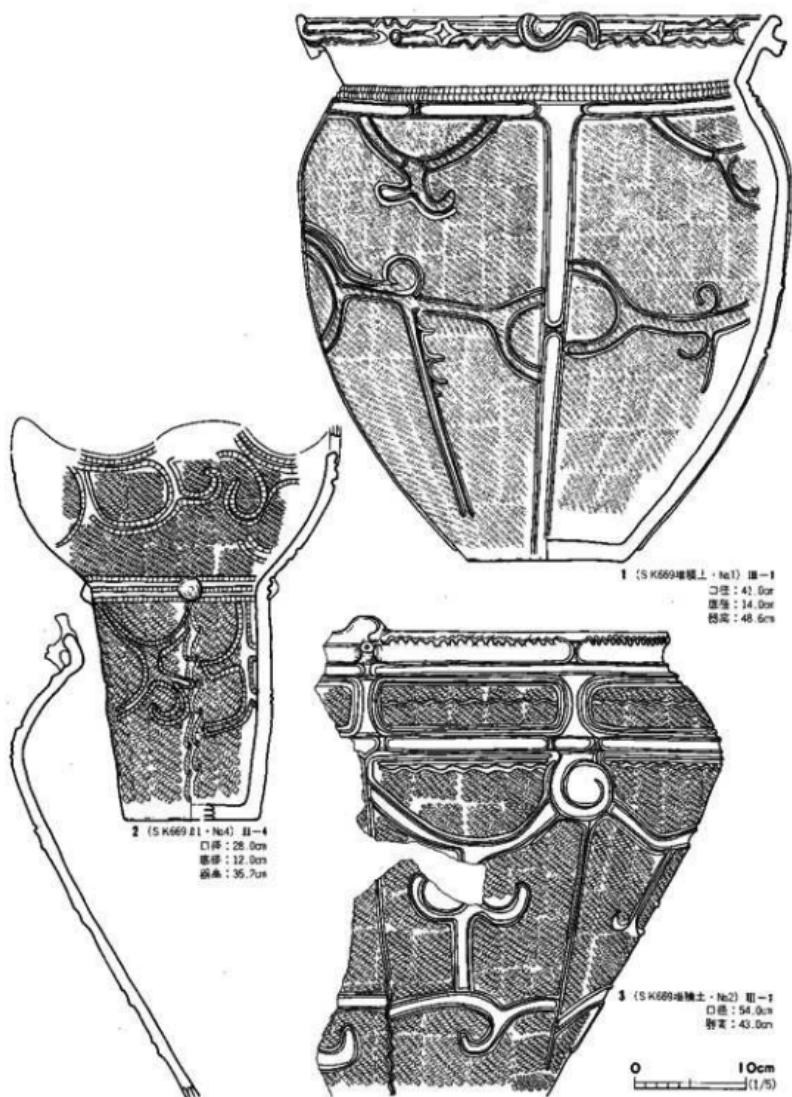


図503 土坑出土遺物 (76) SK669



図504 土坑出土遺物 (77) SK669・678・682・683・687

- 284 -

圖505 土坑出土遺物 (78) S K687

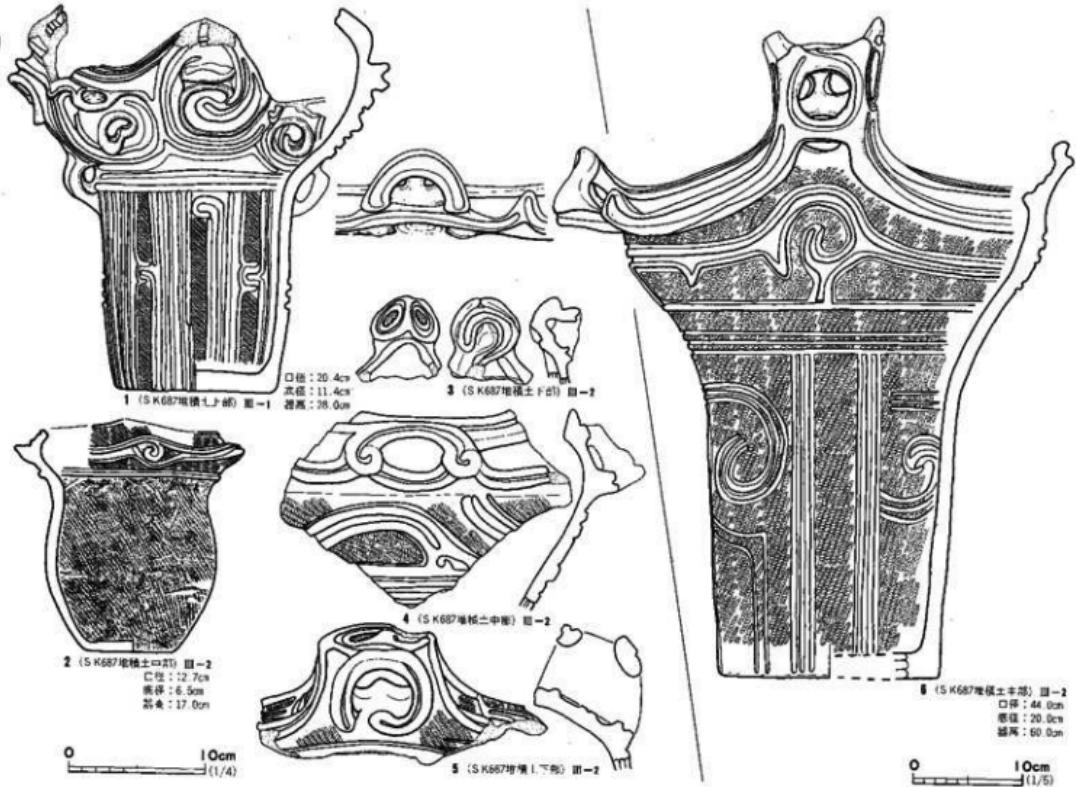




図506 土坑出土遺物 (79) SK693-706-713-717-723-728-731-739

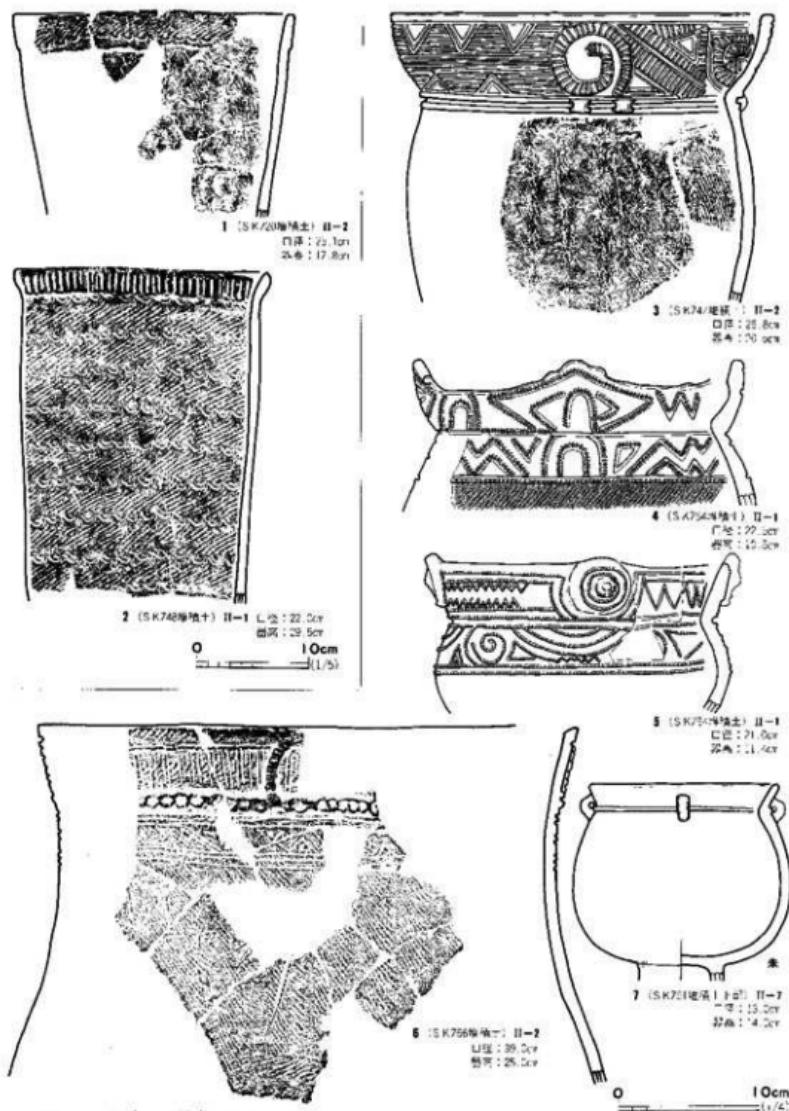
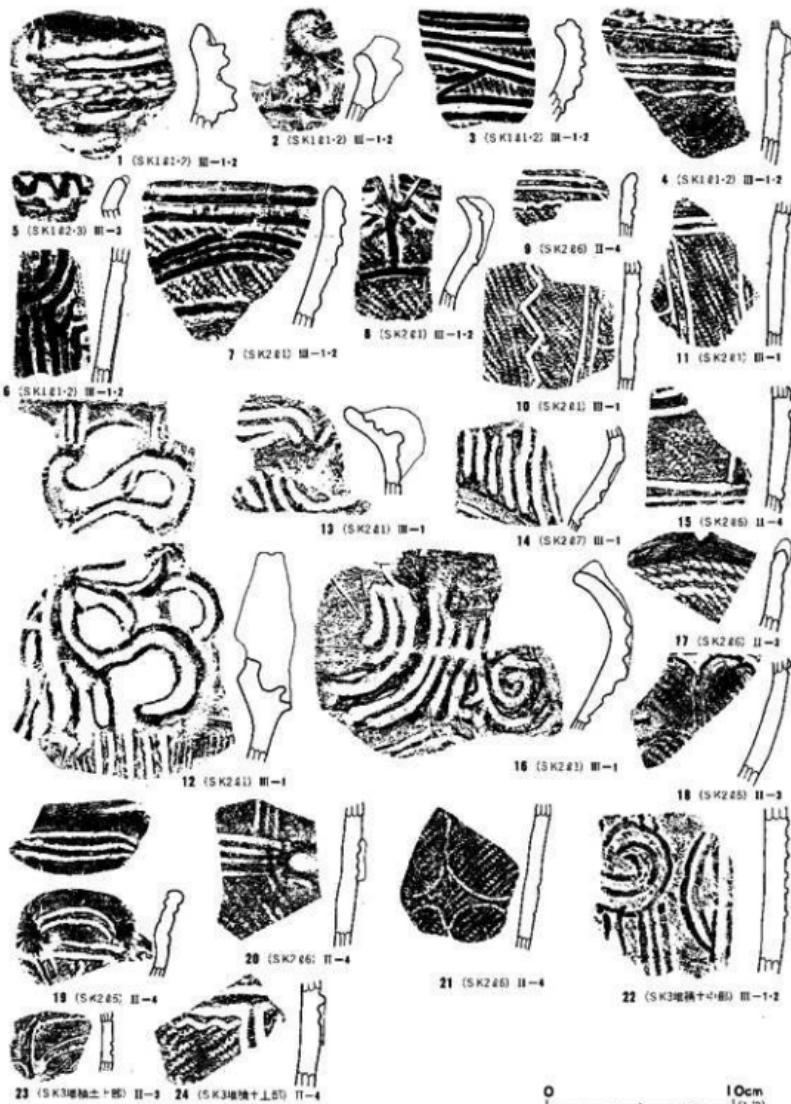


図507 土坑出土遺物 (80) SK720・747・748・756・761



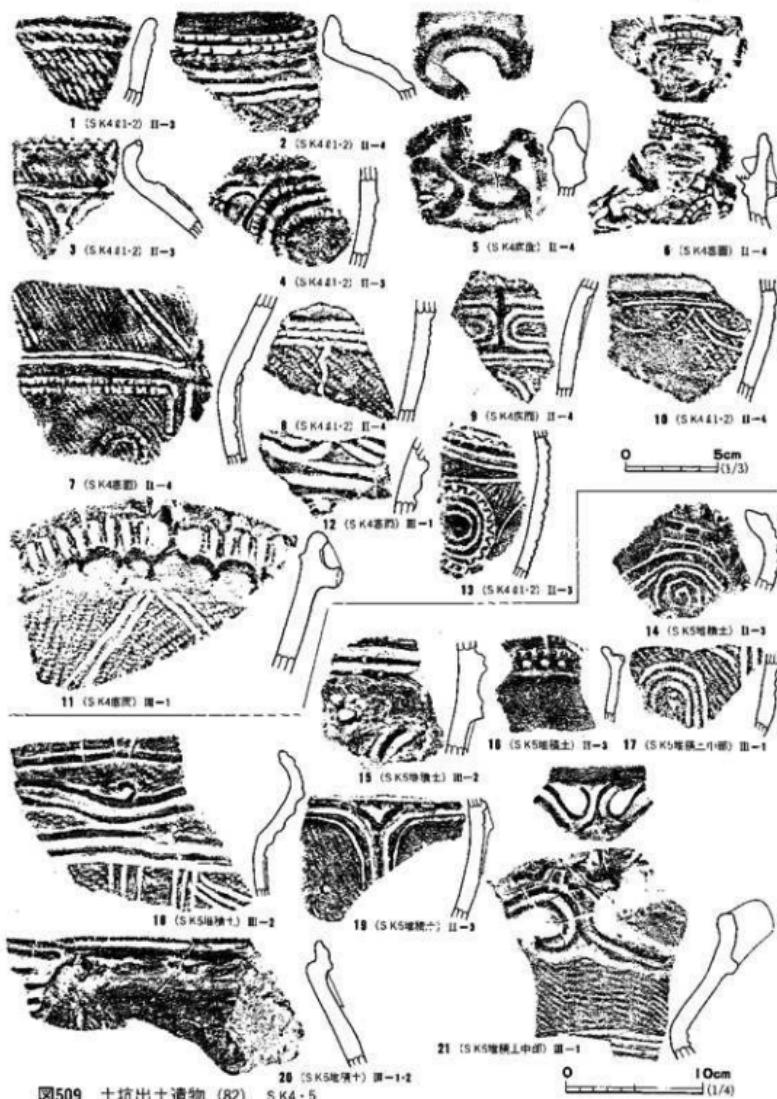


図509 土坑出土遺物 (82) SK4-5

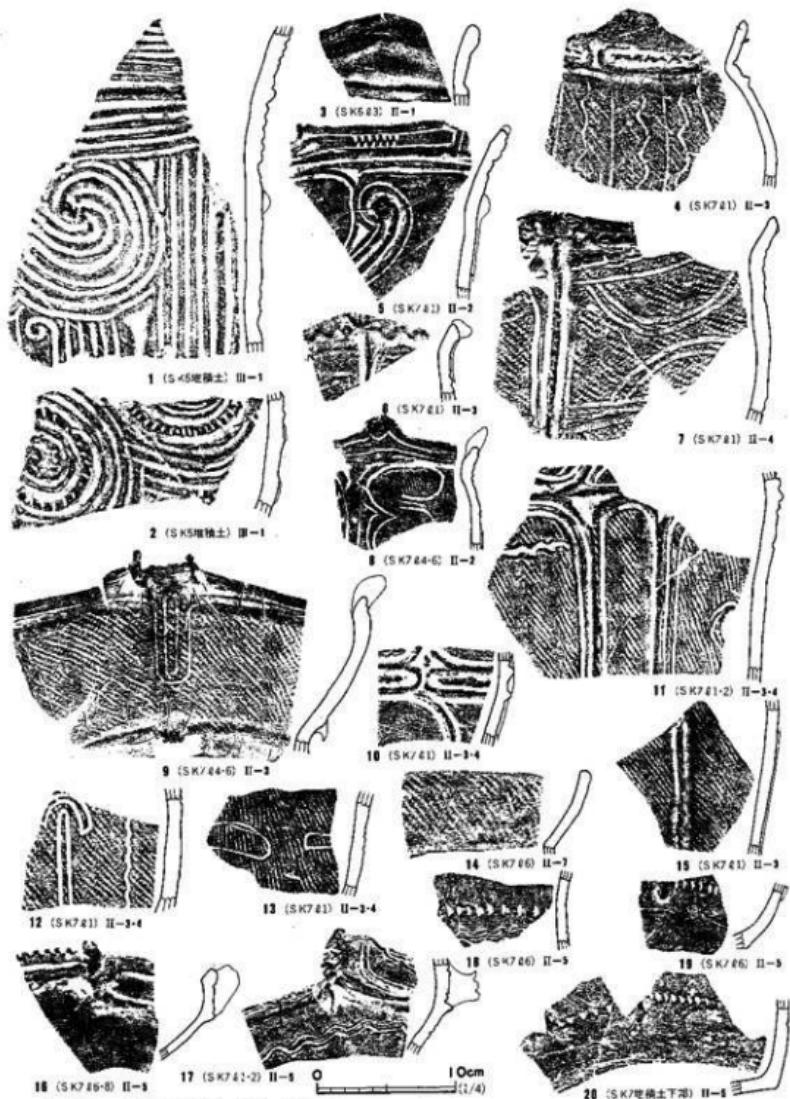


図510 土坑出土遺物 (83) SK5~7





図512 土坑出土遺物 (85) SK98~10~14

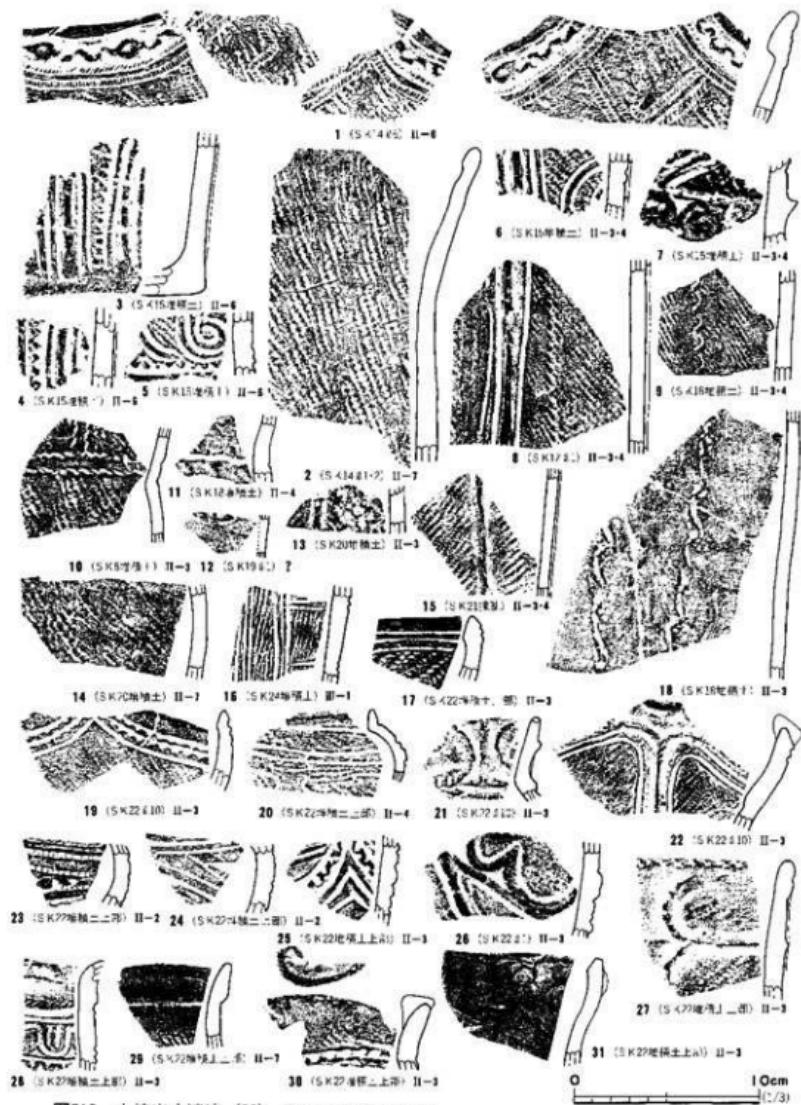


図513 土坑出土遺物 (86) SK14・15・17~22・24

第3節 土 坑

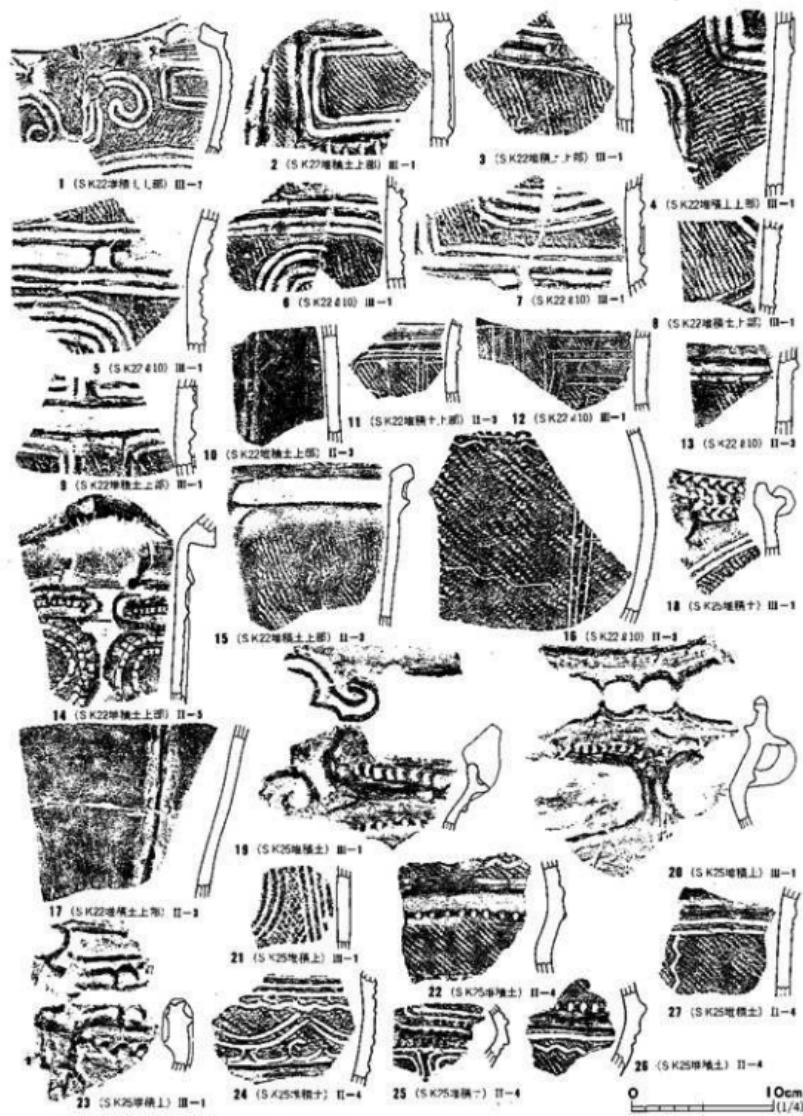


図514 土坑出土遺物 (87) S K22-25

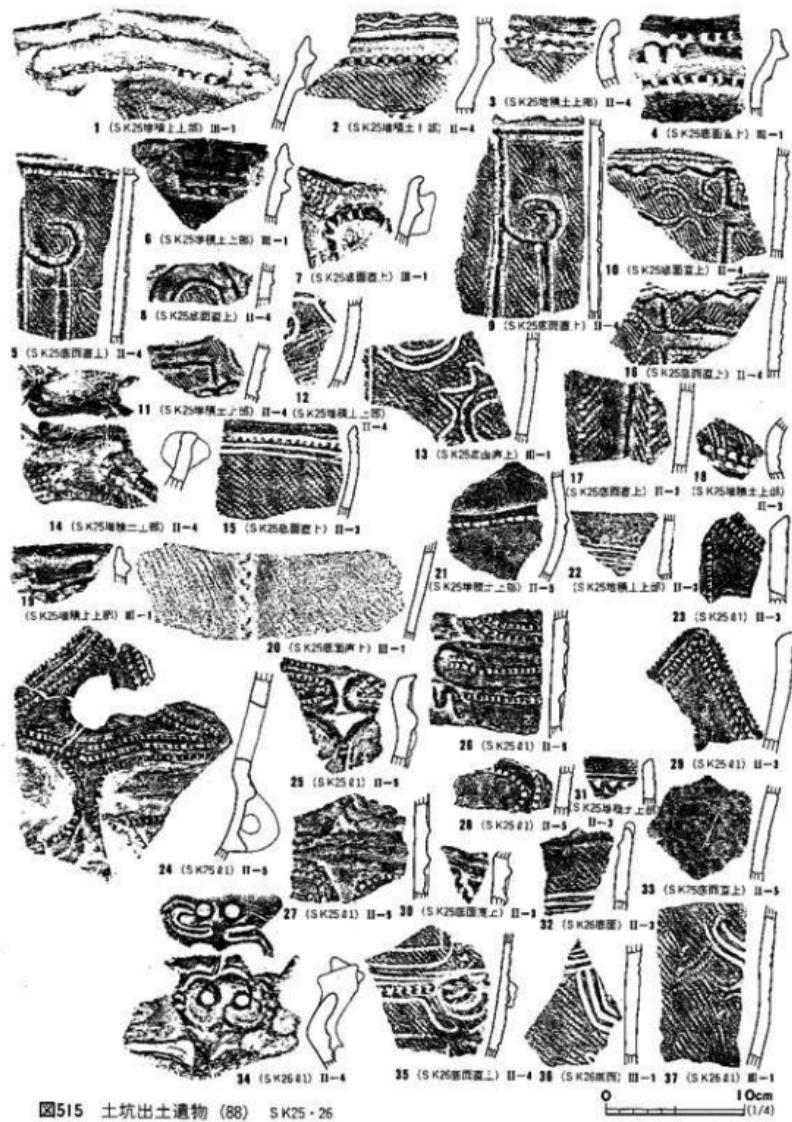


図515 土坑出土遺物 (88) SK25・26

第3節 土 坑

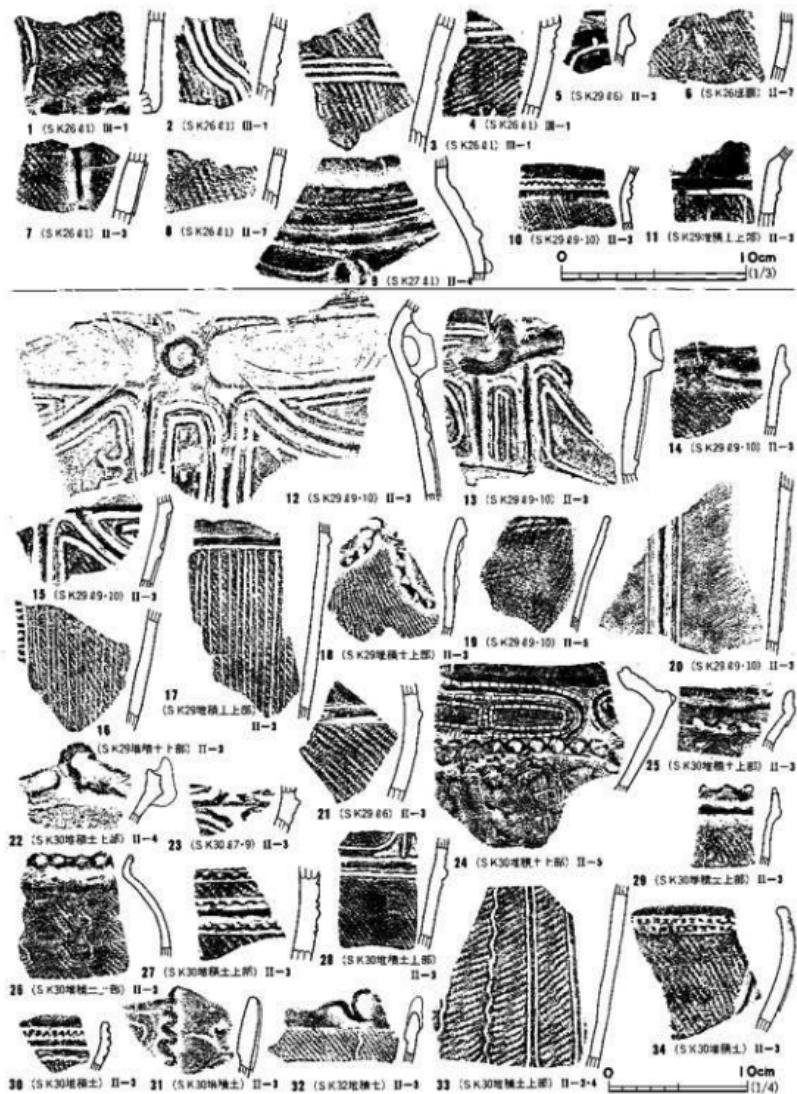
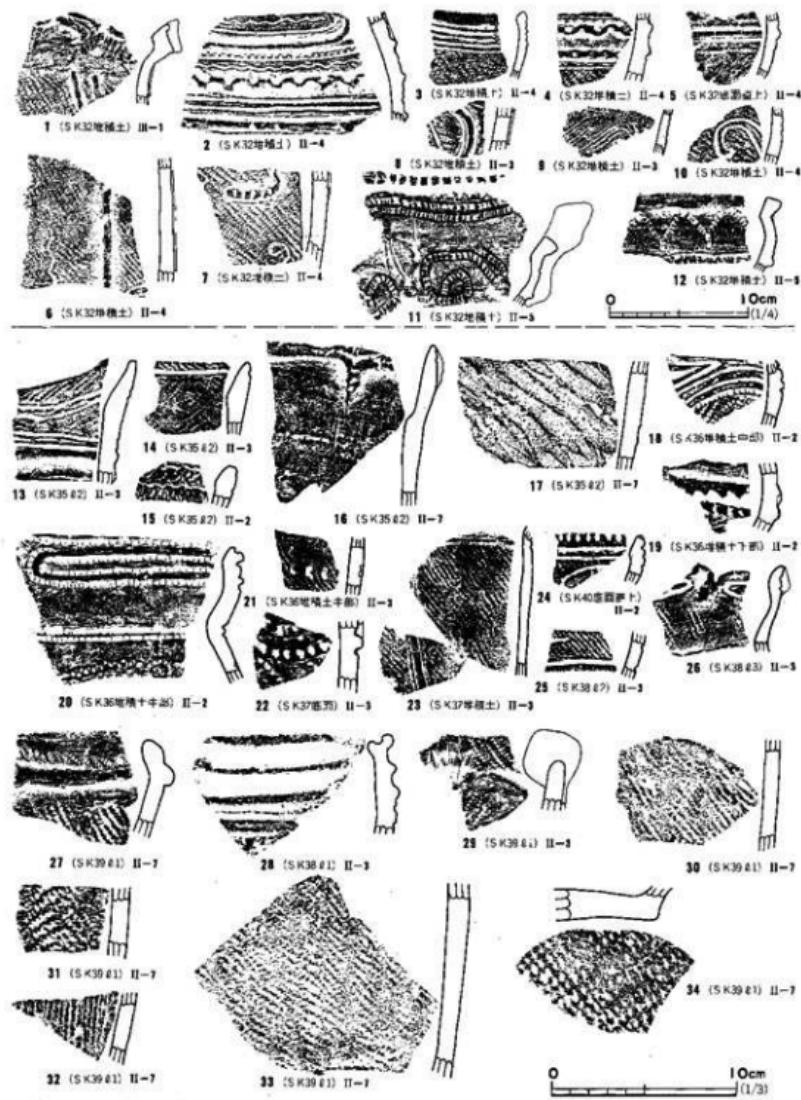


図516 土坑出土遺物 (89) S K26・27・29・30・32



図S17 土坑出土遺物 (90) SK32-35~40

第3節 土坑

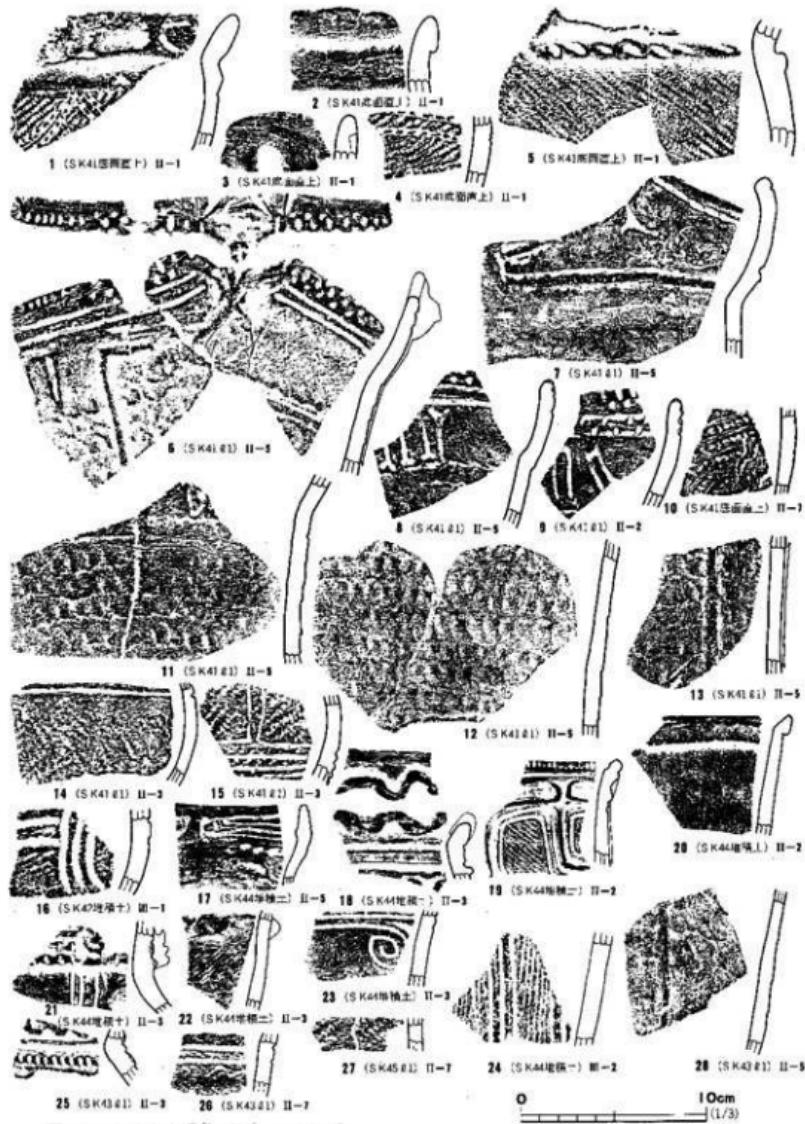


図518 土坑出土遺物 (91) SK41~45

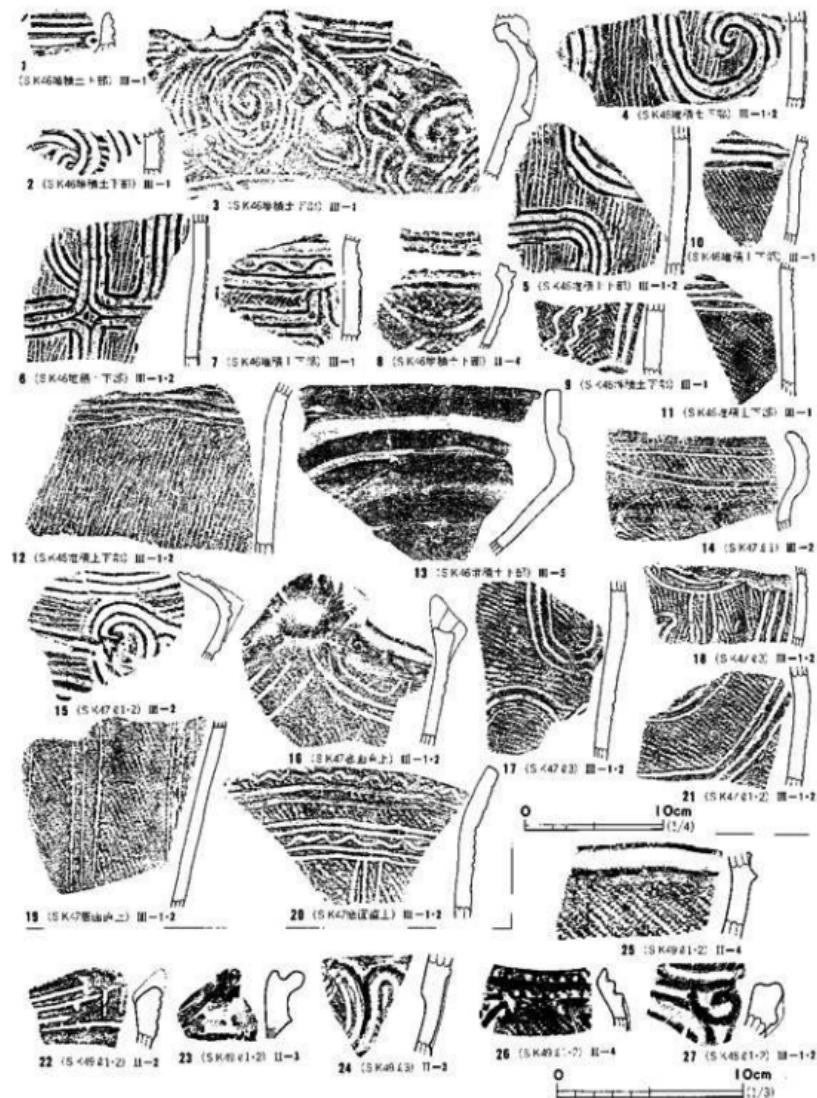


図519 土坑出土遺物 (92) SK46~49

第3節 土 坑

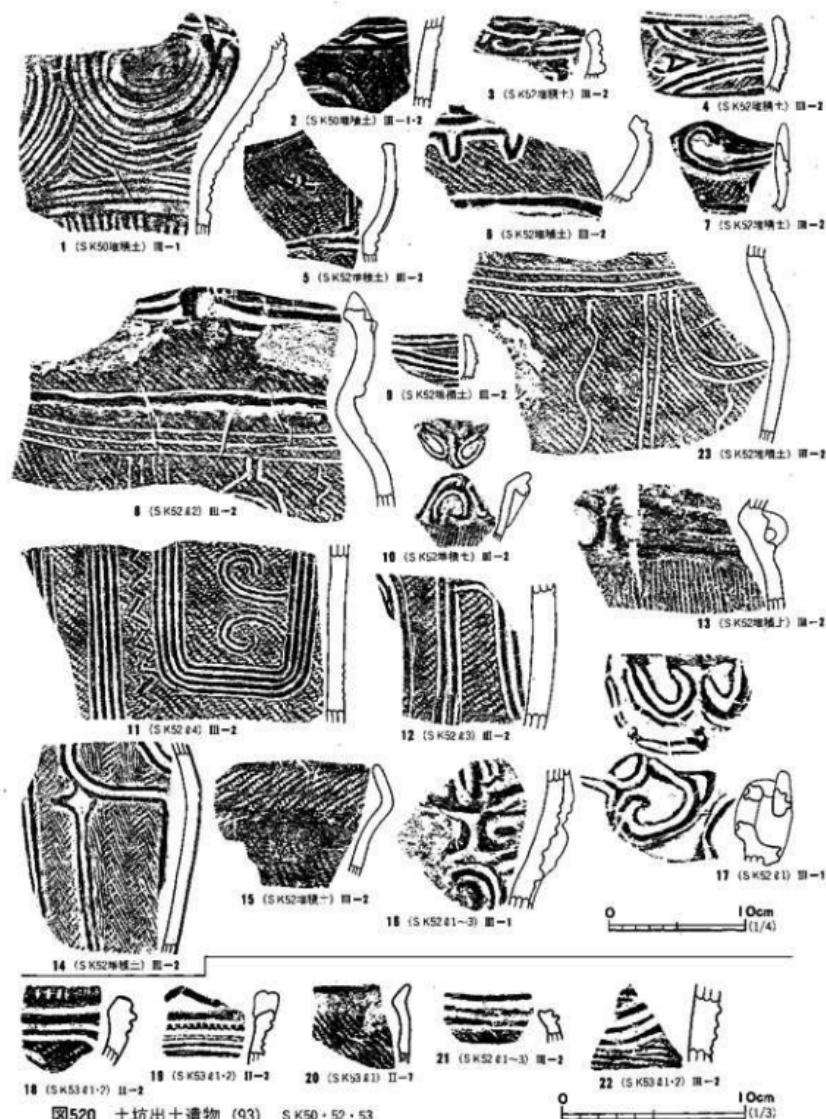


図520 土坑出土遺物 (93) S K50・52・53

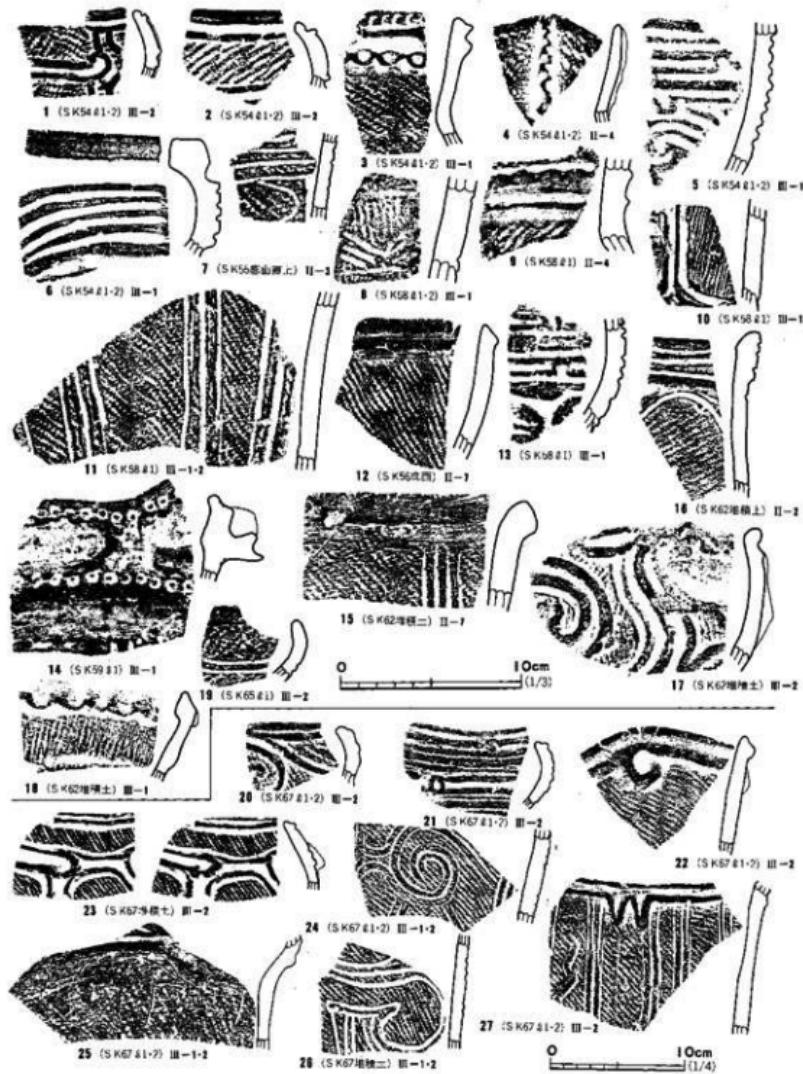


図521 土坑出土遺物 (94) SK54~56・58・59・62・65・67

第3節 上坑

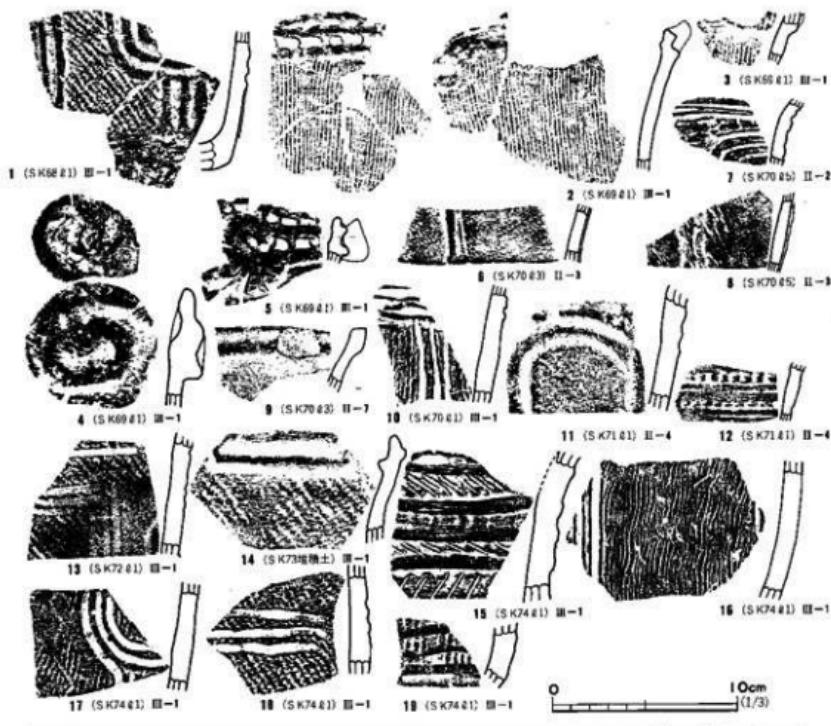


図522 土坑出土遺物 (95) SK68~74

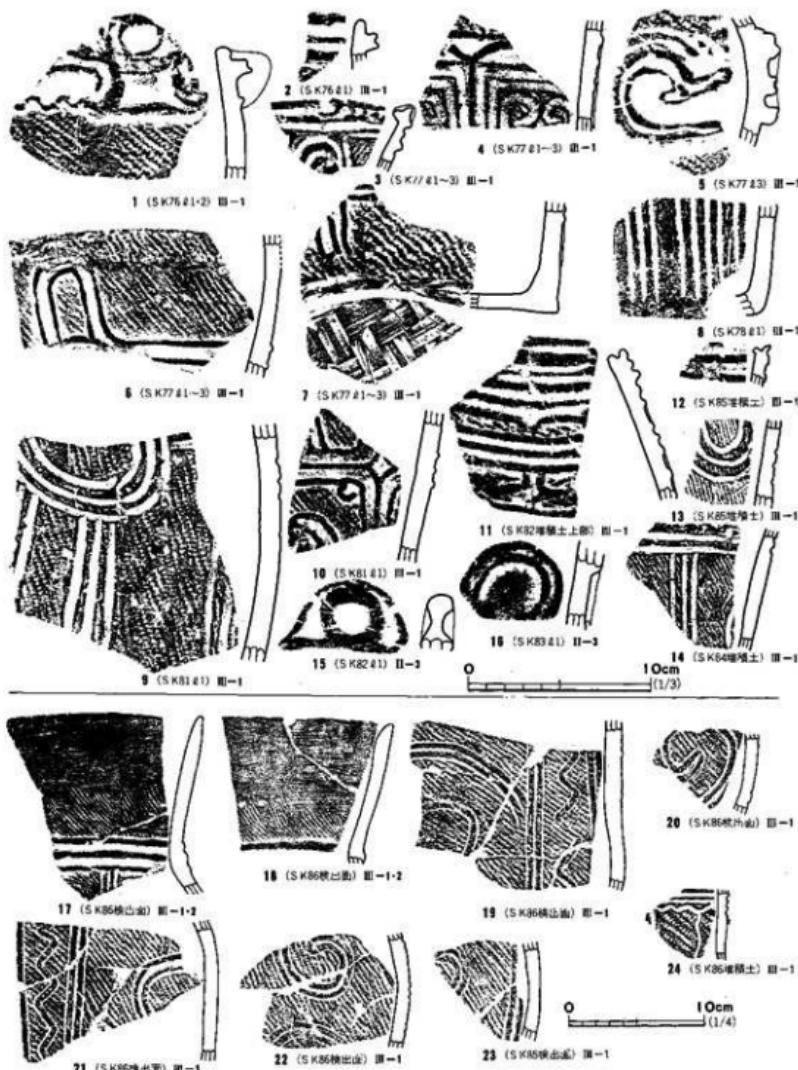
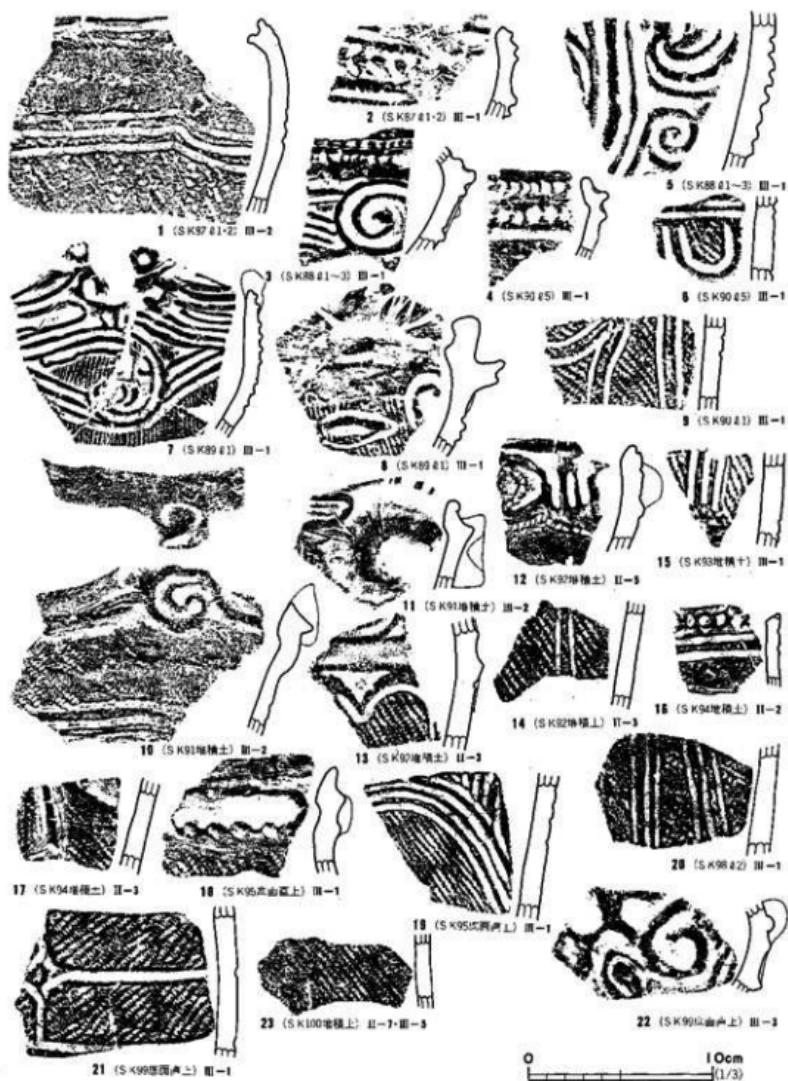


図523 土坑出土遺物 (96) SK76~78 · 81~86

第3節 土 坑



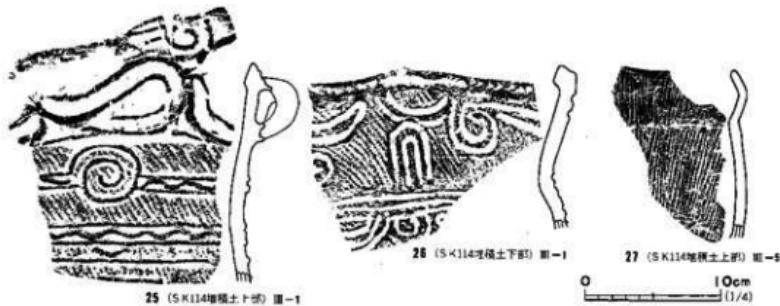
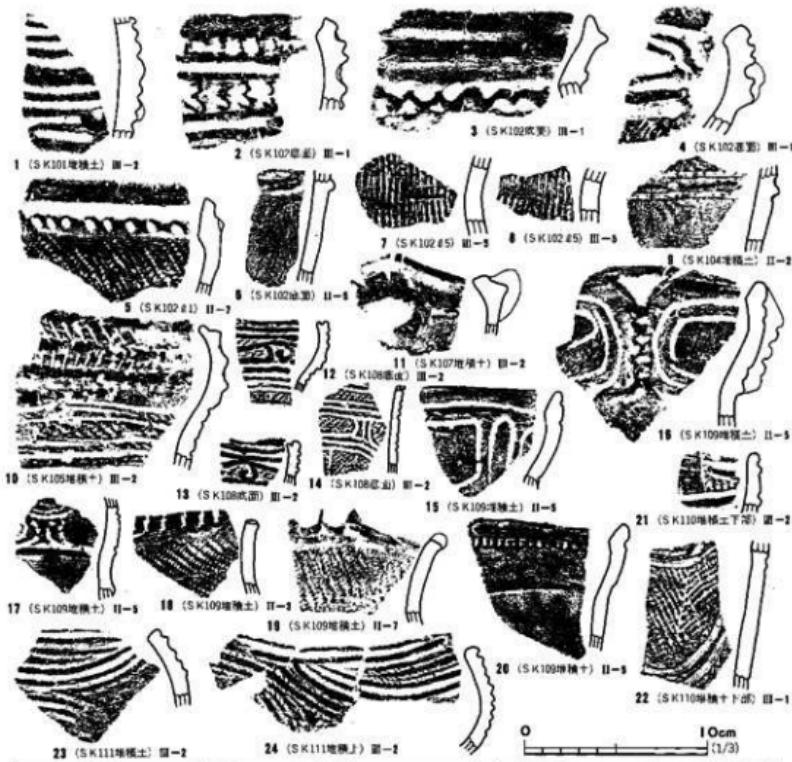


図525 土坑出土遺物 (98) S K101・102・104・105・107~111・114

第3節 土 坑



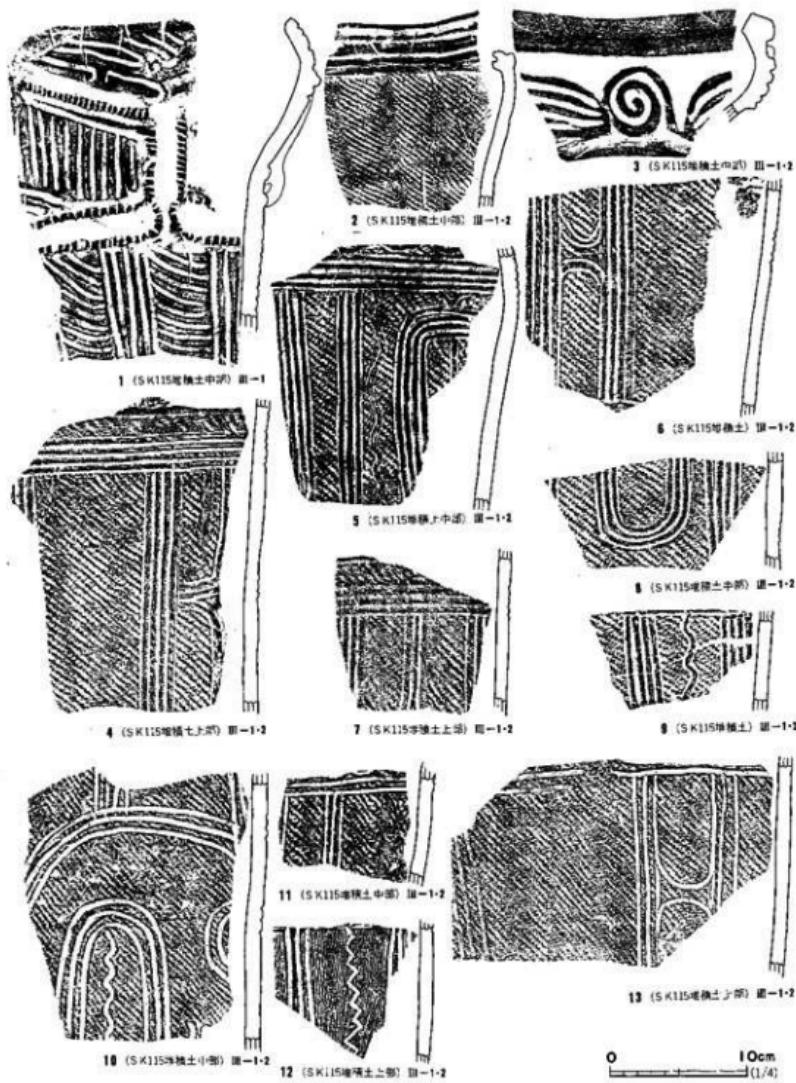


図527 土坑出土遺物 (100) SK115

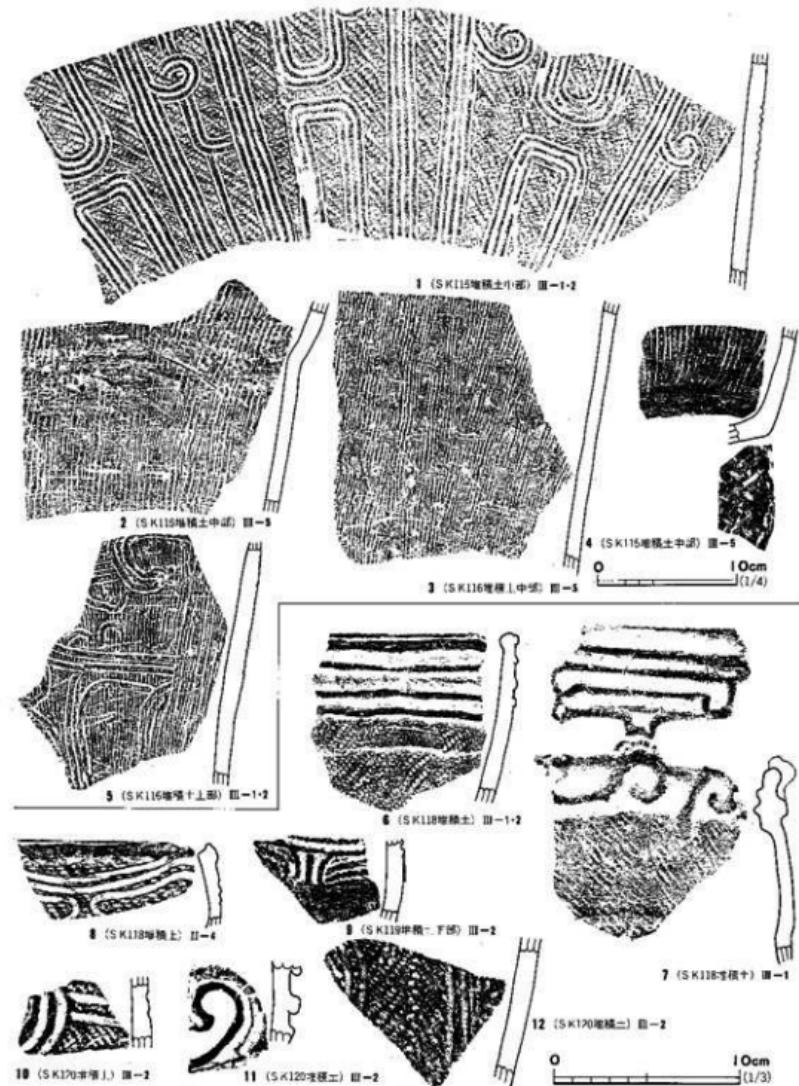


図528 土坑出土遺物 (101) SK115・116・118~120



図529 土坑出土遺物 (102) SK121・122・125～127

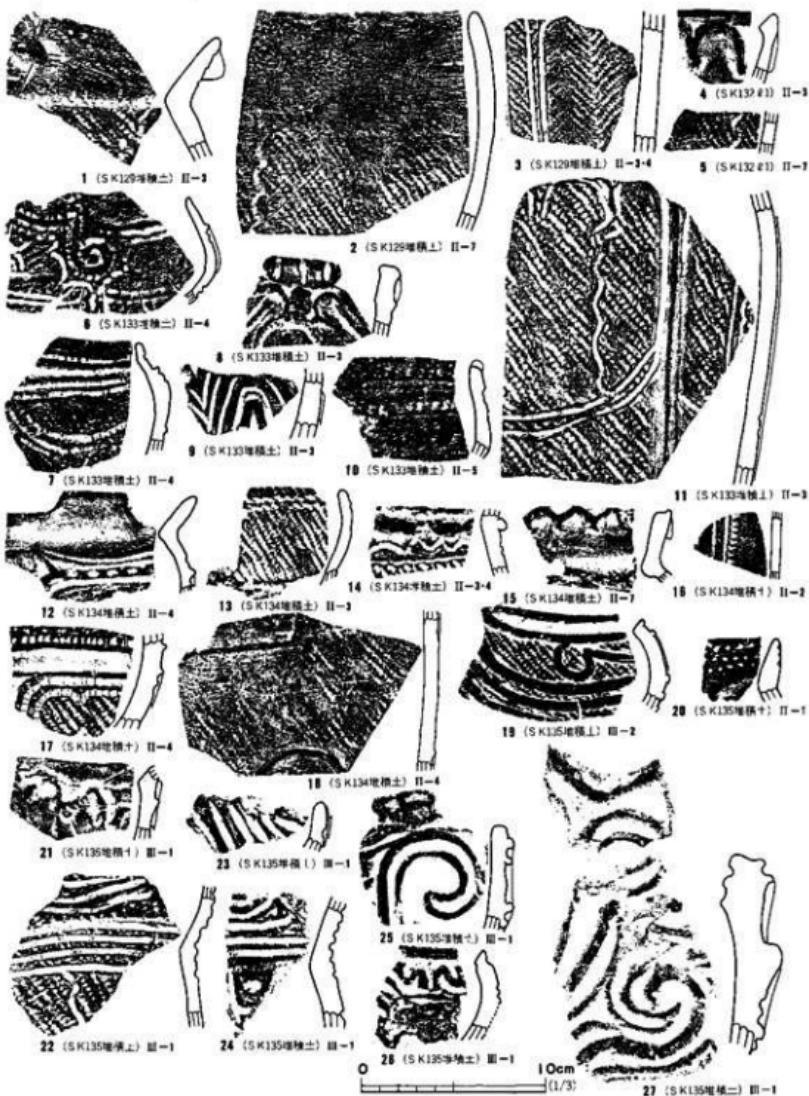


図530 土坑出土遺物 (103) SK129・132~135

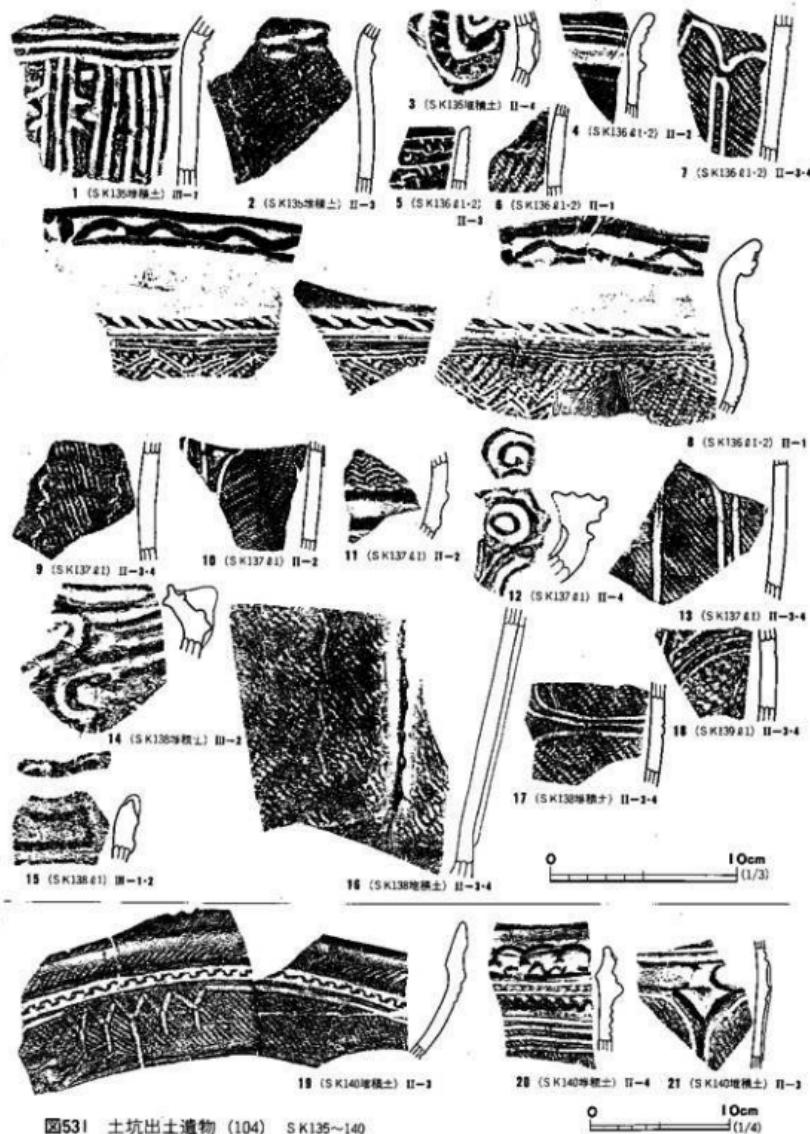
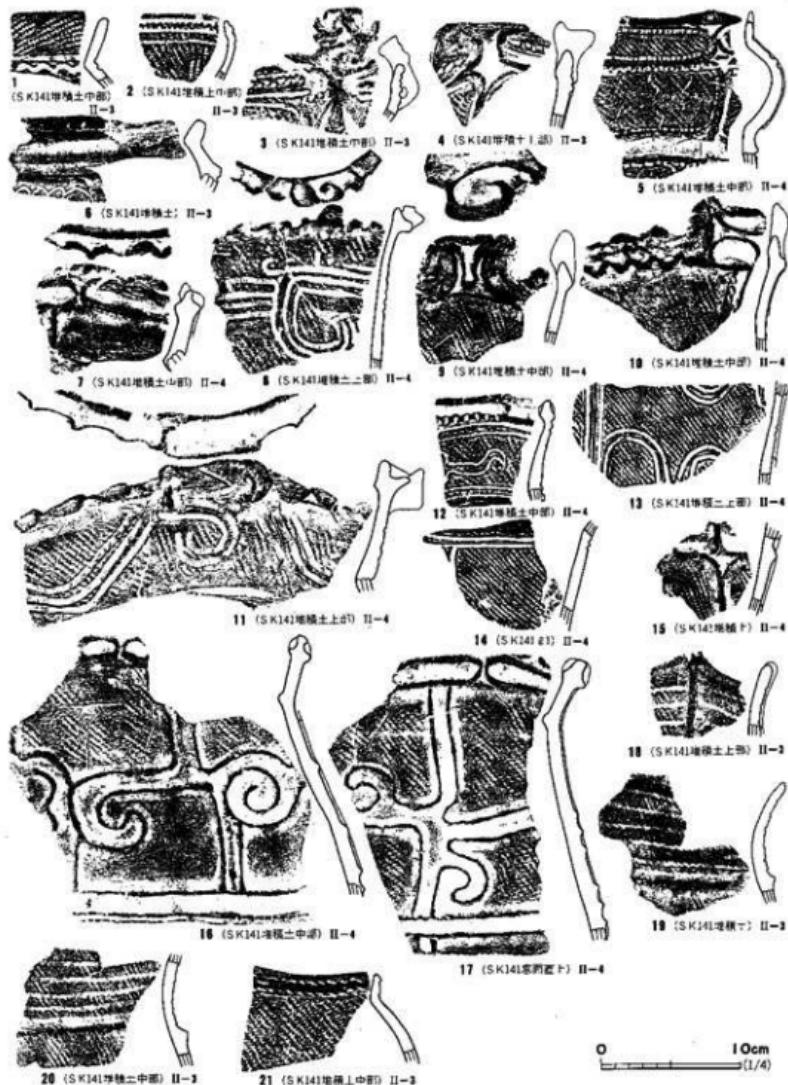


図531 土坑出土遺物 (104) SK135~140



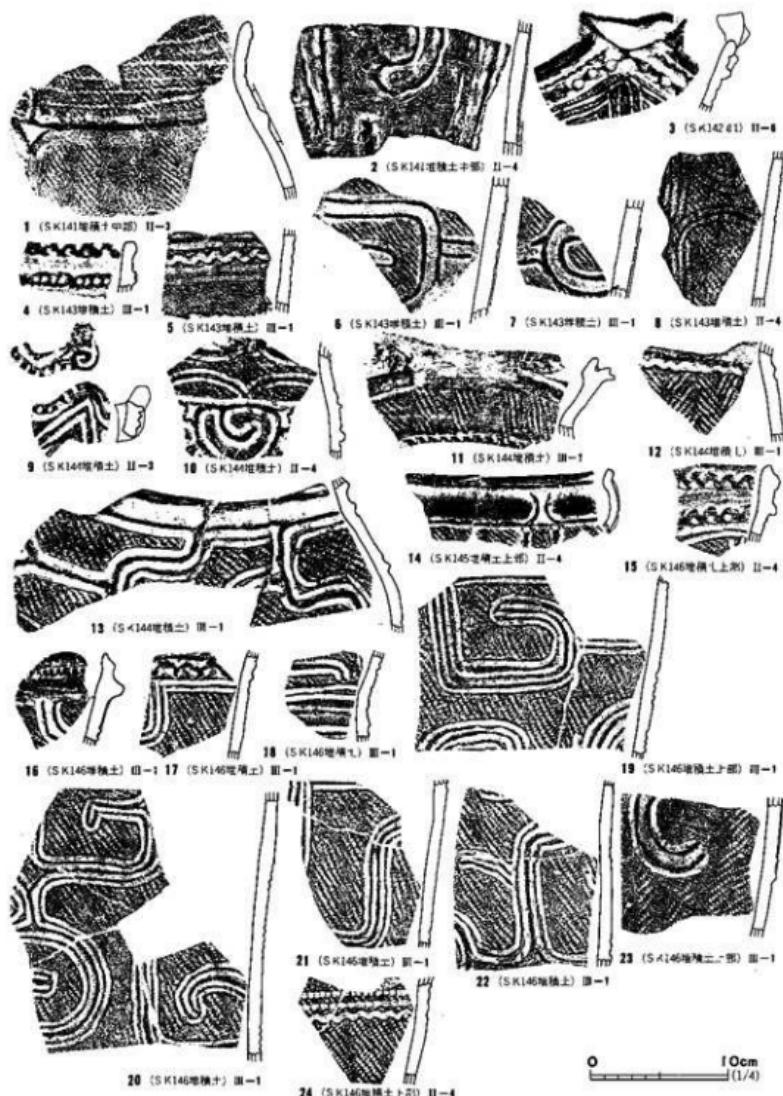


図533 土坑出土遺物 (106) SK141~146

第3節 土 坑

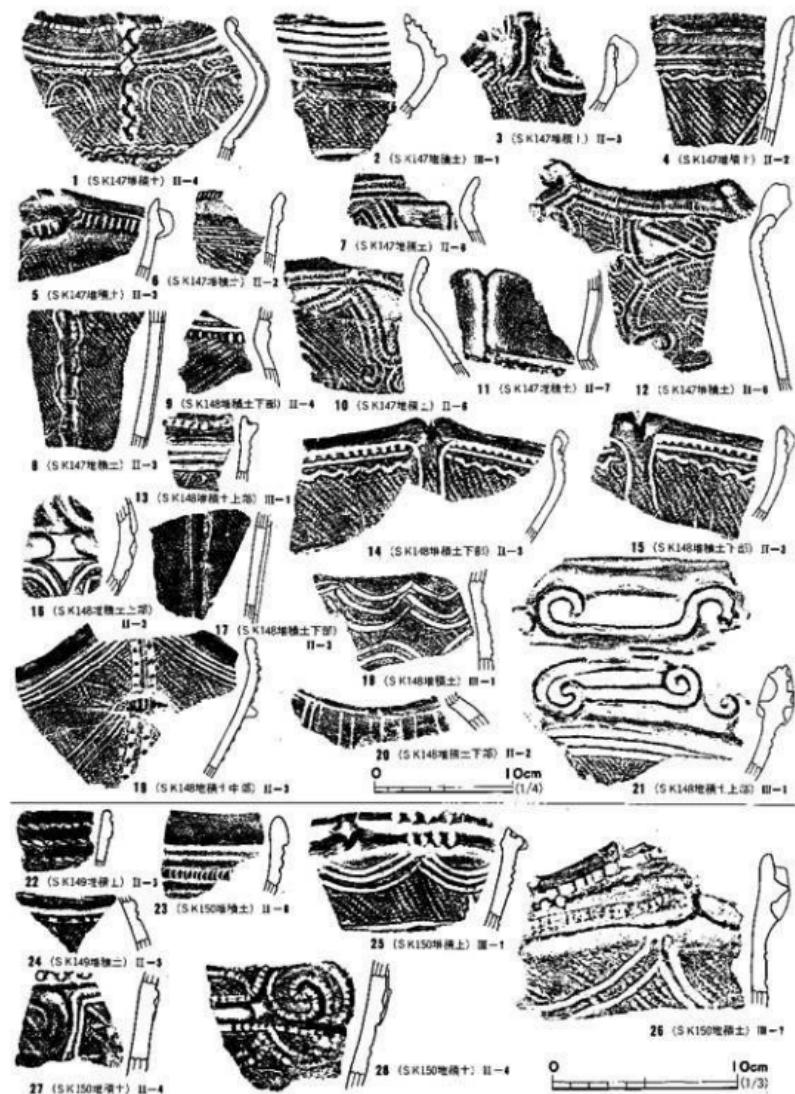


図534 土坑出土遺物 (107) SK147-150

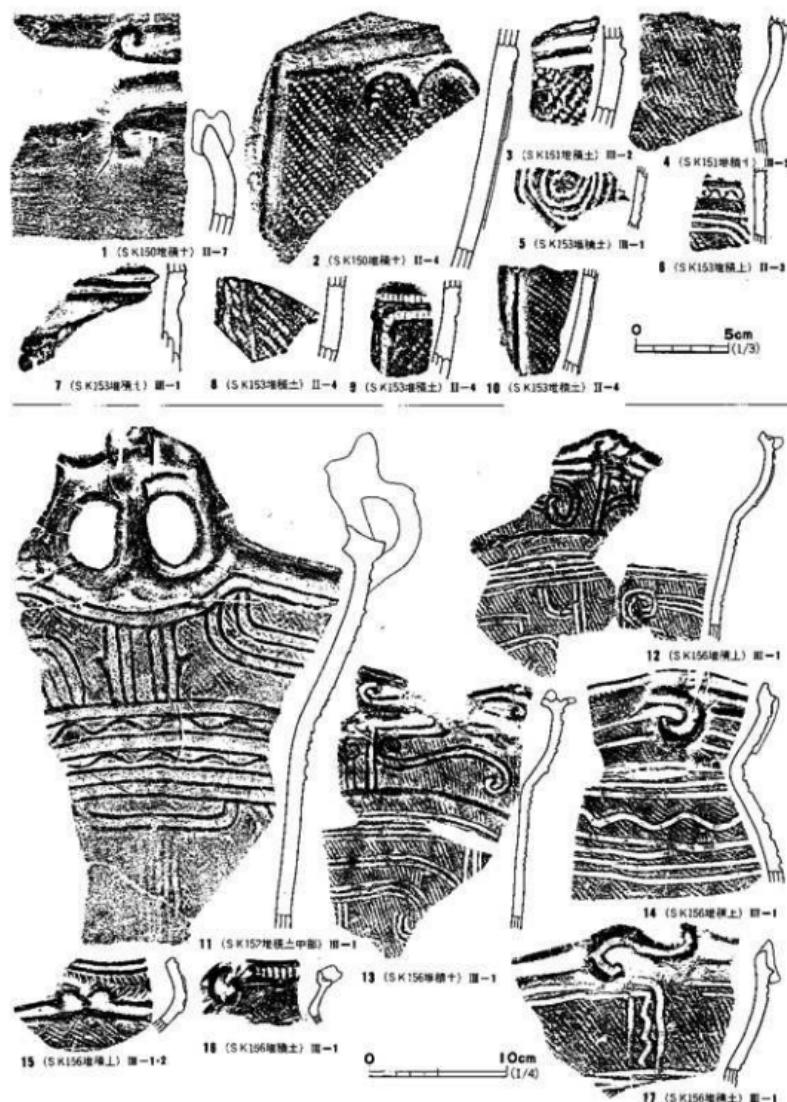


図535 土坑出土遺物 (108) SK150~153・156



図536 土坑出土遺物 (109) SK156・158～162

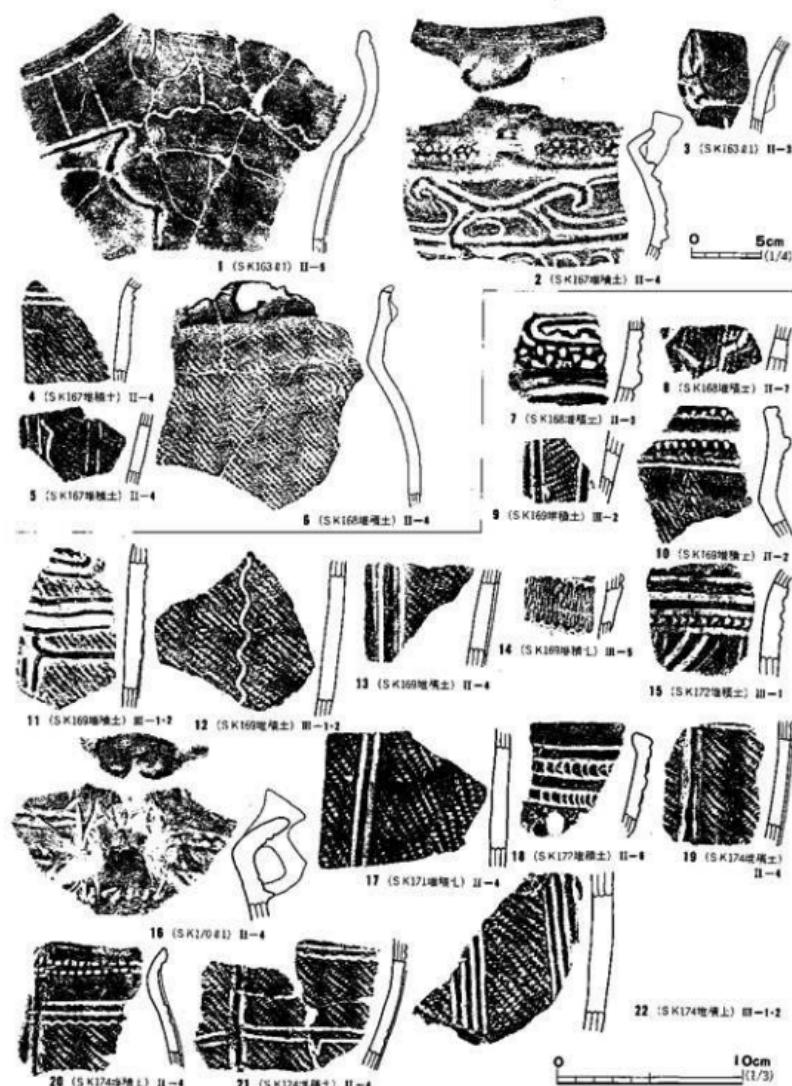




図538 土坑出土遺物 (111) SK175~177~183~185



図539 土坑出土遺物 ([112] SK186・189・191~193)

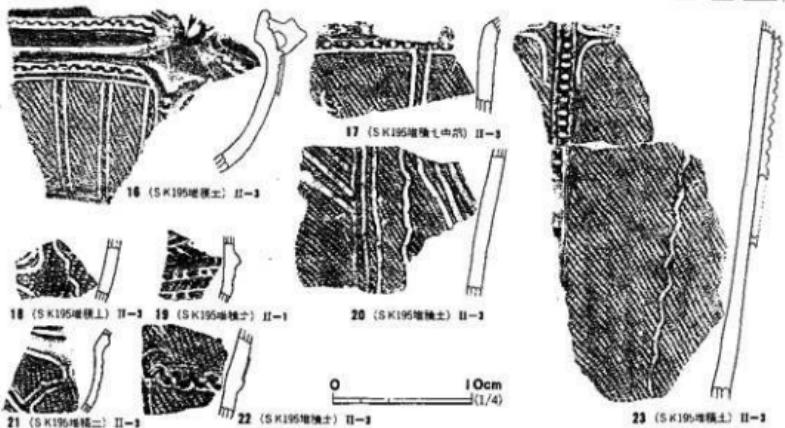
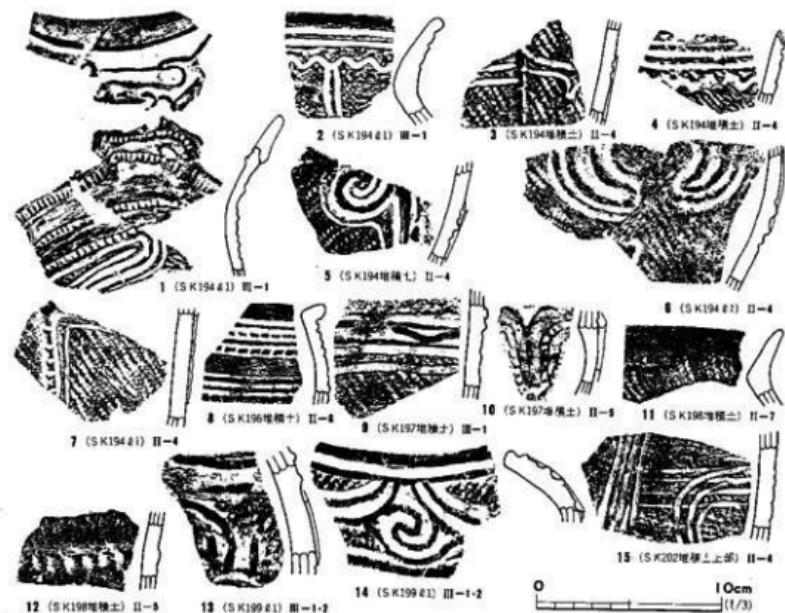


図540 土坑出土遺物 (113) SK194~199・202

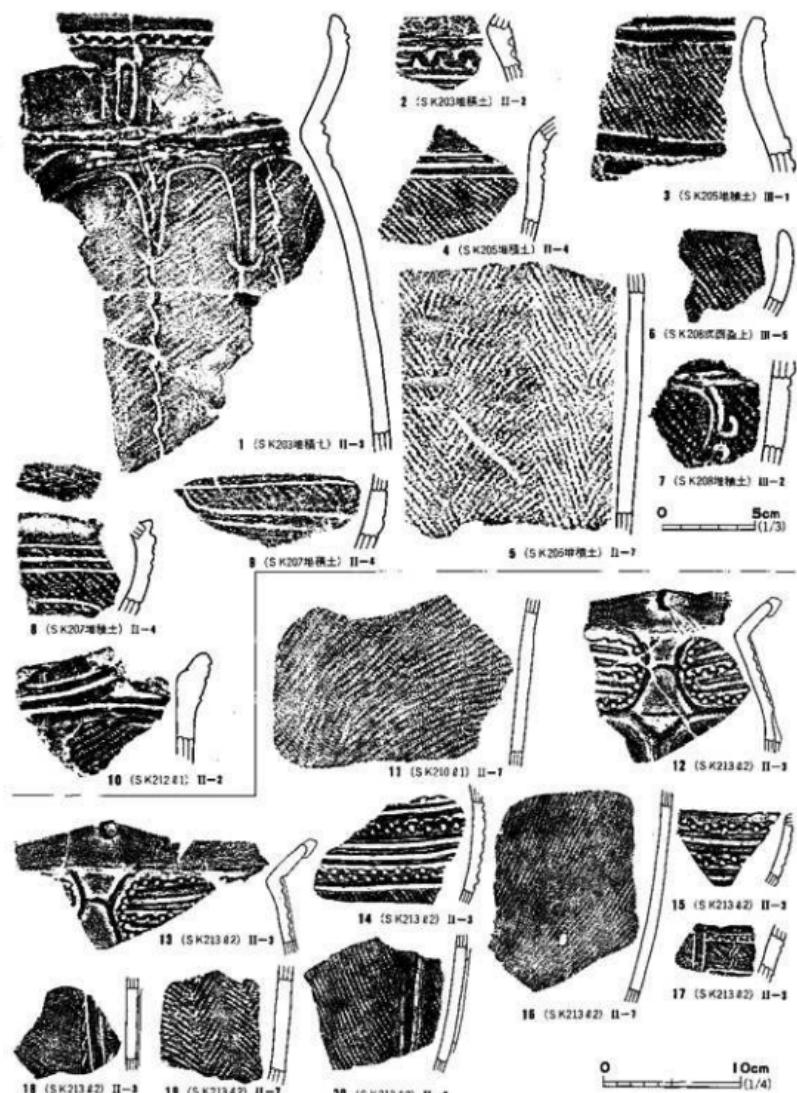


図541 土坑出土遺物 (114) SK203・205・207・208・210・212・213

第3節 土坑

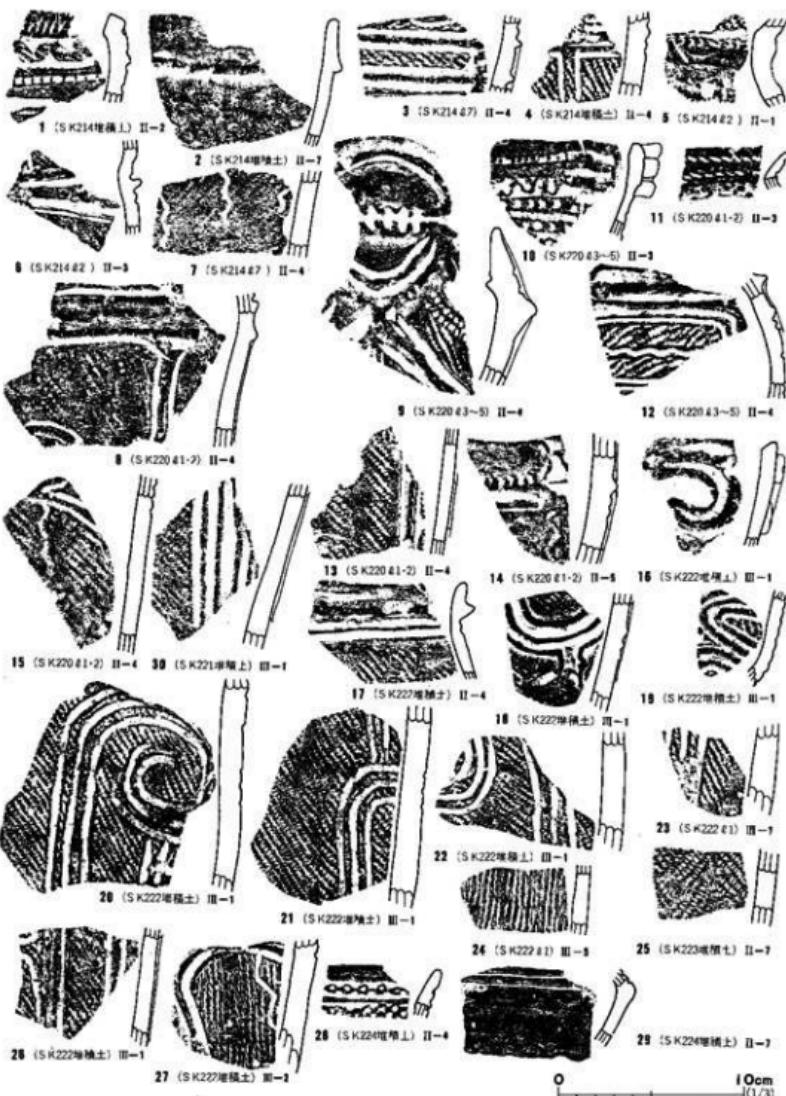


図542 土坑出土遺物 (115) SK214・220-224

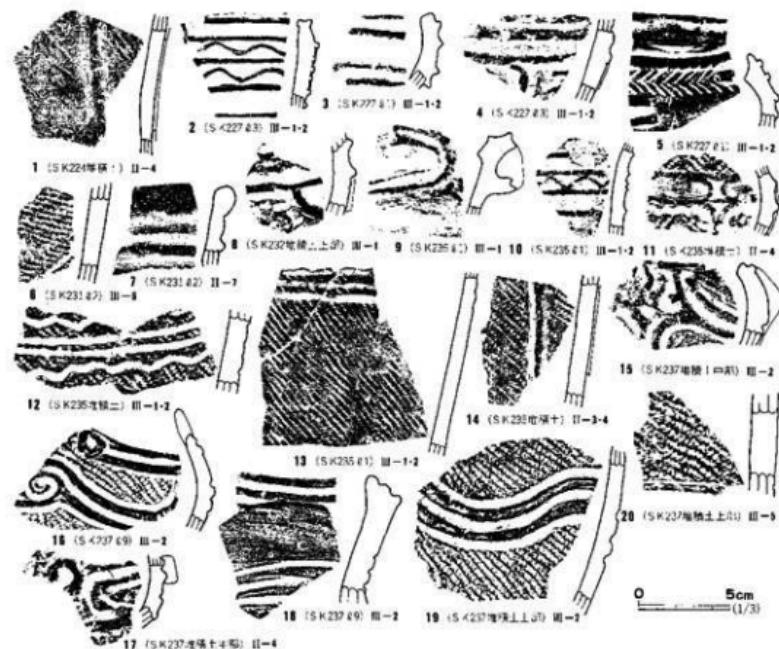


図543 土坑出土遺物 (116) SK224・227・231~235・237



図544 土坑出土遺物 (117) SK234・238・240～242・244



図545 土坑出土遺物 (118) SK247~249・251・253・255~257

第3節 土 坑

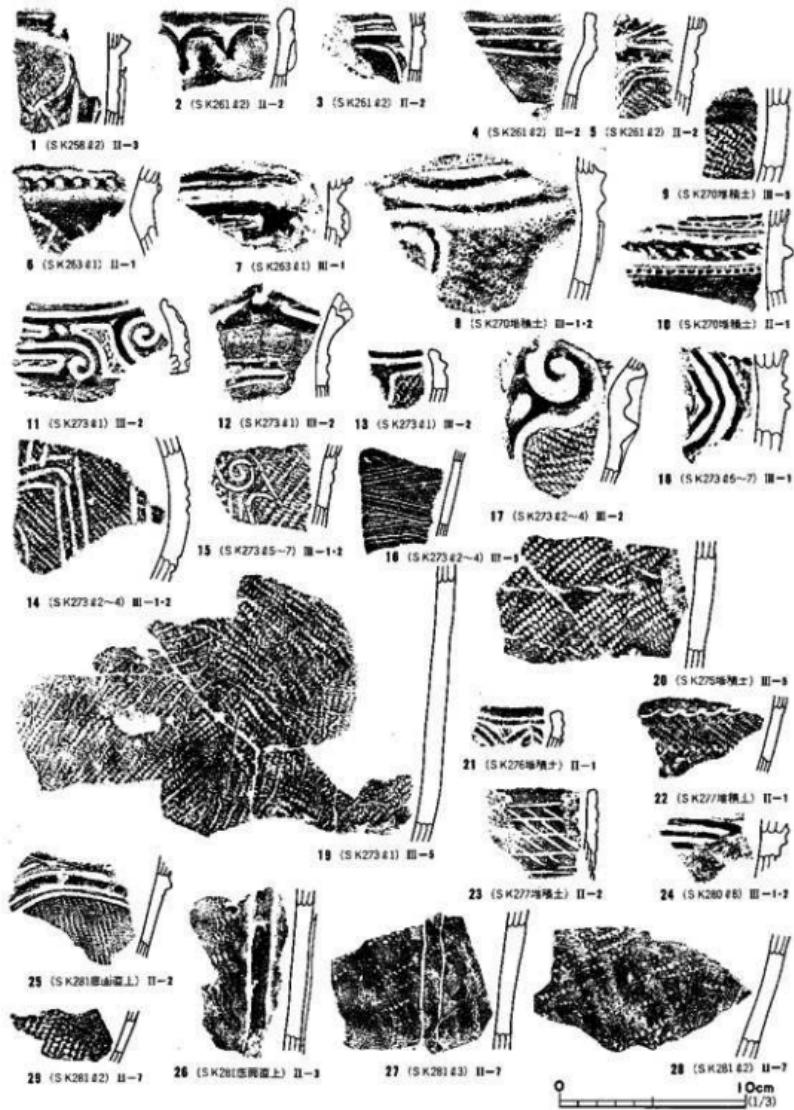
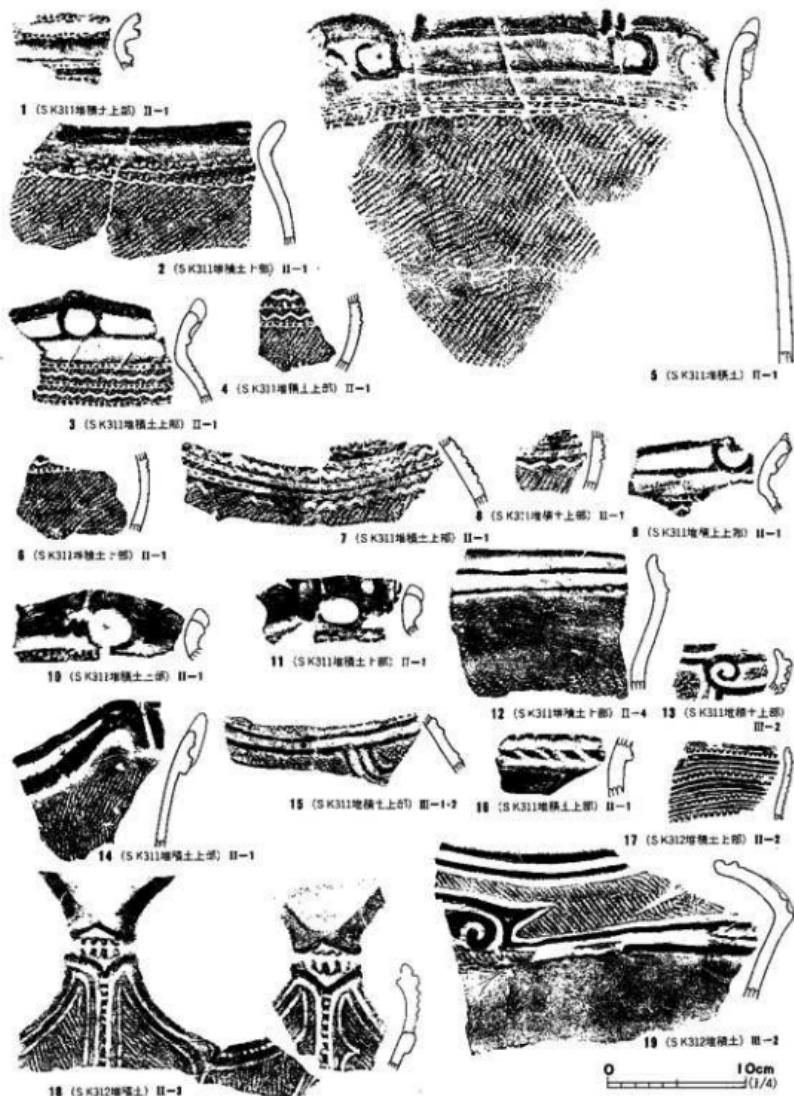


図546 土坑出土遺物 (119) SK258・261・263・270・273・275～277・280・281



図547 土坑出土遺物 (120) SK282・288・290・295・299・300・303・306・307・310・311



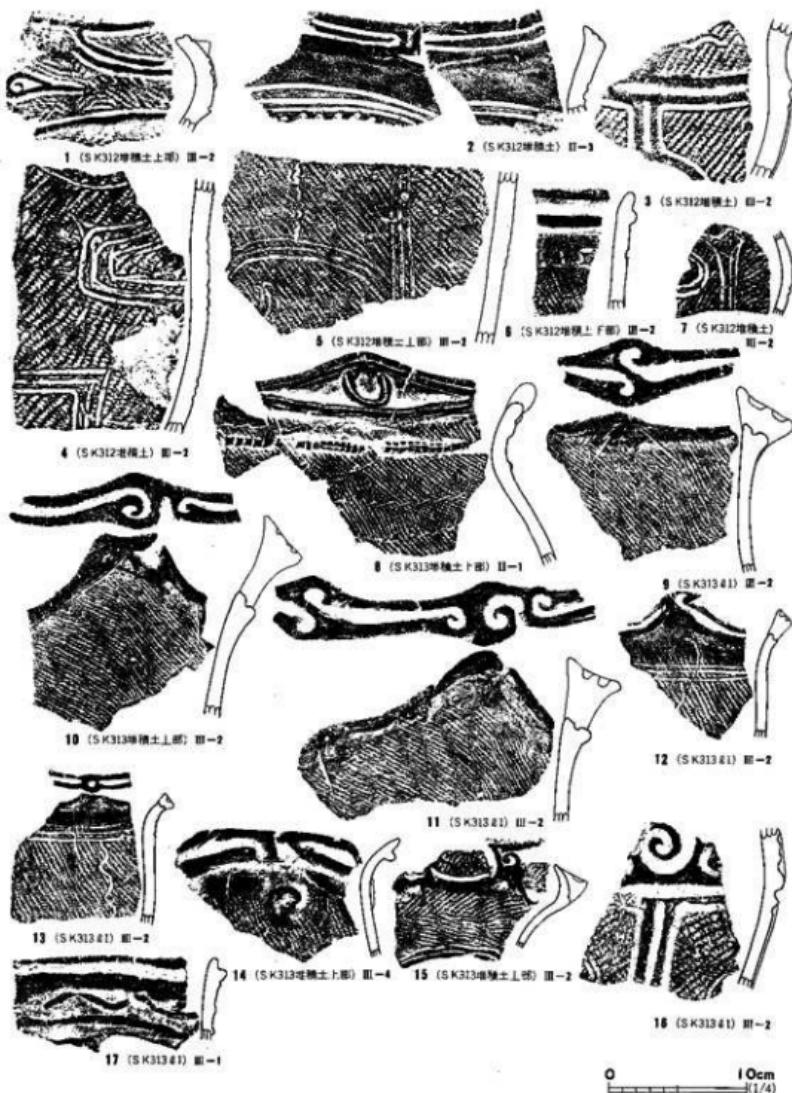


図549 土坑出土遺物 (122) SK312・313

第3節 土 坑

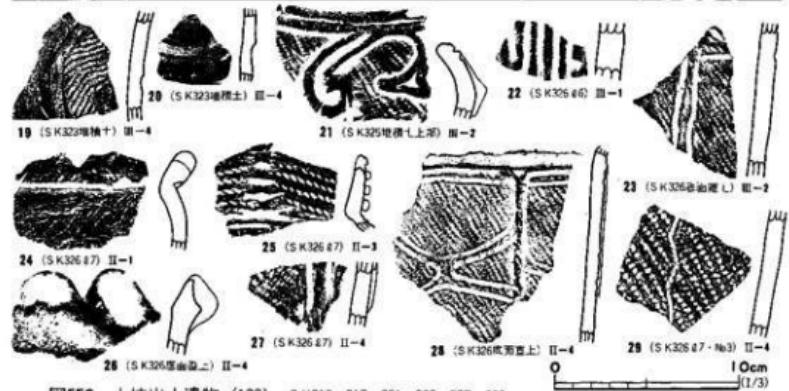
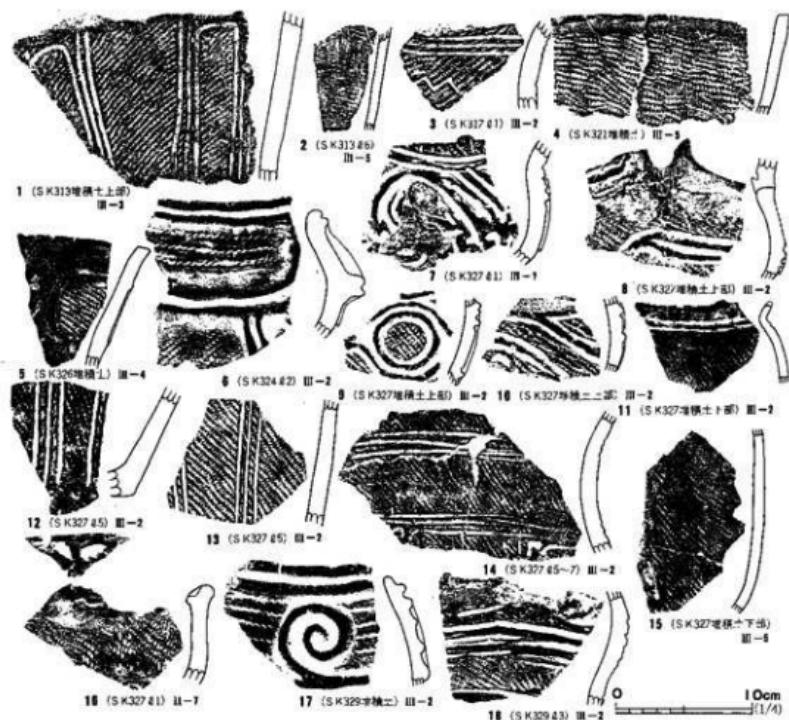


図550 土坑出土遺物 (123) S K313・317・321・323~327・329

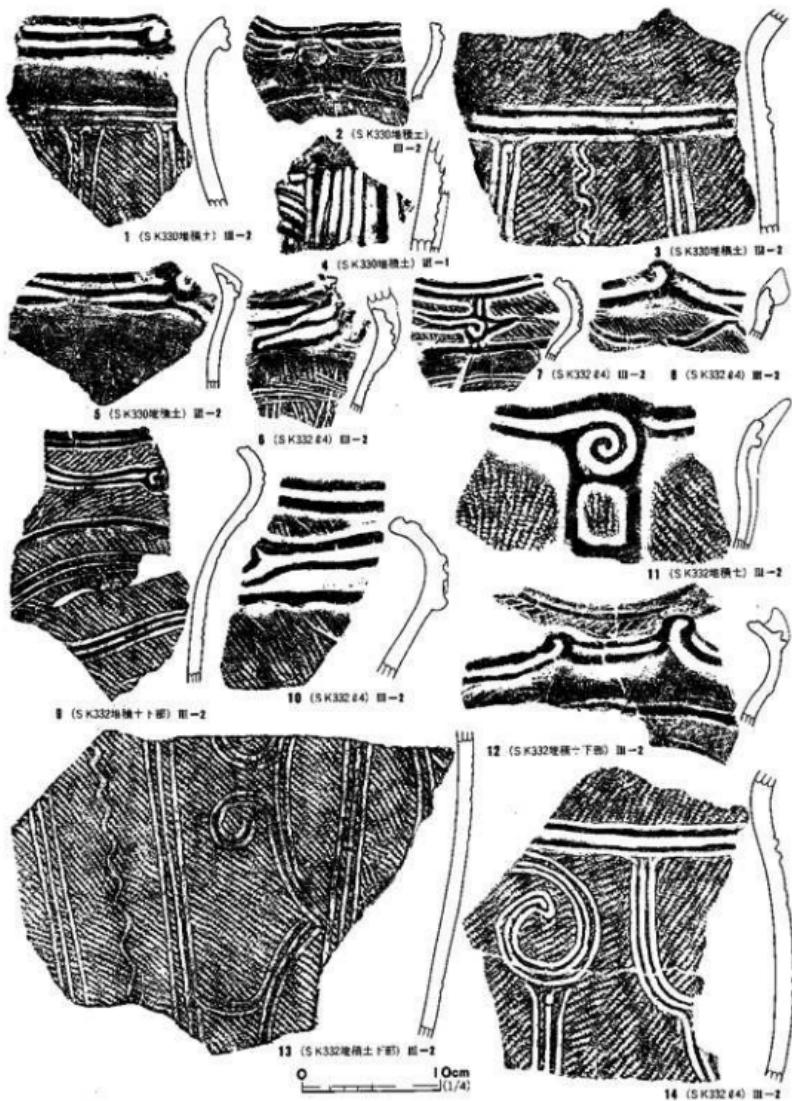


図551 土坑出土遺物 (124) S K330・332

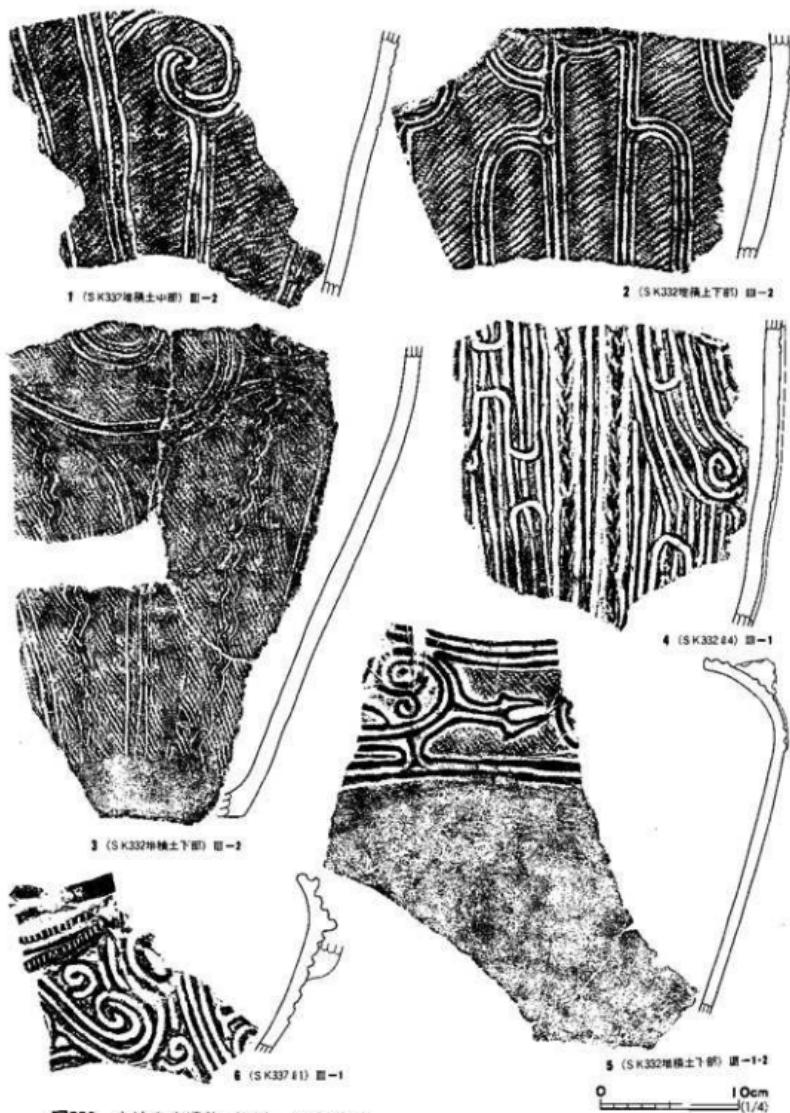


圖552 土坑出土遺物 (125) SK332・337

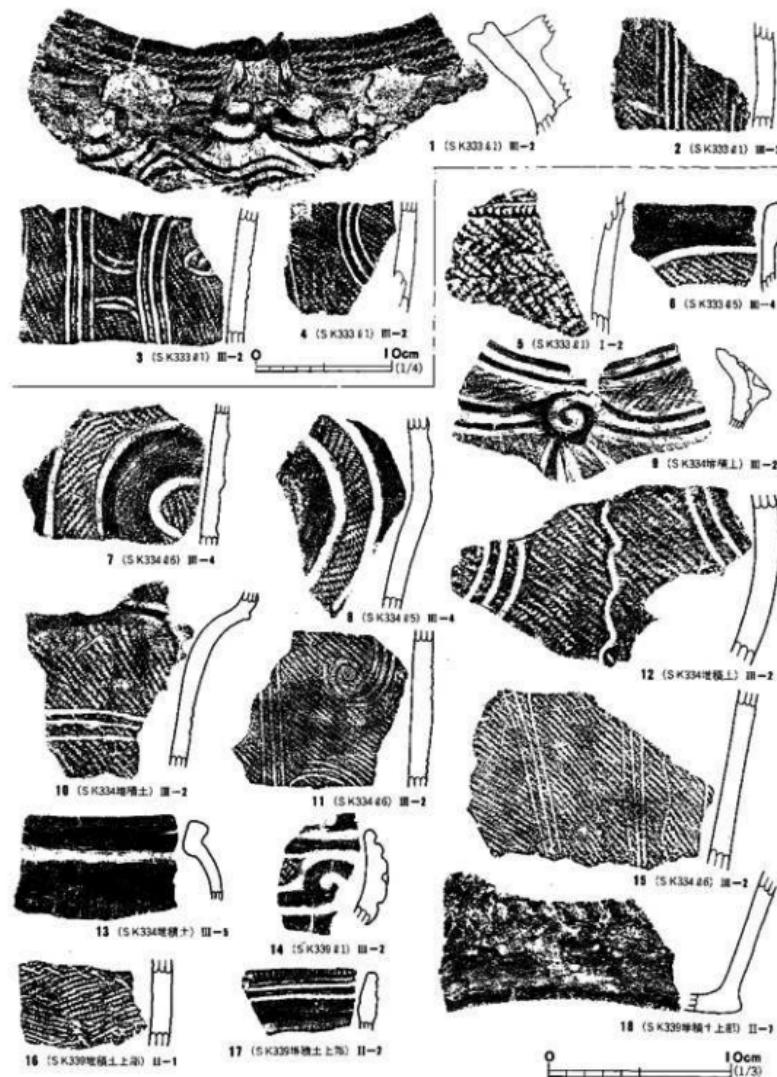


図553 土坑出土遺物 (126) SK333・334・339



図554 土坑出土遺物 (127) SK347

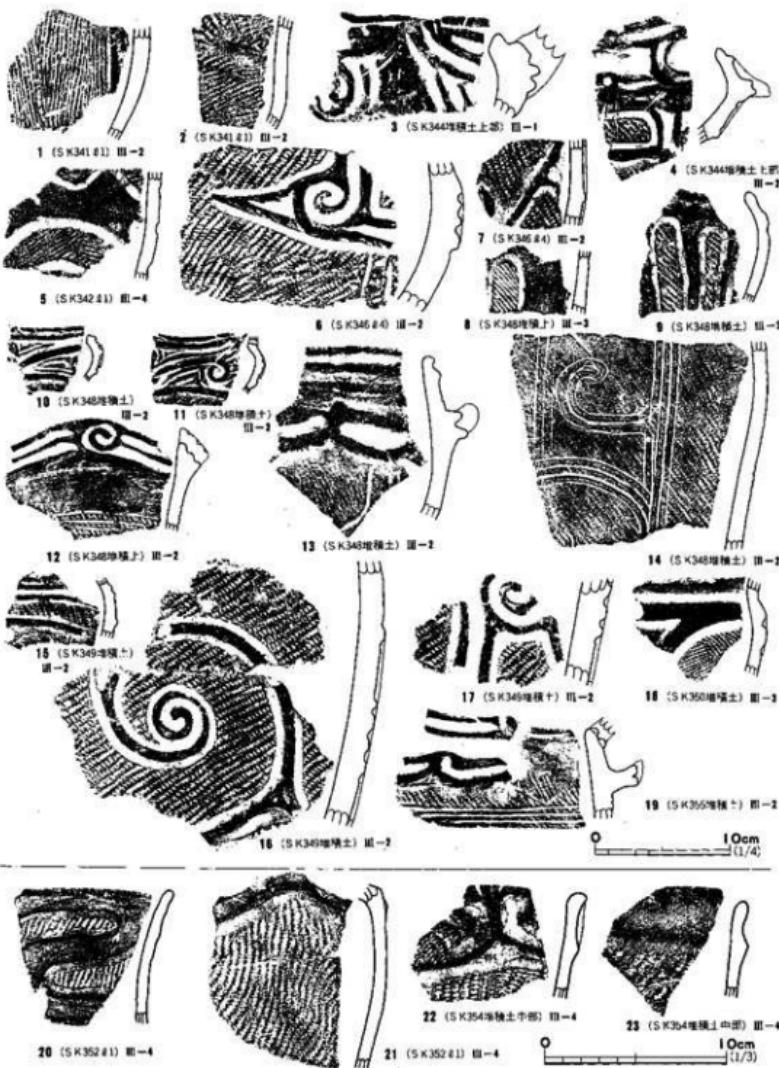


図555 土坑出土遺物 (128) SK341・342・344・346・348～350・352・354・355



圖556 土坑出土遺物 (129) S K346・356・359・361・363~365

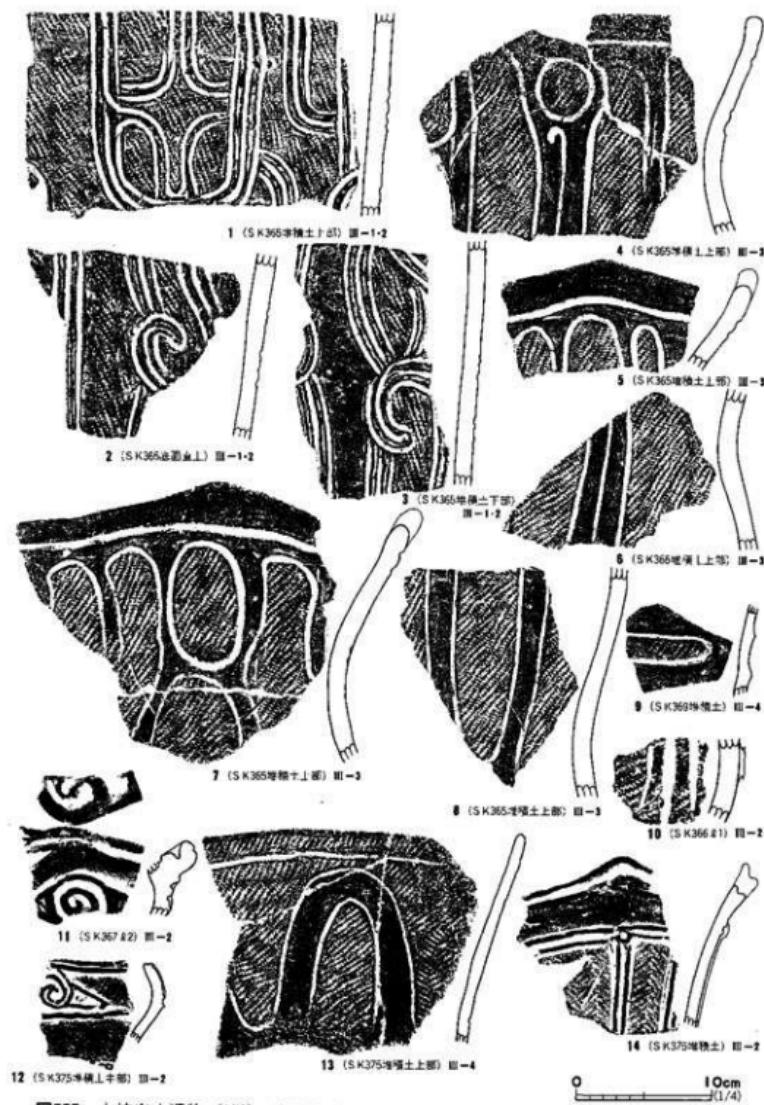


図557 土坑出土遺物 (130) SK365-367・369・375

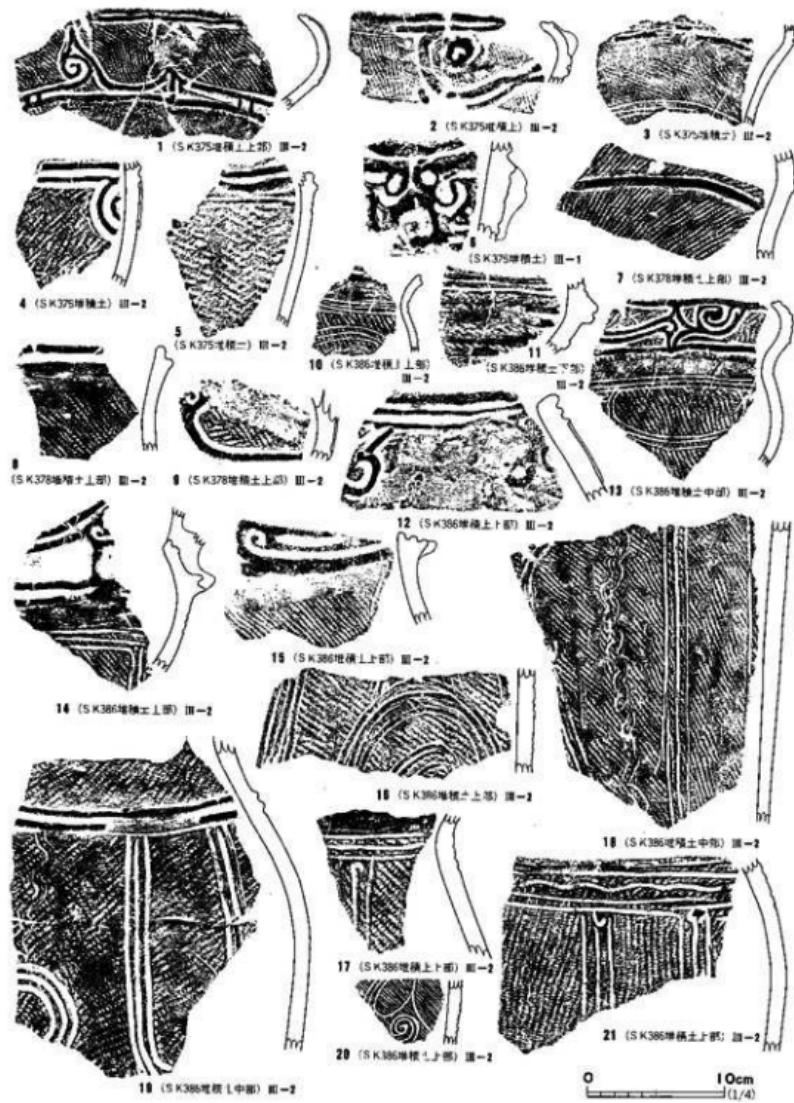


図558 土坑出土遺物 (131) SK375・378・386

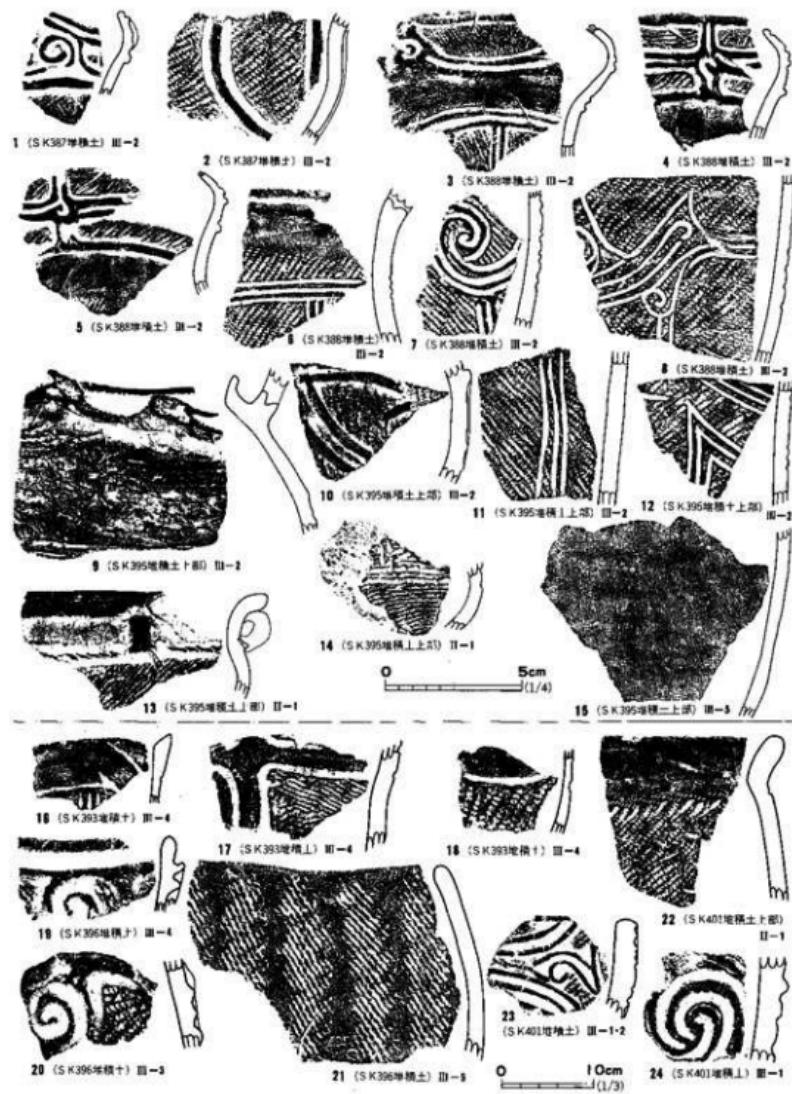
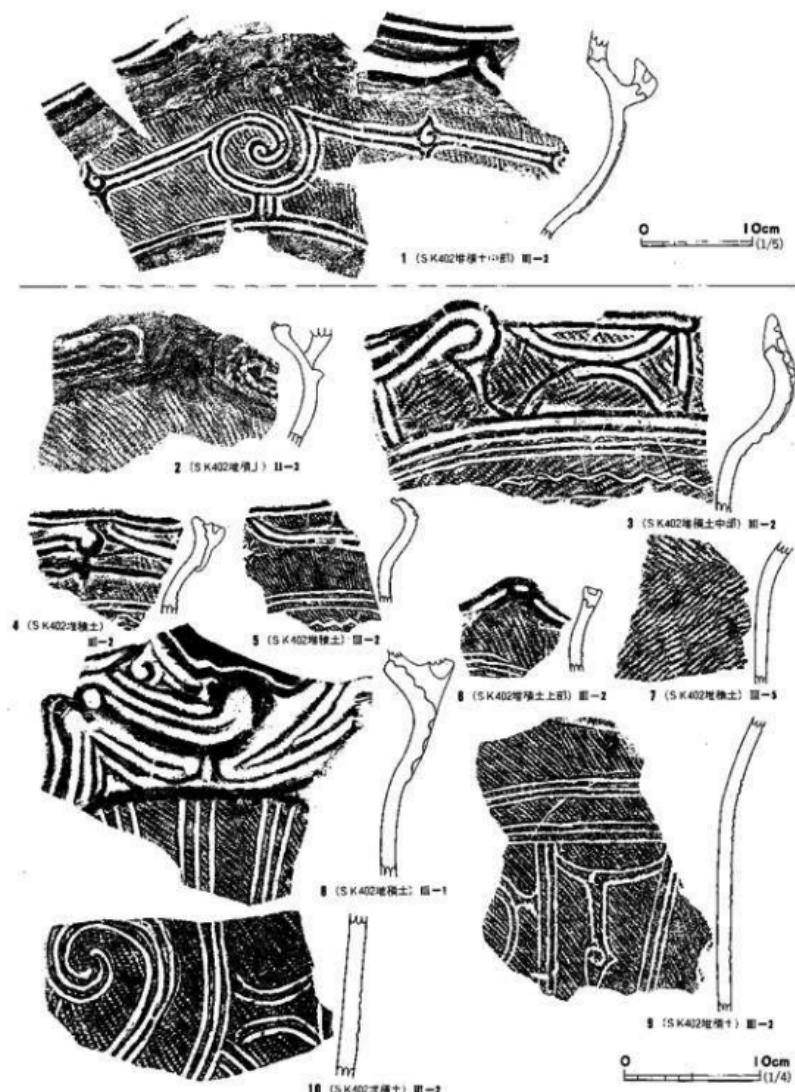


図559 土坑出土遺物 (132) SK387・388・393・395・396・401



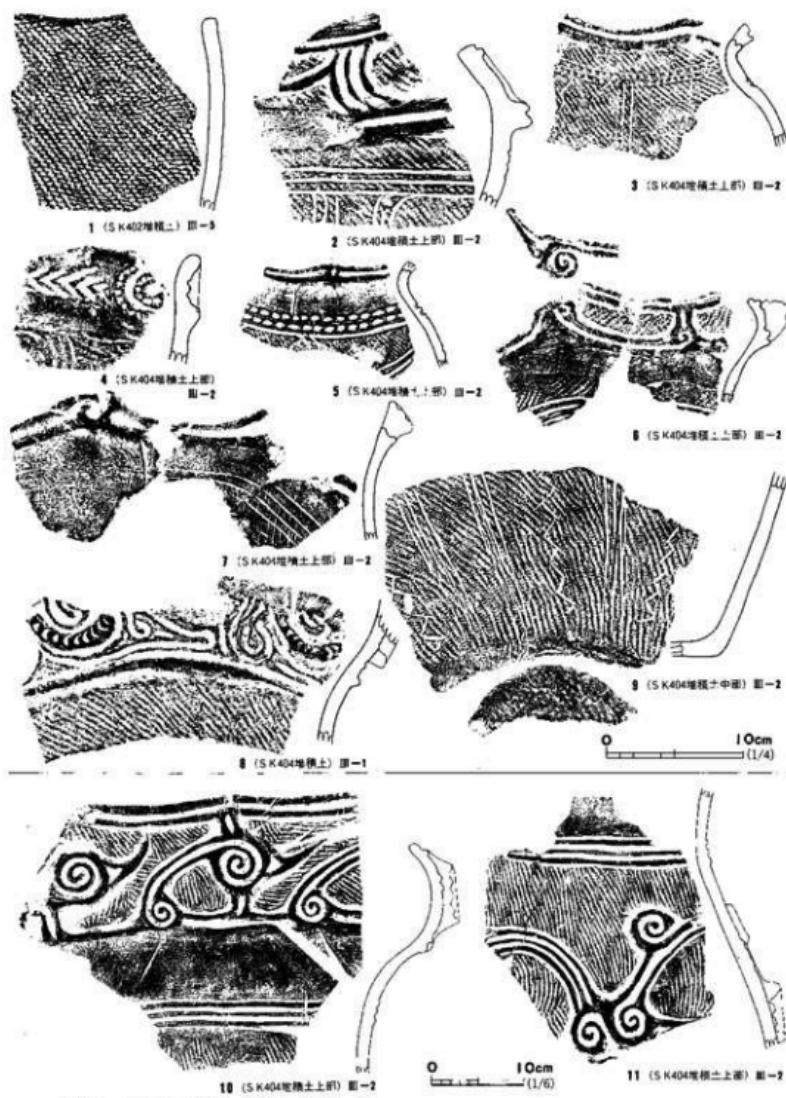


図561 土坑出土遺物 (134) SK 402・404

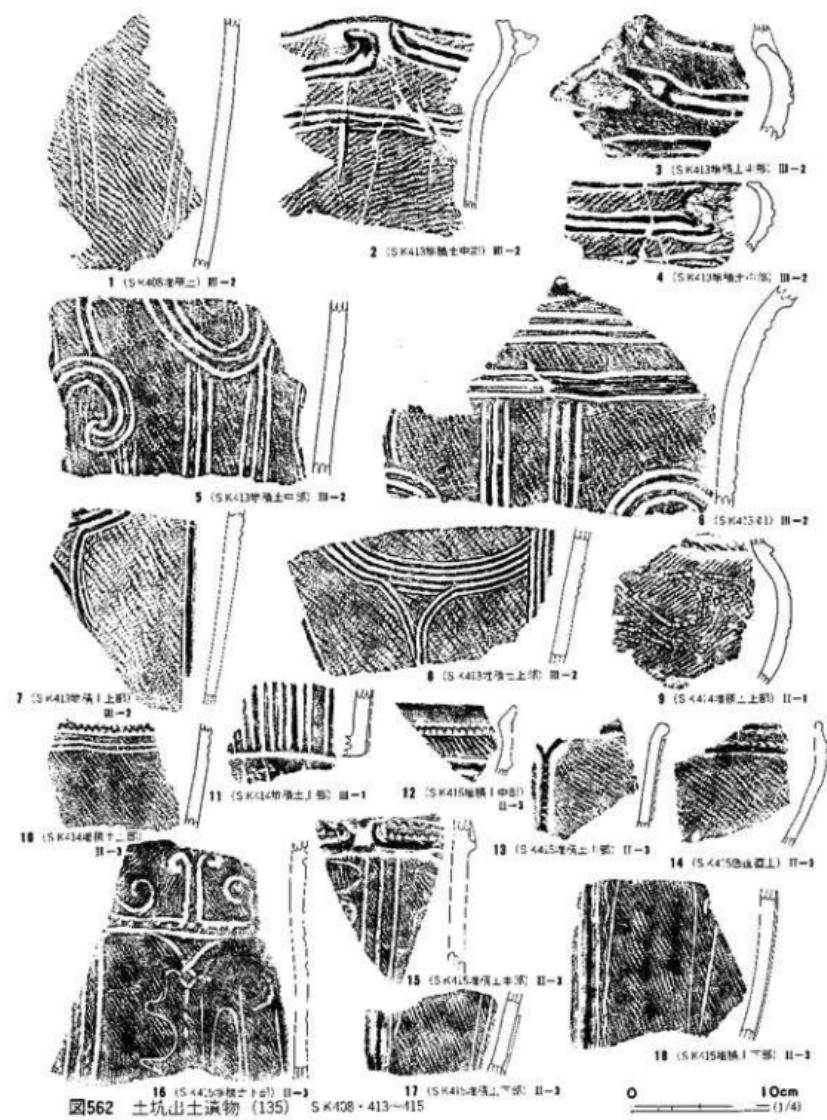


図562 土坑出土遺物 (135) SK408~413~415

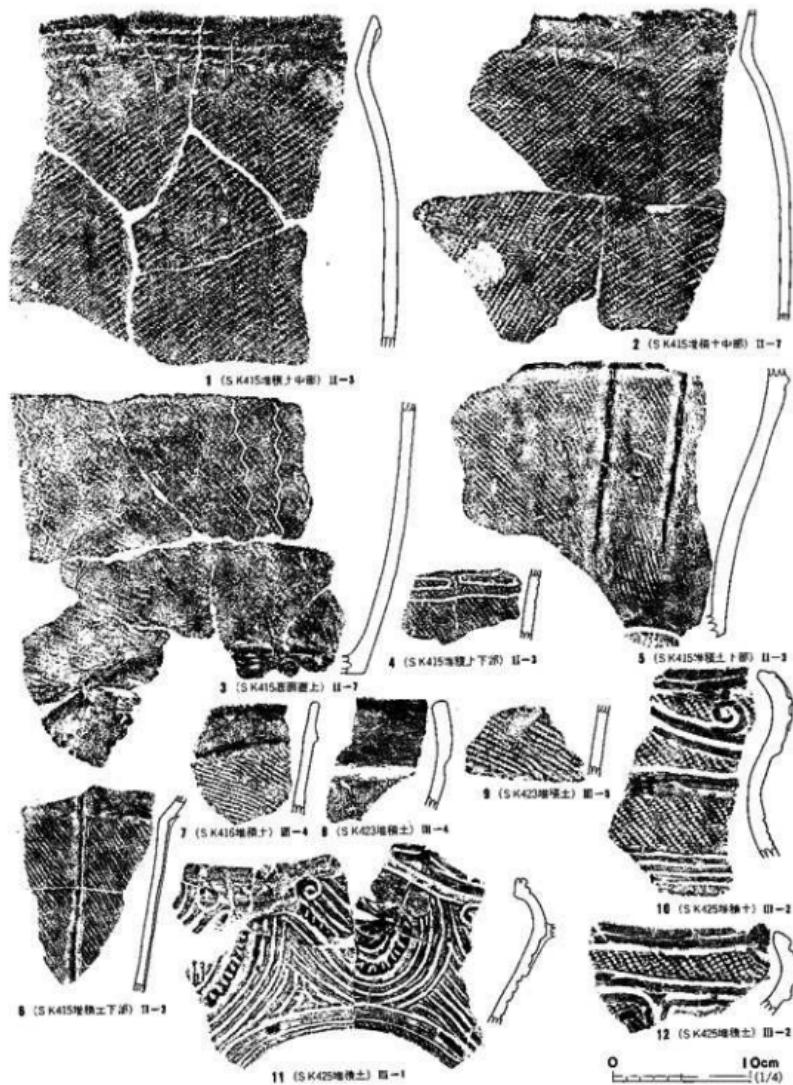
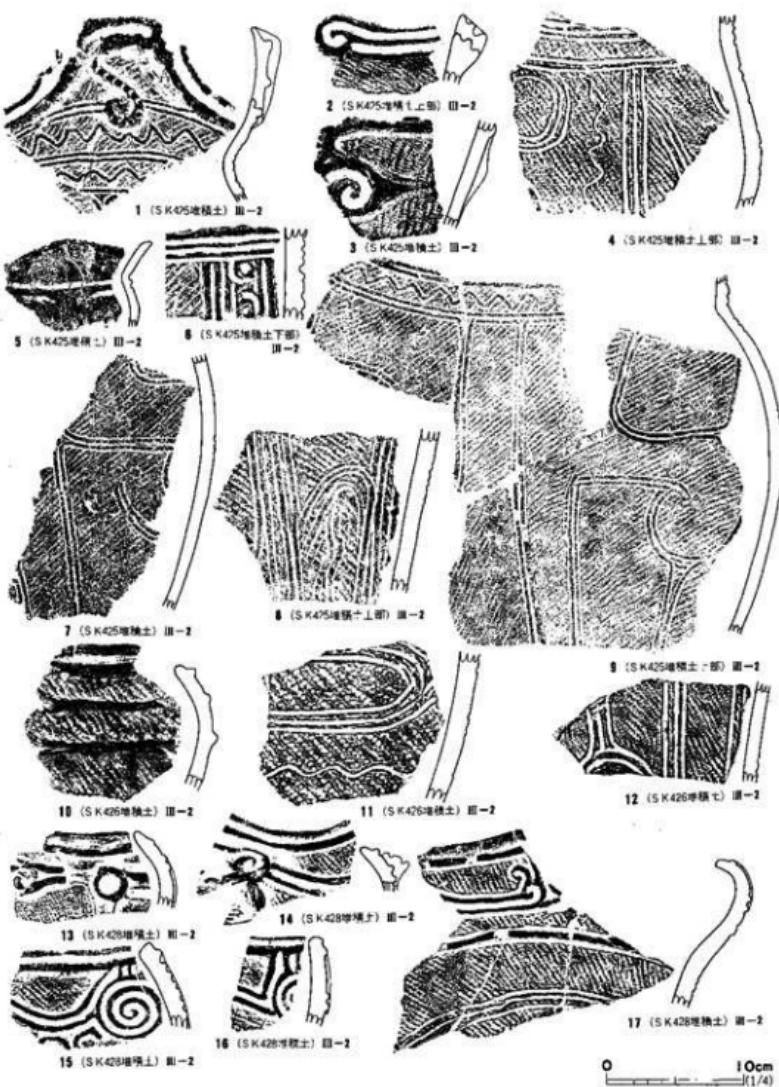


図563 土坑出土遺物 (136) S K415・416・423・425



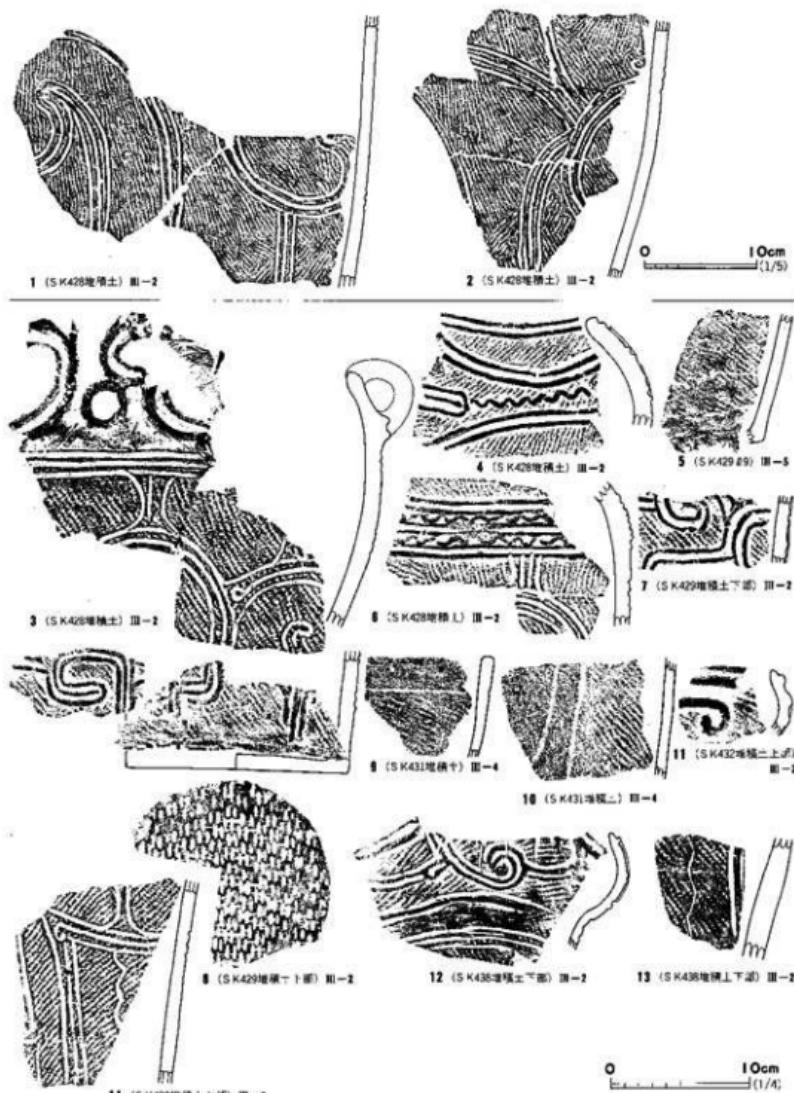


図565 土坑出土遺物 (138) SK428・429・431・432・438

第3節 土坑

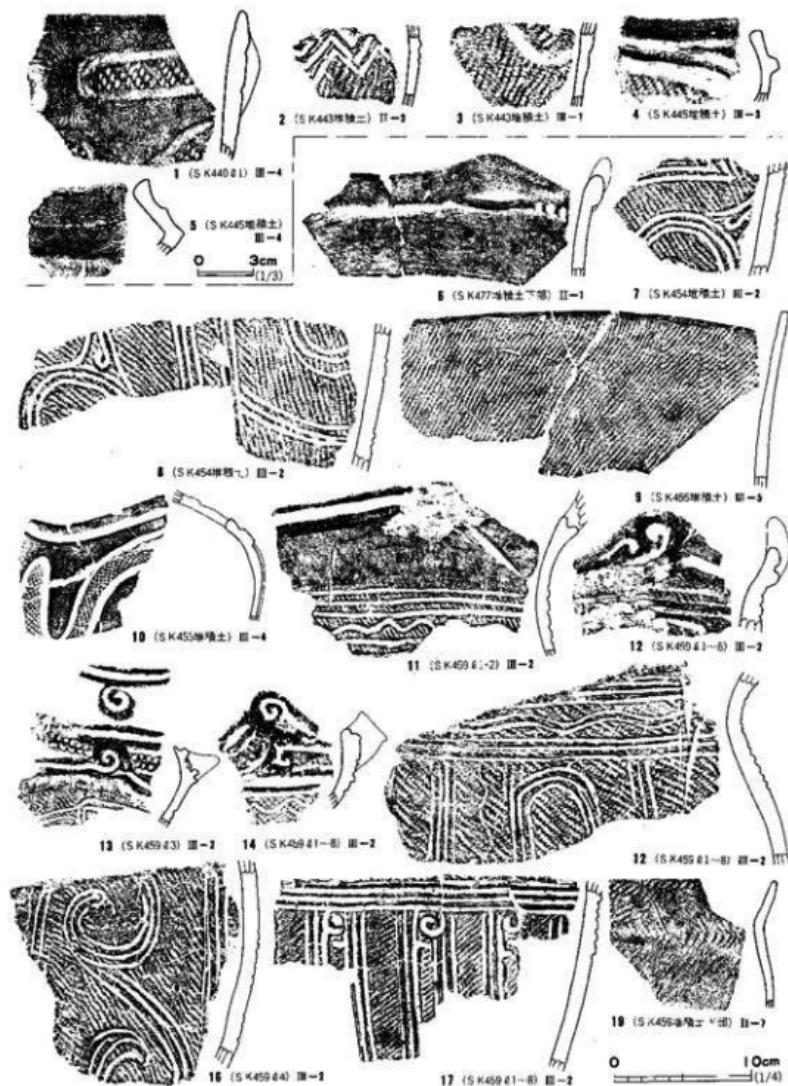


図566 土坑出土遺物 (139) S K440・443・445・454・455・459・477

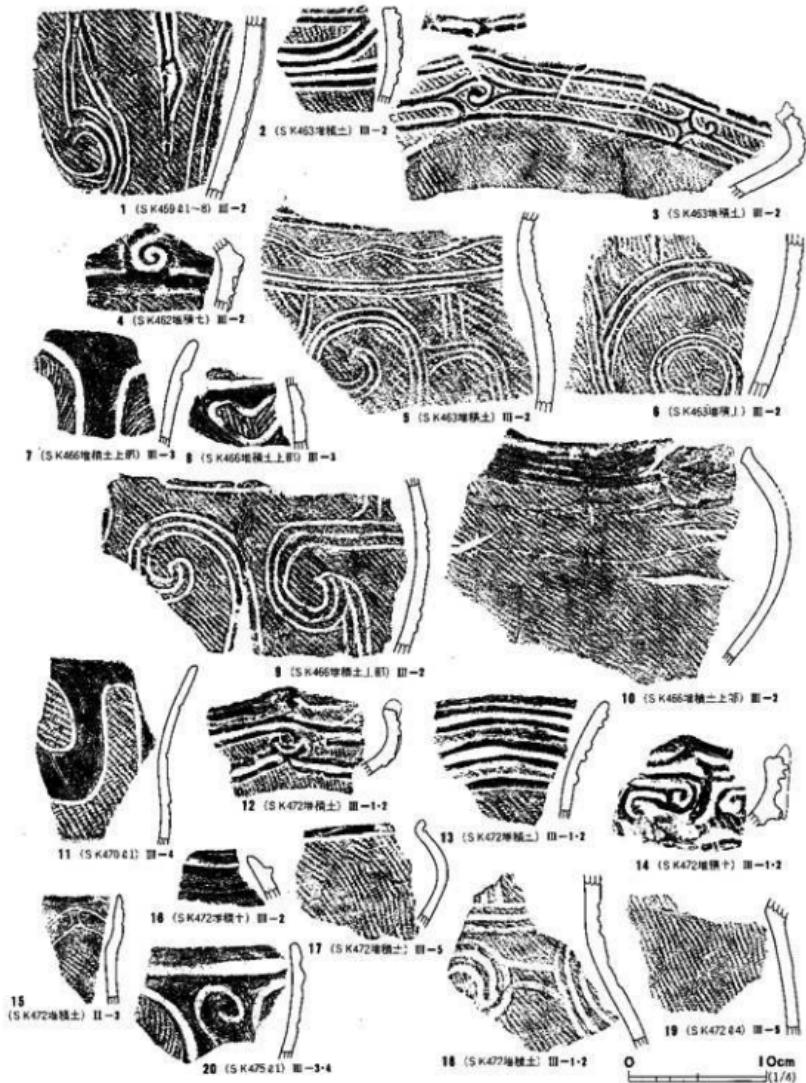


図567 土坑出土遺物 (140) SK459・462・463・466・470・472・475

第3節 土 坑

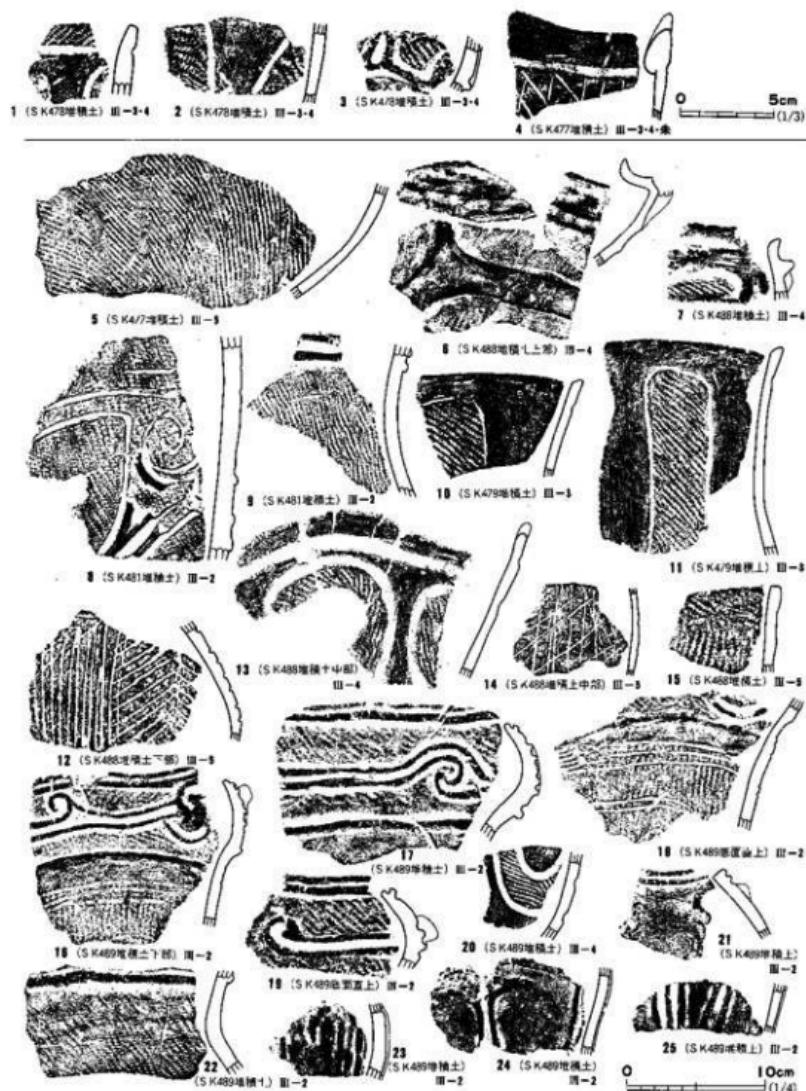
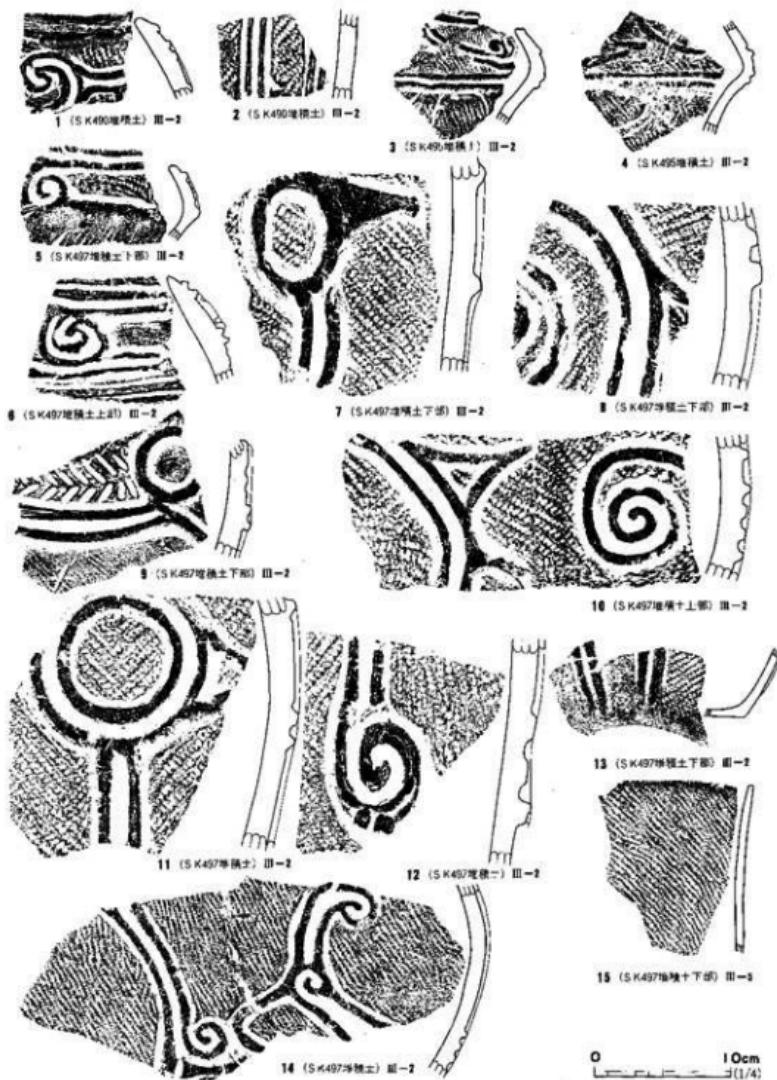


図568 土坑出土遺物 (141) SK477~479・481・488・489



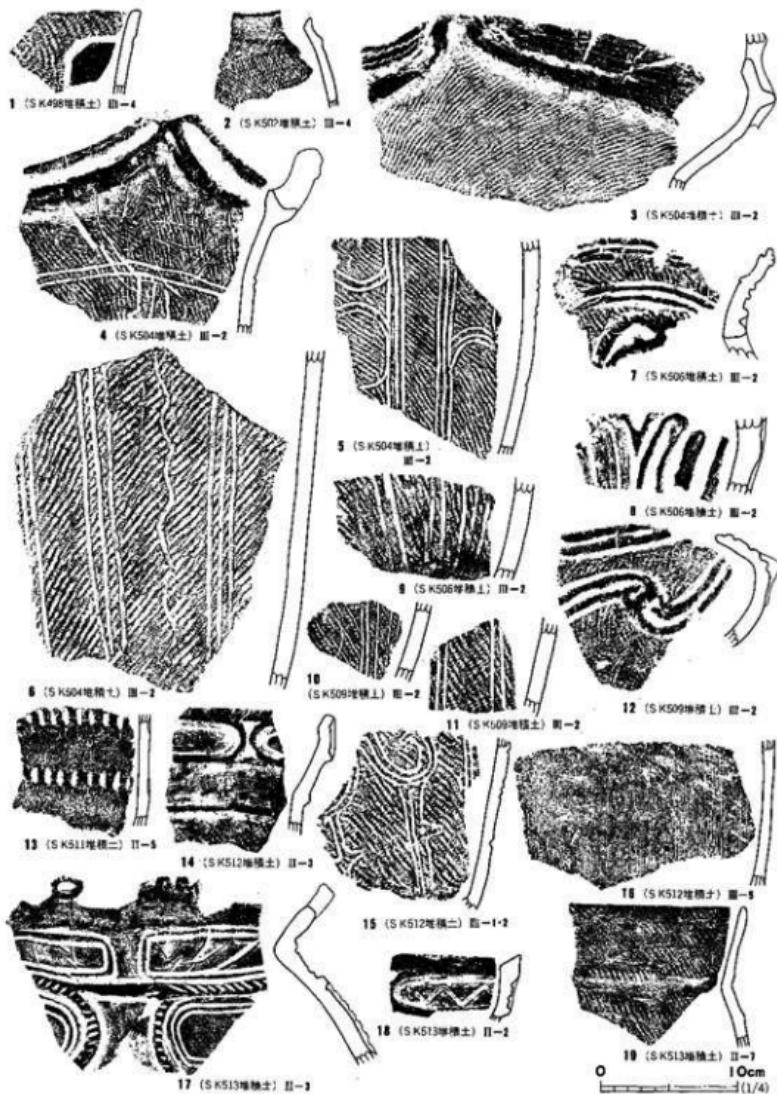


図570 土坑出土遺物 (143) SK498・502・504・506・509・511～513

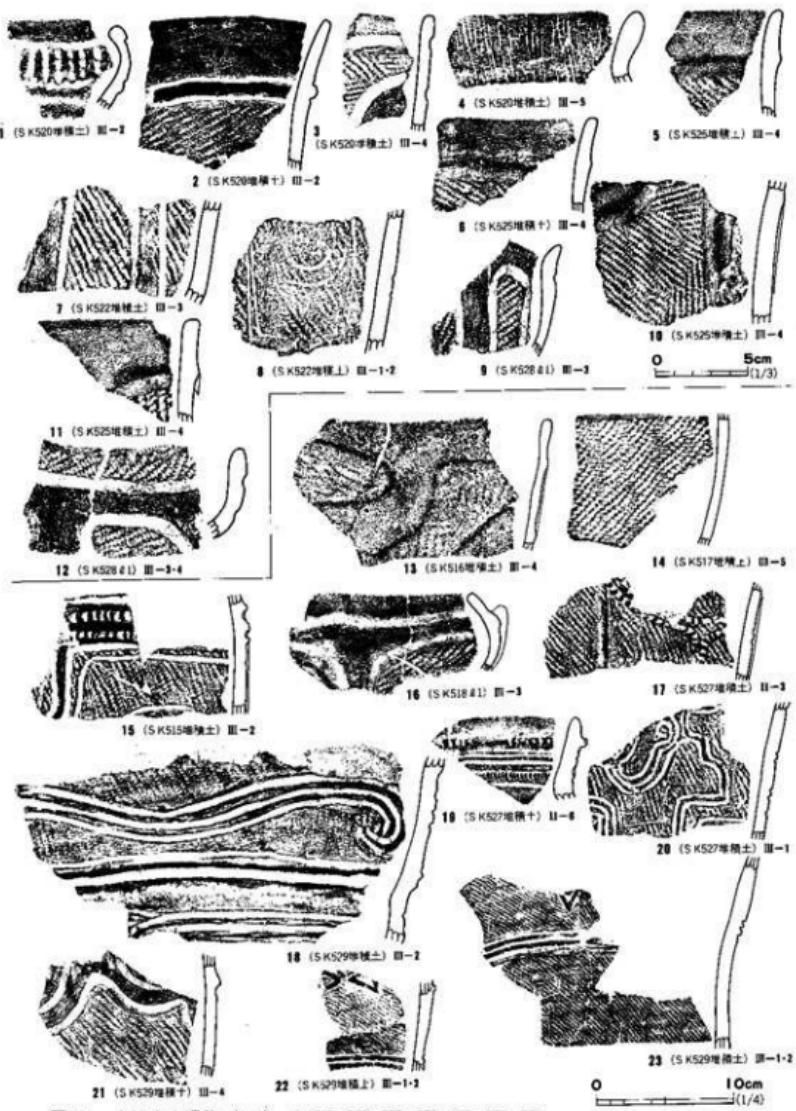


図571 土坑出土遺物 (144) SK515~518, 520, 522, 525, 527~529

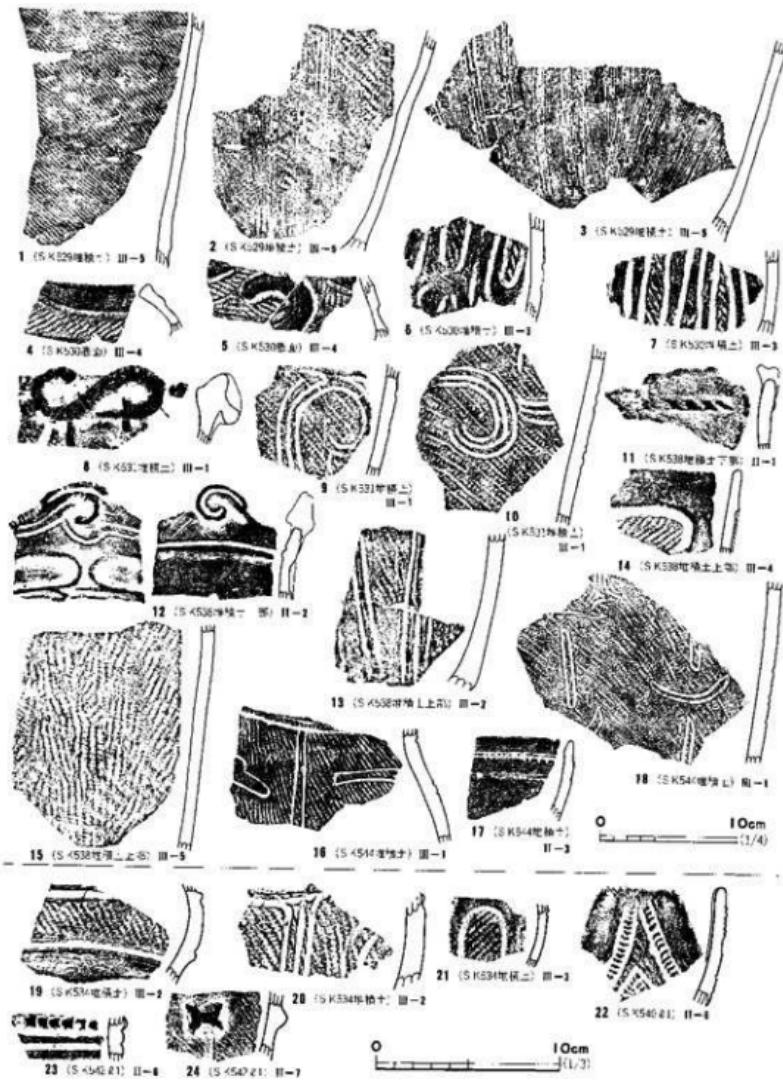


図572 十坑10遺物 (145) SK529・531・534・538・540・542・544

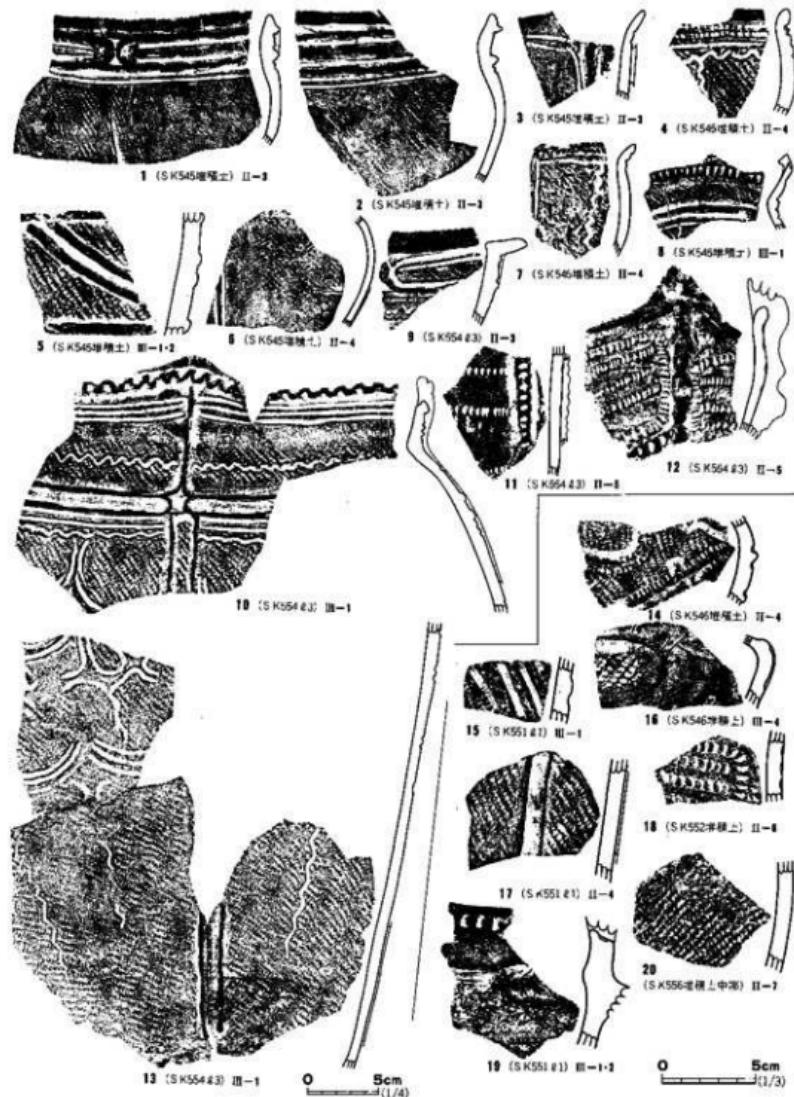


図573 土坑出土遺物 (146) S K545・546・551・552・554・556

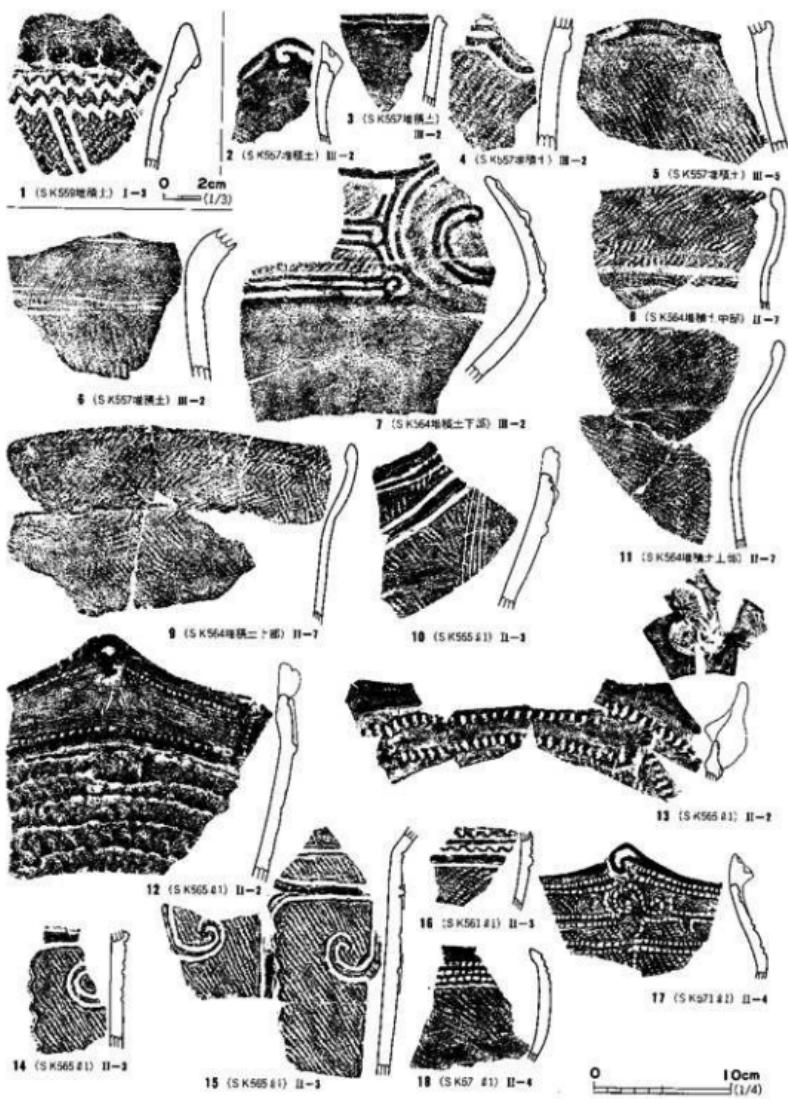


図574 土坑出土遺物 (147) SK557・559・564・565・571

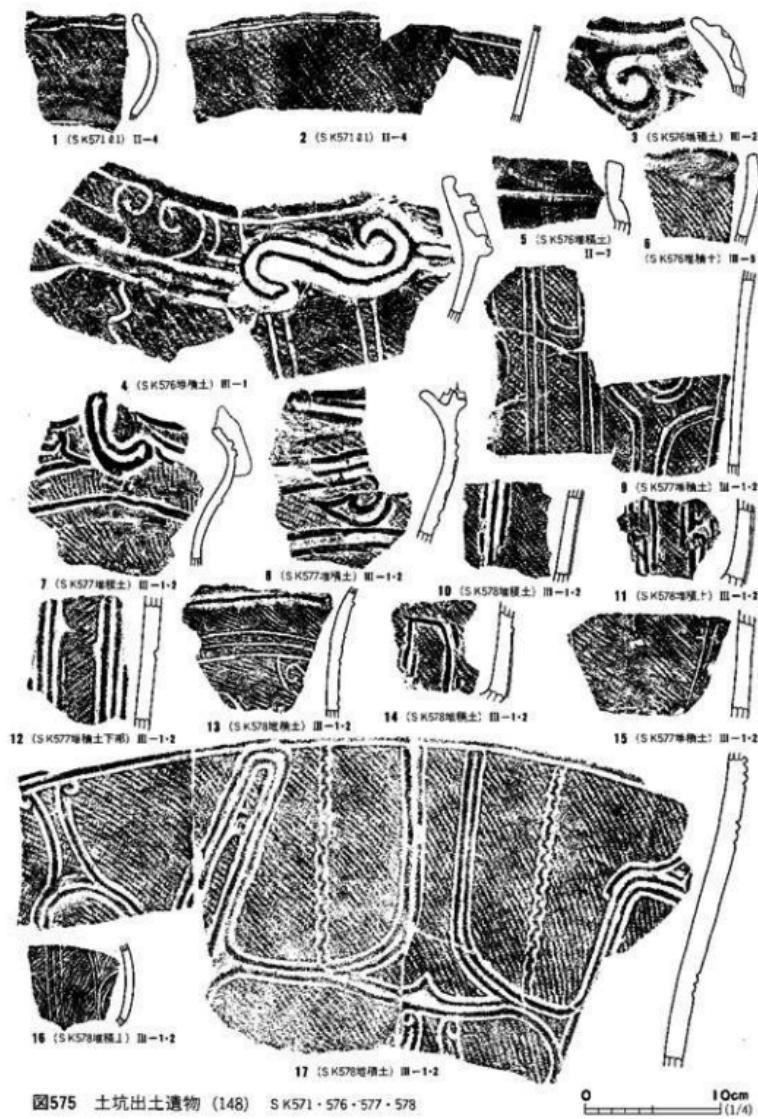


図575 土坑出土遺物 (148) S.K571・576・577・578

0 10cm  
(1/4)

第3節 土 坑

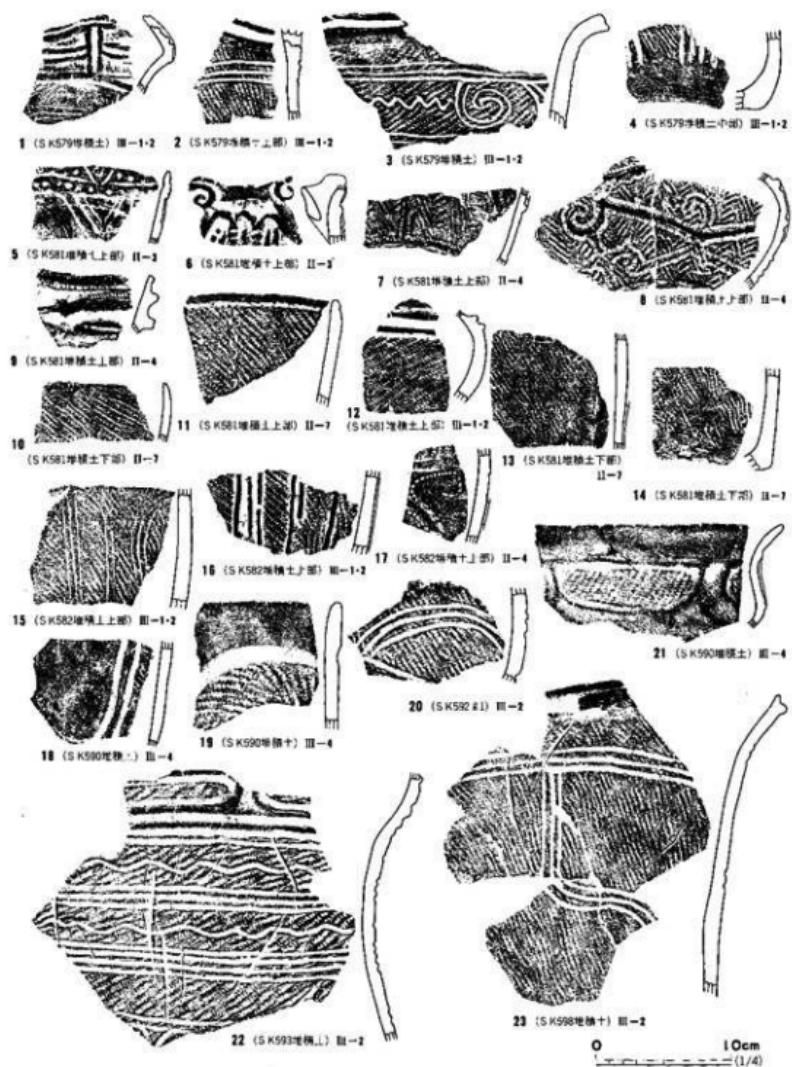


図576 土坑出土遺物 (149) SK579・581・582・590・592・593・598

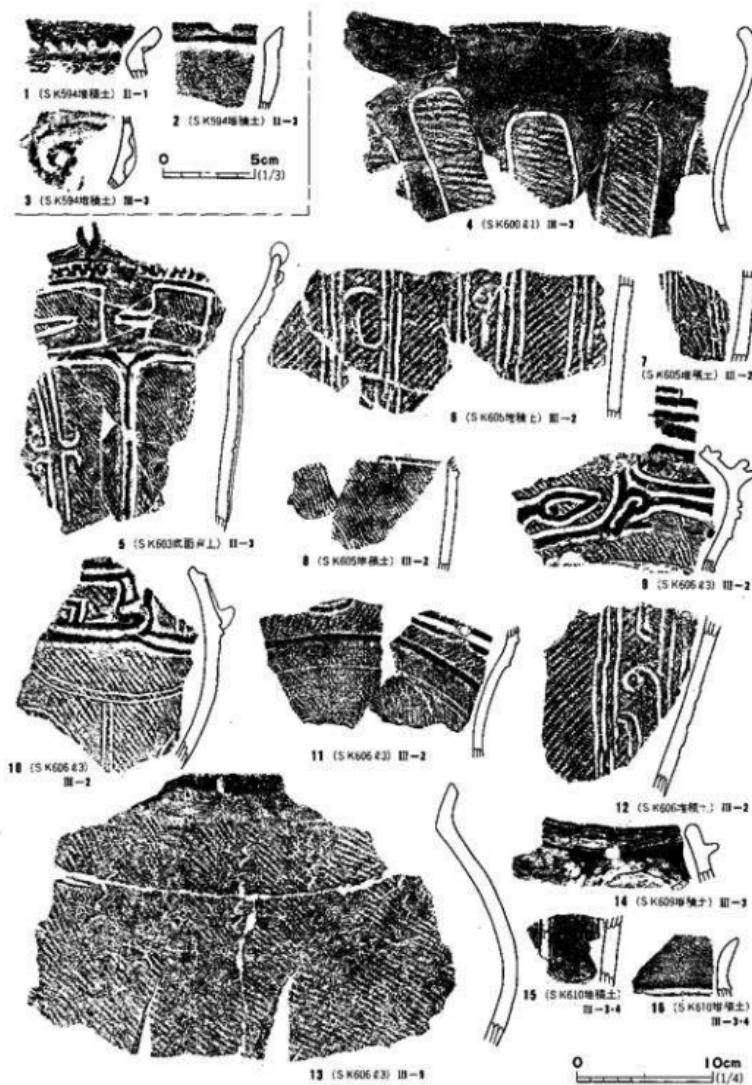


図577 土坑出土遺物 (150) SK594・600・603・605・606・609・610

第3節 土 坑

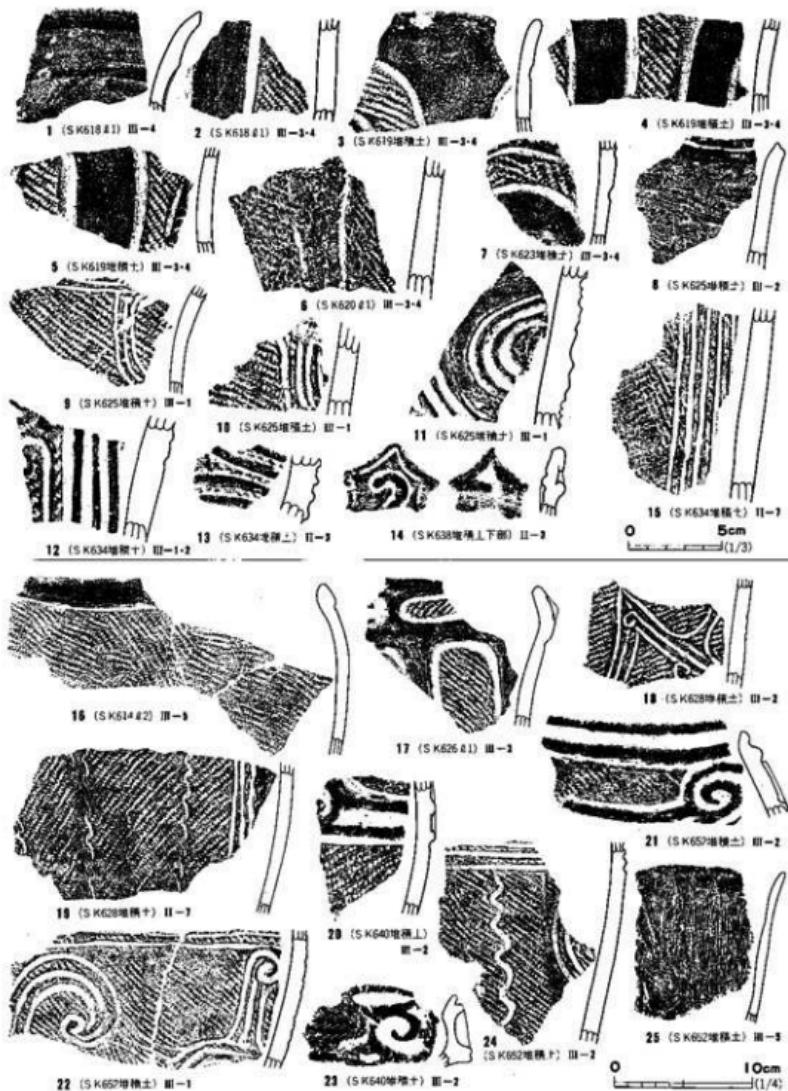


図578 土坑出土遺物 (151) S K614~618~620~623~625~626~628~634~638~640~652

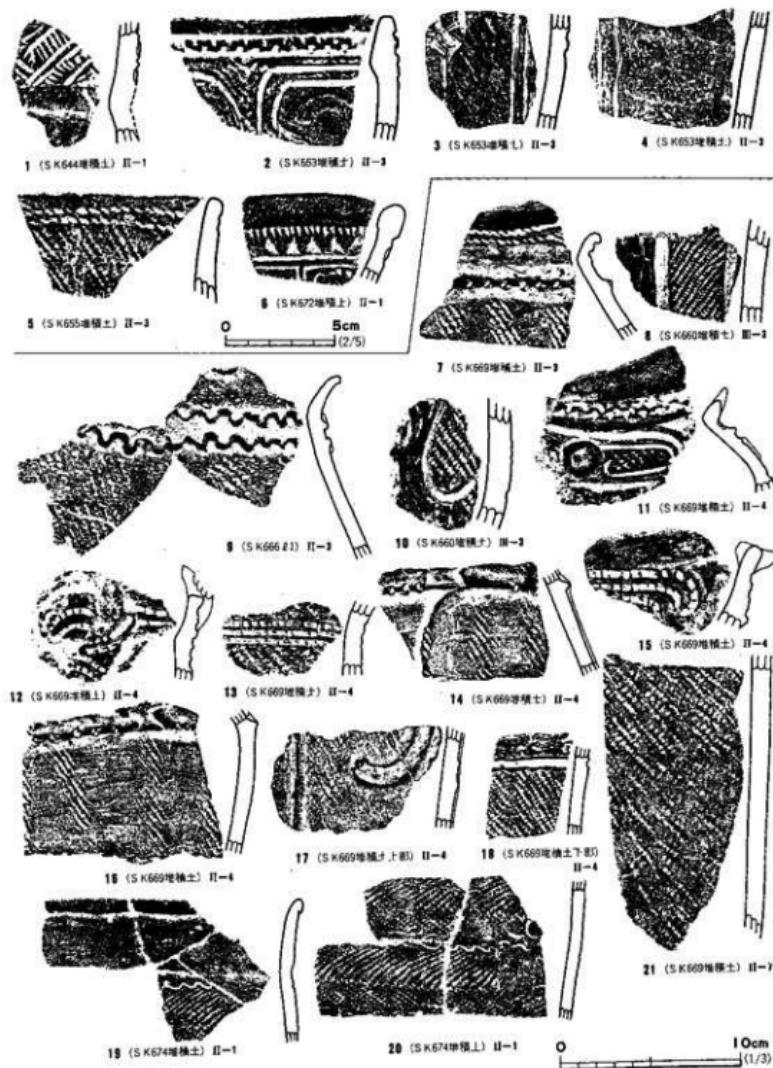


図579 土坑出土遺物 (152) SK644・653・655・660・666・669・672・674

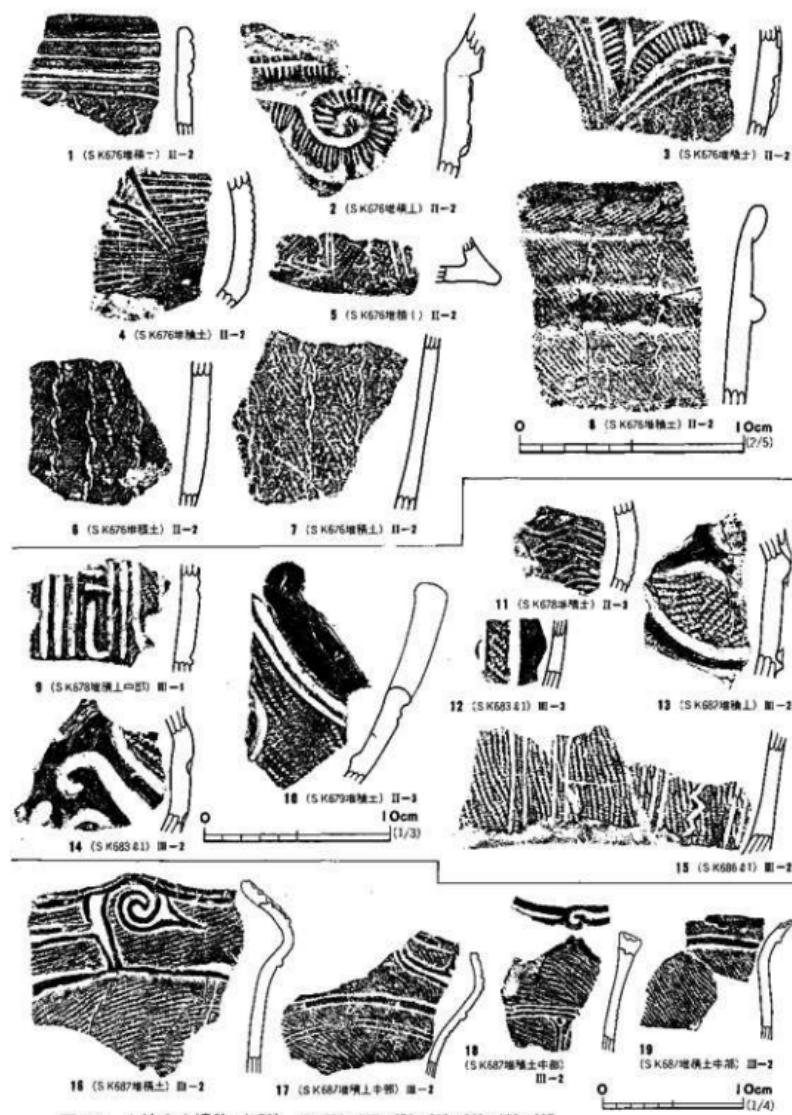


図580 土坑出土遺物 (153) S K576・578・579・682・683・685・687

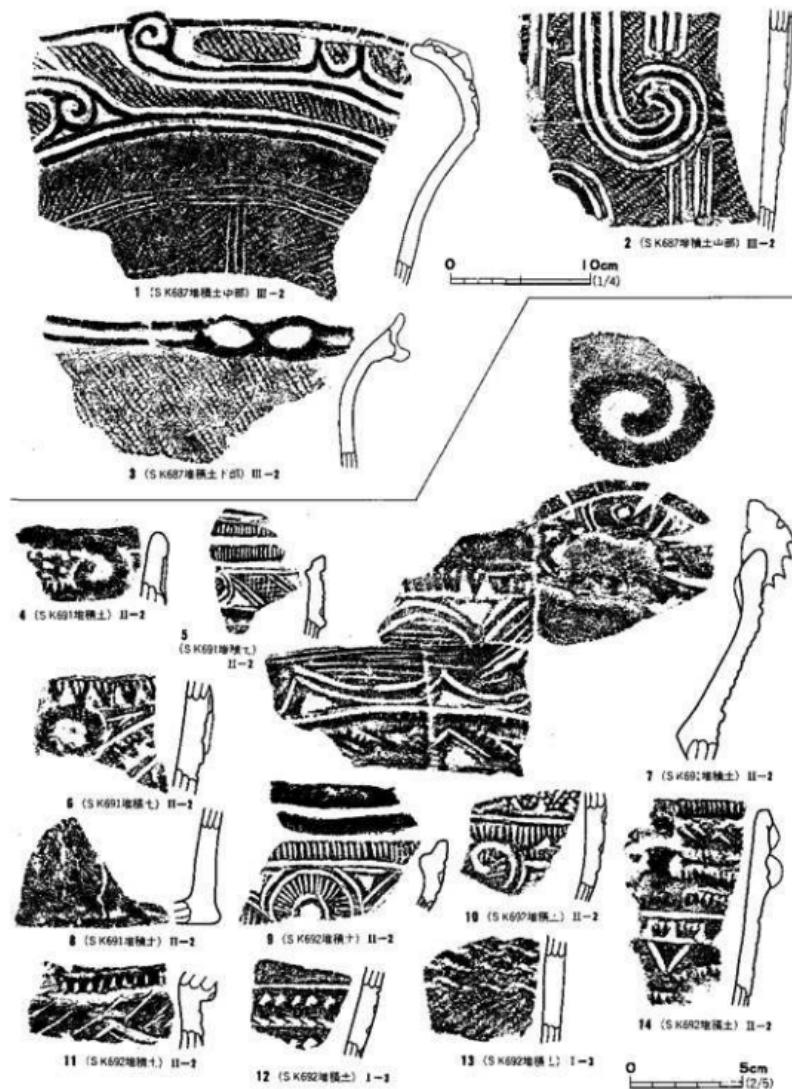


図581 土坑出土遺物 (154) S K687・691・692

第3節 土 坑

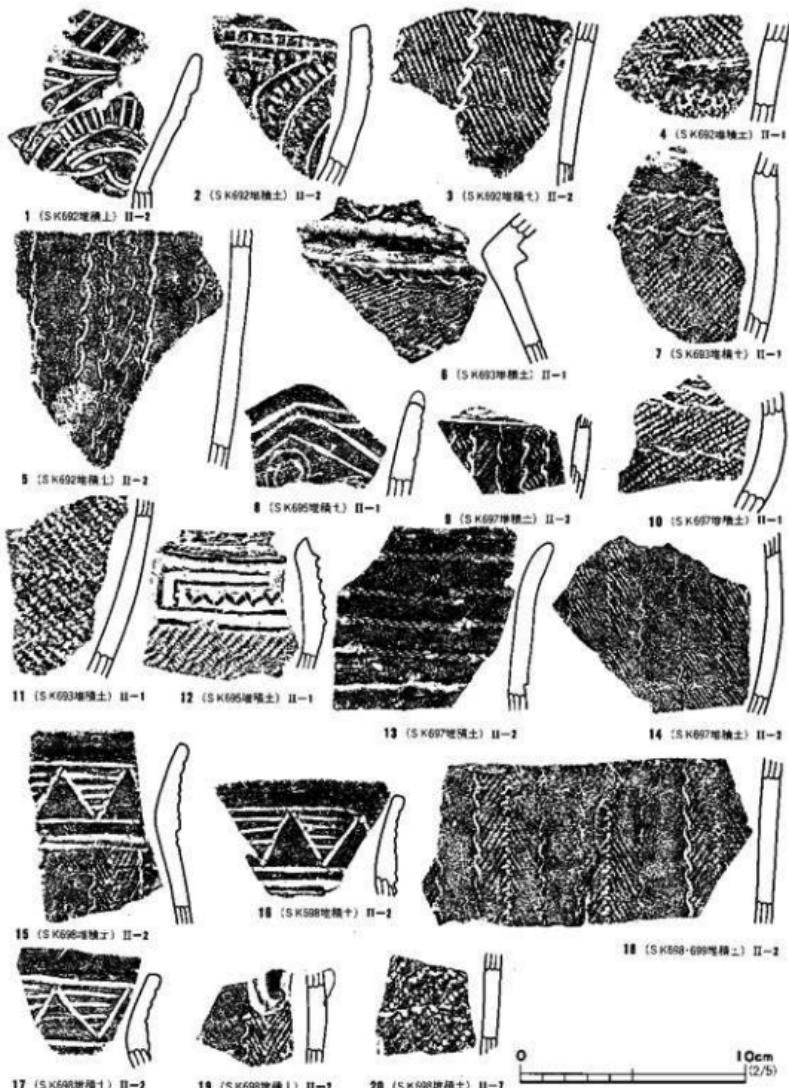
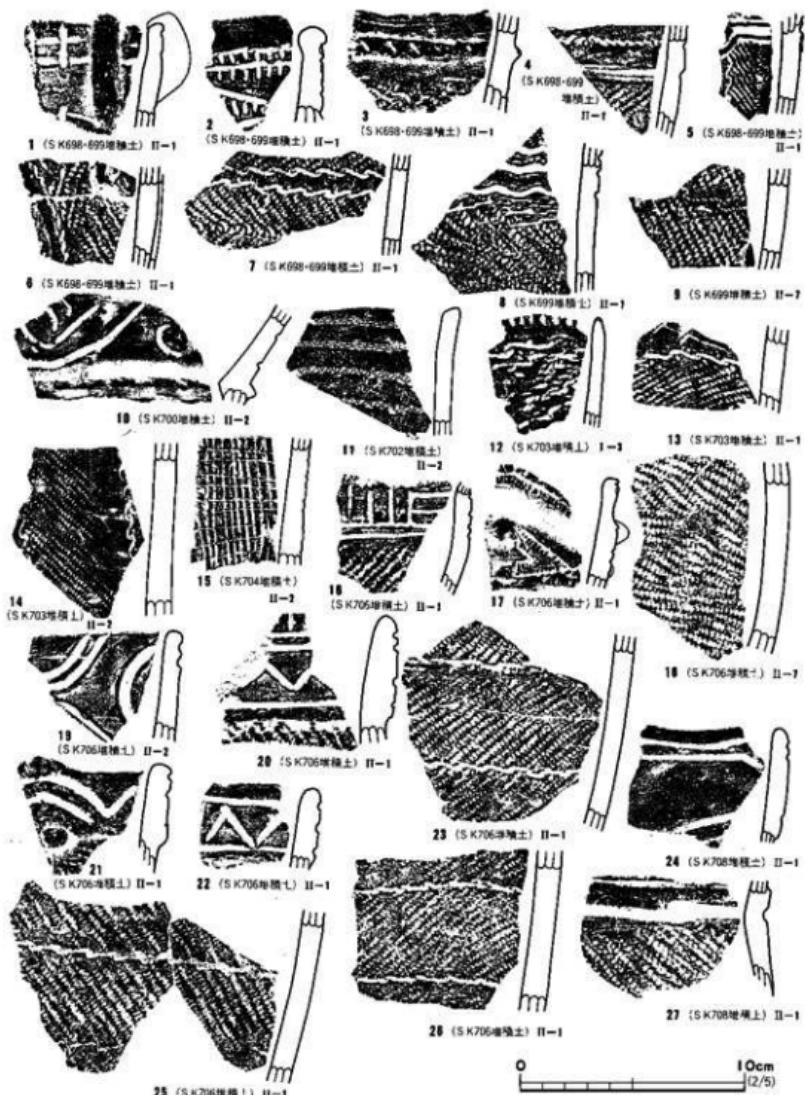


圖582 土坑出土遺物 (155) SK692・693・695・697～699



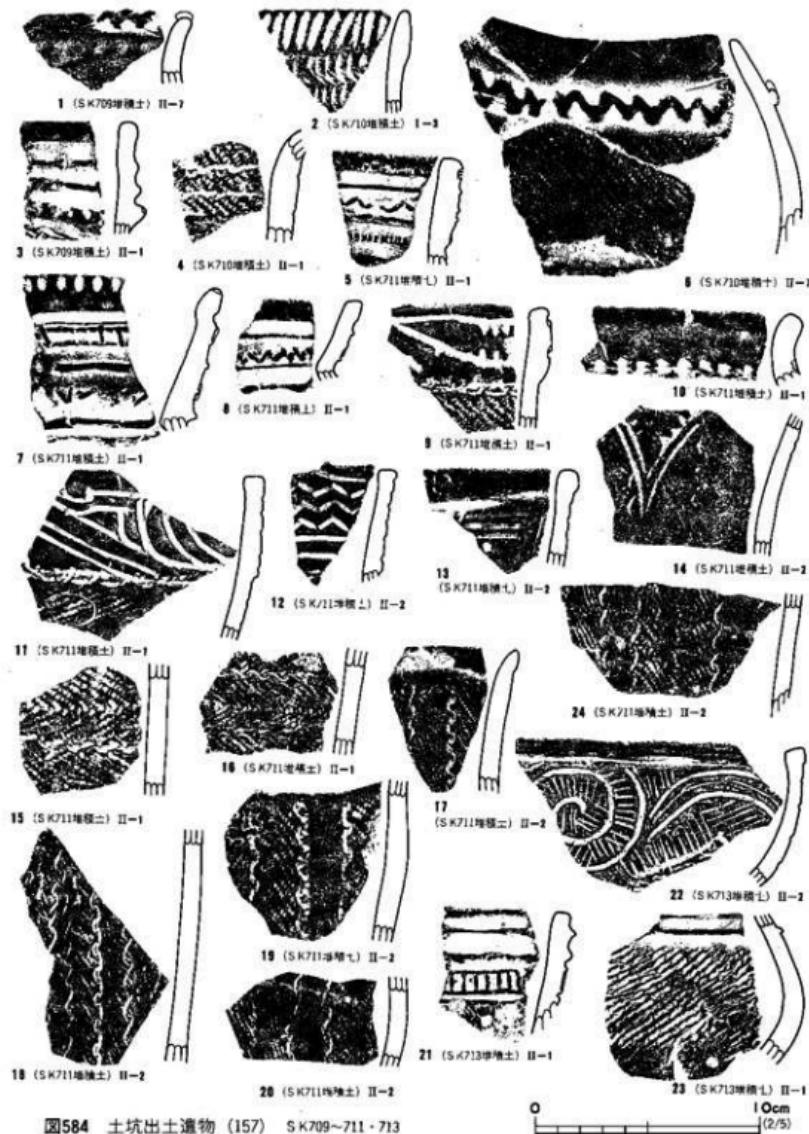


図584 土坑出土遺物 (157) SK709~711 · 713

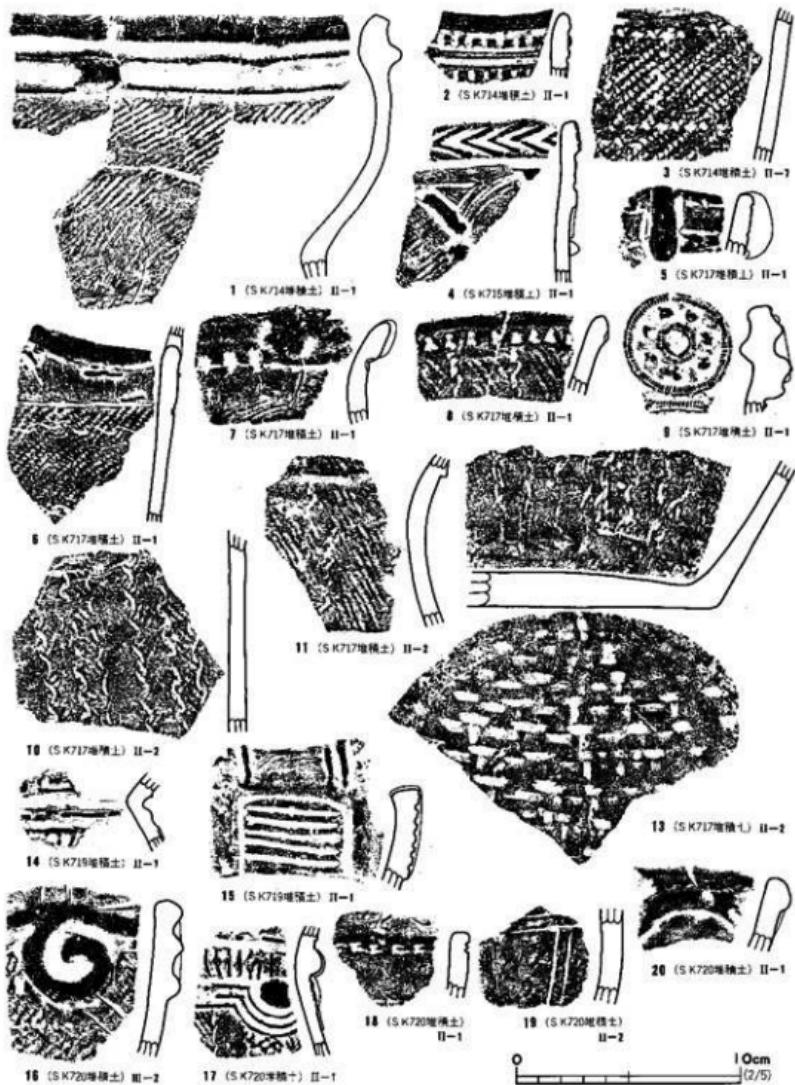


図585 土坑出土遺物 (158) SK714・715・717・719・720

第3期 土 坑

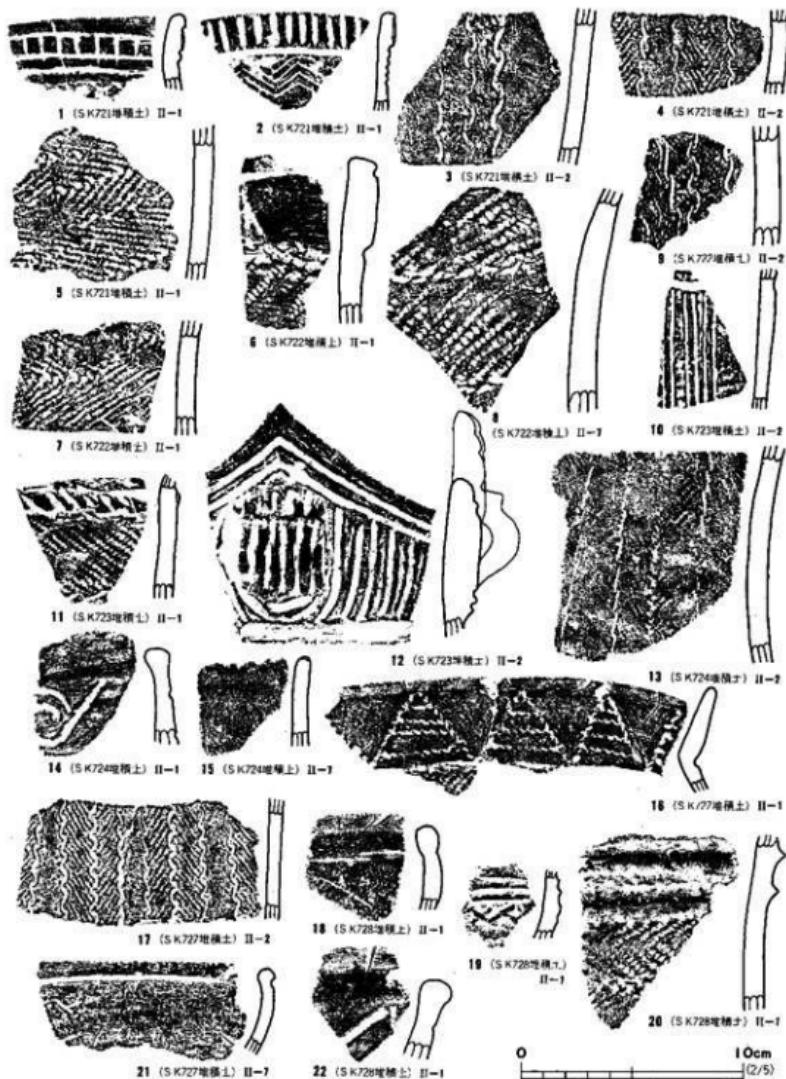


图586 土坑出土遗物 (159) SK721~724·727·728

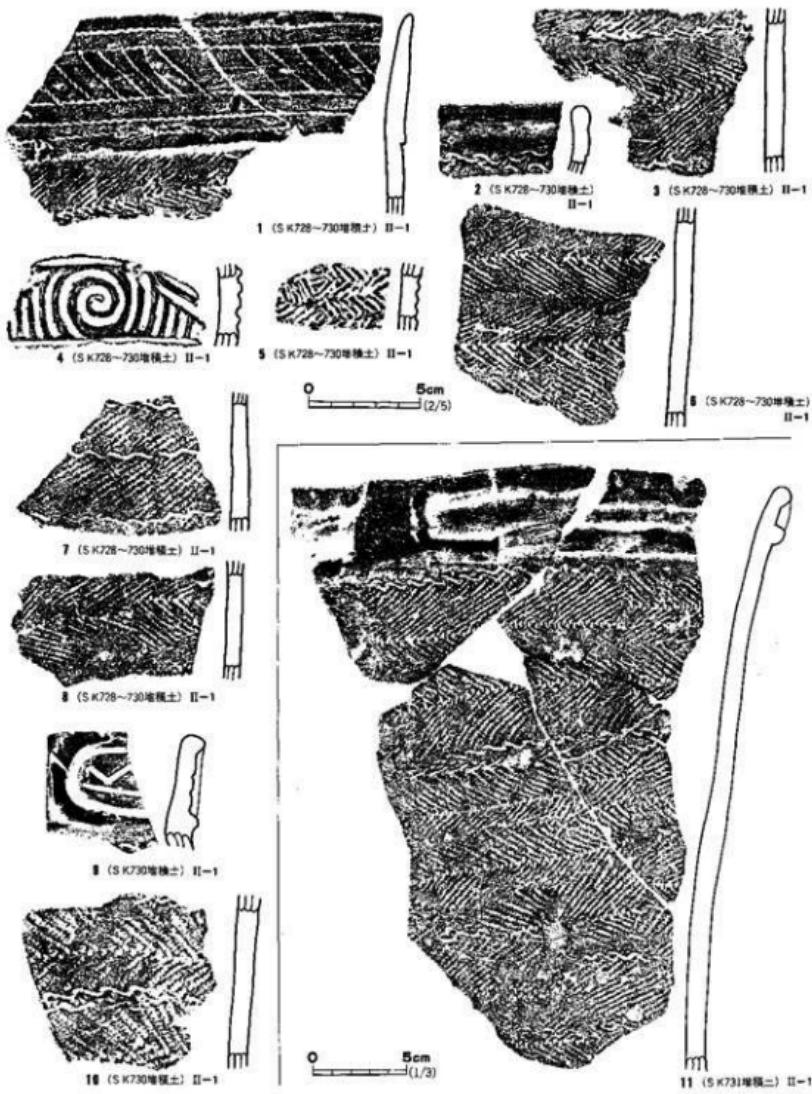


図587 土坑出土遺物 (160) SK728~731

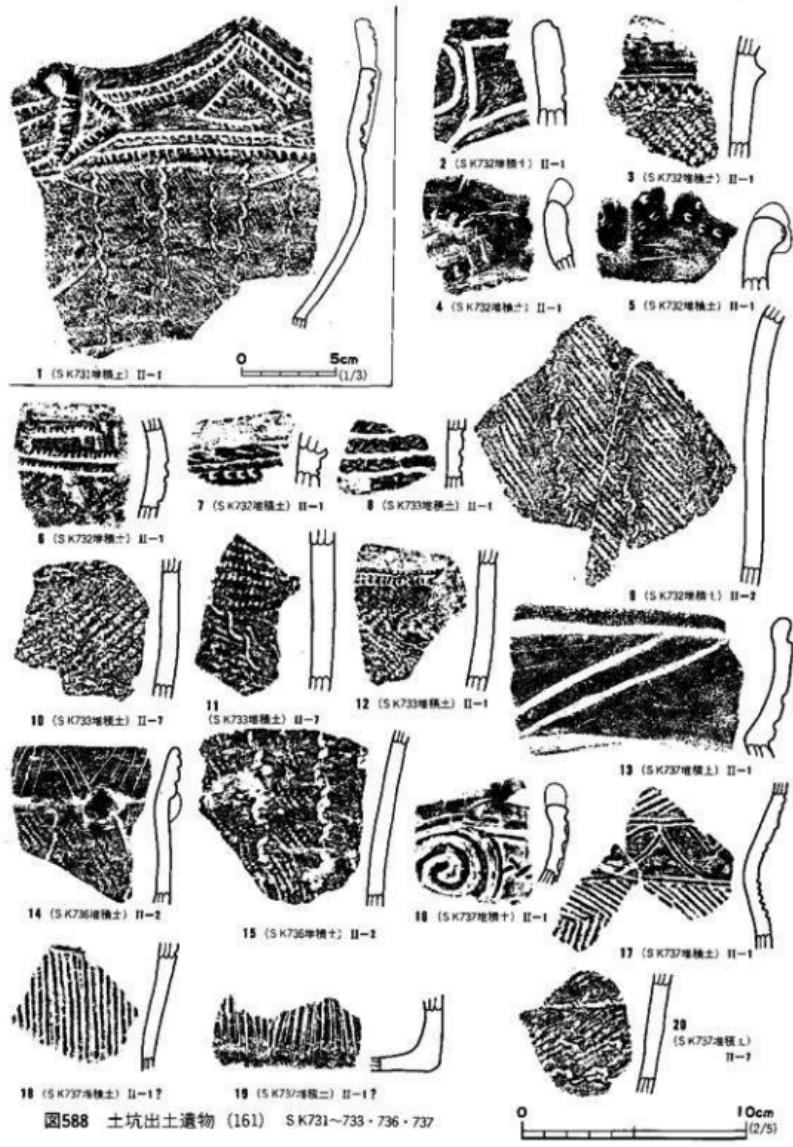


図588 土坑出土遺物 (161) SK731~733・736・737

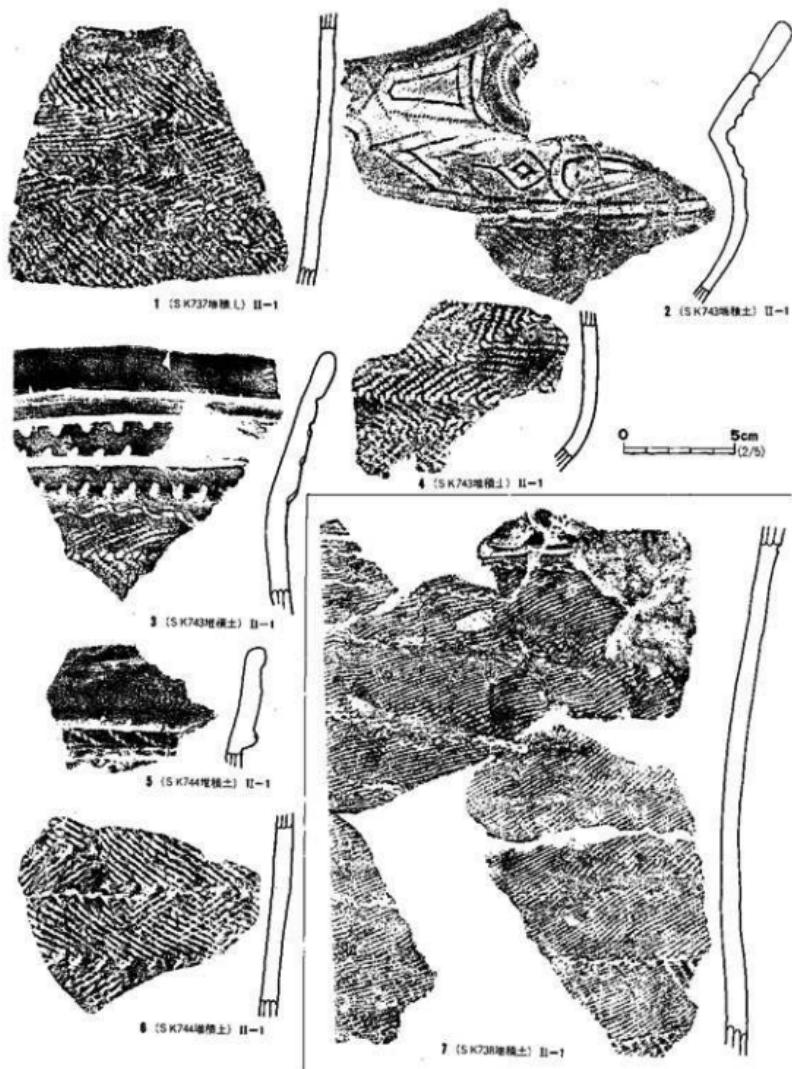


図589 土坑出土遺物 (162) S K737・738・743・744

0 5cm  
(1/3)

第3章 土 坑

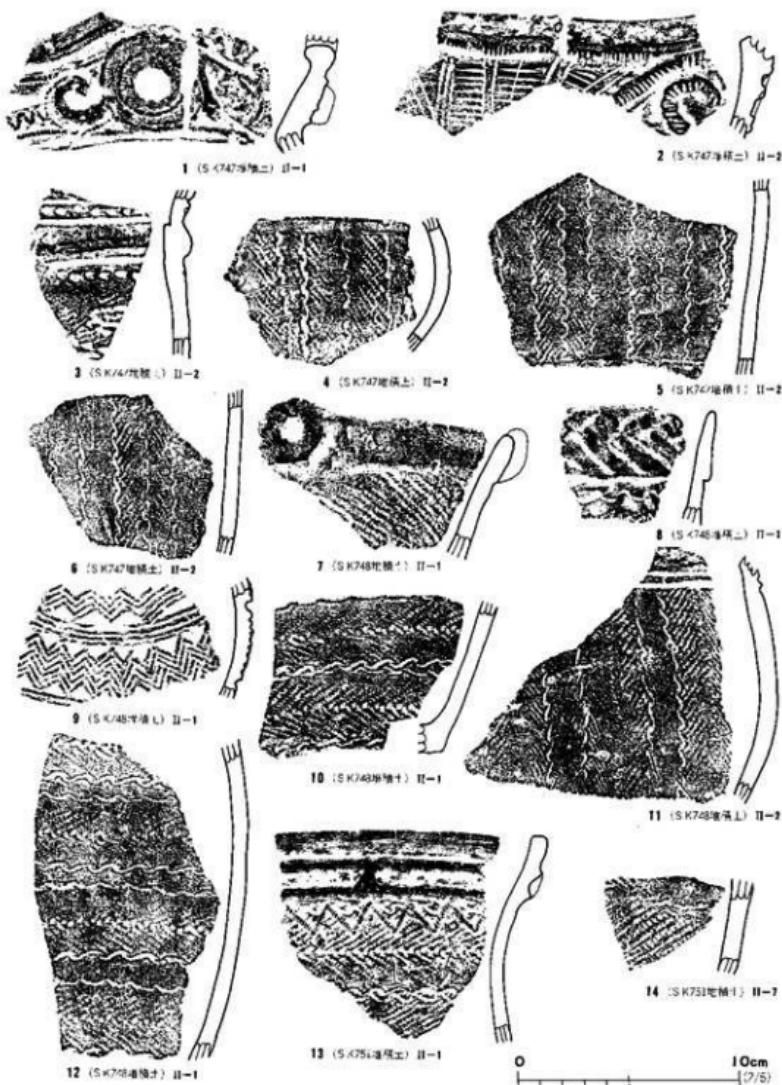


图590 土坑出土遗物 (163) SK747·748·751

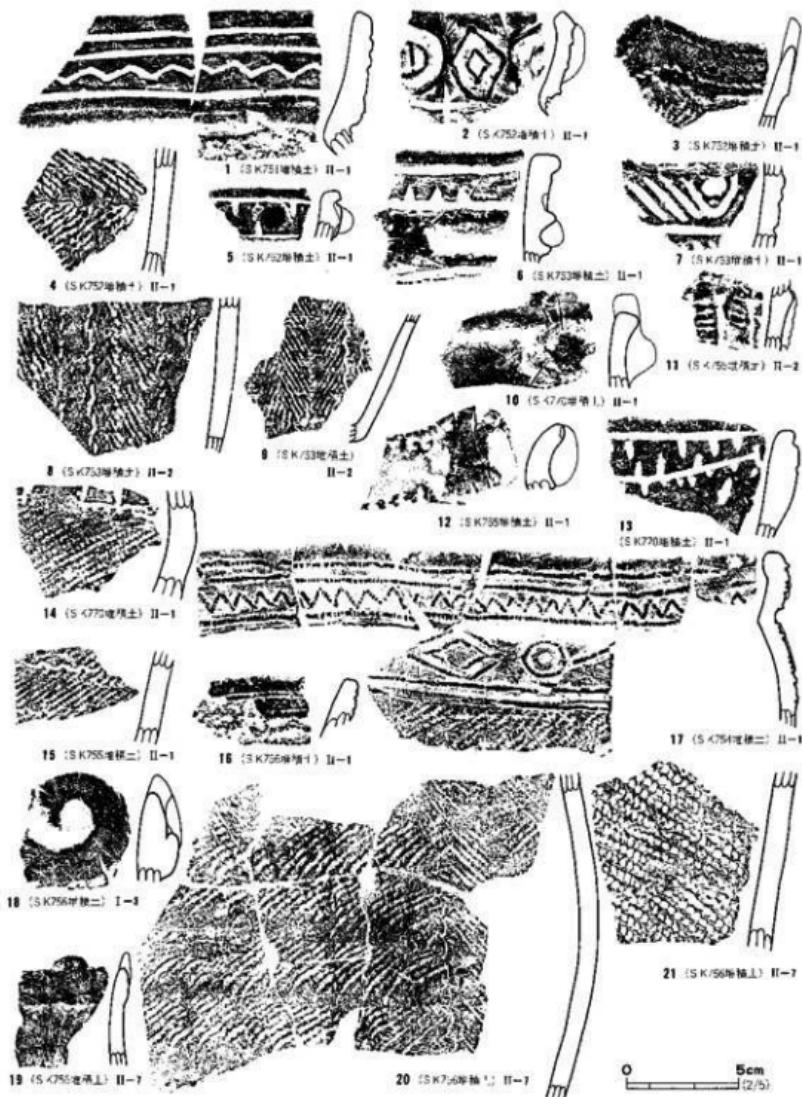


図591 土坑出土遺物 (164) SK751~756 7/0

第3節 土坑

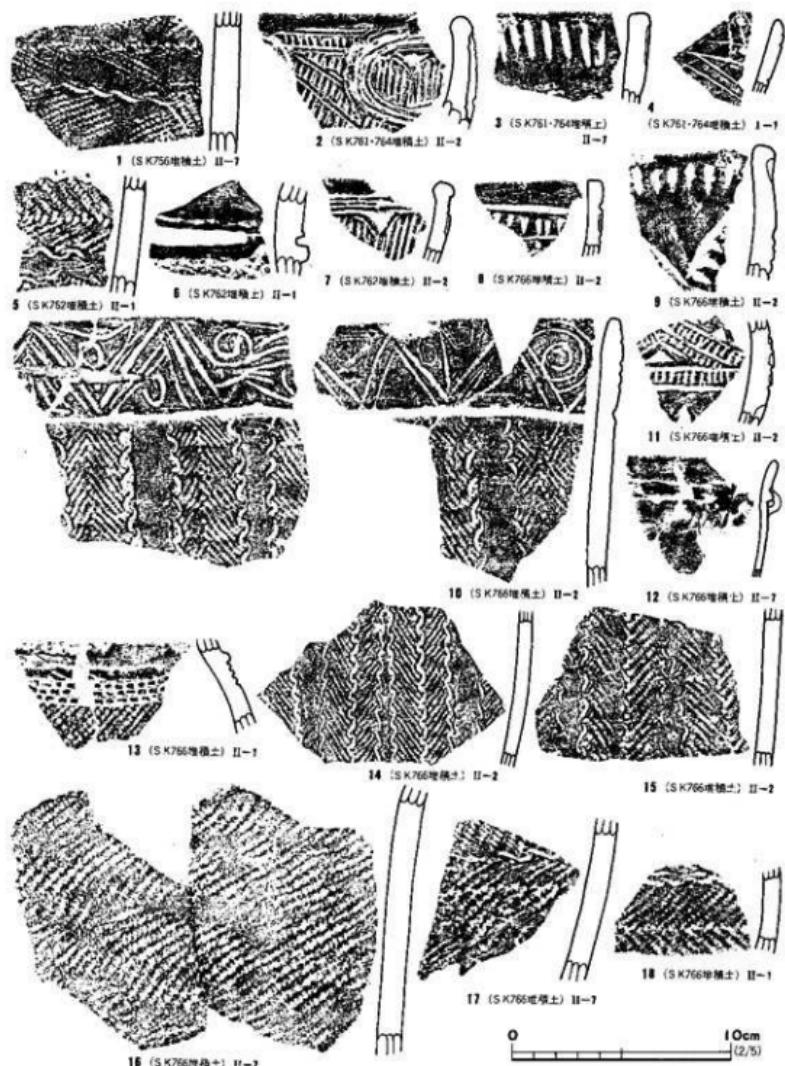


図592 土坑出土遺物 (165) S K756・761・762・764・766

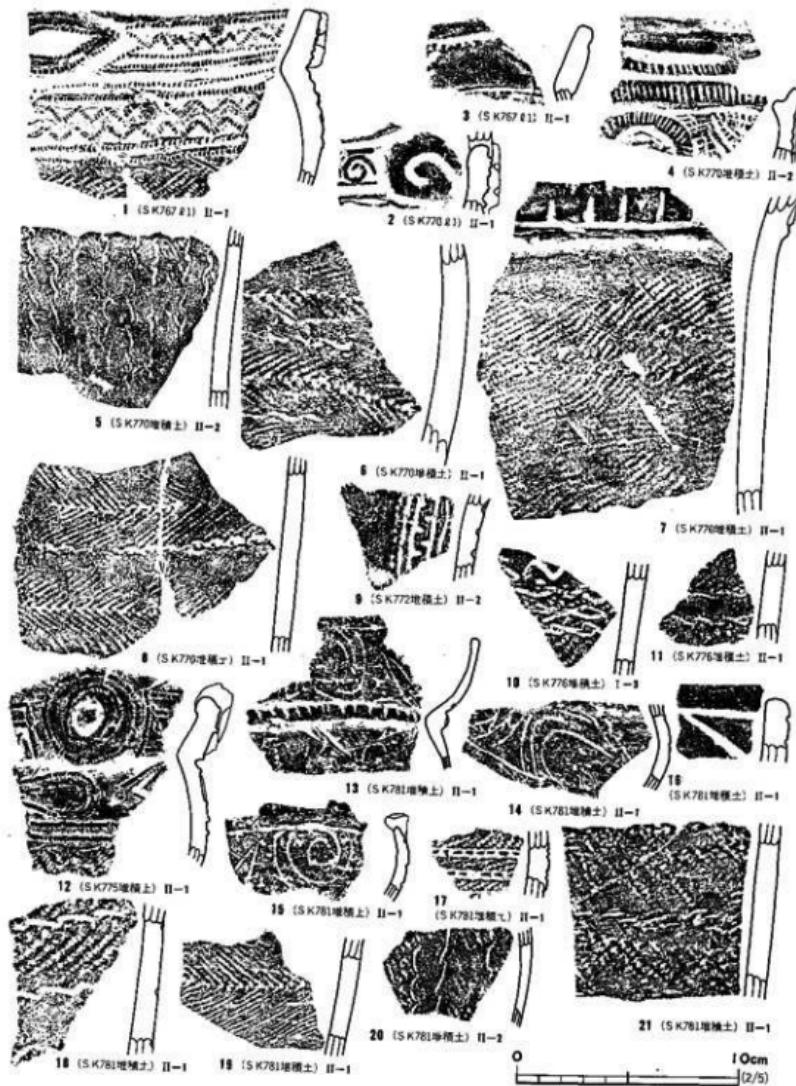


図593 土坑出土遺物 (166) SK767・770・772・775・776・781

第3節 土 坑

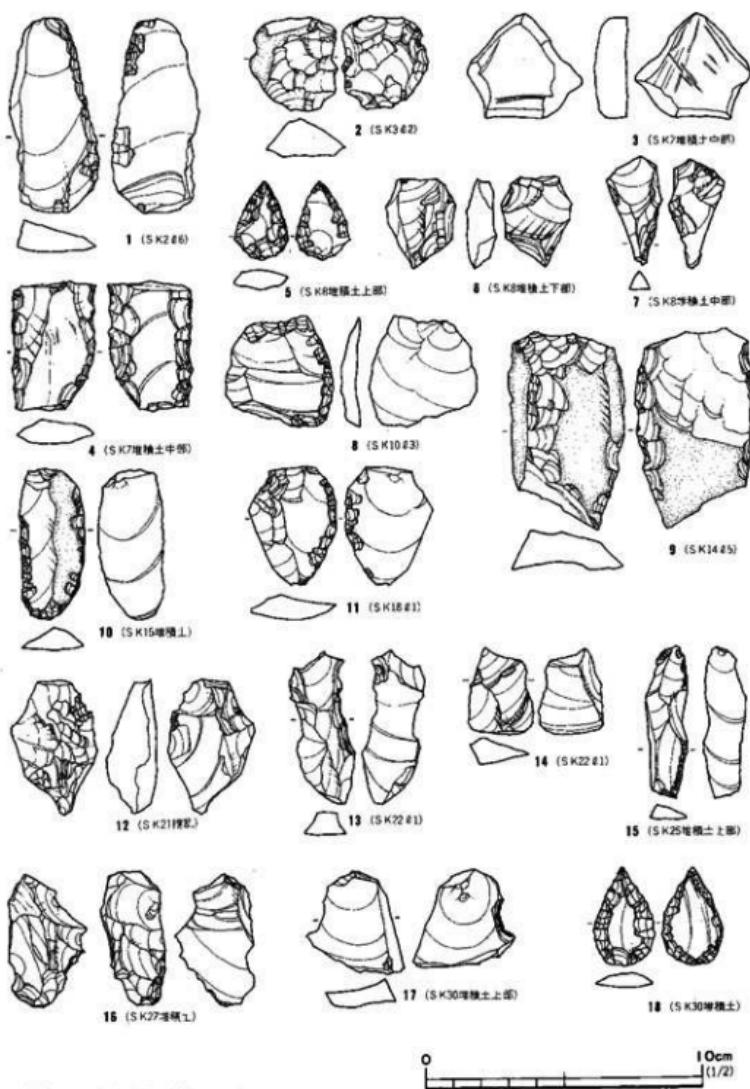


図594 土坑出土遺物 (167) SK2・3・7・8・10・14・15・18・21・22・25・27・30

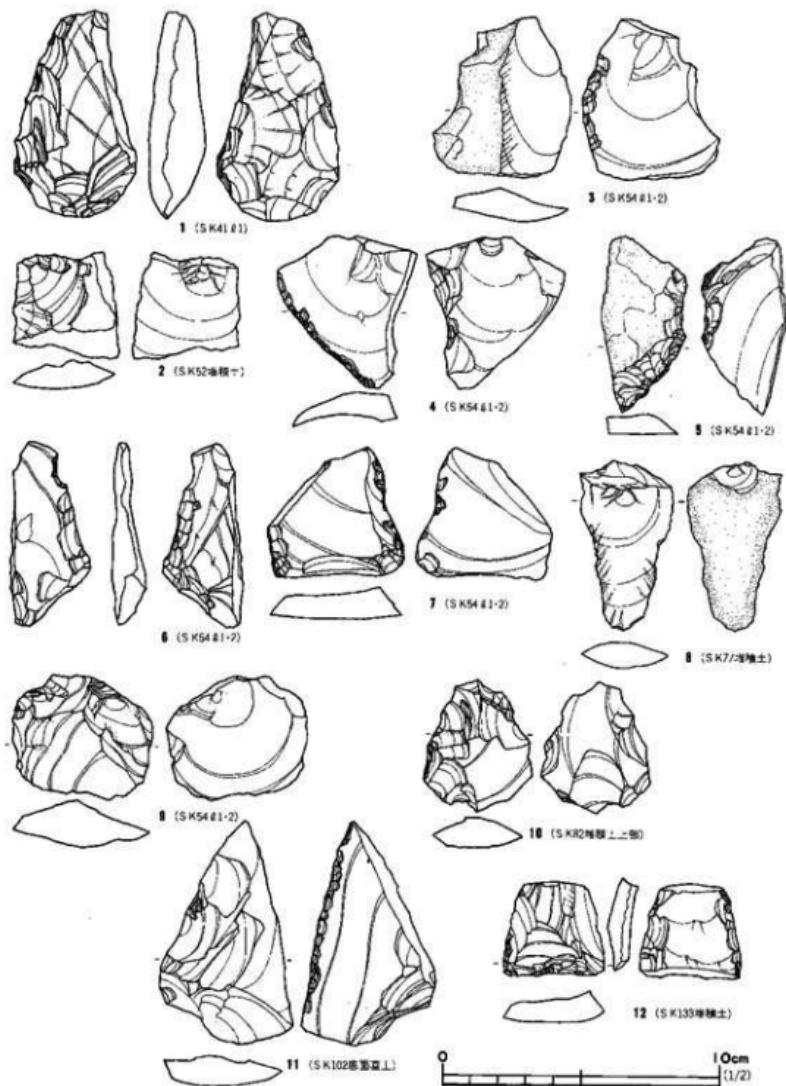


図595 土坑出土遺物 (168) SK41・52・54・77・82・102・133

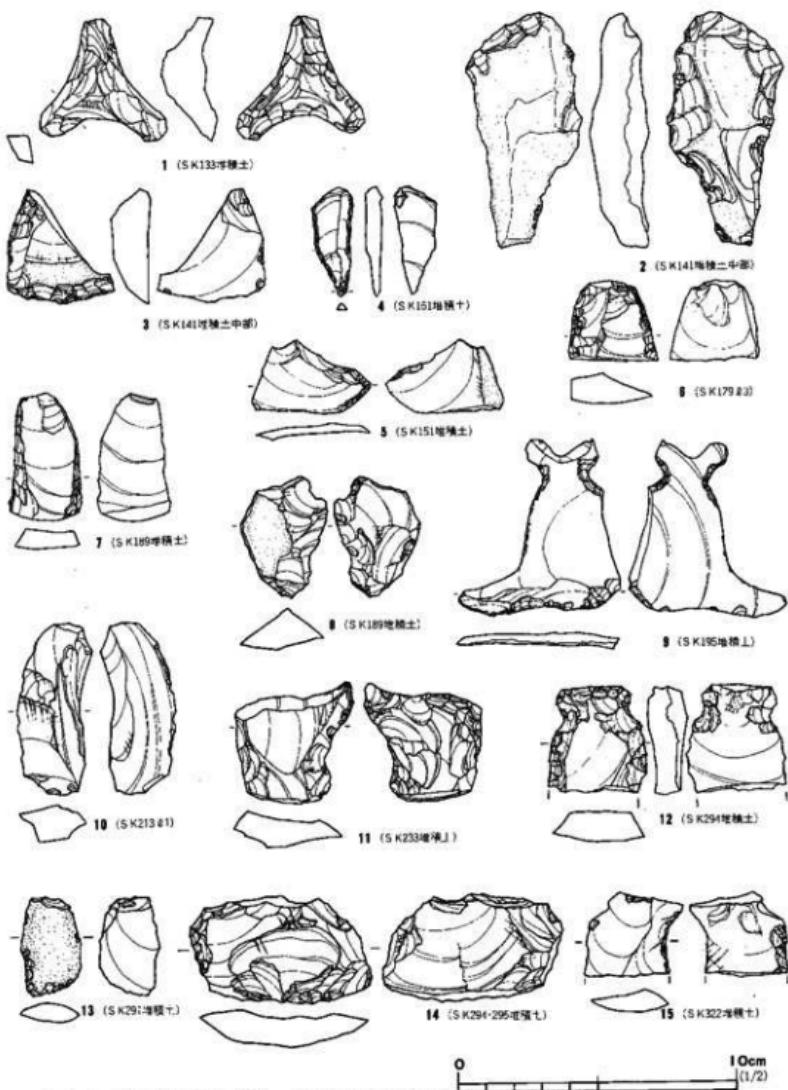


図596 土坑出土遺物 (169) SK133-141-151-179-189-195-213-233-291-294-295-322

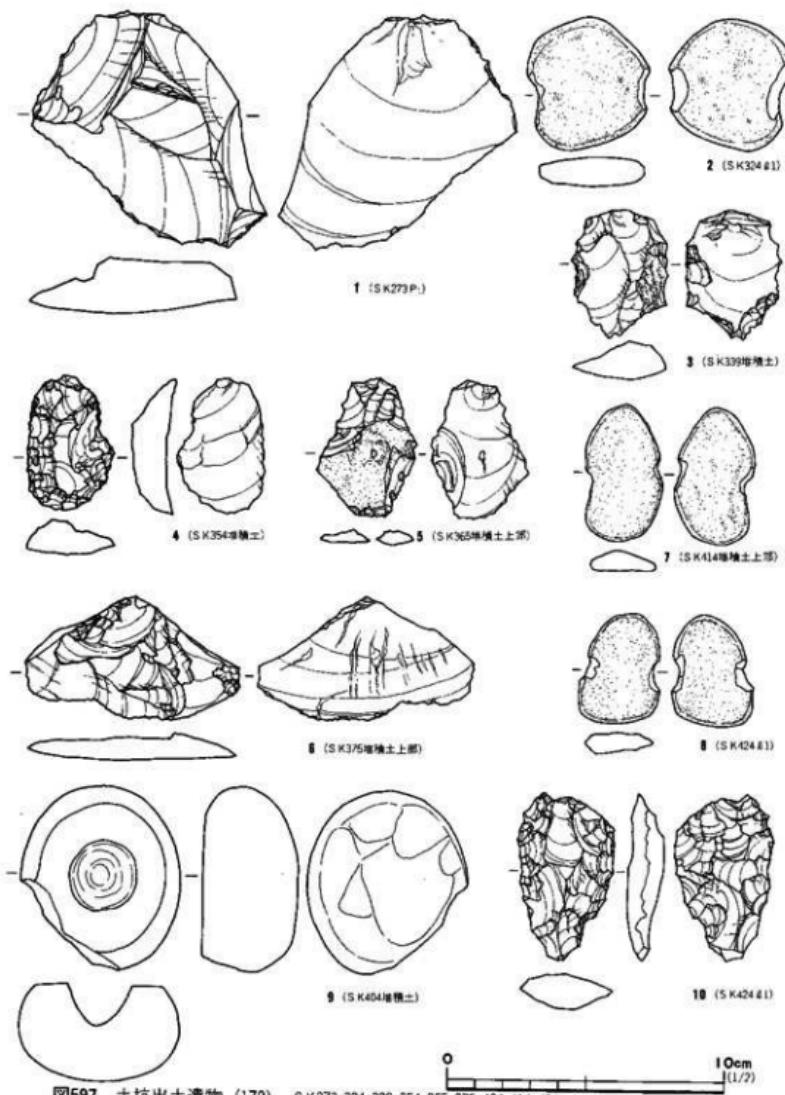


図597 土坑出土遺物 (170) SK273-324-339-354-365-375-404-414-424

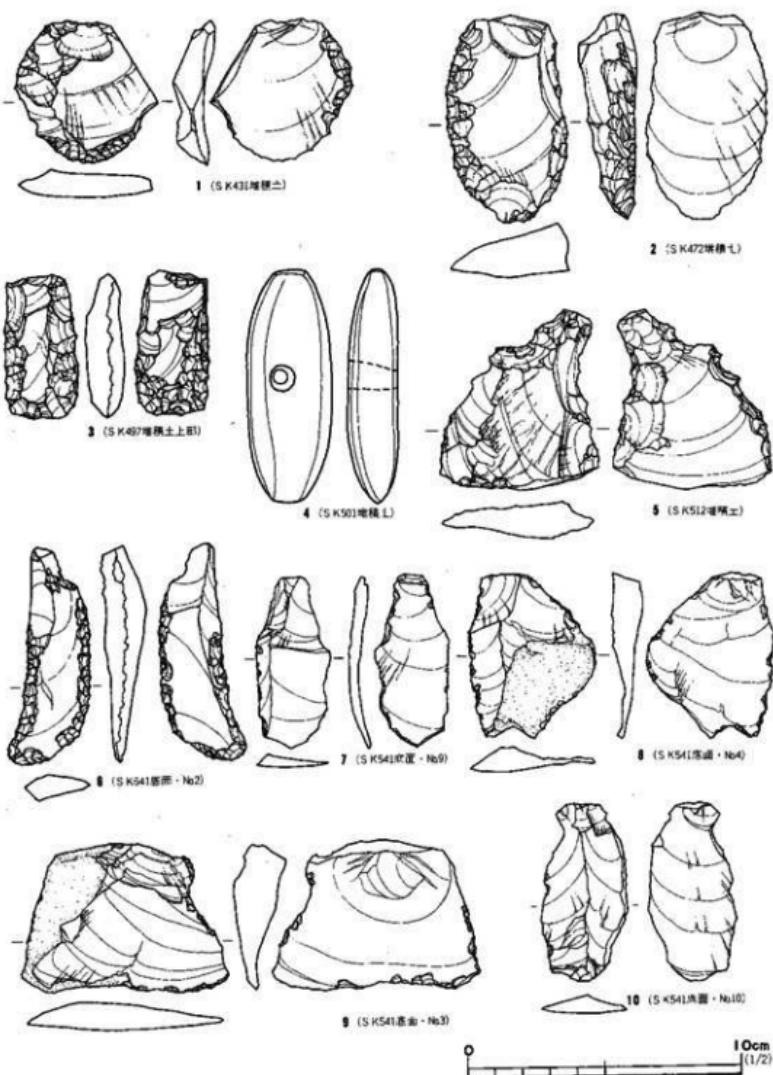


図598 土坑出土遺物 (171) SK431・472・497・501・512・541

第2章 遺構と遺物

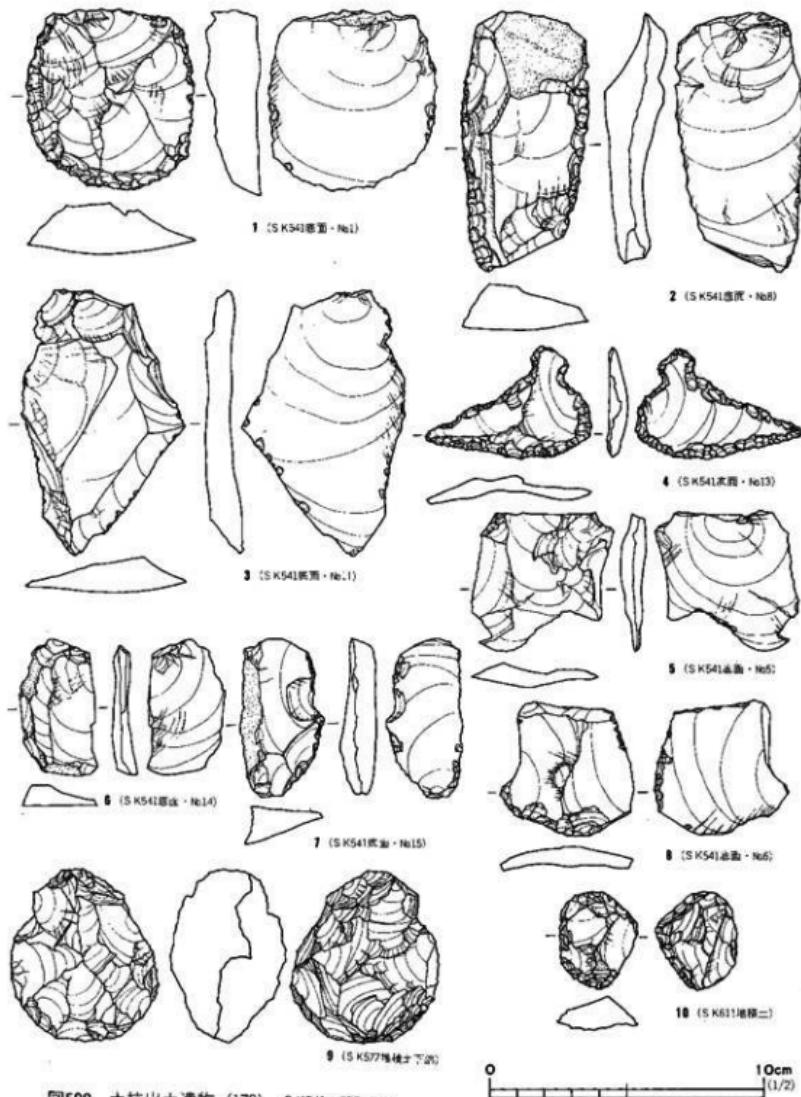


図599 土坑出土遺物 (172) SK541・577・611

第3節 土坑

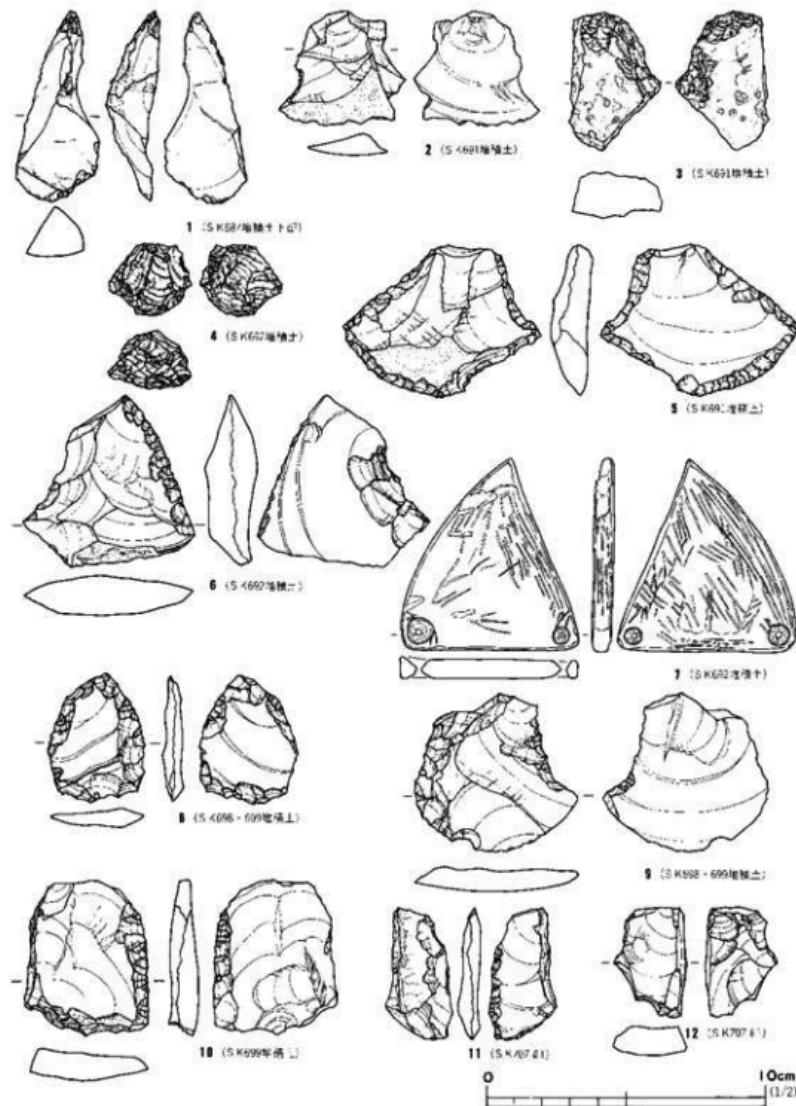
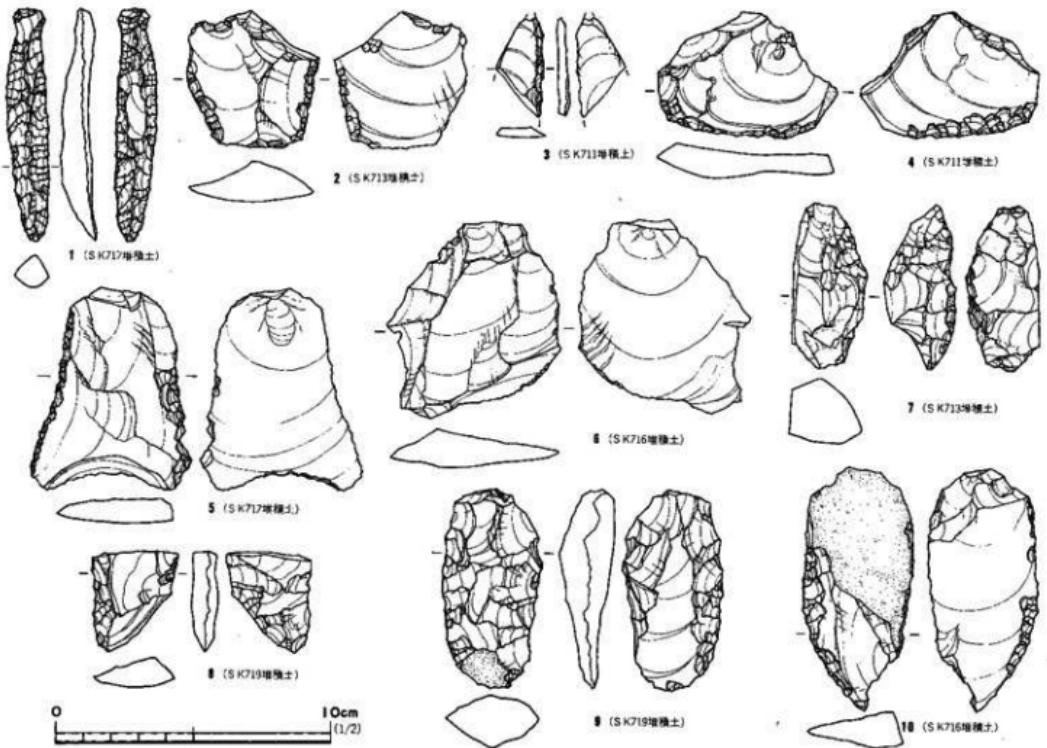


図600 土坑出土遺物 (173) SK687・691・692・698・699・707

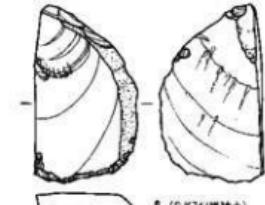
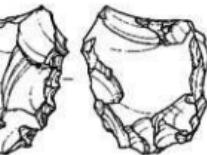
図601 土坑出土遺物 (174) SK711・713・715・717・719



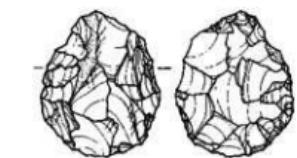
4 (SK720堆積土)



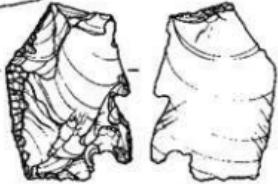
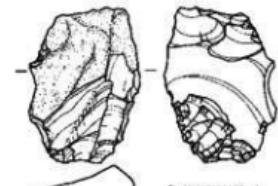
3 (SK721堆積土)



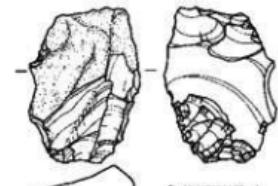
6 (SK740堆積土)



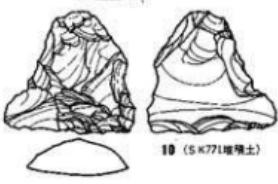
7 (SK740堆積土)



7 (SK740堆積土)

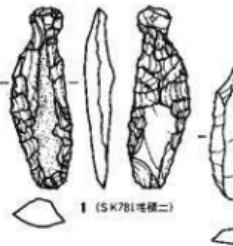


8 (SK752堆積土)



9 (SK752堆積土)

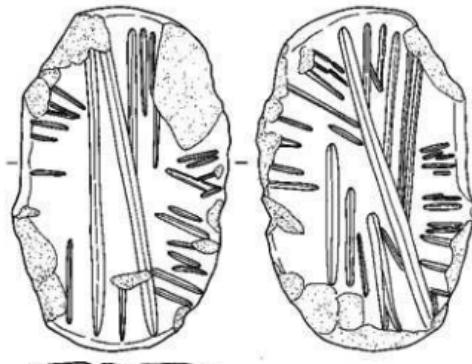
10cm  
(1/2)



1 (SK781堆積土)



2 (SK786堆積土)



5 (SK771堆積土)



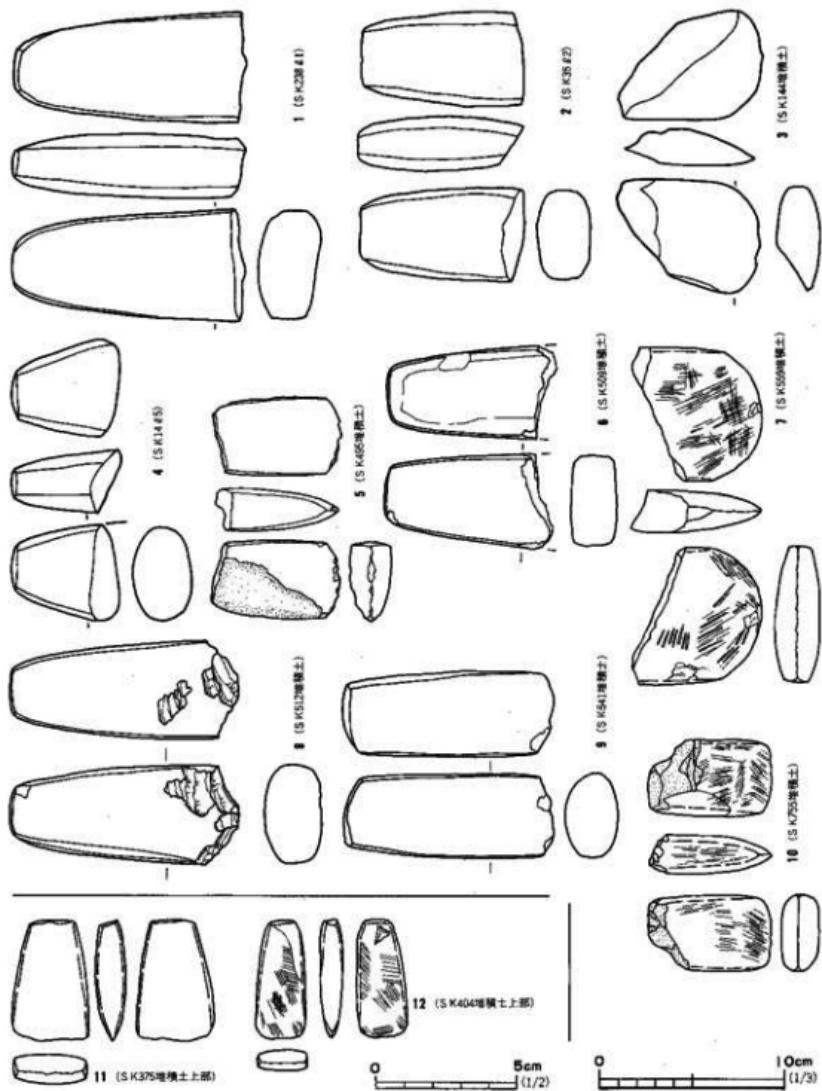


図603 土坑出土遺物 (176) SK14-35・144・238・375・404・495・509・512・541・559・755

第3章 土 坑

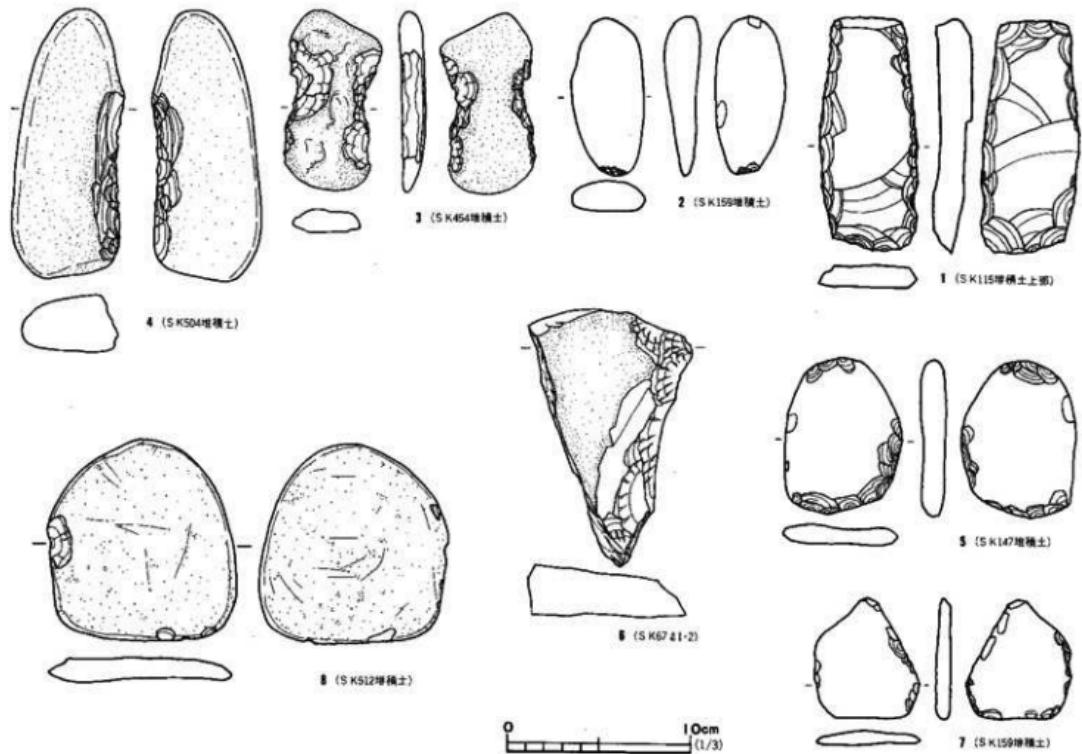
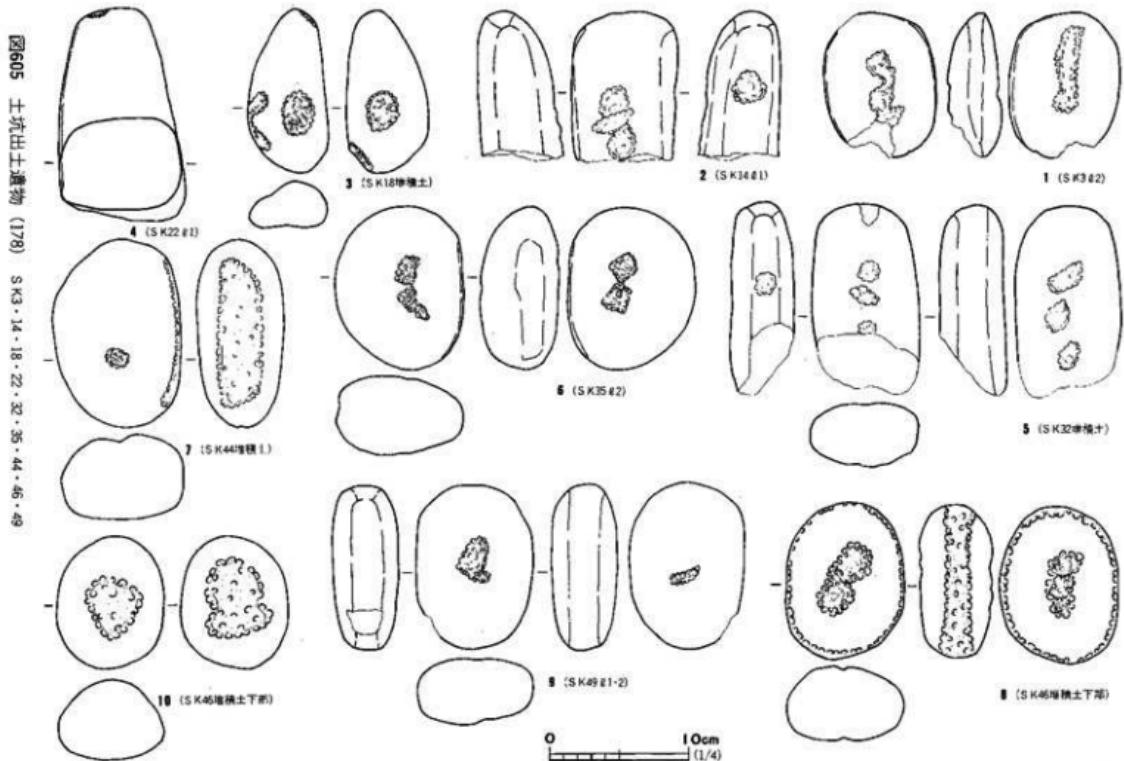


圖604 土坑出土遺物 (177) SK67・115・147・159・454・504・512



第3節 土 坑

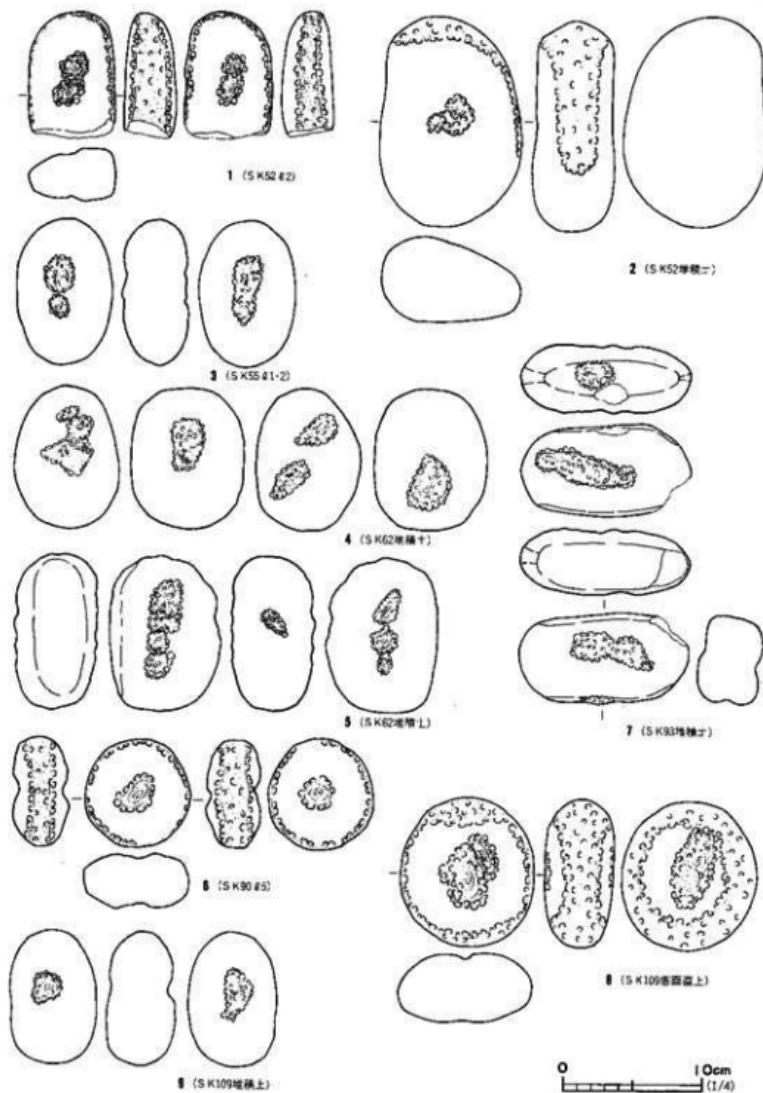


図606 土坑出土遺物 (179) SK52・55・62・90・93・109

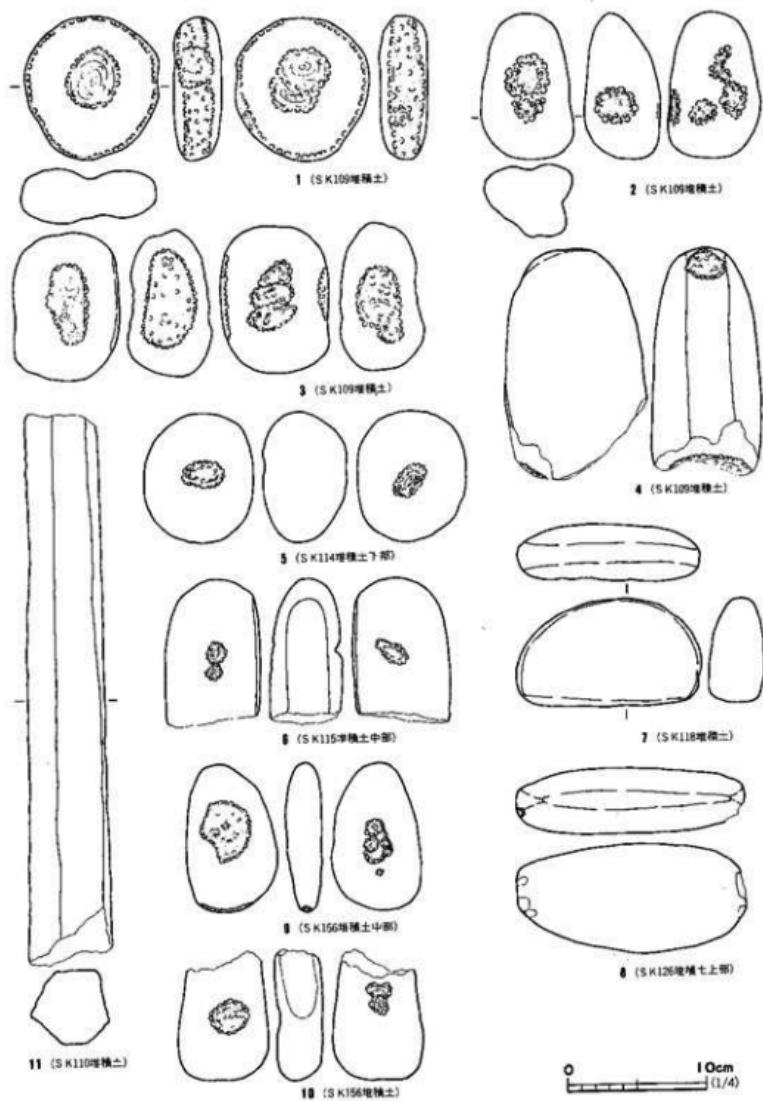


図607 土坑出土遺物 (180) SK109・110・114・115・118・126・156

第3節 土坑

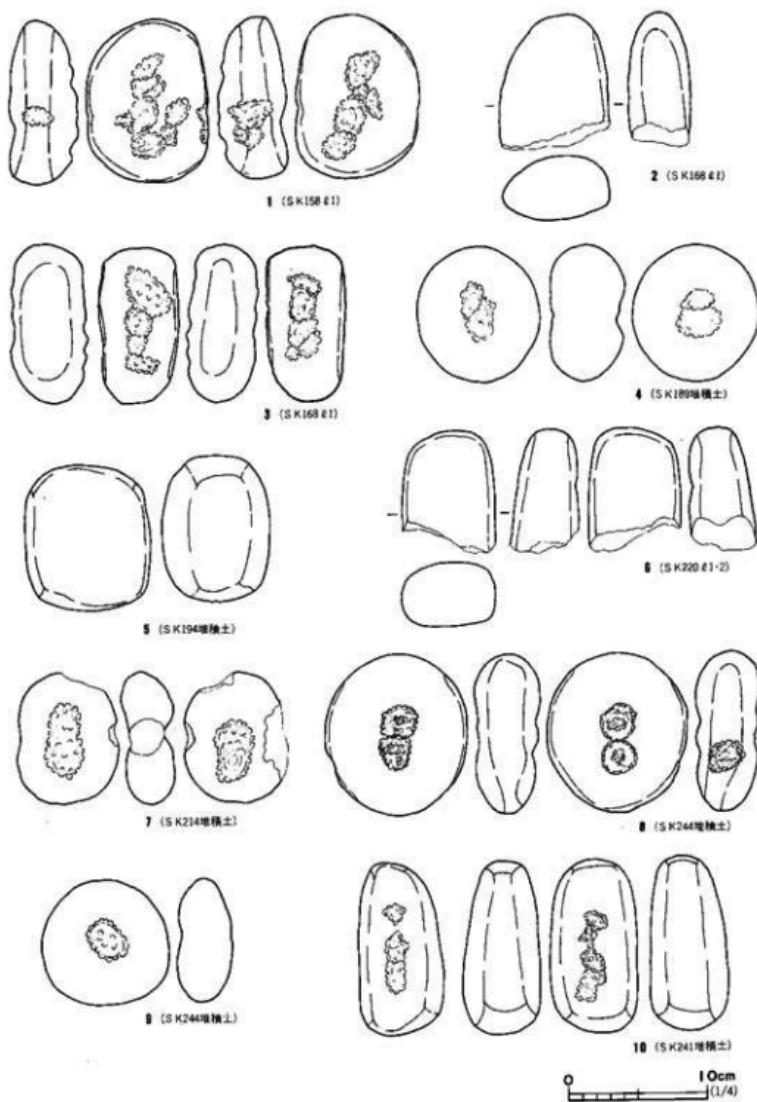


図608 土坑出土遺物 (181) SK158・168・189・194・214・220・241・244

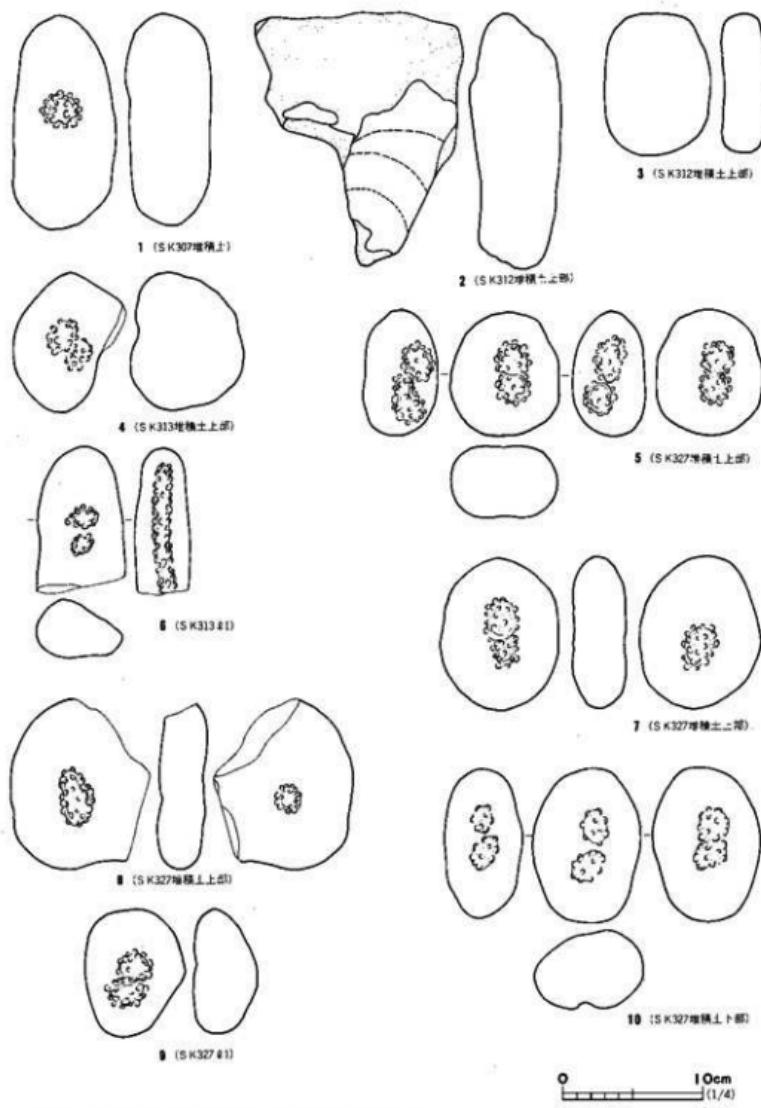


図609 土坑出土遺物 (182) SK307・312・313・327

第3節 土 坑

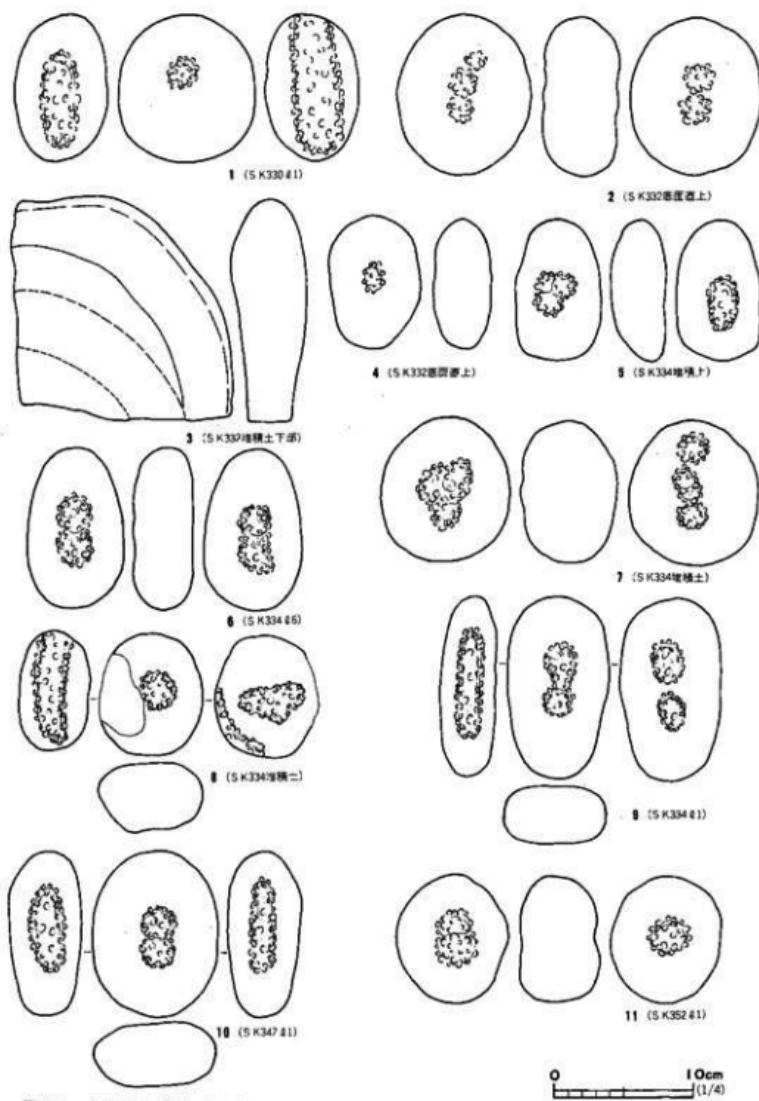


図610 土坑出土遺物 (183) SK330・332・334・347・352

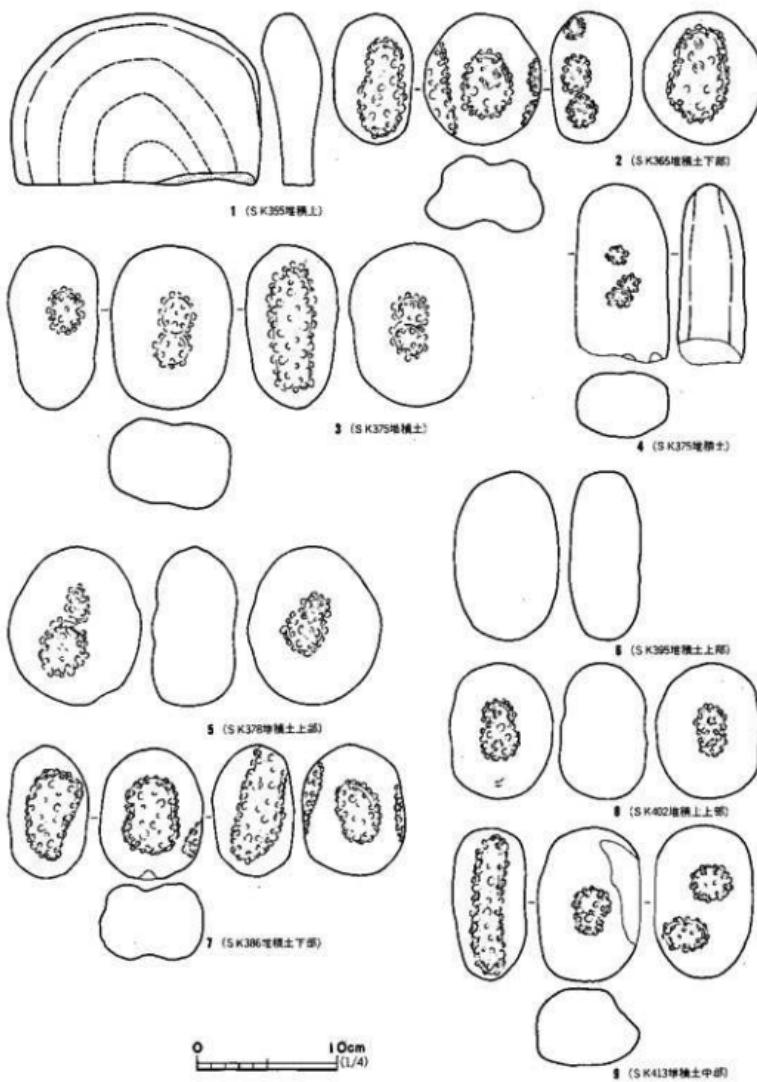


図611 土坑出土遺物 (184) SK355・365・375・378・386・395・402・413

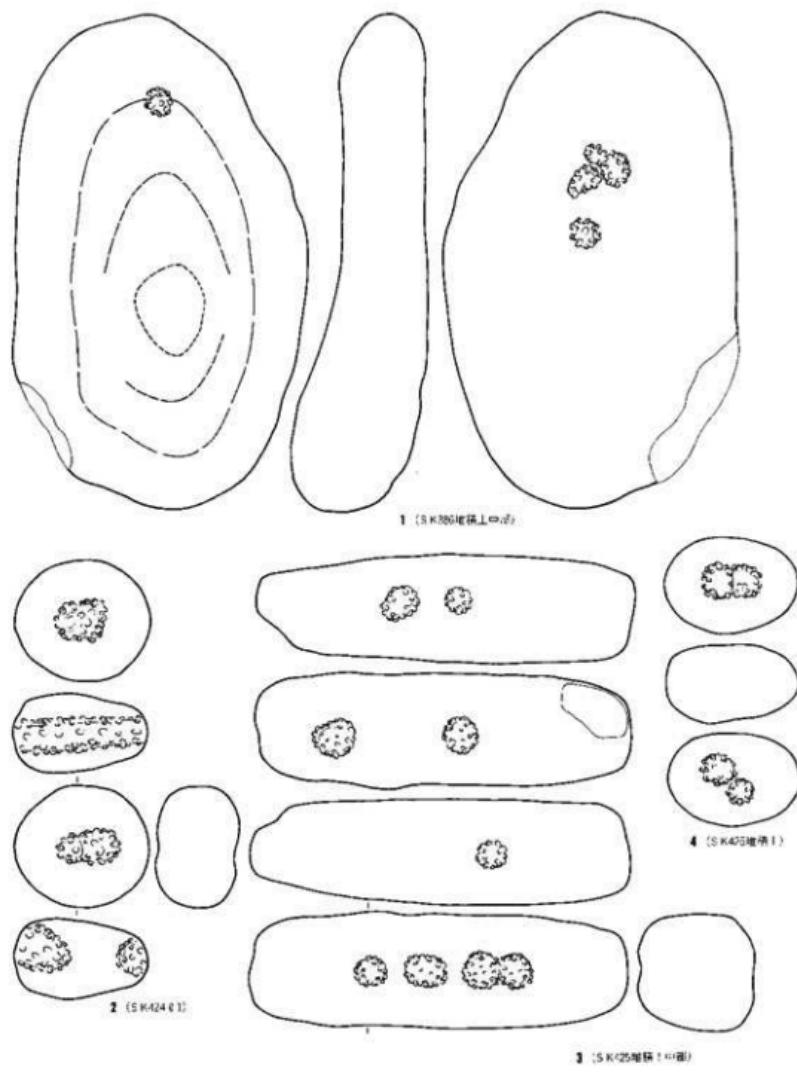


圖612 二坑出土遺物 (185) SK386・424・425

0 10cm  
(1/4)

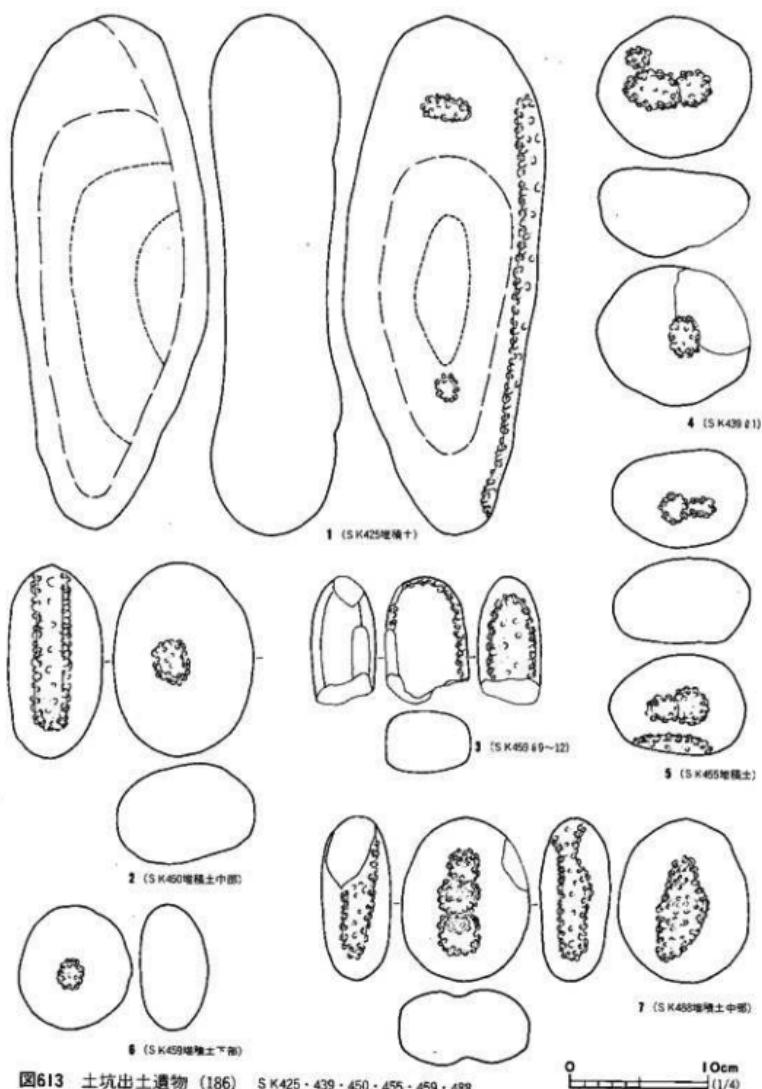


図613 土坑出土遺物 (186) SK425・439・450・455・459・488

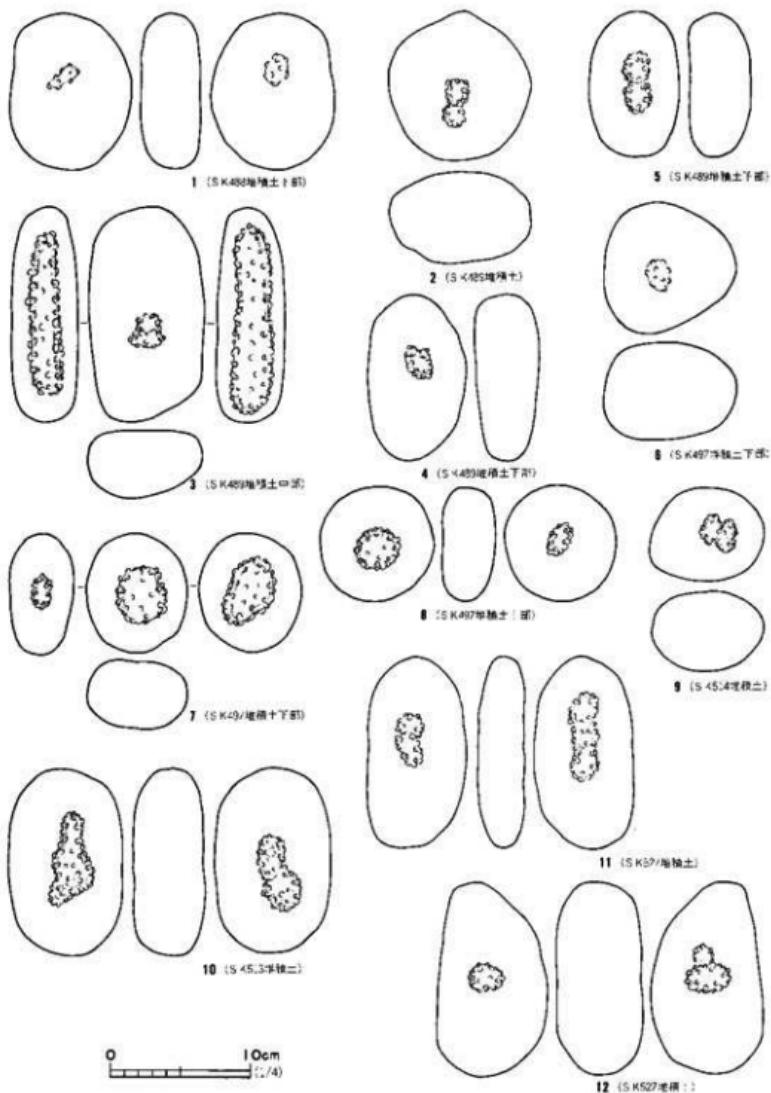


圖614 土坑出土遺物 (187) SK488・489・497・513・514・527

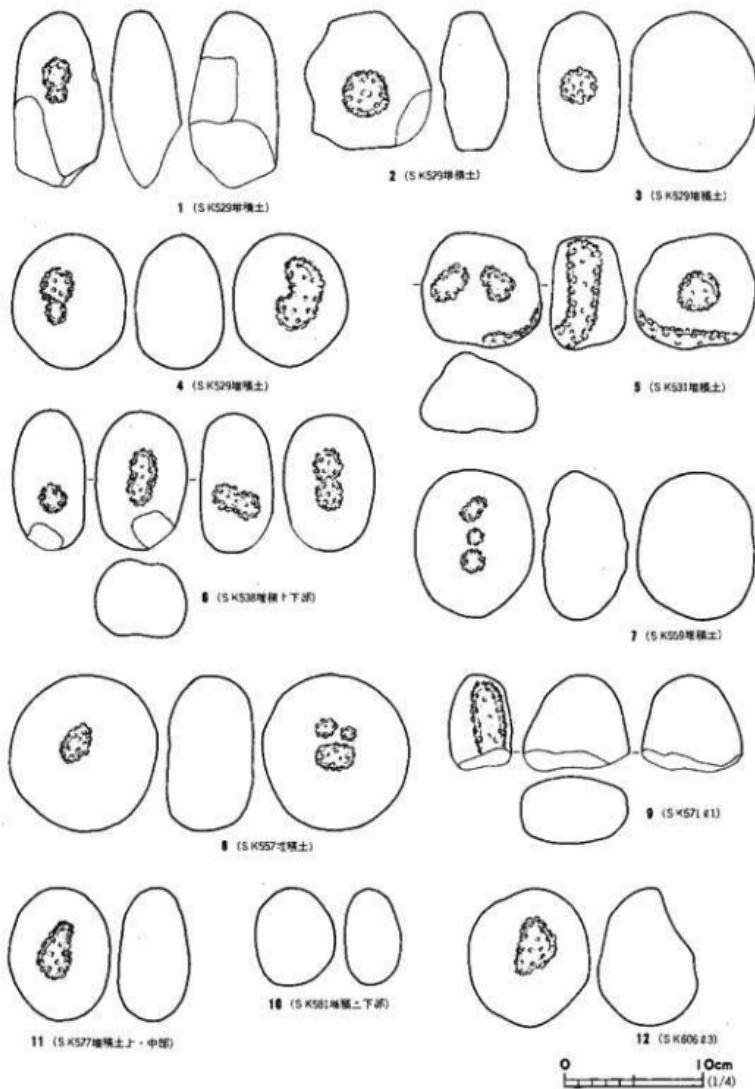


図615 土坑出土遺物 (188) SK529・531・538・557・559・571・577・581・606

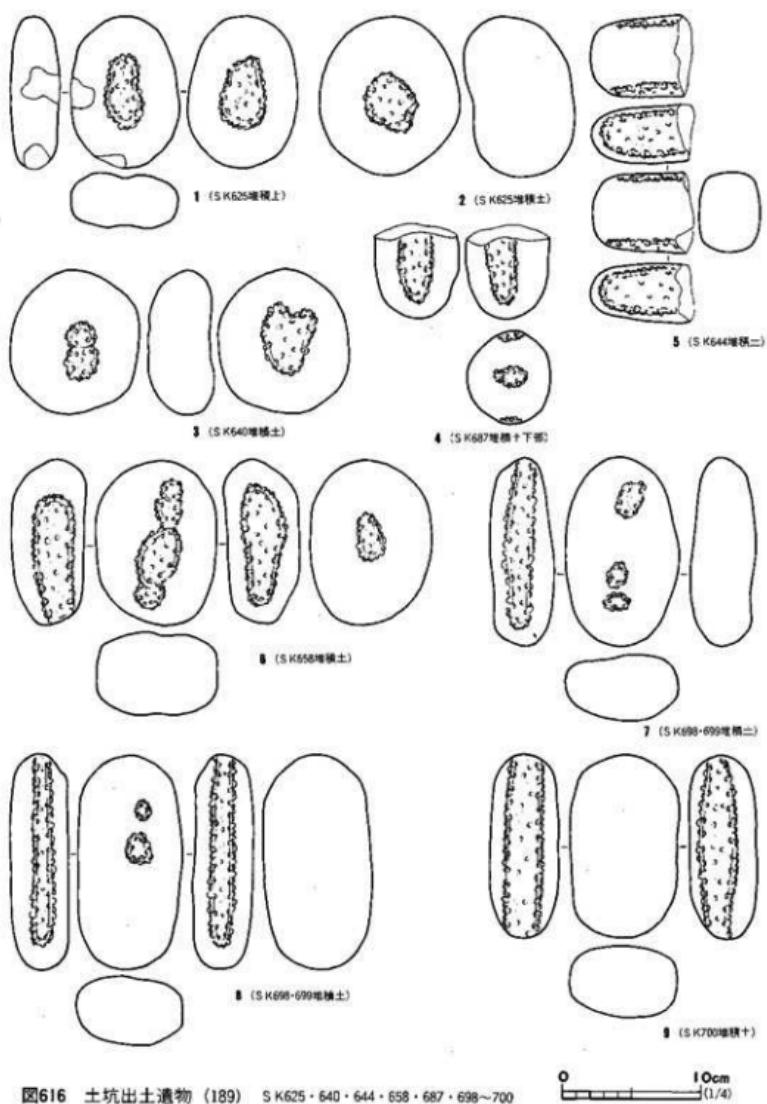


図616 土坑出土遺物 (189) SK625・640・644・658・687・698～700

0 10cm  
(1/4)

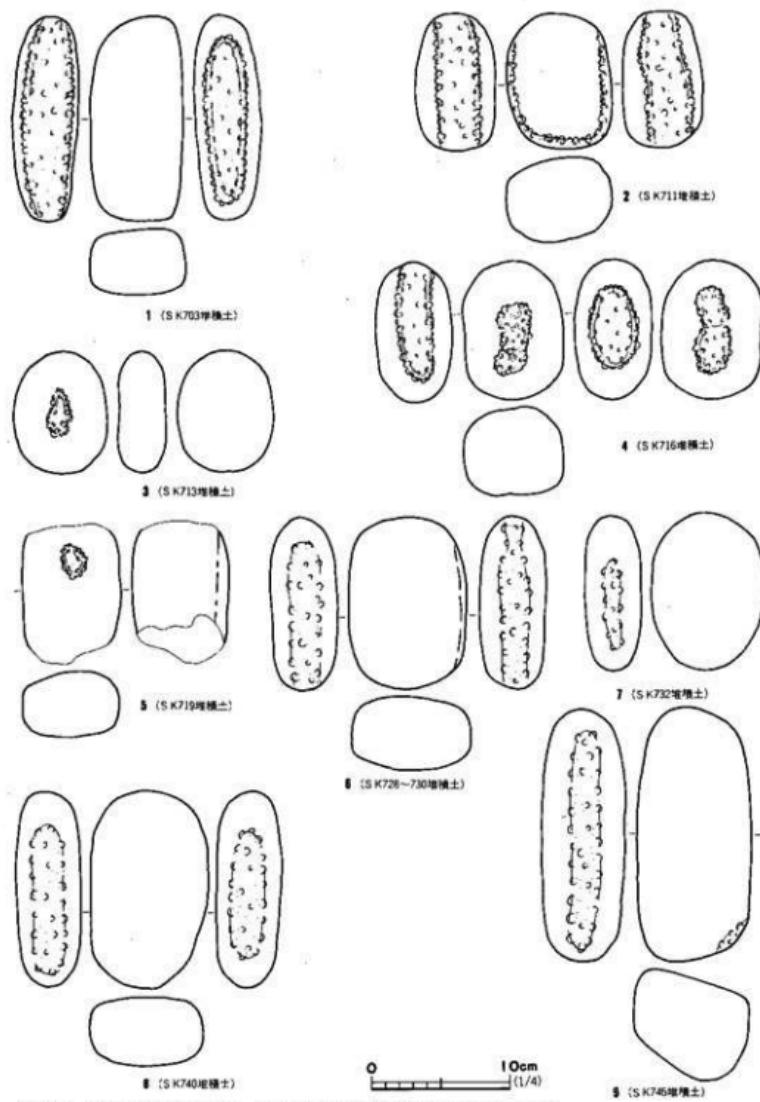


図617 土坑出土遺物 (190) S K703・711・713・716・719・728～730・732・740・745

第3節 土 坑

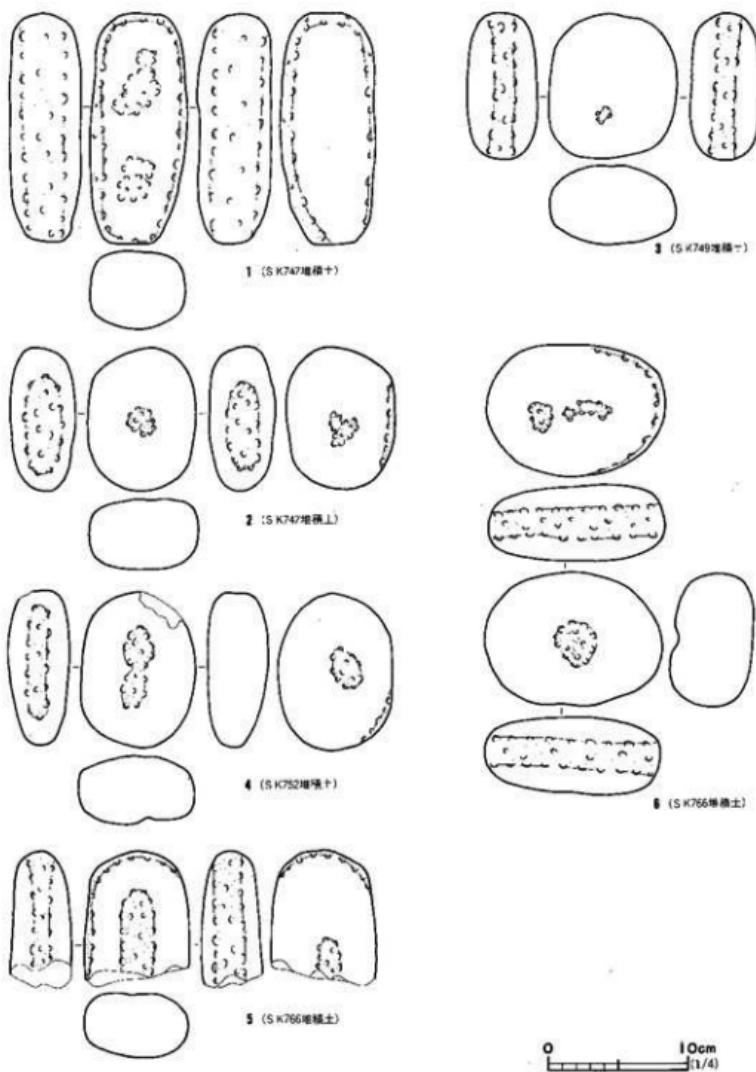


図618 土坑出土遺物 (191) SK747・749・752・766

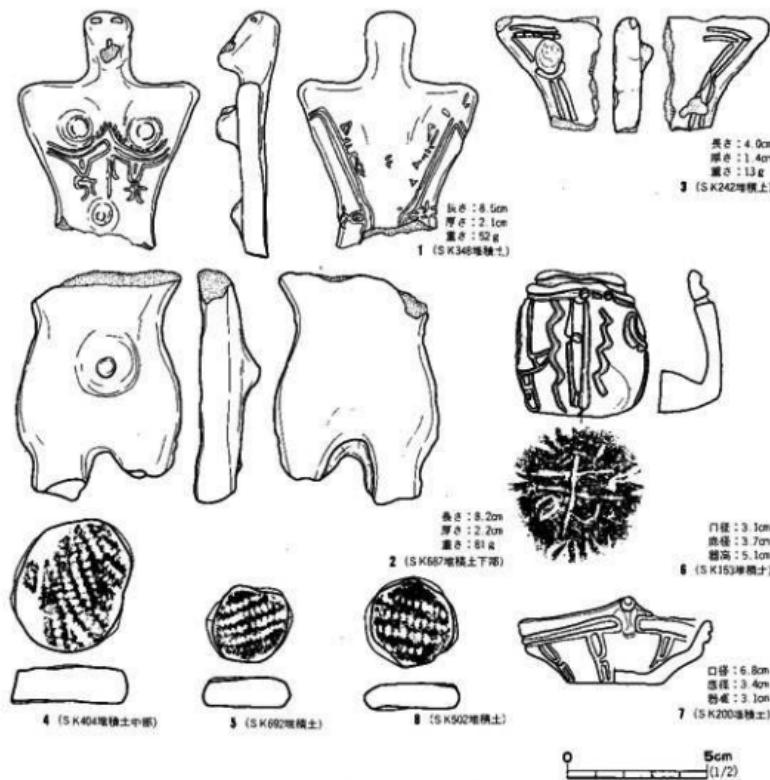


図619 土坑出土遺物 (192) SK153・200・242・348・404・502・687・692

線を施している。腹部には沈線で横に連続する文様を描き、この沈線の末端は一部渦巻文を描いている。図613-2は凹部のある磨石で、側縁部には敲打痕状の使用痕が認められる。

#### 451~460号土坑出土遺物 (図484・566・567・604・613)

遺物出土状態 SK453の堆積土下部、SK459の堆積土から出土した破片の一部は、図484-6と同図1の土器に復元できた。その他の土坑では、縄文土器は破片が散在した状態で出土している。

遺 物 図484-1は小型の浅鉢で、隆沈線を縦位に貼り付け肩部を区画している。この隆沈線の一部は、横に伸び末端に渦巻文を描き出している。同図6の口縁部には、幅の狭い無

文帯が見られる。図 566-7・8・11~17、図 567-1 の口縁部は隆沈線、胸部は沈線で文様を描いている。図 566-13 は、口縁部に刺突文が加えられている。同図 17 は沈線を多用して文様を描く土器の胸部破片であろう。沈線の上部には、小さな渦巻文が見られる。図 604-3 は、偏平な盤の両側縁部に調整を加えた器である。図 613-3・5・6 は磨石で、5・6 には凹部が、3 の側縁部には敲打痕状の使用痕が認められる。

#### 461~470 号土坑出土遺物 (図 484~567)

遺物出土状態 SK 463・466 の堆積土からは、比較的大型の破片が出土している。その他の土坑では、繩文土器はすべて破片が散在した状態で出土している。

遺 物 図 567-2~6・9・10 は、口縁部に隆沈線、胸部には沈線文が施されるもので、文様の一部に渦巻文が見られる。10 の口縁部には綱压痕文が施され、口縁部文様帶下端を区画する隆帶は剥落している。同図 7・8・11 は沈線で区画された縄文帯で、アルファベット状の単位文が描かれる土器である。

#### 471~479 号土坑出土遺物 (図 484~487・566~568・598)

遺物出土状態 SK 472 の  $\ell$  9 からは 4 点、 $\ell$  4・ $\ell$  7 と堆積土中からは、それぞれ 1 点の土器が出土した。これらの土器はすべて、器としての形状を保っている。 $\ell$  9 から出土した図 484-7 と図 485-1・3、図 486-1 は、横に倒れた状態で出土し、出土層位から一括りの強いものと判断している。 $\ell$  7 出土の図 486-3 については、図 484-7 とほとんどレベル差が認められず、互いに接するような状態で出土していることから、 $\ell$  9 出土の 4 点の土器と有機的な関連があるものと考えている。

SK 474 の  $\ell$  5 からは、図 487-1 が横に倒れた状態で出土している。堆積土中から出土した破片の一部は、図 486-4 の土器に復元できた。いずれも、器としての形状を保っている。SK 475 の  $\ell$  1 から出土した破片の一部は、図 487-2 の大型破片に復元できた。その他の土坑では、繩文土器は破片が散在した状態で出土している。

遺 物 図 484-7 は II 縁部に中空の把手が付く深鉢で、口縁部には粘土紐を横位を基本に貼り付け、その一部は渦巻文を描いている。胸部上半には、沈線によるクラシック文、下半には沈線を縦位を基本に施し、この沈線の一部は渦巻文を描いている。図 485-1~3 はキャリバー状の深鉢で、1・2 の口縁部には突起や把手が付けられている。口縁部には 1 が粘土紐、3 は隆沈線で端部が渦巻状をなす文様が描かれている。胸部には縦位の沈線が施され、1 では沈線の一部が渦巻文を描き、横に展開している。

図 486-1 は沈線を多用して文様を描き、口縁部には突起が 4 個付けられる。同図 2 は、繩文の施された粗製土器である。同図 3 の口縁部には、楕円形の突起が全周するらしい。同図 4 は円筒状をなす深鉢で、口縁部には 4 個の突起が付けられている。口縁部には隆沈線で方形状の区画

文を施し、その中に沈線で「し」の字状の文様を描いている。図487-1の口唇部直下には、幅の狭い梢円形状の無文帯が配されている。同図2は凹線で区画された縄文帯でU字状の単位文を施している。脣下半部には、波状の沈線が横位に施されている。図567-12~14は、粘土紐を貼付して文様を描いている。同図16には、縄圧痕文が施されている。同図18は、沈線文の施された胸部破片である。同図20、図568-1~3は、沈線で区画された縄文帯が見られる。同図4は、沈線で格子状の文様を描いている。

#### 481~490号土坑出土遺物(図487・488・568・569・613・614)

遺物出土状態 SK489のℓ8・底面直上・底面からは5個の土器が、堆積土中部からは1個の土器が出土した。これらの上器はすべて、器としての形状を保っているが、図488-1を除いた他の5点は器高20cm、あるいはそれ以下の小型の上器である。図487-4~6は、器高が15cmに満たない。これらの土器については、出土層位から一括性の高いものと判断しているが、図487-4については出土層位が特定できないため不明である。また、このSK489のℓ7上面からは、小児頭大から拳人の漢が多量に出土している。この漢については、面が描えられているような状態は認められなかったことから、特に意識して土坑内に置かれたものとは考えていない。その他の土坑では、縄文土器は破片が散在した状態で出土している。

遺物 図487-4~7と図488-1・2は、口縁部文様を隆沈線や粘土紐の貼付文で、脣部文様は沈線で描いている。口縁部に施された文様の端部は、すべて渦巻文を描いている。図487-4・6・7の頸部には無文帯が認められ、図488-2のII縁部には箱状の把手が付けられている。同図4は、底部直上まで隆沈線が施されている。図568-16~19・21~25、図569-1・2も口縁部に隆沈線、脣部に沈線や隆沈線が施されている。図568-6・7は稜線、同図13・20は沈線で区画された縄文帯で単位文を描き出している。同図12・14は、格子状の沈線文が施されている。図613-7と図614-1~4は凹部のある磨石で、図613-7と図614-3の側縁部には、敲打痕状の使用痕が認められる。

#### 491~500号土坑出土遺物(図488・489・569・570・598・603・614)

遺物出土状態 SK492、SK495の堆積土から出土した破片の一部は、図488-5・6の大型破片に復元できた。SK497からは、他に比較的大きな破片が出土している。その他の土坑では、縄文土器は破片が散在した状態で出土している。

遺物 図489-6は円柱状をなす深鉢で、口縁部を無文とし、脣部には隆沈線を縦位・梯子状に施している。この隆沈線は、部分的に渦巻文を描いている。図488-6の口縁部には、端部が渦巻文を描く弧状文が連続して施されている。同図5は中空の突起がII縁部を全周し、同図7と図489-1~4の口縁部には、中空・渦巻状の把手や突起が付けられている。図569-3~14は、口縁部や脣部に隆沈線で端部が渦巻状をなす文様を描いている。9には、矢羽状の短

沈線文が施されている。図 598-3 は、石鏡であろうか。表裏面に粗い調整剝離が加えられている。図 614-5 は、凹部のある磨石である。

#### 501・502・504～510 号土坑出土遺物 (図 489・490・570・598・603・604・619)

**遺物出土状態** SK501 の底面直上からは、図 598-4 の大珠が出土した。SK502, SK506 の堆積土から出土した破片の一部は、図 489-7 と図 490-1 の大型破片に復元できた。その他の土坑では、繩文土器は破片が散在した状態で出土しているが、SK504 からは比較的大きな破片が出土している。

**遺 物** 図 489-7 は小型の深鉢で、口縁部直下には横円形の区画文を配し、その間にには瘤状の突起を付いている。口縁部と胴部には、沈線で区画された U 字状の単位文が施されている。図 490-1 は沈線を多用して文様を描く土器で、胴部には地文に繩文が施されている。図 570-3 は、口縁部の横円形区画文内に繩圧痕文を施している。同図 4 は波状口縁の上器で、口縁上には沈線文が施されている。同図 7・12 は隆沈線で文様を描き、同図 5・6・9～11 は胴部に沈線を綴位・波状に施している。図 619-8 は、上器破片を用いた上製円盤である。図 598-4 はヒスイ製の大珠で、中央に片面から孔が開けられている。図 603-6 は磨製石斧、図 604-4 は横円形状の疊の一側縁部に調整剝離を加えた疊器である。

#### 511～520 号土坑出土遺物 (図 490・491・570・571・598・603・604・614)

**遺物出土状態** SK512, SK517 の堆積土から出土した破片の一部は、それぞれ図 490-7・8 と同図 9・図 491-1 に示した大型破片に復元できた。その他の土坑では、繩文土器は破片が散在した状態で出土している。

**遺 物** 図 490-7 は繩文の施された粗製土器で、口縁部には小さな C 字状の突起が付く。同図 8 は波状口縁の深鉢で、口縁上には波頂部で渦巻文を描く沈線文が施されている。口縁部と頸部には、粘土紐が横位に貼付されている。図 490-9 は、口縁直下に横円形の区画文を配する深鉢で、区画文間に瘤状の突起が付けられている。胴部には、沈線で区画された渦巻状の単位文を配している。図 491-1 は横線で区画された繩文帯が、横位を基本に施されている。

図 570-13 は胴部に刺突文が、同図 14・18 の口縁部には、隆線による横円形区画文が施されている。18 の区画文内には、波状沈線文が認められる。同図 17 は口縁部に小突起が付くもので、口縁部と胴部上半には沈線や隆線による横円形区画文が見られる。隆線上には斜めの押捺が加えられている。同図 16 と図 571-4 は条線文が施され、同図 1 は綴位の有節沈線文、同図 2 には隆沈線文が施されている。同図 3 は、凹線で区画された単位文が見られる。図 598-5 は不定形石器で、周縁部に比較的大きな調整剝離を加えている。石器上部の形状から、石匙の未製品である可能性が高い。図 603-8 は磨製石斧、図 604-8 は偏平な疊の一部に調整を加えた疊器である。図 614-9・10 は凹部のある磨石である。

521～530号土坑出土遺物(図490・571・572・614・615)

遺物出土状態 いずれの土坑も、縄文土器は破片状態で出土しているだけである。

遺 物 図490-4は注口土器の注口部、同図6と図571-22・23は同一個体である。口縁部には棒状の突起が横位に付けられ、文様を粘土紐の貼付文で描いている。図571-5・6・10・11、図572-4・5は稜線で、図571-7・9・12・21は沈線や凹線で区画された、単位文が施されている。図571-19の隆線上には、刺突文や連続爪形文を加えている。図572-2・3は、条線文が施されている。図614-11・12と図615-1～4は、凹部のある磨石である。

531～538・540号土坑出土遺物(図491・492・572・615)

遺物出土状態 SK531の底面直上からは、図491-5が横に倒れた状態で出土している。SK538からは、図491-2～4が出土した。4は大型破片、2・3は器としての形状を保っている。2はE7から横に倒れた状態で出土しているが、3・4については出土層位を特定できなかった。その他の土坑では、縄文土器は破片状態で出土しているだけである。

遺 物 図491-2は、口縁部に4個の中空の把手が付けられるもので、把手間には横位の縦圧痕文を施している。胴部には沈線を縦位を基本として施し、その一部は横に伸び端部は渦巻文を描いている。同図3はキャリバー状の深鉢で、口縁部には粘土紐で文様を描いている。この粘土紐の端部は渦巻状の突起を作る。同図4は沈線を多用して文様を描くもので、胴部には地文に縄文が施されている。同図5の口縁部には沈線による連弧文、胴部には対弧状の文様を施し、その一部は渦巻文を描いている。

図572-8には横S字状の突起が、同図12には渦巻状の突起が付けられている。12の口唇部にはスリットが、口縁部には隆線による楕円形区画文が見られる。内面にも1条沈線を施している。同図11は口縁部直下に斜めの押捺を加えた隆線が、同図22には連続爪形文が施されている。同図14・21には、稜線や沈線で区画された縄文帯が見られる。図615-5・6は、凹部のある磨石で、5は側縁部にも使用痕が見られる。

541～550号土坑出土遺物(図491・492・572・573・598・599・603)

遺物出土状態 SK541の底面直上からは、図491-6が横倒しの状態で出土している。また、本土坑からは図598-6～10、図599-1～8、図603-9の石器を含む18点の石器が、土坑底面から2つのブロックに分かれ、整然と置かれた状態で出土している。SK544堆積土から出土した破片の一部は、図492-4～6の大型破片に復元できた。その他の土坑では、縄文土器は破片状態で出土しているだけである。

遺 物 図491-6は円柱状をなす小型の深鉢で、口縁部には一個の小突起が付く。頸部には無文帯を配し、胴部は沈線を横位・縦位に施している。頸部下端には瘤状の小突起が3個付けられ、沈線に沿って列点文が施されている。突起間に、交互刺突文も施されている。図

492-4は小型の粗製土器で、口唇部には摘み出したような小突起が付けられている。同図5・6は胴部破片で、隆線と沈線を縦位に施している。沈線の一部は波状文を描く。

図572-17は平行沈線文と刺突文が、同図23には連続爪形文が施されている。図573-1・2・9の口縁部には、隆線による楕円形区画文が、同図4・14には有筋沈線文が施されている。同図8の口唇部には、縦位の刻みが加えられている。同図5は粘土紐の貼付文で、同図16は稜線で区画された縄文帶で文様を描いている。

図599-4は横型の石匙、図598-6～9、図599-1～3、7・8は、不定形石器である。図598-6、図599-1の刃部は石匙の刃部に近い。同図2の刃部の角度は搔器の刃部に近い。その他の不定形石器は、剥片の縁辺の一部に調整剝離を加えて刃部を作り出している。図598-10、図599-5・6は剥片である。図599-5には、使用によると考えられる微細な剝離痕が認められる。図603-9は、磨製石斧である。

#### 551～560号土坑出土遺物(図492～495・573・574・603・615)

遺物出土状態 SK551の堆積土中からは、拳大～小兒頭大の礫が多量に出土している。SK552からは、器としての形状を保っている7個の土器が出土した。図492-8と図493-1～3はℓ7、図494-1はℓ8から、横に倒れた状態で出土している。図492-9と図493-4については、出土層位・出土状態の詳細は確認できていない。ℓ7出土の4個の土器については、出土層位から、一括性の高いものと判断している。その他の3点も、ほぼ同時期の所産と考えている。SK556の堆積土から出土した破片の一部は、図494-3・5に示した大型破片に復元できた。SK559のℓ10からは、器としての形状を保っている図494-4・6が出土している。この土坑の堆積土から出土した破片の一部は、図495-1～3に示した大型破片に復元できた。その他の土坑では、縄文土器は破片状態で出土している。

遺 物 図492-9と図494-4の口縁部には、横S字状の突起が付く。突起間に9が隆線による楕円形区画文、4は横位の繩圧痕文が施されている。9の頭部には交互刺突文が、胴部には縦位を基本に沈線文が施されている。この沈線文の一部は、C字状のアクセント文を描いている。図492-8は、頭部と胴部中位が「く」の字状に括れる深鉢である。口縁部には幅の狭い文様帯が見られ、横C字状の突起が4個付けられている。突起間に隆線を貼り付けている。胴部は頭部と胴部の括れ部に横位。これを上下に繋ぐように縦位に2本一組の隆線を施し、胴部を上下・左右に8区画している。区画内には有筋沈線文や沈線文が施され、胴下半部には連続C字文が描かれている。頭部と胴部の括れ部に施された隆線間には、刺突文を施している。

図493-1～4は口縁部文様帯が上位に区分されるもので、2の口縁部にはS字状、楕円形状の突起が全周している。1・3・4の口縁部には、4単位の把手や突起が付けられている。口縁下部には沈線や粘土紐の貼付文で、2が波状文、3が対弧文、4がクランク文、1は縦位・渦巻

状の文様を描いている。胴部には沈線や粘土紐を縦位を基本に施し、その一部は渦巻文を描きながら横に連続・展開している。2の粘土紐の間には無文帶が見られる。図494-1は口縁部が球体状をなす深鉢で、口唇部直下には横位の有筋沈線文を施す。以下には沈線で弧状文を描き、波頂部の下位には渦巻文を加えている。胴部には、波状沈線文が施されている。同図3と図495-1は沈線を多用して文様を描くもので、3の口唇部直下には繩圧痕文が施されている。繩圧痕文は同図2の口縁部にも認められる。

図573-10は降線と沈線で文様を描くもので、口縁上端には交互に刺突を加えた波状の隆線、胴部上端には幅の狭い楕円形の区画文が見られる。同図12は、降線に沿って複列の連続刺突文が施されている。図574-1は口縁部に鋸歯状の無文帶を有するもので、口縁直下には波状沈線文を施す。図603-7は磨製石斧、図615-7・8は凹部のある磨石である。

#### 561~570号土坑出土遺物 (図495~497・574)

遺物出土状態 SK564の堆積土中からは、器としての形状を保っている、3個の土器が出土している。これらについては、出土層位・出土状態の詳細は確認できていないが、図495-5と図496-1は堆積上下部から出土し、一括性の強いものと判断している。SK566からは、器としての形状を保っている、5個の土器が出土した。図497-1・2はℓ5から、並んで出土したものである。図496-3~5は、この下から出土している。本十坑出土土器については出土層位から図497-1・2、図496-3~5が、それぞれ一括性が高いものと判断し、両者に時間差があるものと判断している。SK569の堆積土中から出土した破片の一部は、図497-3に復元できた。他の土坑では、繩文土器は破片状態で出土している。

遺 物 図495-4はII縁部に横S字状の突起が、同図5はII縁上端に隆線と連続刺突文を施し、降線の一部は渦巻状の突起を描いている。図496-1の口縁部には、S字を基調とする中空の把手が付けられている。口縁下部には粘土紐の貼付文による長方形の文様が、頭部には波状の粘土紐貼付文で区画された無文帶が認められる。胴部には沈線で端部が渦巻文を描く文様を、横に連続させて施している。図497-1・2は、口縁部上端に中空の把手が付く。文様は粘土紐の貼付文で描かれ、口縁下部には1が波状文、2は渦巻文とそれを繋ぐ横位の文様が施されている。頭部には波状文が、胴部には端部が渦巻文を描く文様が、横に連続して施されている。同図3の口縁部にはS字を基調とする突起が付けられている。

図496-3は口縁部が僅かに外反する、小型の深鉢である。口縁部には波状の隆線が付き、その一部に小突起が付けられている。胴部には沈線が縦位を主体として施され、一部はC字文や波状文を描いている。同図4は口縁部に2個一対の棒状の突起が付くもので、胴部は棒状の降線で4区画されている。口唇部直下には列点文、口縁上端と頭部には沈線文が施されている。同図5は沈線を多用して文様を描いている。II縁部は波状をなし、II縁上部には三角形状の区画文が認

められる。

図 574-7 は、浅鉢か鉢であろう。隆沈線で渦巻文を主体とする图形を描いている。同図 12 は胴部に粘土紐の積み上げ痕を残し、この部分に押捺を加えている。綫い波状をなす、口縁部は縦位の隆線で区画され、この区画に沿って一列の有筋沈線文を施している。同図 13 の口縁部には、菱形の突起が付けられている。口縁部には押捺を加えた隆線による、梢円形状の区画文を配している。同図 15 は、隆線と沈線が施された深鉢の胴部破片である。同図 16 には交互刺突文が施されている。

#### 571~580 号土坑出土遺物 (図 498・499・574~576・599・615)

遺物出土状態 SK577 の 1・5 からは、器としての形態を保っている 3 個の土器が出土した。これらは横倒しの状態で出土しており、出土層位から一括りの高いものと考えている。図 498-1・2 は、ほぼ重なるような状態で出土している。SK579 からは、器としての形態を保っている 5 個の土器が出土した。この内出土状態の詳細を確認したのは、図 498-4 と図 499-1・3 である。図 499-3 は上坑底面から、図 498-4 と図 499-1 は、底面の 30~50cm 上から出土している。出土層位からは、図 499-3・図 498-4 と図 499-1 の間に、時間差があるものと考えている。図 499-2・4 については、出土層位を確認できていない。SK580 の堆積土中から出土した破片には、図 499-5 に示した小型の深鉢の破片が含まれていた。その他の土坑では、繩文土器は破片が散在した状態で出土している。

遺 物 図 498-1 の口縁部には、中空の把手が付けられている。文様は粘土紐の貼付文で描かれ、口縁部は横位、胴部は縦位を基本として施している。この粘土紐は一部で渦巻文を描き出し、頸部には無文帯が認められる。図 498-2・4 は、口縁部に S 字状の突起や中空の把手が付けられている。4 の口縁部には、刺突文が施されている。図 499-1 の口縁部には、S 字を基調とする中空の把手が全周している。文様は沈線で描かれ、口縁部には縦位、胴部には端部が渦巻文を描く U 字文を横に連続させて施している。同図 2 の口縁部には、ヒレ状の隆線による渦巻状の突起が 4 個付けられている。口縁部には綱压痕文を縦位に施し、口縁部下端は押捺を加えた隆帶で胴部と区画されている。同図 3 は無文の土器である。同図 5 は小型の深鉢で、口縁部には隆帶による横 S 字状の突起が付けられている。

図 574-17・18 は有筋沈線文が施され、図 575-4 は横 S 字状の突起が付けられている。図 575-7・8・10~14、図 576-1 は粘土紐で文様を描く。図 576-2・3 は口縁上に沈線を施すもので、3 の胴部には渦巻文が描かれている。図 599-9 は石核で、周縁部から剥離作業をしている。図 615-9・11 は磨石である。9 の側縁部には敲打痕状の使用痕が見られる。

#### 581~590 号土坑出土遺物 (図 500・576・615)

遺物出土状態 SK581 の堆積土から出土した破片の一部は、器としての形態を保っている。

図500-4・5に復元できた。SK582からは、器としての形態を保っている、2個の土器が出土した。出土層位は図500-1が $\ell$ 7、同図2が $\ell$ 4である。出土層位からこれらの土器には、時間差があると判断している。その他の土坑では、縄文土器は破片状態で出土している。

**遺物** 図500-1の口縁部には中空の把手が付けられ、把手には波状に粘土紐を貼り付けている。口縁部には、縦位・横位・渦巻状に沈線を施す。同図2は、横S字状の突起が付けられた粗製土器である。同図4は口縁部にS字を基調とする把手が付き、口唇部直下には連続刺突文を施している。同図5の口縁部には、摘み出したような小突起が付き、口唇部直下には縄圧痕文を横位に一条施している。

図576-5は円形刺突文と斜行沈線文が、同図7~9・17は有節沈線文が施されている。同図6は波頂部の破片で、隆線で文様を描く。同図12・16は粘土紐の貼付文。同図15・20には沈線文が施されている。同図18・19・20は、凹線や稜線で区画された縄文帯が見られる。21は浅鉢であろうか。胴部上端に横円文・渦巻文が見られる。図615-10は、凹部のある磨石である。

#### 591~600号土坑出土遺物(図501・576・577)

**遺物出土状態** SK594の $\ell$ 3上面からは、拳大~頭大の礫が多量に出土している。この躰については、 $\ell$ 3が堆積した時点で十坑内に捨てられたものと考えている。その他の土坑では、遺物の出土状態にまとまりはない。縄文土器は、破片が散在した状態で出土しているだけである。SK593・598・600からは比較的人きな破片が出土した。

**遺物** 図501-1は、深鉢の底部である。図576-22・23は沈線が施されるもので、22の口縁部には隆沈線による楕円形区画文が見られる。図577-1は複合口縁状をなす口縁の下端に、三角形の彫刻文を施している。同図4は沈線で区画された、逆U字状の縄文帯が認められる。

#### 601~610号土坑出土遺物(図501・502・577・615)

**遺物出土状態** いずれの土坑とも遺物出土状態にまとまりはなく、縄文土器は堆積上中から破片が散在した状態で出土しているだけである。

**遺物** 図502-1・2は、沈線を多用して文様を描くものである。1の口縁部には横S字を基調とする把手が、2の口縁下部には隆沈線で文様が描かれている。図577-5は口縁部に小突起をもつ深鉢で、口唇部直下には交互刺突文が、胴部にはY字状の隆線が施されている。口縁部と胴部には、沈線文が施されている。同図8~11は隆沈線で文様を描き、同図6・7・12の胴部には、縦位を基本に沈線文が施されている。同図14の隆線は、庇状に突出している。同図15は、沈線で区画されたU字状の縄文帯が見られる。同図13は、縄文の施された粗製土器である。図615-12は、凹部のある磨石である。

#### 611・613~620号土坑出土遺物(図502・578・599)

**遺物出土状態** SK614の $\ell$ 2・ $\ell$ 3の層離面からは、図502-7の土器が横倒しの状態で出土

している。その他の土坑については、遺物出土状態にまとまりはなく、縄文土器は堆積土中から破片が散在した状態で出土しているだけである。

**遺 物** 図 502-7 は、縄文の施された粗製土器である。口縁部を無文とし、口縁部下端には沈線が施されている。同図 3 は箱状の突起で、突起上面には渦巻文が見られる。図 578-1 は稜線、同図 2~6 は沈線や凹線で区画された逆U字状の縄文帯が見られる。図 599-10 は不定形石器で、周縁部に調整剝離が加えられている。

#### 621~628 号土坑出土遺物 (図 502・578・616)

**遺物出土状態** いずれの土坑とも、遺物の出土状態にまとまりのあるものは認められない。縄文土器は、堆積土中から破片が散在した状態で出土しているだけである。

**遺 物** 図 502-5 は隆沈線で渦巻状の突起を、同図 6 の口縁上部には沈線を施した隆帶が巡っている。図 578-7 は、沈線で区画された縄文帯が見られる。同図 9・10 は、沈線が施された胴部破片である。同図 8 の口縁上には沈線が、同図 11 は沈線を多用して文様を描いている。同図 17 は口縁部に橢円形区画文が、胴部には沈線で区画された逆U字状の縄文帯が施されている。図 616-1・2 は凹部のある磨石である。

#### 633~640 号土坑出土遺物 (図 502・578・616)

**遺物出土状態** いずれの土坑とも、遺物の出土状態にまとまりのあるものは認められず、縄文土器は堆積土中から破片が散在した状態で出土しているだけである。SK635 堆積土から出土した破片の一部は、図 502-9 に復元できた。

**遺 物** 図 502-9 は、深鉢の胴下半部である。同図 8 の口縁上部には、沈線を施した隆帶が巡っている。図 578-13 には交互刺突文が、同図 14 は波状口縁の波頂部の破片である。同図 20 には隆沈線が、同図 12・15 は沈線が施された胴部破片である。図 616-3 は凹部のある磨石である。

#### 641~645・647~650 号土坑出土遺物 (図 579・616)

**遺物出土状態** いずれの土坑とも、遺物の出土状態にまとまりのあるものは認められない。縄文土器は、堆積土中から破片が散在した状態で出土しているだけである。

**遺 物** 図 579-1 は、口縁部に梯子状の沈線文を施している。図 616-5 は、側縁部に敲打痕状の使用痕が見られる磨石である。

#### 651~660 号土坑出土遺物 (図 502・578・579・616)

**遺物出土状態** いずれの土坑とも、遺物出土状態にまとまりのあるものは認められず、縄文土器は堆積土中から破片状態で出土しているだけである。SK653 堆積土から出土した破片の一部は、図 502-10 に示した大型破片に復元できた。

**遺 物** 図 502-10 は、小型の深鉢である。口縁部は小波状をなし、口縁部直下には 2

## 第2章 遺構と遺物

本の沈線を巡らせ、その間に交互刺突文を施している。図578-21は、隆沈線で端部が渦巻状をなす区画文を描いている。同図22・24は沈線で渦巻文を描き、同図25には撚糸文が施されている。図579-2には交互刺突文、同図5には網状痕文が施されている。同図3・4は沈線文、同図8には四線で区画された縄文帯が見られる。図616-6は凹部のある磨石で、側縁部には敲打痕状の使用痕が認められる。

### 661～670 号土坑出土遺物(図503・504・579)

遺物出土状態 SK669からは、器としての形態を保っている5個の土器と、図503-3の大型破片が出土した。図503-1・2は十坑底面の50～60cm上の1から、2は同図3の直下から接するような状態で出土している。図504-3・4は土坑底面の15～25cm上から、同図2は堆積土下部から出土している。本土坑出土土器については、出土レベルの違いから図503-1～3と図504-2～4との間に、若干の時間差があるものと考えている。その他の土坑では、遺物の出土状態にまとまりは見られず、縄文土器は堆積土中から破片状態で出土している。

遺 物 図503-1は胴部が樽状を呈し、口縁部が「く」の字状に外反する深鉢である。口縁部上端には、隆蒂による横S字状の突起が付けられている。突起間を横位・波状の隆線で繋ぎ、中央には菱形の文様が描き出されている。胴部上端には連続爪形文を2条施している。胴部には2本一組の隆線を縦位を基本に施し、この間を弧状の隆線で繋いでいる。連続爪形文の直下には、梢円形区画文、縦位・弧状をなす隆線間にも、一部梢円形区画文が見られる。同図3は樽状の深鉢で、口縁部には小さな橋状の把手が付けられている。口縁部直下には押捺による波状文を施し、これから胴部の屈曲部までの間に、梢円形の区画文を3段施している。2段目の梢円形区画文中央には、波状沈線文が施されている。胴部の屈曲部以下には、隆線を縦位に施し胴部を8区画している。この区画間を弧状をなす無文帯で繋いでいる。胴部を区画する隆線の上端部には、一本おきに渦巻文が描かれるものと考えられる。

同図2は、口縁部が開く波状口縁の深鉢である。文様は有節沈線で描かれ、口縁部と胴部には渦巻文を描きながら横に展開する文様が施されている。頸部には3条の有節沈線文が施され、この上には瘤状の貼付文が4個付く。この貼付文を起点に、縦位のアヤクリ文で胴部を区画している。図504-2は、口縁部に左右非対称の把手が付くキャリバー状の深鉢で、把手下位には橋状の把手を付けている。口縁部文様帶は隆線で上下に2分され、上部には隆線に沿って有節沈線文・沈線文・列点文が施される。下部も隆線に沿って沈線文や波状沈線文が施され、橋状把手の下位には渦巻文が描かれる。頸部には無文帯を配し、胴部には2単位の山形の沈線文を加えている。同図3は樽状をなす深鉢で、口縁部には扇状の把手や、摘み出したような小さな突起が付けられている。口唇部には、部分的に押捺が加えられている。扇状把手の下には、橋状の把手が付く。胴屈曲部には列点文が、屈曲部上位には隆線による梢円形区画文が、下位にはY字状の隆線が施

されている。これらの隆線に沿って沈線文が施され、胴下半部ではその一部が波状文を描いている。同図4は有節沈線文の施された深鉢の胸部である。

図579-7は口縁部に繩圧痕文が、同図11には交互刺突文と隆線と沈線による楕円形区画文が施されている。同図12・13・15は隆線に沿って有節沈線文が、同図17には隆線で区画された無文帯が見られる。同図9は、押捺を加えた波状隆線を頸部に2条施している。

#### 671～680号土坑出土遺物(図504・579・580)

遺物出土状態 いずれの土坑とも、遺物の出土状態にまとまりは見られず、縄文土器は堆積土中から破片が散在した状態で出土している。SK678の堆積土から出土した破片の一部は、図504-5の大型破片に復元できた。

遺 物 図504-5は波状口縁の深鉢で、波頂部には中空の把手が付けられている。文様は沈線を多用して描かれ、頸部には中空の突起が付けられている。図579-19は口端部が肥厚するもので、頸部を無文としている。19・20の胴部には、原体を横に回転させて縄文を施している。図580-1は、複合口縁状をなす口縁部に、沈線文が施されている。胸部には同図6・7と同じく縦位のアヤクリ文を施している。同図2・3は偏平な隆帶が見られ、隆帶上には短沈線が施されている。2の隆帶には、部分的に三角形の刻みが加えられている。同図4は平行沈線を密に施している。同図8は口端部と胸部上半が肥厚する粗製の深鉢である。同図9は沈線文を多用して文様を描く。同図10は波状口縁の口縁部破片で、口縁部に沿って2条の沈線が施されている。

#### 681～690号土坑出土遺物(図504・505・580・581・600・616・619)

遺物出土状態 SK687の堆積土中からは、器としての形態を保っている3個の土器が出土している。これらについては、出土状態の詳細を確認しなかったため不明な点もあるが、出土土器自体には、時間差はないものと考えている。さらに、これらに伴って図619-2の土偶も出土している。その他の土坑については、遺物の出土状態にまとまりは認められず、縄文土器は堆積土中から破片が散在した状態で出土している。

遺 物 図505-1は波状口縁の深鉢で、波底部直下と頸部には中空の突起や橋状の把手が付く。文様は沈線を多用して描かれ、胸部には地文に縄文が施されている。同図2は小型の深鉢で、口縁部には一部が渦巻文を描く隆沈線を横位を基本に施している。同図6は口縁部に箱状の把手が付くもので、口縁下部には一部が渦巻文を描く隆沈線を横位に施している。胸部は縦位を基本に沈線文を施し、その一部は渦巻文を描きながら横に展開している。

図504-6～10、図505-3～5は、口縁部の突起や把手である。図505-3は獸面を現すものであろうか。図580-12・13は沈線で区画された縄文帯が見られ、同図14は隆沈線で胴部全面に不定形の区画文を描くものであろう。同図16・17・19、図581-1はキャリバー状の深鉢

## 第2章 造構と遺物

で、口縁部には隆沈線により渦巻文やクランク文が施されている。図581-2の隆線上には剣みが、同図3と図580-18の口唇部には、沈線文が施されている。図619-2は土偶の胸部で、下腹部は瘤状に肥厚している。図598-1は剥片の縁辺部の一部に微細な剥離痕が見られ、図616-4は側縁部に敲打痕状の使用痕が見られる凹部のある磨石である。

### 691~700号土坑出土遺物(図506・581~583・600・616・619)

遺物出土状態 いずれの土坑も、遺物の出土状態にまとまりは見られず、縄文土器は堆積土中から破片が散在した状態で出土している。SK693の堆積土から出土した破片の一部は、図506-1の大型破片に復元できた。

遺 物 図506-1は小型の土器で、口縁部には小突起が付く。底部は接合痕の状態から脚状をなすものと考えている。図581-4~7・9~11・14、図582-1・2・15~17は、沈線文を密に施すものである。図581-5は格子状、同図7・11は平行沈線文、図582-15~17は三角形の単位文の中に沈線文を施している。その他のものは、梯子状の沈線文が施されている。図581-5~7・9・10には、三角の彫刻文が加えられている。同図14には小さな横状把手が付けられている。図582-8、図583-1・2は沈線文が施されるもので、図582-8は渦巻文が描かれ、図583-1・2は横位の沈線を切るように縦位に短沈線を施している。

図582-12、図583-5には、ソーメン状の粘土紐貼付文が認められる。図582-13には横位に4条の繩圧痕文が施されている。胸部にはアヤクリ文が施されるものが多く、アヤクリ文間を無文とするものも見られる。図619-5は、上器破片を用いた土製円盤である。図600-2・5・6・8~10は不定形石器で、8は尖頭器の未製品、10の刃部の角度は搔器の刃部角度に近い。同図3・4は石核、7は三角形状の石製品である。下端部には、両面から開けられた孔が見られる。図616-7~9は磨石で、9は側縁部だけに使用痕が見られる。

### 701~710号土坑出土遺物(図506・583・584・600・617)

遺物出土状態 いずれの土坑も、遺物の出土状態にまとまりは認められず、縄文土器は堆積土中から破片が散在した状態で出土している。SK706の堆積土から出土した破片の一部は、図506-2の大型破片に復元できた。

遺 物 図506-2は小型の上器で、口縁部には横位の押捺を加えた。3個一対の棒状突起が付けられている。文様は沈線で描かれ、口縁部には横位、胸上部には斜位・渦巻状に施されている。図583-11はII縁部に繩圧痕文が、同図15には格子状の沈線文が施されている。同図16・19~22・24は口縁部に太い沈線が施されるもので、20・22は山形文、19・21は弧状文が描かれている。図584-3には、ソーメン状の粘土紐貼付文が認められる。同図1・6は粘土紐を波状に貼り付け、同図2には変形爪形文が施されている。図583-12は、重層するアヤクリ文が見られる。図600-11は不定形石器、同図12は剥片を用いた石核、図617-1は、側縁

部が敲打痕状をなす磨石である。

#### 711～720号土坑出土遺物(図506・507・584・585・601・602・617)

遺物出土状態 いずれの土坑も、遺物の出土状態にまとまりは認められず、縄文土器は堆積土中から破片状態で出土している。SK713・714・717・720の堆積土から出土した破片の一部は、図506-6・8、図507-1、図585-1の大型破片に復元できた。

遺 物 図506-6は金魚鉢状をなす深鉢で、口縁部は4単位の緩い波状をなす。波頂部下には、三角形状に沈線文を施している。波底部には、部分的に刻みを加えた偏平な隆帯を三角形状に貼り付けている。沈線の下縁部には、刻みを加えている。口縁部と胴部は刻みを加えた隆線で区画され、胴部には両端にアヤクリ文の付く縄文が間隔を空けて縦位に施されている。この胴部文様は、同図8、図507-1にも認められる。同図8は口縁部が「く」の字状に屈曲し、「」下部がひしゃげた球形状をなす深鉢である。口縁上部には、板状をなす橋状把手が付けられている。文様は沈線を横位を基本に施し、部分的に三角形の彫刻文を加えている。口唇部とその直下および肩曲部の偏平な隆帯上には、縦位の短沈線が施されている。

図584-5・7・8・21、図585-6・14・15・17は、ソーメン状の粘土紐貼付文で文様を描く。図585-17には、ボタン状の貼付文が見られる。図585-9は口縁部の突起で、ソーメン状の粘土紐上に連続爪形文を加えている。図584-9・11、図585-4・5の口縁部には沈線文が施され、4の胴部には太い隆線が貼り付けられている。図584-12には「ハ」の字状の短沈線、同図22は梯子状の沈線で渦巻文を描いている。図585-1は稜線が口縁部に沿って施されるもので、一部に瘤状の突起が付く。図584-10と図585-2には連続刺突文が、同図7の口縁部下端には刻みが加えられている。同図5・7・15には、棒状の突起が見られる。

図601-1は石槍状の石匙、同図9は石鎧であろうか。同図2～6・8・10は不定形石器、同図7と図602-4は石核である。図617-2は側縁部に敲打痕状の使用痕が見られる磨石、同図3～5は凹部のある磨石である。3・4の側縁部には2と同じ使用痕が認められる。

#### 721～730号土坑出土遺物(図506・586・587・602・617)

遺物出土状態 いずれの土坑も、遺物の出土状態にまとまりは認められず、縄文土器は堆積土中から破片状態で出土している。SK728・729・730から出土した破片は、図506-5の大型破片に、SK723堆積土から出土した破片の一部は同図3に復元できた。

遺 物 図506-5は口端部が肥厚する小型の深鉢で、棒状の突起が付けられている。口縁直下にはソーメン状の粘土紐が貼り付けられ、その下には、両端にアヤクリ文の付く縄文帶が間隔を空けて縦位に施されている。同図3は頭部が屈曲する小型の深鉢で、口唇上には沈線が、同外縁には刻みが加えられている。口縁部には波状沈線文が、胴部にはアヤクリ文が縦位に施されている。

## 第2章 遺構と遺物

図586-1・2・6は口縁部が複合口縁状をなすもので、1は梯子状、2は縦位、6は横位・縦位に沈線が施されている。2の胴部には、平行沈線で連続山形文が描かれている。同図12は、波頂部下位に板状の橋状把手が付けられている。文様は、縦位に密接して沈線文を施している。図586-16、図587-1は繩圧痕文が施されるもので、16は連続三角文が、1は横位の繩圧痕文の間に斜位の繩圧痕文を加えている。16の三角文内には、横位に繩圧痕文を施している。図587-4は沈線を渦巻状・弧状に施し、同図9は降線による梢円形状の区画文が見られ、区画文内には波状沈線文が施されている。図586-19にはソーメン状の粘土紐、同図20には稜線文が施されている。図602-3は不定形石器、図617-6は側縁部に敲打痕状の使用痕が見られる磨石である。

### 731～740号土坑出土遺物(図506・587～589・602・617)

遺物出土状態 いずれの土坑も、遺物の出土状態にまとまりではなく、縄文土器は堆積土中から破片が散在した状態で出土している。SK731・739から出土した破片の一部は、図506-4、同図7の大型破片に復元できた。

遺物 図506-4は底部から口縁部まで直線的に開く小型の深鉢で、口縁部は4単位の波状を成している。文様は波頂部下位に弧状、波底部には縦位にソーメン状の粘土紐を貼り付けている。胴部には、原体を横に回転して縄文を施している。同図7の口縁部には、偏平な隆帯を渦巻状に配し、器面全面に梯子状の沈線を施している。胴部には、両端にアヤクリ文が見られる縄文を間隔をあけて施している。

図587-11は口縁部に瘤状の突起が付くもので、胴部には結束された縄を横に回転させた羽状縄文が施されている。図588-1は図506-6と同じ個体であろうか。図588-2・13は口縁部に沈線文が、同図5・7・12には爪形文が施されている。同図14は口縁部に山形の平行沈線文、同図16はソーメン状の粘土紐を施している。同図17～19には密接して沈線文が施され、17では木葉状の图形が描かれている。図602-2・7は不定形石器で、2の縁辺部にはわずかに調整剥離を加えている。図617-7・8は、側縁部に敲打痕状の使用痕が見られる磨石である。

### 741～750号土坑出土遺物(図507・589・590・602・617・618)

遺物出土状態 いずれの土坑も、遺物の出土状態にまとまりは認められず、縄文土器は堆積土中から破片状態で出土している。SK747・748から出土した破片の一部は、図507-2・3の大型破片に復元できた。

遺物 図507-2は円筒状をなす深鉢で、複合口縁状に肥厚する口縁部には、縦位の沈線文が施されている。胴部には横回転の縄文が施されている。同図3は頸部が括れる深鉢で、頸部には橋状の小突起が付けられている。口縁部には偏平な隆帯で渦巻文を描き、この間には横位・梯子状に沈線を施している。部分的に三角形の彫刻文も加えている。胴部には、両端にアヤ

クリ文が見られる縄文を、間隔をあけて縦位に施している。

図 589-2 は金魚鉢状の深鉢で、連続爪形文を施したソーメン状の粘土紐で幾何学的な图形を描いている。図 590-1 もこれと同じ粘土紐で文様を描く。図 589-3 は、複合口縁状をなす口縁部に交叉刺突文が施されるもので、II 縁部下端には刺突文、胴部には結束された縄による横位の羽状縄文を施している。図 590-2 は梯子状の沈線文と偏平な隆帯が、同図 3 は沈線に沿って刺突文が施されている。同図 7 の口縁部には円形の突起が付き、同図 8 の口縁部には矢羽状の沈線文が施されている。同図 9 は、彫刻的な三角文を閉むように、密接して山形の沈線文を施している。同図 4-6・11 は両端にアヤクリ文が見られる縄文を、間隔をあけて縦位に施している。同図 10・12 は両端にアヤクリ文が見られる羽状縄文を、間隔をあけて横位に施している。図 602-6 は不定形石器、図 617-9 と図 618-1~3 は、側縁部に敲打痕の使用痕が見られる磨石である。図 618-1・2 には凹部が見られる。

#### 751~757・759・760 号土坑出土遺物 (図 507・590~592・602・603・618)

遺物出土状態 いずれの土坑も、遺物の出土状態にまとまりは認められず、縄文土器は堆積土中から破片状態で出土している。SK754・756 から出土した破片の一部は、図 507-4~6 の大型破片に復元できた。

遺 物 図 507-4 は頸部が屈曲する深鉢で、II 縁部は波状をなしている。II 縁部と胴部上端には沈線で幾何学的な图形を描き、この沈線の上側縁には連続爪形文を施している。同図 5 は金魚鉢状をなす深鉢で、口縁部には円形の突起が付けられている。口縁部と胴部上端には連続爪形文を施したソーメン状の粘土紐で、幾何学的な图形を描いている。同図 6 は、胴部上半から口縁部が外反して開く深鉢である。口縁部と胴部は押捺を加えた隆線で区画され、II 縁部には縦位の平行沈線が施されている。胴部上端にも平行沈線を横位・山形に施す。

図 591-17 は金魚鉢状の深鉢で、連続爪形文を施したソーメン状の粘土紐で、幾何学的な图形を描いている。図 590-13 の口縁部には稜線文が施され、口縁部直下には連続爪形文を加えたソーメン状の粘土紐で連続山形文を描いている。胴部には両端にアヤクリ文が見られる羽状縄文が、横位に施されている。図 591-2 は、ソーメン状の粘土紐で、幾何学的な图形を描いている。同図 3 は複合口縁状に肥厚する口縁部に、縄圧痕文が施されている。同図 1・5~7・11・13 は、II 縁部に沈線文が施されるもので、5・6・13 には短沈線文が上下交互に加えられている。5 にはボタン状の貼付文が認められ、同図 12 には C 字状の刺突文が施されている。同図 18 は偏平な隆帯による「の」字状の口縁部突起である。図 602-9 は不定形石器、図 618-4 は磨石で、側縁部には敲打痕状の使用痕が見られる。

#### 761~770 号土坑出土遺物 (図 507・591~593・618)

遺物出土状態 いずれの土坑も、遺物の出土状態にまとまりはなく、縄文土器は堆積土中から

## 第2章 造構と遺物

破片が散在した状態で出土している。SK761から出土した破片の一部は、図507-7に復元できた。この土器は、器としての形態を保っている。

遺物 図507-7は胴部が球形状をなす深鉢で、底部には脚状のものが付くらしい。頸部には、小さな柄状把手が付く。図593-1は金魚鉢状の深鉢で、連続爪形文を施したソーメン状の粘土紐で連続山形文を描いている。図592-13は胴部の上端に連続爪形文が、図593-2は沈線文が施され、沈線上側縁には連続爪形文を加えている。同図3はソーメン状の粘土紐で文様を描く。II線部には、隆帶で渦巻文を施している。図592-2・11と図593-4は梯子状の沈線文が、図592-7には、密接する沈線文と三角形の彫刻文が見られる。同図8・9の沈線間には刺突文が、同図10は沈線で重層する山形文を描き、隙間に渦巻文を施している。図618-5は四部のある磨石で、側縁部にも使用痕が見られる。

### 771～780号土坑出土遺物(図593・602)

遺物出土状態 いずれの土坑も、遺物出土状態にまとまりは認められず、縄文土器は堆積土中から破片状態で出土している。

遺物 図593-12は金魚鉢状の深鉢で、II線部と胴部上端に、連続爪形文を施したソーメン状の粘土紐で、幾何学的な文様を描いている。同図9は胴部に継位の交互刺突文が、同図10は重層するアヤクリ文が施されている。図602-5は岩偶であろうか。偏平な縁の表裏面中央に継位、側縁部側に横位を基本に沈線文を施している。同図8は側縁部から剥片剥離を行っている石核、同図10は不定形石器である。

### 781～786号土坑出土遺物(図593・602)

遺物出土状態 いずれの土坑も、遺物の出土状態にまとまりは認められず、縄文土器は堆積土中から破片状態で出土している。

遺物 図593-13～15は、細い沈線で渦巻状の文様を描いている。同図16には斜行する沈線文が、17には連続爪形文が施されている。図602-1は、石匙の木製品であろうか。周縁部に比較的粗い調整剥離が加えられている。

(松本)

## 第4節 埋甕

法正尻遺跡からは、埋甕が総数26基検出された。この他に、住居跡に伴って多数の埋甕が検出されているが、これらについては、すでに第2章第2節で報告した。本項では、住居跡に伴わない単独の埋甕について報告する。これらの埋甕は、住居跡や十坑が密集する地域から散在した状態で検出されている。法正尻遺跡では、複数の埋甕が密集して検出された例は確認されていない。なお、埋設土器内に堆積する土については、すべてフルイに掛けて微小遺物の検出に努めたが、

骨片などは検出できなかった。

#### 1号 埋 罋 (SM 1, 図 620・624, 写真 181)

セ 45 G の L III b 下部で検出した埋罈で、深鉢が倒立の状態で埋設されていた。検出時の遺存状態は悪く、埋設土器は全周していない。埋罈の掘形は埋設土器に比べて大きく、直径 50cm ほどの円形状をなしている。堆積土は埋設土器内が黒褐色土、掘形内は黄色土ブロックを多量に含む黒褐色土である。

図 624-1 は、キャリバー状をなす深鉢の口縁部である。口唇部下位には沈線を施した隆帯を貼り付けて、口縁部を上下に区画している。口縁下部には、沈線で横に展開する弧状文を施している。この弧状文の末端は、一部渦巻文を描いている。

#### 2号 埋 罈 (SM 2, 図 620・624)

セ 45 G の L III b 上面で検出した埋罈で、深鉢が正立の状態で埋設されていた。検出時の遺存状態は良く、埋設土器の口縁部は一部欠損するが、胴部はほぼ完全な形で残っていた。掘形は、埋設土器の口縁部径より若干大きく、直径 45cm を測る。埋設土器底部は掘形底面に接している。堆積土は埋罈内に黒褐色土、掘形内にも黄色土ブロックを少量含む黒褐色土が堆積していた。

図 624-2 は口縁部が外傾して開く深鉢で、口縁部には中空の把手が付けられている。口縁部文様帶は、口唇部下位に施された隆帯で上下に区画されている。口縁の上部には連続刺突文が、口縁の下部には沈線によるクランク文を施している。頸部には 5 条の沈線を横位に施し、真ん中の沈線は波状文を描いている。胴部には、沈線を縱位を基本に施している。この沈線は、胴部中位で渦巻文を描いている。

#### 3号 埋 罈 (SM 3, 図 620・624)

セ 46 G の L III b 下部で検出した埋罈で、小型の深鉢が正立の状態で埋設されていた。検出時には埋設土器の上に、蓋をするような状態で深鉢の底部が置かれていたことを確認している。遺存状態は良く、埋設土器はほぼ完全な形で遺存していた。掘形は埋設土器と比べて大きく、直径 34cm の円形をなしている。掘形の断面形は錐底状を呈し、埋設土器の底部は掘形の底面に接している。堆積土は埋罈内に暗褐色土、掘形内には黒褐色土が堆積していた。

図 624-3 は円筒状をなす小型の深鉢で、文様は施文されていない。

#### 4号 埋 罈 (SM 4, 図 620・624, 写真 181)

シ 44 G の L III b 下部で検出した埋罈で、口縁部を欠損する深鉢が正立、やや傾いた状態で埋

## 第2章 造構と遺物

設されていた。検出時の遺存状態は良く、埋設土器はほぼ完全な形で遺存していた。埋設土器内からは同じ個体の底部と別個体の土器の底部が出上している。掘形は埋設土器より一回り大きく、直径 50 cm 程の円形をなしている。堆積土は埋甕内に黒褐色土、掘形内には L III b に近似する黒褐色土と暗褐色土が堆積していた。

図 624-4 は、胴部が樽状をなす深鉢である。胴部上端には陰線による楕円形の区画文が施され、区画文の接点部は突起状に肥厚している。以下は Y 字状の陰線で 4 区画されている。Y 字状陰線の分岐点は突起状をなし、この部分には刻みが加えられている。区画の中央には H 字状に継続の沈線文を施している。胴上半部には、補修孔も見られる。同図 5 は埋設土器内から出土した小型の深鉢の底部破片である。沈線文を継位を基本に施している。

### 5 号 埋 甕 (SM 5, 図 620)

ト 26 G の L III b 下部で検出した埋甕で、深鉢の底部から胴下半部が正立の状態で埋設されていた。埋設土器の外側に接して別個体の破片も埋設されていた。掘形は埋設土器より一回り大きく、直径 30 cm 程の円形をなしている。埋甕内・掘形内には暗褐色土が堆積していた。

本埋甕埋設土器については、整理途中のミスで遺物を特定できなくなってしまった。このため埋設土器を図示することはできなかった。

### 6 号 埋 甕 (SM 6, 図 620・625)

チ 51 G の L IV 上面で検出した埋甕で、底部を欠損する深鉢が口縁部を下にして、斜位の状態で埋設されていた。検出時の遺存状態は良く、埋設土器は底部を除いてほぼ完全な形で遺存していた。SK 87 と重複し本造構が新しい。掘形は埋設土器より一回り大きく、直径 40 cm 程の円形をなしている。埋設土器・掘形内には、ともに暗褐色土が堆積していた。

図 625-1 は口縁部が外傾して開く深鉢で、口縁部の対面する位置には中空の把手が付けられている。口縁部直下には陰帯を施し、口縁部を上下に区画している。口縁上部には刺突文が、頸部には 3 条の沈線を横位に施している。口縁下部と胴部には端部が渦巻文を描く、クランク文を横に連続させて施している。

### 7 号 埋 甕 (SM 7, 図 620・624)

ツ 50 G の L IV 上面で検出した埋甕である。粗製深鉢の口縁部が正立の状態で設置されていた。検出時の遺存状態は良く、埋設された土器の口縁部はほぼ全周していた。掘形は埋設土器より一回り大きく、直径 40 cm 程の円形をなしている。埋設土器内には黒褐色土と茶褐色土、掘形内には粘土質の茶褐色土が堆積していた。

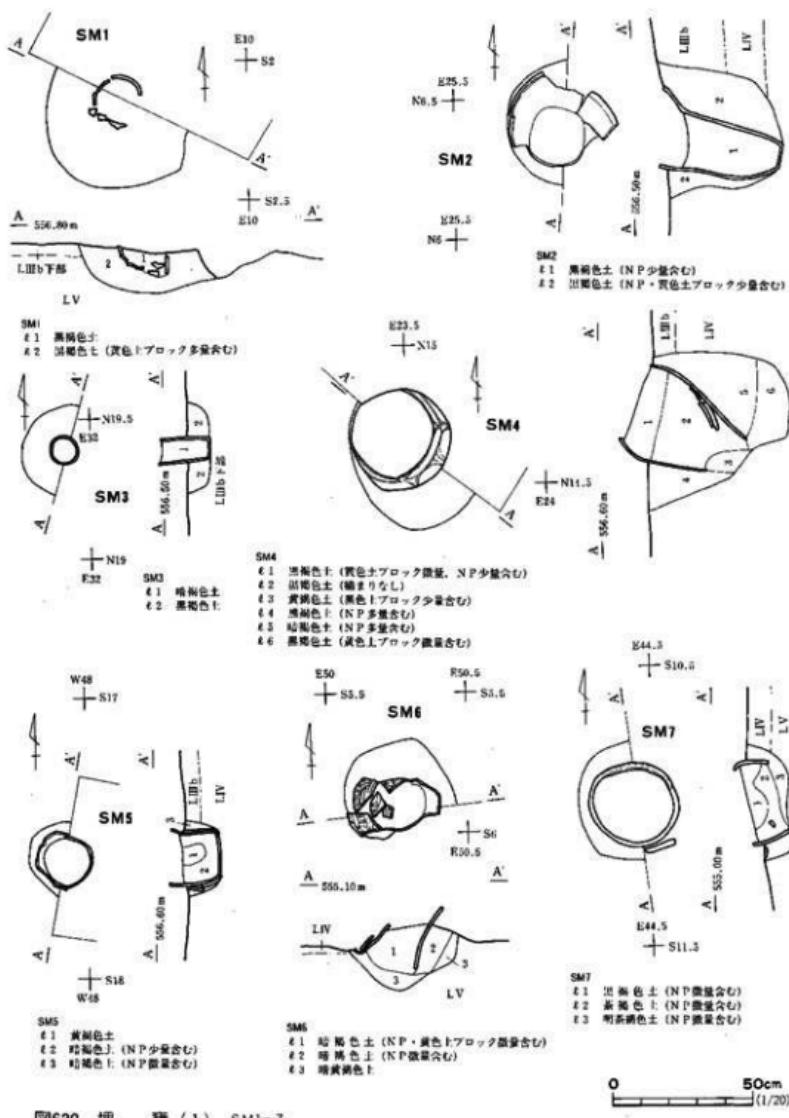


図620 埋 穂 (1) SM1~7

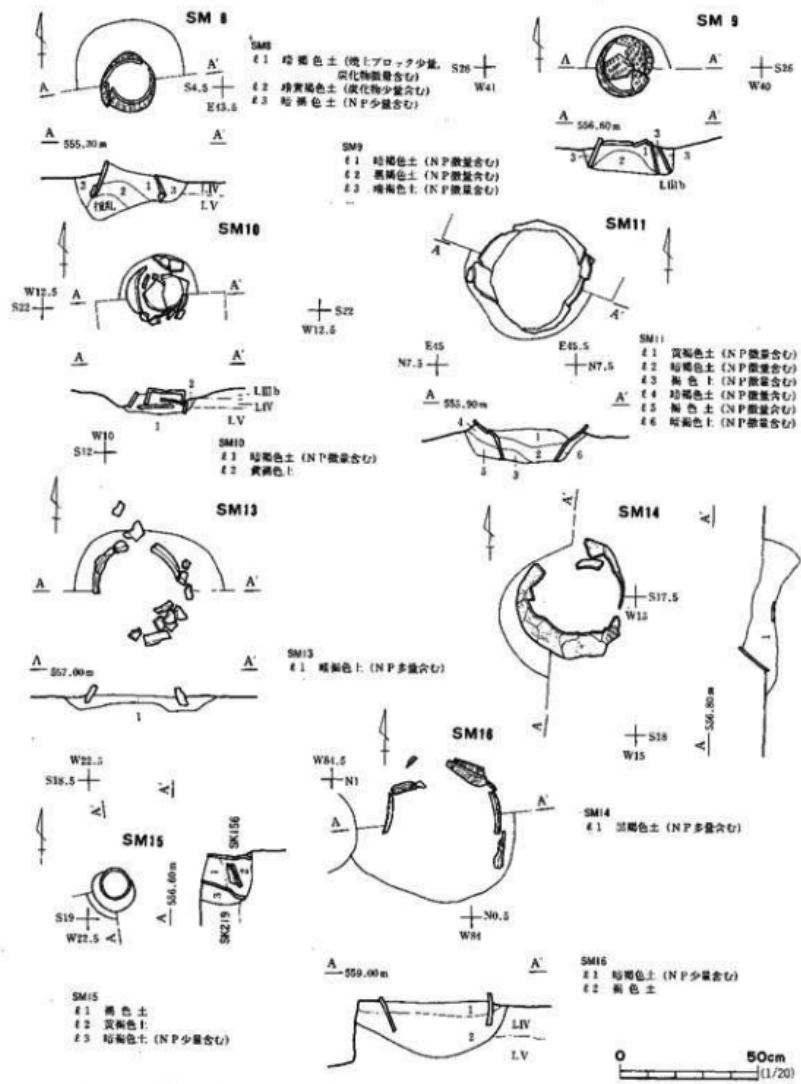
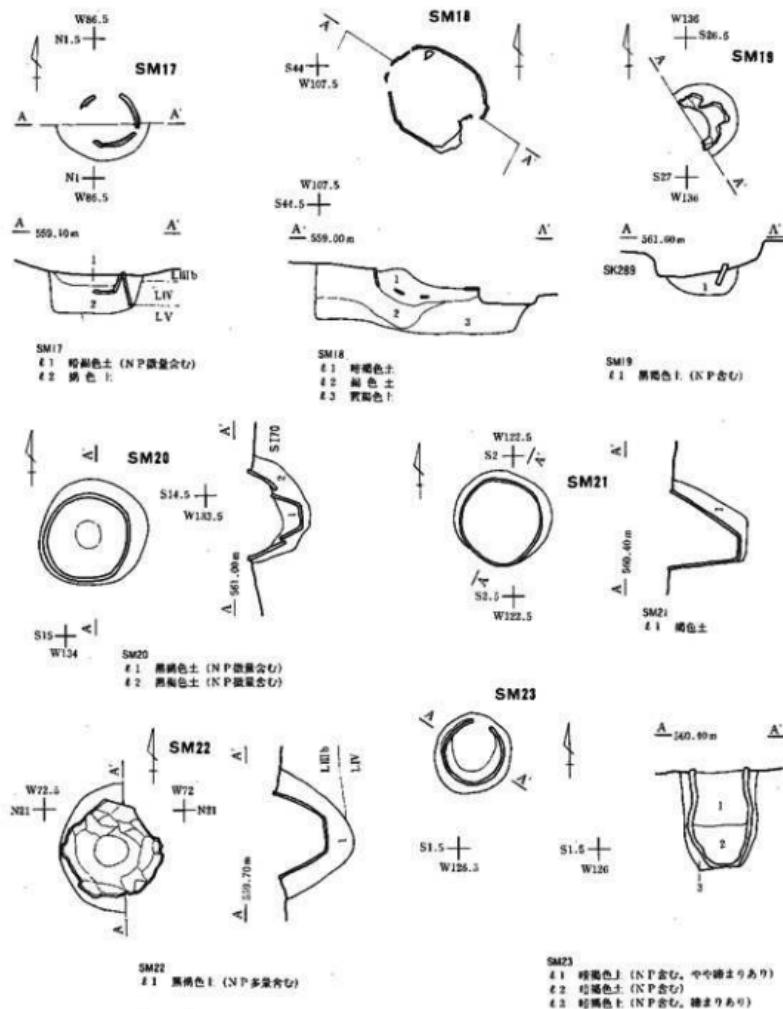


図621 埋 窓 (2) SM8~11・13~16

第4節 埋 窓



0 50cm  
(1/20)

図622 埋 窓 (3) SM17~23

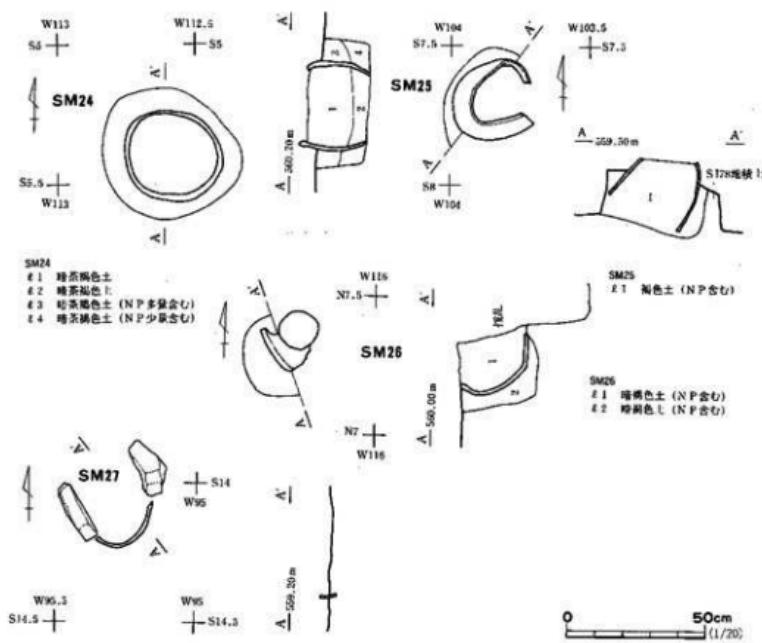


図623 埋 罐 (4) SM24-27

図624-6は縄文の施された粗製深鉢の口縁部で、口縁直下で僅かに内湾している。

### 8号埋罐 (SM8, 図621・625)

チ49GのLIV上面で検出した埋罐で、胴下半部を欠損する深鉢が倒立の状態で設置されていた。検出時の遺存状態は良く、埋設された土器は全周していた。掘形は埋設土器より一回り大きく、直径40cm程の円形をなしている。埋設上器内には暗褐色土と暗黄褐色土、掘形内にはLIVに近似する暗褐色土が堆積していた。

図625-2は、対面する位置に箱状の把手が付けられた深鉢である。口縁部下端は降帶で区画され、区画内には繩圧痕文を横位に3条施している。

## 9号埋窯(SM9, 図621・625, 写真181)

ニ 28 G の L III b 中部で検出した埋窯で、深鉢の胸下半部が倒立の状態で設置されていた。検出時の遺存状態は良く、埋設された土器は全周していた。掘形は埋設土器より一回り大きく、直径 30 cm 程の円形をなしている。埋設土器内には暗褐色土と黒褐色土、掘形内には暗褐色土が堆積していた。

図 625-3 は深鉢の胸下半部で、胸部は縦位の隆線で 4 区画されている。地文には結束した綱による羽状繩文が施されている。

## 10号埋窯(SM10, 図621・625, 写真181)

ナ 35 G に位置する埋窯で、S I 24 堆積土上面で検出した。本埋窯には、3 個体の深鉢の底部が埋設されていた。埋設状態はまず正立で 1 個設置し、これと入れ子にして倒立で 1 個、さらにこれらを覆うように、倒立で 1 個設置していた。埋設土器内には暗褐色土、掘形内には黒褐色土が堆積していた。

図 625-4・5 は、入れ子の状態で設置されていた土器である。これらの上器を覆うように設置されていた土器は、復元できなかったため図示しなかった。

## 11号埋窯(SM11, 図621・625)

セ 50 G の L III b 下部で検出した埋窯で、胸下半部を欠損する深鉢が正立の状態で設置されていた。検出時の遺存状態は良く、埋設された土器は全周していた。掘形は埋設土器とほぼ同じく、直径 45 cm 程の円形をなしている。埋設土器内堆積土の最上部には黄褐色土が、それ以下と掘形内には、暗褐色土と褐色土がそれぞれ堆積していた。

図 625-6 は口縁部が大きく開く深鉢で、口縁部には小ぶりな突起が付けられている。口唇部直下には交互刺突文、その下に 2 列の有節沈線文を施している。突起の下位には、縦位に波状の有節沈線文を加えている。II 縁部と胸部の境には、僅かではあるが段が認められる。胸部は垂下する棒状の隆線で 4 区画される。胸部上端には横位に 4 条の有節沈線文が施され、最下位の有節沈線文は小波状文を描いている。

## 13号埋窯(SM13, 図621・625, 写真181)

テ 36 G に位置する埋窯で、S I 36 の堆積土上面で検出した。遺存状態は悪く、検出できたのは倒立の状態で設置された土器の口縁部だけである。掘形は埋設土器より一回り大きく、径 55 cm 程の円形をなしている。埋設土器・掘形内には同じ暗褐色土が堆積していた。

## 第2章 遺構と遺物

図625-7は浅鉢であろうか。口縁に沿って沈線が1条施されている。

### 14号 埋甕 (SM14, 図621・625, 写真182)

テ36Gに位置する埋甕で、SK186の堆積土上面で検出した。遺存状態は悪く、検出できたのは正立の状態で設置された土器の胴上半部だけである。掘形は埋設土器より一回り大きく、径50cm程の円形をなしている。埋設土器・掘形内には同じ黒褐色土が堆積していた。

図625-8は、深鉢の胴上半部である。器面全面に粘土紐貼付文で、渦巻文・波状文・長方形状の文様が描かれている。

### 15号 埋甕 (SM15, 図621・625・628, 写真181)

ト36Gに位置する埋甕で、SK156の堆積土上面で検出した。底部を欠損する小型の深鉢が倒立の状態で設置されていた。掘形は埋設土器より一回り大きいが、規模については不明である。埋設土器内には褐色土と黄褐色土、掘形内には重複する遺構の堆積土と同じ、暗褐色土が堆積していた。埋設土器内からは、別個体の繩文土器の破片が出土している。

図625-9は口縁部が外傾する小型無文の深鉢で、口縁部は小突起状に張り出している。5には、隆線で区画文が施されている。

### 16号 埋甕 (SM16, 図621・626, 写真182)

ソ17・18Gに位置する埋甕で、SI42の床面下から検出した。遺存状態は悪く、深鉢の口縁部から胴上半部の破片が、個々別々に円形状に並べられていた。掘形は埋設土器より一回り大きく、径60cm程の円形をなす。埋設土器内には暗褐色土、掘形内には褐色土が堆積していた。

図626-1は、橢円形を基調とする中空の把手が口縁部を全周する深鉢である。口縁下部と頸部には横位を基本に、胴部には綫位を基本に沈線を施している。この沈線の一部は、口縁下部と頸部で波状文、胴部では渦巻文を描いている。

### 17号 埋甕 (SM17, 図622・626)

ソ17Gに位置する埋甕で、SI42の床面下から検出した。深鉢の胴部を倒立の状態で設置し、底部は埋設土器内に正立の状態で入れられていた。掘形は埋設土器より一回り大きく、径35cm程の円形をなしている。埋設土器上部には暗褐色土、埋設土器下部と掘形内には、褐色土が堆積していた。

図626-2は深鉢の胴部で、文様は沈線を綫位を基本に施している。この沈線文の一部は胴部中位で小さな渦巻文を描いている。

## 18号 埋 窯 (SM18, 図 622・626)

ヒ 12 G に位置する埋窯で、S I 43 の堆積土中で検出した。深鉢を横に倒して設置している。掘形は埋設土器より大きいが、平面的に確認できなかったため規模は不明である。埋設土器内には、暗褐色土が堆積していた。

図 626-4 は口縁部が外反し、胴部に丸みを有する深鉢で、口縁部には 2 個一対の渦巻状の突起が付く。胴部上端には連續爪形文が施され、以下には縦位を基本に沈線文を施している。この沈線の一部は渦巻文を描き、横に展開している。

## 19号 埋 窯 (SM19, 図 622・626, 写真 182)

ニ 4 G に位置する埋窯で、S K 289 の堆積土上面で検出した。深鉢の胴部が、正立の状態で設置されていた。遺存状態は比較的良好が、西半部は掘り過ぎて確認できなかった。掘形は埋設土器より一回り大きく、径 25 cm 程の円形をなすものと考えている。埋設土器と掘形内には、黒褐色土が堆積していた。

図 626-3 は深鉢の胴部で、横位の沈線で胴部は上下に区画されている。胴上半部には、沈線で区画された C 字状の単位文を施している。

## 20号 埋 窯 (SM20, 図 622・627)

テ 5 G に位置する埋窯で、S I 70 の堆積土上面で検出した。深鉢の胴部を、正立の状態で設置している。遺存状態は良く、埋設土器は全周している。掘形は埋設土器より一回り大きく、径 40 cm 程の円形をなす。埋設土器・掘形内には、黒褐色土が堆積していた。

図 627-2 は、繩文が施された深鉢の胴部である。

## 21号 埋 窯 (SM21, 図 622・627)

タ 8 G に位置する埋窯で、S I 67 の堆積土上面で検出した。近接して SG 69 が位置するが、埋設土器の周辺には焼けた様子が見られない事から、それぞれ別の遺構と判断した。埋窯は、深鉢の胴部を正立の状態で設置している。遺存状態は良く、埋設土器は全周している。掘形は埋設土器より一回り大きく、径 35 cm 程の円形をなす。掘形内には、褐色土が堆積していた。

図 627-1 は、繩文が施された深鉢の胴部である。

## 22号 埋 窯 (SM22, 図 622・627, 写真 182)

コ 20 G の L III b 上面で検出した埋窯で、深鉢の胴部を正立の状態で設置している。遺存状態

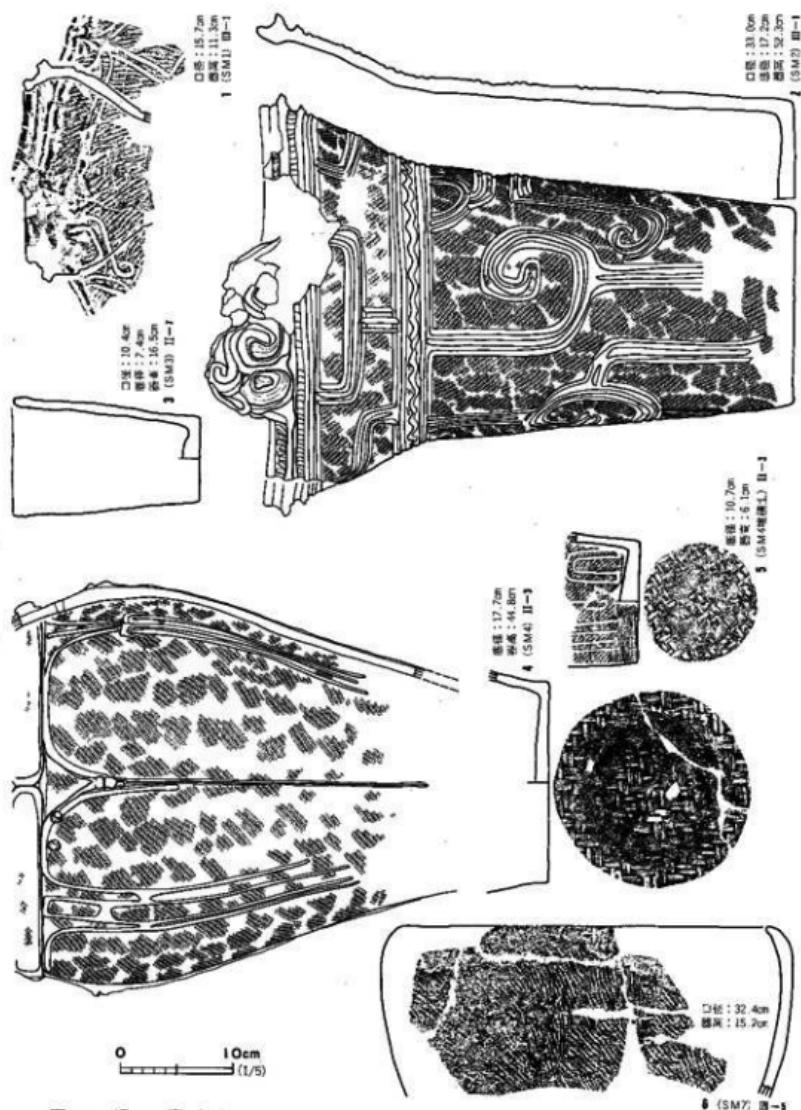


図624 埋 瓶 (5) SM1~4・7遺物

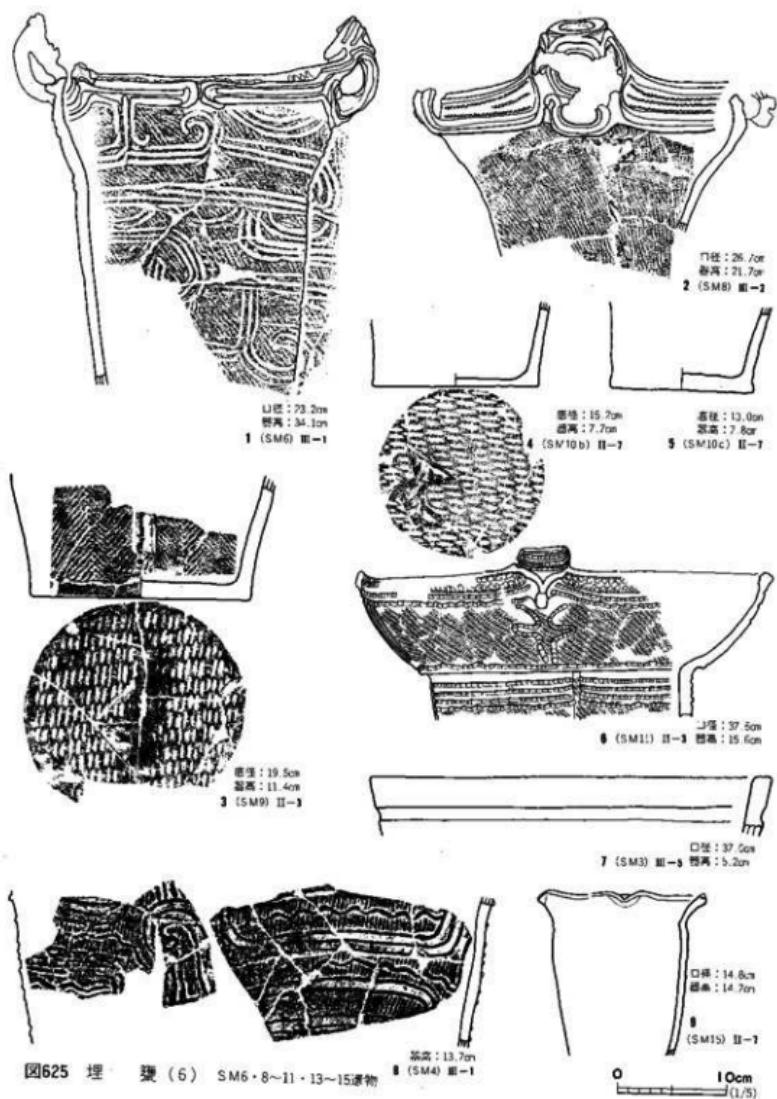


図625 埋 穢 (6) SM6・8~11・13~15遺物

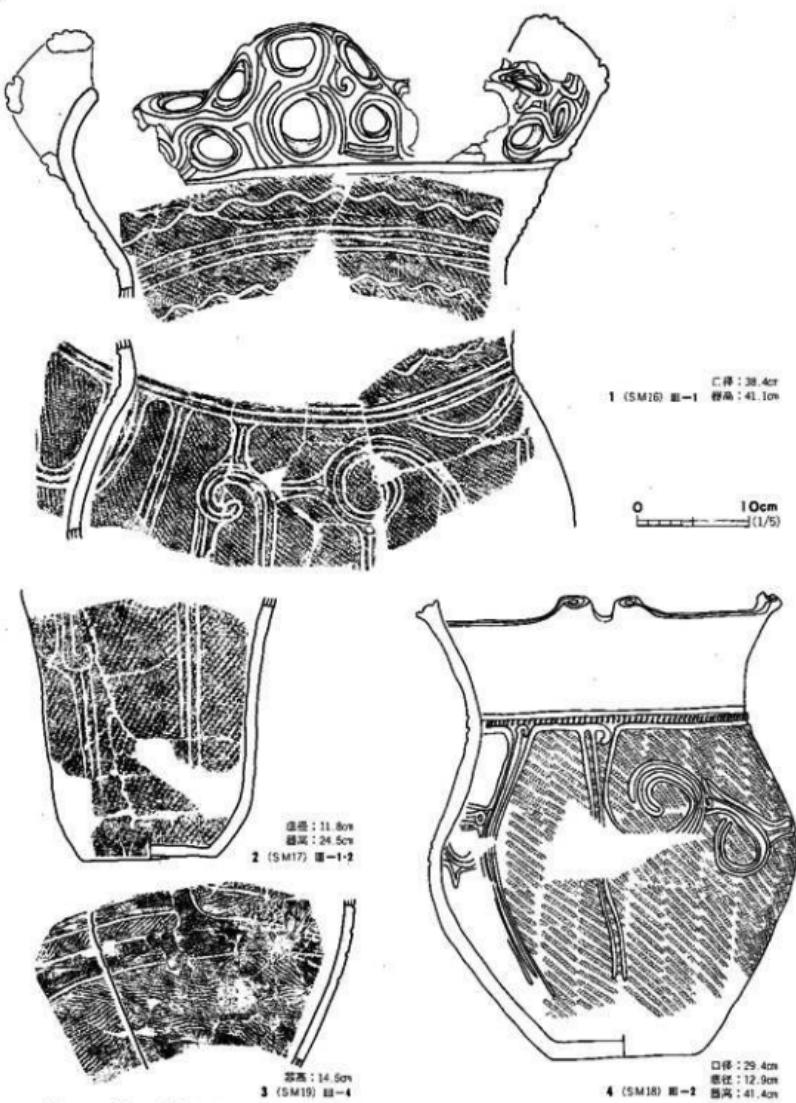
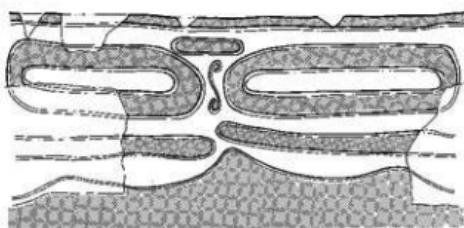
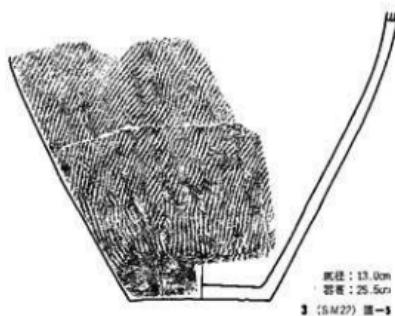
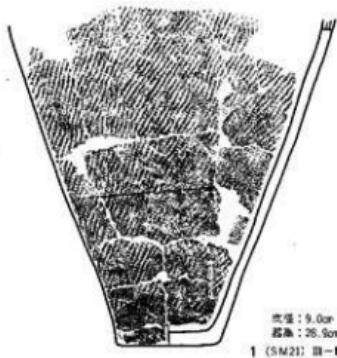


図626 埋 窟 (7) SM16~19遺物

第4節 埋 瓢



0 10cm  
(1/5)

図627 埋 瓢 (8) SM20~23遺物

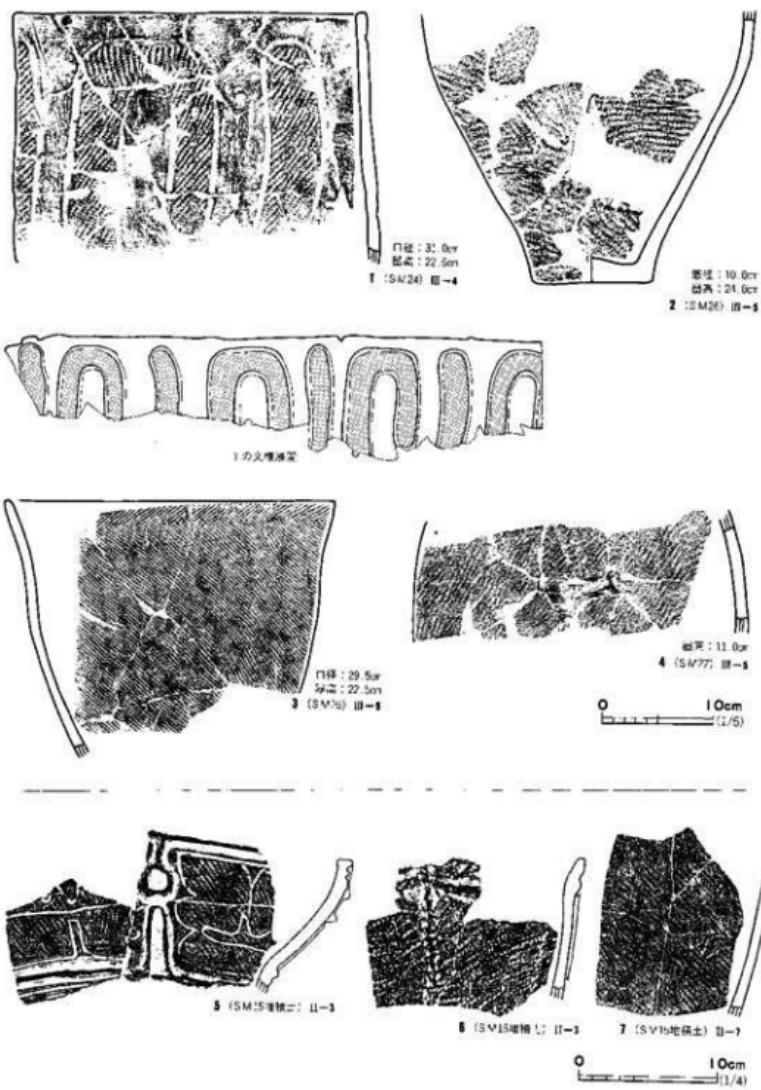


図628 墓 番 (9) SM15-24-2/遺物

は良く、埋設土器は全周している。掘形は埋設土器より一回り大きく、径45cm程の円形をなす。掘形内には、黒褐色土が堆積していた。

図627-3は、縄文が施された深鉢の胴部である。

#### 23号 埋甕 (SM23, 図622・627)

タ7Gに位置する埋甕で、S I 63・SK328の堆積土上面で検出した。深鉢を正立の状態で設置している。遺存状態は良く、埋設土器は全周している。掘形は埋設土器より一回り大きく、径28cm程の円形をなす。埋設土器・掘形内には、暗褐色土が堆積していた。

図627-4は、胴部が緩く屈曲する深鉢である。胴下端部には、波状沈線を施し胴部を上下に区画している。口縁部には幅の狭い縄文帯が、以下には沈線で区画された縄文帯で梢円形の単位文を配している。胴上部の隙間には、帯状の縄文帯や縦S字状の沈線文を加えている。

#### 24号 埋甕 (SM24, 図623・628, 写真182)

タ10Gに位置する埋甕で、S I 113の堆積土上面で検出した。深鉢を倒立の状態で設置している。遺存状態は良く、埋設土器は全周している。掘形は埋設土器より一回り大きく、径55cm程の円形状をなす。埋設土器・掘形内には、暗茶褐色土が堆積していた。

図628-1は、胴部上半が円筒状をなす深鉢である。文様は沈線で区画された縄文帯で、渦巻状の単位文を4単位施している。

#### 25号 埋甕 (SM25, 図623・628, 写真182)

チ13Gに位置する埋甕で、S I 78の堆積土中位で検出した。底部を欠損する深鉢を倒立の状態で設置している。掘形は埋設土器より一回り大きく、径45cm程の円形状をなす。埋設土器内には、褐色土が堆積していた。

図628-3は縄文が施された粗製深鉢で、口縁部直下とそれ以下で、縄の回転方向を進めて縄文を施している。

#### 26号 埋甕 (SM26, 図623・628)

セ9Gに位置する埋甕で、SK620の堆積土上面で検出した。口縁部を欠損する深鉢を正立の状態で設置している。掘形は埋設土器より一回り大きく、径30cm程の円形をなす。埋設土器と掘形内には、褐色土が堆積していた。

図628-2は、縄文が施された深鉢の胴下半部である。

## 27号 埋壺 (SM27, 図623・628)

テ15 GのL III b中部で検出した。本遺構は平行して設置された壁の間に、弧状に土器片を設置して繋いだもので、埋壺とするには問題の有る遺構である。近接してSG54が存在するが、本遺構の周辺には焼けた様子が見られないことから、SG54とは直接関連しないものと判断した。

(松本)

## 第5節 焼土遺構

法正尻遺跡では、焼け面が明確に認められるものを焼土遺構とした。強い焼土が見られるものでも、焼土が面として認められず、焼土ブロックや粒子が堆積しているものについては、何等かの要因でその場所に、焼土が堆積したものと判断し、焼土遺構からは除外して考えている。また、焼土遺構の周囲にこれと有機的に関連する小穴が検出されたものについては、竪穴住居跡の炉と判断したものもある。このため、調査当初においては120基について焼土遺構としたが、精査の結果、焼土遺構と判断したものは108基である。本節では、焼土遺構の数が多いため1基ごとの記載は避け、焼土遺構の分布・検出層位・性格について概観する。個々の焼土遺構の位置・検出層位・規模・重複状況については表4に記載した。

焼土遺構は、住居跡・土坑とほぼ一致するように分布している。調査区西部の北西向き斜面からは1基も焼土遺構が検出されていないことは、特記しうる分布状況と考えている。また、焼土遺構の分布する範囲は住居跡・土坑の分布範囲と基本的には一致するが、これらに比べより広い範囲に分布している。

焼土遺構が密集する地域は、第2章第3節で東区・中央区とされたコ～ヌ31～54G、コ～ト4～23G付近である。東区からは55基、中央区からは43基が検出されている。残り10基の焼土遺構については、特に集中するものは見られず、調査区内に散在している。基本的には、住居跡の密度の高い地域に焼土遺構も多く、両者の間に高い相関関係が認められる。焼土遺構の焼土遺構の検出面は、基本土層のL III b上部・L III b中部・L III b下部・L IV・V上面で、各層から検出された焼土遺構は次の通りである。L III b上部からは、SG 25・28・30・45～47・54・56・61・71・76・102の12基が検出された。L III b中部からは、SG 4・5・16・20・26・39～41・59・60・67・68・72～75・109の17基が検出された。L III b下部からは、SG 7・9～14・17・18・27・29・33～38・43・52・64～66・77～80・89・92・93・96・111・114の31基が検出されている。L IV・V上面で検出された焼土遺構は、SG 3・6・15・21・24・31・32・48～50・57・62・94・99～101・107・118～120の19基である。SG 86・87・112・113・

第5節 焼土遺構

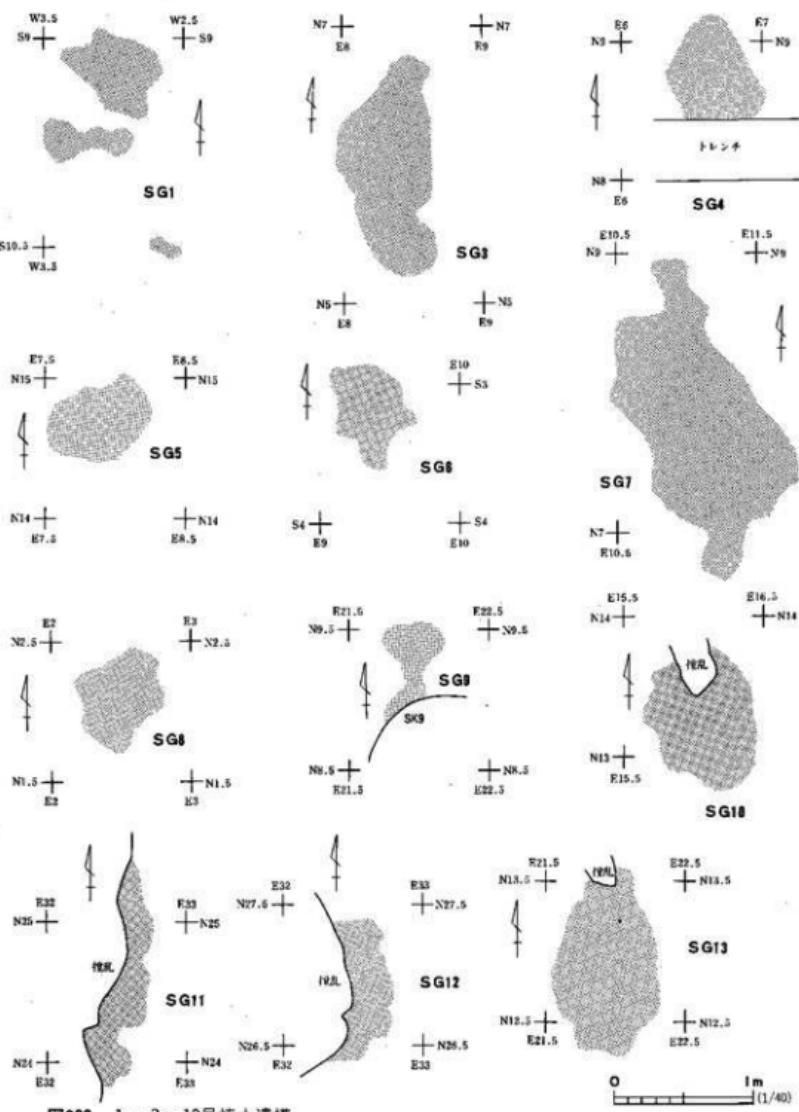


図629 1・3～13号焼土遺構

第2章 造構と遺物

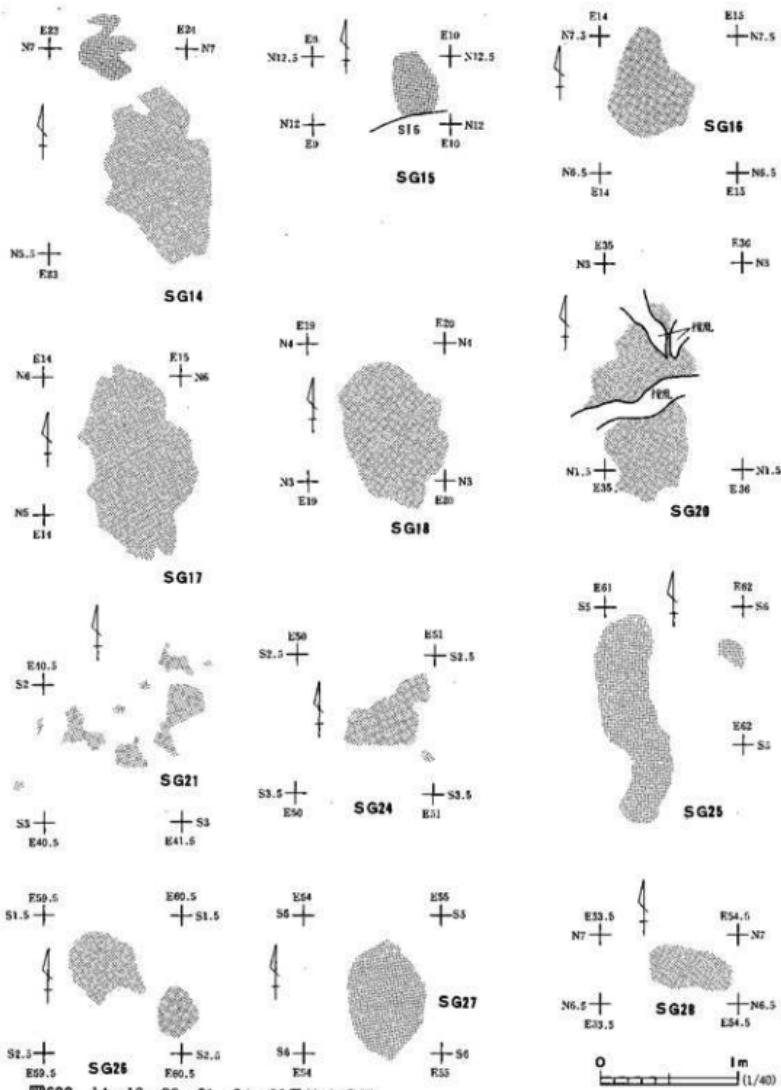


図630 14~18・20・21・24~28号焼土遺構

第5節 烧土遺構

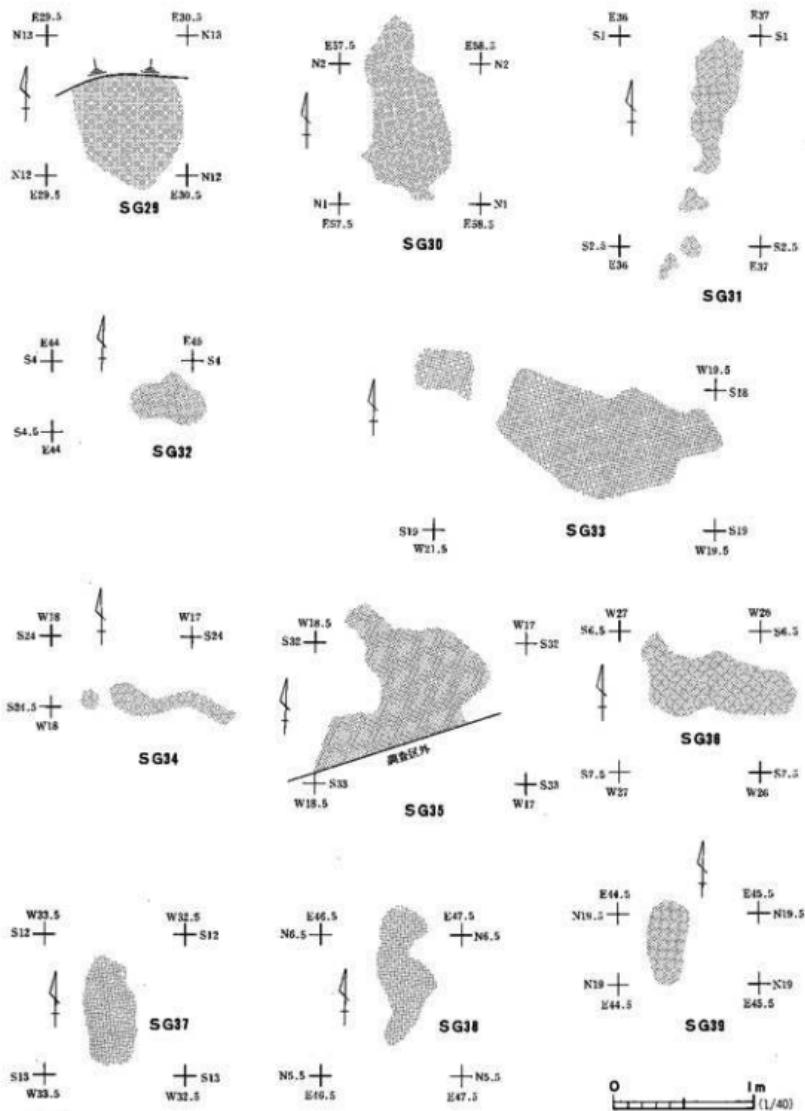


図631 29~39号焼土遺構

第2章 造構と遺物

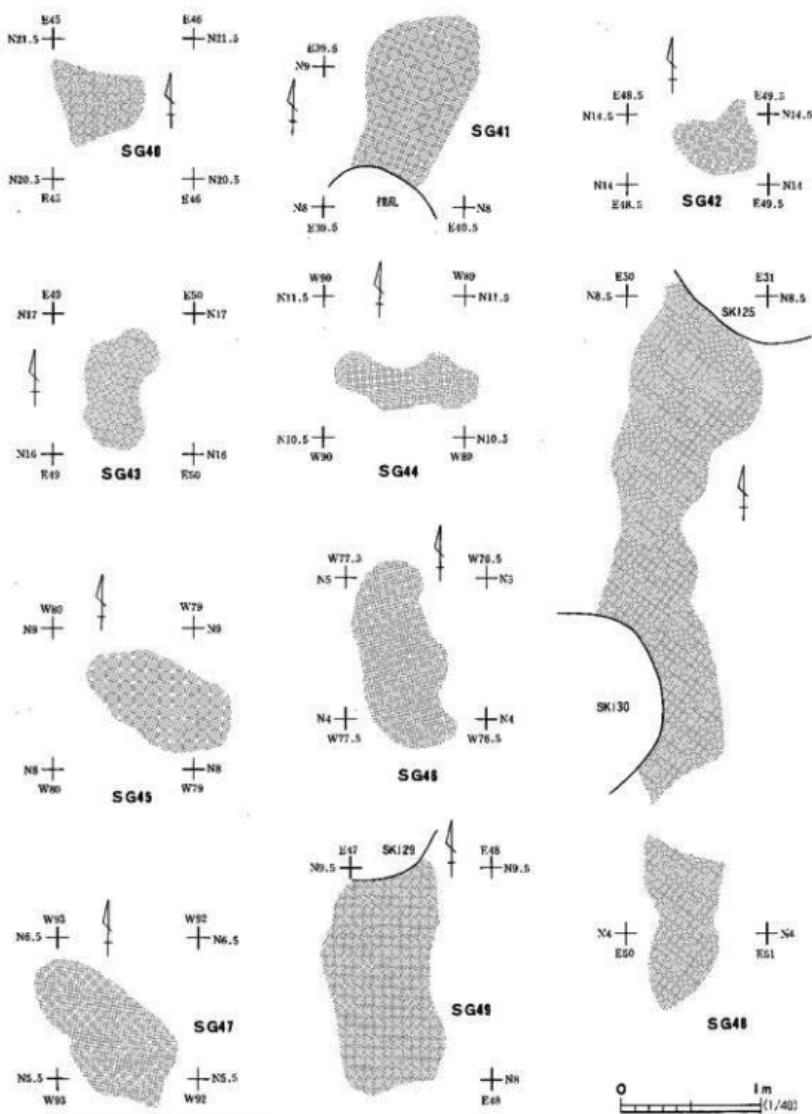


図632 40~49号廃土遺構

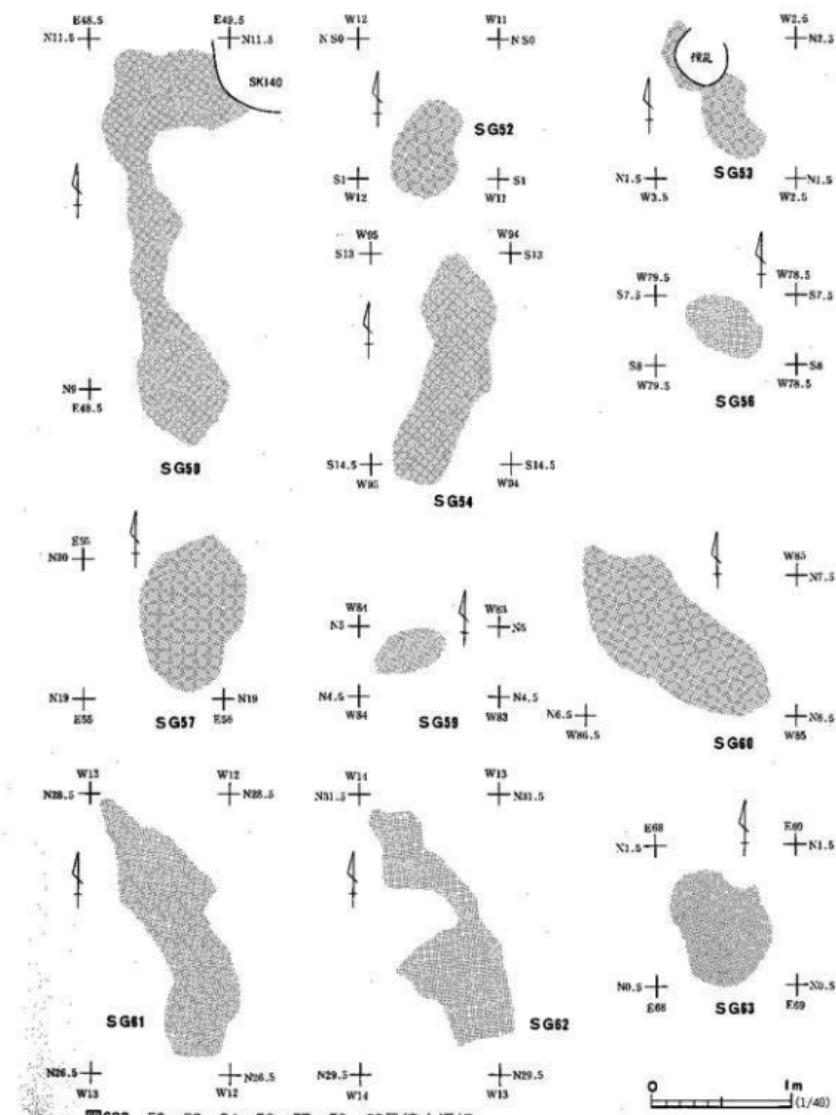


図633 50・52~54・56・57・59~63号焼土遺構

第2章 遺構と遺物

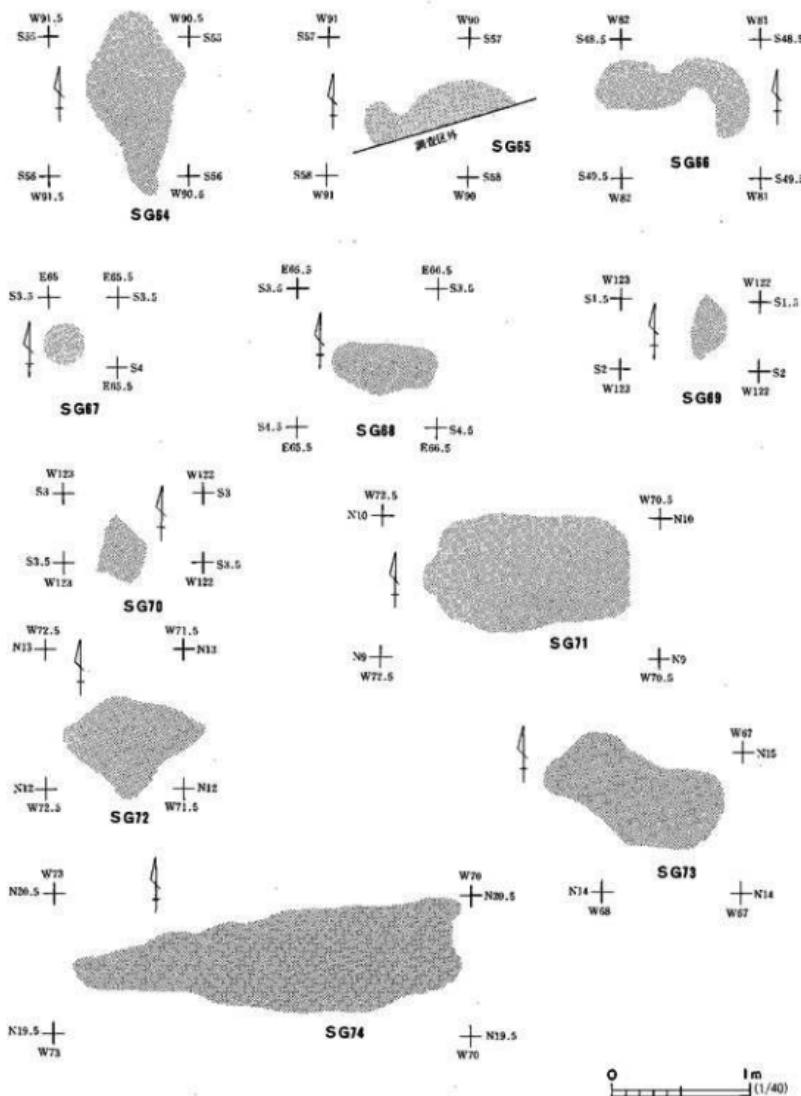
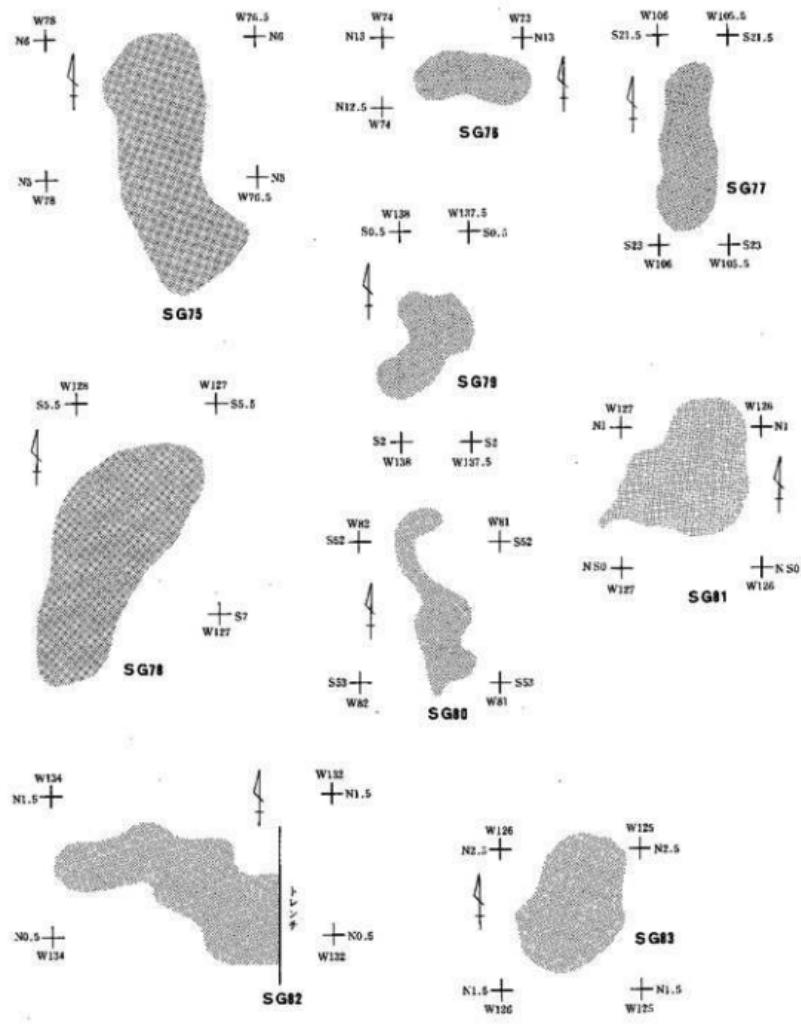


図634 64~74号焼土遺構

第5節 烧土遺構



0 1m  
(1/40)

図635 75~83号焼土遺構

第2章 遺構と遺物

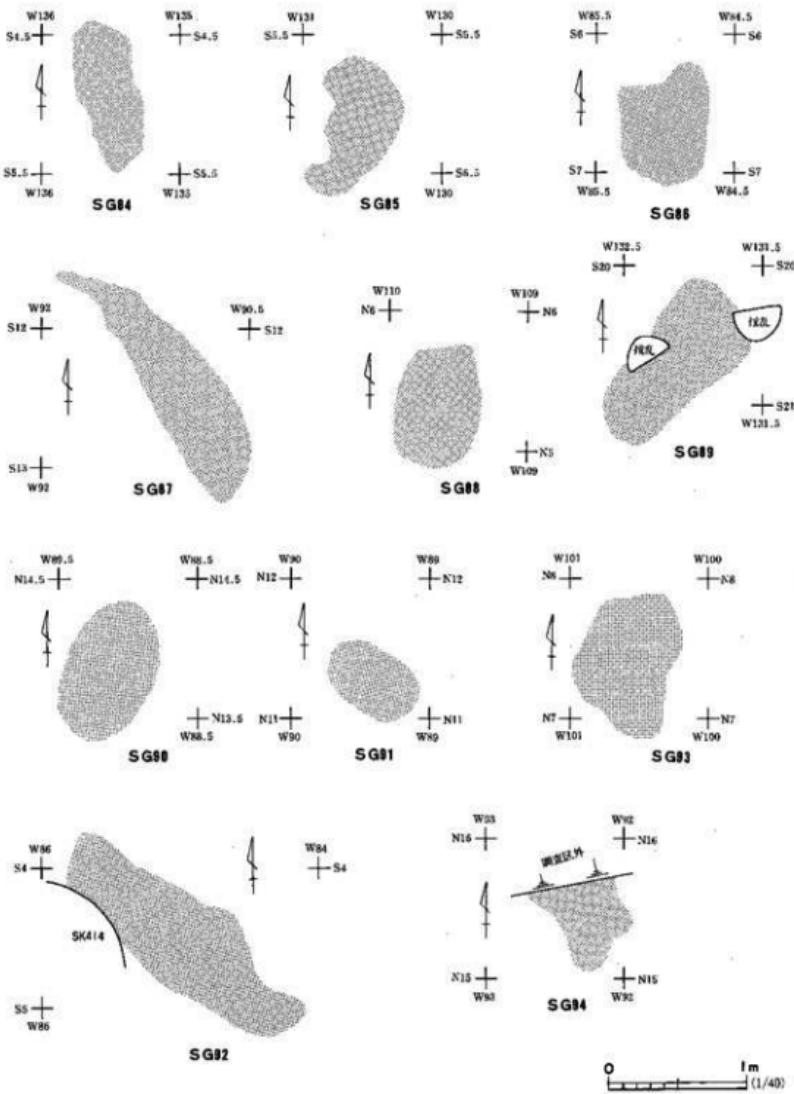


図636 84~94号焼土遺構

第5節 烧土遺構

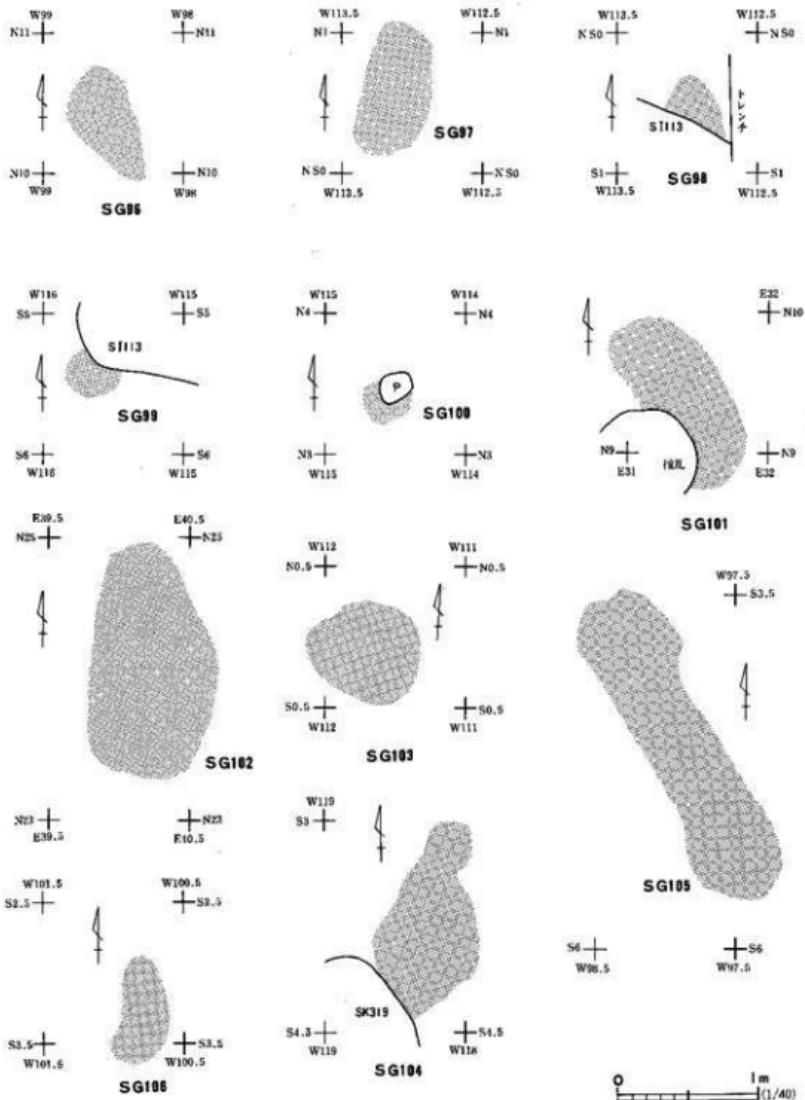


図637 96~106号焼土遺構

第2章 造構と遺物

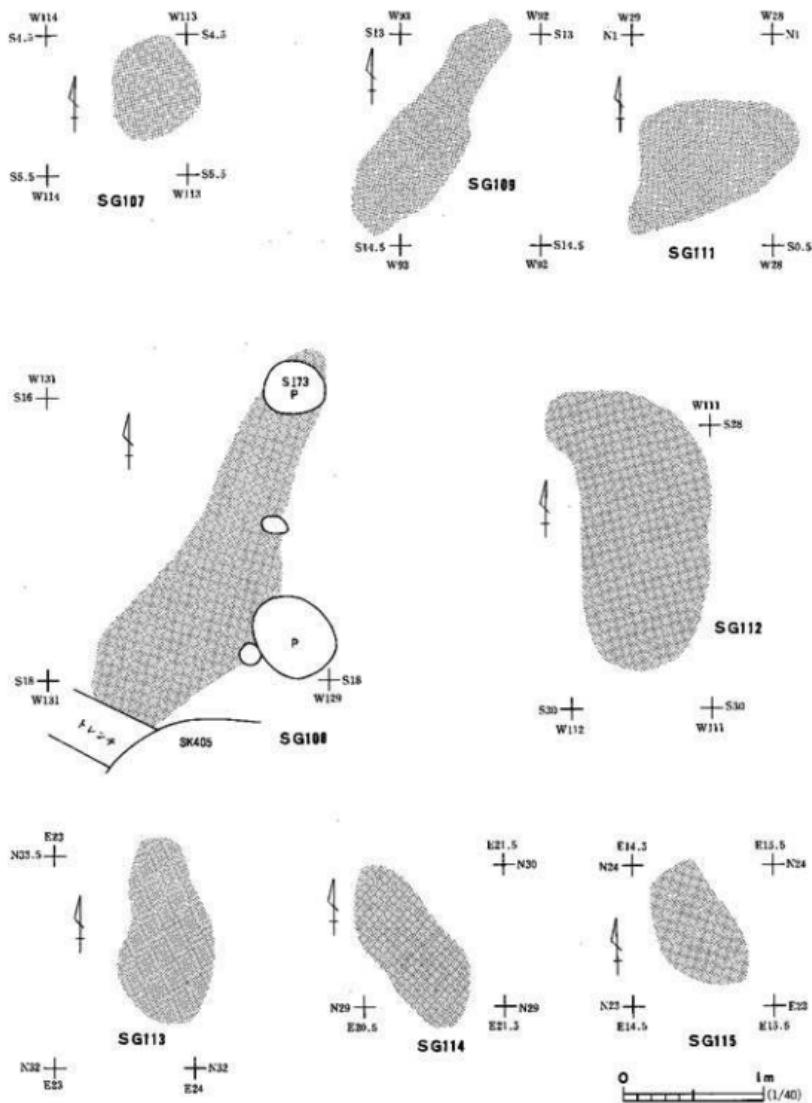


図638 107~109・111~115号焼土遺構

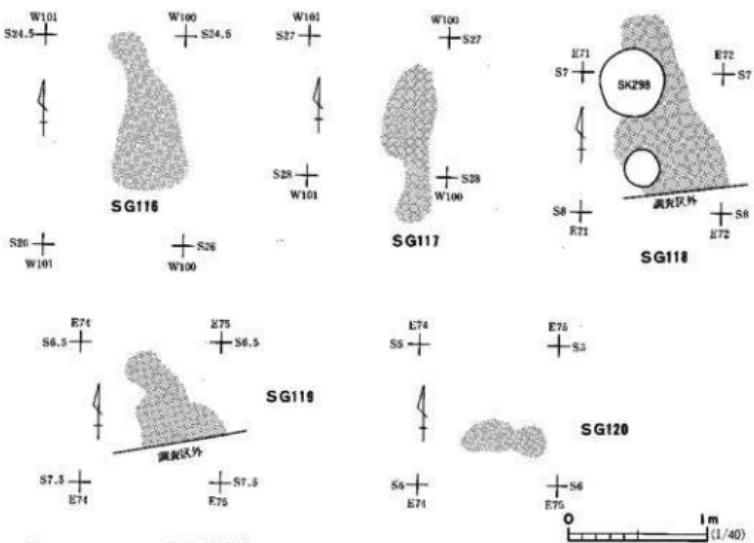


図639 116~120号焼土遺構

115~117についてはL III bから検出されているが、どの部分に相当するのか不明である。この他にSG 1・8・42・44・53・63・69・70・81~85・88・90・91・97・98・103~106・108は住居跡・土坑・倒木痕の堆積土から検出された。

次に焼土遺構の分布と検出層位について若干検討を加える。東区ではL III b上部から5基、L III b下部からは13基の焼土遺構が検出され、中央区ではL III b上部から7基、L III b下部からは6基の焼土遺構が検出されている。東区と中央区の間で、主たる焼土遺構の検出層に違いがあることが明白である。L III b自体にも第2章第1節に述べたように、東区と中央区の間で土質・包含される遺物が違う事が確認され、基本的には中央区に堆積するL III bが新しい。このことから、東区と中央区から検出された焼土遺構には時間差があり、これは両地域に所在する住居跡の時間差と一致するものと考えられる。

基本上層と遺構・遺物の関係から、東区のL III b下部は大木7b式期以降の生活面、L III b上部は大木8b式期以降の生活面と考えている。L III b中部については、大木7b式期から大木8b式期の間に位置づけられる。中央区のL III bについては、大木9式期以降の住居跡内に同質な土が流れ込んで堆積していることから、この時期以降の堆積と考えている。法正尻跡から検出された焼土遺構については、検出層位の違いから堅穴住居跡の存続期間と同様に、大木7a式期か

## 第2章 造構と遺物

表4 烧土一覧(1)

焼土番号	位置	検出層位	規模(cm)	厚さ(cm)	重複関係 新>旧	焼土番号	位置	検出層位	規模(cm)	厚さ(cm)	重複関係 新>旧
1	ヲ38	側木痕	175×90	9		31	ヲ48	L IV 上面	180×33	10	
2		欠 番				32	ヲ50	L IV 上面	55×33	5	
3	セ40	L IV 上面	160×68	8		33	ヲ33	L III b 下部	227×81	11	
4	ス40	L III b 中部	76×67	6		34	ヲ34	L III b 下部	111×22	5	
5	シ40	L III b 中部	78×56	5		35	ヲ34	L III b 下部	140×108	7	
6	セ41	L IV 上面	81×58	8		36	ヲ32	L III b 下部	116×48	11	
7	ス41	L III b 下部	234×105	8		37	ヲ30	L III b 下部	78×37	6	
8	ソ39	S I 3 堆積土	75×65	10	>SI 3	38	セ50	L III b 下部	98×41	5	
9	ス44	L III b 下部	75×45	2	<SK 9	39	サ50	L III b 中部	61×31	13	
10	シ42	L III b 下部	101×80	8		40	コ50	L III b 中部	74×67	10	
11	ケ47	L III b 下部	164×35	11		41	ス48	L III b 中部	123×79	12	
12	ケ47	L III b 下部	99×35	16		42	シ51	側木痕	64×59	14	
13	シ47	L III b 下部	136×77	8		43	サ51	L III b 下部	87×53	10	
14	セ44	L III b 下部	190×85	12		44	ス16	SK486堆積土	13×37	9	
15	シ41	L IV 上面	49×33	5	<SI 6	45	ス19	L III b 上部	110×58	5	
16	セ42	L III b 中部	83×59	6		46	セ19	L III b 上部	135×60	13	
17	セ42	L III b 下部	147×82	10		47	セ15	L III b 上部	128×66	9	
18	ソ43	L III b 下部	110×75	12		48	セ51	L IV 上面	520×95	9	<SK125-130
19		欠 番				49	セ50	L IV 上面	160×78	9	<SK129
20	ソ47	L III b 中部	146×75	11		50	ス51	L IV 上面	287×106	8	<SK140
21	ヲ49	L IV 上面	154×71	8		51		欠 番			
22		欠 番				52	ヲ36	L III b 下部	70×50	6	
23		欠 番				53	ソ38	S I 39 堆積土	113×35	7	>SI 39
24	ヲ51	L IV 上面	77×42	6		54	ヲ15	L III b 上部	165×55	15	
25	ヲ54	L III b 上部	154×110	6		55		欠 番			
26	ヲ53	L III b 中部	107×49	7		56	チ19	L III b 上部	60×40	5	
27	ヲ52	L III b 下部	82×58	8		57	サ52	L V 上面	115×76	7	
28	セ52	L III b 上部	62×31	8		58		欠 番			
29	シ46	L III b 下部	82×75	8		59	セ18	L III b 中部	55×30	3	<SI 42
30	ソ53	L III b 上部	134×65	11		60	セ17	L III b 中部	172×71	10	<SI 42

表4 燃土一覧(2)

焼上番号	位置	検出層位	規模(cm)	厚さ(cm)	重複關係新>旧	焼上番号	位置	検出層位	規模(cm)	厚さ(cm)	重複關係新>旧
61 ケ35	L III b 上部	202×57	5			91 ヌ16	SK448堆積土	70×45	5	>SK448	
62 ク35	L IV 上面	188×70	8			92 チ17	L III b 下部	206×72	9	<SK414	
63 ヲ56	S I 53堆積土	86×61	4	>S I 53		93 チ13	L III b 下部	105×75	6		
64 ハ16	L III b 下部	133×71	12			94 ヌ16	L IV 上面	64×64	7		
65 ホ16	L III b 下部	110×30	6	>SK291		95		欠番			
66 フ18	L III b 下部	110×40	6			96 ヌ14	L III b 下部	88×45	8		
67 チ55	L III b 中部	30×29	4			97 ヌ10	SK560堆積土	94×50	6	>SK560	
68 チ55	L III b 中部	78×35	7			98 チ10	S I 113, SK559堆積土	47×26	8	>S I 113, SK559	
69 タ8	S I 67堆積土	48×26	4	>S I 67		99 ヌ10	L V 上面	38×30	5		
70 タ8	S I 67堆積土	37×32	5	>S I 62		100 ヌ10	L IV 上面	37×32	4		
71 ヌ21	L III b 上部	149×85	10			101 ヌ46	L IV 上面	131×62	5		
72 ヌ21	L III b 中部	102×73	9			102 ヌ48	L III b 上部	167×90	12		
73 ヌ22	L III b 中部	132×65	14			103 ヌ11	SK563堆積土	86×75	10	<SK555, >SK563	
74 ヌ21	L III b 中部	280×75	13			104 ヌ10	SK488堆積土	127×72	5	<SK319, >SK488	
75 ヌ19	L III b 中部	187×60	7			105 ヌ14	S I 95堆積土	240×64	7	>S I 98	
76 ヌ20	L III b 上部	82×35	4			106 ヌ13	SK598・609堆積土	76×34	5	>SK598・609	
77 ナ12	L III b 下部	120×40	9			107 ヌ10	L V 上面	70×60	7		
78 チ7	L III b 下部 S I 60堆積土	195×80	11	>S I 60		108 ヌ6	SK652堆積土	280×80	17	<S I 73, >SK652	
79 タ4	L III b 下部	85×60	5			109 ヌ15	L III b 中部	180×60	10		
80 ハ18	L III b 下部	130×45	4			110	欠番				
81 ヲ7	S I 63堆積土	100×80	5	>S I 63		111 ヌ31	L III b 下部	115×85	4		
82 ヲ5	S I 64堆積土	80×168	5	>S I 64		112 ヌ12	L III	200×50	10		
83 ヲ7	S I 63堆積土	106×68	5	>S I 63		113 ヌ44	L III b	135×70	6		
84 チ5	S I 66堆積土	114×47	5	>S I 66		114 ヌ44	L III b 下部	125×53	4		
85 チ6	S I 66堆積土	102×62	5	>S I 66		115 ヌ43	L III b	100×60	4		
86 チ17	L III b	90×60	8			116 ヌ13	L III	115×55	15		
87 チ16	L III b	206×56	8			117 ヌ13	L III	110×40	3		
88 ヌ11	S I 76堆積土	86×64	5	>S I 76		118 ヌ56	L IV 上面	130×75	5		
89 ナ5	L III b 下部	130×60	6			119 ヌ57	L IV 上面	70×54	5		
90 ヌ16	SK449堆積土	108×66	5	>SK449		120 ヌ57	L IV 上面	60×28	5		

ら大木10式期まで、ほぼ連続して作られたものと判断している。

これらの焼土遺構については基本的には屋外炉と考えているが、LIV・Vから検出された21基の焼土遺構については、検出層位から竪穴住居跡の炉である可能性が強いものと考えている。特に、SG48・50・108のような長椭円形状をなす焼土遺構については、大木7b～8a式期の長方形形状を呈する住居跡の炉のありかたと共通する。

(福山・松本)

## 第6節 その他の遺構

本節では法正尻遺跡から検出された集石上坑と性格不明遺構について報告する。この他に竪穴住居跡や土坑等の分布する範囲から、多くの小穴が検出されている。この小穴については、小穴相互の有機的な関連をつかむことができなかった。このため調査時点ではこれらの小穴については、基本的には精査を断念した。

### 1号集石土坑(SS1、図640)

ソ35GのLIV上面で検出した。土坑堆積土のL1から、拳大～小児頭大の礫が多量に出土した上坑である。調査当初は集石と考えていたが、礫を意識して設置している様子や、礫自体も焼けておらず、タール等の付着物も見られないことから、土坑の埋まり切っていない底み部に、礫を捨てた遺構と判断した。本来的には、第2章第3節で報告すべき遺構であると考えている。土坑の規模は直径160cm、深さは30cmで、堆積土は自然堆積と判断される。上坑の形態分類では、II群A類に分類される。礫以外に、遺物の出土は見られなかった。

### 1号性格不明遺構(SX1、図640)

黄褐色土を盛した遺構で、チ・ツ39Gで検出した。検出当初は竪穴住居跡の床面かとも考えたが、柱穴や炉などの施設が認められることから、性格不明遺構として報告することとした。検出面はLIIに近似する暗褐色土であるが、LIIに比べると明るい。規模・平面形については、複数などのため明確にできないが、調査時の所見からは、5.5×4.2m程の長方形状の範囲について遺構と考えている。

黄褐色土は基本土層のLIVを直接覆って盛土されているが、盛土下には部分的にLIIに近い黒褐色土が堆積していたことを確認している。盛土上面は、竪穴住居跡の床面と同様に堅く踏み締まっていた。本遺構の性格については、現時点では不明と言わざるを得ない。本遺構の所属時期については、盛土下の黒褐色土から土師器の小破片が1点出土していることから、平安時代の遺構と考えられ、20号住居跡と関連する遺構であるかも知れない。

(松本)

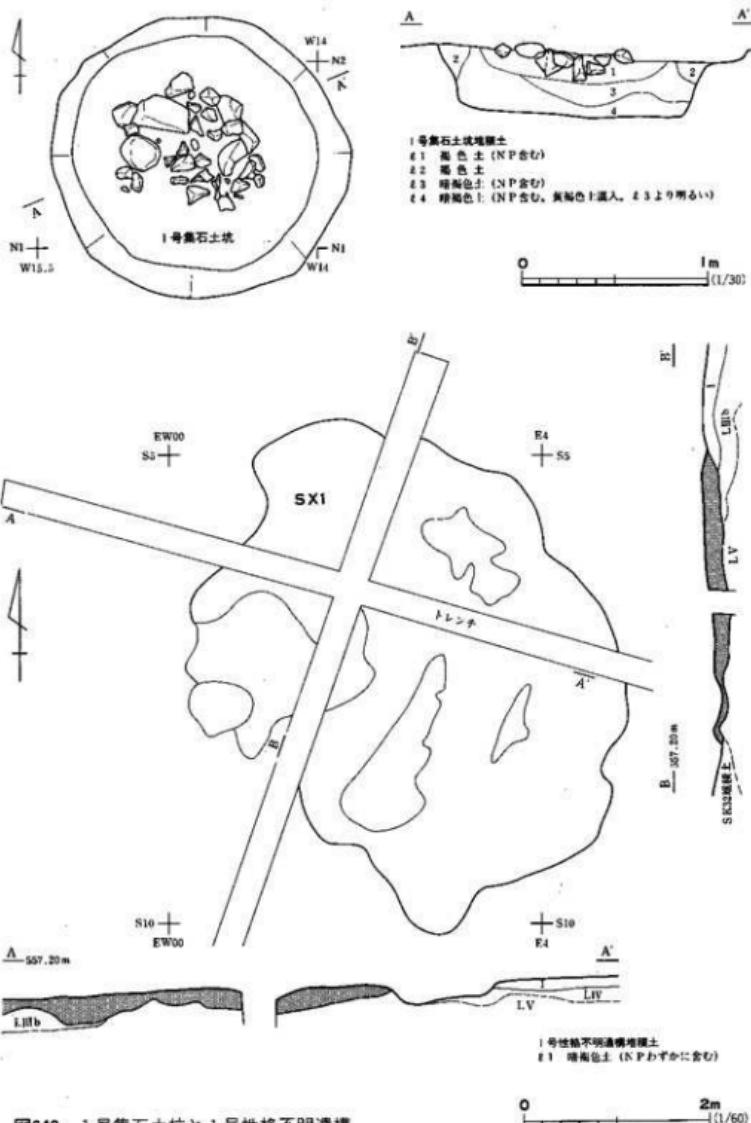


図640 1号集石土坑と1号性格不明遺構